

根室市

トーサムポロ湖周辺竪穴群(2)

— 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

根室市

トーサムポロ湖周辺竪穴群(2)

— 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



調査状況（東から）



B地区基本土層（南西から）



F-1 検出状況（北東から）



H-24 遺物出土状況（南西から）



H-25 磨製石斧出土状況（南西から）

カラー図版 2



H-18 焼土・炭化材検出状況（東から）



H-19 完掘状況（北から）



H-24 焼土・炭化材検出状況（南から）



H-25 完掘状況（北から）

カラー図版 4



P-37 遺物出土状況 (南西から)



P-45 遺物出土状況 (北から)



P-43 掘り上げ土検出状況 (南西から)



P-46 完掘状況 (北から)



P-55 土層断面 (南西から)

例 言

1. 本書は、北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部が行う根室半島線交付金工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成26（2014）年度に実施した、根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群の埋蔵文化財発掘調査報告書（『根室市 トーサムポロ湖周辺竪穴群（2）』北埋調報324）である。
2. 本書の執筆は付篇1～3を除き、愛場和人・広田良成が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は愛場・広田が行った。
3. 発掘調査時の写真撮影は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は1部1課吉田裕吏洋が行った。
4. 自然科学的分析の内容と委託先機関は、次の通りである。
黒曜石製石器の産地推定：株式会社 パレオ・ラボ
放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所
炭化材樹種同定：株式会社 パリノ・サーヴェイ
5. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・ご協力をいただいた。（順不同・敬称略）
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 根室市教育委員会
根室市歴史と自然の資料館：猪熊樹人、福田光夫

記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。なお、遺構の番号は平成21～23（2009～2011）年度の調査で確認した遺構の番号の連番とした。

H：竪穴住居跡 P：土坑 F：焼土 FC：フレイク集中

2. 遺構図面等の縮尺は原則的に下記の通りで、各図にスケールと方位記号（座標北）を付した。

竪穴住居跡：40分の1、60分の1、80分の1

土坑・焼土・フレイク集中：40分の1、60分の1

遺物出土状況図：20分の1

地形測量図・遺構位置図：任意

なお、遺構平面図の「+（十字）と記号」はグリッド名で、「・（ドット）と数値」はその地点の標高（m）を表す。

3. 遺物図の縮尺は原則的に次のとおりでスケールを付した。

復原土器：3分の1 拓本土器：3分の1

剥片石器：2分の1 礫石器：3分の1、4分の1

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。一部破壊されているものや調査区外に広がるものは現存する計測値を（丸括弧）で示した。

竪穴住居跡・土坑：確認面の長径×短径／床面・坑底面の長径×短径／確認面からの最大深（m）

焼土：分布範囲の長径×短径／最大厚（m）

フレイク集中：分布範囲の長径×短径（m）

目 次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

I 章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯	
(1) 道道根室半島線特改工事と過年度調査の経緯	1
(2) 調査・報告の経緯	2
4. 調査結果の概要	2

II 章 遺跡の位置と環境

1. 位置と立地	7
2. 過去の調査	7
3. 周辺の遺跡	15

III 章 調査の概要

1. 発掘区の設定	19
2. 基本層序	23
3. 調査の方法	26
4. 整理の方法	
(1) 一次整理の方法	27
(2) 二次整理の方法	27
5. 遺物の分類	
(1) 土器等	28
(2) 石器等	28

IV 章 B地区の遺構

1. 概要	29
2. III層の遺構	
(1) 竪穴住居跡	29

(2) 土坑	62
(3) 焼土	90
(4) フレイク集中	92

V章 B地区の遺構・包含層出土の遺物

1. 遺構・包含層出土の土器

(1) 遺構出土の土器	109
(2) 包含層出土の土器	120

2. 遺構・包含層出土の石器

(1) 遺構出土の石器	130
(2) 包含層出土の石器	146

3. 遺構等出土の微細遺物について

	157
--	-----

VI章 まとめ

1. 遺構について

	173
--	-----

2. 遺物について

(1) 土器	174
(2) 石器	174

3. 過去に調査が行われた遺構について

	175
--	-----

4. 分析の目的と結果の評価

(1) 黒曜石製石器の産地推定 (付篇1)	177
(2) 放射性炭素年代測定 (付篇2)	178
(3) 炭化材樹種同定 (付篇3)	178

付篇

1. 黒曜石製石器の産地推定

	193
--	-----

2. 放射性炭素年代測定

	197
--	-----

3. 炭化材樹種同定

	201
--	-----

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

目 次

図Ⅰ-1	B地区遺構位置図	4	図Ⅳ-36	P-46・47	81
図Ⅱ-1	遺跡の位置	8	図Ⅳ-37	P-48・49	82
図Ⅱ-2	遺跡周辺の地形	9	図Ⅳ-38	P-50・51	83
図Ⅱ-3	トーサムボロ湖周辺堅穴群堅穴分布図	11	図Ⅳ-39	P-52・53	85
図Ⅱ-4	トーサムボロ湖周辺堅穴群L地区堅穴分布図	12	図Ⅳ-40	P-54	87
図Ⅱ-5	L-1地区堅穴分布図	13	図Ⅳ-41	P-55~57	89
図Ⅱ-6	周辺の遺跡	16	図Ⅳ-42	F-1・2	91
図Ⅲ-1	B地区調査区設定図・年度別調査範囲図	20	図Ⅳ-43	F-3~5	93
図Ⅲ-2	トーサムボロ湖周辺堅穴群世界測地系 グリッド設定図	22	図Ⅳ-44	FC-3~5	94
図Ⅲ-3	B地区基本層序模式図・柱状図	25	図Ⅴ-1	遺構出土の土器(1)	110
図Ⅳ-1	B地区遺構位置図	30	図Ⅴ-2	遺構出土の土器(2)	111
図Ⅳ-2	H-17	31	図Ⅴ-3	遺構出土の土器(3)	113
図Ⅳ-3	H-18(1)	33	図Ⅴ-4	遺構出土の土器(4)	114
図Ⅳ-4	H-18(2)	34	図Ⅴ-5	遺構出土の土器(5)	115
図Ⅳ-5	H-18(3)	35	図Ⅴ-6	遺構出土の土器(6)	117
図Ⅳ-6	H-18(4)	36	図Ⅴ-7	遺構出土の土器(7)	119
図Ⅳ-7	H-19(1)	38	図Ⅴ-8	包含層出土土器点数分布図(1)	121
図Ⅳ-8	H-19(2)	39	図Ⅴ-9	包含層出土土器点数分布図(2)	122
図Ⅳ-9	H-19(3)	40	図Ⅴ-10	包含層出土の土器(1)	123
図Ⅳ-10	H-20	41	図Ⅴ-11	包含層出土の土器(2)	124
図Ⅳ-11	H-21	43	図Ⅴ-12	包含層出土の土器(3)	126
図Ⅳ-12	H-22	44	図Ⅴ-13	包含層出土の土器(4)	127
図Ⅳ-13	H-23(1)	46	図Ⅴ-14	包含層出土の土器(5)	129
図Ⅳ-14	H-23(2)	47	図Ⅴ-15	遺構出土の石器(1)	131
図Ⅳ-15	H-23(3)	48	図Ⅴ-16	遺構出土の石器(2)	132
図Ⅳ-16	H-24(1)	50	図Ⅴ-17	遺構出土の石器(3)	133
図Ⅳ-17	H-24(2)	51	図Ⅴ-18	遺構出土の石器(4)	135
図Ⅳ-18	H-24(3)	52	図Ⅴ-19	遺構出土の石器(5)	136
図Ⅳ-19	H-25(1)	54	図Ⅴ-20	遺構出土の石器(6)	137
図Ⅳ-20	H-25(2)	55	図Ⅴ-21	遺構出土の石器(7)	138
図Ⅳ-21	H-25(3)	56	図Ⅴ-22	遺構出土の石器(8)	140
図Ⅳ-22	H-26	57	図Ⅴ-23	遺構出土の石器(9)	141
図Ⅳ-23	H-27	59	図Ⅴ-24	遺構出土の石器(10)	143
図Ⅳ-24	H-28・29	60	図Ⅴ-25	遺構出土の石器(11)	144
図Ⅳ-25	P-26・27	63	図Ⅴ-26	遺構出土の石器(12)	145
図Ⅳ-26	P-28・29	64	図Ⅴ-27	包含層出土石器点数分布図(1)	147
図Ⅳ-27	P-30	65	図Ⅴ-28	包含層出土石器点数分布図(2)	148
図Ⅳ-28	P-31・32	67	図Ⅴ-29	包含層出土石器点数分布図(3)	149
図Ⅳ-29	P-33・34	69	図Ⅴ-30	包含層出土石器点数分布図(4)	150
図Ⅳ-30	P-35・36	71	図Ⅴ-31	包含層出土石器点数分布図(5)	151
図Ⅳ-31	P-37・38	72	図Ⅴ-32	包含層出土石器点数分布図(6)	152
図Ⅳ-32	P-39~41	74	図Ⅴ-33	包含層出土の石器(1)	153
図Ⅳ-33	P-42・43	76	図Ⅴ-34	包含層出土の石器(2)	155
図Ⅳ-34	P-44	78	図Ⅴ-35	包含層出土の石器(3)	156
図Ⅳ-35	P-45	79	図Ⅴ-36	包含層出土の石器(4)	158
			図Ⅵ-1	第1号堅穴	180
			図Ⅵ-2	第29号堅穴	181
			図Ⅵ-3	第30号堅穴	182
			図Ⅵ-4	第1・25・29・30号堅穴出土土器	183

表 目 次

表 I - 1	遺構数一覧	5	表 IV - 20	フレイク集中出土石器点数表 (水洗選別)	108
表 I - 2	遺物点数一覧	5	表 V - 1	包含層出土石器点数表	159
表 I - 3	遺物点数一覧 (水洗選別)	5	表 V - 2	包含層出土石器点数表	159
表 II - 1	トーサムポロ湖周辺竪穴群 L 地区調査一覧	14	表 V - 3	H - 24 出土復原土器観察表	160
表 II - 2	トーサムポロ湖周辺竪穴群 L 地区調査遺構一覧	14	表 V - 4	H - 24・P - 48 復原土器観察表	160
表 II - 3	周辺の遺跡一覧	17	表 V - 5	H - 24・P - 48 復原土器観察表	160
表 III - 1	B 地区測定の概要	21	表 V - 6	H - 24・P - 51 復原土器観察表	160
表 III - 2	基本層序	24	表 V - 7	H - 25 復原土器観察表	160
表 IV - 1	竪穴住居跡一覧	96	表 V - 8	P - 31 復原土器観察表	161
表 IV - 2	竪穴住居跡付属遺構一覧	97~100	表 V - 9	P - 37 復原土器観察表	161
表 IV - 3	土坑一覧	100・101	表 V - 10	P - 46・49 復原土器観察表	161
表 IV - 4	土坑付属遺構一覧	101・102	表 V - 11	P - 49 復原土器観察表	161
表 IV - 5	焼土一覧	102	表 V - 12	遺構出土破片土器観察表	162~165
表 IV - 6	フレイク集中一覧	102	表 V - 13	H - 57 区出土復原土器観察表	166
表 IV - 7	遺構出土位置計測遺物説明表	102	表 V - 14	F - 52 区出土復原土器観察表	166
表 IV - 8	竪穴住居跡出土石器点数表	103	表 V - 15	F - 52 区出土復原土器観察表	166
表 IV - 9	竪穴住居跡出土石器点数表	104	表 V - 16	G - 55 区出土復原土器観察表	166
表 IV - 10	土坑出土石器点数表	105	表 V - 17	F - 64 区出土復原土器観察表	166
表 IV - 11	土坑出土石器点数表	106	表 V - 18	包含層出土破片土器観察表	167・168
表 IV - 12	焼土出土石器点数表	106	表 V - 19	遺構出土石器観察表	169~171
表 IV - 13	フレイク集中出土石器点数表	106	表 V - 20	包含層出土石器観察表	171・172
表 IV - 14	フレイク集中出土石器点数表	107	表 V - 21	水洗選別出土遺物一覧	172
表 IV - 15	竪穴住居跡出土石器点数表 (水洗選別)	107	表 VI - 1	B 地区出土遺物点数表	184
表 IV - 16	フレイク集中出土石器点数表 (水洗選別)	107	表 VI - 2	B 地区出土遺物点数表 (水洗選別)	184
表 IV - 17	竪穴住居跡出土石器点数表 (水洗選別)	108	表 VI - 3	第 1 号・29 号・30 号竪穴概要一覧	184
表 IV - 18	土坑出土石器点数表 (水洗選別)	108	表 VI - 4	第 1 号・29 号・30 号竪穴付属遺構一覧	185
表 IV - 19	焼土出土石器点数表 (水洗選別)	108	表 VI - 5	第 1 号竪穴調査の概要一覧	186
			表 VI - 6	第 29 号竪穴調査の概要一覧	187
			表 VI - 7	第 30 号竪穴調査の概要一覧	188・189
			表 VI - 8	黒曜石製石器の産地推定結果一覧	189
			表 VI - 9	放射性炭素年代測定結果一覧	189

写真図版目次

カラー図版

図版 1	調査状況 (東から)
	B 地区基本土層 (南西から)
	F - 1 検出状況 (北東から)
	H - 24 遺物出土状況 (南西から)
	H - 25 磨製石斧出土状況 (南西から)
図版 2	H - 18 焼土・炭化材検出状況 (東から)
	H - 19 完掘状況 (北から)
図版 3	H - 24 焼土・炭化材検出状況 (南から)
	H - 25 完掘状況 (北から)
図版 4	P - 37 遺物出土状況 (南西から)

	P - 45 遺物出土状況 (北から)
	P - 43 掘り上げ土検出状況 (南西から)
	P - 46 完掘状況 (北から)
	P - 55 土層断面 (南西から)

モノクロ図版

図版 1	トーサムポロ湖周辺竪穴群 B 地区遠景 (南西から)
	調査風景 (東から)
図版 2	調査区西側調査状況 (東から)
	調査区東側調査状況 (西から)
図版 3	調査区東側完掘状況 (西から)
	調査区中央付近完掘状況 (北東から)

- 図版4 調査区完掘状況（東から）
H-17土層断面（北から）
- 図版5 H-18東西土層断面（南西から）
H-18覆土中焼土・炭化材検出状況（東から）
H-18H P-12・13土層断面（南から）
H-18H P-21土層断面（南から）
- 図版6 H-19東西土層断面（南西から）
H-19H F-3土層断面（南から）
H-19H S-1検出状況（北東から）
H-19完掘（北から）
- 図版7 H-20土層断面（東から）
H-20覆土中焼土・炭化材検出状況（西から）
H-20H P-13土層断面（南から）
H-20完掘（北西から）
- 図版8 H-21東西土層断面（南西から）
H-21H P-1土層断面（西から）
H-21H F-1検出状況（北西から）
H-21H P-4土層断面（南西から）
H-21完掘（北西から）
- 図版9 H-22土層断面（南から）
H-22H F-1土層断面（南から）
H-22H P-1土層断面（西から）
H-22H P-7土層断面（北西から）
H-22完掘（南東から）
- 図版10 H-23東西土層断面（南西から）
H-23H S-1検出状況（北東から）
H-23H F C-1検出状況（東から）
H-23H P-26土層断面（西から）
H-23完掘（東から）
- 図版11 H-24東西土層断面（南東から）
H-24石槍またはナイフ出土状況（南東から）
H-24遺物出土状況（南西から）
H-24覆土中焼土・炭化材検出状況（東から）
H-24完掘（南から）
- 図版12 H-25東西土層断面（南から）
H-25H F-2検出状況（南から）
H-25床面遺物出土状況（南東から）
H-25磨製石斧出土状況（南西から）
H-25完掘（東から）
- 図版13 H-26東西土層断面（北から）
H-26覆土中焼土・炭化材検出状況（北から）
H-26覆土中焼土土層断面（東から）
H-26完掘（北西から）
- 図版14 H-27東西土層断面（南西から）
H-27南北土層断面（北西から）
H-27完掘（北西から）
- 図版15 H-28土層断面（北から）
H-28H F-1土層断面（南西から）
H-28遺物出土状況（西から）
- 図版16 H-29土層断面（南から）
H-29H F-1・2土層断面（南東から）
H-29H P-2土層断面（南から）
H-29H P-4土層断面（南から）
H-29完掘（西から）
- 図版17 P-26遺物出土状況（南西から）
P-27完掘（南西から）
P-28土層断面（南から）
P-29完掘（西から）
P-30遺物出土状況（北東から）
P-31土層断面（西から）
- P-32遺物出土状況（北西から）
P-33完掘（北から）
- 図版18 P-34完掘（北西から）
P-35遺物出土状況（北から）
P-36完掘（北東から）
P-37遺物出土状況（南西から）
P-37土器内石槍またはナイフ出土状況（東から）
P-38遺物出土状況（北東から）
- 図版19 P-39遺物出土状況（西から）
P-40完掘（北から）
P-41完掘（西から）
P-42完掘（西から）
P-43土層断面（南から）
P-43掘り上げ土検出状況（南東から）
P-43完掘（北西から）
P-44完掘（南西から）
- 図版20 P-45遺物出土状況（北から）
P-45遺物出土状況（東から）
P-46S P検出状況（南から）
P-46遺物出土状況（北から）
P-46完掘（北から）
P-47遺物出土状況（北東から）
P-48遺物出土状況（西から）
- 図版21 P-49完掘（北西から）
P-50完掘（北西から）
P-51完掘（南から）
P-52炭化材検出状況（西から）
P-53完掘（東から）
P-54完掘（東から）
- 図版22 P-55土層断面（南西から）
P-56遺物出土状況（北東から）
P-57遺物出土状況（東から）
F-1検出状況（北東から）
F-2上面炭化材検出状況（南西から）
F-3土層断面（北から）
- 図版23 F-4土層断面（西から）
F-5土層断面（南から）
包含層土器出土状況（西から）
包含層石器出土状況（北東から）
調査状況（西から）
- 図版24 遺構出土の復原土器（1）
- 図版25 遺構出土の復原土器（2）
- 図版26 遺構出土の破片土器（1）
- 図版27 遺構出土の破片土器（2）
- 図版28 遺構出土の破片土器（3）
- 図版29 遺構出土の破片土器（4）
- 図版30 包含層出土の復原土器
- 図版31 包含層出土の破片土器（1）
- 図版32 包含層出土の破片土器（2）
- 図版33 包含層出土の破片土器（3）
- 図版34 遺構出土の石器（1）
- 図版35 遺構出土の石器（2）
- 図版36 遺構出土の石器（3）
- 図版37 遺構出土の石器（4）
- 図版38 遺構出土の石器（5）
- 図版39 遺構出土の石器（6）
- 図版40 包含層出土の石器（1）
- 図版41 包含層出土の石器（2）

I 章 緒 言

1. 調査要項

事業名：根室半島線（B改-153）交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成26年度）
根室半島線（A改-16）交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成27年度整理作業）
委託者：北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部
遺跡名：トーサムポロ湖周辺竪穴群（北海道教育委員会登録番号 N-01-1）
所在地：根室市豊里96-1地先～96-8地先
調査面積：2,760㎡
調査期間：平成26年7月1日～平成27年3月31日（現地調査 平成26年8月18日～10月31日）

2. 調査体制

平成26年度

第1調査部長 千葉 英一（常務理事兼務） 第2調査部長 三浦 正人
第2調査部第3調査課長 村田 大（発掘担当者）
主 査 愛場 和人（発掘担当者） 主 査 広田 良成（発掘担当者）

平成27年度（整理作業）

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務） 第2調査部長 三浦 正人
第2調査部第2調査課長 笠原 興
主 査 愛場 和人 主 査 広田 良成

3. 調査の経緯

（1）道道根室半島線特改工事と過年度調査の経緯

この調査の対象である道道35号根室半島線は、起終点を根室市街にもち、根室半島の海岸線を一周する総距離46.2kmの道路で、最東端は納沙布岬付近を通過する。この道路はほぼ片側一車線の舗装道路であるが、丘陵や海岸地形に沿ったカーブやアップダウン頻度が高く、多数の小集落を結んでいる。そのため、各所でカーブ緩和や歩道整備などの改良が施工されてきており、調査原因であるトーサムポロ湖両岸部の改良工事もこの一環である。

トーサムポロ湖口は往時、徒歩・馬・渡船などで通行していたが、昭和20年代には簡易な木橋が架けられたという。昭和30年ごろに車で通れる橋が架かり、半島を一周できるようになった。両岸の住民の思いからか「協力橋」と名付けられている。この協力橋に至る道は、湖の両側から緩いが長い下り坂となり危険が伴い、特に冬季の通行には支障がある。そのため、橋のたもと付近のカーブをさらに緩くする要望が多く、工事の必要が生じた。また、納沙布岬に向かう道路として大型バスの通行も多くあり、下りカーブと道路幅員に改良の余地があった。

上記の問題改良のため当時の釧路土木現業所根室出張所は、根室半島特殊改良第1種工事事業を計

画し昭和61（1986）年、事業計画用地内にあるトーサムポロ湖周辺堅穴群に対する試掘調査の協議を北海道教育委員会（以下、「道教委」）にあげた。その後、数度にわたる試掘調査や工事計画見直しを経て、最終的に湖両側の道路用地にかかる3,695㎡（西側：A地区1,773㎡、東側：B地区1,922㎡）及び現道下部分について、発掘調査が必要と判断された。道路用地部分については、平成21～23（2009～2011）年の3か年、当センターが発掘調査を行った（以下、「過年度調査」）。この過年度調査についての報告書は平成26年度に『根室市トーサムポロ湖周辺堅穴群（1）』として刊行している。

B地区の現道下部分3,100㎡については、過年度調査終了部分に仮道を作り、道路を切り替えた後に発掘調査を行う計画がたてられた。仮道予定地にかかる現道の法面範囲190㎡（調査区南西側のE・F-32～50区付近）について、本調査に先行して平成26（2014）年1月に道教委による工事立会が行われた。工事立会では遺構・遺物は確認されず、その後仮道建設が進められた。そして平成26（2014）年度に現道から仮道への切り替えが行われ、その後当センターが現道部分の発掘調査を行った。

（2）調査・報告の経緯

平成21～23（2009～2011）年調査（以下、「過年度調査」）と同様に発掘調査に際しては、釧路建設管理部中標津出張所から当センターに対し、調査終了直後には工事に取り掛からないために調査区を埋戻し養生することと、汚濁水の現場内処理などについて歯舞漁業協同組合と打ち合わせることを指示された。歯舞漁協とは調査準備工前に打ち合わせ、調査時期がサケ漁と期間が重複することから、現場内で汚濁した水が絶対に湖内に流出しないようにとの強い要請を受けこれに対処した。秋の長雨や強風に対応した調査排土の堆積場への養生や、土砂の崩落・飛散防止に特に配慮した。

釧路建設管理部とは平成26（2014）年7月1日に契約し、準備作業は7月下旬から行った。最初に現道のアスファルト、砂利などの舗装を除去し、次に表土除去を行った。その後、仮道と調査区南側境界が接していることから、調査時の安全確保のため仮道と調査区の境界にはフェンスを設置した。その他の準備を経て8月21日から発掘調査に着手した。当初の調査予定面積は2,910㎡で、過年度調査の結果を基に遺構確認調査範囲1,390㎡と通常調査範囲1,520㎡に分かれていた。遺構確認範囲については重機でVI層（地山）上面まで掘削したが、その内調査区西端側はVI層が大きく攪乱を受けていた。道教委からは、この部分（遺構確認範囲の西端150㎡）については調査不要という指示を受け、最終的な調査面積は2,760㎡となった。発掘調査の進め方は、排土場所を確保するため、遺構確認調査範囲を優先し、その後包含層調査を行った。また、調査区南壁沿いの仮道法面にあたる部分は調査及び通行の安全確保のため、10月上旬に仮道を片側交互通行にしてから、調査を行った。調査後はすぐに法面の埋戻しを行い現状復旧した。発掘調査は10月30日で終了し、10月31日に撤収作業を行った。

整理作業は、平成26・27（2014・2015）年度の2か年にかけて行い、平成27年度に調査報告書を刊行することとなった。

4. 調査結果の概要

道道根室半島線改良工事に伴う本遺跡の発掘調査は、平成21～23（2009～2011）年度（以下「過年度」）及び平成26（2014）年度に実施した。過年度は2か所（A・B地区）についての調査を行っており、それらの内容については『根室市 トーサムポロ湖周辺堅穴群（1）』（2015 北埋調報317）に報告しているので、参照願いたい。

当報告書は平成26（2014）年度に実施したB地区の調査についてまとめたものである。今回の調査

区は平成23（2011）年度の調査区の北側部分で、隣接する範囲である。過年度のB地区の調査で、遺構は竪穴住居跡18軒、土坑25基、礫集中1か所、フレイク集中2か所を調査し、遺物は土器6,419点、石器等16,516点で合計22,935点出土した。また、土壌の水洗選別でフレイク・チップなどの微細遺物を18,634点回収した。遺構は全てⅢ層のもので、包含層の遺物もほとんどがⅢ層出土である。

今回の調査面積2,760㎡の内、1,240㎡（東側520㎡、西側720㎡）は遺構確認調査範囲であり、中央部分1,520㎡については包含層調査を含む通常の発掘調査を行った。また、今回の調査区は調査前の現状が道路であり、包含層は全体的に削平されていた。

今回の調査で確認された遺構・遺物については表I-1～3にまとめた。遺構位置図については、図I-1に示した。

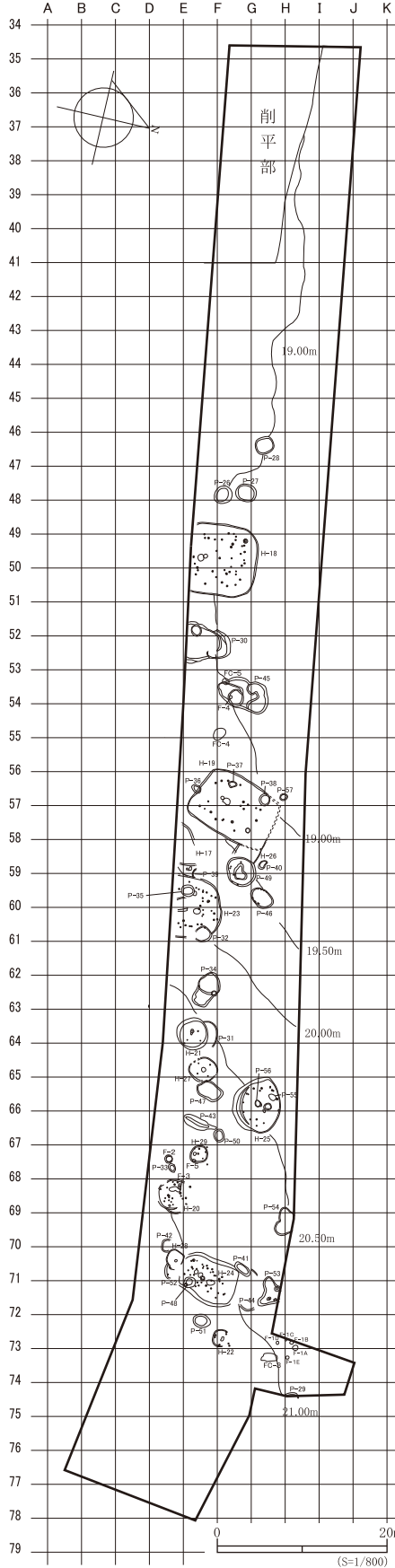
遺構は、竪穴住居跡13軒、土坑32基、焼土5か所、フレイク集中3か所をⅢ層で確認した。遺構名は過年度調査のものに続けて、連番で付した。竪穴住居跡の内2軒（H-17・18）は平成23（2011）年度に部分的に調査しており、今回は続きとなる北側部分を調査した。遺構の時期は縄文時代前期前半が多く、ほかに縄文時代早期後半、後期前葉のものがある。また、詳細な時期が不明なものもみられる。遺構の分布は調査区中央付近から東側にかけて多く、調査区東側及び西側の遺構確認調査範囲で検出した遺構は少ない。

遺物は、土器等3,590点、石器等19,194点出土し、合計は22,784点である。他に水洗選別で回収したフレイク・チップ等が17,594点ある。土器は、縄文時代早期～晩期、続縄文土器があり、中では縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の時期のものが多い。定型的な石器では砥石が最も多く、他に石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、石鋸、磨製石斧などが比較的多く出土した。

今回のB地区の調査では、過年度の調査結果と同様に縄文時代前期・後期の遺構・遺物を確認したが、過年度調査では確認していない縄文時代早期の遺構や遺物の検出や、少量ではあるが縄文時代晩期や続縄文土器の出土など、様相が異なる点もみられる。

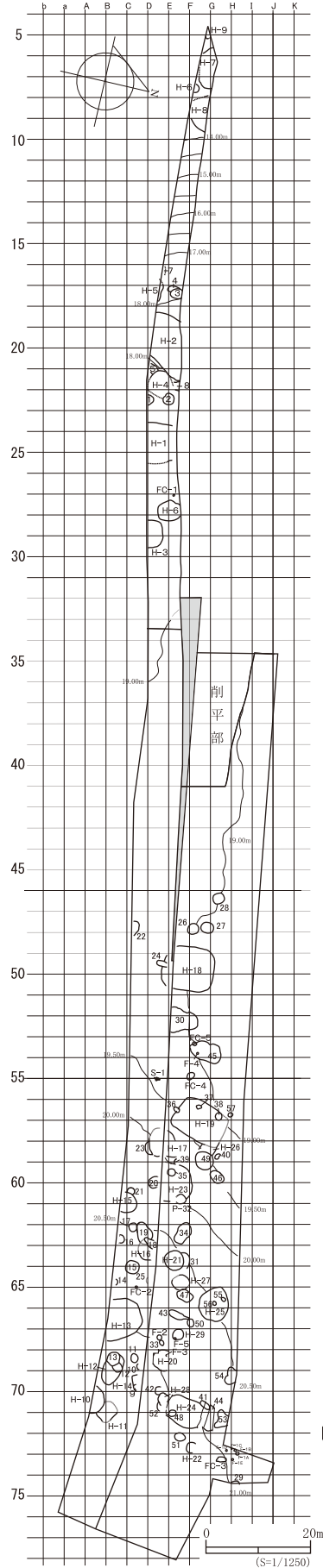
（広田良成）

平成26年度調査遺構位置図



H: 竪穴住居跡
 P: 土坑
 F: 焼土
 FC: フレイク集中

平成21~23・26年度調査遺構位置図



H: 竪穴住居跡
 土坑(数字のみ)
 F: 焼土
 S: 礫集中
 FC: フレイク集中
 ■ 工事立会範囲

図 I - 1 B地区遺構位置図

表 I - 1 遺構数一覧

種別	竪穴住居跡	土坑	焼土	フレイク集中
略号	H	P	F	FC
遺構名	H-17~29	P-26~57	F-1~5	FC-3~5
遺構数	13	32	5	3

表 I - 2 遺物点数一覧

出土地点 /遺物種別	遺構	包含層	合計
I 群	130	1,025	1,155
II 群	662	1,191	1,853
III 群		3	3
IV 群	193	353	546
V 群		21	21
VI 群		10	10
土製品		2	2
土器等	985	2,605	3,590
石鏃	37	49	86
石槍またはナイフ	47	33	80
両面調整石器	21	15	36
石錐	12	11	23
つまみ付きナイフ	17	24	41
スクレイパー	80	87	167
U・Rフレイク	69	72	141
石核	2	2	4
フレイク	4,488	4,263	8,751
原石	2		2
磨製石斧	37	12	49
たたき石	6	6	12
すり石		2	2
石鋸	45	37	82
砥石	156	265	421
台石・石皿	4	3	7
加工・使用痕のある礫	34	32	66
礫	4,446	4,778	9,224
石器等	9,503	9,691	19,194
合計	10,488	12,296	22,784

表 I - 3 遺物点数一覧 (水洗選別)

出土地点 /遺物種別	遺構	包含層	合計
I 群	6	3	9
II 群	8	1	9
IV 群	2		2
不明	10		10
土器等	26	4	30
石鏃	1		1
両面調整石器	5		5
スクレイパー	1		1
U・Rフレイク	1		1
石核	1		1
フレイク	16,437	1,106	17,543
磨製石斧	5		5
礫	4	3	7
石器等	16,455	1,109	17,564
合計	16,481	1,113	17,594

II章 遺跡の位置と環境

1. 位置と立地 (図II-1~3)

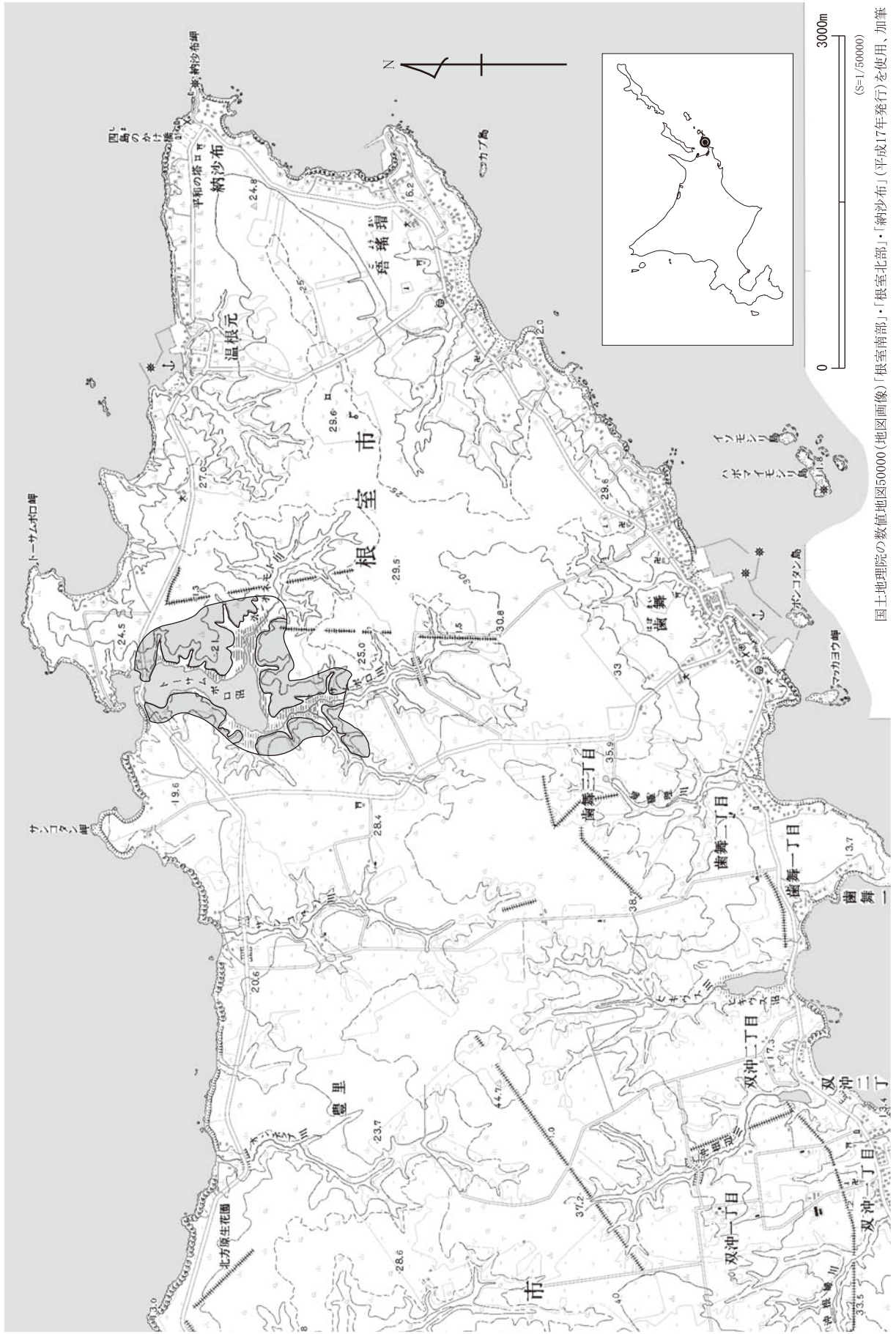
トーサムポロ湖周辺竪穴群は北海道根室市豊里44-1、82-1他に所在する。遺跡のある根室市は、北海道東部の根室半島に位置する北海道最東端の市である。また、根室振興局の所在地で、人口は約28,000人である。市の基幹産業は水産業で、夏の花咲ガニ、秋のサンマなどの水産物が全国的にも有名である。また、国後島などの北方領土に近接し、天気の良いよく晴れた日には間近に国後島を望むことができる。

本遺跡の位置する根室半島は、半島の付け根にあたる温根沼から、幅5km内外、東に約30kmのびており、北側をオホーツク海、南側を太平洋に面し、東方には歯舞諸島が連なっている。地形の特徴は、高い山や大きな河川がなく、全体が低く平坦な台地からなる隆起海食台であり、高位の段丘面がほぼ全域にわたって分布する。また、半島の海岸線は多くが急崖を呈する。道東地域の海岸線沿いには多数の海跡湖がみられるが、遺跡名でもあるトーサムポロ湖もその一つである。松井信輝ほか(1987)は、根室半島の地形を、海拔60~80m、40~50m、30~40m、17~25m、10~15m高低5段の海岸段丘に区分し、段丘の境は極めてなだらかな斜面で転換していることを述べている。それによればトーサムポロ湖周辺を含む半島北岸側は10~15m、17~25メートルの低位段丘にあたり、当遺跡は標高約10~25mの海成段丘上に立地している。

本遺跡は根室半島突端の納沙布岬からは西に約5km、根室市街地からは東に約14kmの場所にあるオホーツク海に面するトーサムポロ湖周辺に広がる遺跡で、北海道内で最も東に位置する遺跡のひとつである。なお、「トーサムポロ」の地名については、平成26(2014)年度に当センターが刊行した『根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群(1)』の第II章3節に詳述しており、そちらを参照願いたい。トーサムポロ湖は、北側に湖口がある周囲約3.3km、面積約0.25km²の汽水湖で、縄文海進によって形成された海跡湖である。湖に流入する河川はボンオネモト川、トーサムポロ川の2つがみられる。台地から湖へは緩く傾斜する地形で、これは最終氷期の最寒冷期における流土作用により周水河性皿状谷が形成されたためと考えられている。湖の周囲の台地上(標高約10~25m)には湖岸を取り巻くように多数の竪穴住居跡と考えられる窪みが分布している。トーサムポロ湖周辺竪穴群はこれらを一括して総称した広大な集落跡遺跡で、総面積は60万m²を超える。過去に東京教育大学(現筑波大学)が行った竪穴分布及び地形測量調査(図II-3参照)の結果、窪みは約1,300個を数えている。ただし、当センターの発掘調査では、地表からでは窪みとして確認できない浅い竪穴住居跡も多く検出したため、竪穴住居跡の総数は2,000軒を超えるものと推定される。遺跡の時期は、縄文時代早期前半から近世アイヌ文化期のほぼ各時期がみられ、この場所が7,000年以上前から近世にわたる長い期間、継続的に利用されていたことがわかる。現状は多くが草地であり、遺存状況は全体的に良好である。根室市内で約300か所ある遺跡の中でも最大の規模であり、根室半島の歴史を考える上でも重要な遺跡のひとつである。

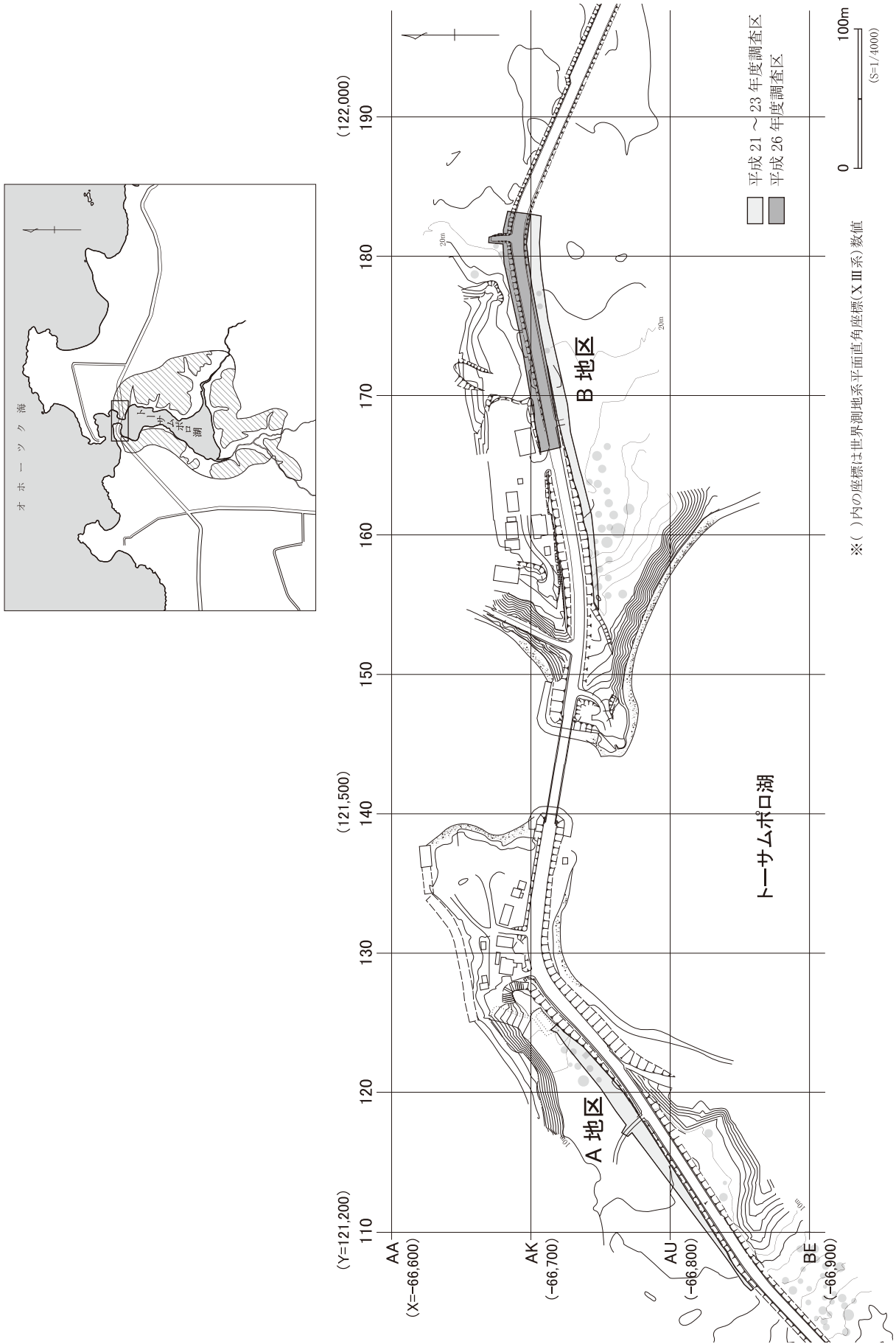
2. 過去の調査 (図II-4・5、表II-1・2)

本遺跡は古くから知られており、昭和26年以降地元出身の研究者である北構保男氏や東京教育大学



国土地理院の数値地図50000(地図画像)「根室南部」・「根室北部」・「納沙布」(平成17年発行)を使用、加筆 (S-1/50000)

図II-1 遺跡の位置



図II-2 遺跡周辺の地形

(現筑波大学)、北地文化研究会などによる学術調査が断続的に行われている。その成果は昭和41(1966)年に根室市教育委員会により刊行された『北海道根室市の先史遺跡』(以下「1966年報告」)、及び昭和55(1980)年の筑波大学による『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』(以下「1980年報告」)としてこれら2冊の報告書にほぼまとめられている。また、当センターが行った道道の改良工事に伴う平成21～23(2009～2011)年の発掘調査については、平成27(2015)年に刊行した『根室市 トーサンプオロ湖周辺堅穴群(1)』(以下「2015年報告」)にまとめられている。

東京教育大学の調査は堅穴住居跡などの発掘調査だけではなく、遺跡範囲内に数多く分布する堅穴のくぼみの分布調査及び地形測量も行われている。堅穴分布図及び地形測量は、発掘調査などと並行して数年にわたって作成され、昭和45(1970)年に行われた航空写真による測量の成果と合わせて、最終的に1980年報告書の付図として刊行された(付図1「トーサンプオロ湖周辺堅穴全体図」、当報告書の図Ⅱ-3として再掲載)。

東京教育大学は調査を行うにあたり、遺跡全体の地区分けを行っており、湖口より奥部に向かって左岸側を「L地区」、右岸側を「R地区」とし、湖北側の東西にみられる大きな半島状の突出部を「1地区」とした。そして、小湾入部で区分されている突出部に順次「2、3、4」という地区名を付けている。地区名はアルファベットと数字を組み合わせて呼称し、例えば「R-1地区」となる。当報告の「B地区」は「L-1」地区に位置する。また、過年度調査の「A地区」は「R-1地区」に位置する。また、L地区では地区名の数字はL-1地区の近くから付けられるが、L-1地区の北側は偶数、南側は奇数の数字を付けていることが、1966年報告から読み取れる。例えば、L-1地区の南側の地区名は近くから、「L-3、L-5、L-7、…」となり、北側は「L-2、L-4、L-6、…」となる。ただし、1966年報告や1980年報告の付図には、「L-1、L-3、L-5、L-7、L-8、R-1地区」以外の地区名が表記されていない。今回、地区名が推測できるものは図Ⅱ-3に地区名の最後に「?」を付けて表記した。また、地区名の表記はアルファベットと数字の間に「- (ハイフン)」があるもの(1980年報告など)とないもの(1966年報告)に分かれるが、本報告書の記述では便宜的に「-」を付けることで統一した。

本遺跡全体の過去の調査については2015年報告で述べたため、ここでは今回の報告対象であるB地区を含むL地区について地区ごとに述べる。L地区で発掘調査が行われているのはL-1、L-7、L-8地区の3か所である。L-1地区は湖口東側の半島状に突き出した部分で、当センターが調査し本報告の調査範囲であるB地区は、L-1地区の中央付近に位置する。L-7地区は湖東岸のほぼ中央に位置する。L-8地区は北側のオホーツク海に面する突き出した半島状の台地の部分である。

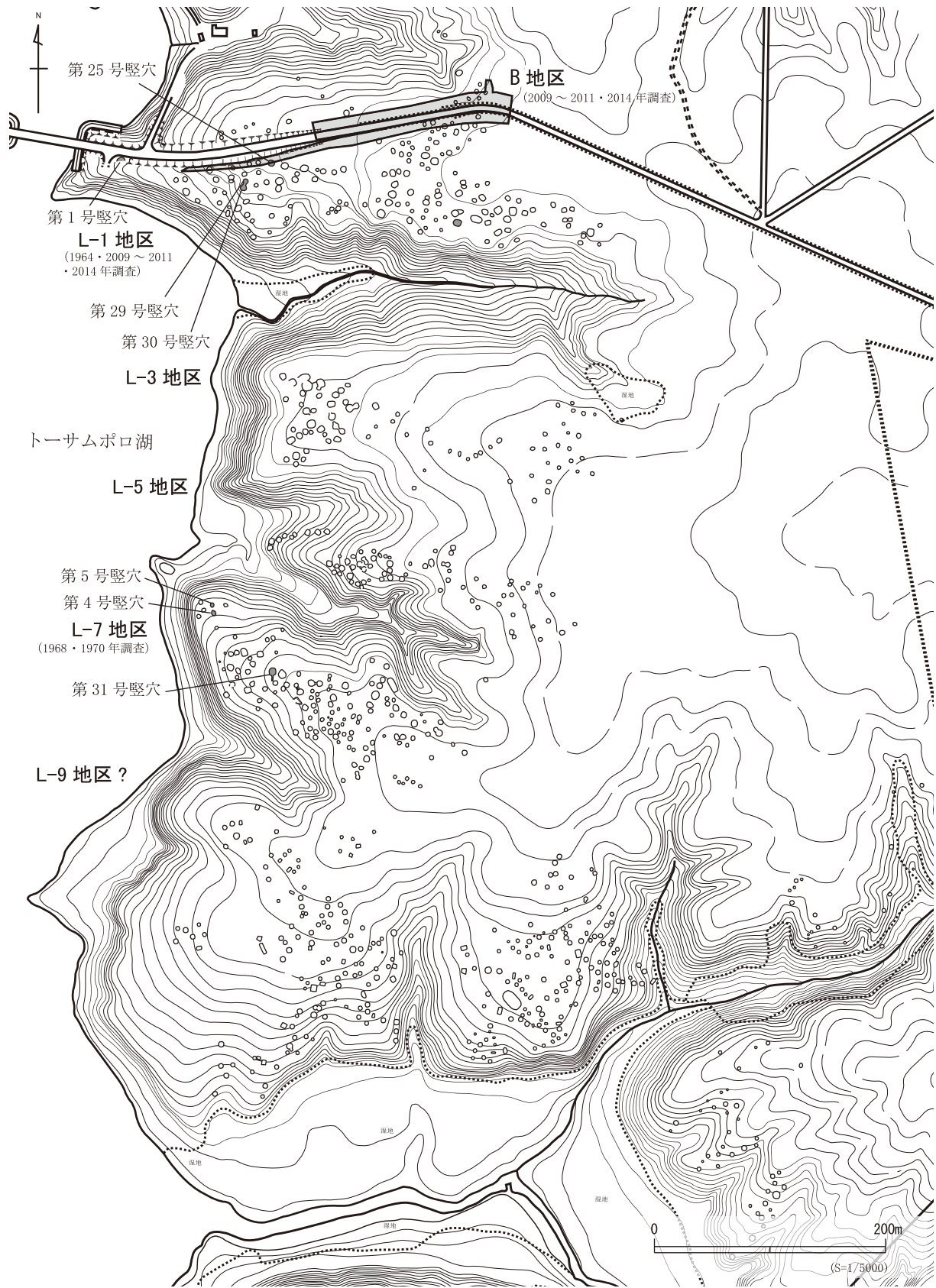
L-1地区は台地中央付近から南側斜面にかけて多数の堅穴がみられ、本遺跡内でも大規模なものである。昭和39(1964)年に東京教育大学により調査が行われ、縄文時代前期押型文尖底土器の時期の堅穴住居跡4軒(「第1・25・29・30号堅穴」)を確認した。これらの遺構については第Ⅵ章3節で述べているので参照願いたい。また、L-1地区の西側突端部に位置するトーサンプオロ沼2号チャシ(現在は道路工事により消滅)の壕について、1966年報告にトレンチ調査等を行った等の記述があるが詳細は不明である。また、上記の様にL-1地区は当センターにより、平成21～23(2009～2011)年と平成26(2014)年に調査が行われた。前者の内容は2015年報告に、後者は本報告書に掲載されている。これらの詳細はここでは省略する。

L-7地区は昭和43・45(1968・1970)年の2か年で、発掘調査が行われている。昭和43(1968)年は縄文時代前期より古い堅穴住居跡の検出を目的の一つとして、近接している小さなくぼみ2か所



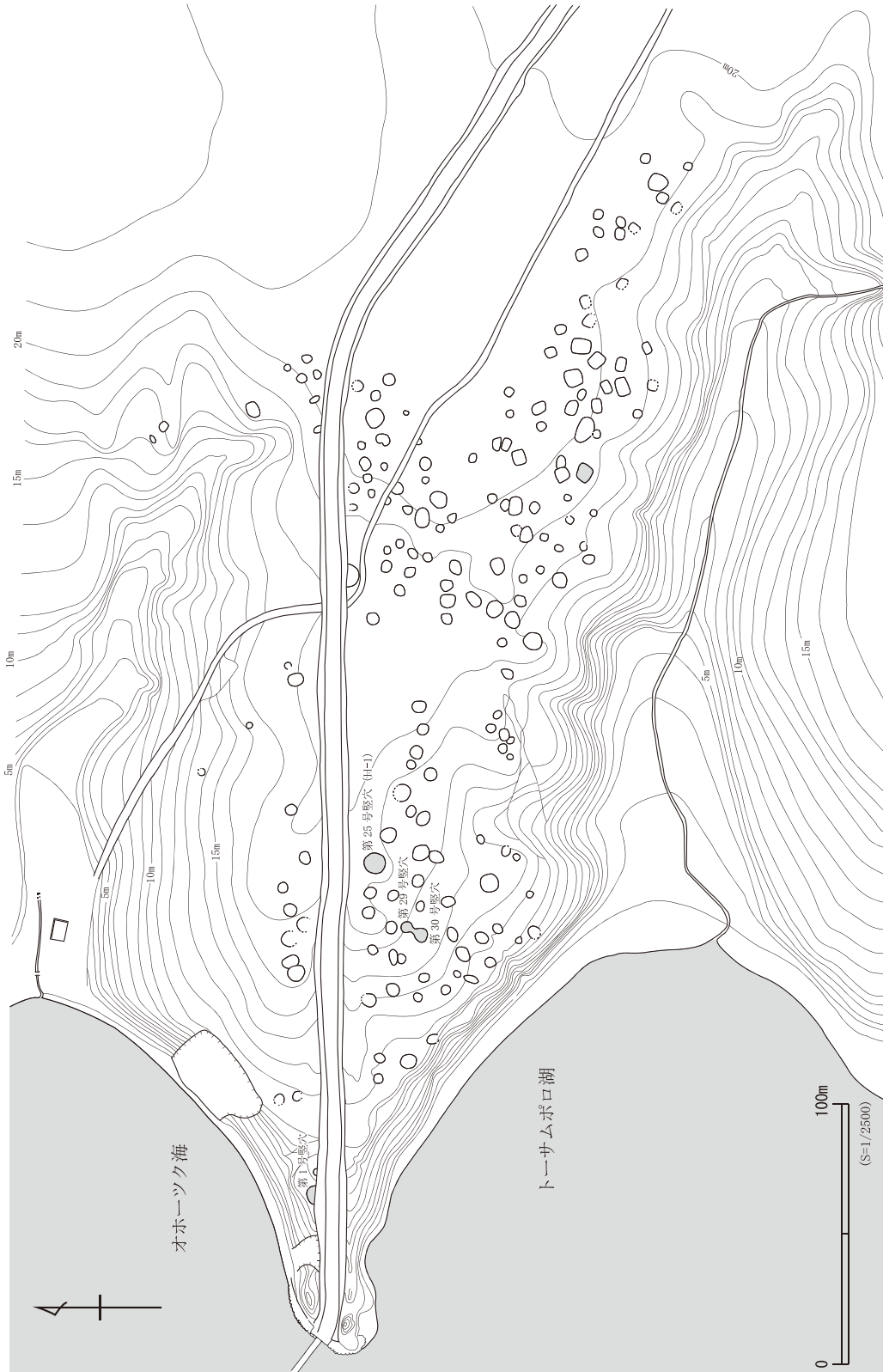
(この図は筑波大学歴史・人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究室調査報告 I 『北海道東部地区の遺跡研究』の付図 1 「トーサムポロ湖周辺縦穴全体図」をトレースし、縮小・加筆したものである)

図 II - 3 トーサムポロ湖周辺縦穴群縦穴分布図



(この図は筑波大学歴史・人類学系 1980『筑波大学先史学・考古学研究室調査報告Ⅰ北海道東部地区の遺跡研究』の付図1「トーサムポロ湖周辺竖穴全体図」をトレースし、縮小・加筆したものである)

図Ⅱ-4 トーサムポロ湖周辺竖穴群L地区竖穴分布図



(この図は根室教育委員会1966『北海道根室の先史遺跡』第42図「L1地区竖穴分布図」を再トレース・縮小し一部加筆したものである)

図II-5 L-1地区竖穴分布図

表Ⅱ-1 トーサムポロ湖周辺堅穴群L地区調査一覧

調査年	西暦年	調査主体	調査地点	調査面積	調査内容	主な時期	調査した遺構	主な遺物	文献
昭和39年	1964年	東京教育大学	L-1地区	—	発掘調査	縄文時代前期	縄文時代前期堅穴住居跡4軒、チャン(溝)	縄文早期条痕文土器、前期押型文尖底土器、中～後期北筒式土器、石器	根室市教育委員会 1966 『北海道根室の先史遺跡』
			L-8地区	—	発掘調査	擦文文化期	堅穴くぼみ176か所 擦文文化期墓塚2基、オホノツク文化期？ 配石1か所、小土坑？1か所	擦文土器(高坏)、オホノツク式土器、銅環	
			L-7地区	—	地形測量	—	墓塚？くぼみ4か所	—	
昭和43年	1968年	東京教育大学	L-7地区	—	発掘調査	縄文時代早期・晩期	縄文時代早期土坑群、晩期堅穴住居跡1軒	早期条痕文・絡糸体庄痕文土器、晩期緑ヶ岡式土器、石器	筑波大学 歴史・人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』
昭和45年	1970年	東京教育大学	全体	—	発掘調査	—	縄文時代早期、続縄文時代	—	
			L-7地区	—	発掘調査	縄文時代早期	堅穴くぼみ	—	
平成21年	2009年	(財)北海道埋蔵文化財センター	B地区(L-1地区)	400㎡	発掘調査	縄文時代前期	堅穴住居跡9軒、土坑7基、フレイク集中1か所	縄文時代前期～後期土器、石器	(公財)北海道埋蔵文化財センター 2015 『根室市トーサムポロ湖周辺
平成22年	2010年	(財)北海道埋蔵文化財センター	B地区(L-1地区)	112㎡	発掘調査	縄文時代前期	堅穴住居跡5軒、土坑4基	縄文時代前期～後期土器、石器	堅穴群(Ⅰ) 北埋調報317
平成23年	2011年	(財)北海道埋蔵文化財センター	B地区(L-1地区)	1,410㎡	発掘調査	縄文時代前期	堅穴住居跡9軒、土坑17基、墓塚中1か所、フレイク集中1か所	縄文時代早期～後期土器、石器	
平成26年	2014年	(公財)北海道埋蔵文化財センター	B地区(L-1地区)	2,760㎡	発掘調査	縄文時代前期	堅穴住居跡11軒、土坑32基、墓塚15か所、フレイク集中3か所	縄文時代早期～後期土器、石器	当報告

表Ⅱ-2 トーサムポロ湖周辺堅穴群L地区調査遺構一覧

調査地点	調査年	西暦年	遺構名	種別	時期	主な出土遺物	備考	文献
L-1地区	昭和39年	1964年	第1号堅穴	堅穴住居跡	縄文時代前期	条痕文土器、押型文尖底土器、北筒式土器、石器	L-1地区最西端の堅穴、南側削平。	根室市教育委員会 1966 『北海道根室の先史遺跡』
			第25号堅穴	堅穴住居跡	縄文時代前期	押型文尖底土器、石器	平成21年度に再調査(H-1)。	
			第29号堅穴	土坑？	縄文時代前期	押型文尖底土器、石器	張り出し部、「粘土張り」あり。土礫？基検出(小型尖底土器、骨片、赤色物質出土)。	
			第30号堅穴	堅穴住居跡	縄文時代前期	押型文尖底土器、北筒式土器、石器	炭化材出土。	
L-7地区	昭和43年	1968年	トーサムポロ沼2号チャン	チャン跡	アイヌ文化期	チャン内に位置する第1号堅穴表土より鉄器片数点、骨角器、人骨？出土	濠のトレンチ調査、詳細は不明。	筑波大学 歴史・人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』
			4号堅穴	堅穴住居跡	縄文時代晩期	晩期(緑ヶ岡式)土器、石器	舌状張り出し部あり。	
			5号堅穴	土坑	縄文時代早期・中～後期・晩期？	条痕文土器、北筒式土器、晩期土器、石器(石刃・鹿器あり)	土坑4基(P1～P4)がみられる。	
			ピット群	土坑	縄文時代早期	条痕文(浦幌式)土器、石器(石刃・鹿器・削片あり)	15基(P20～34)、5号堅穴東方の拡張区、摩周テフララ下位で検出。	
			31号堅穴(内側堅穴)	堅穴住居跡	続縄文時代	続縄文土器、石器(有角石斧あり)	外側堅穴より新しい、舌状張り出し部あり。	
L-8地区	昭和39年	1964年	第1号墓塚	土坑墓	擦文文化後期	2個体	内側堅穴より古い、摩周テフララ上位で検出。	根室市教育委員会 1966 『北海道根室の先史遺跡』
			第2号墓塚	土坑墓	擦文文化後期	環状銅製品	平面：長楕円形、長軸2.15m、短軸0.75m。	
			配石遺構	磯集中	オホノツク文化期？	小土坑を伴う？		

※平成21～23(2009～2011)・26(2014)年調査の遺構については省略

の調査が行われた。調査の結果として、縄文時代晩期の竪穴住居跡1軒（「4号竪穴」）と複数の時期と考えられる土坑4基（「5号竪穴」）、また5号竪穴東側の拡張区で摩周テフラ下位より縄文時代早期の土坑15基からなる「ピット群」が検出されている。昭和45（1970）年は、表面観察で柄鏡状のくぼみ1か所の調査が行われ、重複する竪穴住居跡2軒（「31号竪穴」）であることが判明した。新しい竪穴住居跡（「内側竪穴」）は舌状の張り出しを有するもので、時期は続縄文時代である。古い竪穴住居跡（「外側竪穴」）の時期は不明だが、条痕文土器が出土していることから縄文時代早期の可能性が指摘されている。ただし、「外側竪穴」は摩周テフラを掘り込んで構築されており、当センターの調査では条痕文土器である浦幌式は、遺構も含めて摩周テフラの下位から検出しているため、条痕文土器より新しい時期のものと考えられる。

L-8地区はL-1地区と同じ昭和39（1964）年に発掘調査が行われ、擦文文化期後期の土坑墓2基（「第1・2号墓壙」）が検出されている。2基共に平面が長楕円形で、第1号墓壙からは擦文土器（高坏）2個体が、第2号墓壙からは環状の銅製品1点が出土している。また、これらに近接して礫集中1か所（「配石遺構」）がみられ、周辺出土のオホーツク式土器などからオホーツク文化期の土坑墓に伴う配石の可能性が報告書で指摘されている。当センターでは、平成23年度にA地区（「R-1地区」）の調査でオホーツク文化期、貼付文土器の時期の土坑墓を5基確認した。これらも配石を伴っており、礫の検出状況はL-8地区のそれと類似している。なお、現在L-8地区は、「トーサムポロ東岸墳墓群」という遺跡名が付けられ、本遺跡から分離されている（本章第3節参照）。

3. 周辺の遺跡（図II-6、表II-3）

根室市内では現在のところ306か所の遺跡が確認されており、北海道内でも遺跡数が非常に多い地域のひとつである。遺跡の分布傾向はオホーツク海に接する根室半島北側の台地に多くみられ、太平洋に接する南側には少ない。また、根室半島北側でも西側に多く、特に風連湖に注ぐ別当賀川沿いは密である。遺跡の種別では集落跡が全遺跡数の3分の2以上と多い。これは、開発行為等による削平などがあまりみられず、自然地形が良好に残る場所が多いため、冷涼な気候により埋まりきらない竪穴が、地表からくぼみとして確認しやすいことが大きな理由として挙げられる。時期は縄文時代からアイヌ文化期までの各時期がみられるが、今のところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。国指定史跡としては、擦文文化期と考えられる大小約350個の竪穴が密集して分布している西月ヶ岡遺跡（4）と、アイヌ文化期のチャシ跡24か所からなる根室半島チャシ跡群（8～12・14・21～24・57・65・76・79・83～85ほか）がある。

当遺跡は根室半島先端付近、オホーツク海に面する北側台地部に位置し、周辺には集落跡、チャシ跡、墳墓、遺物包含地などが、温根元、トーサムポロ湖、サンコタン川、ノッカマップ岬、コタンケシ川周辺といった地域ごとにまとまりをもって分布している。立地はオホーツク海に面する海岸段丘上や、小河川沿いの台地上に多い。遺跡の時期は縄文時代～アイヌ文化期まで各時期みられるが、時期別にみると縄文時代、アイヌ文化期が多く、続縄文時代及び擦文文化期は比較的少ない。また、アイヌ文化期の遺跡は多くがチャシ跡で国指定史跡のものが含まれている。表II-3として周辺の遺跡一覧表を示した。

縄文時代の遺跡は多く見られる。発掘調査が行われたものとして、コタンケシ遺跡（15）、ノッカマップ川東岸竪穴群（55）、サンコタン川東岸竪穴群（63）がある。コタンケシ遺跡では縄文時代早～前期の遺構、ノッカマップ東岸竪穴群では縄文時代後期の竪穴住居跡が検出された。

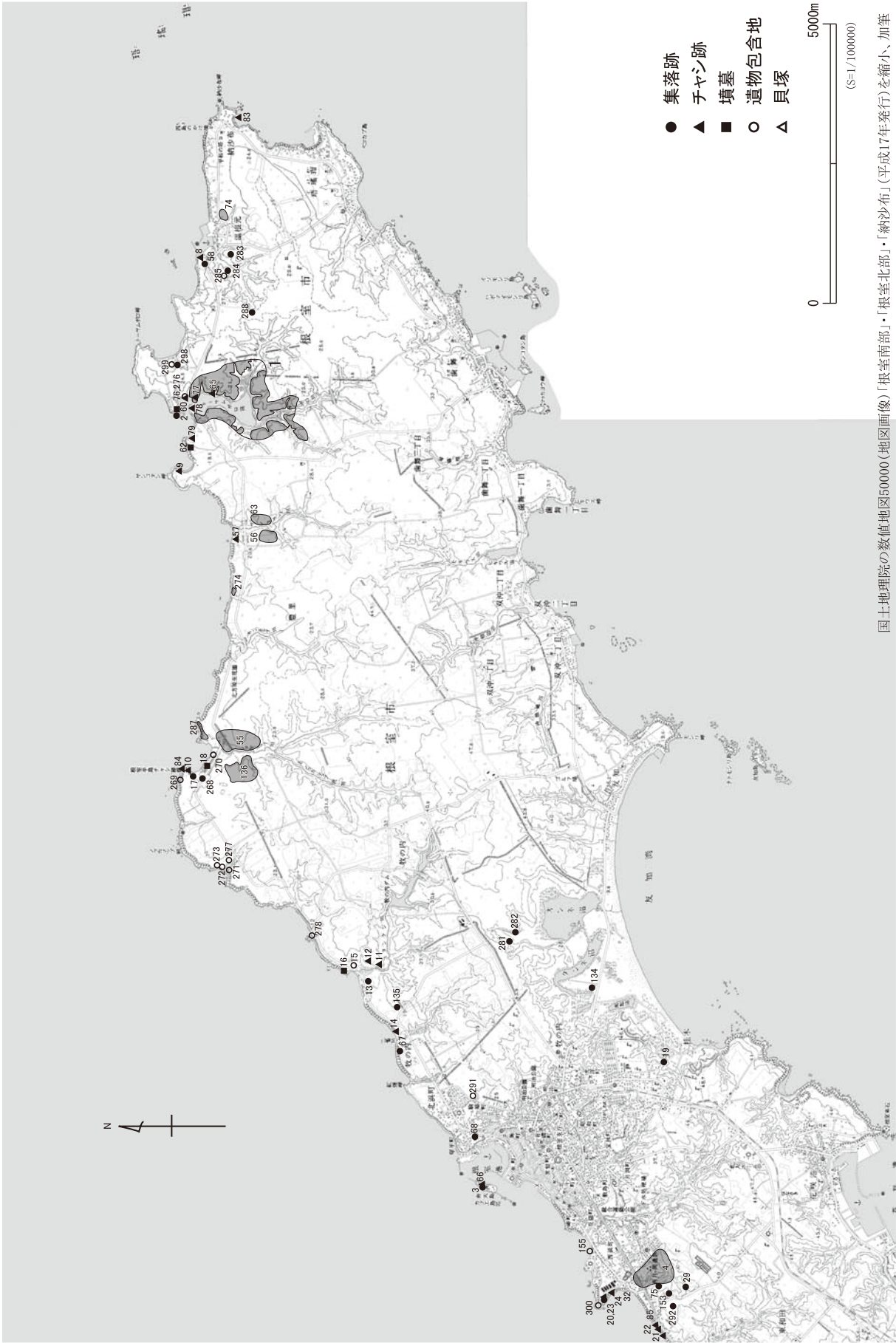


図 II-6 周辺の遺跡

国土地理院の数値地図50000(地図画像)「根室南部」・「根室北部」・「納沙布」(平成17年発行)を縮小、加筆

表II-3 周辺の遺跡一覧

登録番号	遺跡名	種別	時代	所在地	標高	発掘調査	文献	備考
1	トーサムボロ湖周辺堅穴群	集落跡	縄文、統縄文、オホーツク、擦文、アイヌ	豊里44-1,82-1,85-1,88-1,96-1,97-1・11	5~30m	○	表II-1参照	当報告
2	トーサムボロオホーツク堅穴群	集落跡	オホーツク	豊里100-1,101-1,103	10m	○	北構保男ほか 1953 北構保男ほか 1984	
3	弁天島日塚堅穴群	集落跡	オホーツク	弁天島	10m	○	根室市教育委員会 1966 北地文化研究会 1968 北地文化研究会 1979 西本編 2003 北地文化研究会 2009	
4	西月ヶ岡堅穴群	集落跡	擦文	西浜町6-3,4-1・2他	25m	○	根室市教育委員会 1966 根室市教育委員会 1983	
8	ランネモトチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	温根元59,60,60地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
9	コンプウシムイチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	豊里37,35-1,34地先	15m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
10	ノッカマフ1号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	牧の内130,130-1,130-3・4地先	20m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
11	コタンケシ2号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	牧の内140-1,210-1	23m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
12	コタンケシ1号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	牧の内252	12m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
13	コタンケシ川西岸堅穴群	集落跡	不明	牧の内78-2,99-1	8m	-		
14	シエナハウシチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	牧の内75-2,75-2地先	-	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
15	コタンケシ遺跡	遺物包含地	縄文早期・前期・中期、統縄文、オホーツク、擦文、アイヌ	牧の内140-1,252	8~13m	○	北地文化研究会 1977 根室市教育委員会 1994	
16	コタンケシ墳墓群	墳墓	アイヌ	牧の内101地先	14m	-		
17	ノッカマップ西岸堅穴群	集落跡	擦文	牧の内127-1,130	7m	-		
18	ノッカマップ墳墓群	墳墓	アイヌ	牧の内127-84	10m	-		
19	カツラムイ堅穴群	集落跡	統縄文、擦文	桂木106-1	20m	-	北構保男 1941	
20	キナトイシ堅穴群	集落跡	擦文	西浜町10-191,192他	16m	-		
21	ニランケウシ3号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	穂香7,13-5,13-5地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
22	ニランケウシ2号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	穂香7,7地先	14m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
23	アツケシエト1号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	西浜町10-206他	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
24	アツケシエト2号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	西浜町10-206地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
29	東和田1堅穴群	集落跡	不明	東和田70	25m	-		
32	キナトイシ貝塚	貝塚	不明	西浜町10-200~202	15m	-		
55	ノッカマップ川東岸堅穴群	集落跡	縄文早期・後期、擦文	豊里3-2	10m	○	筑波大学歴史・人類学系 1980	
56	サンコタン川西岸堅穴群	集落跡	統縄文	豊里74-1	18m	○	筑波大学歴史・人類学系 1980	
57	サウコタンチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	豊里14-1地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
58	オンネモト堅穴群	集落跡	オホーツク	温根元58	20m	○	根室市教育委員会 1974	
60	トーサムボロ東岸墳墓群	墳墓	擦文	温根元100-1,131,145-1	10m	○	根室市教育委員会 1966	旧トーサムボロL-8地区
62	トーサムボロ西岸墳墓群	墳墓	不明	豊里40-2・同地先	10m	-		
63	サンコタン川東岸堅穴群	集落跡	縄文、擦文	豊里18-1	10m	○	筑波大学歴史・人類学系 1980	
65	トウシャム1号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	豊里96-1	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
66	弁天島チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	弁天島	-	-	宇田川ほか編 1985	
67	スナバウス堅穴群	集落跡	不明	北浜町2-10-1,14	5m	-		
68	ベニケムイ堅穴群	集落跡	縄文早期・前期	琴平町1-5	10m	-	澤ほか 1963	
74	オンネモト東堅穴群	集落跡	縄文、統縄文、擦文	納紗布92-12	10m	-		
75	穂香2堅穴群	集落跡	不明	穂香89	15m	-		
76	ヒリカラタチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	温根元145-3	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
77	トーサムボロ沼2チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	豊里96-1	10m	○	根室市教育委員会 1966 宇田川ほか編 1985 川上編 1985	消滅 1964年一部調査
78	トーサムボロ沼4チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	豊里41・同地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	消滅
79	トウシャム2号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	豊里96-1	15m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
83	ボンメイチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	納紗布12・同地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
84	ノッカマフ2号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	牧の内130,130-1,130地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
85	ニランケウシ1号チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	穂香7,7地先	10m	-	宇田川ほか編 1985 川上編 1985	国指定史跡
134	タンネ沼遺跡	集落跡	不明	牧の内154-1	5m	-		
135	スナバウス東堅穴群	集落跡	不明	牧の内78-1	20m	-		
136	ノッカマップ川西岸堅穴群	集落跡	不明	牧の内134-1地先	10m	-		
153	穂香7堅穴群	集落跡	不明	穂香92-1,93	30m	-		
155	西浜町1遺跡	遺物包含地	不明	西浜町10-4-2	10m	-		
268	ノッカマップ東岸堅穴群	集落跡	不明	牧の内127-1・8	20m	-		
269	ノッカマップ西岸遺跡	遺物包含地	縄文	牧の内130-3地先	10m	-		
270	ノッカマップ川口遺跡	遺物包含地	不明	牧の内127-84,133	10m	-		
271	ノッカマップ岬西1遺跡	遺物包含地	縄文	牧の内125-2	5m	-		
272	ノッカマップ岬西2遺跡	遺物包含地	縄文	牧の内243-1	5m	-		
273	ノッカマップ岬西3遺跡	遺物包含地	縄文	牧の内243-2	5m	-		
274	コネップ川遺跡	遺物包含地	縄文	豊里国有未開地	5m	-		
276	ヒリカラタ遺跡	遺物包含地	縄文早期・中期	温根元145-3	10m	-	西田ほか 1992	
277	ノッカマップ岬西4遺跡	遺物包含地	縄文	牧の内127-51	15m	-		
278	コタンケシ東1遺跡	遺物包含地	縄文	牧の内110-1	5m	-		
281	オンネ沼1堅穴群	集落跡	不明	牧の内146-6	30m	-		
282	オンネ沼2堅穴群	集落跡	不明	牧の内146-17	30m	-		
283	オンネモト南堅穴群	集落跡	不明	瑛瑠瑠1丁目132-15	22m	-		
284	オンネモト西1堅穴群	集落跡	不明	瑛瑠瑠1丁目131-1	10m	-		
285	オンネモト西遺跡	遺物包含地	縄文	瑛瑠瑠1丁目131-1	20m	-		
287	ノッカマップ東岸堅穴群	集落跡	縄文	豊里国有未開地	5m	-		
288	オンネモト西2堅穴群	集落跡	不明	瑛瑠瑠1丁目131-1	20m	-		
291	駒場町遺跡	遺物包含地	縄文早期	駒場町F3-25-8	22m	-		
292	穂香8堅穴群	集落跡	不明	穂香110-1	30m	-		
298	トーサムボロ岬1堅穴群	集落跡	擦文	温根元124-7	20m	-		
298	トーサムボロ岬1遺跡	遺物包含地	縄文	温根元125-1	19m	-		
300	キナトイシ遺跡	遺物包含地	アイヌ	西浜町10-213	10m	-		

続縄文時代ではオンネモト東堅穴群（74）、サンコタン川西岸堅穴群（56）、コタンケシ遺跡、カッラムイ堅穴群（19）がある。サンコタン川西岸堅穴群はサンコタン川東岸堅穴群の対岸に広がる遺跡で、発掘調査が行われており、堅穴住居跡が1軒確認されている。

オホーツク文化期では、トーサムポロオホーツク堅穴群（2）、オンネモト堅穴群（58）、弁天島貝塚堅穴群（3）などがある。トーサムポロオホーツク堅穴群は昭和15（1940）年、56（1981）年に調査が行われ、昭和15年は貝塚10か所、昭和56年は6軒ある堅穴住居跡の内1軒が調査されている。共に遺構の時期は刻文期で、遺物は土器、石器、骨角器などが出土した。オンネモト堅穴群は昭和41・42（1966・1967）年に調査が行われ、貼付文期の堅穴住居跡2軒と貝塚1か所が調査されている。遺物は土器、石器、骨角器などが出土している。弁天島貝塚堅穴群は、根室港の北西側にある弁天島に立地し、明治時代以降多くの調査が行われている著名な遺跡で、刻文～貼付文期の堅穴住居跡や複数の貝塚などが確認されている。また、コタンケシ遺跡でも堅穴住居跡1軒が調査されている。

擦文文化期では、オンネモト東堅穴群、トーサムポロ岬1堅穴群（298）、サンコタン川東岸堅穴群、ノッカマップ川東岸堅穴群、ノッカマップ西堅穴群（17）、上述の国指定史跡である西月ヶ岡堅穴群（4）などがある。発掘調査はノッカマップ川東岸堅穴群とサンコタン川東岸堅穴群、西月ヶ岡遺跡で行われており、堅穴住居跡の調査が行われている。また、墳墓としてトーサムポロ東岸墳墓群（60）がある。2節でもふれたが、この遺跡は過去に東京教育大学により調査が行われており、その時点では当遺跡の一部（L-8地区）として扱われていたが、その後分離されたものである。東京教育大学の調査では土坑墓2基が確認されている。

アイヌ文化期は、チャシ跡が多くみられる。上述の様に根室半島はチャシ跡が多く分布しており、この地域の特徴となっている。その内24か所が「根室チャシ跡群」として国指定史跡になっている。当遺跡周辺にはボンモイチャシ跡（83）、ヲンネモトチャシ跡（8）、ヒリカヲタチャシ跡（76）、トウシャム1号チャシ跡（65）、トウシャム2号チャシ跡（79）、コンブウシムイチャシ跡（9）があり、多くのチャシ跡が分布している。他に、道路工事等で破壊されてしまったトーサムポロ沼2チャシ跡（77）、トーサムポロ沼4チャシ跡（78）がある。また、サンコタン川周辺にはサツコタンチャシ跡（57）、ノッカマップ岬周辺ではノッカマフ1号チャシ跡（10）、ノッカマフ2号チャシ跡（84）が分布している。墳墓としてはノッカマップ墳墓群（18）、コタンケシ墳墓群（16）があるが、詳細は不明である。また、コタンケシ遺跡では土坑墓が確認されている。

（広田）

Ⅲ章 調査の概要

1. 発掘区の設定 (図Ⅲ-1・2 表Ⅲ-1)

調査区はトーサムポロ湖が北側の海とつながる湖口部分にある大きな半島状の突出部に位置する。なお、平成21～23(2009～2011)年度(以下「過年度」)には西側の突出部をA地区、東側をB地区と呼称し調査を行っており、今回の発掘区はB地区の過年度調査区の北側に接する場所である。過年度調査の発掘区設定などの詳細については平成26(2014)年度に当センターが刊行した北埋調報317『根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群(1)』(以下「北埋調報317」)第Ⅲ章1節を参照願いたい。

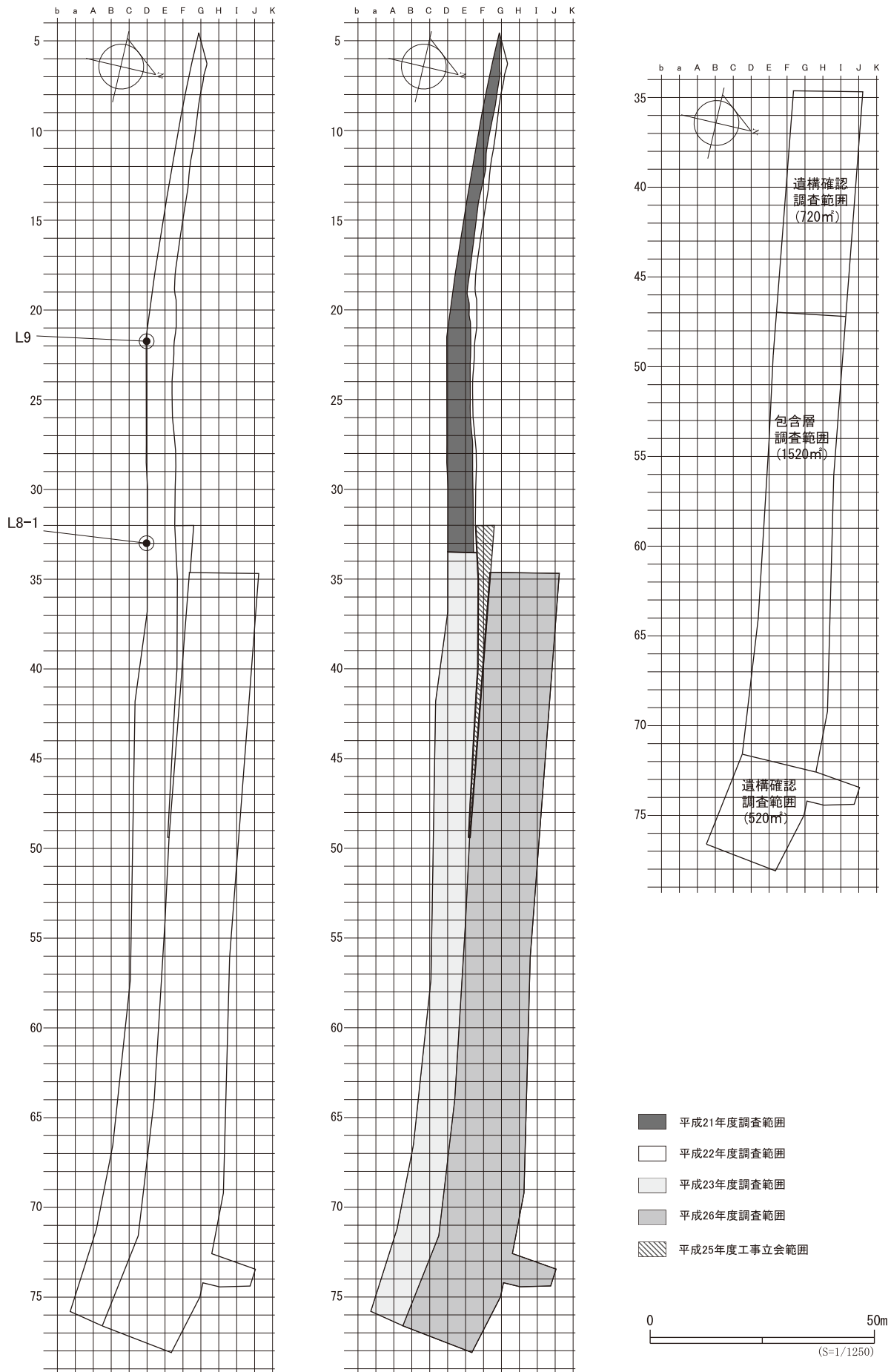
基図は北海道釧路土木現業所「平成21年度根室半島線(雪-327)交付金工事用地平面図(現況平面図)1:1000」の図葉2うち1号(平成21年8月測量)及び北海道釧路建設管理部「平成24年度根室半島線(B改-664)交付金工事仮設道路設計委託先行調査平面図」を主に使用した。

B地区の発掘区の設定は、過年度調査のものを踏襲した。工事用地内の直線部分である用地幅杭のL9～L8-1を結んだ部分を基線とし、これをアルファベット大文字のDラインとした。アルファベットラインは北方向へ昇順としKラインまで設定した。また、Aラインのさらに南側は小文字の「a」、「b」ラインを設けている。L8-1をD-33杭とし、この点を基準として、アルファベット基線に直交する数字ラインを設け、西方向へ降順とし、4～79ラインまでを設定した。アルファベットラインは東西方向、数字ラインは南北方向である。グリッドは4m単位で、その呼称は南西側の杭名とした。今回の調査範囲はアルファベットラインが「A～K」、数字ラインが「34～79」となる。

L8-1(D-33杭)からL9への方向角は $256^{\circ}18'02''$ で、数字ラインの南から北方向のラインで整理すると、数字ラインは $13^{\circ}41'58''$ 座標北から西方向へずれる(方向角: $346^{\circ}18'02''$)。また、二点間の直線長は45.248mで、L8-1はD-33杭であるが、L9はグリッド杭とは一致しない。

B地区の年度ごとの調査区を図Ⅲ-1に示した。過年度は現道部分の南側で、道路沿いの長さ約300mの細長い範囲を調査した。その後、平成25年度に道路切り替えの工事が行われることになり、仮道にかかる現道の法面範囲 190m^2 (調査区南西側のE・F-32～50区付近)について、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課により、遺構・遺物の有無を確認する工事立会が行なわれたが、遺構・遺物は検出されなかった。本報告である平成26(2014)年度は、仮道路切り替え後に、過年度調査区北側の現道下部分を調査した。調査区は長さ約170m、幅約16mの細長い形状で、調査面積 $2,760\text{m}^2$ の内、調査区西側の概ね34～47ラインにあたる 720m^2 、東側 520m^2 の合計 $1,240\text{m}^2$ は遺構確認調査範囲である。なお、各年度・調査区の測定の概要は表Ⅲ-1にまとめた。

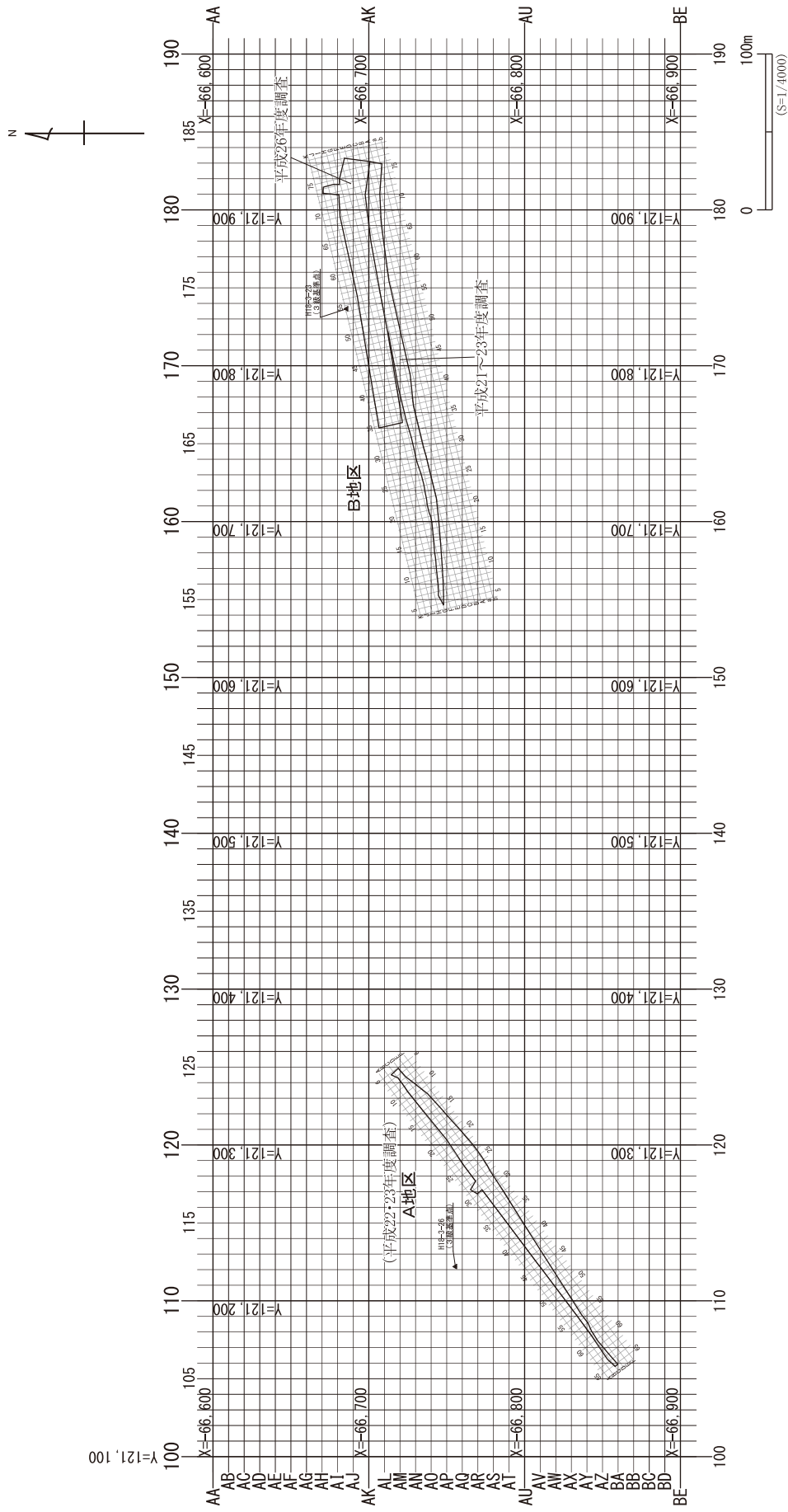
なお、本遺跡はトーサムポロ湖周囲ほぼ全体に広がる大規模な範囲であるため、過去の調査成果や将来的に行われる調査を統合するために、遺跡全体を網羅しうる世界測地系に基づく10m単位の大グリッドを設定した(北埋調報317 第Ⅷ章5節参照)。平面直角座標の $X=-66600.000\text{m}$ $Y=121100.000\text{m}$ (XⅢ系)を「仮の原点」とし、東西方向を区切るX座標は二つのアルファベットを組み合わせた記号(アルファベットライン)、南北方向を区切るY座標は算用数字(数字ライン)を付し、仮の原点は「AA」と「100」とした。グリッド名称は北西側の交点とし、これらをハイフンで結び「AA-100」とした。方向角は0度である。アルファベットラインは南方向へ昇順し、AA～AZ、BA～BZのように表記する。北方向に広がる場合はzz～zaのアルファベット小文字を付す。数字ラインは西から東へと昇順する。B地区の大グリッド上での位置は、過年度調査区がAJ～AO-154～183



図Ⅲ-1 B地区調査区設定図・年度別調査範囲図

表Ⅲ-1 B地区測量の概要

調査年度	基線 グリッドライン		グリッド杭	基線杭		基線杭の種類	地理座標 (° ′ ″)		平面直角座標 (XⅢ系) m		備考
	南北方向	東西方向					北緯	東経	X	Y	
平成21 (2009) ～ 平成23 (2011)	33ライン 基線 直交線	Dライン 基線	D-22杭 近く	終点	L 9	用地幅杭 左側	43-23-21.7	145-45-08.5	-66743.194	121715.267	グリッド 杭に対応しない
			D-33杭	起点	L 8-1	用地幅杭 左側	43-23-22.0	145-45-10.4	-66732.478	121759.228	D-33杭
平成26 (2014) 年度	基線 二点間直線距離 m (L 9 → L 8-1)		45.248	基線 方向角 (° ′ ″)		256-18-02		座標北との ずれ	南北数字ライン 西へ 13-41-58		
平成21 (2009) 年度	基準点測量 与点	平成18年度 設置 既設基準点 2級「H-18-2-3」・3級「H-18-3-22～26」・工用新設基準点「T 1～T 20」									
	水準測量 与点	上記基準点測量で、新設した4級基準点T 6 (BM no.1) H=19.316m 設置したグリッド杭G-05をBM no.2とした。H=14.885m									
	概要 ・基準点測量はTS測量で、上記の各基準点網を設定し、これに含まれる工用4級基準点「T 5」・「T 6」からグリッド杭を打設した。 ・水準測量は新設の4級基準点「T 6」(H=19.136)から、グリッド杭G-05まで水準路線を設定し行った。 ・測量成果に、「平成15年十勝沖地震対応成果」を踏まえている										
	H-18-2-3	2級	平面直角座標 m	X = -66,991.594		Y = 121,064.366		標高 m	20.351		
	基準点 T 5	4級	平面直角座標 m	X = -66,724.097		Y = 121,773.152		標高 m	19.803		釧路土木現業所 設置
基準点 T 6	4級	平面直角座標 m	X = -66,714.305		Y = 121,723.011		標高 m	19.316		釧路土木現業所 設置	
平成23 (2011) 年度	基準点測量 与点	四等三角点「三古丹」・「豊里」・「塘寒」・「温根元」 工用既設 2・3級基準点「H-18-2-3」・「H18-3-26」・「H-18-3-24」・「H-18-3-23」・「H-18-3-22」									
	水準測量 与点	工用既設 3級基準点 H-18-3-23 (BM no.1) H=19.146m グリッド杭 E-33 (BM no.2) H=19.538m									
	概要 ・基準点測量は、TS測量を行い、上記の各基準点網を設定し、これに含まれる工用3級基準点「H-18-3-26」から、グリッド杭を打設した。 ・水準測量は、3級基準点「H-18-3-23」(H=19.146m)から、グリッド杭 E-33まで水準路線を設定して行った。 ・測量成果に、「平成15年十勝沖地震対応成果」を踏まえている。										
	H-18-3-26	3級	平面直角座標 m	X = -66,755.606		Y = 121,221.994		標高 m	10.944		
	H-18-3-23	3級	平面直角座標 m	X = -66,685.764		Y = 121,836.526		標高 m	19.146		
平成26 (2014) 年度	基準点測量 与点	平成18年度 設置 既設基準点 3級「H-18-3-22・23」・新設基準点「T 1・T 2」									
	水準測量 与点	工用既設 3級基準点 H-18-3-23 (BM no.1) H=19.146m グリッド杭 F-75 (BM no.2) H=20.846m									
	概要 ・基準点測量は、TS測量を行い、上記の各基準点網を設定し、これに含まれる工用3級基準点「H-18-3-23」からグリッド杭を打設した。 ・水準測量は、3級基準点「H-18-3-23」(H=19.146m)から、グリッド杭 F-75まで水準路線を設定して行った。 ・測量成果に、「平成15年十勝沖地震対応成果」を踏まえている										
	基準点 T 1	4級	平面直角座標 m	X = -66,721.663		Y = 121,758.186		標高 m	19.157		当センター設置
	基準点 T 2	4級	平面直角座標 m	X = -66,698.729		Y = 121,934.755		標高 m	22.403		当センター設置



※世界測地系グリッドは北西側の交点をグリッド名称とする

図Ⅲー２ トーサムポロ湖周辺縦穴群世界測地系グリッド設定図

区、平成26（2014）年度調査区がAH～AM-166～183区である。

2. 基本層序（図Ⅲ-3 表Ⅲ-2）

基本層序は、当センターが行った平成21～23（2009～2011）年度調査のものを踏襲し、必要に応じて一部改変した。各層の観察は『土壌調査ハンドブック』（ペドロジスト懇談会 1984）・『標準土色帖』（小山・竹原 1967）を参考に必要な項目を設けた。内容は基本層序模式図・柱状図（図Ⅲ-3）と表Ⅲ-2にまとめた。

「0層：現地表土」

現地表土で、調査前は道路として利用されていた。下位のI層とは遺構・遺物の有無で区分した。近世アイヌ文化期～現代の層である。

「I層：地表土 下位部分」

平成22・23（2010・2011）年度のA地区の調査で、近世アイヌ文化期の遺構・遺物を確認したので、地表土を二つに分けた。すなわち、上位を0層、下位をI層とした。野外土性や色調は0層と同じである。B地区では遺構・遺物が出土していないため、「0・I層」と表現している。

「II層：黒褐色土層」

黒褐色のシルト質壤土で、本層の上位部分には灰黄褐色、下位では灰白色の火山灰層がみられる地点がある。これらは分析の結果、上位は1739年の樽前a降下火山灰層（Ta-a）、下位は1694年の駒ヶ岳c2火山灰層（Ko-c2）と判明した（北埋調報317 付篇6節参照）。B地区では全体的にII層が不明瞭で、火山灰の堆積もほとんどみられない。

「III層：黒色土層」

黒色のシルト質壤土～壤土で、約7,000年前～17世紀の層である。今回の調査では、主に縄文時代早期～後期の遺構・遺物を確認した。過年度調査では縄文時代、オホーツク文化期・擦文文化期の遺構・遺物などを確認している。なお、今回の調査では主に調査区東側で、III層の中で色調・摩周テフラの混入度に違いがみられたため、III層を三つ（III1層～III3層）に細分した。「III1層」は過年度調査の「III層」と同一のもので、調査区全体に広くみられるものである。他の細分層位が見られない場合、断面図等では「III層」と表記している。「III2層」は主に調査区中央付近から北東側にかけてみられるもので、色調は黒褐色土で粒径約2～3mmの摩周降下軽石（Ma-i）を少量含む土層である。また、調査区西側でもわずかにみられる。「III3層」は調査区中央付近から北東側でみられるもので、色調は黒～黒褐色で粒径約2～4mmの摩周降下軽石（Ma-i）を少量含む土層である。

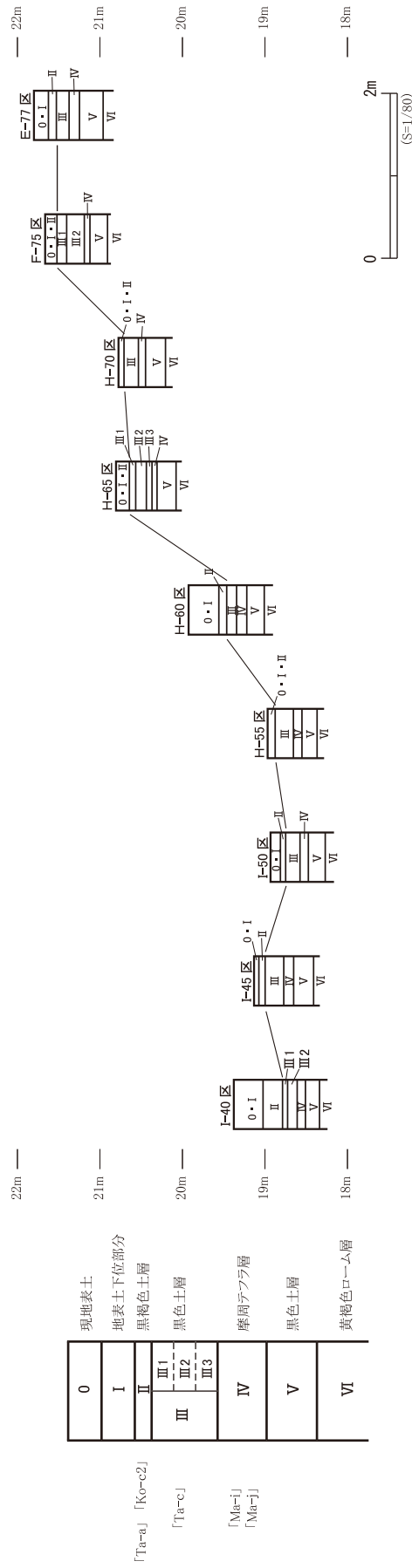
なお一部くぼみには、にぶい黄褐色の火山灰層がみられ、これは約2,000年前の樽前c降下火山灰層（Ta-c）である（前出 参照）。

「IV層：摩周テフラ層（Ma-i と Ma-j）」

約7,000年前（縄文時代早期）に降下した摩周カルデラの噴出物から構成される層である。上位は軽石層、下位は火山灰層である。上位の軽石層の分級は、下部分はやや粗粒で上部分へと細粒になる。これは摩周i降下軽石層（Ma-i）である。下位の火山灰層は、粒度区分は「砂」が多く、摩周j降下火山灰層（Ma-j）である（前出 参照）。なお、III層とIV層の間には漸移的な層界がみられる部分もあったが、漸移層として区分するほどの層厚がなかったため、漸移層として区分はしていない。

表Ⅲ-2 基本層序

層名	細分層	名称	層厚 (cm)	層界	砂・シルト・粘土				礫 (長径2mm以上)				備考
					野外土性	マンセル表色系 色調	粘着性	堅密度	種類	混入割合 (面積割合)	粒径 (mm)	形状	
O層	I層	現地表土 (牧草地)	平均:10 最大:30	判然	壤土	黒色 10YR1.7/1他	中~強	軟~堅	無	無	無		
		地表土 下位部分	平均:10 最大:20	明瞭	壤土	黒色 10YR1.7/1他	中~強	軟~堅	無	無		アイヌ文化期の 遺物包含層で、0層と区別	
II層	III層	黒褐色土層	平均: 5~7	明瞭 ~判然	シルト質 壤土	黒褐色 10YR3/1~2/3	中~強	軟~堅	無	無		II層中 灰白色火山灰層 上位:「Ta-a」1739年 下位:「Ko-c2」1694年 B地区ではほとんどみられない	
		黒(~黒褐色) 土層	平均:5~15 最大:30	判然	シルト質壤土 ~壤土	黒色 10YR1.7/1他 黒褐色 10YR2/2~2/3 黒~黒褐色 10YR2/1~2/2	中~強	堅	無	無	III層中 黄褐色火山灰 「Ta-c」(約2000年前) • III層は過年度調査の「III層」に対応し、 ほぼ調査区全体でみられる • III2層、III3層は主に調査区中央から 北東側でみられる		
		摩周子フラ層	平均: 10~20	画然	シルト質壤土 ~壤土	黒色 10YR1.7/1 暗褐色 10YR3/3~3/4 にぶい黄褐~褐色 (10YR4/3~4/6)	中~強	堅	無	無	約7000年前 かつては「Ma-i」と理解されていた層 上位:「Ma-i」・下位:「Ma-j」		
V層		黒色土層	平均:10	漸変	シルト質壤土 ~壤土	黒色 10YR1.7/1	中~強	堅	無	無			
V~VI層		漸移層	平均:10	漸変	シルト質壤土 ~壤土	暗褐色 10YR3/3~3/4	強	堅	無	無			
VI層		黄褐色ローム層	—	—	シルト質壤土 ~壤土	にぶい黄褐~褐色 (10YR4/3~4/6)	強	堅	無	無			
火山噴出物層													
Ta-a 降下火山灰層	Ko-c2 降下火山灰層	Ta-c 降下火山灰層	平均: 0.5~1	画然 ~明瞭	II層中	1739年 樽前山噴出の降下火山灰層 1694年 駒ヶ岳噴出の降下火山灰層 約2000年前 樽前山噴出の降下火山灰層 II層中の遺物のくぼみ等に堆積 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 火山灰層 (長径1/8~1/64mm)	中~強	堅	無	無	II層中ではほとんどみられない		
			平均: 0.5~1	画然 ~明瞭	II層中	1739年 樽前山噴出の降下火山灰層 1694年 駒ヶ岳噴出の降下火山灰層 約2000年前 樽前山噴出の降下火山灰層 II層中の遺物のくぼみ等に堆積 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 火山灰層 (長径1/8~1/64mm)	中~強	堅	無	無	無	B地区ではほとんどみられない	
Ma-i 降下軽石層	Ma-j 降下火山灰層	平均: 0.5以下	判然 ~明瞭	IV層の上部層	約7000年前 摩周カルデラ起源の降下軽石層 軽石の色調 外部:(橙~明褐色) 内部:(黄褐色) 上位へと細粒(1~2mm)で、下位はやや粗粒(5mm)	中~強	堅	無	無	無	主に遺物の覆土中にみられる		
		平均: 0.5以下	判然 ~明瞭	IV層の下部層	約7000年前 摩周カルデラ起源の降下火山灰層 IV層の下部層 (黄褐色) 砂質 約7000年前 摩周カルデラ起源の降下火山灰層 IV層の下部層 (灰色) 砂質・含水	中~強	堅	無	無	無	本遺跡では、降下軽石層はみられず、 黄褐色層と灰色層の 二つのユニットが認められた		



基本層序模式図

図III-3 B地区基本層序模式図・柱状図

「V層：黒色土層」

黒色のシルト質壤土～壤土で、やや粘着性を帯びる。平成22・23（2010・2011）年度に調査を行ったA地区では縄文時代早期の遺構・遺物を確認したが、B地区では過年度調査を含め確認していない。

「V～VI層：漸移層」

上位の黒色土層と下位のVI層の間にあり、色調等の漸移的な変化がみられる。

「VI層：黄褐色ローム層」

黄褐色を呈する「ローム層」で、粘着性が強く、堅密度は堅である。本遺跡の「地山」と判断する。

土層断面は主に調査区北壁付近を観察し、I-40区から西側に約20mごとに柱状図を作成した（図III-3）。II層は全体的に薄く、調査区東側ではほとんど確認できない部分もみられる。III層は、調査区全体ではIII 1層（過年度調査のIII層）が主体で、やや標高の高い調査区東側ではIII 1層に加え、III 2層・III 3層がみられる。

3. 調査の方法

今回の調査区は中央付近の包含層調査を含む通常発掘調査範囲（1,520㎡）と、その東西に位置する遺構確認調査範囲（1,240㎡）に分かれている。遺構確認調査範囲は、概ね34～47ラインの間の西側部分（720㎡）と、72～78ラインの間の東側部分（520㎡）の二か所に分かれる。B地区では、平成21～23（2009～2011）年度の調査及び試掘調査、また、今回のトレンチ調査で、V層以下の層から遺構・遺物を検出していないため、調査の最終面をIV層上面としている。

今回の調査範囲は調査前の現状が道路であったため、最初に建設機械で道路のアスファルトや砂利などの除去を行った。道路建設による攪乱は、全体的にIII層上位付近までみられ、道路の側溝部分などではVI層中まで攪乱されている部分もみられた。また、調査区東側と西側の遺構確認調査範囲については、最終面であるIV層上面まで建設機械で掘削し、その後人力で細かい攪乱等を除去した。また、G・H-72・73区付近で、III層中から焼土を確認したため、周辺を含めIII層を残し人力で調査を行った。西側の遺構確認調査範囲のうち、概ね35～41ライン南側はVI層中位まで道路工事により広く削平されていた。調査の順序は排土場所等の都合により、調査区の東西にある遺構確認調査範囲から優先して行った。遺構確認調査範囲では、IV層上面の清掃・精査を行い、遺構の検出に努めた。その後遺構確認調査に併行して、47ラインより東側から包含層調査を行った。調査期間後半には、49～72ラインの間の仮道（切り替え道路）の法面下部分の調査を行った。幅約3m、長さ約90mの範囲で、建設機械でIII層上面まで除去し、その後人力でIII層を掘り下げ、検出した遺構は随時調査を行った。安全確保のため、法面下部分は調査終了後速やかに埋戻しを行った。最終的に包含層全体をIV層上面まで掘り下げ、地形測量を行い、検出した遺構を調査した。

遺構調査は、検出後、トレンチ・半截等により土層断面の観察と、壁・床面あるいは底面の有無などから、遺構かどうかを判断した。遺構と判断した場合は、覆土の掘り下げ、遺物の取り上げ、土層断面の記録などを行い、最終的に全体を掘り下げ、平面図等の作成や写真撮影などを行った。竪穴住居跡等で付属施設がある場合、それらの調査も行った。竪穴住居跡などの付属遺構である柱穴・杭穴に関しては断面形状を4種類に分類した。まず、壁の形状を基に底面に向かって壁が収束するものと、底面に対し両壁が概ね直角で、前者に比べ比較的太いものの二つに大きく分けた。さらに前者は、先端部が明瞭に尖るもの（以下「尖」）、やや丸みを帯びるもの（以下「丸」）に細分した。後者は、立

ち上がり部分が丸みを帯びるもの（以下「隅丸」）、丸みを帯びないもの（以下「平」）に細分した。遺物は、層ごとにまとめて取り上げたが、竪穴住居跡の床面や土坑の底面出土のものなどは、必要に応じて出土位置や出土状況を記録した。フレイクなどの遺物は出土状況などから、人為的な集中と判断したものは遺構名を付し調査した。フレイク集中や遺構の覆土、包含層などで細かいフレイクなどのまとまりを確認した場合は、微細遺物の回収を目的として、必要に応じて土壌をビニール袋（36×50cm）に取り上げ、水洗選別を行った。

包含層調査は、4×4mのグリッド単位で行った。層ごとに移植ごてやスコップで掘り下げ、掘り下げた面では土色や遺物の出土状況を確認し、遺構の可能性のあるものはトレンチ調査等を行った。出土遺物はグリッド・層ごとに取り上げた。最終的にはIV層上面まで掘り下げ精査し、遺構がない場合そのグリッドは調査終了とした。

4. 整理の方法

（1）一次整理の方法

現場での遺物の取り上げは「遺跡名・地区名（略号：トB）」、「出土地点（遺構名・グリッド）」、「出土層位」、「遺物種別（土器・剥片石器・礫石器・その他に大別）」、「取り上げ番号（出土位置記録のもの）」、「取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に遺物を収納した。遺物は「水洗」・「乾燥」し、設定した基準に従い「分類」した。次に出土地点・出土層位・遺物分類名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物と共にチャック付ビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、「遺物台帳」をパソコンの表計算ソフト（マイクロソフト・エクセル）により作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。土器には、遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は遺構出土の場合「遺跡名 地区名・遺構名・遺物番号・出土層位」で、例えば「トB・H-18・1・フクド」となる。包含層出土の場合、「遺跡名 地区名・グリッド名・出土層位」で、例えば「トB・G55・Ⅲ」となる。なお、グリッド名はアルファベットと数字の間の「-」（ハイフン）を省略し、遺構名との混同を避けた。遺物番号がないものは省略し、原則的に遺存状態が「良好」（5節参照）の土器のみ注記している。また、フレイク集中などから取り上げた土壌サンプルは、水洗選別法により微細遺物を採取した。なおふるいは1mmメッシュを使用した。

（2）二次整理の方法

・土器

遺構出土土器の接合は、遺構内、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片数が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。接合により残存状況が良好で器形のわかるものなどを復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は接合により大きくなったもの、複数の部位のもの、特徴的な口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。また、掲載するものについては一覧表を作成した。

・石器等

定型的な石器については、接合作業を行った。また、分類の見直し、「完形」及び「準完形」のものを中心とした報告書掲載石器の選び出し、実測図の作成、一覧表作成などを行った。

5. 遺物の分類

(1) 土器等

・ 時期分類基準

I 群 縄文時代早期に属する土器群

a 類：貝殻腹縁文・条痕文・沈線文のある土器群。テンネル式・浦幌式などに相当するもの。

b 類：撚糸文・絡条体圧痕文・短縄文などが施される土器群。

東釧路式系土器群（東釧路Ⅱ式・東釧路Ⅲ式・コッタロ式・中茶路式・東釧路Ⅳ式）

II 群 縄文時代前期に属する土器群

a 類：縄文尖底土器・押型文尖底土器など。網文式・朱円式・温根沼式などに相当するもの。

b 類：刺突文土器・押型文平底土器など。網走式・シュブノツナイ式などに相当するもの。

III 群 縄文時代中期に属する土器群

a 類：刺突文土器・押引文土器・押型文平底土器など。常呂川河口押型文 I 群、智東式などに相当するもの。

b 類：モコト式・北筒Ⅱ式の新段階に相当するもの。

IV 群 縄文時代後期に属する土器群

a 類：北筒Ⅱ式の新段階、北筒Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式などに相当するもの。

b 類：手稲式・鮎潤式・エリモ B 式などに相当するもの。

c 類：堂林式・三ツ谷式・御殿山式などに相当するもの。

V 群 縄文時代晩期に属する土器群

a 類：大洞 B・B C 式及びそれに伴うもの。

b 類：大洞 C 1・C 2 式、幣舞式などに相当するもの。

c 類：大洞 A・A' 式、緑ヶ岡式などに相当するもの。

VI 群 続縄文時代に属するもの。

VII 群 擦文文化期に属するもの。

VIII 群 オホーツク文化期に属するもの（トビニタイ式土器を含む）。

他に土製品（焼成粘土塊）がある。

・ 残存状態分類基準

「良好」：破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの

「剥離」：破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約 1 / 2 以上剥離・剥落しているもの

「磨耗」：破片が摩耗しているもの

「小破片」：大きさが長径 2 cm 程度以下の小さな破片 (広田)

(2) 石器等

剥片石器では石鏃、石槍またはナイフ、両面調整石器、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・R フレイク、石核、フレイク、原石がある。礫石器では磨製石斧、たたき石、すり石、石鋸、砥石、台石・石皿がある。その他に加工・使用痕のある礫（U・R 礫）、礫がある。

(愛場和人)

IV章 B地区の遺構

1. 概要 (図IV-1)

平成26(2014)年度調査区は平成23(2011)年度調査区の北側にあたり、道路下部分ということもあり、長さ約170m、幅約16mの細長い形状である。調査区の地形は西・北西側へ下る緩斜面で、標高は19~21mである。

平成26年度にトーサムボロ湖周辺竪穴群B地区のⅢ層で確認した遺構は、竪穴住居跡13軒(H-17~29)、土坑32基(P-26~57)、焼土5か所(F-1~5)、フレイク集中3か所(FC-3~5)である。このうち竪穴住居跡2軒(H-17・18)は、平成23年度の北側部分の調査である。遺構の時期は縄文時代前期前半が多く、次いで縄文時代後期前葉、縄文時代早期後半がある。

遺構は、調査区の西側と東側では希薄で、グリッド46~75ラインにかけて多く分布する。竪穴住居跡と土坑は近接しており、重複するものも多い。

なおⅢ層調査後、V層についてトレンチ調査を行ったが、遺構、遺物とも検出しなかった。

(愛場)

2. Ⅲ層の遺構 (図IV-2~44 表IV-1~20 図版1~23)

(1) 竪穴住居跡

H-17 (図IV-2 図版4)

位置 D・E-57・58区 (平成23年度調査範囲も含む) **平面形態** 不整な楕円形

規模 (6.74)×5.35/(6.25)×4.87/0.42m (平成23年度調査範囲も含めて計測)

確認・調査 調査区境周辺の包含層調査中、Ⅲ層でⅣ層が混ざる半円形の黒色土がみられた。平成23年度調査のH-17に隣接するグリッドであったため、東西方向に土層観察用のベルトを設定し、周囲を掘り下げた。V層中に床面と壁の立ち上がりを確認し、平面形や床面の標高が合致することからH-17の北側部分と判断した。平成23年度との調査区境は道路の攪乱により幅1m程の範囲が壊されていた。2か年合わせた平面形状は、北側がすぼまる不整な楕円形で、長径は7m近くと推定される。

覆土 5層に分けた。覆土1層はⅢ層黒色土主体層で、覆土2~5層は黒色土にⅣ層が少量混ざる土層である。覆土5層は壁際に堆積し、色調は黒色~黒褐色である。

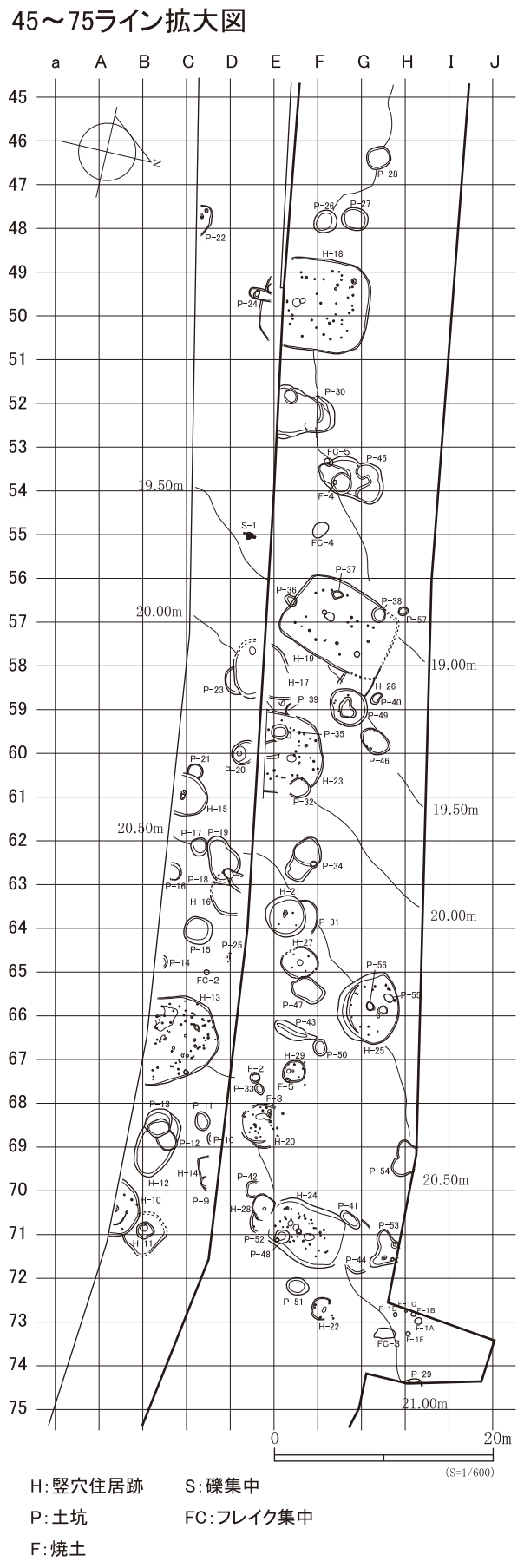
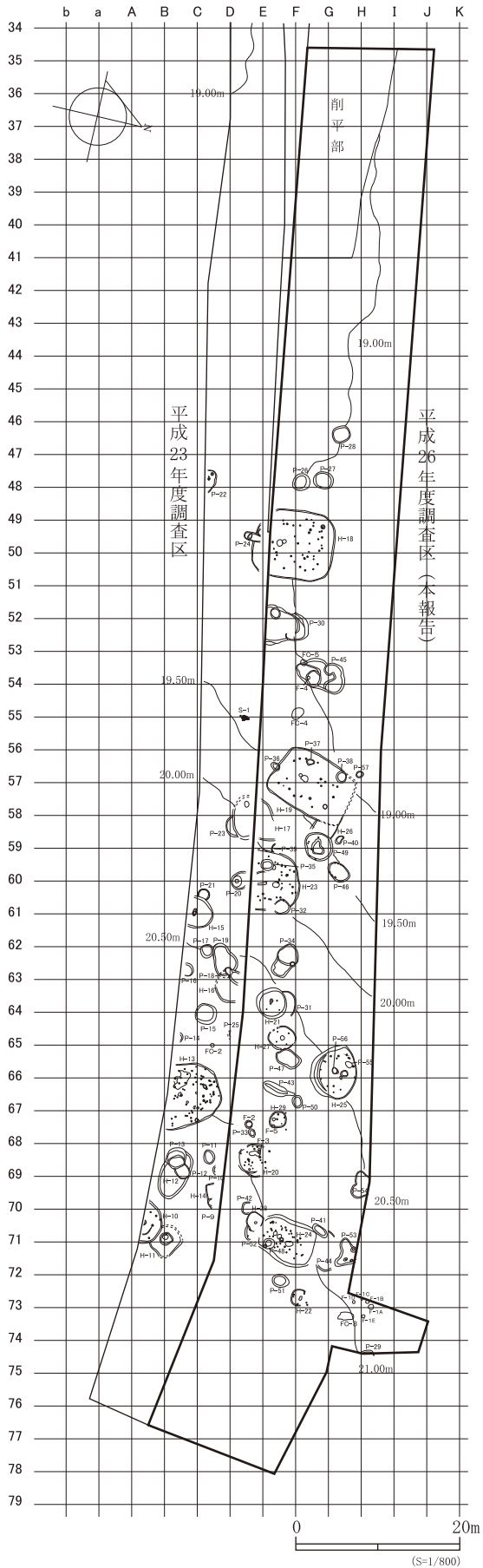
床面・壁 床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 今年度の調査区では確認できなかった。平成23年度の調査では住居跡の南西壁近くに炉跡焼土(HF-1)があり、南東側では覆土中に礫集中が認められた。

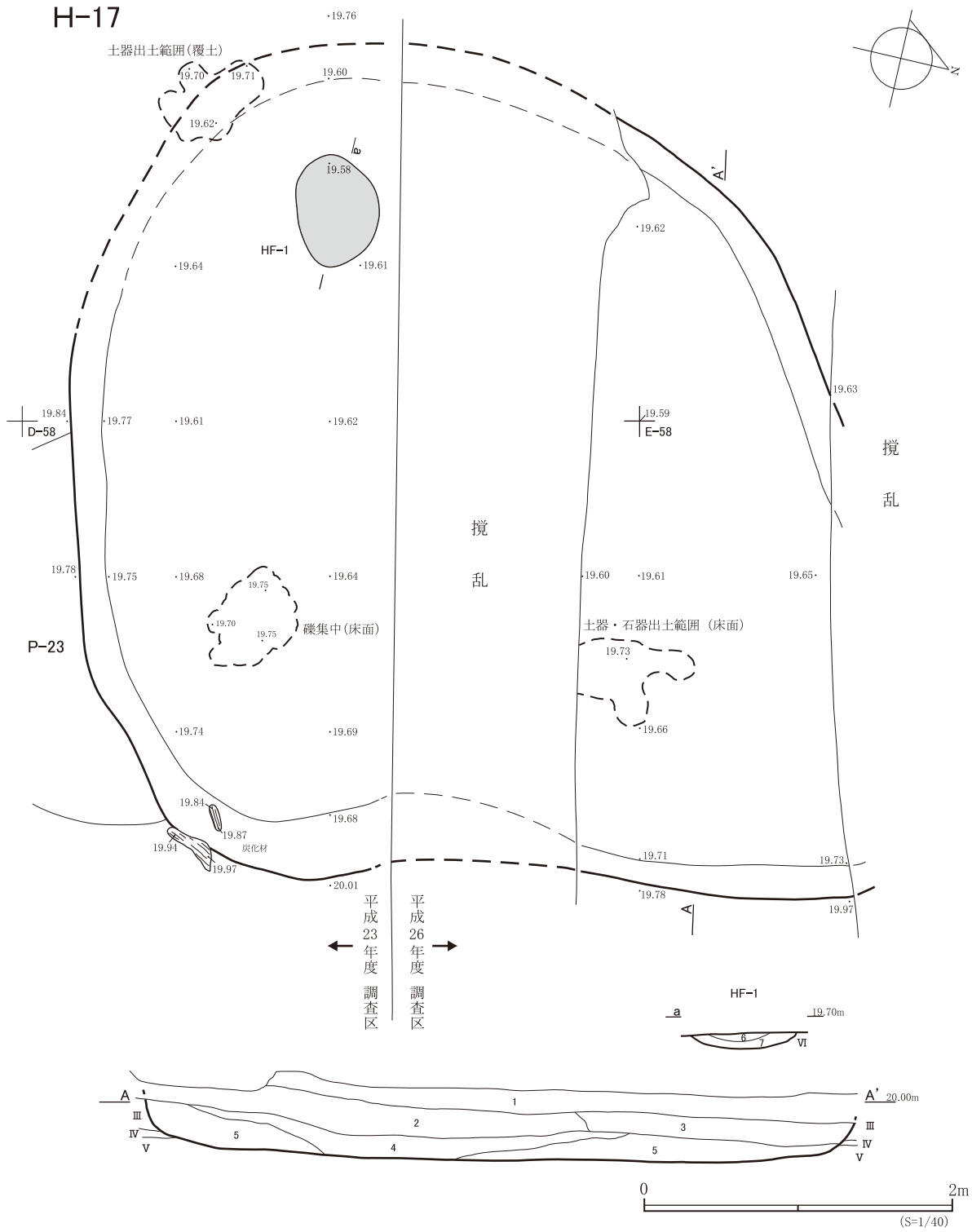
遺物出土状況 遺物は230点出土した。床面からはⅡ群a類土器70点、フレイク2点、砥石1点、石鋸1点、礫11点が出土した。床面の遺物は住居跡中央よりやや東側で約0.8×0.6mの範囲でまとまってみられた。覆土からはⅠ群b類土器2点、Ⅱ群a類土器43点、Ⅳ群a類土器1点、石鏃1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、フレイク45点、磨製石斧1点、砥石7点、加工・使用痕のある礫1点、礫42点が出土した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。

(愛場)



図IV-1 B地区遺構位置図



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考	
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)		形状			風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
H-17	1																
	2	黒色土	IV・V層	偶然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2~3	10	垂直線	風化	—	
	3	黒色土	IV層	偶然	シルト質壤土	黒色	10YR2/1	中~強	堅	Ma-1軽石	2	2~3	10	垂直線	風化	—	
	4	黒色土	IV層	偶然	シルト質壤土	黒色	10YR1.7/1	中~強	堅	Ma-1軽石	1	2~3		垂直線	風化	—	
	5	黒色土	IV層	偶然	シルト質壤土	黒色~黒褐色	10YR2/1~2/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2~3	8	垂直線	風化	—	
H-17	6	黒色土		*	*	黒褐色	10YR2/2	中	堅	*	*	*	*	*	骨片・粘土粒	平成23年度	
HF-1	7	礫土		*	*	褐色	7.5YR4/6	中	堅	*	*	*	*	*	—	平成23年度	

図IV-2 H-17

H-18 (図IV-3~6 図版5)

位置 D-49・50、E・F・G-48・49・50区 (平成23年度調査範囲も含む)

平面形態 隅丸長方形

規模 9.92×8.55/9.47×8.03/0.28m (平成23年度調査範囲も含めて計測)

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で炭化材や焼土を広い範囲で検出した。平成23年度調査のH-18に隣接するグリッドであったため、南北と東西方向にトレンチを設定し調査を行った。IV~V層中に床面、壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と判断した。その後トレンチ沿いに土層観察用ベルトを設定し、ベルトを残して覆土を掘り下げた。覆土中では、焼土や炭化材が住居跡北側に分布しており、これらの位置を記録した。覆土を掘り下げた後、土層断面の図化等を行い、次に床面を精査し、確認した炉跡焼土や柱穴・杭穴については調査を行った。平面形や床面の標高が合致することからH-18の北側の主体部分と認定した。2か年合わせた平面形状は、南北に長軸をもつ隅丸長方形で、長径10m近くの大型の竪穴住居跡である。覆土中に焼土、炭化材が広範囲で見られることから焼失住居跡の可能性がある。炭化材は一部採取し、放射性炭素年代測定と炭化樹種同定を行った(付篇2・3節参照)。

覆土 16層に分けた。覆土1・16層は黒色土に樽前c降下火山灰が混ざる土層で、住居跡の中央付近に少量みられた。それより下位はⅢ層黒色土にIV層が少量混ざる土層が主体で、炭化材層(覆土8)や焼土層(覆土11)も覆土中位から下位にかけて堆積する。住居跡の東側の床直上では、色調が暗赤褐色を呈する赤色土壌(覆土13)がみられる。

床面・壁 床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。確認面からの深さは0.28mで、比較的浅い。

付属遺構 覆土中で焼土9か所(HF-3~11)、床面で炉跡焼土2か所(HF-1・2)、土坑1か所(HP-43)、柱穴・杭穴41か所(HP-2~42)を確認した。なおHP-1は平成23年度調査の土坑である。

HF-1・2は長軸の中央から南側に近接して認められた。平面はHF-1が0.49×0.48mの円形、HF-2が0.83×0.72mの楕円形で、被熱層厚はいずれも約0.10mである。土坑HP-43は北西壁際に位置し、平面は直径約0.50mの円形で、底面の断面形は曲線的である。柱穴・杭穴HP-32と重複するが、新旧関係は不明である。柱穴・杭穴は住居跡の西側(HP-11~18・34など)、北側(HP-2~7・20・21・24~27・31・32・35・36)、東側(HP-8・9・19・23・28・29・33・37~40)にまとまりがあり、壁に沿って直線状に並ぶ。住居跡南側部分は攪乱を受け不明瞭だが、柱穴・杭穴の位置をつなぐと、長方形の配列が想定できる。またHP-10は住居跡のほぼ中央に位置する。柱穴・杭穴の平面は円形が多く、楕円形も少数みられる。径は0.11~0.20mにほぼまとまる。深さは0.18~0.65mで、0.30m以上のものが主体である。断面形状は「丸」、「隅丸」が多い。

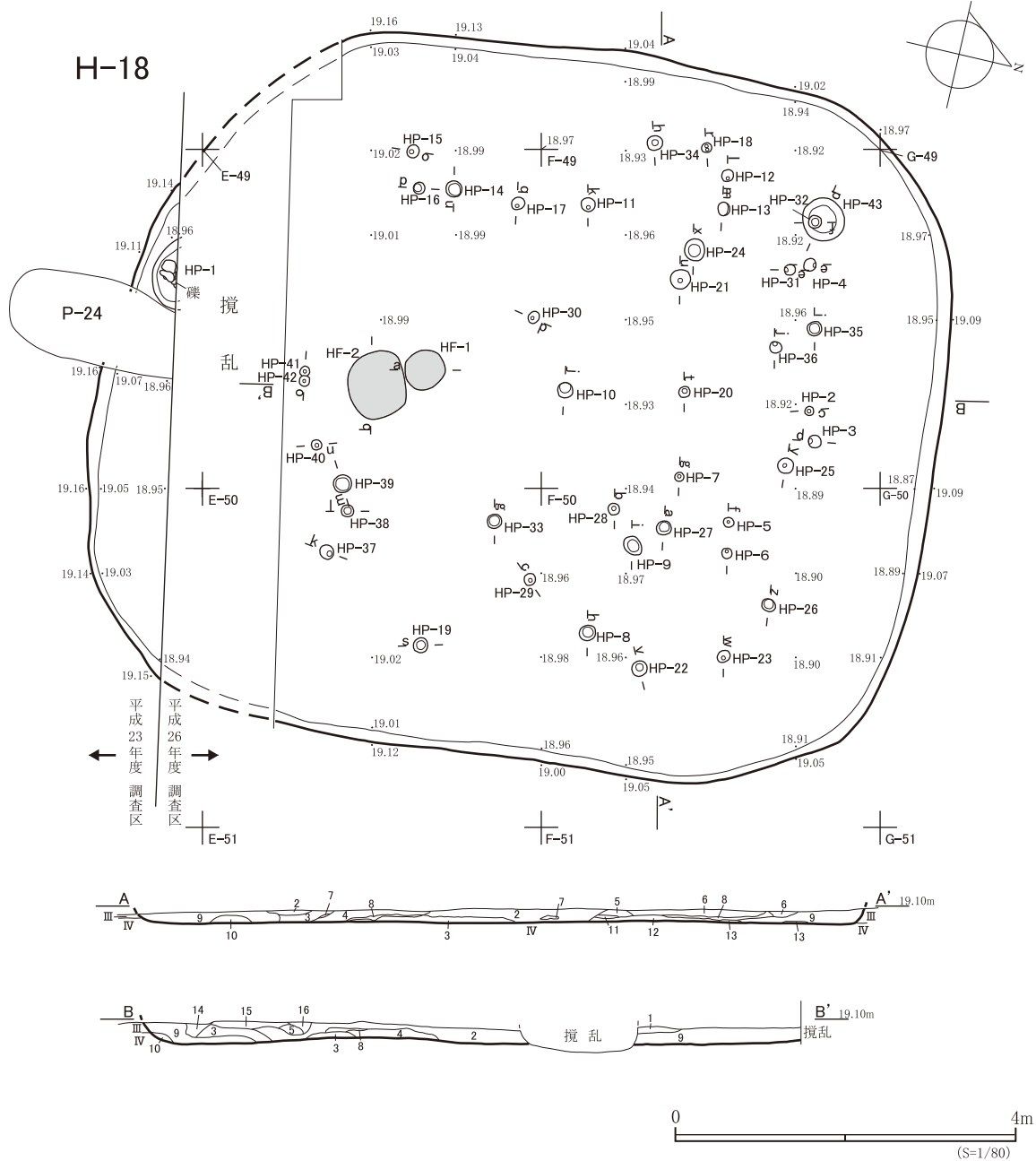
覆土中焼土(HF-3~11)は炭化材とともに住居跡北側部分に分布する。

遺物出土状況 遺物は307点出土した。床面・床面直上からはⅡ群a類土器2点、石錐1点、スクレイパー4点、U・Rフレイク1点、石鋸9点、砥石7点、加工・使用痕のある礫26点、礫75点が出土した。覆土からはⅠ群b類土器10点、Ⅱ群a類土器14点、Ⅳ群a類土器1点、石鏃1点、石槍またはナイフ2点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー5点、両面調整石器2点、フレイク56点、原石1点、磨製石斧3点、砥石14点、礫66点が出土した。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では4,720±30 y r B Pと、縄文時代前期末~中期という結果がでている。(愛場)

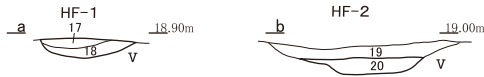
H-19 (図VI-7~9 図版6)

位置 E-55・56・57、F-55・56・57・58、G-56・57・58区 平面形態 隅丸長方形?

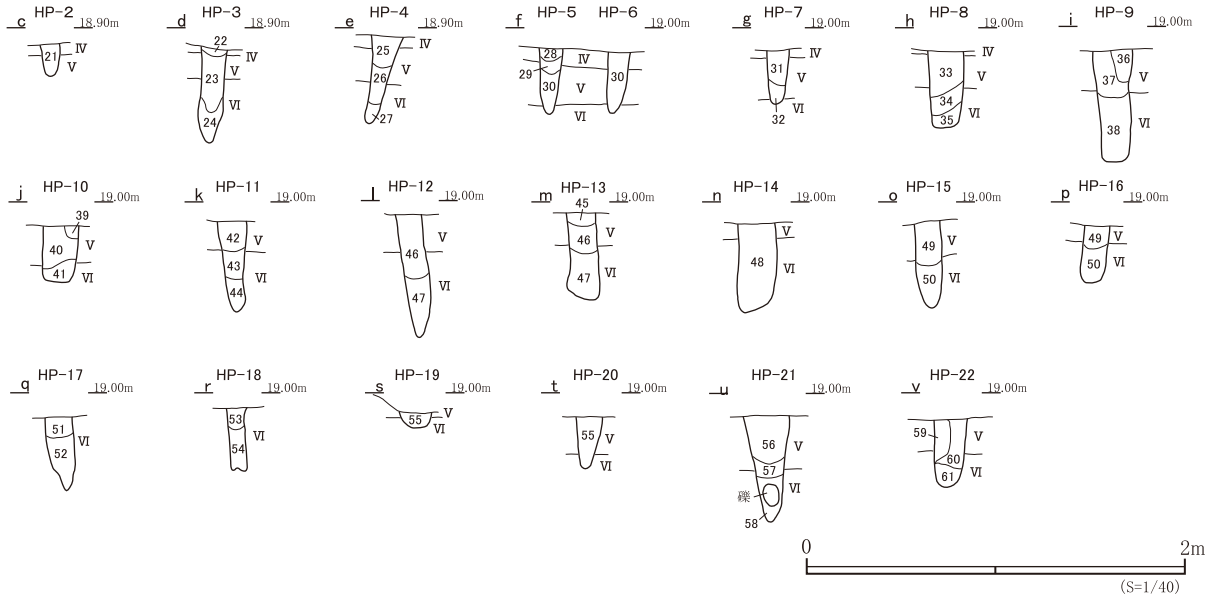


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混成層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		形状			風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大					
H-18	1	III層	Ta-c	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅								
	2	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-i軽石	10	2~3	亜円礫	風化			
	3	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-i軽石	20	2~3	亜円礫	風化			
	4	III層	IV層	面然	シルト質壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-i軽石	50	2~3	5	亜円礫	風化		
	5	IV層	III層	面然	シルト質壤土	にぶ黄褐色	10YR4/3	中	堅	Ma-i軽石	90以上	2~3		亜円礫	風化		
	6	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR3/1	中	堅	Ma-i軽石	20	2~3		亜円礫	風化		
	7	IV層	III層	面然	砂土	暗褐色	7.5YR3/4	中	堅	Ma-i軽石	90以上	2~3	5	亜円礫	風化		
	8									炭化材料							
	9	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-i軽石	20	2~3		亜円礫	風化		
	10	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-i軽石	5	2		亜円礫	風化		
	11				焼土	面然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅						
	12	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒褐色	7.5YR3/2	中	堅	Ma-i軽石	20	2~3		亜円礫	風化		
	13	表層部	IV層	面然	シルト質壤土	暗赤褐色	5YR3/3	中	ナニボ型	Ma-i軽石	10	2~3		亜円礫	風化		
	14	III層	IV層	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-i軽石	20	2~3		亜円礫	風化		
	15	焼土	IV層	面然	焼土	暗褐色	7.5YR3/3	中	堅	Ma-i軽石	10	2					
	16	III層	Ta-c	面然	シルト質壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅								

図IV-3 H-18(1)

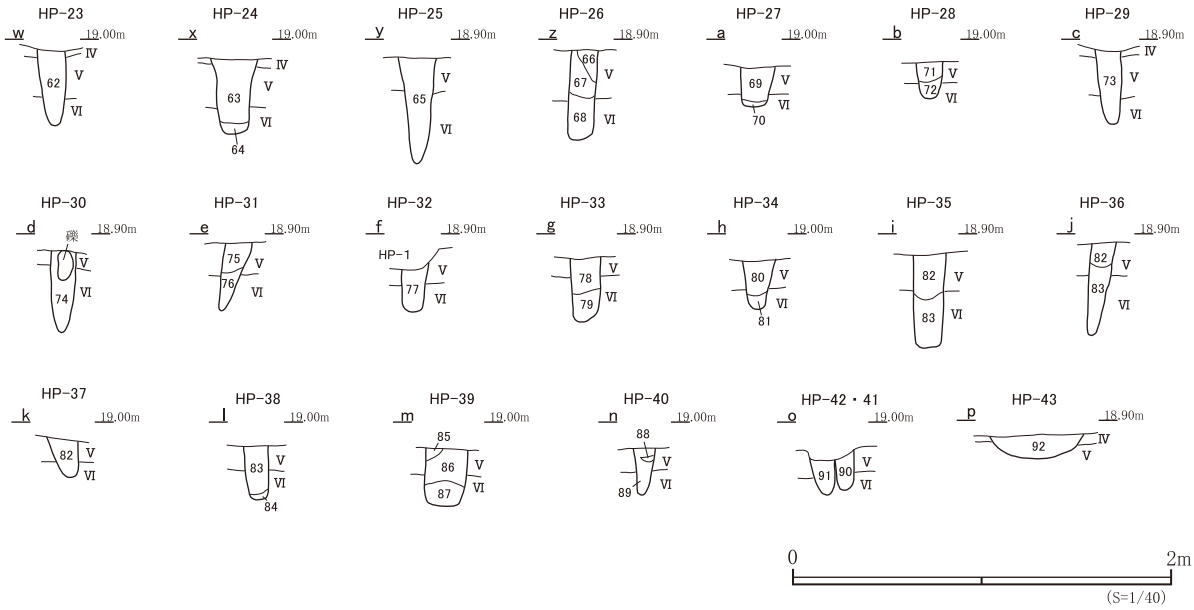


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系					平均					最大
H-18 HF-1	17	黒色土	IV層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	炭酸礫	30	2~5	10	亜円礫	半風化	炭化物・少量	
	18	壤土	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	すこぶる堅	Ma-1軽石	10	—	2	—	亜円礫	風化	—	
H-18 HF-2	19	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	黒褐色	7.5YR2/2	弱	堅	炭酸礫	20	2~4	—	亜円礫	半風化	—	
	20	壤土	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	—	—	—	—	—	—	—	—	



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系					平均					最大
H-18 HP-2~22	21	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	10	2~4	—	亜円礫	風化	炭化物・少量	
	22	VI層	画然	埴壤土	暗褐色	10YR3/4	強	堅	Ma-1軽石	5	2	—	—	亜円礫	風化	—	
	23	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	—	—	—	—	—	—	VIフロッグ状	
	24	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	軟	—	—	—	—	—	—	—	
	25	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟	Ma-1軽石	3	2~3	—	亜円礫	風化	—	
	26	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	軟	—	—	—	—	—	—	—	
	27	VI層	画然	埴壤土	に赤い混色	10YR4/3	中~強	軟	—	—	—	—	—	—	—	—	
	28	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	3	2~3	—	亜円礫	風化	—	
	29	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	30	2	—	亜円礫	風化	—	
	30	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2	—	亜円礫	風化	—	
	31	VI層	画然	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	中~強	堅	Ma-1軽石	10	2~3	—	亜円礫	風化	—		
	32	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	—	—	—	—	—	—	—	
	33	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	30	2	—	亜円礫	風化	—	
	34	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	—	—	—	—	—	—	—	
	35	黒色土	画然	シルト質埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	—	—	—	—	—	—	—	—	
	36	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中	軟	—	—	—	—	—	—	—	—	
	37	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—	
	38	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟	—	—	—	—	—	—	—	
	39	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	10	2	—	亜円礫	風化	—	
	40	VI層	画然	埴壤土	暗褐色	10YR3/4	強	すこぶる堅	—	—	—	—	—	—	—	—	
	41	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—	
	42	VI層	画然	埴壤土	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	—	—	—	—	—	—	—	—	
	43	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—	
	44	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2	—	亜円礫	風化	—	
	45	VI層	画然	埴壤土	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	—	—	—	—	—	—	—	—	
	46	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—	
	47	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	軟	—	—	—	—	—	—	—	
	48	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—	
	49	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—	
	50	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟	—	—	—	—	—	—	—	
	51	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—	
52	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2	—	亜円礫	風化	—		
53	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	30	2	—	亜円礫	風化	—		
54	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟	—	—	—	—	—	—	—		
55	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	—	—	—	—	—	—	—		
56	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—		
57	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—		
58	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	—	—	—	—	—	—	—		
59	VI層	画然	埴壤土	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	—	—	—	—	—	—	—	—		
60	黒色土	IV層	画然	シルト質埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	10	2	—	亜円礫	風化	—		
61	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		

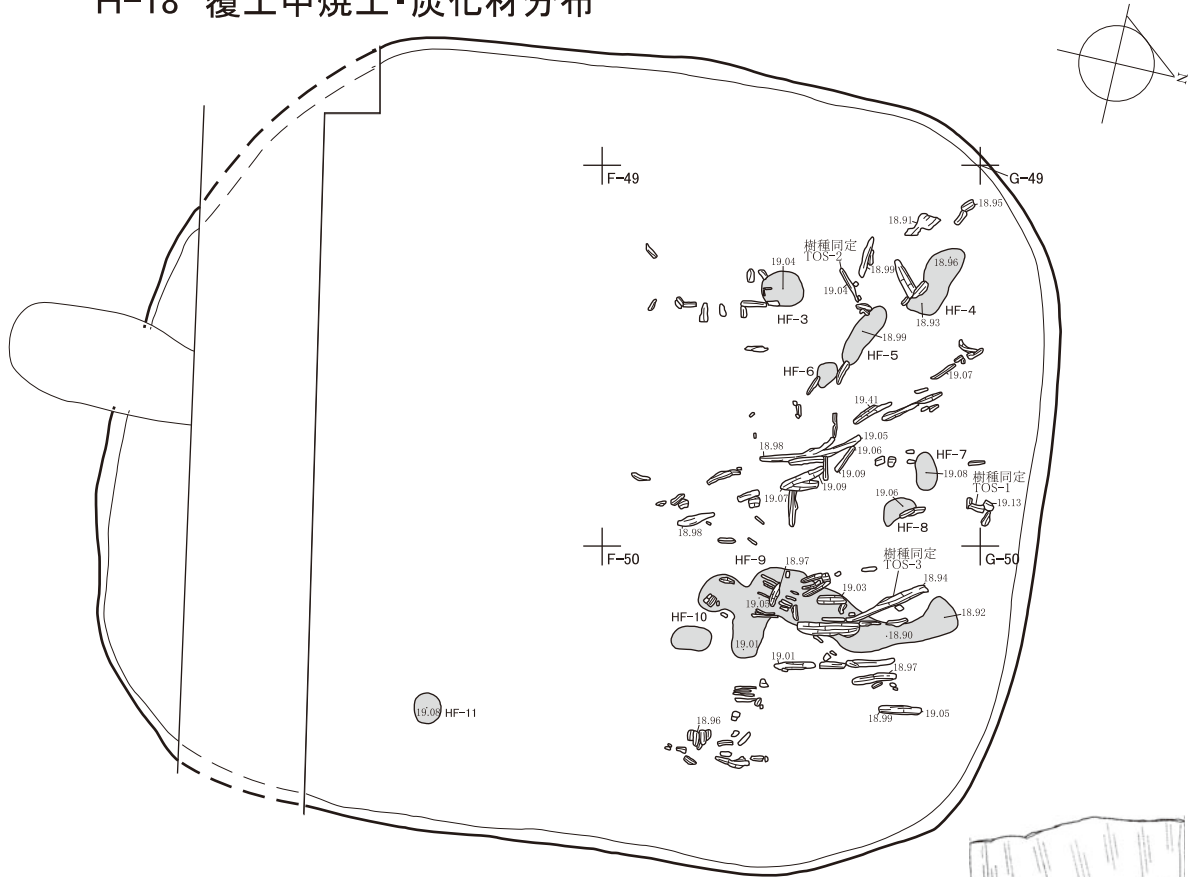
図IV-4 H-18(2)



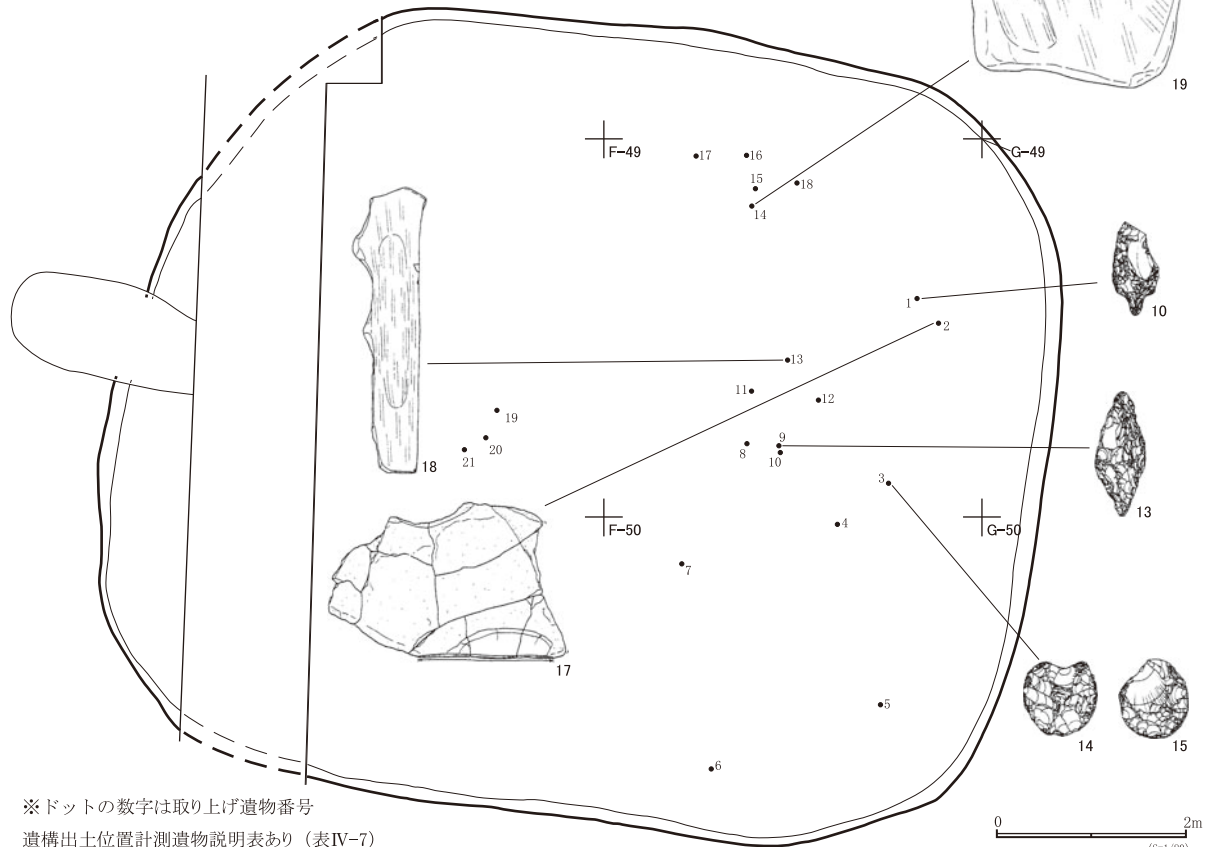
遺構名 付属遺構名	断面図 番号	原位名		境界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考	
		主体層	混在層		野外地性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の程度
						色名	マンセル表色系				平均	最大				
H-18 HP-23~43	62	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟							
	63	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	30	2	亜円礫	風化		
	64	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅							
	65	VI層	黒色土	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中~強	軟							
	66	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	10	2~4	亜円礫	風化		
	67	VI層	黒色土	画然	壤土	褐色	10YR4/4	中~強	堅							
	68	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟							
	69	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	30	2	亜円礫	風化		
	70	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅							
	71	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	30	2	亜円礫	風化		
	72	黒色土	VI層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅							
	73	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	30	2	亜円礫	風化		
	74	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅							
	75	黒色土	VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	軟							
	76	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟							
	77	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	30	2	亜円礫	風化		
	78	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	軟	Ma-1軽石	10	2~4	亜円礫	風化		
	79	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅							
	80	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	30	2	亜円礫	風化		
	81	黒色土	VI層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅							
	82	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅~軟	Ma-1軽石	10	2~4	亜円礫	風化		
83	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅								
84	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅~軟	Ma-1軽石	10	2	亜円礫	風化			
85	VI層	画然	埴壤土	褐色	10YR4/6	中~強	堅									
86	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟								
87	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟								
88	VI層	画然	埴壤土	褐色	10YR4/6	中~強	堅									
89	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟								
90	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅								
91	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟								
92	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	10	2~4	亜円礫	風化	炭化物・少量		

図IV-5 H-18 (3)

H-18 覆土中焼土・炭化材分布



H-18 床面・床面直上の遺物分布



※ドットの数字は取り上げ遺物番号
遺構出土位置計測遺物説明表あり (表IV-7)

図IV-6 H-18 (4)

規模 10.28×7.22/10.16×6.90/0.46m

確認・調査 F・G-56区のIV層上面で、樽前c火山灰とその周囲に広がる黒色土のまとまりを確認した。周辺を含め精査を行ったところ、黒色土は長軸方向で10m以上に広がっていた。長軸及び短軸方向にトレンチを設定し調査した結果、床面、壁の立ち上がり、焼土等を確認したため大型の竪穴住居跡と判断した。北西側の壁付近は道路の攪乱により壊されていた。トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、ベルトを残して覆土を掘り下げた。覆土中から礫集中、フレイク集中などの付属遺構や、重複する土坑3基（P-36~38）を検出したため、順次調査した。覆土を掘り下げた後、土層断面の図化等を行い、次に床面を精査し、検出した炉跡焼土や柱穴・杭穴については調査を行った。確認面での長径約10m、短径約7mを測り、今回調査した竪穴住居跡の中で最も規模が大きい。重複する遺構との新旧関係は、P-36・38とは不明で、P-37より古い。また、P-36はH-19の付属遺構の可能性がある。炉跡焼土（HF-1・2）出土の炭化物については、放射性炭素年代測定を行った（付篇2節参照）。また、覆土出土の黒曜石製の石器1点（石槍またはナイフ）について産地推定分析を行った（付篇1節参照）。

覆土 9層に分けた。全体的に黒色土が主体で、IV層やVI層が混ざる土層である。色調は黒色～黒褐色を呈する。

床面・壁 床面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは全体的に緩やかである。

付属遺構 床面では炉跡焼土3か所（HF-1~3）、柱穴・杭穴21か所（HP-1~21）、礫集中1か所（HS-1）、赤色土壌集中1か所、炭化物集中1か所を確認した。

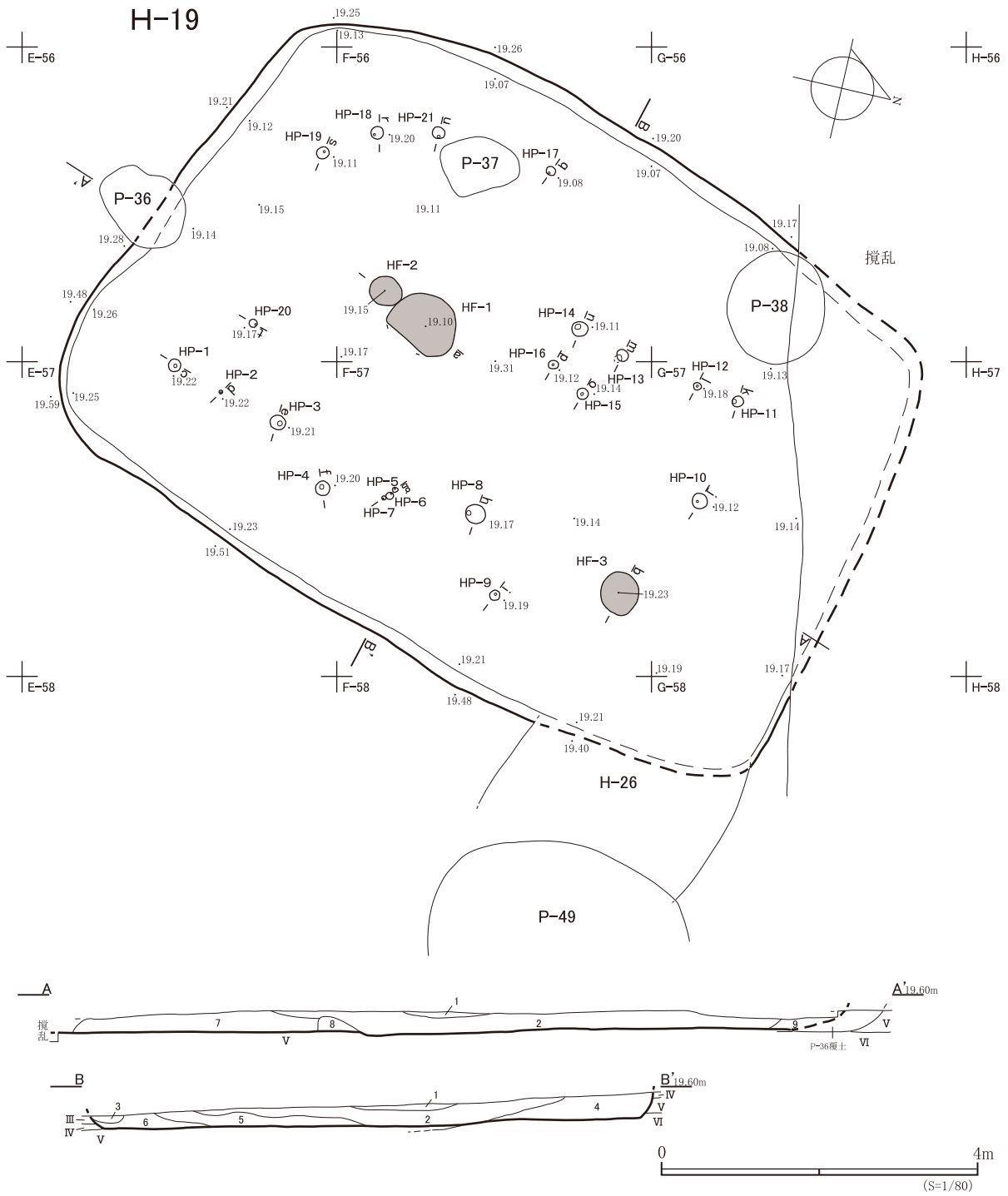
炉跡焼土は床面中央からやや南西側で2か所、北東側で1か所確認した。平面形は円ないし楕円で色調は褐色～赤褐色である。HF-1・2は隣接するもので、長径はHF-1が0.90mと大きく、HF-2が0.42mと小さい。柱穴・杭穴は、分布が南東～北東側（HP-1~9・20）、北西側（HP-10~16）、南西側（HP-17~19・21）の3か所に分かれる。配置はHP-1~3・5~8とHP-11~14がそれぞれほぼ直線状に並んでいる。規模は径が0.20m前後のやや大形のもの（HP-3・4・8・10・14）、0.15m前後のもの（HP-1・9・11・13・15~21）、0.10m以下の小型のもの（HP-2・5~7・12）がみられる。断面形は「尖」が最も多く、「丸」が次いで、「隅丸」がわずかにみられる。礫集中1（HS-1）は竪穴住居跡南東側で覆土下位～床面にかけて確認された。大型の礫が十数点まとまって出土したが、礫は非常にもろく取り上げはできなかった。赤色土壌集中1は、南東側の覆土下位～床面にかけて赤色土壌のまとまりとして確認されたものである。分布範囲は長径1.90m、短径0.92mで西側がHS-1に重複する。炭化物集中1は竪穴住居跡中央からやや北東側の覆土下位～床面にかけて、細かい炭化物のまとまりとして確認された。

覆土中位ではフレイク集中を2か所（HFC-1・2）確認した。HFC-1は竪穴住居跡中央からやや東側、HFC-2は中央からやや北西側に位置する。確認面の規模はHFC-1が長径1.14m、短径0.96m、HFC-2が長径0.76m、短径0.40mである。小型のフレイクが多数出土したため、土壌ごとに取り上げ水洗選別を行った。

遺物出土状況 床面からフレイク9点、磨製石斧4点、砥石8点、礫40点が出土した。覆土からはI群b類土器23点、II群a類土器43点、IV群a類土器21点、石鏃7点、石槍またはナイフ9点、両面調整石器2点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー7点、U・Rフレイク16点、フレイク321点、原石1点、磨製石斧6点、石鋸2点、砥石34点、石錘1点、礫638点が出土した。また、HFC-1・2の土壌水洗で、土器16点、両面調整石器5点、スクレイパー1点、フレイク6,729点を採取した。

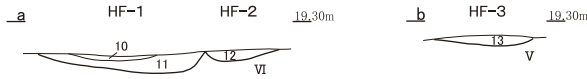
時期 出土遺物などから縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考えられる。放射性炭素年代測定ではHF-1が4,530±30 y r B Pと縄文時代中期前葉、HF-2が4,120±30 y r B Pと縄文時代中期中葉～後葉という結果がでている。

（広田）

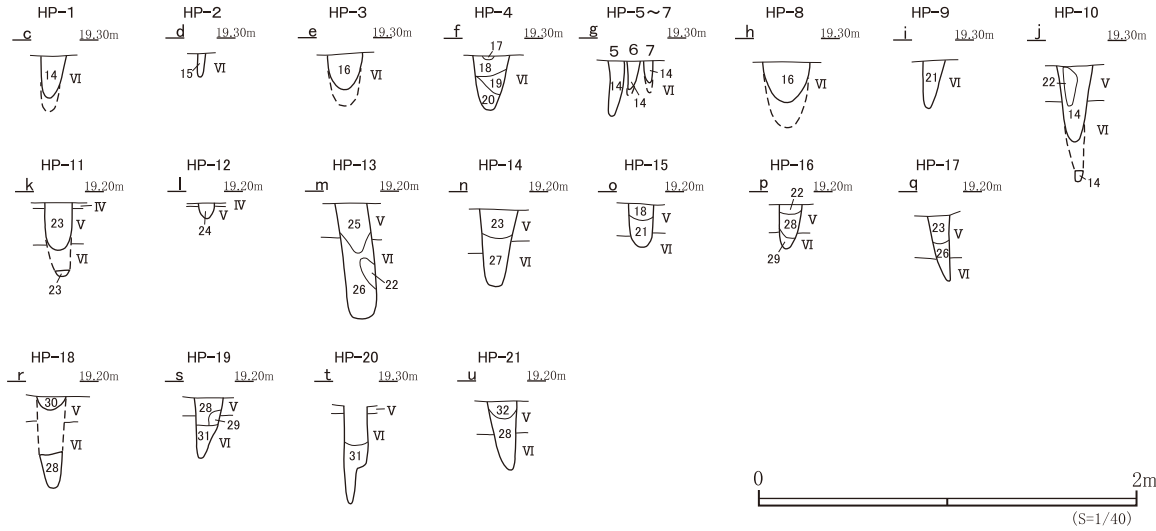


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)						
					野外土性	マンセル 表色系				平均	最大	形状			風化の 程度	
H-19	1				Ta-c主体の層											
	2	黒色土	IV・VI層	画然	シルト質粘土 シルト質粘土	黒色～ 黒褐色	10YR2/1 ～2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	10～15	2	5	垂円礫	風化	—
	3	黒色土	IV層	明瞭	シルト質粘土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	5	2	2	垂円礫	風化	—
	4	黒色土	IV・VI層	画然	シルト質粘土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	20	2	5	垂円礫	風化	—
	5	黒色土	IV層	画然	シルト質粘土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	7	2	6	垂円礫	風化	—
	6	黒色土	IV層	画然	シルト質粘土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	30	2	5	垂円礫	風化	—
	7	黒色土	IV・VI層	画然	シルト質粘土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	10	2	5	垂円礫	風化	—
	8	黒色土	IV層	画然	シルト質粘土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-i軽石	3	2	2	垂円礫	風化	—
	9	黒色土	IV・VI層	画然	シルト質粘土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-i軽石	5	2	5	垂円礫	風化	炭化物微量

図IV-7 H-19(1)



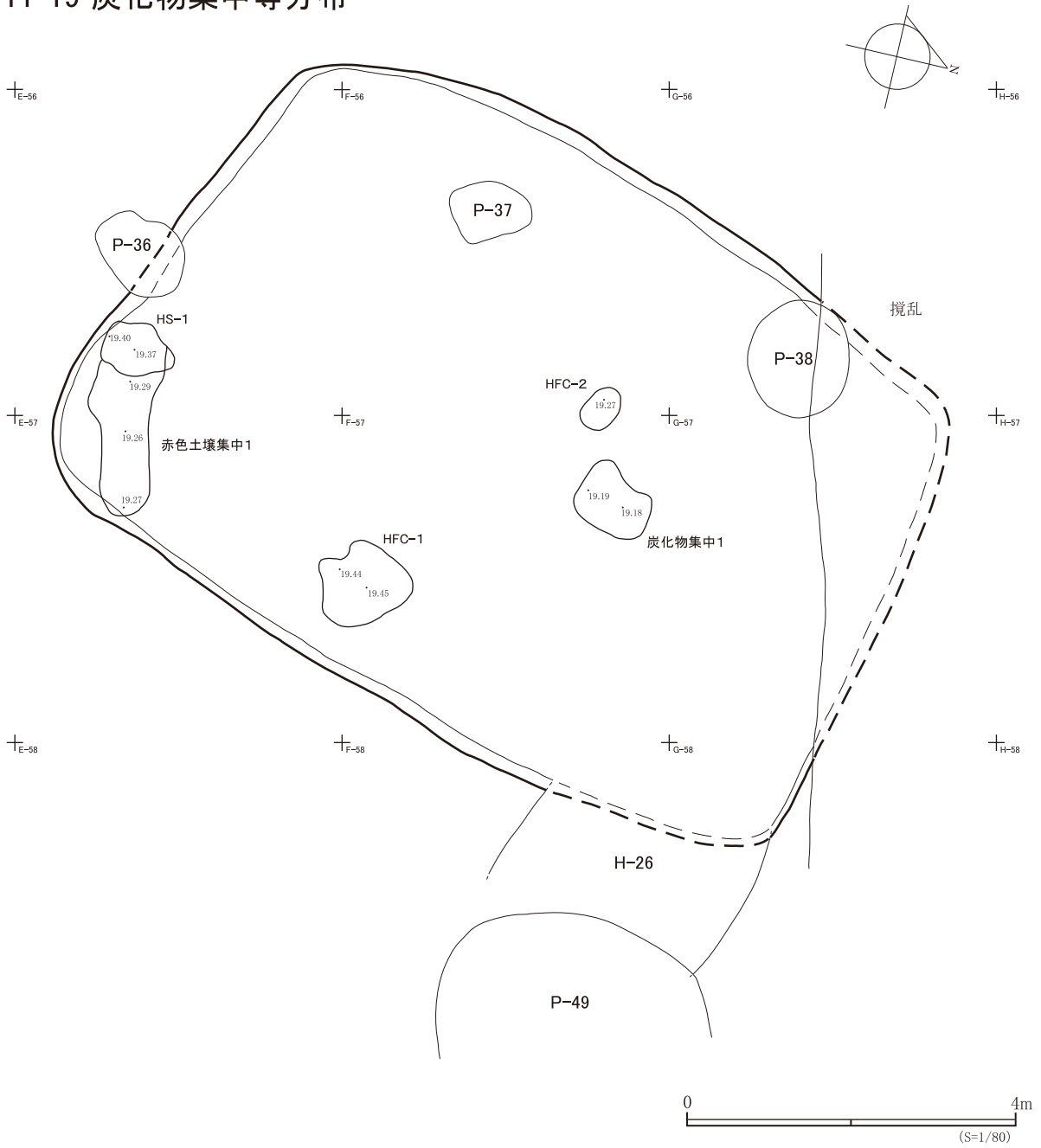
遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				面積 割合 (%)	平均				
H-19 HF-1	10	黒色土・焼土		画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	白色岩片	10	2	3	亜円礫	半風化	炭化物微量
	11	焼土		画然	埴壤土	暗褐色	5YR4/8	中	堅							炭化物微量
H-19 HF-2	12	焼土		画然	埴壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	白色岩片	1	2	4	亜円礫	半風化	炭化物微量
H-19 HF-3	13	焼土		画然	シルト 質壤土	赤褐色	5YR4/6	弱～中	堅	Ma-1軽石	2	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				面積 割合 (%)	平均				
H-19 HP-1～21	14	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-1軽石	3	2		亜円礫	風化	ローム粒(径2～5mm)2%
	15	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅							ローム粒(径4mm)1%
	16	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	軟～堅	Ma-1軽石	1	2		亜円礫	風化	ローム粒(径3～5mm)2%
	17				Ta-7主体の層											
	18	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	10	2	4	亜円礫	風化	ローム粒(径2～5mm)3%
	19	VI 原土・不層	埴壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	1	2				亜円礫	風化	
	20	VI 黒色土	埴壤土	暗褐色	10YR3/4	中	軟～堅									
	21	黒色土・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2			亜円礫	風化	ローム粒(径2～4mm)1%
	22	VI 黒色土	明瞭 埴壤土	褐色	10YR4/4	中	堅	Ma-1軽石	1	2				亜円礫	風化	
	23	黒色土	IV層	画然	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-1軽石	15	2	5	亜円礫	風化	
	24	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	2	2	4	亜円礫	風化	
	25	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-1軽石	5	2	5	亜円礫	風化	ローム粒(径2～5mm)15%
	26	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2	2	亜円礫	風化	ローム粒(径4mm)1%
	27	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅							
	28	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2	3	亜円礫	風化	
	29	VI層	V層	画然	埴壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅							ローム粒(径3～4mm)1%
	30	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2		亜円礫	風化	ローム粒(径2～5mm)15%
31	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	軟～堅								
32	VI 原土・不層	明瞭 埴壤土	暗褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2				亜円礫	風化	ローム粒(径2～4mm)25%	

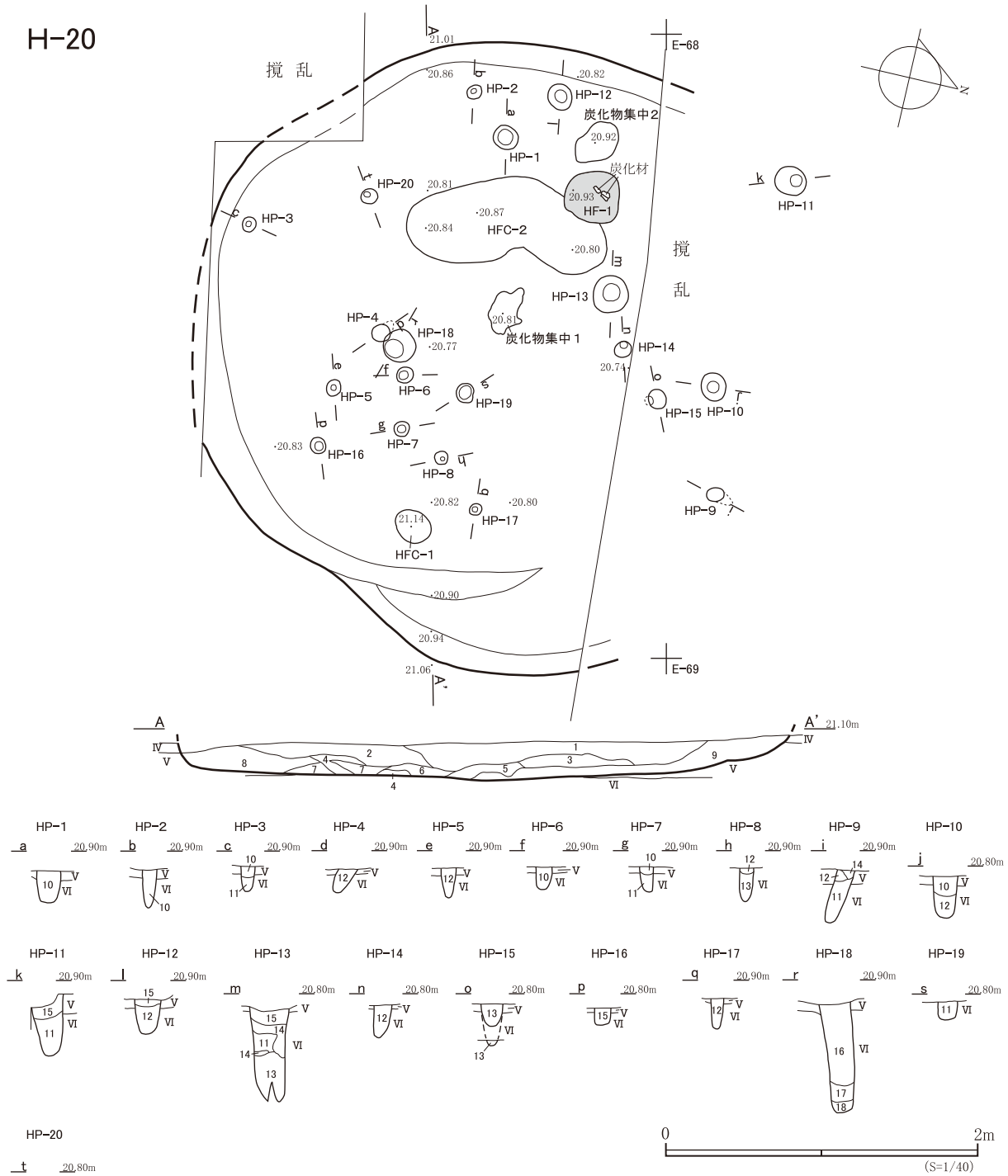
図IV-8 H-19 (2)

H-19 炭化物集中等分布



図IV-9 H-19 (3)

H-20



遺構名 付属遺構名	断面回 番号	層位名		層界	野外 土性				砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考
		主体層	混在層		野外地	色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		形状	風化の 程度				
											平均	最大						
H-20	1	III層	IV層	偶然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	20	2~3	垂直線	風化	—	—		
	2	III層	IV・VI層	偶然	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ma-1軽石	30	2~3	垂直線	風化	炭化材	—		
	3	VI層	黒色土	偶然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中~強	軟	Ma-1軽石	5	2~3	垂直線	風化	—	—		
	4	黒色土	IV層	偶然	壤土	暗褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	40	2~3	5	垂直線	風化	—	—	
	5	VI層	黒色土	偶然	埴土	褐色	10YR4/6	中	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	6	黒色土	VI層	偶然	埴土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	10	2~3	垂直線	風化	—	—		
	7	VI層	黒色土	偶然	埴土	褐色	10YR4/4	中	堅	—	—	—	—	—	—	斑状		
	8	黒色土	IV・VI層	偶然	埴土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ma-1軽石	30	2~3	垂直線	風化	—	—		
	9	黒色土	IV層	偶然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	31	2~3	6	垂直線	風化	—	—	
H-20 HP-1~20	10	黒色土	IV・VI層	偶然	埴土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2~3	垂直線	風化	—	—		
	11	黒色土	VI層	偶然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	12	黒色土	IV層	偶然	質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅~軟	Ma-1軽石	3	2~3	垂直線	風化	—	—		
	13	VI層	黒色土	偶然	埴土	にじみ状暗色	10YR4/3	中~強	軟	—	—	—	—	—	—	—		
	14	VI層	黒色土	偶然	埴土	褐色	10YR4/6	中~強	軟	—	—	—	—	—	—	—		
	15	黒色土	IV層	偶然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ma-1軽石	10	2~3	垂直線	風化	—	—		
	16	黒色土	VI層	偶然	埴土	暗褐色	10YR3/3	中	軟	—	—	—	—	—	—	VIプロセス		
	17	VI層	黒色土	偶然	埴土	褐色	10YR4/6	中~強	軟	Ma-1軽石	10	2~4	垂直線	風化	—	—		
	18	黒色土	IV層	偶然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	軟	—	—	—	—	—	—	—		

図IV-10 H-20

H-20 (図IV-10 図版7)

位置 D-68・69、E-68区 平面形態 不整な楕円形

規模 4.08×(3.36)／3.85×(3.11)／0.30m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で円形の黒褐色土がみられた。東西方向にトレンチ調査を行った結果、V層中で床面、壁の立ち上がりを確認した。その後トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。住居跡の西側の覆土上面ではF-3を確認したが、本遺構とは関連しないものと考えた。覆土中では焼土(HF-1)や炭化材、フレイク集中を検出し、順次調査した。炭化材は一部採取し、放射性炭素年代測定を行った(付篇2節参照)。床面で柱穴・杭穴を確認したため、堅穴住居跡と判断した。住居跡の北側部分は攪乱により壊されていた。平面は、円形または楕円形で、径は5m未満と推定される。覆土中に焼土、炭化材がみられることから焼失住居跡の可能性はある。

覆土 9層に分けた。黒色土にIV層が混ざる黒褐色土が主体で、中央の下位の覆土にはVI層主体の褐色土層(覆土5・7)が堆積する。

床面・壁 床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。住居跡の東側では、わずかに段構造がみられる。

付属遺構 覆土中で焼土1か所(HF-1)、フレイク集中2か所(HFC-1・2)、炭化物集中、床面で柱穴・杭穴20か所(HP-1~20)を確認した。HF-1は住居跡西側の覆土中位に位置する。規模は長径0.35m、短径0.30mで、焼土上位や西側などには炭化物集中がみられる。フレイク集中はHFC-1が住居跡東側の覆土中位、HFC-2が住居跡中央からやや西側の覆土下位で確認した。規模はHFC-1が長径0.25m、短径0.20m、HFC-2が長径1.30m、短径0.63mである。細かなフレイクが多数出土したため、土壌ごと取り上げ、水洗選別を行った。

柱穴・杭穴HP-13・18は、住居跡の中央を挟んで約1.2m離れて位置する。いずれも平面が円形で、規模は直径が0.20m以上、深さ0.60m以上である。これらは主柱穴と考えられる。それ以外の柱穴・杭穴は平面が直径0.10m前後の円形で、断面形状は「丸」、「隅丸」のものが多く、分布に規則性はみられない。

遺物出土状況 遺物は281点出土した。床面・床面直上からはフレイク4点、磨製石斧1点、台石・石皿1点が出土した。覆土からはI群b類土器1点、II群a類土器3点、石鏃4点、両面調整石器1点、スクレイパー5点、U・Rフレイク2点、フレイク215点、たたき石1点、石鋸3点、砥石2点、礫38点が出土した。また水洗選別では上記とは別にHFC-1からはフレイク330点、HFC-2からは石鏃1点、フレイク933点、磨製石斧2点を採取した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では $5,230 \pm 30$ yr BPと、縄文時代前期中葉という結果がでている。(愛場)

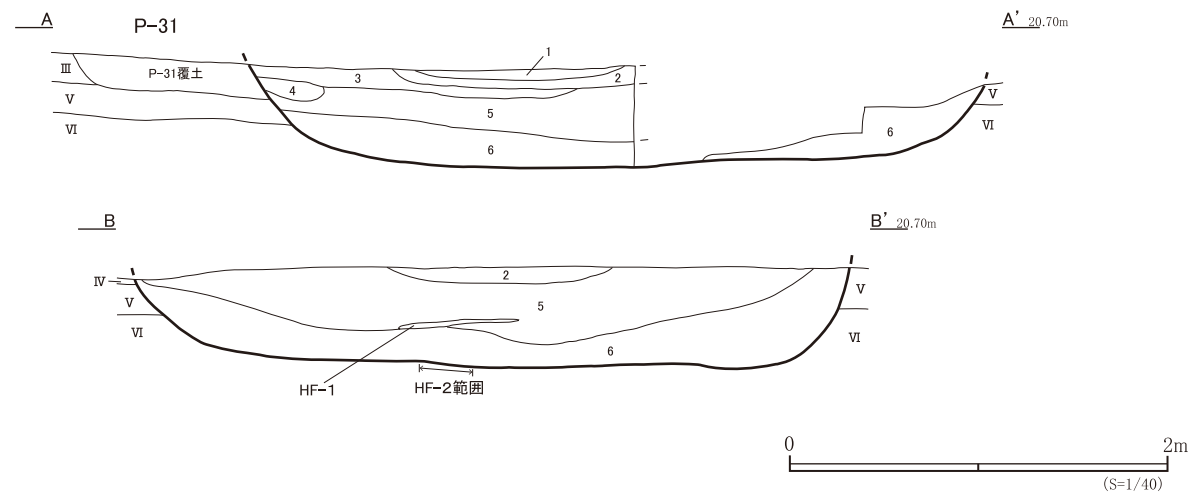
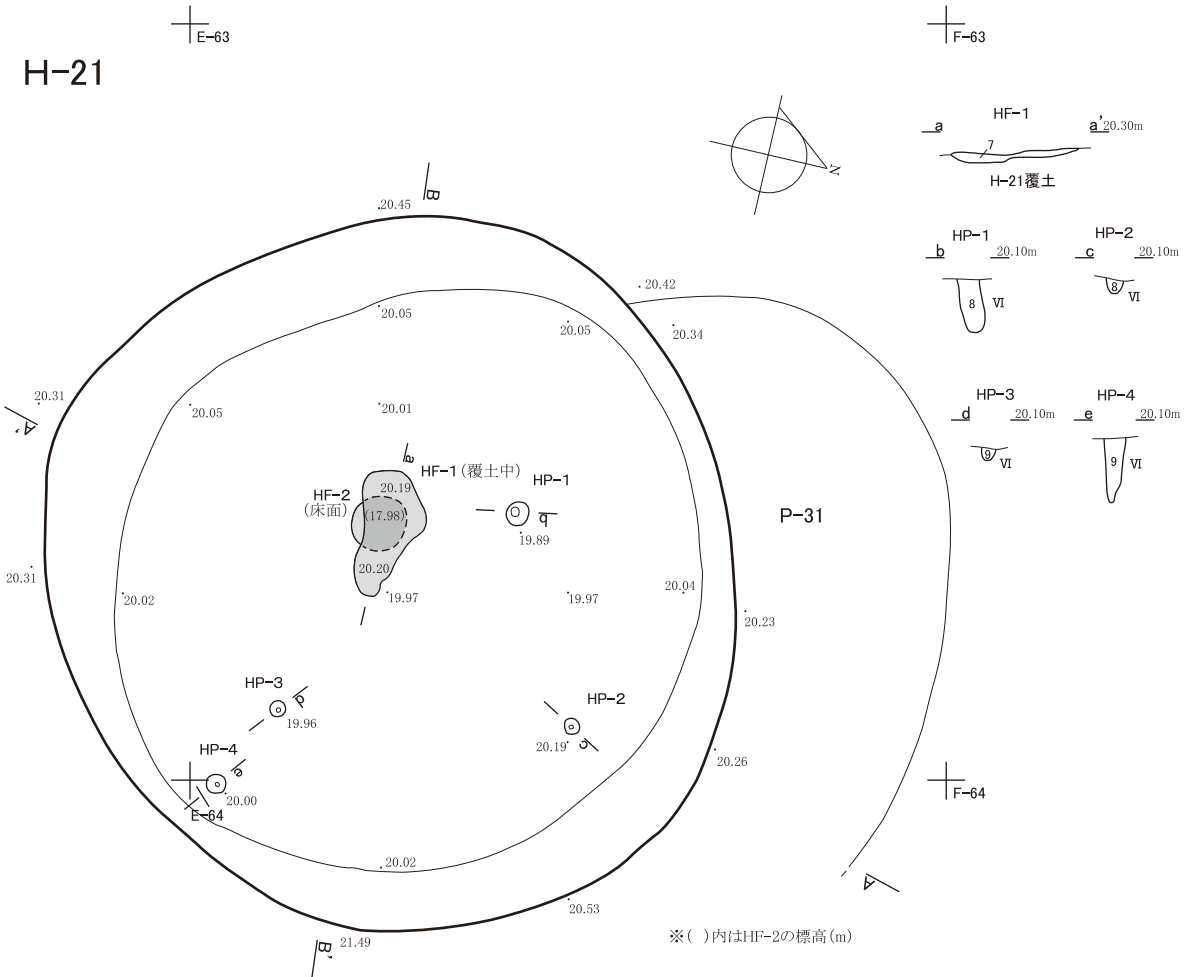
H-21 (図IV-11 図版8)

位置 D・E-63・64区 平面形態 円形

規模 3.80×3.66／3.10×3.10／0.54m

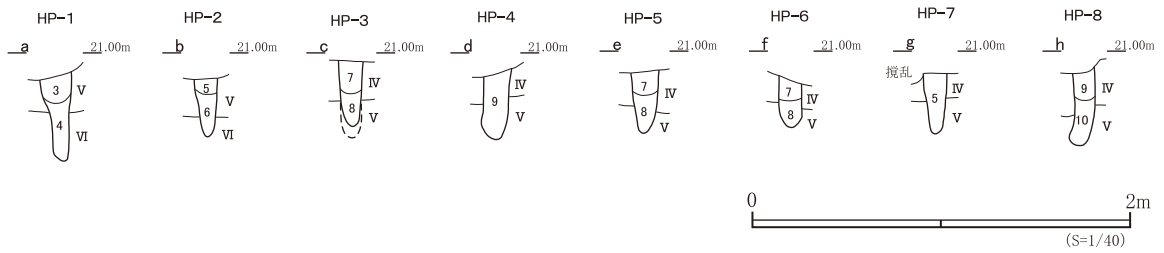
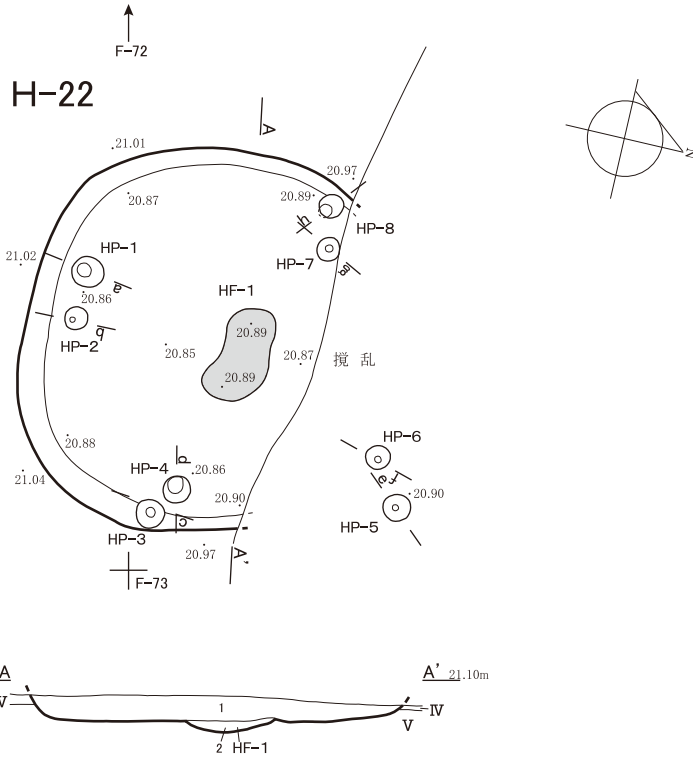
確認・調査 E-63区付近でIII層調査中に、樽前c火山灰とその周囲に広がる黒色土のまとまりを確認した。南北方向にトレンチ調査を行った結果、堅穴住居跡(H-21)と土坑(P-31)の重複を確認した。新旧関係は、土層の観察からH-21が新しい。南側の覆土は攪乱されており、深い部分では床面直上まで及んでいる。南北及び東西方向に土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げたが、覆土中で焼土(HF-1)を確認した。床面では炉跡焼土、杭穴・柱穴を確認し、調査した。

覆土 6層に分けた。覆土1層はIII層主体、覆土2層は樽前c火山灰主体の土層である。上～中位の覆土3・5層は黒色土主体で、下位の6層は黒色土とVI層が主体の暗褐色土である。



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)					
						色名	マンセル 表色系				面積 割合 (%)	平均			最大	形状
H-21	1	III層		画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅							
	2				Ta-c主体の層											
	3	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	5	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量
	4	VI層	黒色土・赤色土	画然	壤壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ma-1軽石	3	2	4	亜円礫	風化	—
	5	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	亜円礫	風化	—
H-21 HF-1	6	焼土	IV層	画然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/3	弱~中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	亜円礫	風化	—
H-21 HF-2	—	焼土		画然	シルト 質壤土	にがい赤褐色	5YR4/4	弱~中	堅	Ma-1軽石	5	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量 骨片微量
H-21 HP-1~4	8	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅						炭化物微量	
	9	灰色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	2	2	3	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ~3mm)2%
															ローム粒(径1 ~3mm)2%	

図IV-11 H-21



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				面積 割合 (%)	平均				最大
H-22	1	黒色土	IV層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-I軽石	7	2	5	垂直礫	風化	—
H-22 HF-1	2	黒色土	粘土・砂層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ma-I軽石	1	2	3	垂直礫	風化	—
H-22 HP-1~8	3	黒色土・砂層	VI層	画然	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-I軽石	20	3	6	垂直礫	風化	—
	4	VI層	粘土・砂層	画然	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ma-I軽石	1	2	—	垂直礫	風化	—
	5	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質埴土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-I軽石	7	2	3	垂直礫	風化	—
	6	黒色土・砂層	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-I軽石	1	2	4	垂直礫	風化	—
	7	黒色土・砂層	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-I軽石	10	2	4	垂直礫	風化	—
	8	黒色土・砂層	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-I軽石	2	2	3	垂直礫	風化	—
	9	黒色土・砂層	IV層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-I軽石	20	2	4	垂直礫	風化	—
	10	VI層	粘土・砂層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	軟	Ma-I軽石	2	2	4	垂直礫	風化	クレーン酸(HES ~5ml7%)

図IV-12 H-22

床面・壁 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかで曲線状に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土1か所（HF-1）、床面で炉跡焼土1か所（HF-2）、柱穴・杭穴4か所（HP-1～4）を確認した。HF-1は中央付近に位置し、覆土中位で確認した。炭化物及び骨片を微量含む。HF-2は床面ほぼ中央に位置し、平面は円形である。あまり赤化せず、土層断面は不明瞭であったため図化していない。柱穴・杭穴は、位置が壁際のもの（HP-4）と壁からやや内側にあるもの（HP-1～3）がみられる。規模は、HP-1・4は深さが約30cmと深く、HP-2・3は7～8cmと浅い。

遺物出土状況 床面からはU・Rフレイク1点、フレイク16点が出土した。覆土からⅡ群a類土器10点、Ⅳ群a類土器5点、石鏃1点、石錐1点、スクレイパー3点、U・Rフレイク5点、フレイク307点、石鋸1点、砥石4点、礫1,972点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の時期の可能性はある。（広田）

H-22（図IV-12 図版9）

位置 E・F-72区 **平面形態** 楕円形？

規模 (2.32)×2.20/(2.20)×1.90/0.14m

確認・調査 遺構確認調査範囲のF-72区で、Ⅳ層上面の精査を行ったところ、黒色土のまとまりを確認した。長軸方向にトレンチを設定し掘り下げ、焼土、床面及び壁の立ち上がりを確認したため竪穴住居跡と判断した。北側約1/4を床面下まで攪乱で壊されている。全体の平面形は不明だが、攪乱範囲にある柱穴・杭穴の位置から楕円形の可能性がある。P-51が南西側約1mに位置する。

覆土 1層のみで、黒色土が主体でⅣ層が混ざる土層である。

床面・壁 床面はほぼ平坦で、Ⅴ層中に構築される。壁は緩やかで曲線状に立ち上がる。

付属遺構 炉跡焼土1か所（HF-1）、柱穴・杭穴8か所（HP-1～8）を確認した。HF-1は床面中央付近で確認した。平面形は不整な楕円形で、色調は黒褐色である。柱穴・杭穴は壁際に位置するものが多く、2個一対でほぼ等間隔に4か所みられる。規模は径12～17cm、深さ27～47cmでやや深いものが多い。断面形は「丸」が多く、「尖」もみられる。

遺物出土状況 覆土からⅡ群a類土器1点、つまみ付きナイフ1点、フレイク2点、礫6点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性はある。（広田）

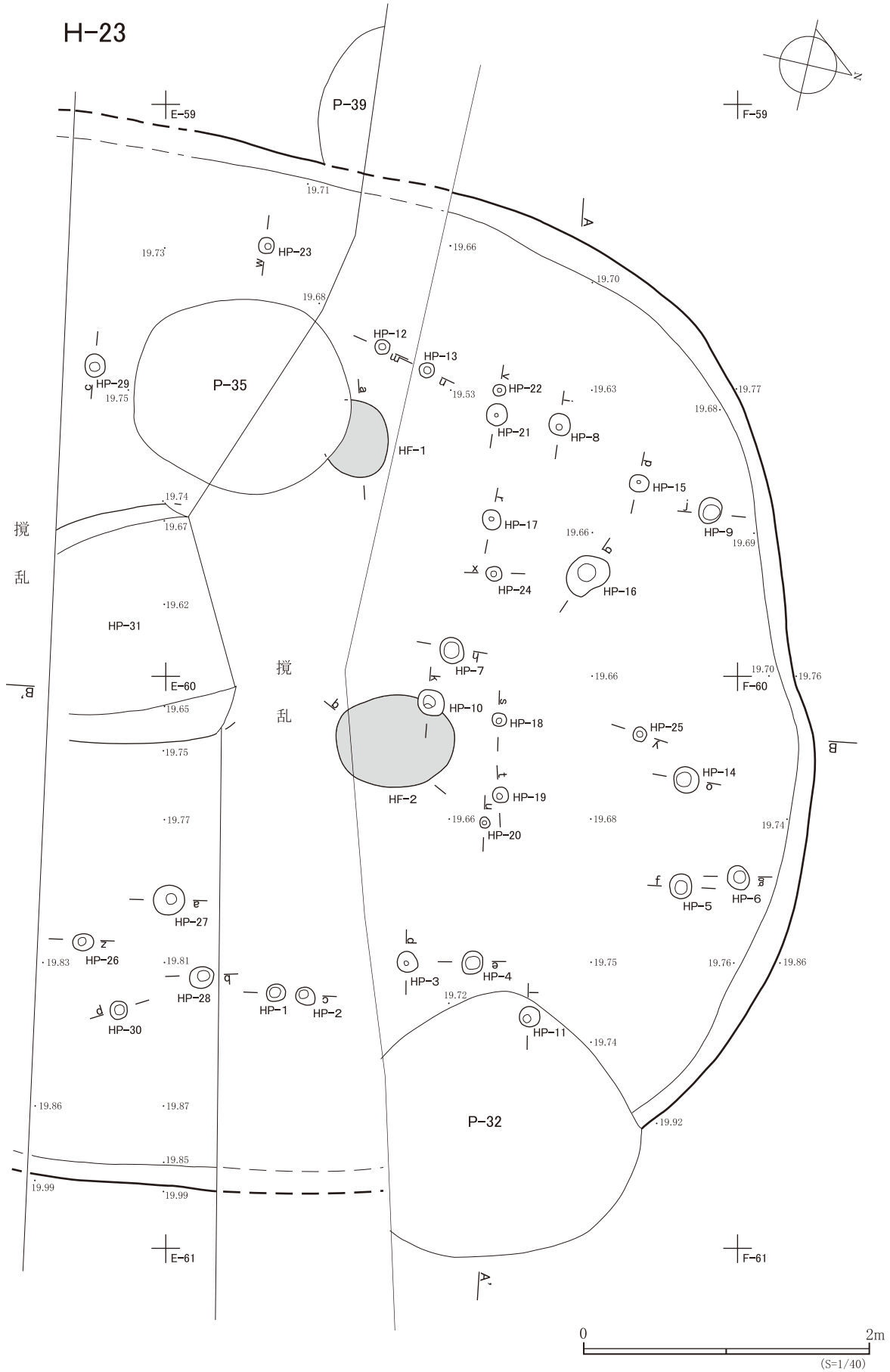
H-23（図IV-13～15 図版10）

位置 D・E・F-59・60区 **平面形態** 楕円形？

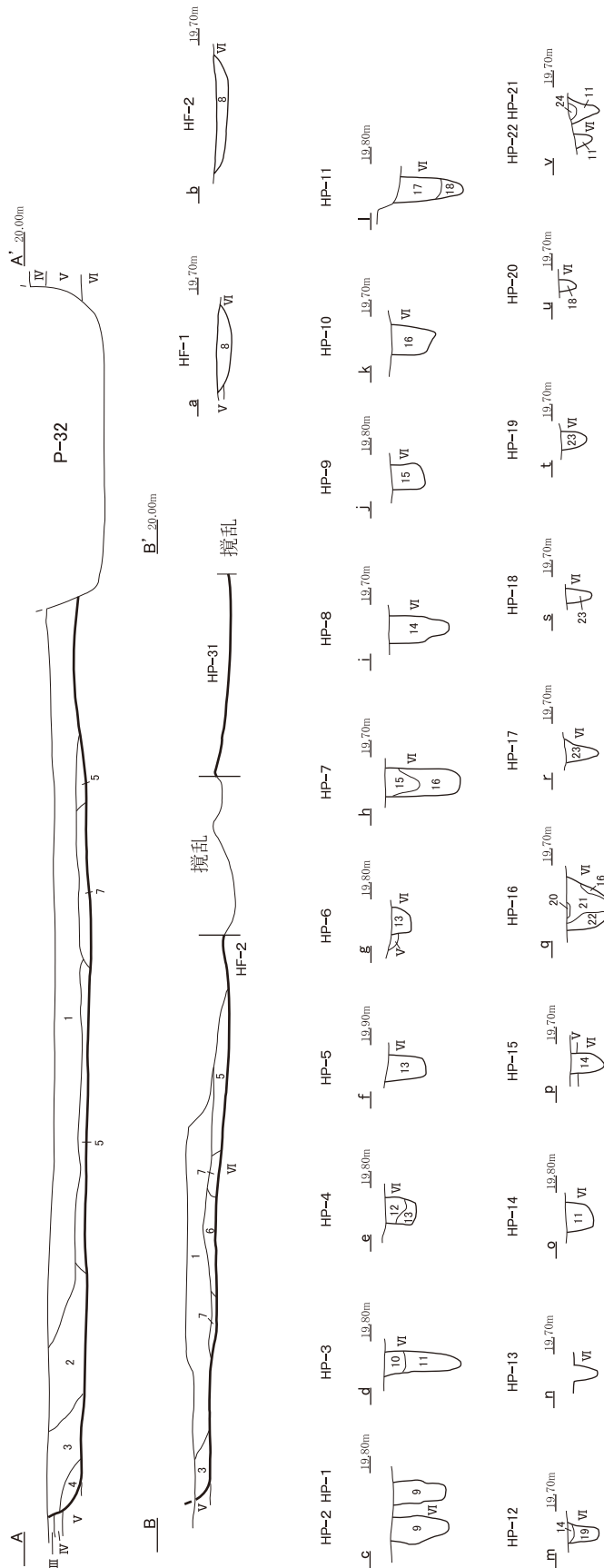
規模 7.52×(5.41)/7.21×(5.30)/0.27m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層上面で平成23年度調査区側へ続く半円形の黒色土がみられた。南北・東西方向のトレンチ調査を行い、Ⅴ～Ⅵ層中で床面、壁の立ち上がりを確認した。その後トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。覆土中では焼土や炭化材、礫集中、フレイク集中などの付属遺構や、重複する土坑（P-32・35・39）を検出したため、順次調査した。床面では焼土、柱穴・杭穴を確認し、竪穴住居跡と判断した。住居跡の南側は平成23年度の調査区であるが、平成23年度の調査では遺構は確認できなかった。平面は隅丸長方形に近い楕円形で、規模は長径8mを超えると推測される。重複する土坑との新旧関係はP-32・35が新しく、P-39は不明である。覆土中に焼土、炭化材がみられることから焼失住居跡の可能性はある。

覆土 7層に分けた。覆土上位は黒色土主体層であるが、覆土下位ではⅥ層主体層（覆土5）や焼土層（覆土7）がみられる。



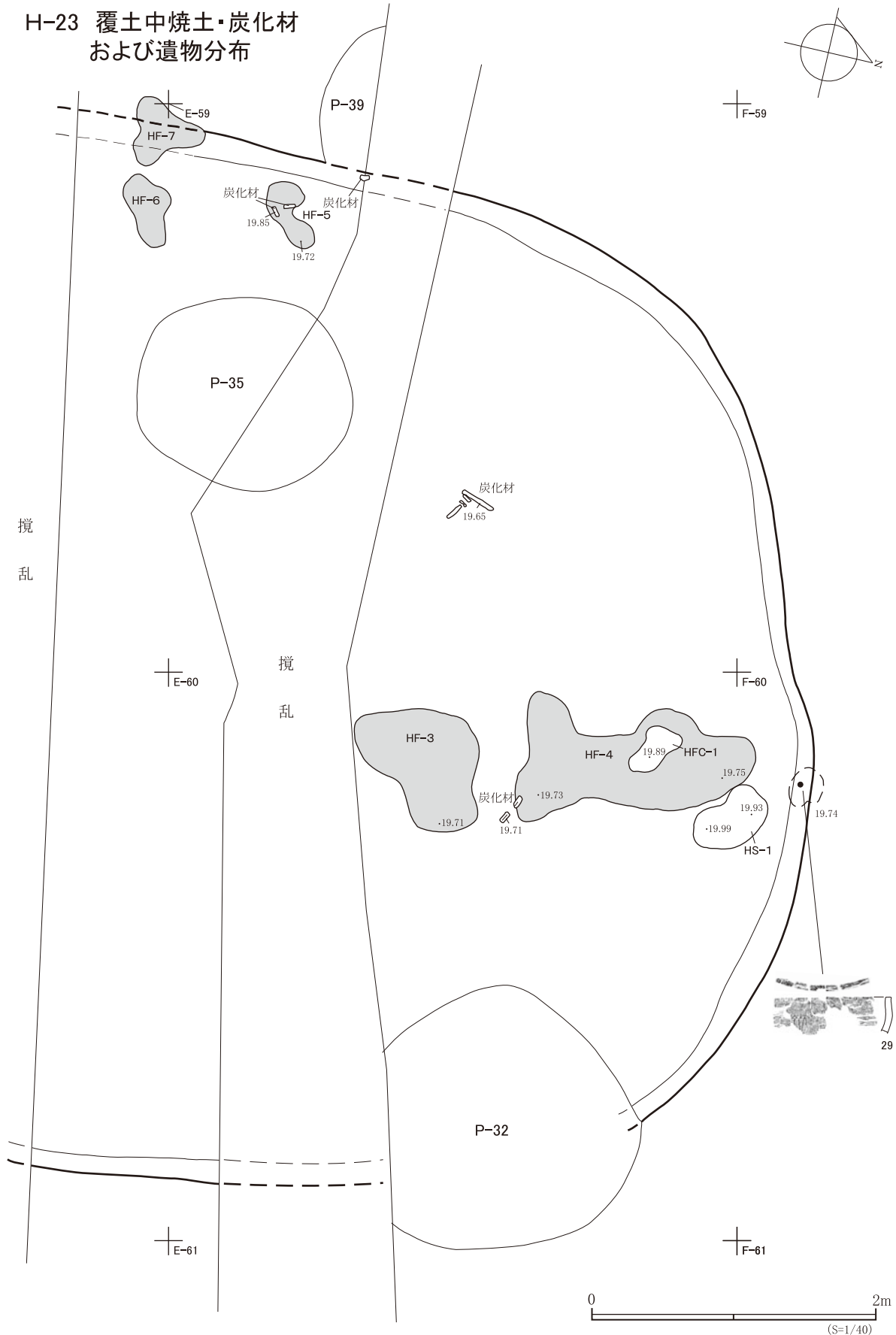
图IV-13 H-23 (1)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		境界	砂・粘土・シルト(基準2mm未満)			粘着性	緊密度	種類	面積 割合(%)			形状	風化の 程度	混入物	備考	
		主休層	混在層		野外地 土性	ヤンセル 着色系	ヤンセル 着色系				平均	最大	面積					
													割合					割合
H-23	1	黒色土	IV層	自然	シルト	黒色	10R2/1	中	堅	Mu-1礫石	3	2~4	垂直線	風化	—	—		
	2	黒色土	IV~VI層	自然	礫層土	黒紫色	10R2/2	中	堅	Mu-1礫石	20	2~3	5 垂直線	風化	—	—		
	3	黒色土	IV層	自然	シルト	黒色	10R2/1	中	堅	Mu-1礫石	10	2~3	5 垂直線	風化	—	—		
	4	黒色土	IV層	自然	シルト	黒色	10R2/1	中	堅	Mu-1礫石	15	2~3	5 垂直線	風化	—	—		
	5	VI層	黒色土	自然	シルト	暗紫色	10R3/3	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	6	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	F.S3R2/2	中	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	7	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/3	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	8	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	F.S3R2/2	中	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—		
	9	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/3	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	10	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/3	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	11	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/4	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	12	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/4	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	13	黒色土	IV~VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/3	中~強	堅	Mu-1礫石	5	2	垂直線	風化	—	—		
	14	黒色土	IV層	自然	シルト	暗紫色	10R2/2	中	堅~中~強	—	—	—	—	—	—	—		
15	黒色土	IV層	自然	シルト	暗紫色	10R2/2	中	堅	Mu-1礫石	10	3	垂直線	風化	—	—			
16	黒色土	IV層	自然	シルト	暗紫色	10R2/2	中~強	堅	Mu-1礫石	5	3	垂直線	風化	—	—			
17	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/2	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—			
18	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/2	中~強	堅~軟	—	—	—	—	—	—	—			
19	VI層	黒色土	自然	礫層土	暗紫色	10R4/4	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—			
20	VI層	黒色土	自然	礫層土	暗紫色	F.S3R4/4	中	堅	—	—	—	—	—	—	—			
21	黒色土	IV~VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/3	中	堅	Mu-1礫石	10	2~3	5 垂直線	風化	—	—			
22	黒色土	IV~VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/3	中	堅	Mu-1礫石	3	2~3	5 垂直線	風化	—	—			
23	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/4	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—			
24	黒色土	VI層	自然	礫層土	暗紫色	10R3/4	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—			

図IV-14 H-23 (2)

H-23 覆土中焼土・炭化材
および遺物分布



図IV-15 H-23 (3)

床面・壁 床面は概ね平坦で、壁は緩やかで曲線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土5か所(HF-3~7)、礫集中1か所(HS-1)、フレイク集中1か所(HFC-1)、床面で炉跡焼土2か所(HF-1・2)、土坑1か所(HP-31)、柱穴・杭穴30か所(HP-1~30)を確認した。

HF-1は西壁側、HF-2は住居跡の長軸上、中央からやや北側に位置する。HF-1は長径0.54m、HF-2は長径0.83mで、いずれも平面は楕円形である。土坑HP-31は住居跡の中央付近に位置する。北側を削平されるが、平面形状は長径2mを超える楕円形と推定する。深さは0.13mと浅く、壁の立ち上がりは曲線的である。柱穴・杭穴は住居跡の西側(HP-8・12・13・21~23・29)、北側(HP-7・10・17~20)、東側(HP-1~4・11・26~28・30)で壁に沿って直線状に並び、それをつなぐと平成23年度調査区へ続く長方形の配列が想定できる。住居跡北側壁際ではHP-5・6・9・14~16・25が不規則に分布する。柱穴・杭穴の平面は円形が多く、確認面の径は0.08~0.32mで、0.15m未満のものが多い。深さは0.10~0.45mとばらつきがあり、断面形状は「丸」や「隅丸」が多い。

覆土中焼土は住居跡西側の壁際(HF-5~7)、北側(HF-3・4)に位置し、周囲には炭化材が散布する。HF-4の上位にはHFC-1があり、長径0.41m、短径0.24mの範囲から小型の石槍またはナイフ片、フレイクが出土した。HS-1は住居跡北側の壁際に位置し、細かく割れた礫が数十点まとまって出土した。

遺物出土状況 遺物は713点出土した。床面からはⅡ群a類土器4点、スクレイパー1点、礫4点、覆土からはⅠ群b類土器2点、Ⅱ群a類土器106点、Ⅳ群a類土器5点、石鏃1点、石錐1点、スクレイパー2点、フレイク162点、磨製石斧3点、石鋸3点、砥石16点、加工・使用痕のある礫1点、礫376点が出土した。またHFC-1からは石槍またはナイフ3点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、フレイク22点出土した。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半と考えられる。(愛場)

H-24 (図IV-16~18 図版11)

位置 D・E・F-70・71区 **平面形態** 楕円形

規模 (7.01)×5.48/6.84×4.66/0.47m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層上面で楕円形の黒色土がみられた。南北・東西方向のトレンチ調査を行い、Ⅴ~Ⅵ層中で床面、壁の立ち上がりを確認した。その後トレンチ沿いに土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。覆土中では焼土(HF-5・6)と炭化材が住居跡の南側部分でみられ、位置を記録した。また重複する土坑(P-41、44、48)を確認したため順次調査した。床面では焼土、柱穴・杭穴等を確認し、竪穴住居跡と判断した。平面は南北に長軸がある楕円形で、やや南側がすぼまる形状である。住居跡の南側には焼土層と炭化材がみられることから焼失住居跡の可能性がある。重複する土坑との新旧関係は、P-41、48が本遺構より新しく、P-44は不明である。炭化材は一部採取し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った(付篇2・3節参照)。また、床面出土の黒曜石製の石器4点(石槍またはナイフ・石錐)について産地推定分析を行った(付篇1節参照)。

覆土 10層に分けた。覆土は黒色土層と黒褐色土層が主体で、住居跡の中央から南側の覆土下位では焼土層がみられる。

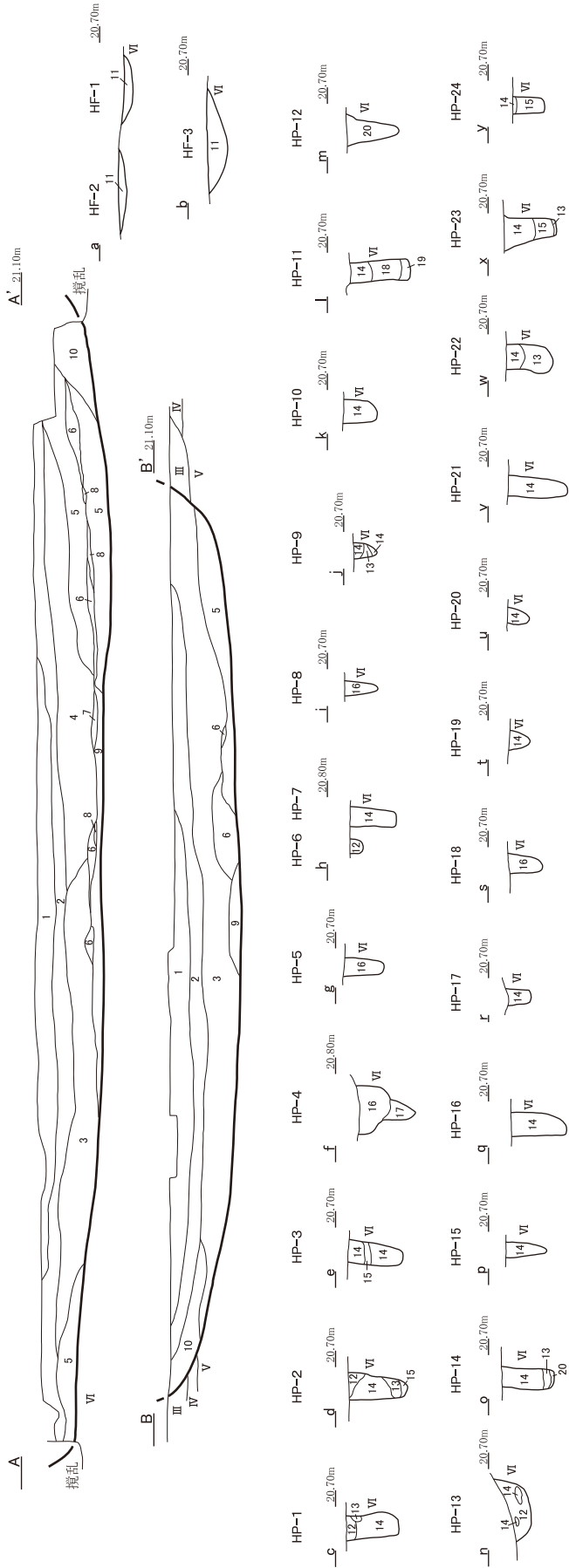
床面・壁 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかで曲線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土2か所(HF-5・6)、床面で炉跡焼土4か所(HF-1~4)、土坑2か所(HP-13・32)、柱穴・杭穴36か所(HP-1~12・14~31・33~38)を確認した。



图IV-16 H-24 (1)

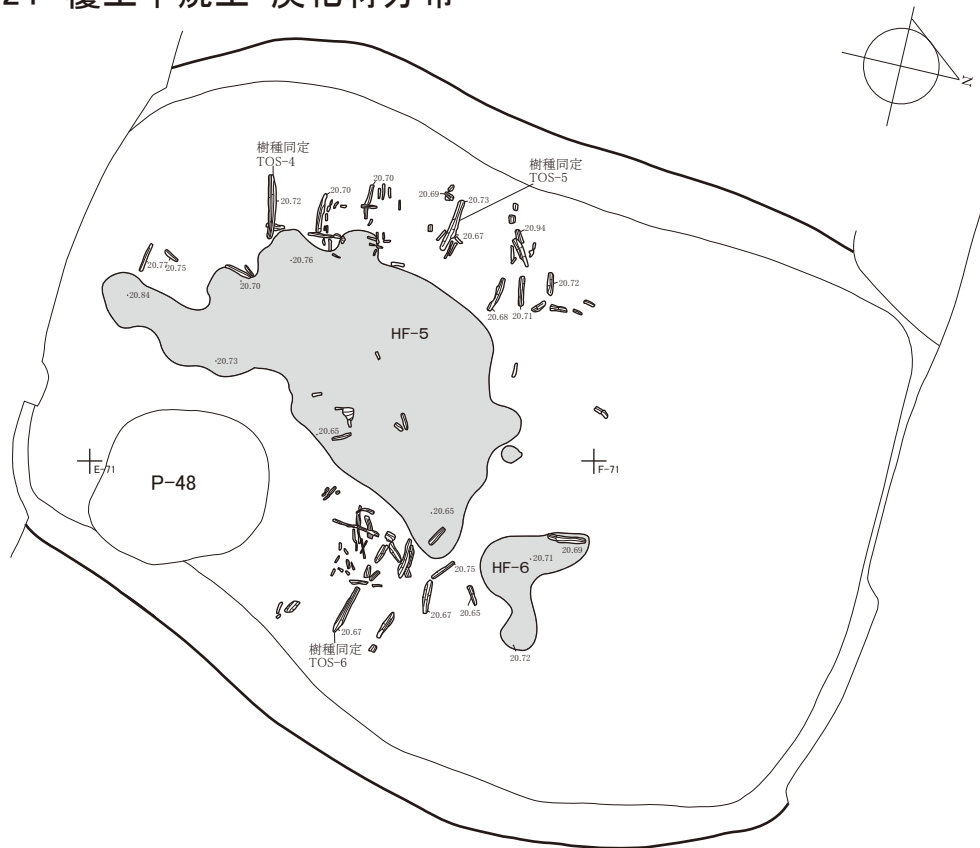
H-24



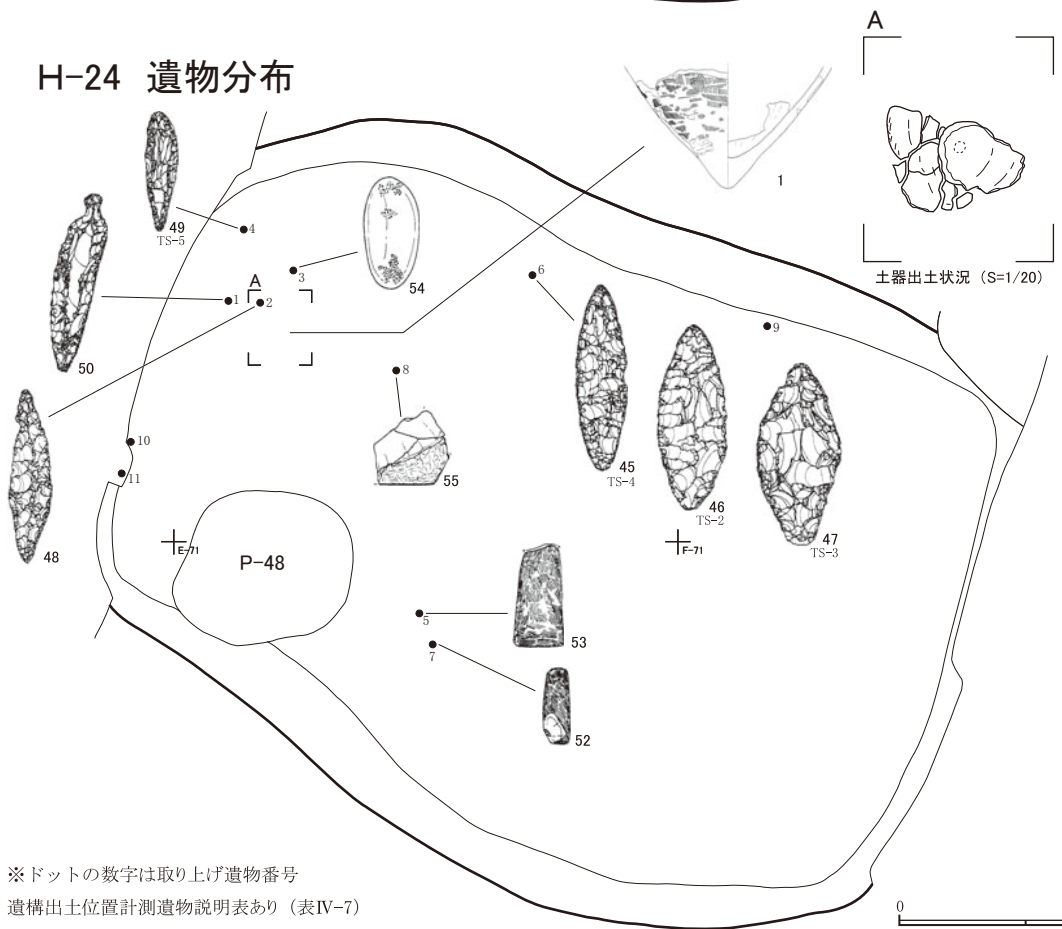
遺構名 断面図 番号	層位名 主体層 混在層	層界	野外 土性	砂・粘土・シルト・(粒径2mm未満) 色別		粘着性	堅密度	種類	面積(長さ2m以上)			混入物	備考
				マンセル 色名	マンセル 色別				割合 (%)	平均	最大		
H-24	1	黒色土 Ⅳ層	黒色土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ma=1礫石	10	2~3	垂直線	風化	
	2	黒色土 Ⅳ層	黒色土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma=1礫石	10	2~3	垂直線	風化	
	3	黒色土 Ⅳ層	黒色土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma=1礫石	30	4~5	垂直線	風化	
	4	黒色土 Ⅳ層	黒色土	黒色	10YR2/1	中	堅						
	5	黒色土 Ⅳ層	黒色土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ma=1礫石	20	4~5	垂直線	風化	
	6	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	7.5YR5/8	中	堅						
	7	黒色土 Ⅳ層	黒色土	黒褐色	10YR3/2	中	堅						
	8	焼土 黒色土	焼土	黒褐色	10YR3/2	中	堅						焼土・炭化材
H-24HF-1~3	9	焼土 黒色土	焼土	明褐色	10YR3/S4	中~強	堅						
	10	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR2/2	中	堅	Ma=1礫石	5	2~3	垂直線	風化	
	11	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR2/4	中	堅						
	12	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR2/2	中	堅						
H-24 HP-1~38	13	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR4/6	中	軟	Ma=1礫石	10	2~3	垂直線	風化	
	14	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/4	中	軟						
	15	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR4/4	中~強	堅						
	16	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	堅						
	17	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						
	18	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						
	19	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						
	20	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						
	21	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						
	22	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						
	23	黒色土 Ⅳ層	黒色土	明褐色	10YR3/2	中~強	軟						

図IV-17 H-24 (2)

H-24 覆土中焼土・炭化材分布



H-24 遺物分布



※ドットの数字は取り上げ遺物番号
遺構出土位置計測遺物説明表あり (表IV-7)

図IV-18 H-24 (3)

炉跡焼土はHF-3がほぼ住居跡の中央に位置し、HF-4、HF-2、HF-1が長軸上の南側へ並ぶ。平面はいずれも楕円形で、長径はHF-1が0.53m、HF-2が0.61m、HF-3が0.97m、HF-4が0.43mである。HF-2・4はHP-32に壊される。土坑HP-13・32は平面が楕円形で、長径はそれぞれ0.43mと0.53mである。底面から壁の立ち上がりは曲線的である。

柱穴・杭穴は住居跡の西側（HP-1～3・8・9・14・15・21～24・29・31・36）、東側（HP-5～7・10～12・16・19・25～27）、南側（HP-4・17・28・34・35）に分布し、壁に沿って直線状に並ぶ。HP-2・3、HP-10・11、HP-16・27など、2基単位となるものがある。またHP-30は住居跡のほぼ中央にあり、HF-3と重複するが、HF-3より新しい。柱穴・杭穴は平面が円形で、確認面の径は0.15m未満のものが多い。断面形は「丸」が多く、「隅丸」や「尖」もある。

遺物出土状況 遺物は426点出土した。床面からは石槍またはナイフ3点、石錐2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、フレイク1点、磨製石斧2点、たたき石1点、石鋸3点、礫1点が出土し、覆土からはⅡ群a類土器85点、Ⅳ群a類土器64点、石鏃1点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー10点、フレイク73点、磨製石斧3点、石鋸4点、砥石28点、礫125点が出土した。Ⅳ群a類土器の多くはP-48の土器と接合する。

時期 出土遺物などから縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では4,980±30 y r B Pと、縄文時代前期後半という結果がでている。 (愛場)

H-25 (図VI-19～21 図版12)

位置 F・G-65・66区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 6.64×5.67/6.25×5.09/0.64m

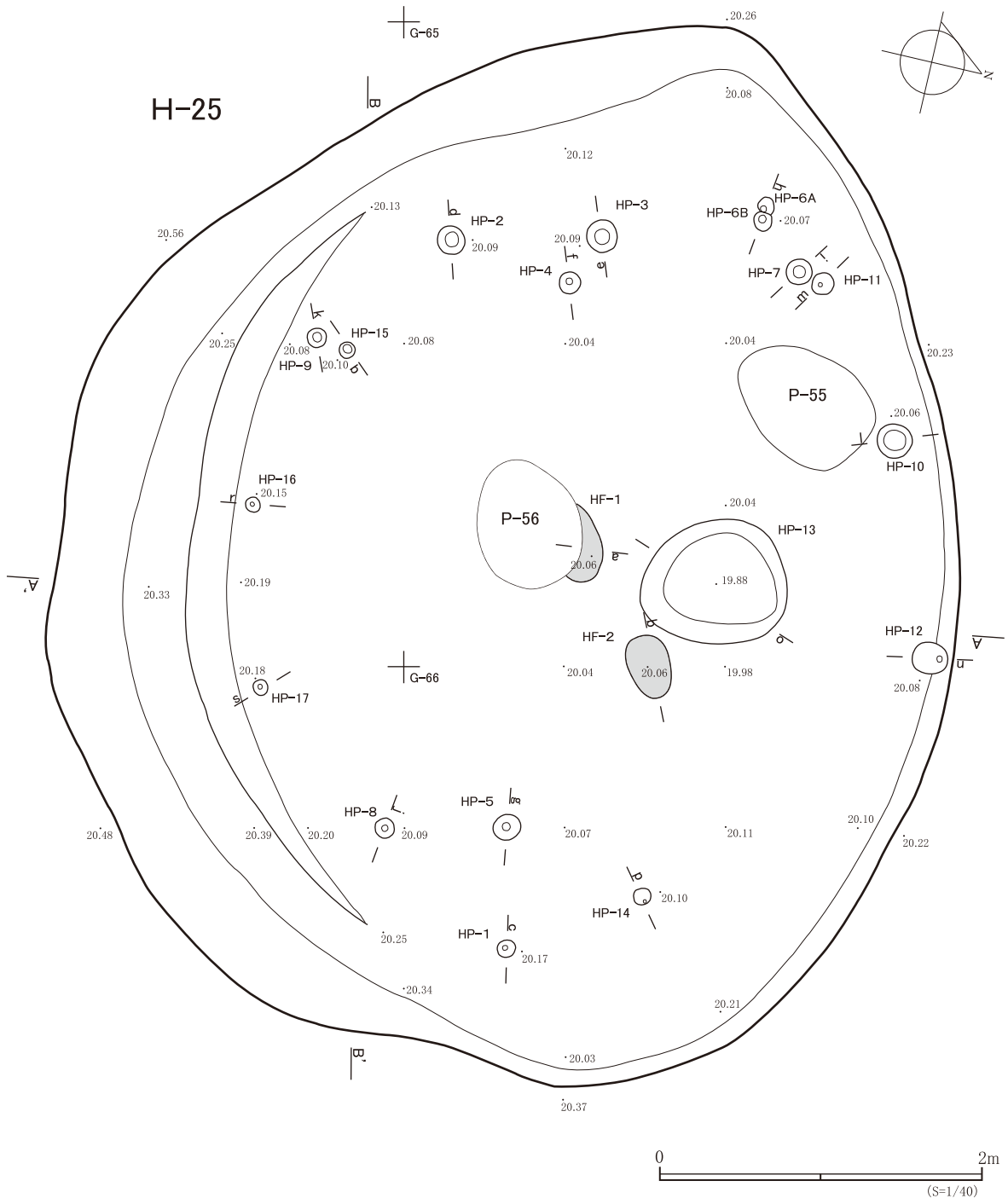
確認・調査 G-65区のⅢ層調査中、樽前c火山灰と黒～黒褐色土の楕円形のまとまりを検出したため、トレンチ調査を行った。その結果、床面及び壁の立ち上がりを確認したため竪穴住居跡と判断し、調査した。住居跡北側の上部は覆土中～下位まで攪乱を受けている。H-25はP-55・56と重複し、新旧関係はH-25が古い。また、床面出土の黒曜石製の石器1点（石槍またはナイフ）について産地推定分析を行った（付篇1節参照）。

覆土 10層に分けた。黒色土が主体でⅣ・Ⅵ層が混ざる土層である。色調は黒～暗褐色である。

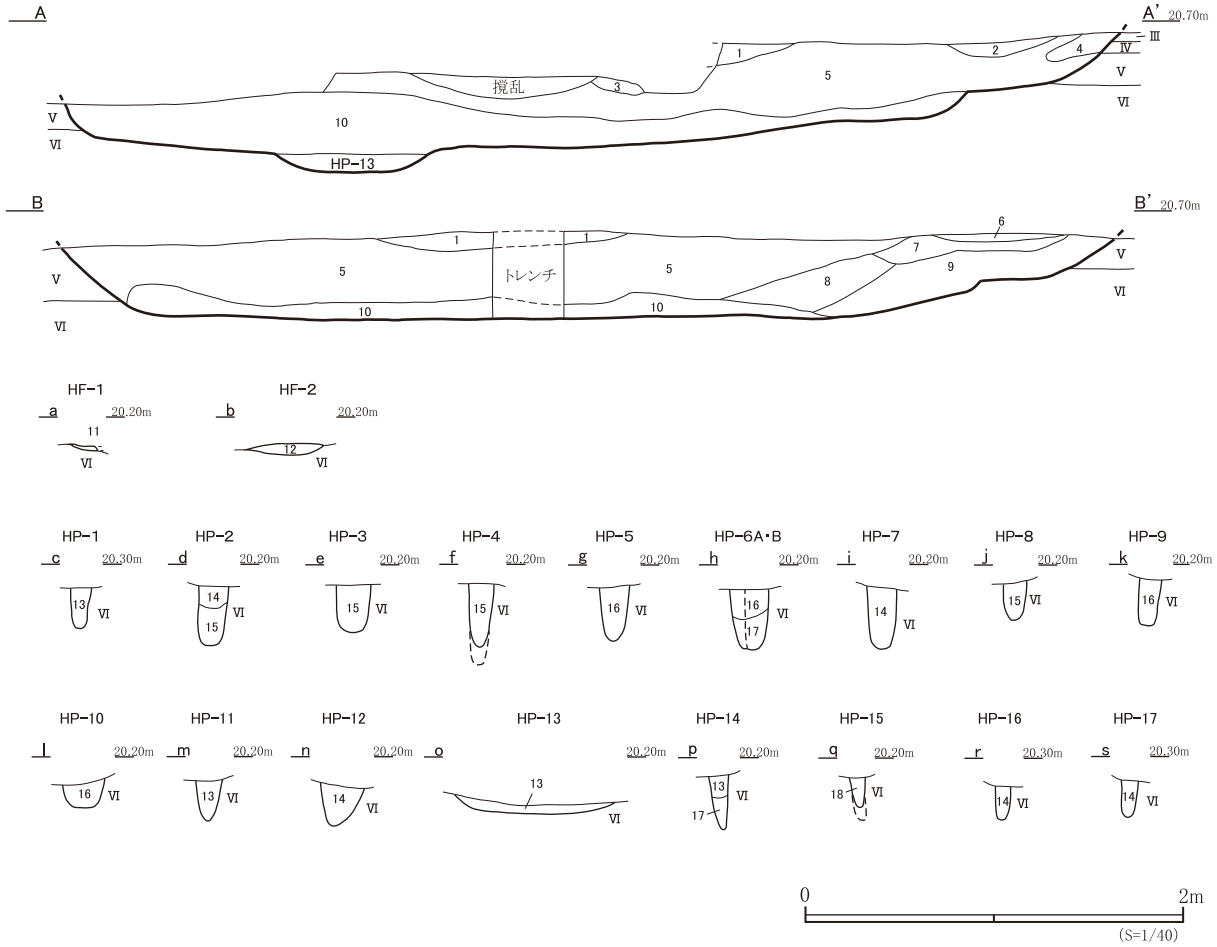
床面・壁 床面はほぼ平坦だが、南壁付近で段構造がみられる。壁は緩やかで曲線状に立ち上がる。

付属遺構 床面で炉跡焼土2か所（HF-1・2）、土坑1基（HP-13）、柱穴・杭穴17か所（HP-1～5、6A・B、7～12、14～17）、段構造を確認した。炉跡焼土はどちらも竪穴住居跡のほぼ中央に位置し、炭化物と骨片が微量混ざる。また、HF-1は南側をP-56に壊されている。土坑HP-13はHF-1・2の北西側に近接する。平面は楕円形で、確認面の長径は0.91m、深さは約0.1mと浅い。柱穴・杭穴は全体的に壁側に分布している。HP-7・11、HP-9・15は近接し、HP-6A・6Bは重複するが新旧は不明である。柱穴・杭穴の規模は径約0.1～0.2m、深さは約0.2～0.4mで、断面形状は「丸」が最も多く、「隅丸」、「尖」もみられる。また、段構造は床面の南壁沿いにみられる。

遺物出土状況 床面からⅡ群a類土器21点、石鏃1点、石槍またはナイフ2点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク5点、磨製石斧2点、石鋸6点、砥石1点、礫1点が出土した。Ⅱ群a類土器は北西壁際の床面からまとまって出土した（図IV-21、図V-1-5）。石器は床面中央よりやや北側でまとまって出土している（図IV-21）。覆土からはⅠ群b類土器2点、Ⅱ群a類土器64点、Ⅳ群a類土器2点、石鏃6点、石槍またはナイフ11点、両面調整石器10点、石錐1点、スクレイパー14点、U・Rフレイク15点、石核2点、フレイク392点、磨製石斧6点、た



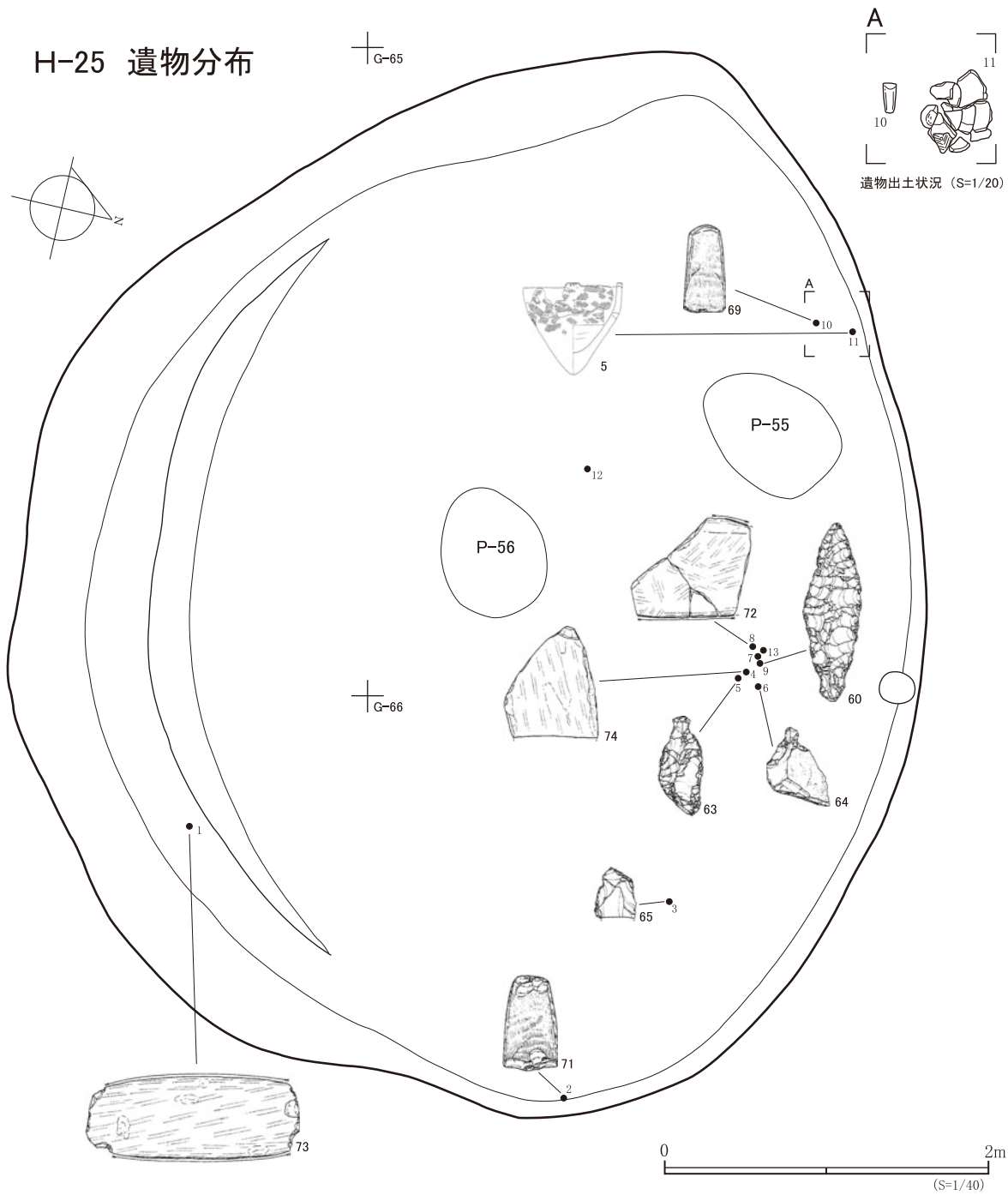
图IV-19 H-25 (1)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		色調		マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
					平均	最大											
H-25	1	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	1	2	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ～5mm)1%		
	2	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	3	2	亜円礫	風化	ローム粒(径 2mm)1%		
	3	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	—				Ta<=10%			
	4	黒色土・ 灰土	VI層	画然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/3	弱～中	堅	Ma-i軽石	3	2	3	亜円礫	風化	ローム粒(径1 ～2mm)1%	
	5	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	15	2	4	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ～4mm)5%、炭 化物微量	
	6	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	2	2	2	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ～4mm)2%	
	7	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	2	2	2	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ～4mm)1%、炭 化物微量	
	8	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	5	2	5	亜円礫	風化	ローム粒(径1 ～4mm)2%、炭 化物微量	
	9	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	10	2	3	亜円礫	風化	ローム粒(径1 ～4mm)2%、炭 化物微量	
	10	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	Ma-i軽石	7～10	2	5	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ～4mm)1%、炭 化物微量	
H-25 HF-1	11	焼土	画然	シルト 質壤土	暗赤褐色	5YR3/6	弱～中	堅	—				炭化物微量 骨片微量				
H-25 HF-2	12	焼土	画然	シルト 質壤土	褐色	7.5YR4/6	弱～中	堅	—				炭化物微量 骨片微量				
H-25 HP-1～17	13	黒色土・ VI層	IV層	画然	シルト 質壤土～ 埴埴土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ma-i軽石	5	2	5	亜円礫	風化	ローム粒(径3 ～5mm)3%	
	14	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	Ma-i軽石	2	2	3	亜円礫	風化	ローム粒(径1 ～8mm)5%、炭 化物微量	
	15	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	—				ローム粒(径1 ～5mm)3%			
	16	VI層 黒色土	画然	埴埴土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	—				ローム粒(径1 ～4mm)1%、炭 化物微量				
	17	VI層 黒色土	画然	埴埴土	暗褐色	10YR3/4	中～強	堅	—				ローム粒(径1 ～5mm)3%				
	18	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-i軽石	15	2	7	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ～5mm)5%	

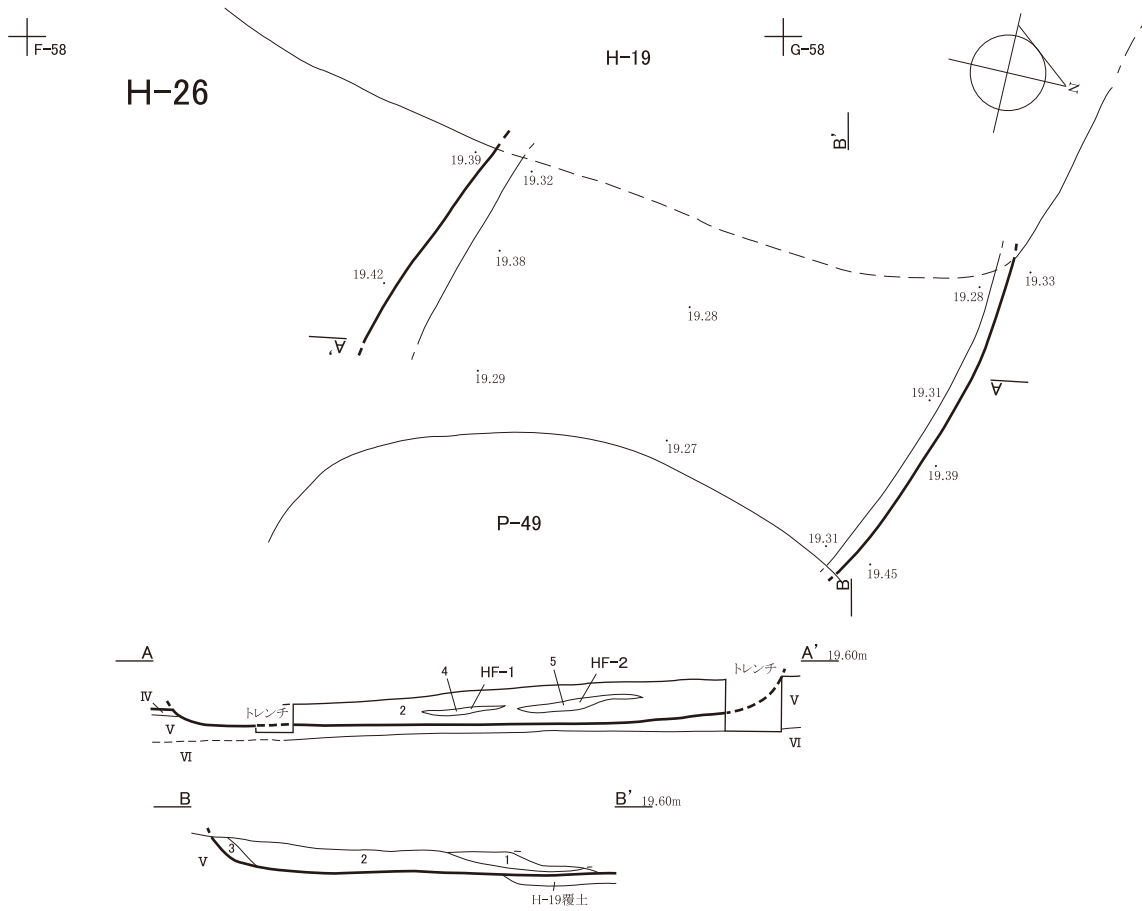
図IV-20 H-25 (2)

H-25 遺物分布

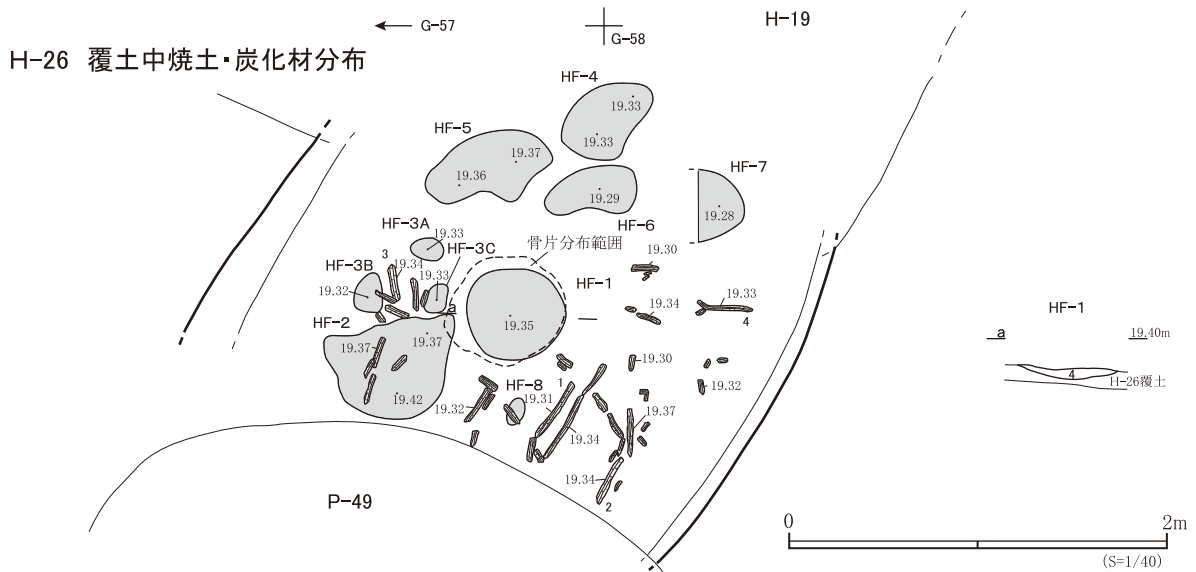


※ドットの数字は取り上げ遺物番号
遺構出土位置計測遺物説明表あり (表IV-7)

図IV-21 H-25 (3)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層			色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
												平均					最大
H-26	1	黒色土	IV層	明瞭	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量	
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	3	2	5	亜円礫	風化	炭化物微量	
	3	黒色土・IV	IV層	画然	シルト 質粘土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	Ma-1軽石	15	2	6	亜円礫	風化	—	
H-26 HF-1	4	焼土		画然	シルト 質粘土	褐色	7.5YR4/6	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2	4	亜円礫	風化	骨片微量	
H-26 HF-2	5	焼土		画然	シルト 質粘土	明褐色～褐色	7.5YR5/6 ～4/6	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2	4	亜円礫	風化	—	



図IV-22 H-26

たき石2点、石鋸4点、砥石7点、台石・石皿1点、加工・使用痕のある礫1点、礫58点が出土した。
時 期 床面出土の遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(広田)

H-26 (図IV-22 図版13)

位 置 F・G-58区 平面形態 楕円形?

規 模 (2.84)×(2.27)／(2.58)×(2.09)／0.24m

確認・調査 H-19調査中に隣接する黒色土のまとまりを確認したため、トレンチ調査を行ったところ、焼土及び炭化材を検出したため、H-19と別の遺構と判断し調査した。ベルトを設定し、焼土と炭化材を残しながら床面まで掘り下げた。出土状況の記録作成後、床面の精査を行ったが炉跡焼土や柱穴・杭穴などは確認できなかった。覆土中から焼土及び炭化材が出土していることから焼失住居跡の可能性はある。H-19、P-49と重複するが、土層観察や焼土の分布などから、P-49より古く、H-19より新しい。覆土出土の炭化材1点について、放射性炭素年代測定を行った(付篇2節参照)。
覆 土 3層に分けた。黒色土主体で、IV層が混ざる土層が多い。また覆土2層から焼土、炭化材が出土している。

床面・壁 床面はほぼ平坦だが、南側がやや高くなる。壁の立ち上がりは緩やかである。

付属遺構 覆土中で焼土を10か所(HF-1・2・3A～C・4～8)確認した。HF-1は平面形が円形で骨片を伴うため、炉跡焼土の可能性はある。他は不整な形状が多く、長径が0.15～0.71mと大小みられ、焼失に伴う焼土の可能性が高い。

遺物出土状況 床面からII群a類土器11点、フレイク6点が出土している。覆土からはII群a類土器3点、IV群a類土器1点、石錐1点、スクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク33点、礫1点が出土した。

時 期 床面出土遺物から縄文時代前期前半と考えられる。放射性炭素年代測定では3,880±30 y r B Pと、縄文時代後期前葉という結果がでている。(広田)

H-27 (図IV-23 図版14)

位 置 E-64・65、F-64区 平面形態 楕円形

規 模 3.44×2.90／3.26×2.61／0.24m

確認・調査 E-64区でIII層調査中、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。長軸及び短軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、焼土、床面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。土層観察用のベルトを残して覆土を掘り下げたところ、覆土中位～床面にかけて焼土及び炭化材を検出した。それらの出土状況の記録後、床面の精査を行い、炉跡焼土、杭穴・柱穴を確認し調査した。北東側の壁がP-47とわずかに重複するが新旧関係は不明である。

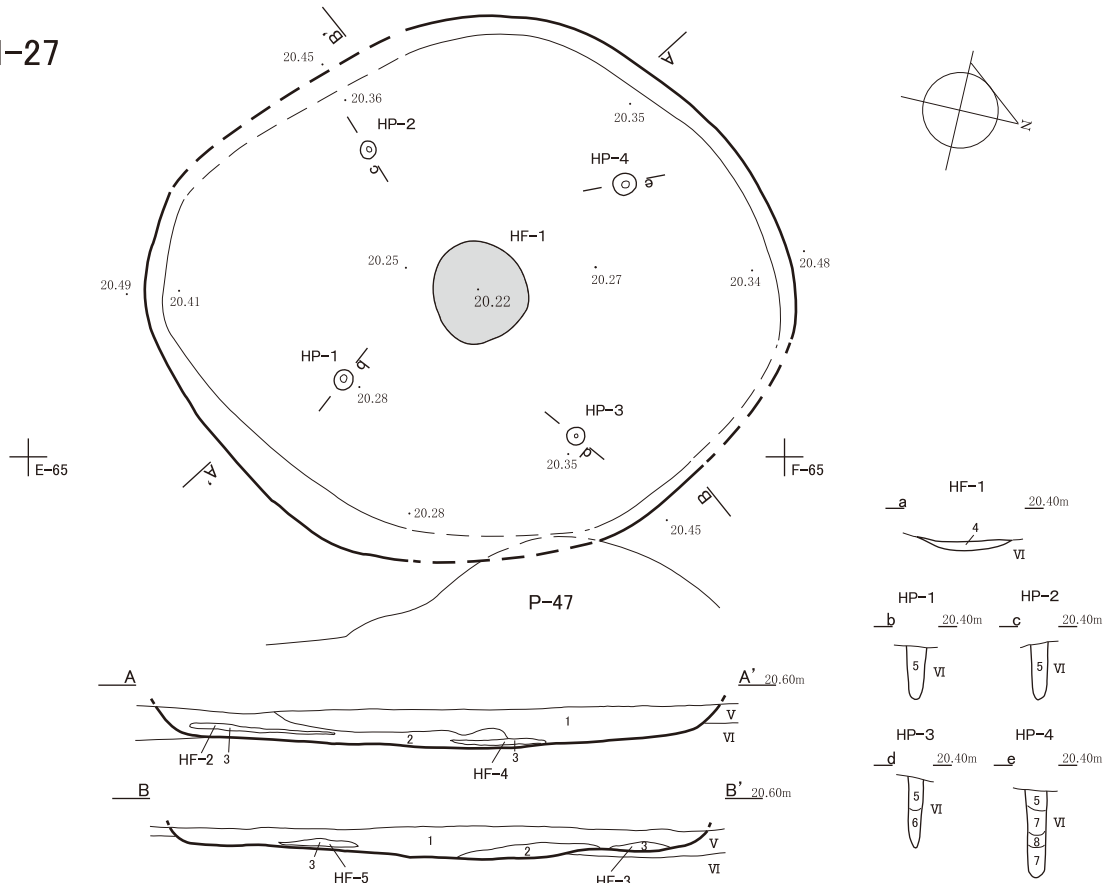
覆 土 2層に分けた。どちらも黒色土が主体でIV・VI層が混じる土層である。

床面・壁 床面はやや凹凸がみられる。壁の立ちあがりは緩やかである。

付属遺構 床面で炉跡焼土1か所(HF-1)、杭穴・柱穴4か所(HP-1～4)を確認した。HF-1は床面ほぼ中央に位置し、平面は円形で色調は暗赤褐色を呈する。HP-1～4はHF-1と壁の間に位置し、方形の配置がみられる。規模は確認面の径が9～12cmで、深さは29～46cmである。

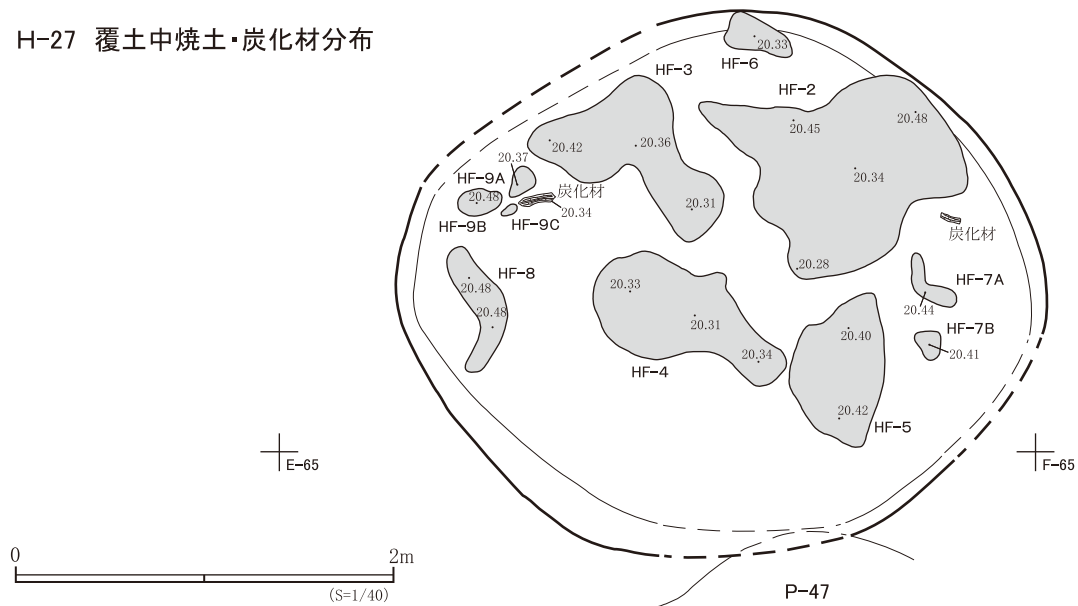
覆土中位～床面にかけて焼土11か所(HF-2～6・7A・7B・8・9A～C)を確認した。平面形は不整な楕円形が多い。規模は大小あり、HF-2～5は長径1m前後と大型で、HF-6・7A・7B・8・9A～Cは長径0.7m以下で小型のもので、これらはすべて焼失に伴う焼土と考えられる。

H-27

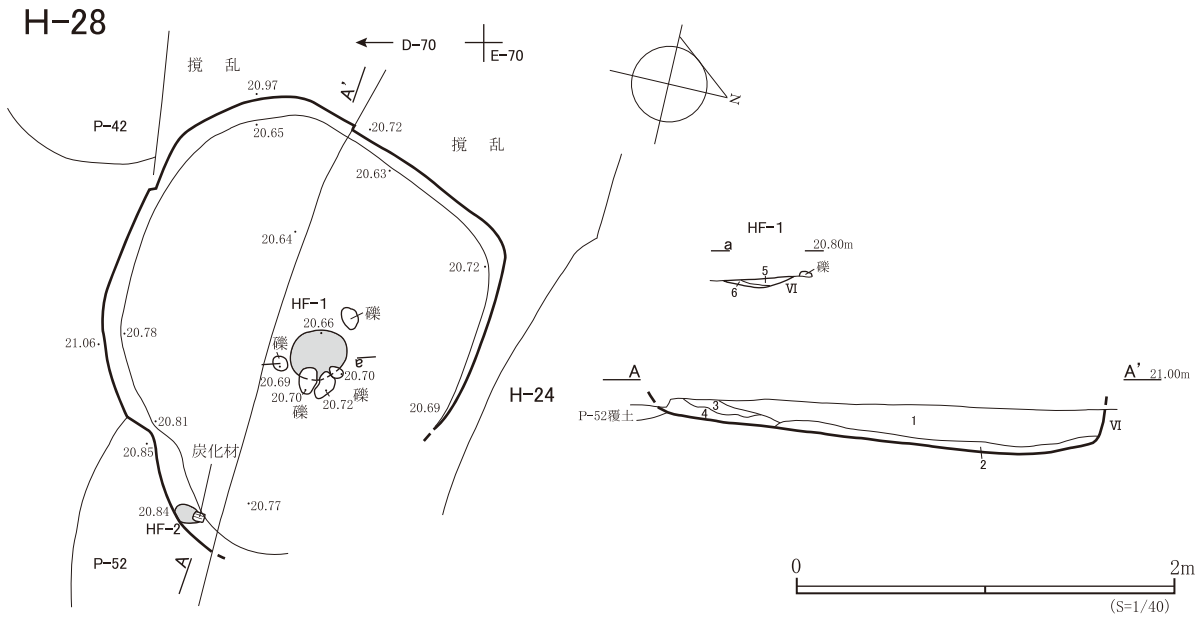


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大			
H-27	1	黒色土	IV・VI層	両然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	7	2	3	歪円礫	風化	サーム粒(径1 ～2mm)3%
	2	黒色土	IV・VI層	両然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	2	2	3	歪円礫	風化	サーム粒(径1 ～2mm)1%
	3	焼土		両然	シルト 質壤土	褐色	7.5YR4/6	弱～中	堅	Ma-1軽石	2	2	3	歪円礫	風化	—
H-27 HF-1	4	焼土		両然	シルト 質壤土	暗赤褐色	5YR3/6	弱～中	堅	—	—	—	—	—	—	炭化物微量
H-27 HP-1～4	5	黒色土	IV・VI層	両然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱～中	堅	Ma-1軽石	1	2	3	歪円礫	風化	サーム粒(径1 ～2mm)3%
	6	VI層	黒色土	両然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	—	—	—	—	—	—	サーム粒(径1 ～2mm)5%
	7	VI層	両然	焼土	シルト 質壤土	褐色	10YR4/4	中	軟～堅	—	—	—	—	—	—	—
	8	VI層	黒色土	両然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/4	中	軟～堅	—	—	—	—	—	—	サーム粒(径1 ～2mm)5%

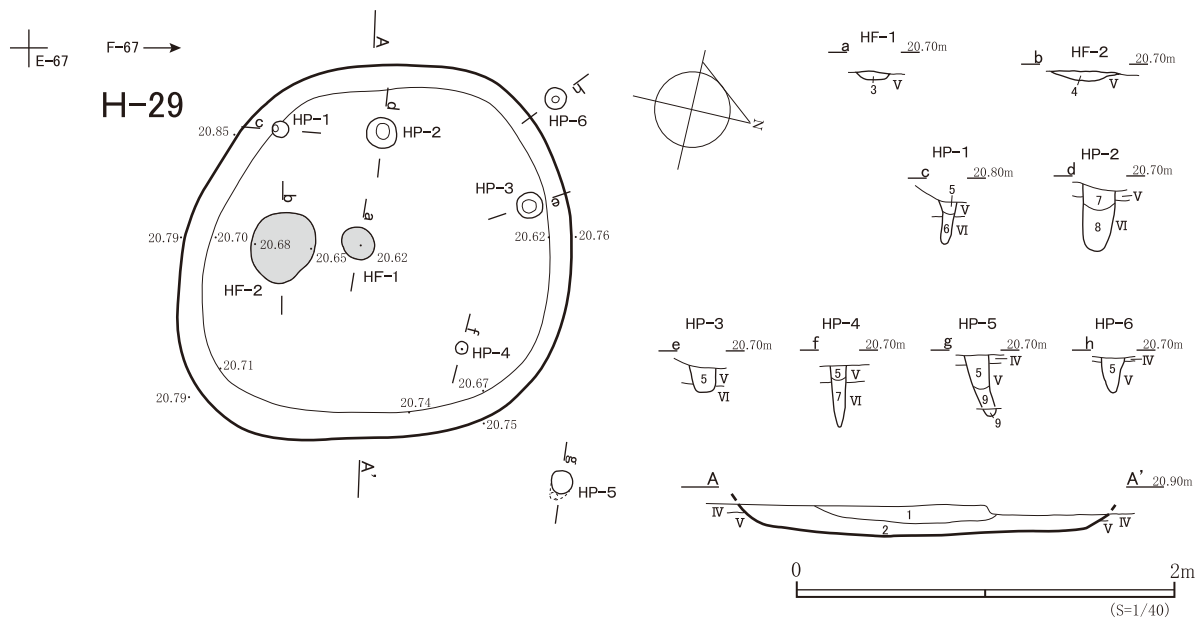
H-27 覆土中焼土・炭化材分布



図IV-23 H-27



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層			色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)				形状
H-28	1	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	黒色~黒 褐色	10YR2/1~2/2	中	堅	Ma-1軽石	10	2	8	亜円礫	風化	炭化材少量
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ma-1軽石	10	4	10	亜円礫	風化	—
	3	VI層	黒色土	画然	埴壤土	褐色	10YR4/6	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—
	4	VI層	黒色土	画然	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—
H-28 HF-1	5	埴土	IV層	画然	埴壤土	赤褐色	5YR4/6	中	堅	Ma-1軽石	10	2~3	—	亜円礫	風化	—
	6	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	5	2~3	—	亜円礫	風化	—



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層			色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)				形状
H-29	1	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	5	2	3	亜円礫	風化	—
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	20	2~3	5	亜円礫	風化	—
H-29HF-1	3	埴土	画然	埴壤土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	Ma-1軽石	5	2	4	亜円礫	風化	—	
H-29HF-2	4	埴土	画然	埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ma-1軽石	5	2	4	亜円礫	風化	—	
H-29 HP-1~6	5	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	10	2	—	亜円礫	風化	—
	6	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	—	—	—	—	—	—	
	7	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/4	中	軟	Ma-1軽石	20	2	10	亜円礫	風化	—
	8	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	Ma-1軽石	3	2	—	亜円礫	風化	—
	9	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	3	2	—	亜円礫	風化	—

図IV-24 H-28・29

遺物出土状況 床面からはⅡ群a類土器2点、U・Rフレイク1点、フレイク17点が出土している。覆土からはⅠ群b類土器1点、Ⅱ群a類土器2点、スクレイパー2点、U・Rフレイク1点、フレイク80点、磨製石斧1点、礫10点が出土している。

時期 床面出土の遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(広田)

H-28 (図IV-24 図版15)

位置 D・E-70区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 (2.44)×(1.96)／(2.26)×1.82／0.30m

確認・調査 包含層調査中、道路の側溝の攪乱土を掘り下げたところ、Ⅵ層中で楕円形の黒色土がみられた。土層観察用のベルトを設定し、周囲の覆土を掘り下げた。Ⅵ層中で床面と焼土、壁の立ち上がりを確認したため、竪穴住居跡と判断した。平面は東西方向に長軸がある不整な楕円形で、規模は約2.5mと小型である。土層断面から住居跡の東側に土坑(P-52)があり、本遺構が新しいことがわかった。またH-24とも重複するが、住居跡の間には攪乱があり、新旧関係は不明である。

覆土 4層に分けた。壁際にはⅥ層主体の褐色・暗褐色土層が堆積する。

床面・壁 床面は西～東側へ傾斜し、壁は住居跡西側では急角度、それ以外は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土下位で焼土1か所(HF-2)、床面で炉跡焼土1か所(HF-1)を確認した。HF-1の平面は楕円形で、長径が0.31m、厚さが0.06mである。焼土の東側では拳大の礫が4点出土し、西側からも同様の礫が1点出土したことから、石組炉の可能性もある。礫は被熱し、取り上げできなかったものがある。HF-2は住居跡西側壁の覆土中にあり、上位には炭化材が少量みられた。

遺物出土状況 遺物は10点出土した。床面からは礫が2点出土し、覆土からはⅡ群a類土器3点、石槍またはナイフ1点、フレイク3点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。(愛場)

H-29 (図IV-24 図版16)

位置 E-67区 **平面形態** 楕円形

規模 2.28×2.03／2.01×1.80／0.17m

確認・調査 包含層調査中、Ⅳ層面で楕円形の黒色土がみられた。黒色土の中央部に東西方向のトレンチを設定し調査した結果、Ⅴ層中に床面、壁の立ち上がりを確認した。トレンチ沿いに土層観察用ベルトを設定し、周囲を掘り下げた。覆土上位ではF-5を検出したが、本遺構とは関連しないものと考えた。床面で焼土と柱穴・杭穴を確認したため竪穴住居跡と判断した。住居跡は平面が不整な楕円形で、確認面の長径は2.28mと小型である。

覆土 2層に分けた。いずれも黒色土に少量のⅣ層が混ざる土層で、覆土の上位は黒色土層、下位は黒褐色土層である。

床面・壁 床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 炉跡焼土2か所(HF-1・2)、柱穴・杭穴6か所(HP-1～6)を確認した。

炉跡焼土はHF-1が住居跡の中央よりやや南側、HF-2が南壁近くに位置する。平面はいずれも楕円形で、長径はHF-1が0.19m、HF-2が0.39mである。柱穴・杭穴はHP-1～4が住居跡の南西から北東側の壁際にあり、HP-5・6は住居外北側に位置する。平面はすべて円形で、直径は0.06～0.17mである。断面形状は「丸」が多い。

遺物出土状況 遺物は48点出土した。床面直上からはⅡ群a類土器4点、HP-3覆土からは石錐1

点、覆土からはⅡ群 a 類土器 6 点、石錐 1 点、スクレイパー 1 点、石鋸 1 点、フレイク 21 点、礫 13 点
が出土した。

時 期 出土遺物から時期は縄文時代前期前半と考えられる。 (愛場)

(2) 土坑

P-26 (図Ⅳ-25 図版17)

位 置 E・F-47・48区 平面形態 楕円形

規 模 2.23×2.05/1.70×1.36/0.44m

確認・調査 遺構確認調査範囲である E-48 区で、Ⅳ層上面の精査を行ったところ、楕円形の黒色土
のまとまりを確認した。楕円形の中央付近を通るように東西方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、
底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断し、調査した。北側に P-27 が近接する。

覆 土 6 層に分けた。覆土 1 層は樽前 c 火山灰主体の土層である。覆土 3・4 層は、黒色でⅣ層が
混ざり、5・6 層は黒褐色でⅣ・Ⅵ層が混ざる土層である。

底面・壁 底面は緩やかな凹凸がみられ、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土中から礫が 17 点出土した。

時 期 周辺包含層出土の遺物や遺構の時期から縄文時代早期後半～前期前半の可能性がある。

(広田)

P-27 (図Ⅳ-25 図版17)

位 置 F・G-47・48区 平面形態 楕円形

規 模 2.44×2.06/1.97×1.68/0.42m

確認・調査 P-26 周辺を精査中に P-26 に近接する楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の
中央付近を通るように長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認した
ため土坑と判断し、調査した。南側 1.6m に規模や覆土の堆積状況が類似する P-26 が位置している。

覆 土 4 層に分けた。覆土 1 層は樽前 c 火山灰主体の土層である。覆土 2～4 層は黒色土が主体で、
Ⅳ層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物出土状況 覆土中からⅠ群 b 類土器 1 点、礫 19 点出土した。

時 期 覆土出土の遺物、周辺包含層出土の遺物などから縄文時代早期後半～前期前半の可能性がある。

(広田)

P-28 (図Ⅳ-26 図版17)

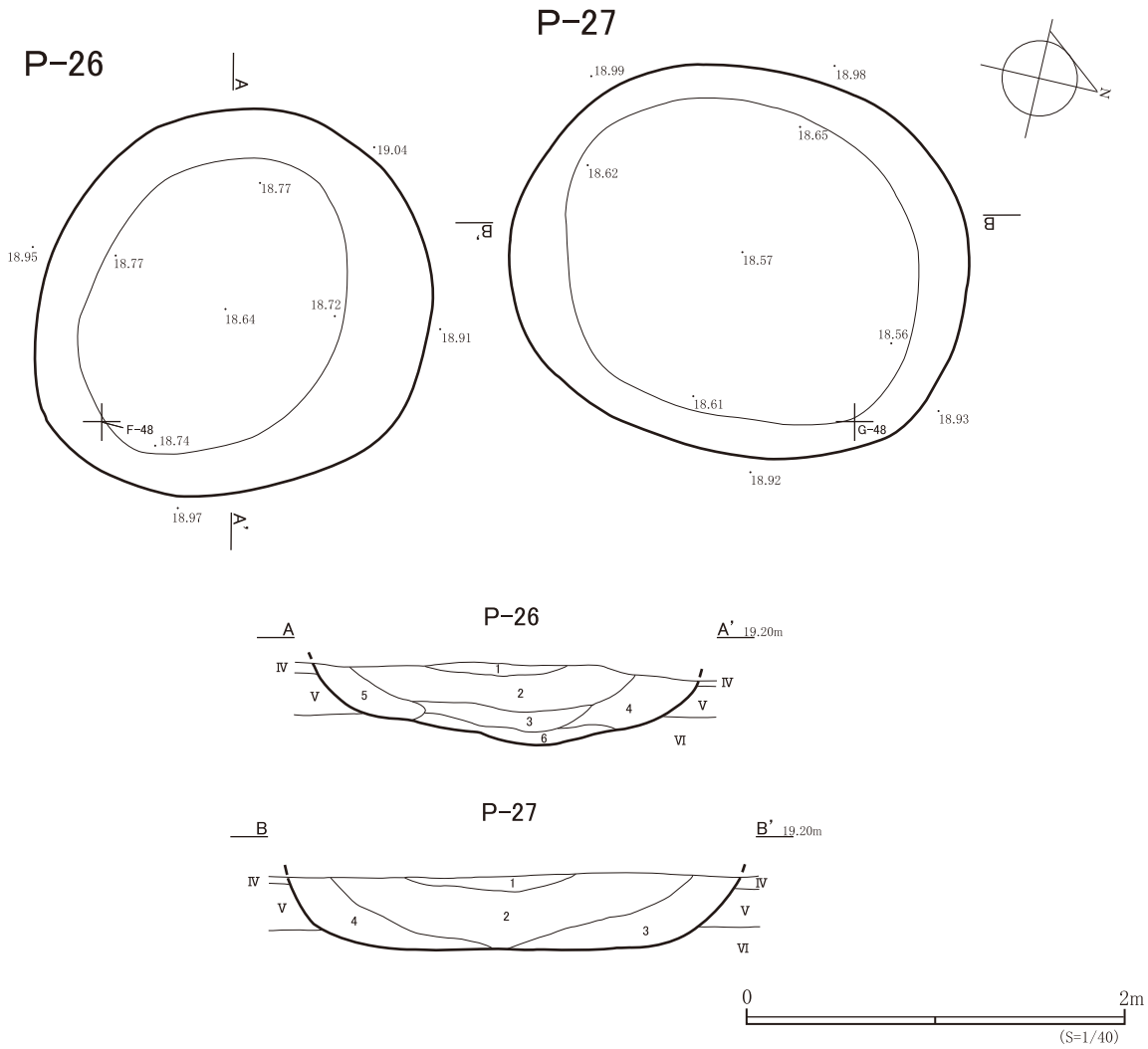
位 置 G-46区 平面形態 楕円形

規 模 2.19×1.99/1.92×1.62/0.32m

確認・調査 遺構確認調査範囲である G-46 区のⅣ層面で、中央に樽前 c 降下火山灰のまとまりがあ
る楕円形の黒色土がみられた。南側半分を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判
断した。西側 4 m に規模や覆土の堆積状況が類似する P-26・27 が位置する。

覆 土 6 層に分けた。覆土 1 層は樽前 c 降下火山灰主体である。覆土 2～6 層はいずれも黒色土主
体層で、Ⅳ層が少量混ざる土層である。

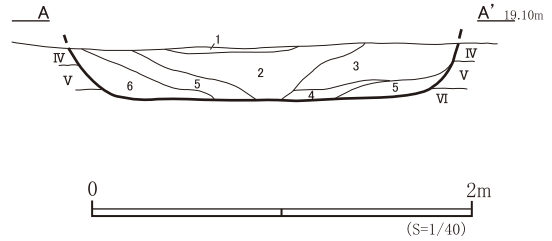
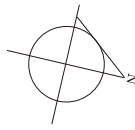
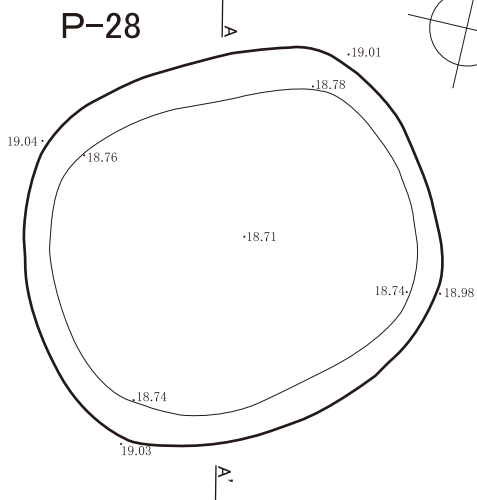
底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
P-26	1	Ta=主体の層															
	2	黒色土	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma=1軽石	2	2	5	亜円礫	風化	—	埴土中の礫土	
	3	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma=1軽石	10	3	5	亜円礫	風化	—	
	4	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma=1軽石	10	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量	
	5	黒色土	IV・VI層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma=1軽石	10	2	4	亜円礫	風化	—	
	6	黒色土・V層	IV層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma=1軽石	1	2	5	亜円礫	風化	—	
P-27	1	Ta=主体の層															
	2	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma=1軽石	5	2	5	亜円礫	風化	—	
	3	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma=1軽石	20	2	5	亜円礫	風化	—	
	4	黒色土	IV層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma=1軽石	10	2	5	亜円礫	風化	—	

図IV-25 P-26・27

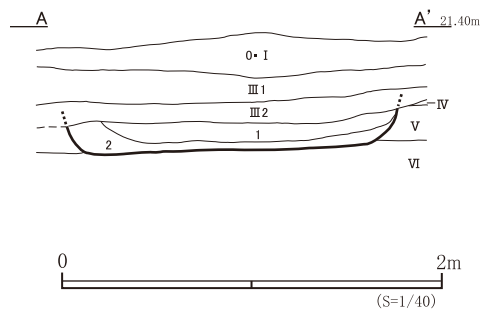
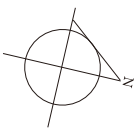
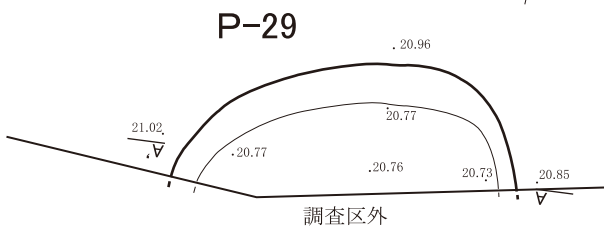
G-46
↓
G-47



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層			色相		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大	平均					最大
P-28	1	黒色土	Ta~	画然	シルト質壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅	—				—	—			
	2	Ⅲ層	IV層	画然	シルト質壤土	黒色	10YR1.7/1	中~強	堅	—				—	—			
	3	Ⅲ層	IV層	画然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	40	2~3	5	垂円礫	風化	—		
	4	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	黒色	10YR1.7/1	中~強	堅	Ma-1軽石	10	2~3	—	垂円礫	風化	—		
	5	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	20	2~3	—	垂円礫	風化	—		
	6	黒色土	IV層	画然	シルト質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅	Ma-1軽石	50	2~3	8	垂円礫	風化	—		

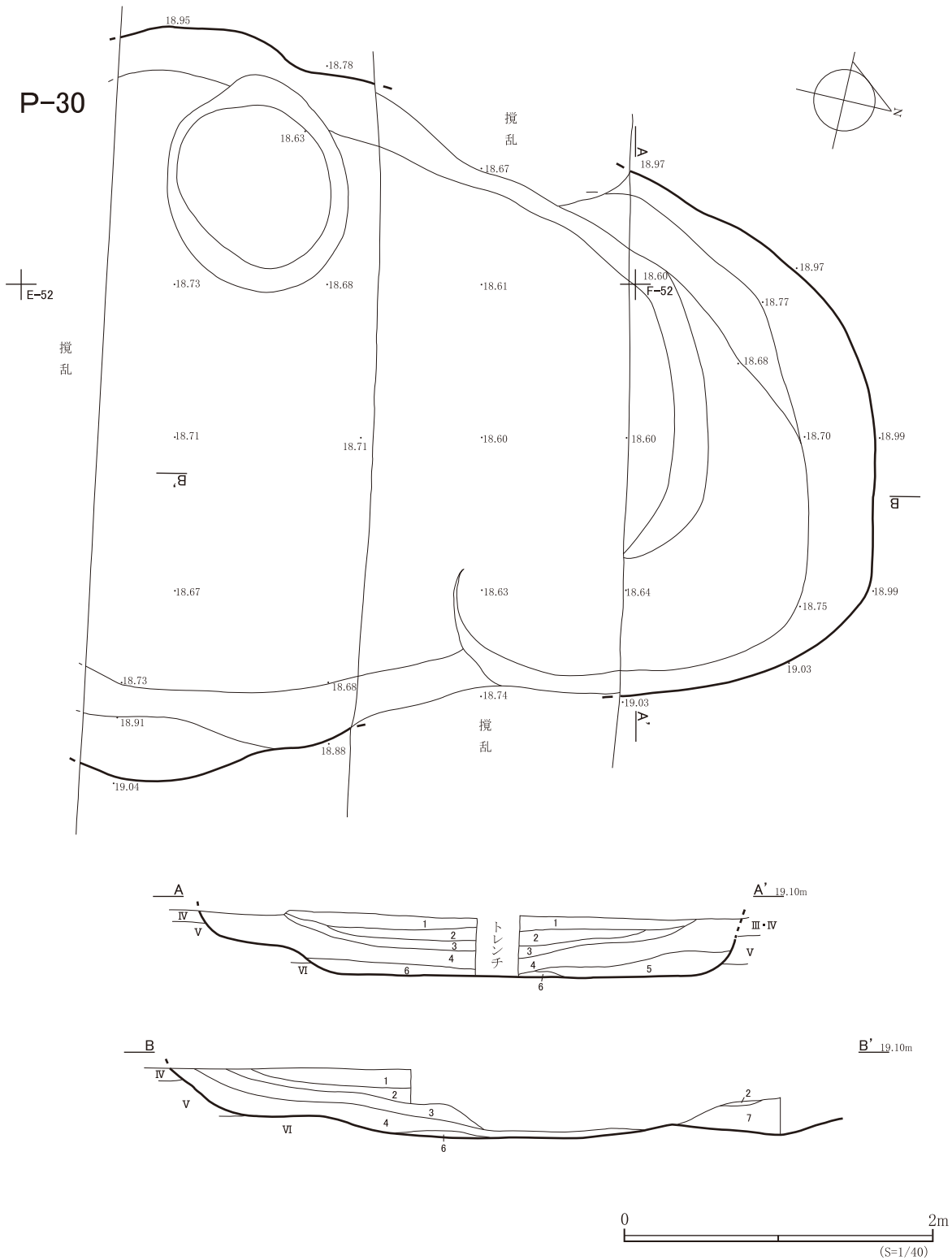
H-74

I-74



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層			色相		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大	平均					最大
P-29	1	黒色土	IV層	明瞭	壤壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	2	2	5	垂円礫	風化	—		
	2	黒色土	IV・VI層	画然	壤壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	5	2	5	垂円礫	風化	—		

図IV-26 P-28・29



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層		色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の程度
					野外土性	マンセル表色系				平均	最大				
P-30	1		Ⅲ層	面然	シルト質壤土	黒色	10YR1.7/1	中～強	堅						
	2														
	3	黒色土	Ⅳ層	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	Ma-1軽石	5	2~3	5	垂直稜	風化
	4	黒色土	Ⅳ層	面然	シルト質壤土	黒褐色	10YR3/1	中	堅	Ma-1軽石	10	2~3	5	垂直稜	風化
	5	Ⅵ層	黒色土	面然	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	中～強	すこぶる堅						
	6	黒色土	Ⅳ・Ⅵ層	面然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	中～強	堅	Ma-1軽石	5	2~3	10	垂直稜	風化
	7	黒色土	面然	シルト質壤土	黒色	10YR2/1	中～強	堅							

図IV-27 P-30

遺物出土状況 覆土からフレイク 2 点が出土した。

時期 周辺包含層出土の遺物や遺構の時期から縄文時代早期後半～前期前半の可能性がある。

(愛場)

P-29 (図IV-26 図版17)

位置 G・H-74区 **平面形態** 楕円形?

規模 (1.77)×(0.70)／(1.48)×(0.49)／(0.25)m

確認・調査 遺構確認区であるH-74区で、IV層上面を精査したところ、調査区東壁際で黒色土のまとまりを確認した。調査区東壁に沿ってトレンチ調査をした結果、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断し、調査した。東側の調査区外に広がるため、部分的な調査にとどまる。

覆土 2層に分かれ、どちらも黒色土が主体の土層である。

底面・壁 底面は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からフレイク 2 点、礫 4 点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物などから縄文時代～続縄文時代の可能性がある。(広田)

P-30 (図IV-27 図版17)

位置 E・F-51・52区 **平面形態** 不整な楕円形?

規模 (5.07)×4.92／(4.64)×4.03／0.46m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で楕円形の黒色土がみられた。南北・東西方向のトレンチ調査を行い、VI層中に底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。トレンチ沿いに土層観察用ベルトを設定し、周囲の覆土を掘り下げた。焼土や柱穴・杭穴がみられないため土坑と判断した。南側は平成23年度調査区に続くが、平成23年度の調査では確認できなかった。土坑の平面は不整な楕円形と推測され、長径は6mを超える可能性がある。

覆土 7層に分けた。覆土1層はIII層主体、覆土2層は樽前c降下火山灰主体である。それ以下は概ね黒褐色土が堆積するが、土坑東側壁際には暗褐色土層がみられる。

底面・壁 底面は凹凸があり、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 北側の壁際には段構造がみられ、約5cm高くなる部分がある。

遺物出土状況 遺物は108点が出土した。坑底面からは礫が15点出土し、覆土からはI群b類土器8点、II群a類土器2点、IV群a類土器1点、スクレイパー2点、両面調整石器1点、フレイク40点、磨製石斧1点、石鋸1点、礫36点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の可能性がある。(愛場)

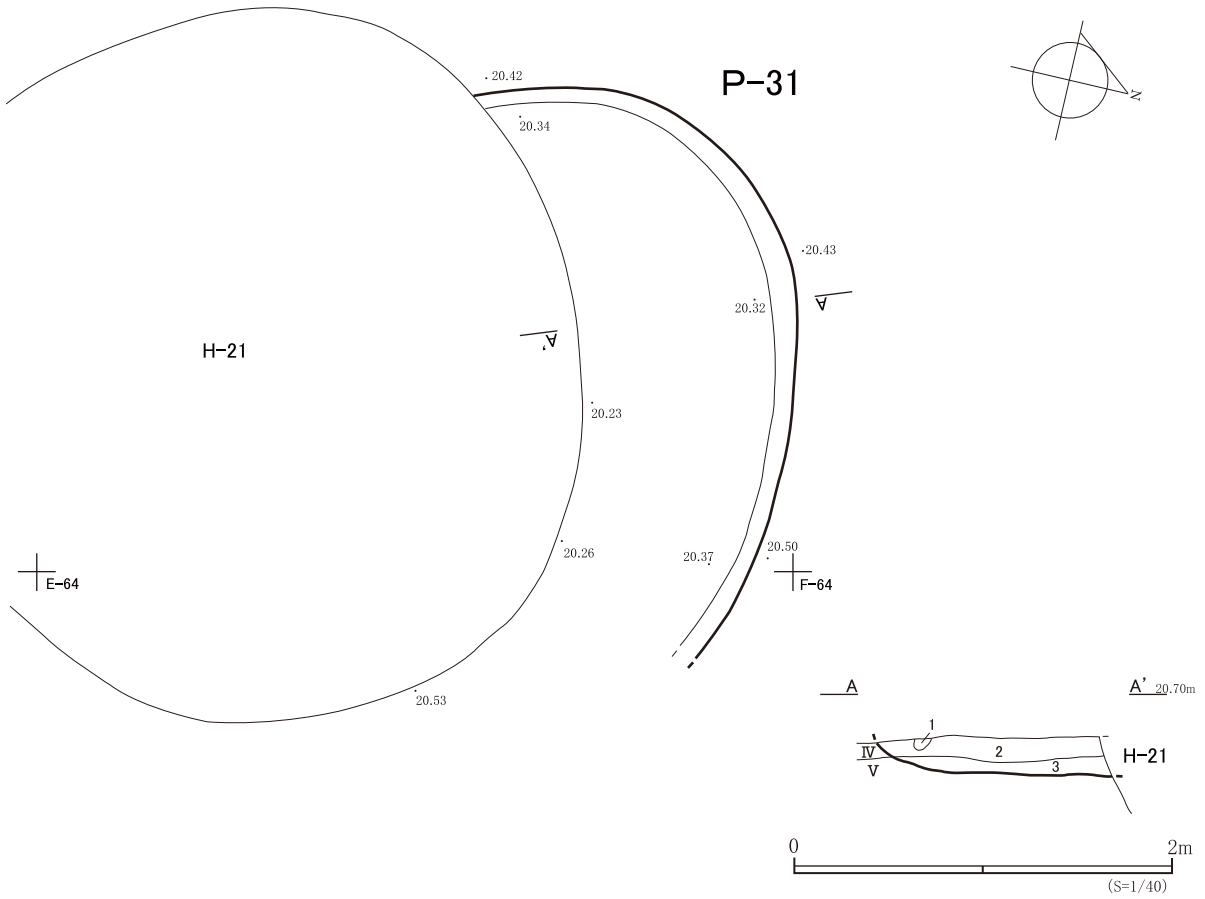
P-31 (図IV-28 図版17)

位置 E-63・64区、F-63区 **平面形態** 楕円形?

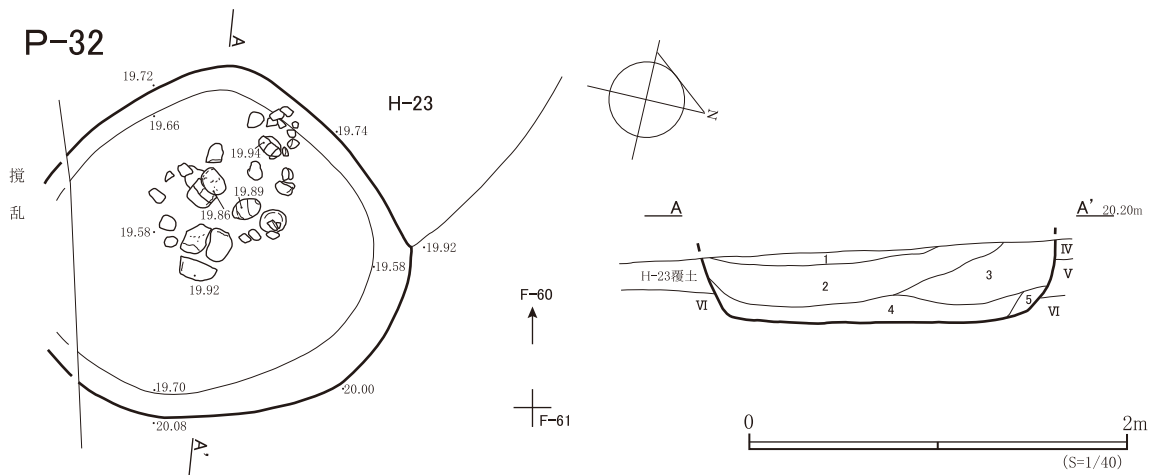
規模 (3.03)×(1.70)／(2.88)×(1.52)／(0.23)m

確認・調査 竪穴住居跡H-21のトレンチ調査中に、重複する遺構の覆土、底面及び壁を確認したため、別の土坑と判断して調査した。H-21より古く、半分以上壊されている。また、東側の壁が不明瞭で確認できなかった。覆土中からフレイクがややまとまって出土した範囲は、土壌ごと取り上げて水洗選別し、フレイク等を採取した。

覆土 3層に分けた。全体的に黒色土主体で、覆土1層のみVI層主体の暗褐色土である。



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層		野外 土性	色調			種類	面積 割合(%)		風化の 程度			
						色名	マンセル 表色茶	粘着性		堅密度	平均				最大
P-31	1	VI層	黒色土	面然	珪礫土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	—		—	—	—	
	2	黒色土	IV層	明瞭	シルト質珪礫土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	亜円礫	風化 炭化物微量
	3	黒色土	IV層	面然	シルト質珪礫土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	*	2	5	亜円礫	風化 炭化物微量



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調			種類	面積 割合(%)		風化の 程度					
						色名	マンセル 表色茶	粘着性		堅密度	平均				最大	形状	
P-32	1									Ia-c主体の層							
	2	黒色土	IV層	面然	シルト質珪礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	3	2	4	亜円礫	風化	—	
	3	黒色土	IV層	面然	シルト質珪礫土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	20	2	3	5	亜円礫	風化	—
	4	黒色土	IV層	面然	シルト質珪礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	10	2	3	5	亜円礫	風化	—
	5	黒色土	IV層	面然	シルト質珪礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	15	2	3	5	亜円礫	風化	—

図IV-28 P-31・32

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線状で緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土中からⅡ群a類土器1点、Ⅳ群a類土器2点、石鏃3点、石槍またはナイフ2点、スクレイパー3点、U・Rフレイク1点、フレイク165点、石鋸3点、砥石4点、礫62点が出土した。また、覆土の土壤水洗により、U・Rフレイク1点、フレイク338点を回収した。

時期 覆土出土の遺物や周辺の遺構などから縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考えられる。

(広田)

P-32 (図IV-28 図版17)

位置 E-60・61区 **平面形態** 楕円形

規模 (1.91)×1.91/(1.70)×1.65/0.44m

確認・調査 H-23確認時、西側付近でH-23とは別の円形の黒色土がみられた。竪穴住居跡と土坑の重複が予想されたため、この部分にかかるよう東西方向のトレンチを設定し、掘り下げた。竪穴住居跡の床面より低いⅥ層中で底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土層断面からH-23より新しい。南壁際は攪乱により削平される。

覆土 5層に分けた。土坑東側に黒褐色土がみられるほかは、黒色土が堆積する。覆土2層では礫がまとまって出土した。

底面・壁 底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土から150点出土した。内訳はⅣ群a類土器2点、つまみ付きナイフ1点、フレイク88点、砥石5点、礫54点である。礫は拳大のものが多く、覆土2層でまとまって出土した。

時期 覆土出土の遺物や周辺の遺構などから縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考えられる。

(愛場)

P-33 (図IV-29 図版17)

位置 D-67区 **平面形態** 楕円形

規模 1.07×(0.78)/0.66×(0.51)/0.27m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で楕円形のⅣ層混じりの黒色土がみられた。長軸で半截したところ、壁と坑底面を確認し土坑と判断した。土層断面を記録した後完掘した。平面は北東-南西に長軸がある長径約1mの楕円形である。南西側にはF-2が近接し、本遺構と関連する可能性がある。

覆土 2層に分けた。いずれも黒色土にごく少量のⅣ層が混ざる土層である。

底面・壁 底面から壁の立ち上がりまで曲線的である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

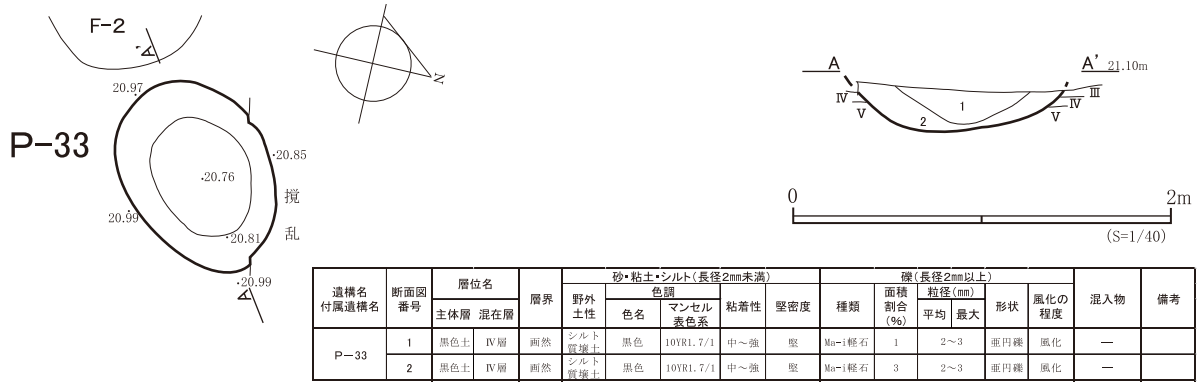
時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物などから縄文時代前期前半、後期前葉の可能性はある。(愛場)

P-34 (図IV-29 図版18)

位置 E-61・62、F-62区 **平面形態** 不整な楕円形

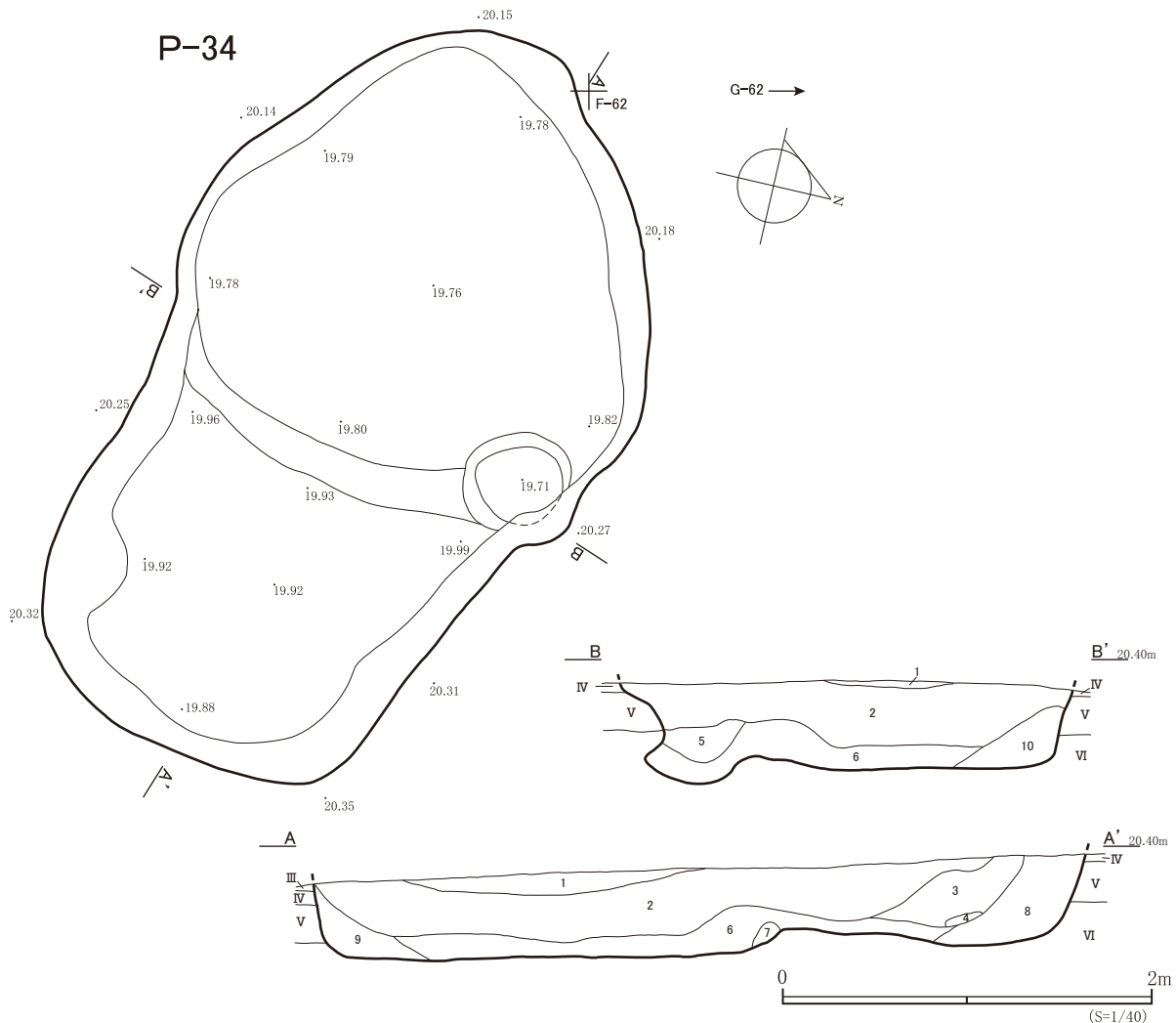
規模 4.31×2.66/3.93×2.50/0.58m

確認・調査 E-62区のⅣ層上面で精査を行い、樽前c火山灰と黒色土の楕円形のまとまりを確認した。黒色土の中央付近を通るように長軸及び短軸方向にトレンチを設定、掘り下げて底面と壁の立ち上がりを確認した。当初は規模などから竪穴住居跡と考えていたが、底面で炉跡焼土や柱穴・杭穴がみられないことや、段構造があることなどから土坑と判断した。



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				平均	最大				
P-33	1	黒色土	IV層	面然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中～強	堅	Ma-1軽石	1	2～3	亜円礫	風化	—	
	2	黒色土	IV層	面然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中～強	堅	Ma-1軽石	3	2～3	亜円礫	風化	—	

← D-68 E-68



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大					
P-34	1					Ia-c主体の層											
	2	黒色土	IV層	面然	埴塚土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-1軽石	7	2	5	亜円礫	風化	—	
	3	VI層	面然	埴塚土	暗褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	7	2	5	亜円礫	風化	—		
	4	VI層	面然	埴塚土	褐色	10YR4/4	中	堅	Ma-1軽石	1	2	5	亜円礫	風化	—		
	5	VI層	明瞭	埴塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	15	2	5	亜円礫	風化	—		
	6	VI層	面然	埴塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	30	2	5	亜円礫	風化	—		
	7	VI層	面然	埴塚土	褐色	10YR4/4	中	堅	Ma-1軽石	1	2	5	亜円礫	風化	—		
	8	黒色土	VI層	面然	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	20	3	5	亜円礫	風化	—	
	9	VI層	面然	埴塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	20	2	5	亜円礫	風化	—		
	10	黒色土	IV層	面然	埴塚土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	25	2	5	亜円礫	風化	—	

図IV-29 P-33・34

覆土 10層に分けた。覆土1層は樽前c火山灰主体の土層で、覆土2・8層は黒色土主体の土層である。他の土層はVI層が主体で、色調は褐色～黒褐色を呈する。

底面・壁 底面はほぼ平坦だが、南東側は一段高くなる。また、北壁際の中央付近がくぼむ。壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

付属遺構 中央付近から南東側に段構造がみられ、南東側の底面は北西側より約10～20cm高くなる。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器25点、IV群a類土器3点、石鏃4点、石錐1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー7点、U・Rフレイク4点、フレイク307点、石鋸3点、砥石5点、加工・使用痕のある礫1点、礫529点が出土している。

時期 覆土出土の遺物や周辺包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性はある。(広田)

P-35 (図IV-30 図版18)

位置 D・E-59区 **平面形態** 楕円形

規模 1.52×1.36/1.14×0.84/0.45m

確認・調査 竪穴住居跡H-23調査中、覆土下位で円形の黒色土と樽前c火山灰がみられた。中央に土層観察用のベルトを残し、両側を掘り下げた。H-23床面より深いVI層中で、壁と底面を確認し、土坑と判断した。H-23のHF-1を壊して構築されるため、H-23より新しい。

覆土 5層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体土層である。覆土4層はVI層主体土層で土坑東側に堆積する。

底面・壁 底面は北側に向かって傾斜し、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は54点出土した。坑底面直上から石鋸1点、礫2点、覆土からはII群a類土器2点、石槍またはナイフ1点、フレイク41点、礫7点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性はある。(愛場)

P-36 (図IV-30 図版18)

位置 E-56区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.20×0.91/0.87×0.57/0.16m

確認・調査 竪穴住居跡H-19のトレンチ調査で、土層断面の観察により重複する小型の土坑を確認した。そのため、別の遺構名を付し調査を行った。新旧関係は不明でH-19の付属遺構の可能性もある。

覆土 3層からなる。いずれも黒色土が主体で、IV・VI層が混ざる土層である。

底面・壁 底面と壁の境は不明瞭で、底面は全体的に浅くくぼむ形状である。壁は曲線的に緩く立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器1点、フレイク4点、礫1点が出土した。

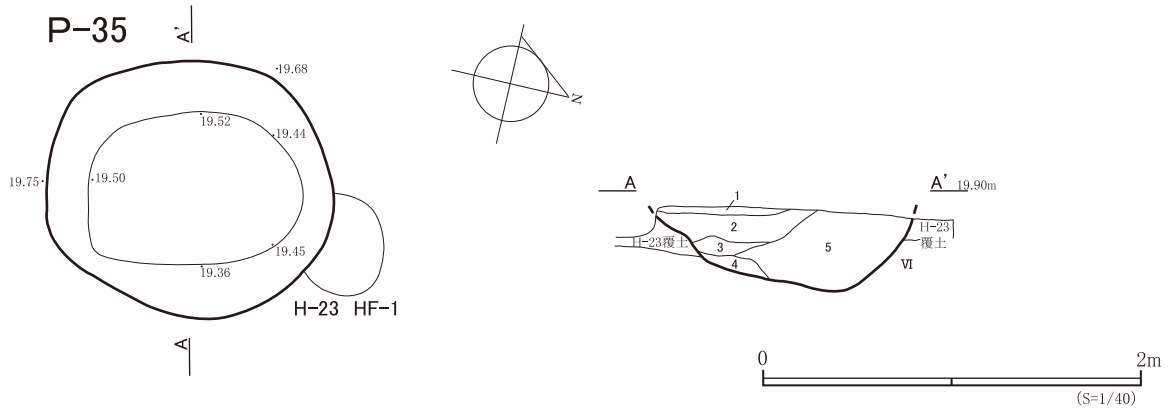
時期 覆土出土の遺物から縄文時代前期前半の可能性はある。(広田)

P-37 (図IV-31 図版18)

位置 F-56区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.04×0.81/0.79×0.57/0.10m

確認・調査 竪穴住居跡H-19の覆土を掘り下げ中に、IV群a類土器が器形を保ったまま出土した。H-19の床面を検出した時点で精査を行ったところ、土器周辺で不整な楕円形の黒色土のまとまりを確認した。南西側約半分を掘り下げたところ底面と壁の立ち上がりを確認したため、H-19と重複す

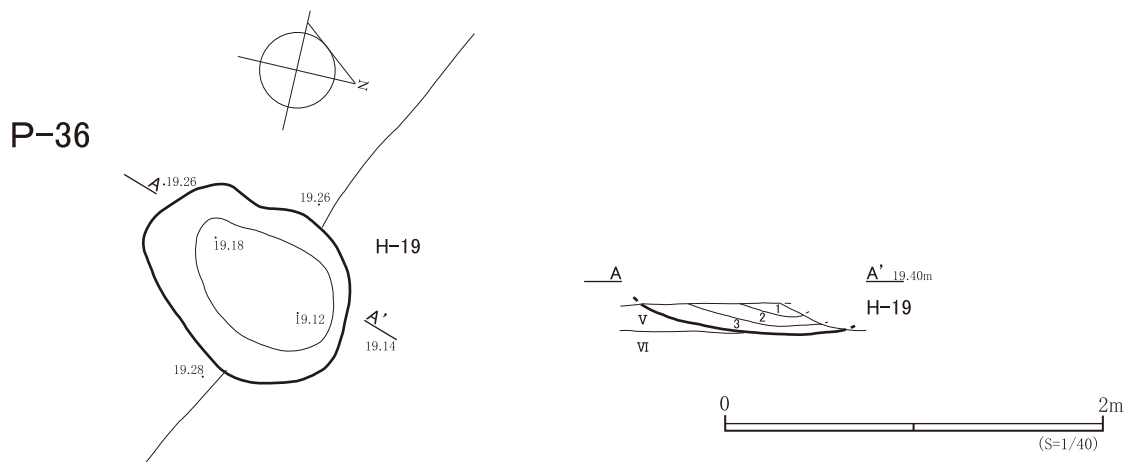


E-59
↑
E-60

遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				平均	最大			
P-35	1				Ta~c主体の層										
	2	黒色土		画然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅~すこぶ る堅						
	3	黒色土	VI層	画然	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅~すこぶ る堅					礎片	VIブロック状
	4	VI層	黒色土	画然	砂壤土	灰黄褐色	10YR5/2	なし	すこぶる堅						
	5	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅						VIブロック状

E-56

F-56

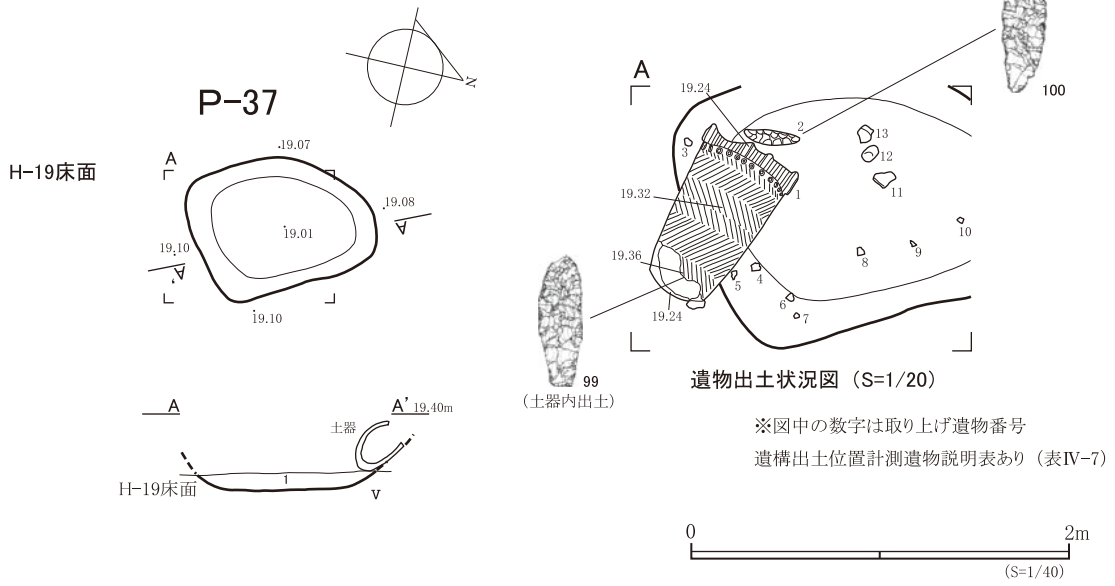


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大				形状
P-36	1	黒色土	IV~VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Na=i軽石	7	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量
	2	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Na=i軽石	5	2	5	亜円礫	風化	炭化物微量 粘土微量
	3	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Na=i軽石	10	2	7	亜円礫	風化	—

図IV-30 P-35・36

F-56

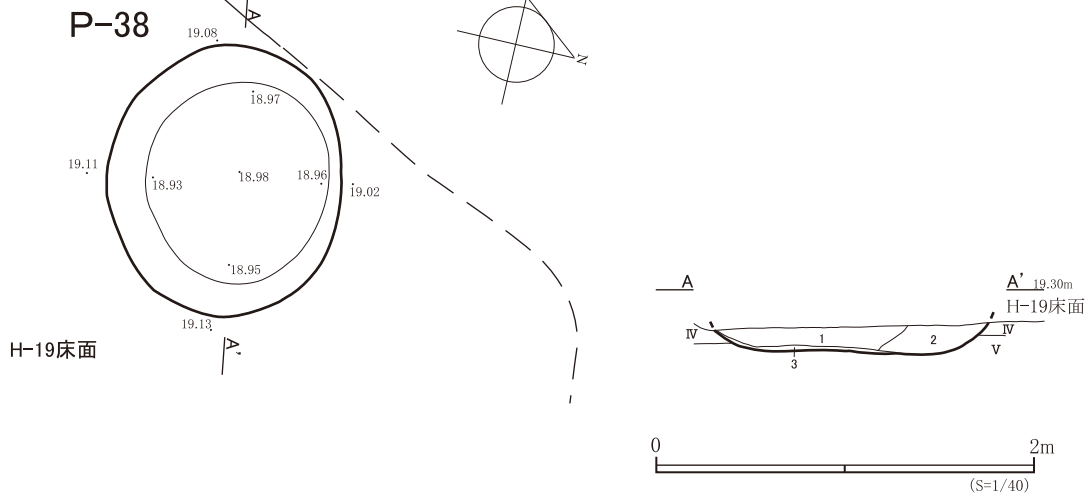
G-56 →



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		主体層	混在層			色類	色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
P-37	1	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	中	堅	Ma-I軽石	15	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量	

G-56

G-57



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考
		主体層	混在層			色類	色名	マンセル 表色系	粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)	粒径(mm)			
P-38	1	黒色土	IV層	明瞭	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	Ma-I軽石	15	2	5	亜円礫	風化	—
	2	黒色土	IV層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	Ma-I軽石	7	2	5	亜円礫	風化	—
	3	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-I軽石	1	2	3	亜円礫	風化	—

図IV-31 P-37・38

る土坑と判断し調査した。原則的に遺物は残しながら坑底面まで掘り下げ、最終的に出土地点を計測して取り上げた。平面形は確認面、坑底面共に不整の楕円形である。新旧関係は土層の観察や遺物の出土状況などから、H-19より新しい。また、覆土及び坑底面出土の黒曜石製の石器2点（石槍またはナイフ）について産地推定分析を行った（付篇1節参照）。

覆土 1層のみで、黒色土を主体としIV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に緩く立ち上がる。

遺物出土状況 坑底面からIV群a類土器31点、石槍またはナイフ1点、フレイク1点が出土した。坑底～覆土中からIV群a類土器がまとまって出土している（図IV-31、図V-2-7）。この土器は器形を保っており、口縁部がやや低い横倒しに近い状態で出土した。底部を欠き、土器内からは石槍またはナイフとフレイクが1点ずつ出土している。覆土からはI群b類土器1点、IV群a類土器2点、石槍またはナイフ1点、フレイク23点、礫3点が出土した。

時期 坑底面出土の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。（広田）

P-38（図IV-31 図版18）

位置 G-56・57区 **平面形態** 円形

規模 1.44×1.24/1.07×0.96/0.18m

確認・調査 竪穴住居跡H-19の北西側壁際を精査時に、円形の黒色土のまとまりを確認した。東西方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。覆土の堆積状況や規模などから、H-19の付属遺構ではなく、重複する遺構と判断して調査した。新旧関係は不明である。

覆土 3層に分けた。いずれも黒色土が主体でIV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に緩く立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からフレイク4点、砥石1点、礫2点が、坑底面からたたき石1点、台石・石皿1点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から、縄文時代早期～後期の可能性がある。（広田）

P-39（図IV-32 図版19）

位置 E-58・59区 **平面形態** 楕円形？

規模 (1.06)×(0.39)/(0.92)×(0.30)/0.13m

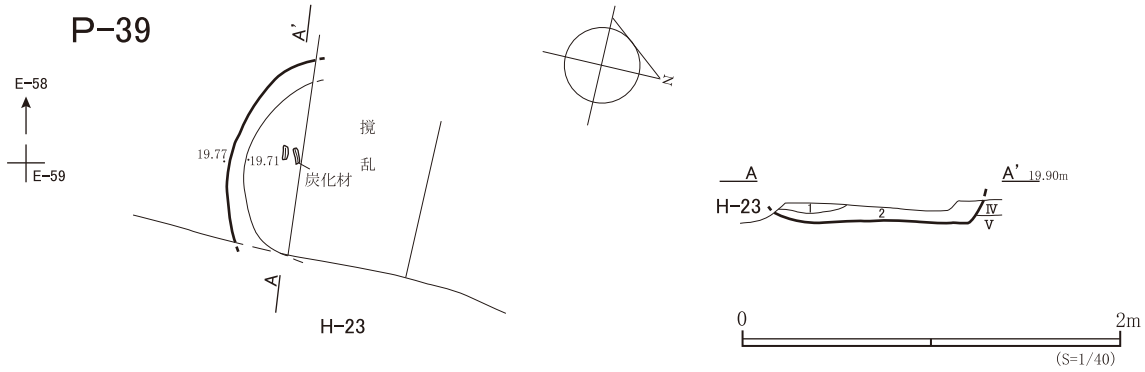
確認・調査 竪穴住居跡H-23調査中、住居外西側のIV層面で半円形の黒褐色土がみられた。北側は攪乱により壊されており、この攪乱土を掘り下げ、土層断面を確認した。H-23と重複するが、新旧関係は不明である。土層断面記録後、南側を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。全体の半分以上は削平されるが、平面は楕円形と推定する。

覆土 2層に分けた。覆土1層は黒色土、覆土2層は黒褐色土で、覆土2層では炭化材がみられた。

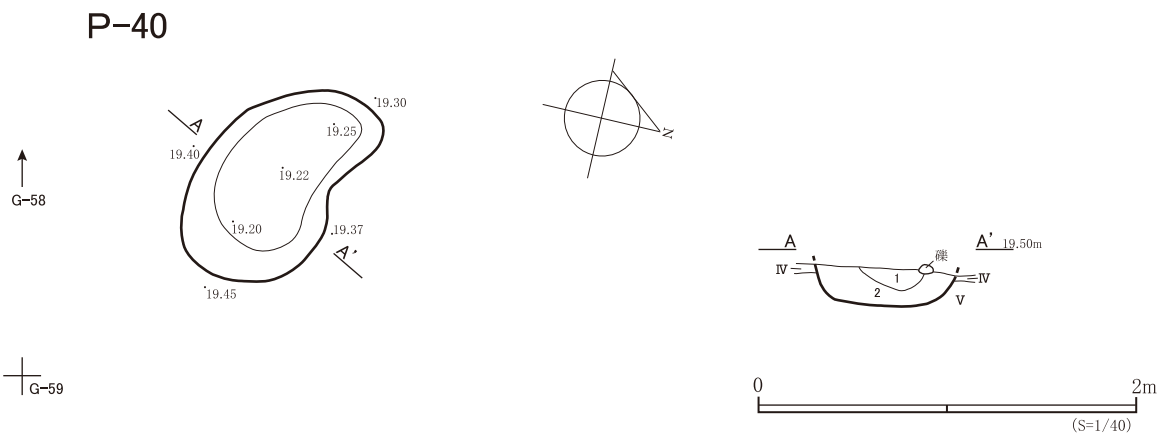
底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からつまみ付きナイフ1点、加工・使用痕のある礫1点が出土した。加工・使用痕のある礫は炭化物が全面に付着する。

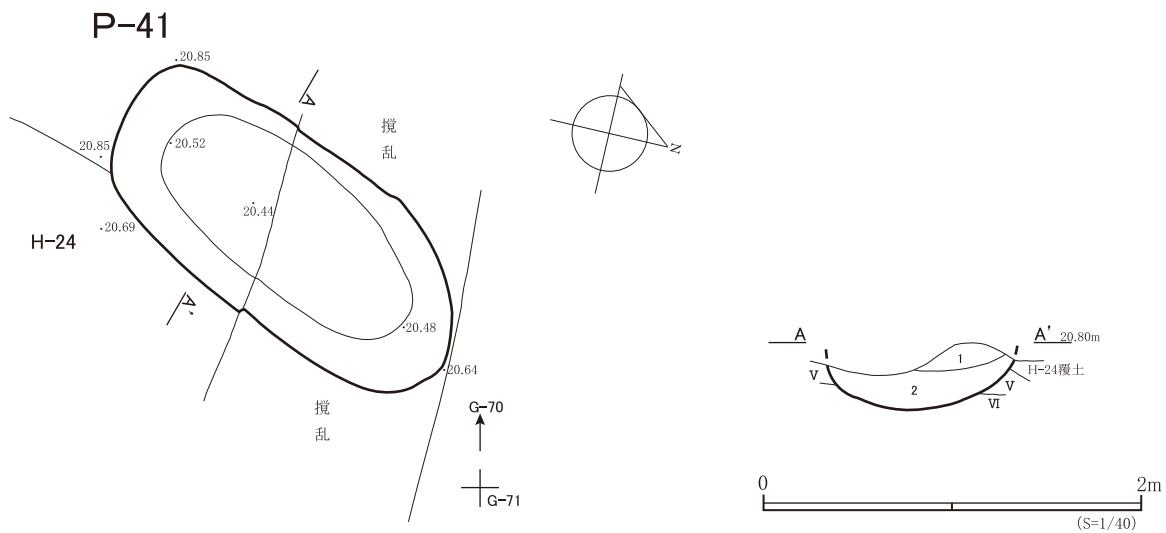
時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から、縄文時代早期～後期の可能性がある。（愛場）



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
P-39	1	黒色土	画然	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ma-1軽石	10	2~3	亜円礫	風化	—		
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	40	2~3	5	亜円礫	風化	炭化材	



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
P-40	1	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	10	2	6	亜円礫	風化	—	
	2	黒色土	IV層	画然	壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	30	2	6	亜円礫	風化	—	



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
P-41	1	III層	Ta-c	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅								
	2	黒色土	VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅								VI少量

図IV-32 P-39~41

P-40 (図IV-32 図版19)

位置 G-58区 平面形態 不整な楕円形

規模 $1.24 \times 0.79 / 0.91 \times 0.58 / 0.22\text{m}$

確認・調査 G-58区でIV層上面の精査を行ったところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。黒色土の南東側部分を掘り下げたところ、底面及び壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し、調査した。

覆土 2層に分けた。どちらも黒色土主体で覆土1層はVI層、覆土2層はIV層が混ざる土層である。

底面・壁 底面は平坦である。壁は南東側が緩やかで、他は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から礫8点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から、縄文時代早期～後期の可能性がある。(広田)

P-41 (図IV-32 図版19)

位置 F-70区 平面形態 楕円形

規模 $2.16 \times 0.99 / 1.56 \times 0.68 / 0.36\text{m}$

確認・調査 竪穴住居跡H-24調査中、住居跡外の北西側に楕円形の黒色土と一部に樽前c火山灰がみられた。黒色土の北側半分を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土坑の北側の上位は攪乱により壊される。H-24、P-44と重複し、いずれも本遺構が新しい。平面は北東-南西方向に長軸がある楕円形で、削平の影響のない南側では隅丸長方形に近い形状である。

覆土 2層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体層、覆土2層は黒褐色土層である。

底面・壁 底面と壁の立ち上がりは曲線的である。

遺物出土状況 遺物は覆土からII群a類土器2点、フレイク1点、礫2点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(愛場)

P-42 (図IV-33 図版19)

位置 D-69・70区 平面形態 楕円形

規模 $1.57 \times (0.90) / 1.27 \times (0.74) / 0.21\text{m}$

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で楕円形の暗褐色土がみられた。北側は道路の側溝で壊されており、攪乱土を掘り下げ、土層を確認した。土層断面を記録した後、南側を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。北東側には竪穴住居跡H-28があり、わずかに重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 3層に分けた。暗褐色土層の覆土1層が主体である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からII群a類土器1点、フレイク2点、礫4点が出土した。

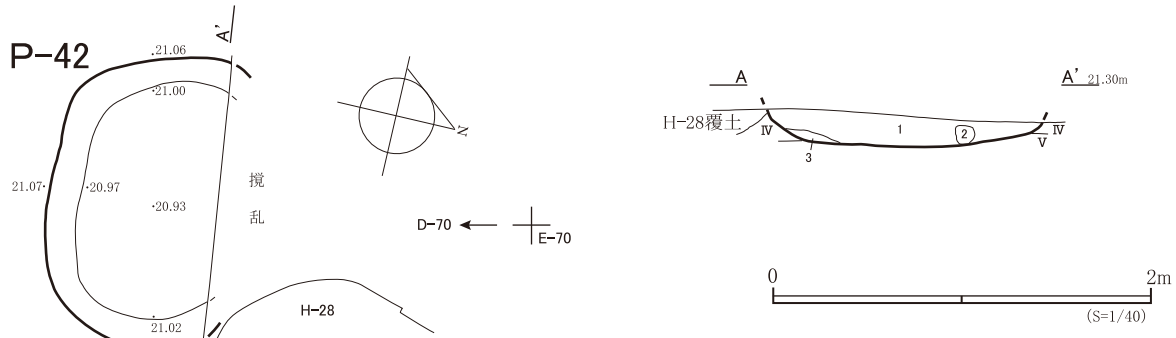
時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性はある。(愛場)

P-43 (図IV-33 図版19)

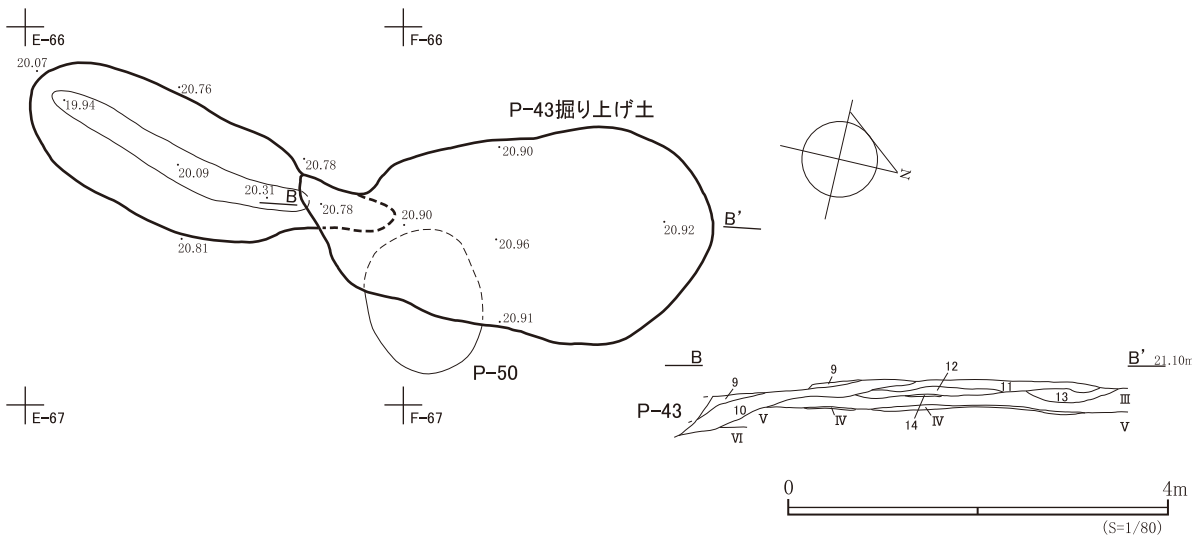
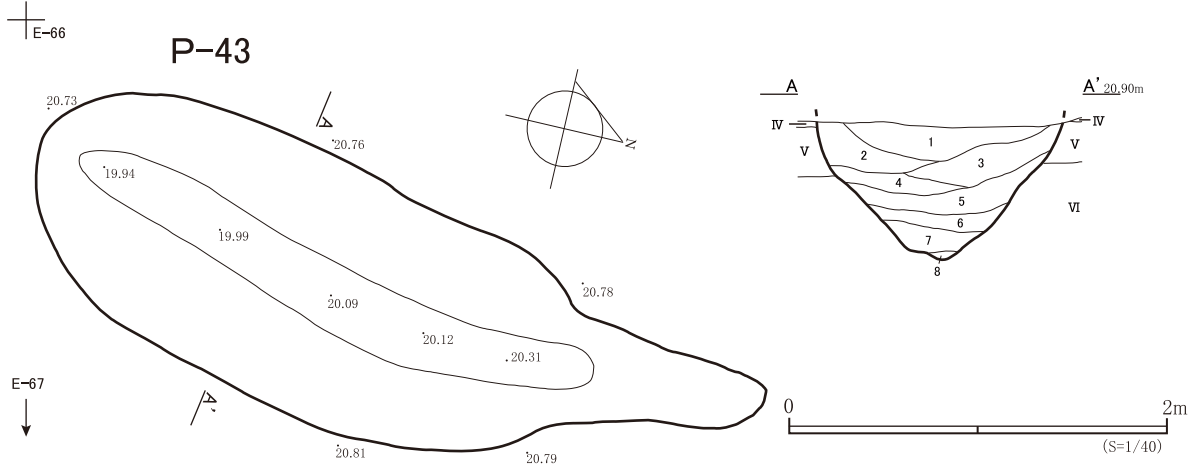
位置 E-66区 平面形態 不整な長楕円形

規模 $4.03 \times 1.33 / 2.94 \times 0.52 / 0.89\text{m}$

確認・調査 E-66区でIV層上面を精査したところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の短軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し調査した。また、P-43の北側に接する楕円形の褐色土のまとまりを確認し、長軸方向にトレンチ調



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		原界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				面積 割合(%)	平均					最大
P-42	1	黒色土	VI層	面然	シルト 質礫土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ma-1軽石	20	2~3	10	非円礫	風化	炭化材少量	VI主体
	2	VI層	黒色土	面然	埴壌土	褐色	10YR4/6	中~強	堅								
	3	黒色土	VI層	面然	質礫土	黒褐色	10YR2/2	中	堅								



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		原界	野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		粒径(mm)		形状	風化の 程度	混入物	備考
		主体層	混在層			色名	マンセル 表色系				面積 割合(%)	平均	最大					
														面積 割合(%)				
P-43	1	黒色土	IV層	面然	シルト質礫土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	5	2	5	非円礫	風化	ローム粒(径1~10mm)1%		
	2	黒色土	IV・VI層	面然	シルト質礫土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	10	2	4	非円礫	風化	ローム粒(径1~8mm)1%		
	3	VI層	面然	埴壌土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	5~7	2	4	非円礫	風化	ローム粒(径1~7mm)10%			
	4	黒色土	IV層	面然	シルト質礫土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	5	2	4	非円礫	風化	ローム粒(径1~6mm)1%		
	5	黒色土	IV・VI層	面然	シルト質礫土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	7~10	2	4	非円礫	風化	ローム粒(径2~5mm)1%		
	6	黒色土	IV・VI層	面然	シルト質礫土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	3	2	6	非円礫	風化	ローム粒(径1~10mm)15%		
	7	黒色土	IV・VI層	面然	シルト質礫土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ma-1軽石	3	2	4	非円礫	風化	ローム粒(径1~10mm)7%		
	8	黒色土	VI層	面然	シルト質礫土	褐色	10YR2/1	弱~中	軟~堅									
P-43 掘り上げ土	9	VI層	面然	埴壌土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	非円礫	風化	ローム粒(径2~5mm)2%			
	10	VI層	黒色土	面然	埴壌土	褐色	10YR4/6	中~強	堅									
	11	黒色土	IV層	面然	埴壌土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	Ma-1軽石	2	2	4	非円礫	風化			
	12	黒色土	IV・VI層	面然	シルト質礫土	黒褐色	10YR2/3	弱~中	堅	Ma-1軽石	3	2	3	非円礫	風化	ローム粒(径1~3mm)3%		
	13	黒色土	IV・VI層	面然	シルト質礫土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	1	2		非円礫	風化			
	14	IV層	面然	砂礫土	褐色	10YR4/6	なし~強	堅	Ma-1軽石	70	2	2	非円礫	風化				

図IV-33 P-42・43

査を行い、褐色～黒褐色土層の堆積を確認した。位置関係や土層の堆積状況からP-43に伴う掘り上げ土と判断した。平面形はP-43、掘り上げ土共に南北に長い不整な長楕円形である。調査手順は、先にP-43を完掘し、次に掘り上げ土の調査を行った。掘り上げ土はP-50と重複し、新旧関係は掘り上げ土がP-50の上に位置するため、掘り上げ土が新しい。

覆土 8層に分けた。黒色土にIV・VI層が混じる土層が多く、色調は暗褐色～黒色を呈する。

底面・壁 底面は北端が最も高く、南側に向かって傾斜して低くなる形状である。壁の立ち上がりは全体的に急角度で、北側はごく緩やかである。

付属遺構 北側に掘り上げ土がみられ、規模は長軸4.4m、厚さ0.3mである。III層上位に堆積し、VI層ないし黒色土主体の褐色～黒褐色の土層で構成される。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器4点、IV群a類土器1点、石鏃1点、U・Rフレイク1点、フレイク19点、礫4点が出土した。また、掘り上げ土からII群a類土器1点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、スクレイパー3点、U・Rフレイク6点、フレイク46点、磨製石斧1点、礫11点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉と考える。(広田)

P-44 (図IV-34 図版19)

位置 F・G-70・71区 **平面形態** 楕円形?

規模 4.96×(1.78)／4.67×(1.78)／0.22m

確認・調査 包含層調査中、竪穴住居跡H-24の北側で、攪乱で壊された楕円形の黒褐色土がみられた。東西方向に土層観察用のベルトを残し、周囲の覆土を掘り下げた。底面と壁の立ち上がりを確認し、焼土や柱穴がみられないため、土坑と判断した。H-24、P-41と重複し、新旧関係はP-41が新しく、H-24とは不明である。

覆土 2層に分けた。覆土1層は樽前c降下火山灰主体層、覆土2層は黒褐色土層である。

底面・壁 底面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からI群b類土器1点、II群a類土器1点、IV群a類土器1点、石鏃1点、フレイク3点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-45 (図IV-35 図版20)

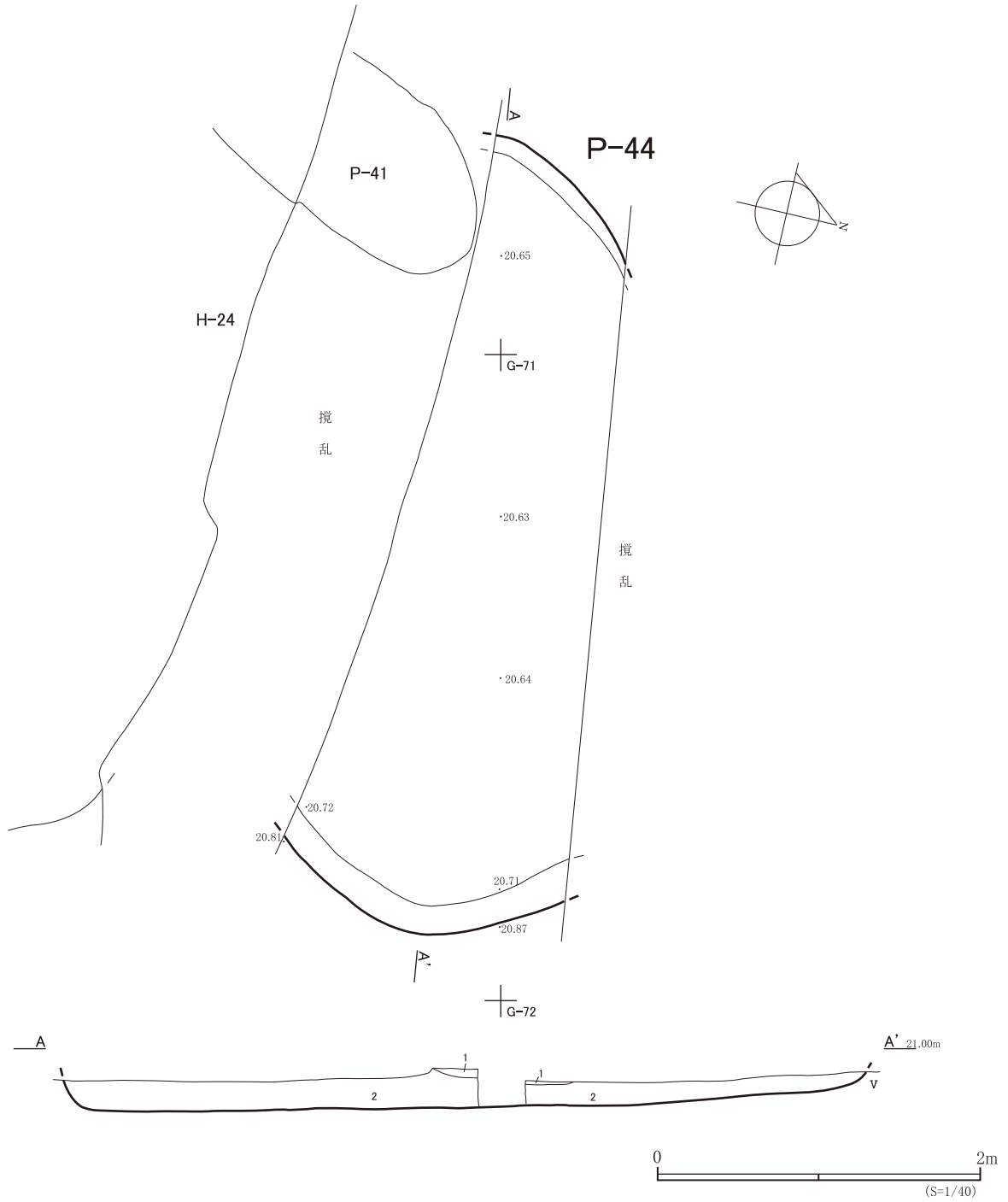
位置 F・G-53・54区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 6.24×3.63／5.83×3.03／0.51m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で不整形の黒色土がみられた。東西・南北方向のトレンチ調査を行い、V～VI層中で底面と壁の立ち上がりを確認した。トレンチに沿って土層観察用ベルトを設定し、周囲を掘り下げた。土坑の覆土上面では南東側でF-4、南西側でFC-4がみられたが、本遺構とは関連しないものと考えた。底面に焼土や杭穴・柱穴がないことから土坑と判断した。平面形状はほぼ南北に長軸がある不整の楕円形で、規模は長径6.24mと大型である。

覆土 13層に分けた。覆土1層はIII層主体、覆土2・3層は樽前c降下火山灰主体土である。それ以下は覆土5・11層がVI層主体となる以外は黒色土が主体である。覆土中位の覆土13層では厚さ約4cmの赤色土壌が堆積する。

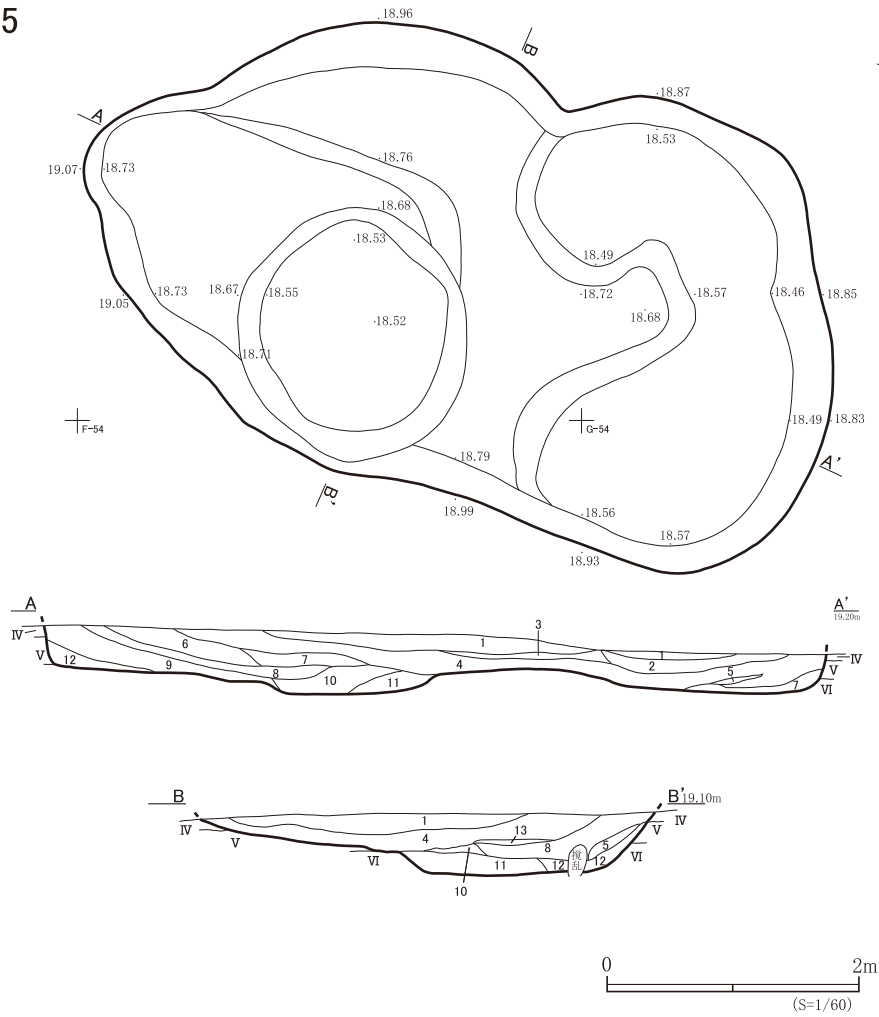
底面・壁 底面は凹凸が激しく、中央部は高くなる。また中央東側の壁際では土坑状にくぼむ部分がある。壁は南北では直立気味で、東西では斜めに立ち上がる。



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系					平均				最大
P-44	1	Ta-c主体の層														
	2	黒色土	IV・VI層	自然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma=1軽石	5	2~3	8	亜円礫	風化	—

図IV-34 P-44

P-45



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	階位名		階界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調			種類	面積 割合(%)		形状			風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系	粘着性		堅密度	平均					最大
P-45	1	III層	尚然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中~強	堅	—				—	—		
	2	Ta-c主体の層														
	3	黒色土	Ta-c	尚然	シルト 質壤土	—										—
	4	黒色土	IV層	尚然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	2	3	10	蓮田礫	風化	—
	5	IV層	黒色土	尚然	砂壤土	暗褐色	10YR3/4	なし	堅	Ma-1軽石	90以上	2~3	10	蓮田礫	風化	—
	6	黒色土	IV層	尚然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	30	2~3	10	蓮田礫	風化	—
	7	黒色土	IV・VI層	尚然	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	15	2~3	10	蓮田礫	風化	—
	8	黒色土	IV層	尚然	シルト 質壤土	黒色	10YR1.7/1	中~強	堅	Ma-1軽石	2	2	—	蓮田礫	風化	—
	9	黒色土	IV層	尚然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	2	3	10	蓮田礫	風化	—
	10	黒色土	IV層	尚然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-1軽石	30	2~3	10	蓮田礫	風化	—
	11	IV層	黒色土	尚然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	—				—		
	12	黒色土	IV・VI層	尚然	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-1軽石	15	2~3	10	蓮田礫	風化	—
	13	赤色土	尚然	壤土	暗赤褐色	2.5YR3/4	中~強	堅	—				—			

図IV-35 P-45

付属遺構 南側、北側の壁際は段構造があり、約20cm低くなる。

遺物出土状況 遺物は覆土から84点出土した。内訳はI群b類土器2点、II群a類土器7点、IV群a類土器11点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、フレイク32点、磨製石斧1点、砥石7点、礫42点である。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉の可能性はある。(愛場)

P-46 (図IV-36 図版20)

位置 F-59、G-59・60区 **平面形態** 楕円形

規模 2.88×1.99/2.54×1.77/0.34m

確認・調査 G-59区のIV層上面で精査を行ったところ、楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の短軸方向でトレンチ調査を行ったところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。覆土を掘り下げ底面を精査し、壁際付近で柱穴・杭穴を検出したため、調査した。

覆土 4層に分けた。黒色土が主体でIV層やVI層が混ざる土層である。

底面・壁 底面はVI層中に構築され、やや凹凸がみられる。壁は全体的に急角度に立ち上がる。

付属遺構 底面南側の壁際付近で柱穴・杭穴9か所(S P-1~9)を確認した。配置はS P-1~4が南西壁際、S P-5~9が南東壁際でそれぞれ近接し、平面は円形が多い。断面形は土坑内側に向かってやや傾くものが多く、底部は「尖」が多く「丸」もみられる。規模は、確認面の径が8~11cmと全体的に小型で、深さは14~25cmとややばらつきがみられる。

遺物出土状況 全て覆土出土で、I群b類土器50点、II群a類土器11点、石槍またはナイフ1点、フレイク10点、磨製石斧1点、礫18点が出土している。

時期 出土遺物などから縄文時代早期後半と考えられる。(広田)

P-47 (図IV-36 図版20)

位置 E・F-65区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 3.21×2.22/2.80×1.80/0.35m

確認・調査 E-65区周辺でIV層上面の精査を行ったところ、樽前c火山灰とその外側に広がる楕円形の黒色土のまとまりを確認した。トレンチ調査を行ない、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し、調査した。平面形は確認面、坑底面共に不整の楕円形で、南西側の壁が竪穴住居跡H-27とわずかに重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 4層に分けた。覆土1層は樽前c火山灰が主体の層で、覆土2・3層は黒色土主体の黒~黒褐色土層である。覆土4層はVI層主体の黒褐色土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 全て覆土出土で、II群a類土器23点、IV群a類土器6点、石鏃2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー2点、U・Rフレイク2点、フレイク58点、台石・石皿1点、礫30点が出土した。

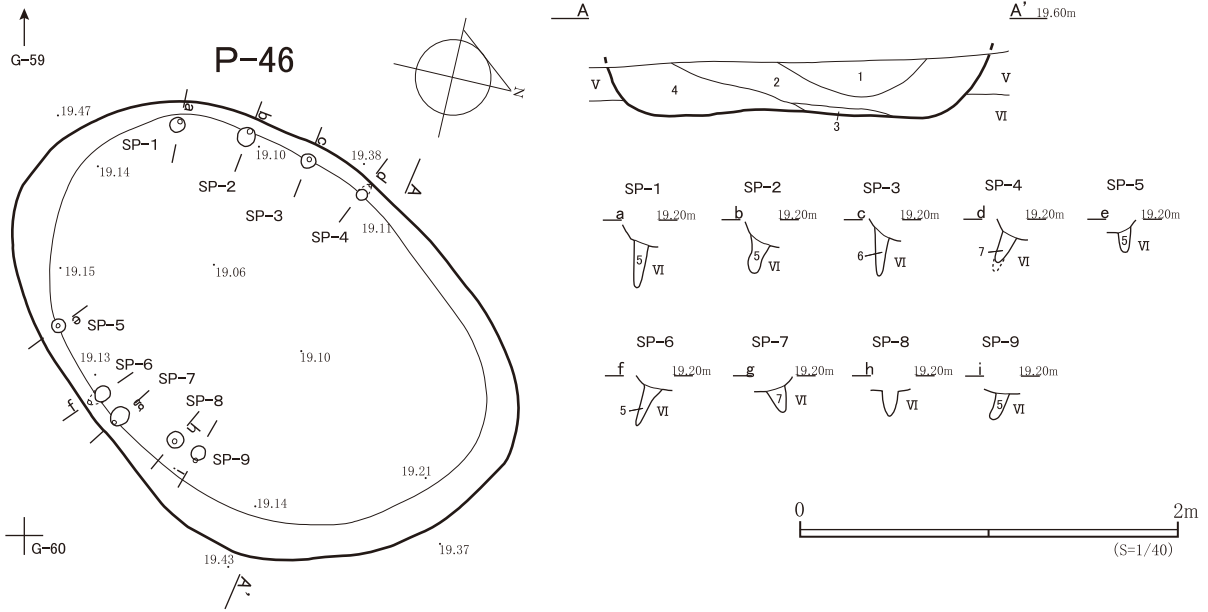
時期 出土遺物や、周辺の遺構から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性はある。(広田)

P-48 (図IV-37 図版20)

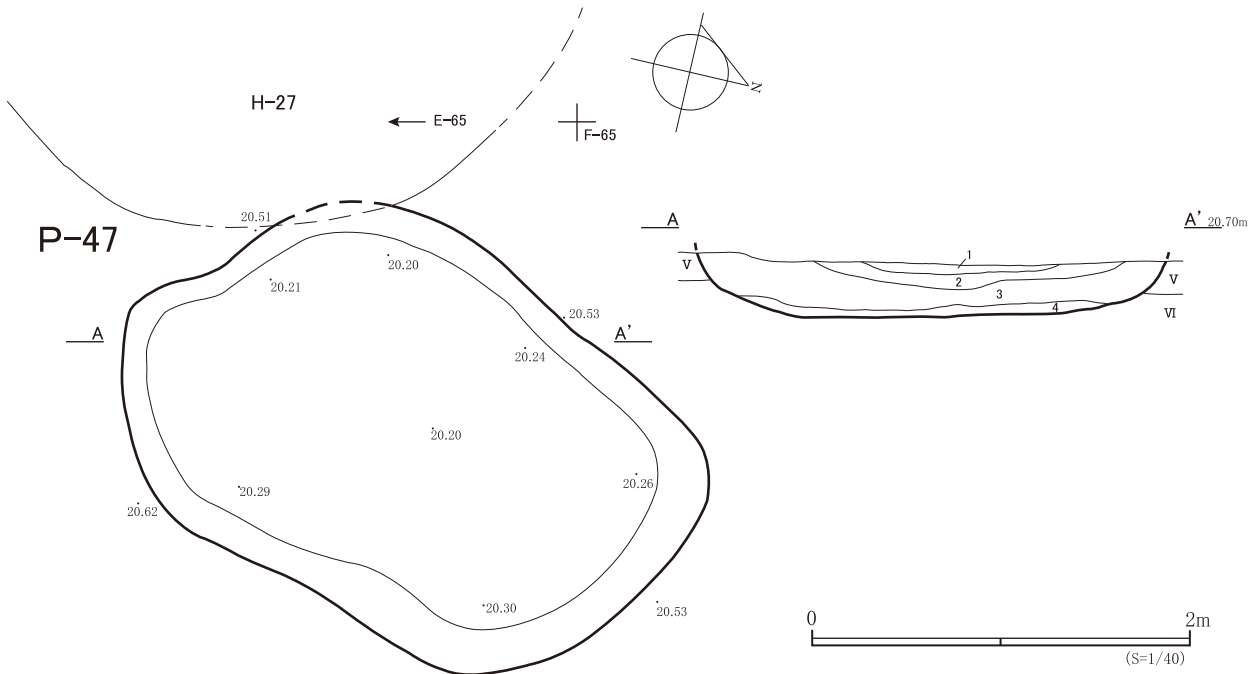
位置 D-71、E-70・71区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.49×1.26/0.79×0.71/0.13m

確認・調査 竪穴住居跡H-24調査中、住居跡の床面でIV群土器のまとまりと楕円形の黒色土がみら

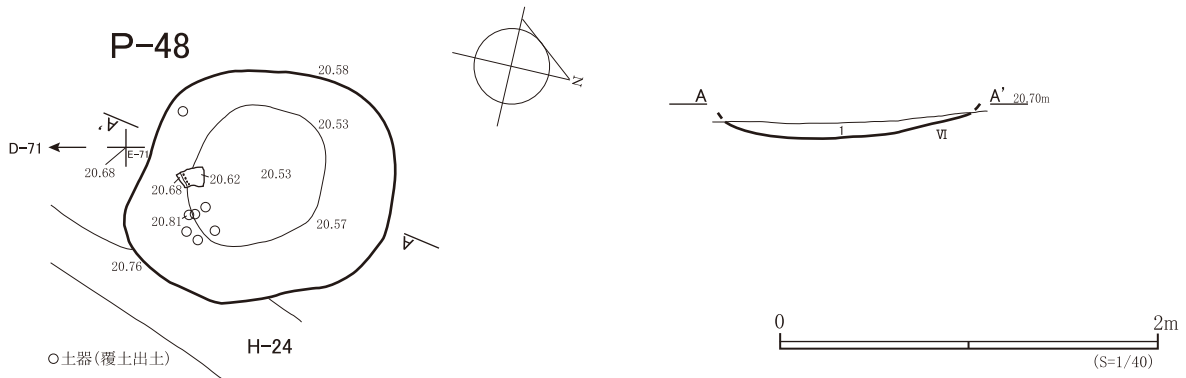


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		腐界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				面積 割合 (%)	平均				最大
P-46	1	黒色土	IV層	明瞭	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	7	2	3	面円礫	風化	
	2	黒色土	IV層	明瞭~ 画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	2	2	3	面円礫	風化	ローム粒(径1 ~4mm)1%
	3	黒色土	VI層	画然	シルト質 壤土~堆 積土	黒褐色	10YR2/3	中	堅						風化	ローム粒(径1 ~5mm)10%
	4	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	面円礫	風化	ローム粒(径2 ~6mm)3%
P-46 SP-1~9	5	VI層	黒色土	画然	堆積土	暗褐色	10YR3/3	中	堅						風化	ローム粒(径1 ~3mm)2%
	6	黒色土・VI層	IV層	画然	シルト質 壤土~堆 積土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	Ma-1軽石	2	2	2	面円礫	風化	ローム粒(径2 ~10mm)3%
	7	VI層	黒色土	画然	堆積土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	Ma-1軽石	1	2	2	面円礫	風化	ローム粒(径2 ~20mm)5%

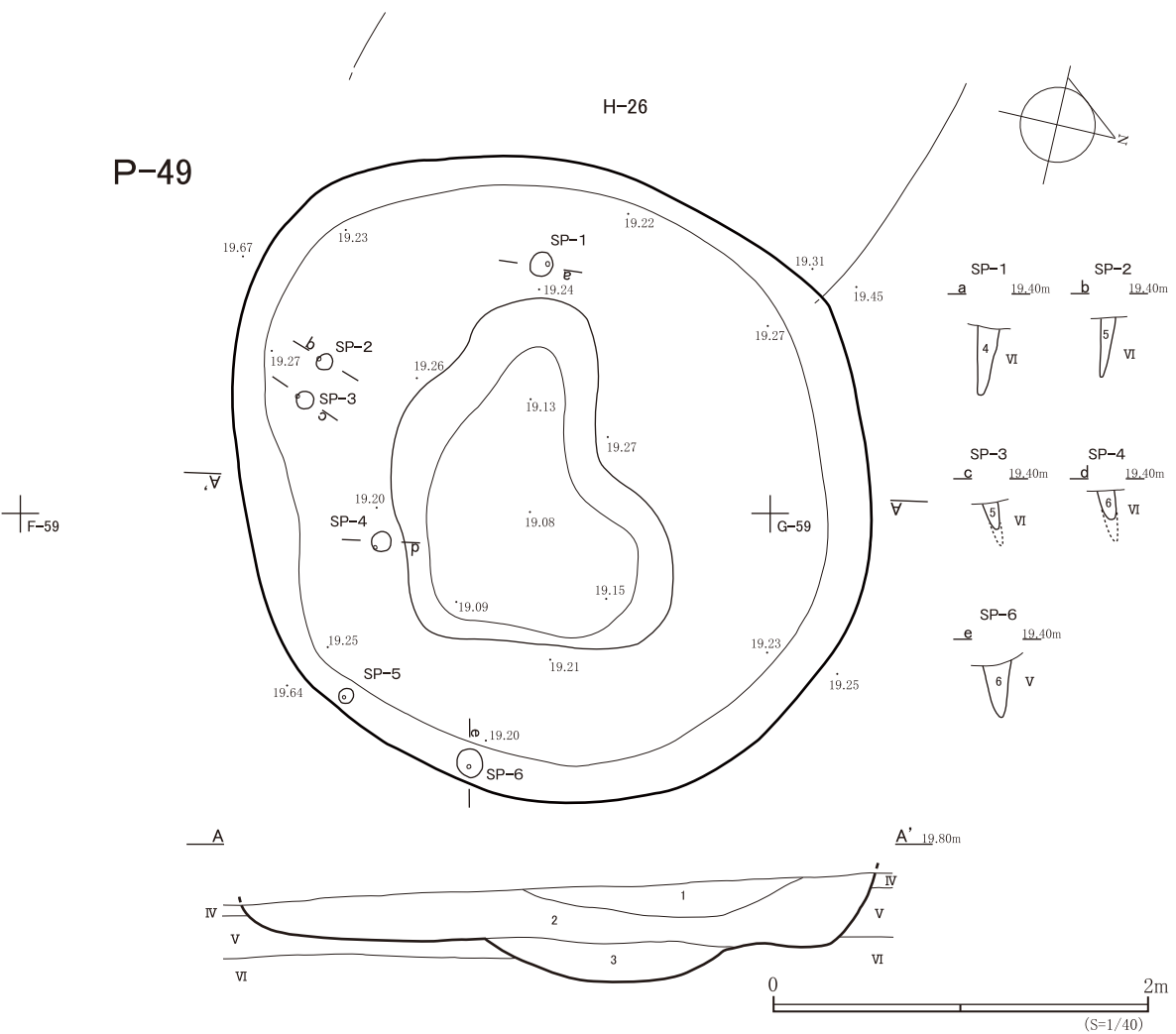


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		腐界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				面積 割合 (%)	平均				最大
P-47	1									Ta-c主体の層						
	2	黒色土	IV・VI層	明瞭	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	2	2	3	面円礫	風化	Ta-c3% ローム状 土を含む
	3	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	1	2	4	面円礫	風化	ローム粒(径1 ~3mm)1%
	4	VI層	黒色土	画然	堆積土	黒褐色	10YR2/3	中	堅						風化	ローム粒(径3 ~10mm)20%

図IV-36 P-46・47

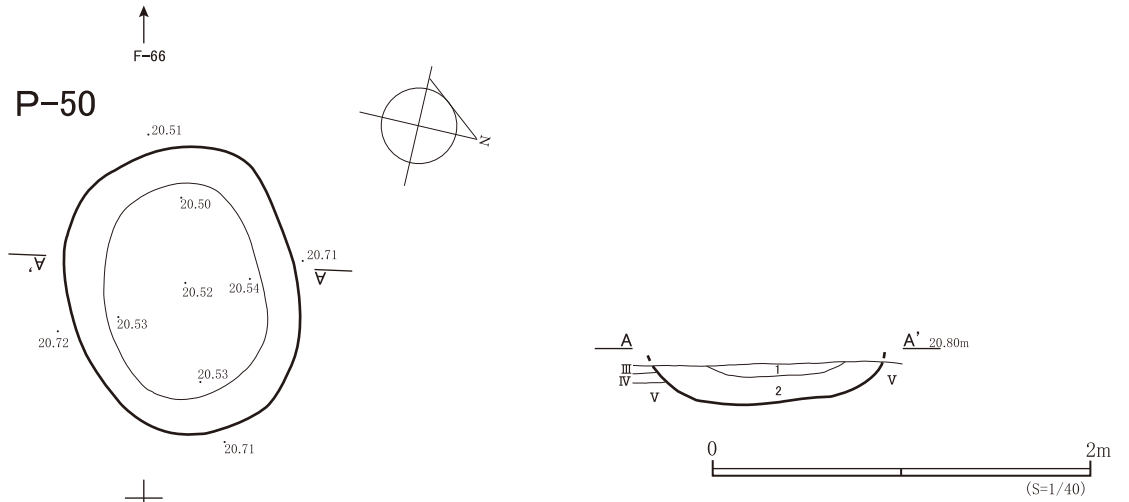


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						マンセル 表色系	色名					平均					最大
P-48	1	黒色土	VI層	—	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	中	堅	—	—	—	—	—	炭化材	VIブロック状	

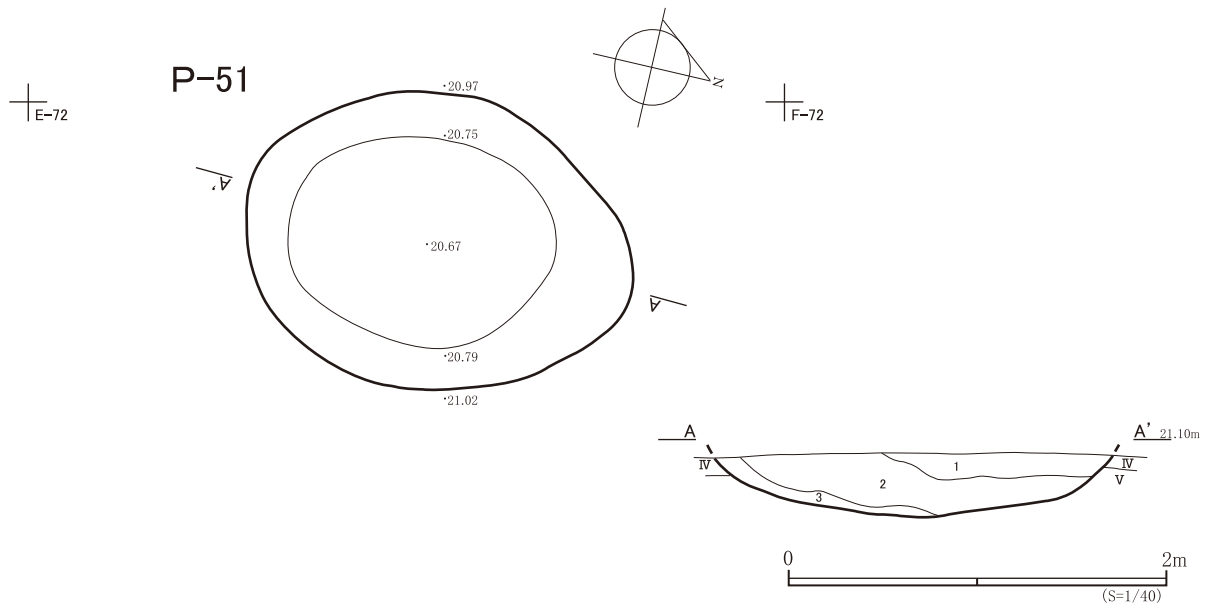


遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						マンセル 表色系	色名					平均					最大
P-49	1	黒色土	IV層	明瞭	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	10	2	7	並円礫	風化	—	
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	20~25	2	8	並円礫	風化	—	
	3	黒色土	IV層	画然	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	10	2	5	並円礫	風化	—	
P-49 SP-1~ 4・6	4	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質粘土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	7	2	4	並円礫	風化	0~10粒(径1 ~4mm)20%	
	5	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質粘土	黒色	10YR2/1	弱~中	軟~堅	Ma-1軽石	2	2	—	並円礫	風化	0~10粒(径2 ~20mm)1%	
	6	黒色土	IV・VI層	画然	シルト 質粘土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-1軽石	5	2	—	並円礫	風化	0~10粒(径 2mm)5%	

図IV-37 P-48・49



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
P-50	1	黒色土	IV層	画然	シルト 質礫土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	7	2	4	垂直礫	風化	—	
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質礫土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	Ma-i軽石	3	2	5	垂直礫	風化	—	



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系					平均	最大				
P-51	1	黒色土	IV層	画然	シルト 質礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-i軽石	10	2	5	垂直礫	風化	—	
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質礫土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	Ma-i軽石	30	2~4	10	垂直礫	風化	—	
	3	黒色土	IV層	画然	シルト 質礫土	黒色	10YR2/1	中	堅	Ma-i軽石	5	2		垂直礫	風化	—	

図IV-38 P-50・51

れた。西側を半截したところ底面と壁の立ち上がりを確認し、規模から土坑と判断した。覆土からIV群a類土器が出土することから、H-24より新しい。

覆土 覆土は1層である。黒色土層で炭化材が混ざる。

底面・壁 底面から壁にかけて曲線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土からIV群a類土器10点、加工・使用痕のある礫1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(愛場)

P-49 (図IV-37 図版21)

位置 F・G-58・59区 **平面形態** 円形

規模 3.70×3.32/3.30×3.04/0.40m

確認・調査 F-58・59区付近のIV層上面の精査時に、円形の黒色土のまとまりを確認した。南北方向と東西方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。調査当初は竪穴住居跡と考えていたが、炉跡焼土がみられないことなどから土坑と判断した。坑底面の中央付近が一段低くなる構造で、坑底面まで掘り下げた後、柱穴・杭穴の調査を行った。西側は竪穴住居跡H-26と重複するが、新旧関係は土層観察などからP-49が新しい。

覆土 3層に分けた。全て黒色土が主体でIV層が混ざる土層である。

底面・壁 底面はV～VI層中に構築され、ほぼ平坦であるが中央付近は段構造になっている。壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

付属遺構 底面で柱穴・杭穴6か所(S P-1～6)、段構造1か所を確認した。柱穴・杭穴は中央より南側で、段の外側に位置する。また、S P-5・6は壁柱穴である。平面は全て円形である。断面形はやや傾くものが多く、底部は全て「尖」の形状である。規模は確認面の径が8～15cm、深さが21～37cmと小型でやや深いものが多い。段構造は坑底面中央付近が一段低くなるもので、平面は不整形である。

遺物出土状況 坑底面からII群a類土器10点、フレイク4点、礫1点が出土した。覆土からはI群b類土器24点、II群a類土器52点、石鏃1点、石槍またはナイフ5点、石錐1点、スクレイパー1点、U・Rフレイク5点、フレイク124点、砥石4点、加工・使用痕のある礫1点、礫18点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(広田)

P-50 (図IV-38 図版21)

位置 E・F-66区 **平面形態** 楕円形

規模 1.50×1.20/1.12×0.84/0.24m

確認・調査 P-43掘り上げ土のトレンチ調査を行った時にIV層上面で黒色土のまとまりとして確認した。西側がP-43掘り上げ土と重複していたため、P-43調査終了後に黒色土範囲の西側部分を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。P-43との新旧関係は、P-43掘り上げ土がP-50の上位にあるため、P-50が古い。

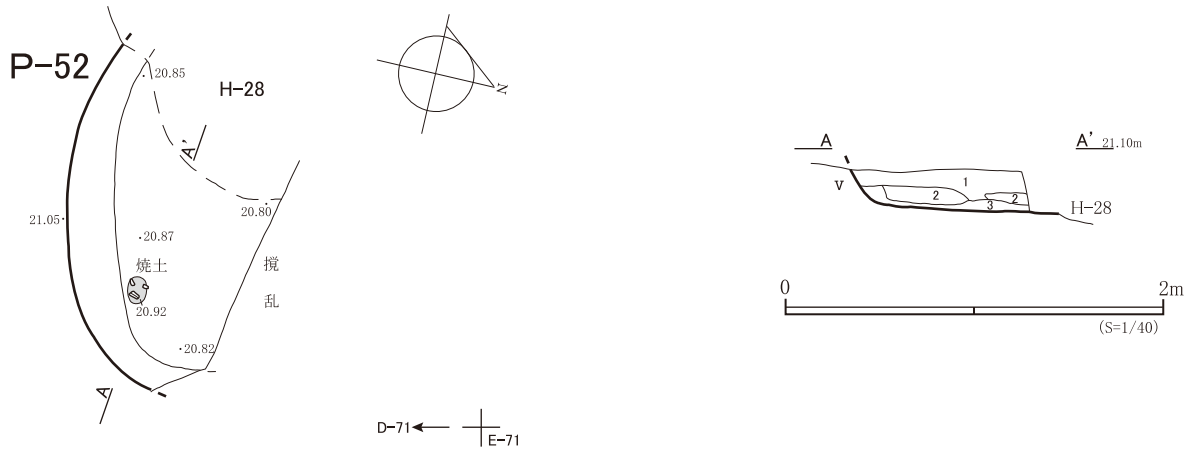
覆土 2層に分けた。どちらも黒色土が主体でIV層が少量混じる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は全体的に緩やかに立ち上がる。

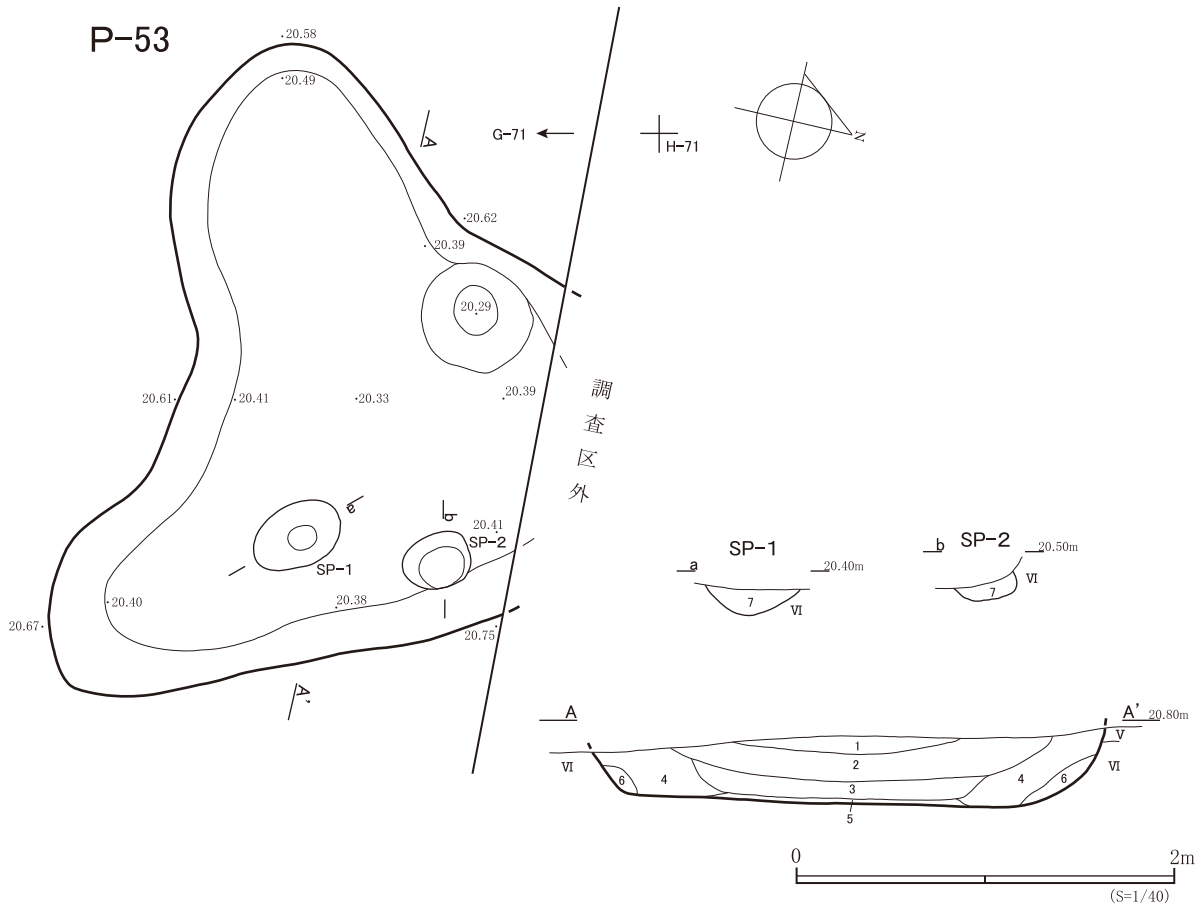
遺物出土状況 覆土から両面調整石器1点、フレイク56点、礫2点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性がある。

(広田)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		形状			風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大					
P-52	1	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	M ₀ -1軽石	10	2	8	垂円礫	風化	炭化材少量	
	2	VI層	画然	壤土	褐色	10YR4/6	中~強	堅									
	3	黒色土	VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中~強	堅								



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)		形状			風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大					
P-53	1					T _{a-c} 主体の層											
	2	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	M ₀ -1軽石	15	2	3	垂円礫	風化		
	3	黒色土	IV層	画然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	M ₀ -1軽石	10	2	5	垂円礫	風化		
	4	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	M ₀ -1軽石	15	3	8	垂円礫	風化		
	5	黒色土	VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅								
	6	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	M ₀ -1軽石	5	2~3		垂円礫	風化		
P-53 SP-1・2	7	黒色土	IV・VI層	画然	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅~軟	M ₀ -1軽石	3	2	5	垂円礫	風化		

図IV-39 P-52・53

P-51 (図IV-38 図版21)

位置 E-71・72区 平面形態 楕円形

規模 2.10×1.60/1.40×1.10/0.34m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で楕円形の黒色土・黒褐色土がみられた。西側を半截し、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土層断面を記録した後完掘した。

覆土 3層に分けた。いずれも黒色土にIV層が少量混ざる土層である。

底面・壁 底面は中央にむかって浅くくぼむ形状で、壁の立ち上がりは曲線的である。

遺物出土状況 覆土からII群a類土器21点、石鏃1点、スクレイパー1点、フレイク5点、礫3点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。(愛場)

P-52 (図IV-39 図版21)

位置 D-70区 平面形態 楕円形?

規模 (1.73)×(1.13)/(1.57)×(0.93)/0.24m

確認・調査 竪穴住居跡H-28に設定した東西方向のベルトの土層断面西側で、別の遺構の底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。土層断面からH-28が新しい。北側は攪乱で壊れており、土坑の南西側部分のみを調査し、東壁付近では覆土から炭化物と焼土を少量確認した。

覆土 3層に分けた。覆土1・3層は黒褐色土で、覆土1層では炭化材と焼土がみられた。覆土2層はVI層主体の褐色土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構から縄文時代前期前半、もしくは後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-53 (図IV-39 図版21)

位置 G-70・71区 平面形態 不整形

規模 3.60×(2.43)/3.14×(2.25)/0.43m

確認・調査 包含層調査中、V~VI層で不整形の樽前c降下火山灰と黒褐色土がみられた。南側を半截し、底面と壁の立ち上がりを確認し、規模から土坑と判断した。土層断面を記録した後完掘した。北側は調査区外へ続いており、全体の約7割を調査した。

覆土 6層に分けた。上位は樽前c降下火山灰と黒色土主体層が堆積し、底面や壁際にはVI層が多く混ざる暗褐色土が堆積する。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

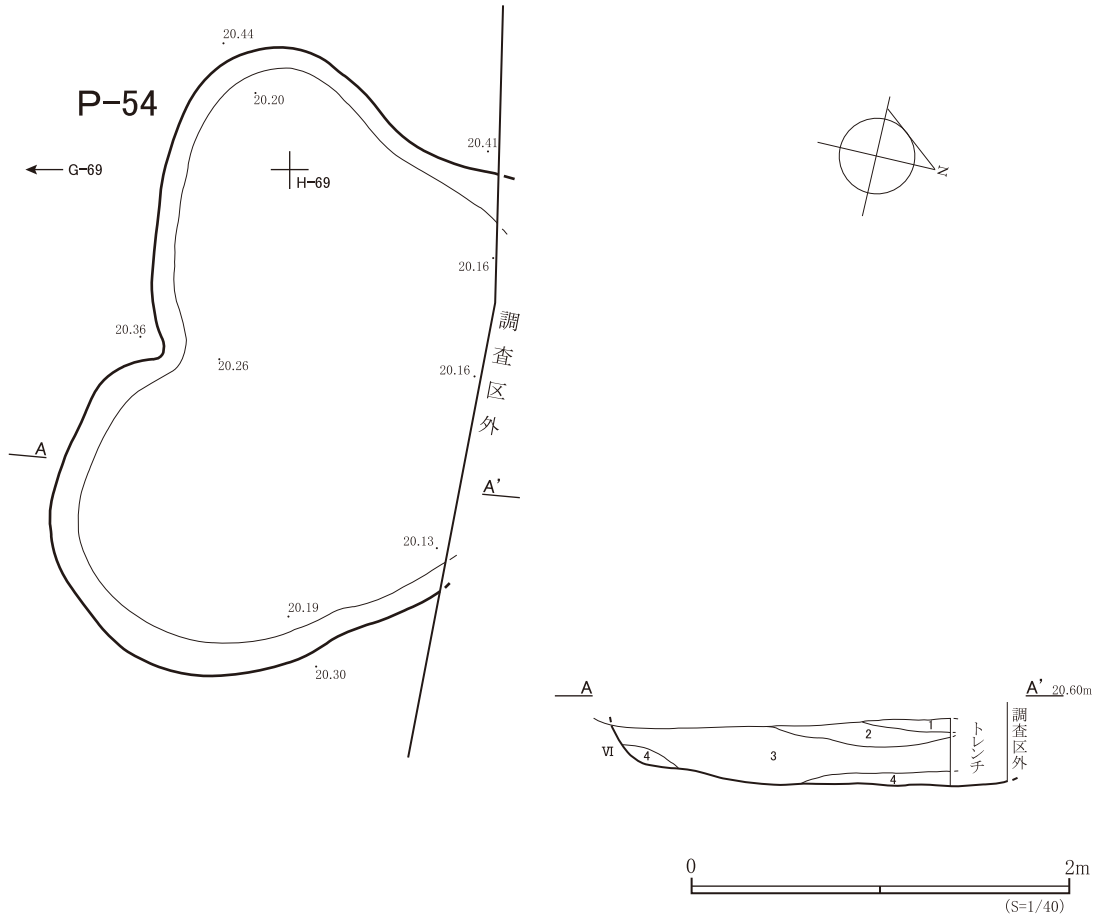
付属遺構 土坑2か所(S P-1・2)を確認した。S P-1・2は土坑東側の壁近くに位置し、平面は楕円形である。S P-1は底面が曲線的で斜めに立ち上がり、S P-2は底面が平坦である。

遺物出土状況 遺物は覆土から33点出土した。内訳はIV群a類土器14点、スクレイパー1点、フレイク2点、たたき石1点、加工・使用痕のある礫1点、礫14点である。

時期 出土遺物などから縄文時代後期前葉の可能性がある。(愛場)

P-54 (図IV-40 図版21)

位置 G・H-68・69区 平面形態 不整形?



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				平均	最大				
P-54	1	黒色土	両然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	—				Ta<7%	Ta<7% ロック状 を含む		
	2	Ta<7%主体の層														
	3	黒色土	IV・VI層	両然	シルト 質壤土	黒褐色	10YR2/2	弱~中	堅	Ma-i軽石	1	2	亜円礫	風化	ローム粒(径2 ~4mm)2%	
	4	VI層	黒色土	両然	シルト 質壤土	暗褐色	10YR3/3	弱~中	堅	—				ローム粒(径3 ~5mm)20%		

図IV-40 P-54

規模 3.33×2.17/3.02×2.02/0.36m

確認・調査 H-68・69区の包含層調査中に、樽前c火山灰のまとまりを確認した。そのため、調査区北壁沿いにトレンチ調査を行ったところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断し、調査した。

覆土 4層に分けた。覆土2層は樽前c火山灰主体の土層で、覆土1層にも少量混ざる。覆土3層は黒色土主体で、覆土4層はVI層主体の土層である。

底面・壁 底面は中央にむかって浅くくぼむ形状で、壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

遺物出土状況 覆土からフレイク474点、礫5点が出土した。

時期 周辺包含層出土の遺物から縄文時代前期前半もしくは後期前葉の可能性がある。(広田)

P-55 (図IV-41 図版22)

位置 G-65区 平面形態 楕円形

規模 ー×ー/0.90×0.67/0.02m

確認・調査 竪穴住居跡H-25の調査中に、覆土から被熱した礫がまとまって出土する範囲がみられた。床面まで掘り下げた段階で、礫出土範囲の直下に楕円形の黒色土のまとまりが確認された。そのため、別の遺構と判断し調査した。P-55は坑底面直上で確認したため、平面図は坑底面の範囲のみ図示した。新旧関係は確認状況や遺物出土状況からH-25より新しい。また、坑底出土の黒曜石製の石器1点(石槍またはナイフ)について産地推定の分析を行った(付篇1節参照)。

覆土 坑底面直上の1層のみである。黒色土主体でIV層が少量混ざる土層で、炭化物も微量みられる。

底面・壁 底面はほぼ平坦である。坑底面のみ確認したため、壁の状況は不明である。

遺物出土状況 坑底面からIV群a類土器3点、石槍またはナイフ1点、礫16点が出土した。覆土からはフレイク1点が出土した。礫は被熱により非常にもろく、取り上げできないものもあり、実際の点数はもっと多い。

時期 坑底面出土の遺物から縄文時代後期前葉である。(広田)

P-56 (図IV-41 図版22)

位置 G-65区 平面形態 楕円形

規模 0.82×0.64/0.70×0.52/0.06m

確認・調査 竪穴住居跡H-25の調査中にP-55と同様に、覆土から被熱した礫がまとまって出土する範囲がみられた。床面まで掘り下げた段階で、H-25の炉跡焼土HF-1と重複する楕円形の黒色土のまとまりを確認した。トレンチ調査を行い、H-25HF-1を壊して構築されている土坑であると判断した。

覆土 覆土はごく浅く1層のみである。黒色土主体で炭化物が少量混じる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦である。壁は確認できた部分がごく浅く、状況は不明である。

遺物出土状況 坑底面から礫6点が出土した。

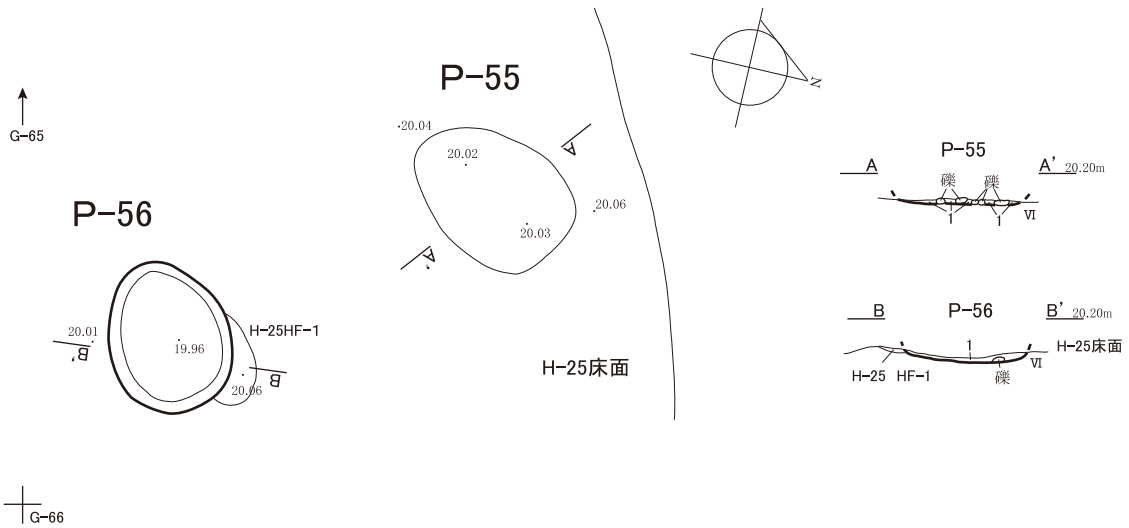
時期 周辺の類似する遺構などから縄文時代後期前葉の可能性がある。(広田)

P-57 (図IV-41 図版22)

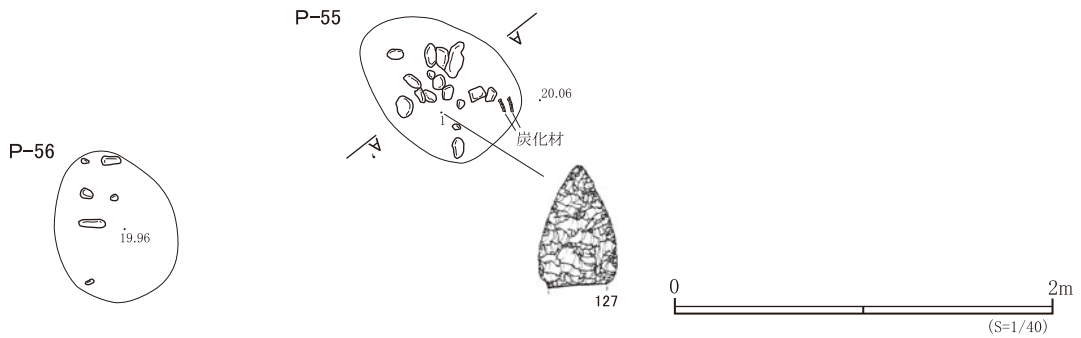
位置 G・H-56区 平面形態 楕円形

規模 0.96×0.80/0.72×0.56/0.10m

確認・調査 包含層調査中、IV層上面で礫のまとまりと円形の黒色土がみられた。中央に土層観察用ベルトを設定し、礫を残しながら黒色土を掘り下げた。土層断面と礫の出土状況を記録した後完掘した。



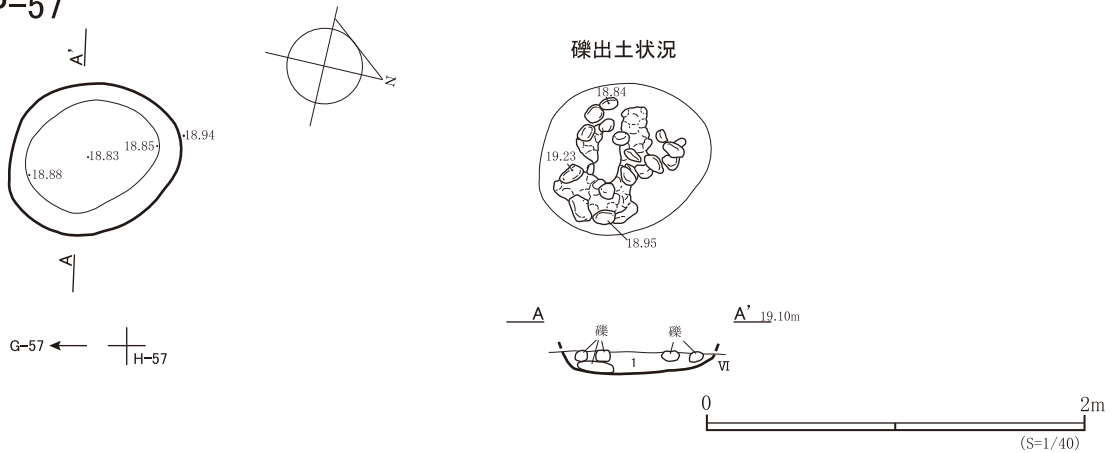
礫・炭化材出土状況



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				平均	最大				
P-55	1	黒色土	IV層	両然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅	Ma-1軽石	1	2	重円礫	風化	炭化物微量 ローム粒(径 1~4mm)1%	

遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				平均	最大				
P-56	1	黒色土		両然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	弱~中	堅		—	—	—	—	炭化物少量	

P-57



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				形状	風化の 程度
						色名	マンセル 表色系				平均	最大				
P-57	1	III層	IV層	両然	シルト 質壤土	黒色	10YR2/1	中	堅		—	—	—	—		

図IV-41 P-55~57

覆土 覆土は黒色土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からフレイク1点、礫9点が出土した。礫は脆く、崩れて取り上げできないものがあった。

時期 周辺の遺構や包含層出土遺物などから縄文時代後期前葉である。 (愛場)

(3) 焼土

F-1 (図IV-42 図版22)

位置 F-1A: H-72・73区 F-1B: H-72区 F-1C: G・H-72区
F-1D: G-72区 F-1E: H-73区

平面形態 F-1A: 円形 F-1B: 不整な円形 F-1C: 円形
F-1D: 楕円形 F-1E: 円形

規模 F-1A: 0.65×0.60/0.13m F-1B: 0.42×0.42/0.10m
F-1C: 0.23×0.22/0.04m F-1D: 0.40×0.32/0.07m
F-1E: 0.40×0.38/0.10m

確認・調査 調査区東側の遺構確認調査範囲のⅢ層を重機によりⅣ層上面まで掘削していたところ、Ⅲ層中で焼土を確認したため、その周辺は重機による掘削をせず、人力でⅢ層の調査を行うことにした。焼土周辺を精査し、5か所の焼土を確認した。近接して検出されたため、焼土群として捉え、遺構名はひとつ(F-1)とした。色調は赤褐色～褐色で、規模は長径23～65cm、最大厚4～13cmである。南東側にFC-3が位置する。

遺物出土状況 全て焼土から出土した。F-1Aではフレイク2点、F-1Bではフレイク4点、F-1Dでは石槍またはナイフ1点、フレイク5点、F-1Eではフレイク2点、礫1点出土した。F-1Cは出土していない。また、F-1Aに関しては、土壌ごと取り上げて水洗選別を行い、フレイク11点を採取した。

時期 検出層位や周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代～続縄文時代と考えられる。(広田)

F-2 (図IV-42 図版22)

位置 D-67区 **平面形態** 楕円形

規模 0.71×0.62/0.12m 掘り方0.99×0.90/0.76×0.71/0.08m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で炭化材と円形の黒褐色土がみられた。中央に土層観察用のベルトを設定し、炭化材を残して周囲を掘り下げた。長径約1mで深さ約8cmの掘り込みがあり、その底面で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は約12cmである。北東側にはP-33が近接するため、本遺構と関連する可能性がある。

遺物出土状況 焼土上位の覆土1からフレイク3点が出土し、炭化材も多くみられた。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半、後期前葉の可能性はある。(愛場)

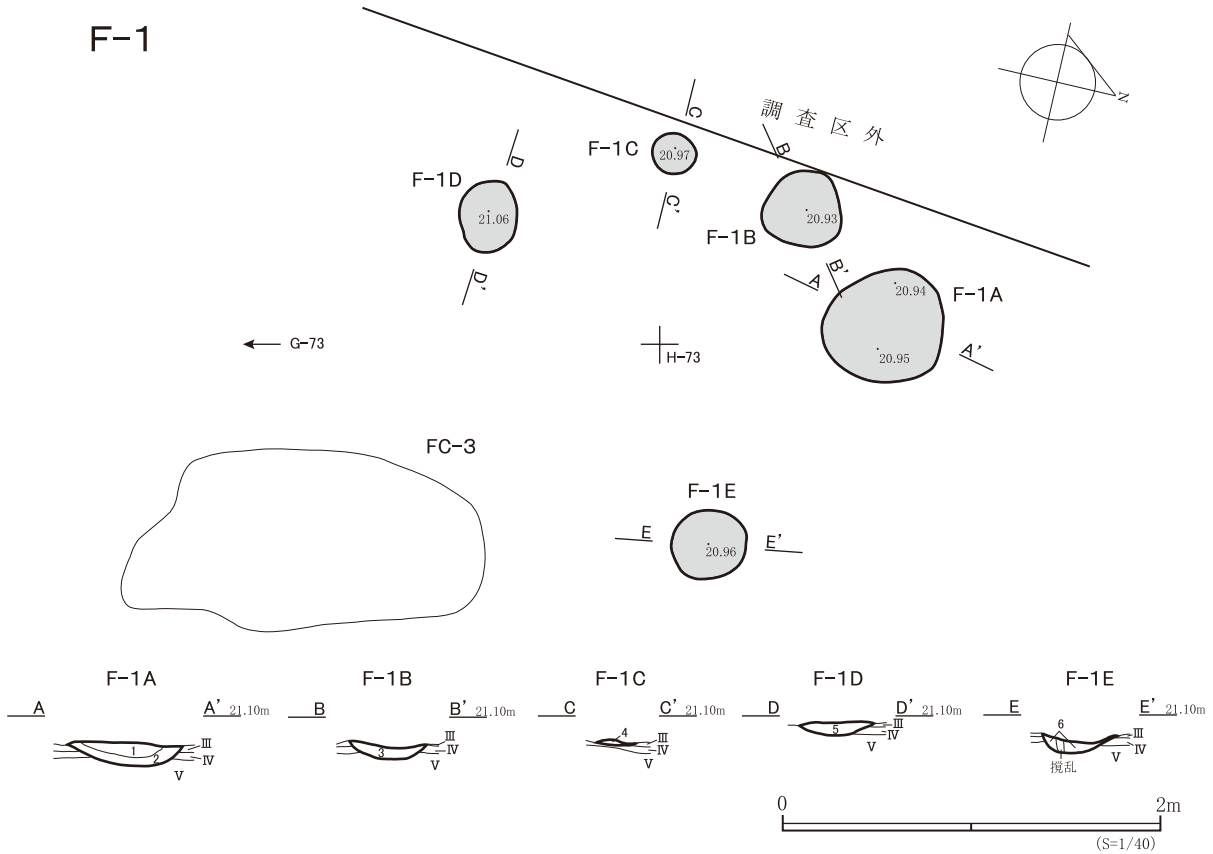
F-3 (図IV-43 図版22)

位置 D-68区 **平面形態** 円形?

規模 0.33×(0.18)/0.08m

確認・調査 竪穴住居跡H-20調査中、覆土上位で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は8

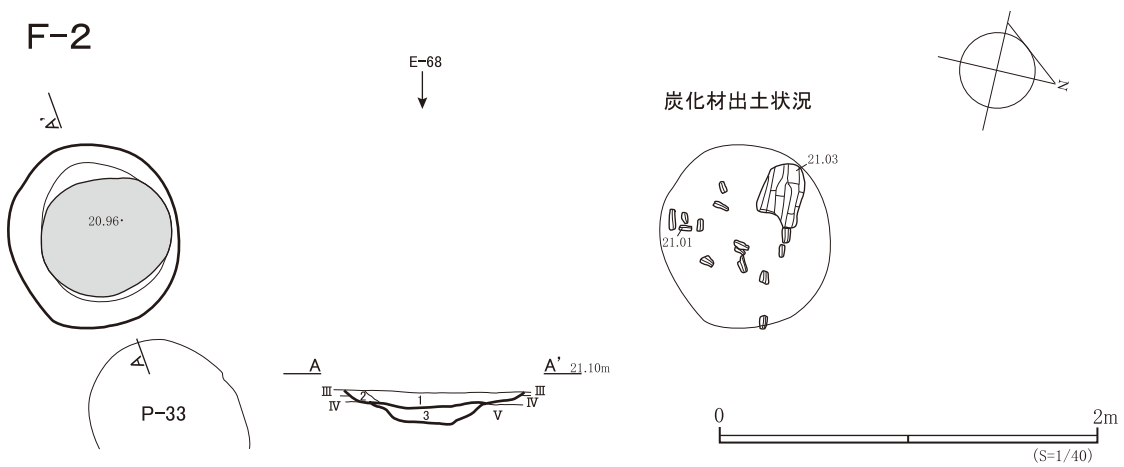
F-1



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考	
		主体層	混在層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				風化の程度
						マンセル表色系	色名				平均	最大			
F-1A	1	焼土	明瞭	シルト質壤土	赤褐色	5YR4/6	中	堅	Ma-I軽石	2	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量
	2	焼土	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	Ma-I軽石	10	2	4	亜円礫	風化	—
F-1B	3	焼土	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	Ma-I軽石	20	2	5	亜円礫	風化	炭化物微量
F-1C	4	焼土	画然	壤土	赤褐色	5YR4/6	弱	堅	Ma-I軽石	25	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量
F-1D	5	焼土	画然	壤土～シルト質壤土	褐色	7.5YR4/6	弱	堅	Ma-I軽石	10	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量
F-1E	6	焼土	画然	壤土	赤褐色	5YR4/6～7.5YR4/6	弱	堅	Ma-I軽石	20	2	4	亜円礫	風化	炭化物微量

E-67

F-2



遺構名 付属遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		主体層	混在層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)				風化の程度	
						マンセル表色系	色名				平均	最大				形状
F-2	1	III層	VI層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中～強	堅	Ma-I軽石	2	2	—	亜円礫	風化	炭化物
	2	III層	IV・V層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/1	中～強	堅	Ma-I軽石	2	2	—	亜円礫	風化	炭化物
	3	焼土	画然	壤土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	Ma-I軽石	10	2	3	亜円礫	風化	—	V層被熱

図IV-42 F-1・2

cmである。北側半分は削平される。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半より新しい。 (愛場)

F-4 (図IV-43 図版23)

位置 F-53区 **平面形態** 円形

規模 0.36×0.35/0.11m

確認・調査 土坑P-45検出時、覆土上位で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は11cmである。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半、後期前葉～続縄文時代の可能性がある。 (愛場)

F-5 (図IV-43 図版23)

位置 E-67区 **平面形態** 楕円形

規模 0.42×0.35/0.12m

確認・調査 竪穴住居跡H-29検出時、覆土上位で焼土を確認した。焼土の色調は褐色で、層厚は12cmである。焼土の上位には炭化物や2mm以下の骨片がみられた。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半より新しい。 (愛場)

(4) フレイク集中

FC-3 (図IV-44)

位置 G-73区 **平面形態** 不整な楕円形

規模 1.82×0.87m

確認・調査 G-73区のⅢ層を調査中に、黒曜石製のフレイクがまとまって出土したため、フレイク集中と判断し調査した。微細なフレイクが多かったため土壌ごと取り上げ、水洗選別を行った。

遺物出土状況 黒曜石製のフレイクが826点出土した。また土壌の水洗選別によりフレイク664点、礫1点を採取した。

時期 検出層位や周辺包含層出土の遺物などから縄文時代～続縄文時代と考えられる。 (広田)

FC-4 (図IV-44)

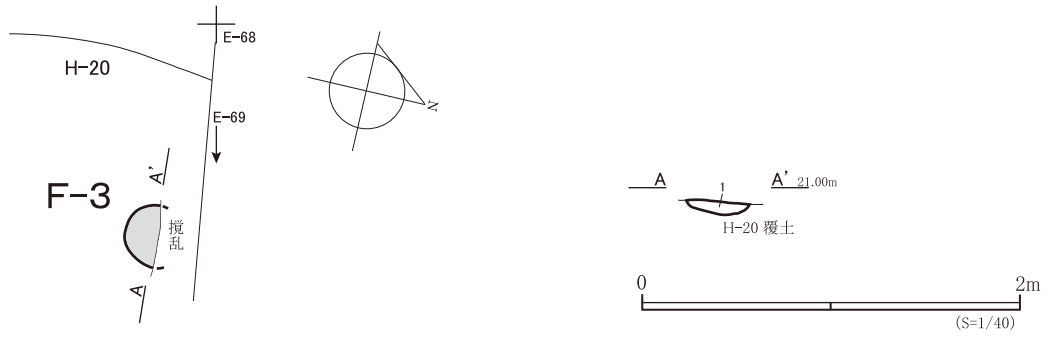
位置 E・F-54・55区 **平面形態** 楕円形

規模 1.66×1.20m

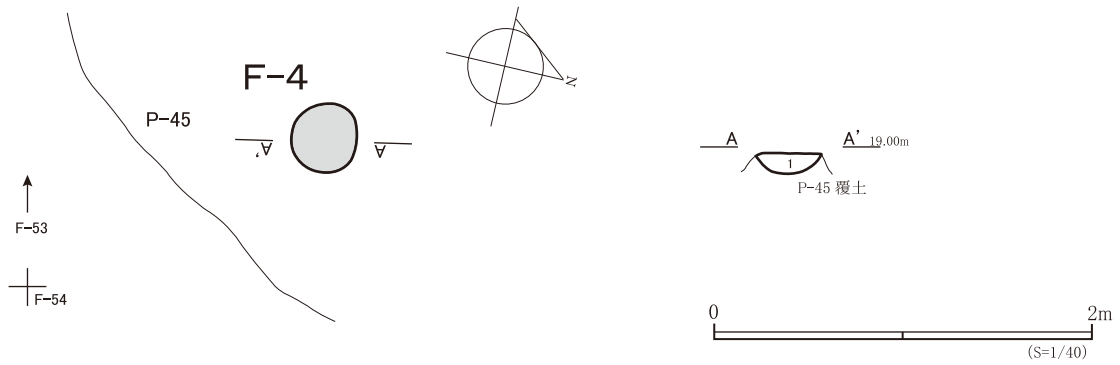
確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層で黒曜石製のフレイクがまとまって出土したことから、フレイク集中と判断し調査した。遺物や比較的大きなフレイクは手取りし、それ以外は土壌ごと採取し、水洗選別により遺物を回収した。

遺物出土状況 遺物は236点出土した。内訳はI群b類土器2点、IV群a類土器1点、石鏃1点、U・Rフレイク1点、フレイク223点、磨製石斧1点、砥石1点、礫6点である。また土壌水洗選別では上記とは別に、I群b類土器1点、II群a類土器7点、IV群a類土器2点、フレイク4,045点、磨製石斧片3点、礫3点を採取した。

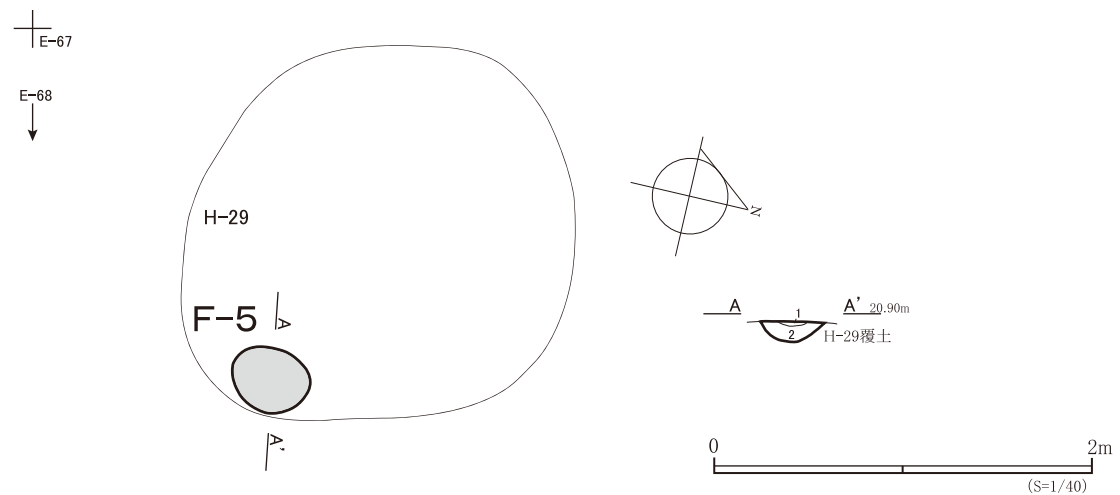
時期 周辺の遺構から縄文時代早期後半～後期前葉と考えられる。 (愛場)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						マンセル 表色系	粘着性					平均					最大
F-3	1	埴土	面然	埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅～ すこぶる 堅	—	—	—	—	—	—	—		



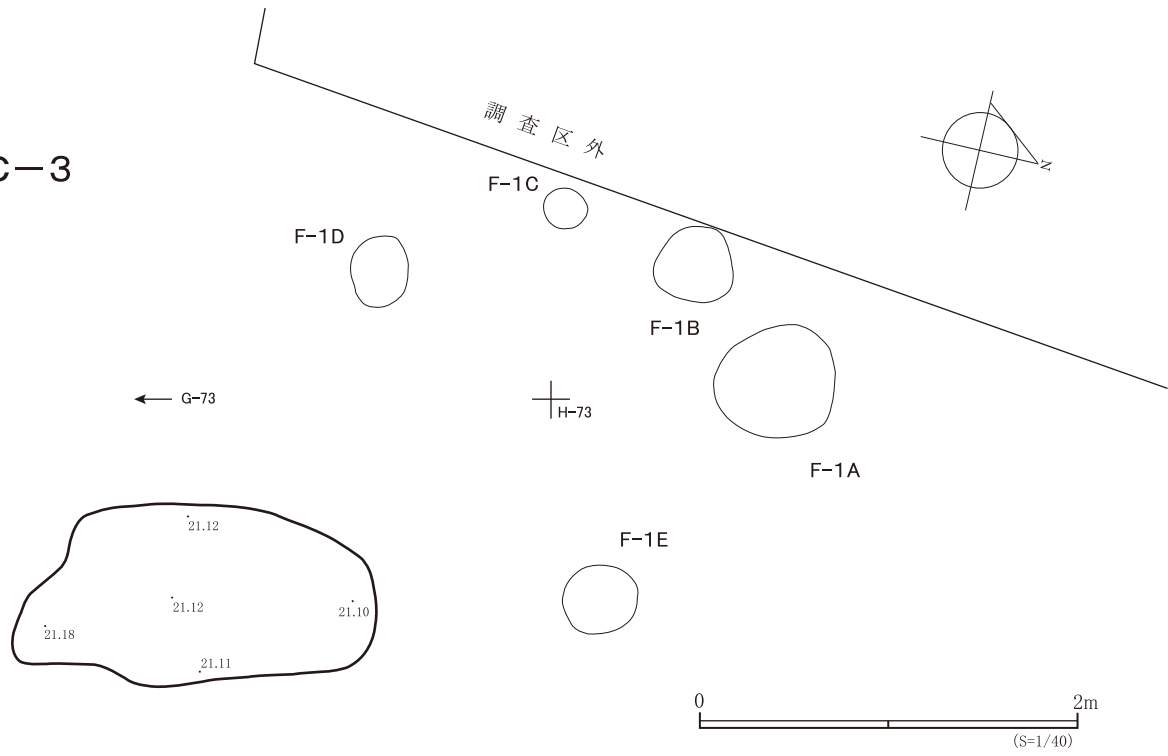
遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						マンセル 表色系	粘着性					平均					最大
F-4	1	埴土	面然	埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	—	—	—	—	—	—	—		



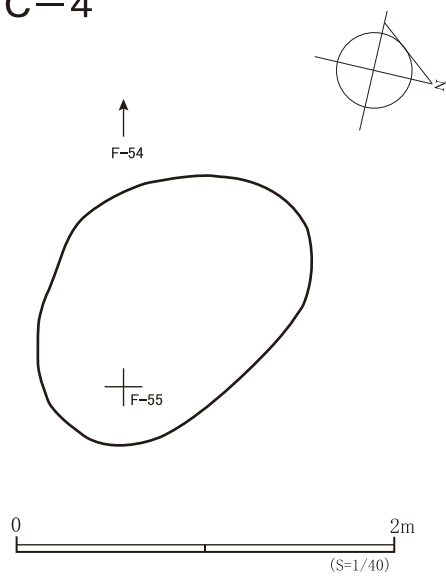
遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		主体層	混在層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合 (%)	粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						マンセル 表色系	粘着性					平均					最大
F-5	1	埴土	面然	埴土	黒色	10YR2/1	中～強	堅	—	—	—	—	—	—	—		
	2	埴土	面然	埴土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	—	—	—	—	—	炭化物 ・骨片	—		

図IV-43 F-3～5

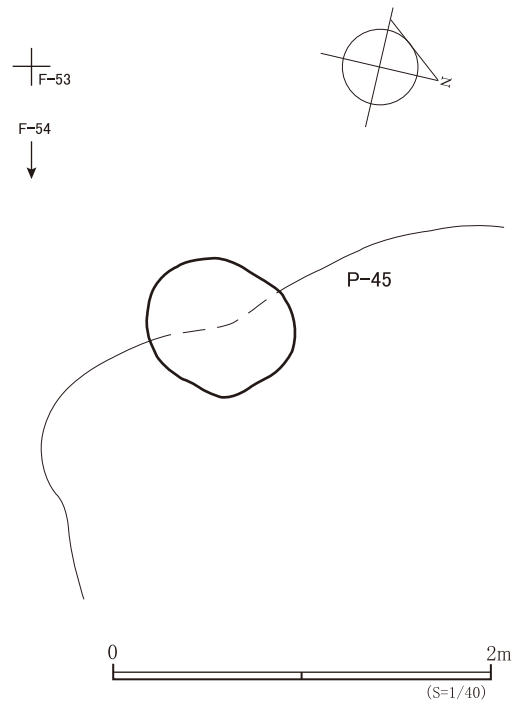
FC-3



FC-4



FC-5



図IV-44 FC-3~5

FC-5 (図IV-44)

位置 F-53区 **平面形態** 楕円形

規模 0.80×0.69m

確認・調査 P-45覆土上位の黒色土を調査中、黒曜石製のフレイクがまとまって出土したことからフレイク集中と判断し調査した。遺物や比較的大きなフレイクは手取りし、それ以外は土壌ごと採取し、水洗選別により遺物を回収した。

遺物出土状況 遺物は39点出土した。内訳はスクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク37点である。また土壌水洗選別では上記とは別に石核1点、フレイク1,318点を採取した。

時期 周辺の遺構などから縄文時代前期前半、後期前葉～続縄文時代の可能性がある。(愛場)

表IV-1 竪穴住居跡一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					付属遺構			主な出土遺物			備考
					確認面		床面		最大深	種別	記号	番号	床面 床面直上	付属 遺構	覆土	
					長径	短径	長径	短径								
H-17	IV-2	4	D・E-57・58区	不整な楕円形	(6.74)	5.35	(6.25)	4.87	0.42	—	—	—	II群 a 類土器、 石鏝、砥石、礫	—	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、 石鏝、つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 フリック、 磨製石斧、砥石、 加工・使用痕のある礫、 礫	平成23年度調査
H-18	IV-3~6	5	E・F・G-48~50、 (D-49・50)区	隅丸長方形	9.92	8.55	9.47	8.03	0.28	炉跡焼土	HF	1・2	II 群 a 類土器、 石鏝、スクレイパー、 石鋸、砥石、 U・R フレイク、 加工・使用痕のある礫、 礫	—	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、石鏝、 石槍またはナイフ、 両面調整石器、 つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 フリック、 磨製石斧、砥石、 原石、礫	平成23年度調査 焼失住居 放射性炭素年代測定 TOS-1 炭化材樹種同定 TOS-1~3
										覆土中焼土	HF	3~11				
										土坑	HP	43				
H-19	IV-7~9	6	E-55~57 F-55~58 G-56~58 区	隅丸長方形？	10.28	7.22	10.16	6.90	0.46	炉跡焼土	HF	1~3	フリック、 磨製石斧、 砥石、礫	HFC-1・2： I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 両面調整石器、 スクレイパー、 フリック、礫	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、 石鏝、 石槍またはナイフ、 両面調整石器、 つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 U・R フレイク、 フリック、原石、 磨製石斧、石鋸、 砥石、礫	P-36~38と重複 (P-37より古い、 P-36・38は新旧関係 不明)、 放射性炭素年代測定 TOS-2・3、 黒曜石原材産地分析 TS-1
										柱穴・杭穴	HP	1~21				
										礫集中	HS	1				
										フリック集中	HFC	1・2				
										炭化物集中	—	1				
H-20	IV-10	7	D-68・69、 E-68区	不整な楕円形	4.08	(3.36)	3.85	(3.11)	0.30	覆土中焼土	HF	1	フリック、 磨製石斧、 台石・石皿	HFC-1： フリック HFC-2：石鏝、 磨製石斧、 フリック	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 石鏝、両面調整石器、 スクレイパー、 U・R フレイク、 フリック、 たたき石、石鋸、 砥石、フリック、礫	覆土上位に F-3 焼失住居 放射性炭素年代測定 TOS-4
柱穴・杭穴	HP	1~20														
フリック集中	HFC	1・2														
炭化物集中	—	—														
段構造	—	—														
H-21	IV-11	8	D・E-63・64区	円形	3.80	3.66	3.10	3.10	0.54	覆土中焼土	HF	1	U・R フレイク、 フリック	HF-1： フリック、礫	II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、 石鏝、石鋸、 スクレイパー、 U・R フレイク、 フリック、石鋸、 砥石、礫	覆土中焼土 検出、P-31と 重複 (P-31 より新しい)
炉跡焼土	HF	2														
H-22	IV-12	9	E・F-72区	楕円形？	(2.32)	2.20	(2.20)	1.90	0.14	柱穴・杭穴	HP	1~4	—	—	II 群 a 類土器、 つまみ付きナイフ、 フリック、礫	北側掘乱で 壊される、 P-51近接
										炉跡焼土	HF	1				
H-23	IV-13~15	10	D・E・F-59・60区	楕円形？	7.52	(5.41)	7.21	(5.30)	0.27	炉跡焼土	HF	1・2	II 群 a 類土器、 スクレイパー、 礫	HFC-1： 石槍またはナイフ スクレイパー フリック	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、 石鏝、 石槍またはナイフ、 スクレイパー、 フリック、磨製石斧、 石鋸、砥石、 加工・使用痕のある礫、 礫	P-32・35・39と 重複 (P-32・35が 新しい、P-39は 新旧関係不明) 焼失住居
										覆土中焼土	HF	3~7				
										土坑	HP	31				
										柱穴・杭穴	HP	1~30				
										フリック集中	HFC	1				
H-24	IV-16~18	11	D・E・F-70・71区	楕円形	(7.01)	5.48	6.84	4.66	0.47	炉跡焼土	HF	1~4	石槍またはナイフ、 石鏝、 つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 フリック、 磨製石斧、 たたき石、 石鋸、礫	II 群 a 類土器、 HP-28： フリック、 HP-32： フリック	II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、石鏝、 石槍またはナイフ、 両面調整石器、 つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 U・R フレイク、 フリック、磨製石斧、 石鋸、砥石、礫	H-28・P-41・44・48 と重複 (H-28、P- 44は新旧関係不明、 それ以外は本遺構 より新しい) 焼失住居 放射性炭素年代測定 TOS-5、 炭化材樹種同定 TOS- 4~6、 黒曜石原材産地分析 TS-2~5
										覆土中焼土	HF	5・6				
										土坑	HP	13・32				
										柱穴・杭穴	HP	1~12、 14~31、 33~38				
H-25	IV-19~21	12	F・G-65・66区	不整な楕円形	6.64	5.67	6.25	5.09	0.64	炉跡焼土	HF	1・2	II 群 a 類土器、 石鏝、 石槍またはナイフ、 つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 フリック、 U・R フレイク、 フリック、磨製石斧、 石鋸、砥石、礫	—	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、石鏝、 石槍またはナイフ、 両面調整石器、石鏝、 スクレイパー、 U・R フレイク、 石核、フリック、 磨製石斧、 たたき石、石鋸、 砥石、台石・石皿、 加工・使用痕のある礫、 礫	P-55・56と重複 (H- 25より新しい) 黒曜石原材産地分析 TS-7： 石槍またはナイフ
										土坑	HP	13				
										柱穴・杭穴	HP	1~12、 14~17				
										段	—	—				
H-26	IV-22	13	F・G-58区	楕円形？	(2.84)	(2.27)	(2.58)	(2.09)	0.24	覆土中焼土	HF	1~8	II 群 a 類土器、 フリック	HF-1： フリック	II 群 a 類土器、 IV 群 a 類土器、 石鏝、 スクレイパー、 U・R フレイク、 フリック、礫	覆土中焼土検出、 放射性炭素年代測定 TOS-6
H-27	IV-23	14	E-64・65 F-64区	楕円形	3.44	2.90	3.26	(2.61)	0.24	炉跡焼土	HF	1	II 群 a 類土器、 フリック	—	I 群 b 類土器、 II 群 a 類土器、 スクレイパー、 U・R フレイク、 フリック、 磨製石斧、礫	覆土中焼土・炭化材 検出、P-47と重複 (新旧関係不明)
										覆土中焼土	HF	2~9				
										柱穴・杭穴	HP	1~4				
H-28	IV-24	15	D・E-70区	不整な楕円形	(2.44)	(1.96)	(2.26)	1.82	0.30	石組炉	HF	1	礫	—	II 群 a 類土器、 石槍またはナイフ、 フリック、礫	P-52と重複 (P-52 より新しい)
										覆土中焼土	HF	2				
H-29	IV-24	16	E-67区	楕円形	2.28	2.03	2.01	1.80	0.17	炉跡焼土	HF	1・2	II 群 a 類土器	HP-3：石鏝	II 群 a 類土器、 石鏝、 スクレイパー、 フリック、石鋸、礫	覆土上位に F-5、竪穴外に 柱穴・杭穴
										柱穴・杭穴	HP	1~6				

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(1)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態・色調		規模(m)					主な出土遺物	備考	
					平面	断面	確認面		底面		最大深 最大厚			
							長径	短径	長径	短径				
H-18	炉跡焼土	HF-1	IV-3-4	—	円形	褐色	0.49	0.48	—	—	0.11	—	HF-2と接する	
		HF-2	IV-3-4	—	楕円形	褐色	0.83	0.72	—	—	0.09	—	HF-1と接する	
	覆土中焼土	HF-3	IV-6	—	楕円形	—	0.29	0.25	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-4	IV-6	—	不整な楕円形	—	0.53	0.24	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-5	IV-6	—	不整な楕円形	—	0.46	0.15	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-6	IV-6	—	不整な楕円形	—	0.17	0.13	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-7	IV-6	—	楕円形	—	0.26	0.15	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-8	IV-6	—	不整な楕円形	—	0.25	0.13	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-9	IV-6	—	不整形	—	1.77	0.63	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-10	IV-6	—	楕円形	—	0.27	0.15	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		HF-11	IV-6	—	円形	—	0.21	0.18	—	—	*	—	住居跡北側・土層断面図なし	
		柱穴・杭穴	HP-2	IV-3-4	—	円形	丸	0.11	—	0.04	—	0.18	—	—
			HP-3	IV-3-4	—	円形	丸	0.15	—	0.05	—	0.50	—	—
	HP-4		IV-3-4	—	円形	丸	0.16	—	0.05	—	0.47	—	内傾	
	HP-5		IV-3-4	—	円形	丸	0.08	—	0.03	—	0.36	—	—	
	HP-6		IV-3-4	—	円形	丸	0.13	—	0.03	—	0.33	—	—	
	HP-7		IV-3-4	—	円形	丸	0.11	—	0.04	—	0.30	—	—	
	HP-8		IV-3-4	—	円形	隅丸	0.19	—	0.12	—	0.41	—	—	
	HP-9		IV-3-4	—	楕円形	隅丸	0.25	0.19	0.14	0.12	0.59	—	—	
	HP-10		IV-3-4	—	円形	隅丸	0.18	—	0.13	—	0.30	—	—	
	HP-11		IV-3-4	—	円形	尖	0.17	—	0.02	—	0.49	—	—	
	HP-12		IV-3-4	5	円形	尖	0.15	—	0.02	—	0.65	—	外傾	
	HP-13		IV-3-4	5	円形	隅丸	0.16	—	0.16	—	0.47	—	—	
	HP-14		IV-3-4	—	円形	丸	0.19	—	0.14	—	0.48	—	—	
	HP-15		IV-3-4	—	円形	丸	0.15	—	0.05	—	0.46	—	—	
	HP-16		IV-3-4	—	円形	丸	0.14	—	0.09	—	0.30	—	—	
	HP-17		IV-3-4	—	円形	尖	0.16	—	0.02	—	0.40	—	—	
	HP-18		IV-3-4	—	円形	丸	0.11	—	0.08	—	0.34	—	—	
	HP-19		IV-3-4	—	円形	丸	0.17	—	0.11	—	0.08	—	—	
	HP-20		IV-3-4	—	円形	丸	0.14	—	0.06	—	0.28	—	—	
	HP-21		IV-3-4	5	円形	尖	0.24	—	0.03	—	0.56	—	—	
	HP-22		IV-3-4	—	円形	丸	0.19	—	0.09	—	0.37	—	—	
	HP-23		IV-3-5	—	円形	丸	0.16	—	0.04	—	0.41	—	—	
	HP-24		IV-3-5	—	楕円形	隅丸	0.27	0.24	0.14	—	0.40	—	—	
	HP-25		IV-3-5	—	円形	尖	0.19	—	0.05	—	0.57	—	—	
	HP-26		IV-3-5	—	楕円形	隅丸	0.17	0.14	0.11	—	0.48	—	—	
	HP-27		IV-3-5	—	円形	隅丸	0.18	—	0.11	—	0.22	—	—	
	HP-28		IV-3-5	—	円形	丸	0.19	—	0.05	—	0.20	—	—	
	HP-29		IV-3-5	—	円形	丸	0.15	—	0.04	—	0.40	—	—	
	HP-30		IV-3-5	—	楕円形	尖	0.15	0.12	0.03	—	0.44	—	—	
	HP-31		IV-3-5	—	円形	尖	0.13	—	0.03	—	0.36	—	—	
	HP-32		IV-3-5	—	円形	丸	0.15	—	0.08	—	0.25	—	HP-43と重複(新旧不明)	
	HP-33		IV-3-5	—	円形	丸	0.18	—	0.12	—	0.35	—	—	
HP-34	IV-3-5	—	円形	丸	0.18	—	0.07	—	0.27	—	—			
HP-35	IV-3-5	—	円形	隅丸	0.18	—	0.12	—	0.50	—	—			
HP-36	IV-3-5	—	円形	丸	0.15	—	0.04	—	0.50	—	—			
HP-37	IV-3-5	—	円形	丸	0.17	—	0.06	—	0.21	—	—			
HP-38	IV-3-5	—	円形	隅丸	0.15	—	0.09	—	0.29	—	—			
HP-39	IV-3-5	—	円形	隅丸	0.22	—	0.16	—	0.30	—	—			
HP-40	IV-3-5	—	円形	丸	0.13	—	0.04	—	0.25	—	—			
HP-41	IV-3-5	—	円形	丸	0.12	—	0.04	—	0.20	—	HP-42と近接			
HP-42	IV-3-5	—	円形	丸	0.13	—	0.04	—	0.19	—	HP-41と近接			
HP-43	土坑	IV-3-5	—	円形	底面：曲線的	0.51	0.50	0.33	0.31	0.14	—	HP-32と重複(新旧不明)		
H-19	炉跡焼土	HF-1	IV-7-8	—	不整な楕円形?	赤褐色	0.90	(0.76)	—	—	0.12	フレイク炭化物	放射性炭素年代測定 TOS-2	
		HF-2	IV-7-8	—	円形	褐色	0.42	0.38	—	—	0.06	炭化物	放射性炭素年代測定 TOS-3	
	柱穴・杭穴	HF-3	IV-7-8	6	楕円形	赤褐色	0.56	0.48	—	—	0.06	—	—	
		HP-1	IV-7-8	—	円形	丸	0.16	—	0.04	—	0.30	—	—	
		HP-2	IV-7-8	—	円形	尖	0.04	—	—	—	0.12	—	小型	
		HP-3	IV-7-8	—	円形	丸	0.20	—	0.06	—	0.28	—	—	
		HP-4	IV-7-8	—	円形	丸	0.19	—	0.05	—	0.29	—	—	
		HP-5	IV-7-8	—	円形	尖	0.07	—	—	—	0.29	—	小型、HP-6・7近接	
		HP-6	IV-7-8	—	円形	尖	0.08	—	—	—	0.18	—	小型、HP-5・7近接	
		HP-7	IV-7-8	—	円形	尖	0.05	—	—	—	0.17	—	小型、HP-5・6近接	
		HP-8	IV-7-8	—	円形	丸	0.26	—	0.05	—	0.35	—	—	
		HP-9	IV-7-8	—	円形	尖	0.13	—	—	—	0.26	—	—	
		HP-10	IV-7-8	—	円形	尖	0.20	—	—	—	0.61	—	—	
		HP-11	IV-7-8	—	円形	丸	0.14	—	0.05	—	0.39	—	—	
		HP-12	IV-7-8	—	円形	尖	0.09	—	—	—	0.08	—	小型	
		HP-13	IV-7-8	—	円形	隅丸	0.15	—	0.09	—	0.61	—	東側にやや傾く	
		HP-14	IV-7-8	—	円形	隅丸	0.21	—	0.07	—	0.40	—	—	
		HP-15	IV-7-8	—	円形	丸	0.14	—	0.04	—	0.23	—	—	
		HP-16	IV-7-8	—	円形	尖	0.12	—	—	—	0.24	—	—	
		HP-17	IV-7-8	—	円形	尖	0.12	—	—	—	0.35	—	—	
		HP-18	IV-7-8	—	円形	尖	0.16	—	—	—	0.48	—	—	
HP-19		IV-7-8	—	円形	尖	0.16	—	—	—	0.32	—	—		
HP-20	IV-7-8	—	円形	尖	0.11	—	—	—	0.51	—	—			
HP-21	IV-7-8	—	円形	尖	0.16	—	—	—	0.36	—	—			
HS-1	礫集中	IV-9	6	不整形	—	0.92	0.68	—	—	—	礫	覆土下位～床面出土、礫が脆いため取り上げせず		
HF C-1	フレイク集中	IV-9	—	不整形	—	1.14	0.96	—	—	—	I群b類土器 II群a類土器 両面調整石器 スクレイパー フレイク	覆土中位検出		
HF C-2		IV-9	—	楕円形	—	0.76	0.40	—	—	—	フレイク	覆土中位検出		
炭化物集中1	炭化物集中	IV-9	—	不整形	—	0.96	0.80	—	—	—	炭化物	覆土下位～床面検出		
赤色土塊集中1	赤色土塊集中	IV-9	—	不整な楕円形	—	1.90	0.92	—	—	—	—	覆土下位～床面検出		

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(2)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態・色調		規模 (m)				主な出土遺物	備考	
							確認面		底面				最大深 最大厚
							長径	短径	長径	短径			
H-20	H F-1	覆土中焼土	IV-10	7	楕円形	*	0.35	0.31	-	*	炭化物	覆土中位検出	
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-10	-	円形	隅丸	0.16	-	0.11	0.20	-	-	
	H P-2		IV-10	-	円形	丸	0.10	-	0.04	0.25	-	-	
	H P-3		IV-10	-	円形	丸	0.10	-	0.04	0.16	-	-	
	H P-4		IV-10	-	円形	丸	0.12	-	0.06	0.15	-	-	
	H P-5		IV-10	-	円形	丸	0.11	-	0.04	0.19	-	-	
	H P-6		IV-10	-	円形	隅丸	0.12	-	0.06	0.14	-	-	
	H P-7		IV-10	-	円形	隅丸	0.11	-	0.06	0.16	-	-	
	H P-8		IV-10	-	円形	丸	0.09	-	0.03	0.22	-	-	
	H P-9		IV-10	-	楕円形	丸	0.12	0.08	0.06	0.35	-	-	
	H P-10		IV-10	-	楕円形	丸	0.19	0.16	0.07	0.28	-	-	
	H P-11		IV-10	-	円形	丸	0.20	-	0.07	0.40	-	-	
	H P-12		IV-10	-	円形	丸	0.17	-	0.09	0.22	-	-	
	H P-13		IV-10	7	円形	丸	0.24	-	0.12	0.63	-	主柱穴	
	H P-14		IV-10	-	円形	丸	0.11	-	0.05	0.21	-	-	
	H P-15		IV-10	-	円形	丸	0.13	-	0.06	0.27	-	-	
	H P-16		IV-10	-	円形	平	0.11	-	0.06	0.11	-	-	
	H P-17		IV-10	-	円形	丸	0.09	-	0.03	0.20	-	-	
	H P-18		IV-10	-	円形	隅丸	0.21	-	0.13	0.72	-	主柱穴	
	H P-19		IV-10	-	円形	隅丸	0.12	-	0.09	0.12	-	-	
H P-20	IV-10		-	円形	隅丸	0.11	-	0.04	0.12	-	-		
段	段構造	IV-10	-	-	-	(1.58)	0.68	(1.30)	0.55	0.04	*	住居跡の東側部分	
H F C-1	フレイク集中	IV-10	-	楕円形	-	0.25	0.20	-	-	-	フレイク	覆土下位検出	
H F C-2		IV-10	-	不整形	-	1.30	0.63	-	-	-	石鏃・磨製石斧 フレイク	覆土下位検出	
炭化物集中1	炭化物集中	IV-10	-	不整形	-	0.33	0.22	-	-	-	-	覆土中位検出	
炭化物集中2	炭化物集中	IV-10	-	不整な楕円形	-	0.33	0.23	-	-	-	-	覆土中位検出	
H-21	H F-1	覆土中焼土	IV-11	8	不整な楕円形	にふい赤褐色	0.68	0.38	-	-	0.08	フレイク 礫	土層断面図なし
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-11	-	円形	褐色	0.29	0.28	-	-	0.01未満	炭化物	土層断面図なし
	H P-2		IV-11	8	円形	隅丸	0.13	-	0.05	0.29	-	-	
	H P-3		IV-11	-	円形	丸	0.08	-	0.02	0.08	-	-	
	H P-4		IV-11	-	円形	丸	0.09	-	0.02	0.07	-	-	
H P-5	IV-11		8	円形	尖	0.10	-	-	0.34	-	-		
H-22	H F-1	炉跡焼土	IV-12	9	不整な楕円形	黒褐色	0.54	0.30	-	-	0.08	-	-
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-12	9	円形	丸	0.17	-	0.08	0.47	-	-	
	H P-2		IV-12	-	円形	尖	0.12	-	-	0.30	-	-	
	H P-3		IV-12	-	円形	丸	0.15	-	0.05	0.41	-	-	
	H P-4		IV-12	-	円形	丸	0.15	-	0.10	0.38	-	-	
	H P-5		IV-12	-	円形	尖	0.14	-	-	0.34	-	-	
	H P-6		IV-12	-	円形	丸	0.13	-	0.04	0.27	-	-	
	H P-7		IV-12	9	円形	丸	0.13	-	0.04	0.32	-	-	
H P-8	IV-12		-	円形	丸	0.13	-	0.07	0.42	-	-		
H-23	H F-1	炉跡焼土	IV-13-14	-	楕円形?	赤褐色	0.54	0.43	-	-	0.09	-	-
	H F-2		IV-13-14	-	楕円形	赤褐色	0.83	0.65	-	-	0.08	-	-
	H F-3		IV-15	-	不整形	*	1.10	0.78	-	-	*	-	土層断面図なし
	H F-4		IV-15	-	不整形	*	1.73	1.03	-	-	*	-	土層断面図なし
	H F-5		IV-15	-	不整形	*	0.50	0.29	-	-	*	炭化物	土層断面図なし
	H F-6		IV-15	-	不整形	*	0.53	0.31	-	-	*	-	土層断面図なし
	H F-7		IV-15	-	不整形	*	0.53	0.47	-	-	*	-	土層断面図なし
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-13-14	-	円形	隅丸	0.13	-	0.08	0.31	-	-	
	H P-2		IV-13-14	-	楕円形	丸	0.15	0.12	0.06	0.34	-	-	
	H P-3		IV-13-14	-	円形	尖	0.15	-	0.03	0.45	-	-	
	H P-4		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.17	-	0.10	0.18	-	-	
	H P-5		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.17	-	0.09	0.24	-	-	
	H P-6		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.17	-	0.08	0.14	-	-	
	H P-7		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.19	-	0.11	0.44	-	-	
	H P-8		IV-13-14	-	円形	丸	0.16	-	0.04	0.36	-	-	
	H P-9		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.19	-	0.11	0.21	-	-	
	H P-10		IV-13-14	-	円形	尖	0.20	-	0.03	0.26	-	-	
	H P-11		IV-13-14	-	円形	丸	0.15	-	0.05	0.41	-	-	
	H P-12		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.11	-	0.05	0.18	-	-	
	H P-13		IV-13-14	-	円形	丸	0.11	-	0.05	0.14	-	-	
	H P-14		IV-13-14	-	円形	隅丸	0.19	-	0.10	0.17	-	-	
	H P-15		IV-13-14	-	円形	尖	0.13	-	0.02	0.20	-	-	
	H P-16		IV-13-14	-	不整な楕円形	丸	0.32	-	0.13	0.25	-	-	
	H P-17		IV-13-14	-	円形	尖	0.15	-	0.02	0.20	-	-	
	H P-18		IV-13-14	-	円形	丸	0.10	-	0.04	0.16	-	-	
	H P-19		IV-13-14	-	円形	丸	0.12	-	0.04	0.16	-	-	
	H P-20		IV-13-14	-	円形	丸	0.08	-	0.03	0.10	-	-	
	H P-21		IV-13-14	-	円形	尖	0.15	-	0.02	0.18	-	-	
	H P-22		IV-13-14	-	円形	尖	0.09	-	0.02	0.11	-	-	
	H P-23		IV-13-14	-	円形	丸	0.11	-	0.04	0.20	-	-	
	H P-24		IV-13-14	-	円形	丸	0.11	-	0.04	0.21	-	-	
H P-25	IV-13-14		-	円形	丸	0.10	-	0.04	0.15	-	-		
H P-26	IV-13-14		10	楕円形	丸	0.15	0.12	0.05	0.32	-	-		
H P-27	IV-13-14		-	円形	丸	0.22	-	0.07	0.35	-	-		
H P-28	IV-13-14		-	円形	隅丸	0.18	-	0.09	0.18	-	-		
H P-29	IV-13-14		-	円形	丸	0.16	-	0.06	0.25	-	-		
H P-30	IV-13-14		-	円形	隅丸	0.13	-	0.07	0.13	-	-		
H P-31	土坑	IV-13-14	-	楕円形?	底面:曲線的	1.68	(1.20)	1.22	(1.20)	0.13	-	南側は平成23年度調査区 土層断面図なし	
H S-1	礫集中	IV-15	10	不整な楕円形	-	0.58	-	0.36	-	-	礫	平面のみ記録・ 覆土で取り上げ	
H F C-1	フレイク集中	IV-15	10	不整な楕円形	-	0.41	-	0.24	-	-	石槍または ナイフ フレイク	H F-4 の上位検出	

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(3)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態・色調		規模 (m)					主な出土遺物	備考
							確認面		底面		最大深 最大厚		
							長径	短径	長径	短径			
H-24	H F-1	炉跡焼土	IV-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.53	0.43	—	—	0.07	—	長軸上
			IV-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.61	0.51	—	—	0.05	—	長軸上
			IV-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.97	0.64	—	—	0.13	—	長軸上
			IV-16-17	—	楕円形	赤褐色	0.43	(0.19)	—	—	*	—	長軸上
	H F-5	覆土中焼土	IV-18	—	不整形	*	3.58	2.27	—	—	*	—	炭化物 土層断面図なし
			IV-18	—	不整形	*	1.04	0.77	—	—	*	—	炭化物 土層断面図なし
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-16-17	—	円形	隅丸	0.15	0.08	0.32	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	丸	0.17	0.08	0.37	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	隅丸	0.15	0.09	0.34	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	尖	0.31	0.01	0.37	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	丸	0.12	0.05	0.25	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	丸	0.09	0.05	0.08	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	隅丸	0.12	0.09	0.28	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	丸	0.09	0.03	0.20	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	尖	0.11	0.02	0.15	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	丸	0.15	0.07	0.21	—	—	—	—
			IV-16-17	—	円形	隅丸	0.12	0.09	0.37	—	—	—	—
			IV-16-17	—	楕円形	丸	0.20	0.18	0.05	0.32	—	—	—
	H P-13	土坑	IV-16-17	—	楕円形	底面：曲線的	0.43	0.39	0.25	0.24	0.23	—	—
	H P-14	柱穴・杭穴	IV-16-17	—	円形	隅丸	0.12	0.08	0.32	—	—	—	—
	H P-15		IV-16-17	—	円形	尖	0.09	0.02	0.25	—	—	—	—
	H P-16		IV-16-17	—	円形	丸	0.14	0.07	0.34	—	—	—	—
	H P-17		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.11	0.06	0.16	—	—	—	—
	H P-18		IV-16-17	—	円形	丸	0.15	0.04	0.21	—	—	—	—
	H P-19		IV-16-17	—	円形	丸	0.12	0.04	0.13	—	—	—	—
	H P-20		IV-16-17	—	円形	丸	0.09	0.04	0.13	—	—	—	—
	H P-21		IV-16-17	—	円形	丸	0.13	0.06	0.37	—	—	—	—
	H P-22		IV-16-17	—	円形	丸	0.16	0.11	0.29	—	—	—	—
	H P-23		IV-16-17	—	楕円形	隅丸	0.21	0.19	0.09	0.32	—	—	—
	H P-24		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.12	0.07	0.19	—	—	—	—
	H P-25		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.13	0.07	0.39	—	—	—	—
	H P-26		IV-16-17	—	円形	丸	0.14	0.05	0.44	—	—	—	—
	H P-27		IV-16-17	—	円形	平	0.11	0.06	0.20	—	—	—	—
	H P-28		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.18	0.08	0.31	—	—	—	II群 a 類土器 フレイク
	H P-29		IV-16-17	—	円形	平	0.11	0.07	0.24	—	—	—	—
	H P-30	IV-16-17	—	円形	隅丸	0.14	0.08	0.13	—	—	—	—	
	H P-31	IV-16-17	—	円形	尖	0.08	0.02	0.22	—	—	—	—	
	H P-32	土坑	IV-16-17	—	楕円形	底面：平坦	0.53	0.46	0.34	0.28	0.07	フレイク 炭化物	H F-2・4と重複(新しい)
H P-33	柱穴・杭穴	IV-16-17	—	円形	尖	0.11	0.02	0.20	—	—	—	—	
H P-34		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.16	0.09	0.10	—	—	—	—	
H P-35		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.13	0.08	0.12	—	—	—	—	
H P-36		IV-16-17	—	円形	丸	0.11	0.04	0.12	—	—	—	—	
H P-37		IV-16-17	—	円形	隅丸	0.13	0.06	0.10	—	—	—	—	
H P-38		IV-16-17	—	円形	尖	0.06	0.01	0.26	—	—	—	—	
H-25	H F-1	炉跡焼土	IV-19-20	—	楕円形?	暗赤褐色	(0.46)	(0.30)	—	—	(0.04)	炭化物 骨片	P-56と重複(P-56より古い)
			IV-19-20	12	楕円形	褐色	0.40	0.26	—	—	0.06	炭化物 骨片	
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-19-20	—	円形	丸	0.12	0.03	0.22	—	—	—	—
	H P-2		IV-19-20	—	円形	隅丸	0.18	0.09	0.31	—	—	—	—
	H P-3		IV-19-20	—	円形	隅丸	0.20	0.10	0.26	—	—	—	—
	H P-4		IV-19-20	—	円形	丸	0.14	0.04	0.43	—	—	—	—
	H P-5		IV-19-20	—	円形	丸	0.18	0.05	0.30	—	—	—	—
	H P-6 A		IV-19-20	—	楕円形?	丸?	(0.10)	(0.04)	(0.32)	—	—	—	H P-6 Bと重複(新旧不明)
	H P-6 B		IV-19-20	—	円形?	丸?	(0.13)	(0.05)	(0.32)	—	—	—	H P-6 Aと重複(新旧不明)
	H P-7		IV-19-20	—	円形	隅丸	0.16	0.07	0.33	—	—	—	—
	H P-8		IV-19-20	—	円形	丸	0.12	0.04	0.21	—	—	—	—
	H P-9		IV-19-20	—	円形	隅丸	0.12	0.06	0.25	—	—	—	—
	H P-10	IV-19-20	—	円形	隅丸	0.22	0.14	0.16	—	—	—	—	
	H P-11	IV-19-20	—	円形	尖	0.14	—	0.22	—	—	—	—	
	H P-12	IV-19-20	—	楕円形	尖	0.22	—	0.23	—	—	—	—	
	H P-13	土坑	IV-19-20	—	円形	底面：直線的	0.91	0.78	0.69	0.60	0.10	—	—
	H P-14	柱穴・杭穴	IV-19-20	—	円形	尖	0.11	—	—	—	0.30	—	—
H P-15	IV-19-20		—	円形	丸	0.10	0.06	0.23	—	—	—	—	
H P-16	IV-19-20		—	円形	丸	0.10	0.03	0.18	—	—	—	—	
H P-17	IV-19-20		—	円形	丸	0.10	0.03	0.20	—	—	—	—	
段	段構造		IV-19-20	—	—	—	4.41	1.14	4.41	0.87	0.14	—	—
H-26	H F-1	覆土中焼土	IV-22	13	円形	褐色～赤褐色	0.53	0.51	—	—	0.09	フレイク 骨片 炭化物	骨片分布範囲0.66×0.58m
			IV-22	—	不整形	褐色～明褐色	0.71	0.53	—	—	0.10	—	覆土中検出
			IV-22	—	楕円形	*	0.17	0.12	—	—	*	—	土層断面図なし
			IV-22	—	不整な楕円形	*	0.21	0.16	—	—	*	—	土層断面図なし
			IV-22	—	不整な楕円形	*	0.16	0.11	—	—	*	—	土層断面図なし
			IV-22	—	不整な楕円形	*	0.53	0.36	—	—	*	—	土層断面図なし
			IV-22	—	不整な楕円形	*	0.68	0.40	—	—	*	—	土層断面図なし
			IV-22	—	不整な楕円形	*	0.50	0.28	—	—	*	—	土層断面図なし
H F-4	IV-22	—	楕円形?	*	(0.38)	(0.25)	—	—	*	—	土層断面図なし、南側削平		
H F-8	IV-22	—	楕円形	*	0.15	0.09	—	—	*	—	土層断面図なし		

表IV-2 竪穴住居跡付属遺構一覧(4)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態・色調		規模(m)					主な出土遺物	備考	
							確認面		底面		最大深 最大厚			
					平面	断面	長径	短径	長径	短径				
H-27	H F-1	炉跡焼土	IV-23	-	円形	暗赤褐色	0.53	0.50	-	-	0.08	炭化物		
	H F-2		IV-23	-	不整形	褐色	1.20	1.11	-	-	0.06	-		
	H F-3		IV-23	-	不整形	褐色	1.06	0.69	-	-	0.06	-		
	H F-4		IV-23	-	不整な楕円形	褐色	1.11	0.61	-	-	0.04	-		
	H F-5		IV-23	-	不整な楕円形	褐色	0.83	0.51	-	-	0.05	-		
	H F-6		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.38	0.20	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H F-7 A		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.36	0.16	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H F-7 B		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.16	0.14	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H F-8		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.66	0.32	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H F-9 A		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.18	0.12	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H F-9 B		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.24	0.14	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H F-9 C		IV-23	-	不整な楕円形	*	0.10	0.05	-	-	*	-	土層断面図なし	
	H P-1		柱穴・杭穴	IV-23	-	円形	丸	0.11	0.04	0.29	-	-	-	
	H P-2			IV-23	-	円形	丸	0.09	0.03	0.30	-	-	-	
H P-3	IV-23	-		円形	尖	0.10	-	0.38	-	-	-			
H P-4	IV-23	-		円形	隅丸	0.12	0.04	0.46	-	-	-			
H-28	H F-1	石組範囲	IV-24	15	-	-	0.51	(0.36)	-	-	-	-	南西側石組無し	
	H F-2	炉跡焼土	IV-24	15	楕円形	赤褐色	0.31	0.26	-	-	0.06	-		
H-29	H F-1	覆土中焼土	IV-24	-	楕円形	*	0.19	0.10	-	-	*	炭化物	土層断面図なし	
	H F-1	炉跡焼土	IV-24	16	楕円形	褐色	0.19	0.16	-	-	0.05	-	住居中央	
	H F-2	炉跡焼土	IV-24	16	楕円形	褐色	0.39	0.34	-	-	0.06	-	住居南側	
	H P-1	柱穴・杭穴	IV-24	-	円形	丸	0.09	0.03	0.24	-	-	-	傾きあり	
	H P-2		IV-24	16	円形	丸	0.17	0.07	0.36	-	-	-		
	H P-3		IV-24	-	円形	隅丸	0.14	0.07	0.14	-	-	-	石錐	
	H P-4		IV-24	16	円形	尖	0.06	0.01	0.33	-	-	-		
	H P-5		IV-24	-	円形	丸	0.12	0.04	0.33	-	-	-	竪穴外	
H P-6	IV-24	-	円形	丸	0.11	0.03	0.19	-	-	-	竪穴外			

表IV-3 土坑一覧(1)

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模(m)					付属遺構	出土遺物			備考
					確認面		底面・坑底面		最大深		土器	石器等	その他	
					長径	短径	長径	短径						
P-26	IV-25	17	E・F-47・48区	楕円形	2.23	2.05	1.70	1.36	0.44	-	-	礫	-	遺構確認調査範囲、P-27近接
P-27	IV-25	17	F・G-47・48区	楕円形	2.44	2.06	1.97	1.68	0.42	-	I群b類	礫	-	遺構確認調査範囲、P-26近接
P-28	IV-26	17	G-46区	楕円形	2.19	1.99	1.92	1.62	0.32	-	-	フレイク	-	遺構確認調査範囲
P-29	IV-26	17	G・H-74区	楕円形?	(1.77)	(0.70)	(1.48)	(0.49)	(0.25)	-	-	フレイク、礫	-	遺構確認調査範囲、調査区外に広がる
P-30	IV-27	17	E・F-51・52区	不整な楕円形?	(5.07)	4.92	(4.64)	4.03	0.46	段	I群b類 II群a類 IV群a類	両面調整石器、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、石鋸、礫	-	南側部分、平成23年度調査では確認できず
P-31	IV-28	17	E-63・64、F-63区	楕円形?	(3.03)	(1.70)	(2.88)	(1.52)	(0.23)	-	II群a類 IV群a類	石鋸、石槍またはナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、石鋸、砥石、礫	-	H-21と重複(H-21より古い)
P-32	IV-28	17	E-60・61区	楕円形	(1.91)	1.91	(1.70)	1.65	0.44	-	IV群a類	つまみ付きナイフ、フレイク、砥石、礫	-	H-23と重複(H-23より新しい)
P-33	IV-29	17	D-67区	楕円形	1.07	(0.78)	0.66	(0.51)	0.27	-	-	-	-	F-2と近接
P-34	IV-29	18	E-61・62区、F-62区	不整な楕円形	4.31	2.66	3.93	2.50	0.58	段	II群a類 IV群a類	石鋸、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、フレイク、石鋸、砥石、加工・使用痕のある礫、礫	-	H-21・P-31近接 北西隅ややくぼむ
P-35	IV-30	18	D・E-59区	楕円形	1.52	1.36	1.14	0.84	0.45	-	II群a類	石槍またはナイフ、フレイク、石鋸、礫	-	H-23と重複(H-23より新しい)
P-36	IV-30	18	E-56区	不整な楕円形	1.20	0.91	0.87	0.57	0.16	-	II群a類	フレイク、礫	-	H-19と重複(新旧関係不明)
P-37	IV-31	18	F-56区	不整な楕円形	1.04	0.81	0.79	0.57	0.10	-	I群b類 IV群a類	石槍またはナイフ、フレイク、礫	-	IV群a類土器が形状を保った状態で出土、H-19と重複(H-19より新しい)
P-38	IV-31	18	G-56・57区	円形	1.44	1.24	1.07	0.96	0.18	-	-	フレイク、たたき石、砥石、台石・石皿、礫	-	H-19と重複(新旧関係不明)
P-39	IV-32	19	E-58・59区	楕円形?	(1.06)	(0.39)	(0.92)	(0.30)	0.13	-	-	つまみ付きナイフ、加工・使用痕のある礫	炭化材	H-17・23と近接
P-40	IV-32	19	G-58区	不整な楕円形	1.24	0.79	0.91	0.58	0.22	-	-	礫	-	H-26、P-49近接
P-41	IV-32	19	F-70区	楕円形	2.16	0.99	1.56	0.68	0.36	-	II群a類	フレイク、礫	-	H-24・P-44と重複(両遺構より新しい)
P-42	IV-33	19	D-69・70区	楕円形	1.57	(0.90)	1.27	(0.74)	0.21	-	II群a類	フレイク、礫	-	H-28と近接

表IV-3 土坑一覧(2)

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)					付属遺構	出土遺物			備考
					確認面		底面・坑底面		最大深		土器	石器等	その他	
					長径	短径	長径	短径						
P-43	IV-33	19	E-66区	不整な長楕円形	4.03	1.33	2.94	0.52	0.89	掘り上げ土	II群a類 IV群a類	石鏃、 石槍またはナイフ、 両面調整石器、 スクレイパー、 U・Rフレイク、 フレイク、 磨製石斧、礫	-	掘り上げ土がP-50と重複(P-50より新しい)
P-44	IV-34	19	F・G-70・71区	楕円形?	4.96	(1.78)	4.67	(1.78)	0.22	-	I群b類 II群a類 IV群a類	石鏃、フレイク、礫	-	H-24と重複(新旧関係不明)
P-45	IV-35	20	F・G-53・54区	不整な楕円形	6.24	3.63	5.83	3.03	0.51	段	I群b類 II群a類 IV群a類	石槍またはナイフ、 両面調整石器、 フレイク、 磨製石斧、砥石、礫	-	覆土上面にF-4・FC-5
P-46	IV-36	20	F-59、 G-59・60区	楕円形	2.88	1.99	2.54	1.77	0.34	柱穴・ 杭穴	I群b類 II群a類	石槍またはナイフ、 フレイク、 磨製石斧、礫	-	P-49近接
P-47	IV-36	20	E・F-65区	不整な楕円形	3.21	2.22	2.80	1.80	0.35	-	II群a類 IV群a類	石鏃、 つまみ付きナイフ、 スクレイパー、 U・Rフレイク、 フレイク、 台石・石皿、礫	-	H-27と重複(新旧関係は不明)
P-48	IV-37	20	D-71、 E-70・71区	不整な楕円形	1.49	1.26	0.79	0.71	0.13	-	IV群a類	加工・使用痕のある礫、 礫	-	H-24と重複(H-24より新しい)
P-49	IV-37	21	F・G-58・59区	円形	3.70	3.32	3.30	3.04	0.40	柱穴・ 杭穴、 段	I群b類 II群a類	石鏃、石鏃 石槍またはナイフ、 スクレイパー、 U・Rフレイク、 フレイク、砥石、 加工・使用痕のある礫、 礫	-	H-26と重複(H-26より新しい)
P-50	IV-38	21	E・F-66区	楕円形	1.50	1.20	1.12	0.84	0.24	-	-	両面調整石器、 フレイク、礫	-	P-43掘り上げ土下に位置(P-43より古い)
P-51	IV-38	21	E-71・72区	楕円形	2.10	1.60	1.40	1.10	0.34	-	II群a類	石鏃、 スクレイパー、 フレイク、礫	-	
P-52	IV-39	21	D-70区	楕円形?	(1.73)	(1.13)	(1.57)	(0.93)	0.24	-	-	-	炭化材	H-28と重複(H-28より古い)
P-53	IV-39	21	G-70・71区	不整形	3.60	(2.43)	3.14	(2.25)	0.43	土坑	IV群a類	スクレイパー、 フレイク、 たたき石、 加工・使用痕のある礫、 礫	-	調査区外に広がる
P-54	IV-40	21	G・H-68・69区	不整形?	3.33	2.17	3.02	2.02	0.36	-	-	フレイク、礫	-	調査区外に広がる
P-55	IV-41	22	G-65区	楕円形	-	-	0.90	0.67	0.02	-	IV群a類	石槍またはナイフ、 フレイク、礫	炭化材	坑底面のみ、H-25と重複(H-25より新しい)、 黒曜石原材産地分析 TOS-6:石槍またはナイフ
P-56	IV-41	22	G-65区	楕円形	0.82	0.64	0.70	0.52	0.06	-	-	礫	-	H-25と重複(H-25より新しい)
P-57	IV-41	22	G・H-56区	楕円形	0.96	0.80	0.72	0.56	0.10	-	-	フレイク、礫	-	

表IV-4 土坑付属遺構一覧(1)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態・色調		規模 (m)					主な出土遺物	備考
					平面	断面	確認面		底面		最大深		
							長径	短径	長径	短径			
P-30	段	段構造	IV-27	-	不整形	-	2.60	1.19	2.60	0.67	0.15	*	北側壁際
P-34	段	段構造	IV-29	-	不整形	-	2.36	2.22	1.80	1.90	0.18	*	
P-43	掘り上げ土	掘り上げ土	IV-34	19	不整な長楕円形	-	4.40	1.17	-	-	0.30	II群a類土器、 石槍またはナイフ、 両面調整石器、 スクレイパー、 U・Rフレイク、 フレイク、磨製石斧、 礫	E・F-66区、 P-50上位に位置する (P-50より新しい)
P-45	段	段構造	IV-35	-	不整形	-	3.52	2.41	3.20	1.92	0.24	*	南側
			IV-35	-	不整形	-	3.78	2.53	3.33	2.03	0.23	*	北側
P-46	S P-1 S P-2 S P-3 S P-4 S P-5 S P-6 S P-7 S P-8 S P-9	柱穴・杭穴	IV-36	20	円形	尖	0.08	-	-	-	0.25	-	
			IV-36	20	円形	丸	0.10	-	0.03	-	0.20	-	
			IV-36	20	円形	尖	0.08	-	-	-	0.26	-	
			IV-36	20	円形	尖	0.06	-	-	-	0.22	-	
			IV-36	-	円形	丸	0.08	-	0.02	-	0.14	-	
			IV-36	-	楕円形	尖	0.09	-	-	-	0.21	-	
			IV-36	-	楕円形	尖	0.11	-	-	-	0.14	-	
			IV-36	-	円形	尖	0.09	-	-	-	0.16	-	土層断面図なし
			IV-36	-	円形	丸	0.08	-	0.03	-	0.14	-	

表IV-4 土坑付属遺構一覧(2)

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態・色調		規模(m)				主な出土遺物	備考	
					平面	断面	確認面		最大深				
							長径	短径					
P-49	SP-1	柱穴・杭穴	IV-37	-	円形	尖	0.14	-	-	-	0.37	-	-
	SP-2						0.09	-	-	-	0.32	-	
	SP-3						0.10	-	-	-	0.23	-	
	SP-4						0.10	-	-	-	0.28	-	
	SP-5						0.08	-	-	-	0.21	-	
	SP-6	0.15	-	-	-	0.32	-						
	段	段構造	IV-37	-	不整形	-	1.88	1.50	1.56	1.12	0.24	*	-
P-53	SP-1	土坑	IV-39	-	楕円形	底面:曲線的	0.50	0.33	0.13	0.16	0.16	-	土層断面図なし
	SP-2						0.37	0.29	0.25	0.21	0.17	-	土層断面図なし

表IV-5 焼土一覧

遺構名/枝番号	焼土種別	図	図版	グリッド	確認層位	平面形態	焼土色調		規模(m)			主な出土遺物	関連する遺構	備考	
							色名	マンセル表色系	長径	短径	最大厚				
							赤褐色 ~褐色	5~7.5YR4/6							
F-1	F-1A	-	IV-42	22	H-72・73区	Ⅲ層	円形	赤褐色 ~褐色	5~7.5YR4/6	0.65	0.6	0.13	フレイク	FC-3 近接	水洗選別
	F-1B	-	IV-42	22	H-72区	Ⅲ層	不整な円形	褐色	7.5YR4/6	0.42	0.42	0.10	フレイク		
	F-1C	-	IV-42	22	G・H-72区	Ⅲ層	円形	赤褐色	5YR4/6	0.23	0.22	0.04	-		
	F-1D	-	IV-42	22	G-72区	Ⅲ層	楕円形	褐色	7.5YR4/6	0.40	0.32	0.07	石槍またはナイフ、フレイク		
	F-1E	-	IV-42	22	H-73区	Ⅲ層	円形	赤褐色 ~褐色	5~7.5YR4/6	0.40	0.38	0.10	フレイク、礫		
F-2	掘り込みのある焼土	IV-42	22	D-67区	Ⅲ層	楕円形	褐色	7.5YR4/6	0.71	0.62	0.12	フレイク、炭化材	P-33近接	掘り方0.99×0.90/0.76×0.71/0.08m	
F-3	-	IV-43	22	D-68区	H-20覆土	円形?	褐色	7.5YR4/6	0.33	(0.18)	0.08	-	H-20上位	-	
F-4	-	IV-43	23	F-53区	P-45覆土	円形	褐色	7.5YR4/6	0.36	0.35	0.11	-	P-45上位	-	
F-5	-	IV-43	23	E-67区	H-29覆土	楕円形	褐色	7.5YR4/6	0.42	0.35	0.12	炭化物・骨片	H-29上位	-	

表IV-6 フレイク集中一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	平面形態	規模(m)			主な出土遺物	付属遺構関連する遺構	備考
						長径	短径	最大厚			
FC-3	IV-44	-	G-73区	Ⅲ層	不整な楕円形	1.82	0.87	-	フレイク、礫	F-1と近接	水洗選別
FC-4	IV-44	-	E・F-54・55区	Ⅲ層	楕円形	1.66	1.20	-	I群b類土器・II群a類土器・IV群a類土器、石鏃、U・Rフレイク、フレイク、磨製石斧、砥石、礫	-	水洗選別
FC-5	IV-44	-	F-53区	Ⅲ層	楕円形	0.80	0.69	-	スクレイパー、石核、U・Rフレイク、フレイク	P-45覆土上位	水洗選別

表IV-7 遺構出土位置計測遺物説明表

遺構名	遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存状態	点数	層位	標高(m)	備考
	2	石鏃	砂岩	片	9	床面	18.92		
	3	U・Rフレイク	黒曜石	完形	1	床面	18.89		
	3	スクレイパー	黒曜石	完形	2	床面	18.89		
	4	砥石	砂岩	完形	1	床面直上	19.03		
	5	礫	砂岩	片	1	床面	18.9		
	6	土器 II群a類	胴部	良好	1	床面直上	18.98		
	7	礫	粗粒玄武岩	片	2	床面直上	18.97	被熱	
	8	スクレイパー	黒曜石	半形	1	床面直上	18.99		
	9	スクレイパー	チャート	完形	1	床面直上	18.99		
	10	礫	粗粒玄武岩	片	1	床面直上	19.02		
	11	礫	粗粒玄武岩	片	1	床面直上	18.97		
	12	礫	粗粒玄武岩	片	8	床面直上	19.01		
	13	砥石	砂岩	完形	1	床面直上	19.01		
	14	砥石	砂岩	完形	1	床面直上	18.98		
	15	礫	粗粒玄武岩	完形	1	床面直上	19		
	16	礫	粗粒玄武岩	完形	1	床面直上	18.96		
	17	礫	粗粒玄武岩	片	1	床面	18.95		
	18	礫	粗粒玄武岩	片	5	床面直上	18.99		
	19	加工・使用痕のある礫	砂岩	2	床面直上	19			
	20	礫	粗粒玄武岩	完形	56	床面直上	18.99		
	21	加工・使用痕のある礫	砂岩	24	床面直上	18.99			
H-24	1	つまみ付きナイフ	頁岩	完形	1	床面	20.72		
	2	石鏃	黒曜石	完形	1	床面	20.71	黒曜石分析 TS-5	
	3	たたき石	泥岩	完形	1	床面	20.68		
	4	石鏃	頁岩	完形	1	床面	20.72		
	5	磨製石斧	緑色泥岩	完形	1	床面	20.63		
	6	石槍またはナイフ	黒曜石	完形	3	床面	20.69	黒曜石分析 TS-3-4	
	7	磨製石斧	泥岩	準完形	1	床面	20.62		
	8	石鏃	砂岩	片	3	床面	20.6		
	9	礫	粗粒玄武岩	完形	1	床面	20.71		

遺構名	遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存状態	点数	層位	標高(m)	備考					
										H-25	1	石鏃	砂岩	完形
	2	磨製石斧	砂岩	完形	1	床面	20.27							
	3	スクレイパー	黒曜石	半形	1	床面	20.15							
	4	砥石	砂岩	片	1	床面	20.06							
	5	つまみ付きナイフ	チャート	完形	1	床面	20.04							
	6	つまみ付きナイフ	チャート	完形	1	床面	20.06							
	7	フレイク	チャート	完形	1	床面	20.06							
	8	石鏃	砂岩	片	5	床面	20.06							
	9	石槍またはナイフ	黒曜石	完形	1	床面	20.05	黒曜石分析 TS-7						
	10	磨製石斧	緑色泥岩	完形	1	床面	20.1							
	11	土器 II群a類	口縁部	良好	2	床面	20.12							
	11	土器 II群a類	底部	良好	1	床面	20.12							
	11	土器 II群a類	胴部	良好	14	床面	20.12							
	11	土器 II群a類	胴部	小破片	4	床面	20.12							
	12	石槍またはナイフ	黒曜石	片	1	床面	20.04							
	13	U・Rフレイク	チャート	完形	1	床面	20.05							
P-37	1	土器 IV群a類	口縁部	良好	33	1	坑底	19.10~19.32						
										石槍またはナイフ	黒曜石	半形	1	
	2	石槍またはナイフ	黒曜石	完形	1	覆土	19.12							
										フレイク	黒曜石	片	1	19.11
										フレイク	黒曜石	片	1	19.11
										フレイク	黒曜石	片	1	19.21
										フレイク	黒曜石	片	1	19.07
										フレイク	黒曜石	片	1	19.07
										フレイク	黒曜石	片	1	19.06
										フレイク	黒曜石	片	1	19.06
										フレイク	黒曜石	片	1	19.06
										土器 IV群a類	胴部	良好	1	19.07
										礫	砂岩	片	1	19.03
礫	砂岩	片	1	19.02										

表IV-8 竪穴住居跡出土土器点数表

時期	H-17		H-18		H-19		H-20		H-21		H-22		H-23		H-24		H-25		H-26		H-27		H-28		H-29		合計								
	運物種別/部位	残存状態	床面	直上	床面	直上	床面	直上	床面	直上	付属	覆土	小計	床面	直上	付属	覆土	小計	床面	直上	付属	覆土	小計	床面	直上	付属		覆土	小計						
I群b類	口縁部	良好	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1							
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		磨耗	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小破片	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2						
		小計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		良好	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		磨耗	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		良好	1	7	20	20	1	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33					
	I群a類	口縁部	良好	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		磨耗	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小破片	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小計	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		良好	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		磨耗	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小破片	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小計	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		良好	2	4	6	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	13	14	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	33					
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
	磨耗	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	良好	0	2	2	0	0	10	23	23	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41							
	剝離	1	4	3	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	12	13	1	1	2	6	8	0	0	0	0	0	0	0	31						
	磨耗	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小破片	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	良好	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	良好	2	7	9	1	6	7	12	12	1	1	3	3	0	2	13	15	32	14	15	29	1	1	0	0	0	0	0	5						
	剝離	31	17	48	1	5	6	10	10	0	3	3	1	1	26	26	14	1	28	28	7	2	9	0	0	0	0	0	149						
	磨耗	35	15	50	0	2	2	19	19	1	3	3	0	0	1	54	55	35	4	15	19	2	1	1	1	3	1	4	192						
	小破片	68	39	107	1	13	15	41	41	2	2	10	0	10	1	3	93	96	83	1	84	18	58	76	10	3	13	1	2	3	4	6	10	460	
	小計	70	43	113	1	14	16	43	43	3	3	10	0	10	1	4	106	110	85	1	86	21	64	85	11	3	14	2	4	3	3	4	6	10	498
IV群a類	口縁部	良好	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		良好	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		剝離	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		良好	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		剝離	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
	磨耗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小破片	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	小計	0	1	1	0	0	0	0																											

表IV-14 フレイク集中出土土器点数表

遺構名			FC-4	合計	
遺物種別/層位			Ⅲ層		
時期	部位	残存状態			
I群b類	口縁部	良好	1	1	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			1	1
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好		0	0
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片		1	1	1	
小計			1	1	
I群b類合計			2	2	
IV群a類	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好	1	1	1
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片			0	0	
小計			1	1	
IV群a類合計			1	1	
合計			3	3	

表IV-16 フレイク集中出土土器点数表(水洗選別)

遺構名			FC-4	合計	
遺物種別/層位			Ⅲ層		
時期	部位	残存状態			
I群b類	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好	1	1	1
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片			0	0	
小計			1	1	
I群b類合計			1	1	
II群a類	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好	2	2	2
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片		3	3	3	
小計			5	5	
II群a類合計			7	7	
IV群a類	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好	1	1	1
		剥離	1	1	1
摩耗			0	0	
小破片			0	0	
小計			2	2	
IV群a類合計			2	2	
合計			10	10	

表IV-15 竪穴住居跡出土土器点数表(水洗選別)

遺構名			H-19	合計	
遺物種別/層位			HFC-1 覆土		
時期	部位	残存状態			
I群b類	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好	2	2	2
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片		3	3	3	
小計			5	5	
I群b類合計			5	5	
II群a類	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好		0	0
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片		1	1	1	
小計			1	1	
II群a類合計			1	1	
不明	口縁部	良好		0	
		剥離		0	
		摩耗		0	
		小破片		0	
	小計			0	0
	底部	良好		0	0
		剥離		0	0
		摩耗		0	0
		小破片		0	0
	小計			0	0
	胴部	良好		0	0
		剥離		0	0
摩耗			0	0	
小破片		10	10	10	
小計			10	10	
不明			10	10	
合計			16	16	

表IV-17 竪穴住居跡出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			H-19			H-20			H-29		合計	
遺物種別／層位			HFC-1	HFC-2	小計	HFC-1	HFC-2	小計	覆土	小計		
群	器種	残存状態	覆土	覆土		覆土	覆土					
剥片石器群	石鏃	完形			0		1	1		0	1	
		準完形			0			0		0	0	
		半形			0			0		0	0	
		片			0			0		0	0	
	小計			0	0	0	0	1	1		0	1
	両面調整石器	完形				0			0		0	0
		準完形				0			0		0	0
		半形				0			0		0	0
		片	5			5			0		0	5
	小計			5	0	5	0	0	0		0	5
	スクレイパー	完形	1			1			0		0	1
		準完形				0			0		0	0
		半形				0			0		0	0
片					0			0		0	0	
小計			1	0	1	0	0	0		0	1	
フリイク			5499	1230	6729	330	933	1263	2069	2069	10061	
剥片石器群合計			5505	1230	6735	330	934	1264	2069	2069	10068	
礫石器群	磨製石斧	完形			0			0		0	0	
		準完形			0			0		0	0	
		半形			0			0		0	0	
		片			0		2	2		0	2	
小計			0	0	0	0	2	2		0	2	
礫石器群合計			0	0	0	0	2	2	0	0	2	
合計			5505	1230	6735	330	936	1266	2069	2069	10070	

表IV-18 土坑出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			P-31	合計
遺物種別／層位			覆土	
群	器種	残存状態		
剥片石器群	フリイク		338	338
	U・Rフリイク		1	1
合計			339	339

表IV-19 焼土出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			F-1	合計
遺物種別／層位			F-1A	
群	器種	残存状態	焼土	
剥片石器群	フリイク		11	11
	合計			11

表IV-20 フリイク集中出土石器点数表（水洗選別）

遺構名			FC-3	FC-4	FC-5	合計
遺物種別／層位			Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	
群	器種	残存状態				
剥片石器群	石核		0	0	1	1
	フリイク		664	4045	1318	6027
剥片石器群合計			664	4045	1319	6028
礫石器群	磨製石斧	完形				0
		準完形				0
		半形				0
		片		3	0	3
礫石器群合計			0	3	0	3
礫	礫	完形				0
		片	1	3	0	4
礫合計			1	3	0	4
合計			665	4051	1319	6035

V章 B地区の遺構・包含層出土の遺物

1. 遺構・包含層出土の土器 (図V-1~14 表V-1・3~18 図版24~33)

(1) 遺構出土の土器 (図V-1~7 図版24~29)

・遺構出土の復原土器

H-24 (図V-1-1)

1は覆土出土のⅡ群a類土器の深鉢である。部位は胴部下半~底部で、口縁~胴部上半を欠失する。底部から胴部にかけて直線的に大きく開く器形で、底部の厚さは約5cmである。文様は幅のある格子目状押型文が施され、一部矢羽状押型文もみられる。また、尖底部外面には文様は施されない。胎土には繊維が多量に含まれる。

H-24・P-48 (図V-1-2・3)

2・3はⅣ群a類土器の深鉢で、H-24とP-48の覆土出土のものが接合している。2の部位は口縁~胴部下位で、底部を欠失する。器形は口縁部がわずかに外反し、胴部上半は直線的で、中位から下位にかけて緩やかにすぼまる。口縁部は肥厚帯がみられ、縦位の撚糸文が施される。肥厚帯下位には円形刺突文が施される。地文はLRないしRL縄文と、縦位の撚糸文の組み合わせである。また、口縁部内面にもLR縄文が施される。3は胴部中位~底部で、口縁部~胴部上位を欠失する。胴部から底部にかけて緩やかにすぼまる器形で、底部はやや張り出す。地文はRL縄文で、補修孔が1か所みられる。全体的に器面が摩耗する。

H-24・P-51 (図V-1-4)

4はⅡ群a類土器の深鉢で、H-24とP-51の覆土出土のものが接合している。部位は胴部上位~底部で口縁部を欠失する。器形は底部から胴部にかけて直線的に開く。文様は矢羽状押型文が縦位に浅く施される。内面の調整はミガキである。胎土には繊維が多量に含まれる。

H-25 (図V-1-5)

5はⅡ群a類土器の深鉢で、H-25の床面から出土した。小型の押型文尖底土器で、全体の約2/3が残存している。器形は底部から胴部までは直線的に広がり、口縁部はほぼ直立する。口唇部には突起があり、上部には刻みが施される。口縁~胴部上半には斜格子状押型文が横位に施され、一部矢羽状になるところもある。内面は全体的に黒色化し、炭化物の付着部分もみられる。

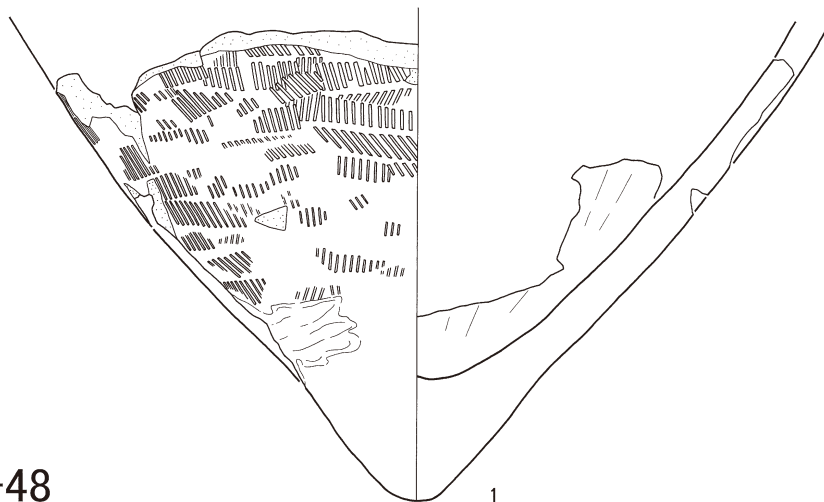
P-31 (図V-2-6)

6はⅣ群a類土器の深鉢で、P-31覆土とE-64区Ⅲ層出土が接合している。部位は口縁~胴部下位で、底部を欠失する。器形は円筒形に近く、胴部下位から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる。文様は、口唇部には刻みが施される。口縁部にはやや幅のある肥厚帯がみられ、RL縄文と縦位の沈線文が施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。胴部はRL・LR縄文が交互に施され、羽状縄文となる。全体的に補修孔が多く、11か所施されている。

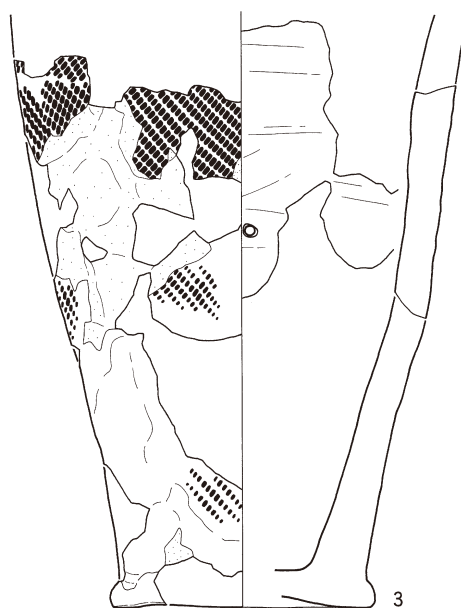
P-37 (図V-2-7)

7は坑底出土のⅣ群a類土器である。底部を欠失するが、形状を保ったまま出土した。器形は円筒形に近く、胴部下位から口縁部にかけてわずかにふくらみながら立ち上がる。文様は、口唇部には刻みが施される。口縁部には肥厚帯がみられ、貼付による棒状突起、沈線文、LR縄文が施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。地文はRL・LR縄文が交互に施され、羽状縄文となる。

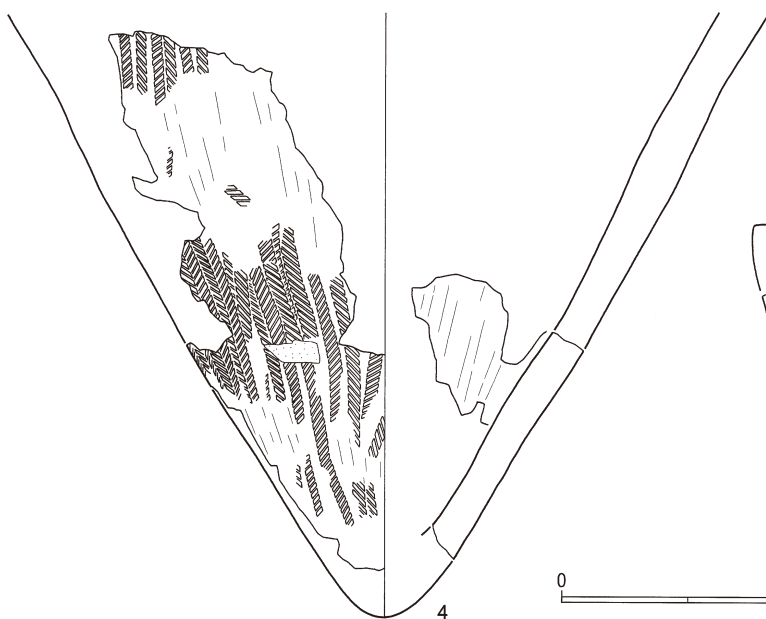
H-24



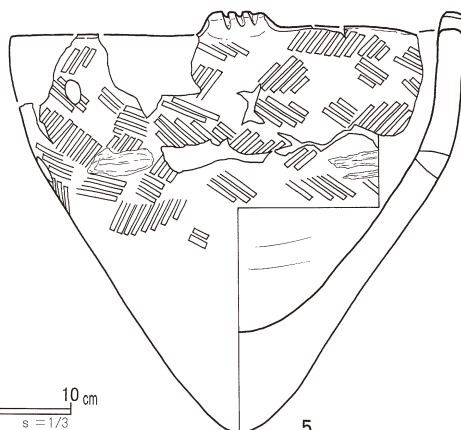
H-24・P-48



H-24・P-51



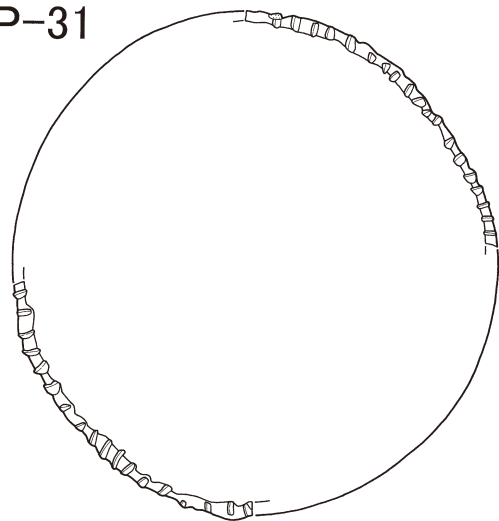
H-25



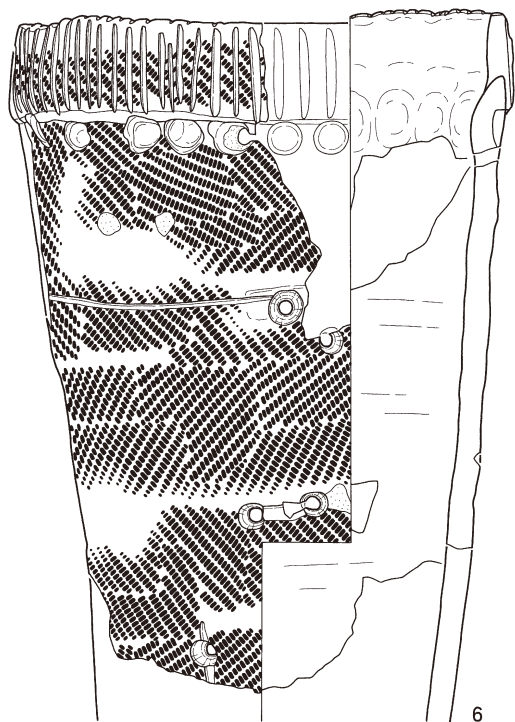
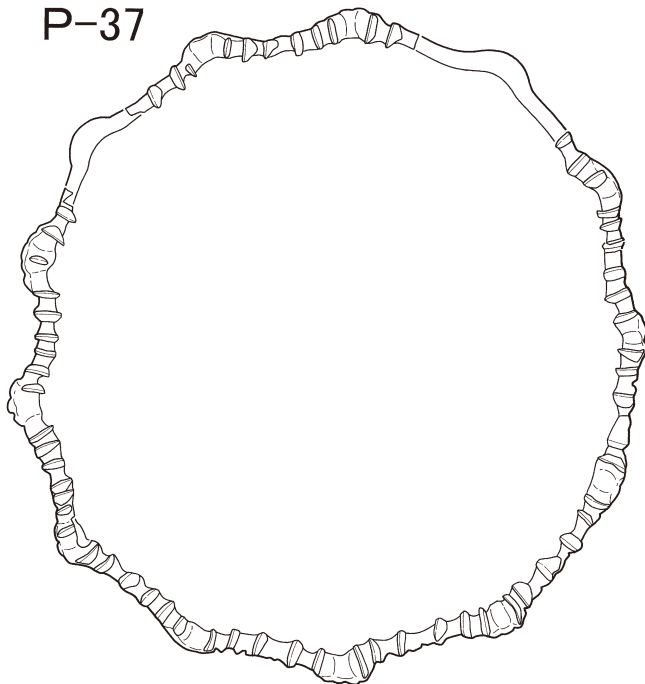
0 10 cm
s = 1/3

図V-1 遺構出土の土器 (1)

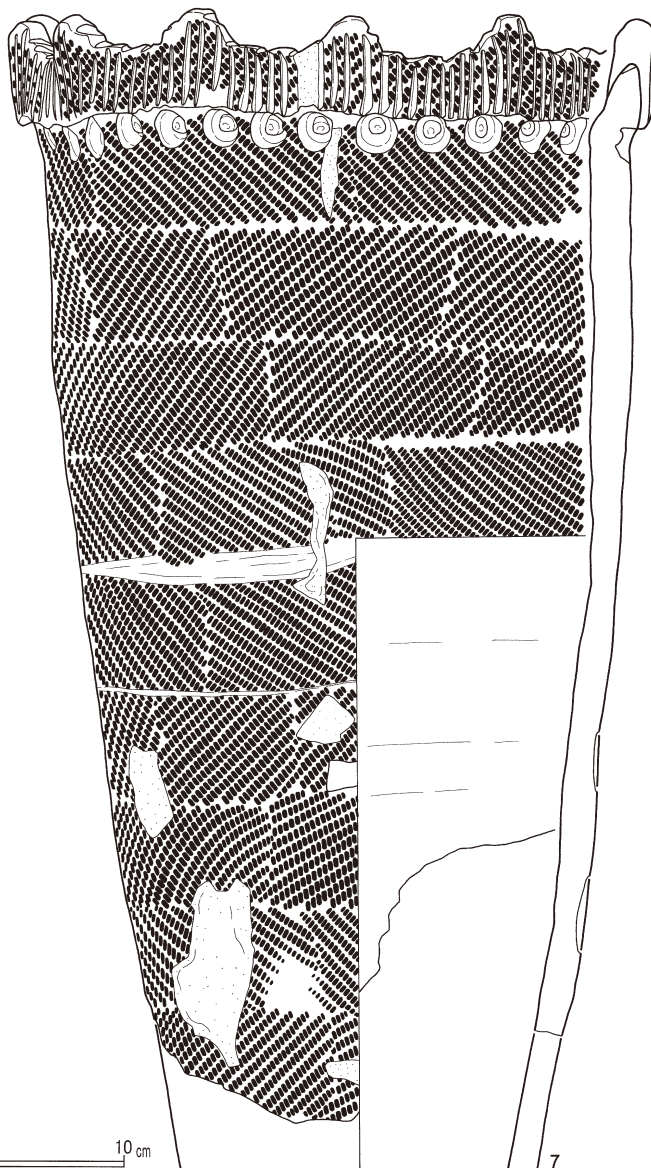
P-31



P-37

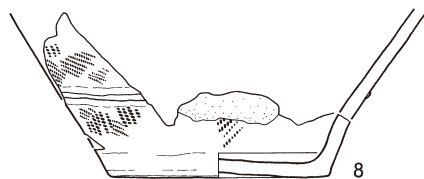


6



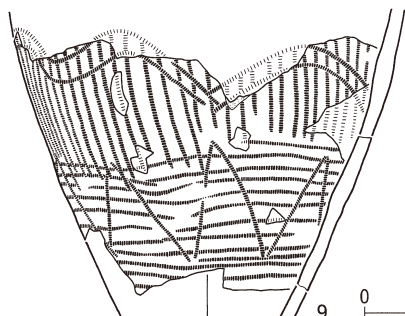
7

P-46・P-49



8

P-49



9



図V-2 遺構出土の土器(2)

P-46・P-49 (図V-2-8)

8はI群b類土器の深鉢で、P-46、P-49覆土と周辺包含層出土のものが接合した。部位は胴部下位～底部で、口縁～胴部中位を欠失する。器形は底部が少し上げ底になり、底部から胴部にかけて大きく開く。文様は貼付帯が1条みられ、その上位にRL縄文、下位にLR縄文が施される。

P-49 (図V-2-9)

9はI群b類土器の深鉢で、P-49覆土と周辺包含層出土のものが接合した。部位は胴部中位で、文様は縦位及び横位、さらに山形や曲線的な形状が絡条体圧痕文により施される。

・ 竪穴住居跡出土の破片土器

H-17 (図V-3-1～6)

1・4は覆土と床面出土が接合したもので、他は全て覆土出土である。1～5はII群a類土器の深鉢で胎土に繊維を多量に含む。1は口縁部で口唇上に突起が付けられている。突起には上から刺突文が施される。地文には矢羽状押型文が施される。内面はミガキが施される。2は口縁部の突起部で、全体的に器面が摩耗している。横及び上から刺突文が施される。3は口縁部下位～胴部で矢羽状押型文が横位に施される。上位には貼付帯がみられ、貼付帯には刺突文が施される。4・5は胴部である。4は矢羽状押型文が横位に施される。5は沈線文が施される。6はI群b類土器で貼付文、絡条体圧痕文、短縄文が施される。

H-18 (図V-3-7～10)

7・8・10は覆土出土で、9は覆土とF-52区Ⅲ層出土のものが接合した。7・8はII群a類土器の深鉢である。7は口縁部下位～胴部で肥厚帯下端に刻みが施される。8は胴部で、文様は縦位の撚糸文が施される。9・10はI群b類土器の深鉢で、部位は胴部である。9は横位の絡条体圧痕文による文様帯がみられ、間には縦位の絡条体圧痕文や横位の貼付帯が施される。10は斜位の貼付文及び絡条体圧痕文が施される。

H-19 (図V-3・4-11～20)

11～14はII群a類土器の深鉢である。11はH-18覆土出土と接合し、12～14は覆土出土と周辺包含層出土のものが接合した。11と12、13と14はそれぞれ非接合の同一個体である。11・12は共に外面に剥落部分がみられ、内面には多量の炭化物が付着する。胴部の文様は縦位の矢羽状押型文である。12は口縁～胴部で肥厚帯下位に刺突文と刻みが施される。また肥厚帯には横位の矢羽状押型文がみられる。13は肥厚帯がみられ、矢羽状押型文、沈線文、刺突文が施される。15・16は覆土出土のIV群a類土器の胴部である。15はRL縄文、16はLR縄文が施される。17～20は覆土出土のI群b類土器である。17・18は貼付帯がみられるもので、貼付帯の間に17はLR、RL縄文が、18は短縄文が施される。19・20は絡条体圧痕文と短縄文が施されるもので、19は撚糸文がみられる。

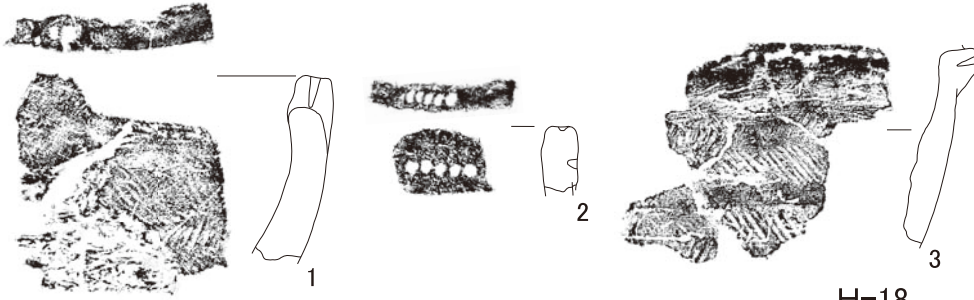
H-20 (図V-4-21・22)

21・22は共に覆土から出土した。21はII群a類土器の口縁部で斜格子状押型文が施される。補修孔が1か所みられる。22はI群b類土器の胴部で、横位に絡条体圧痕文が施される。

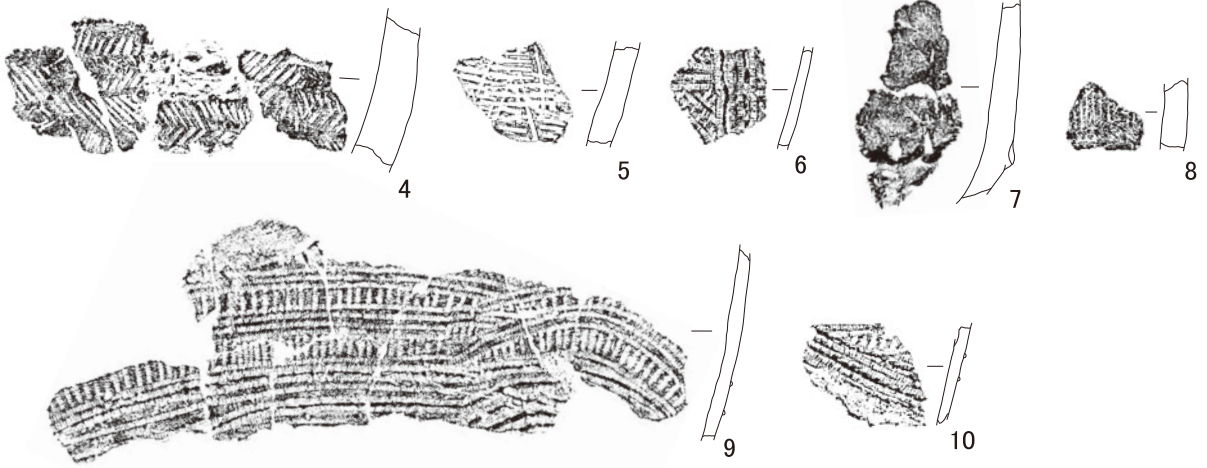
H-21 (図V-4-23～26)

23は覆土出土のII群a類土器である。胴部で矢羽状押型文が斜位に施される。24～26はIV群a類土器である。出土層位は24が覆土、25は覆土出土とP-34、P-47覆土出土のものが接合している。26は覆土出土のものと、H-19覆土出土、包含層出土のものが接合している。24は北筒Ⅱ式の口縁部で肥厚帯がみられ、肥厚帯にはLR縄文と沈線文が施される。肥厚帯の下には円形刺突文が施される。

H-17

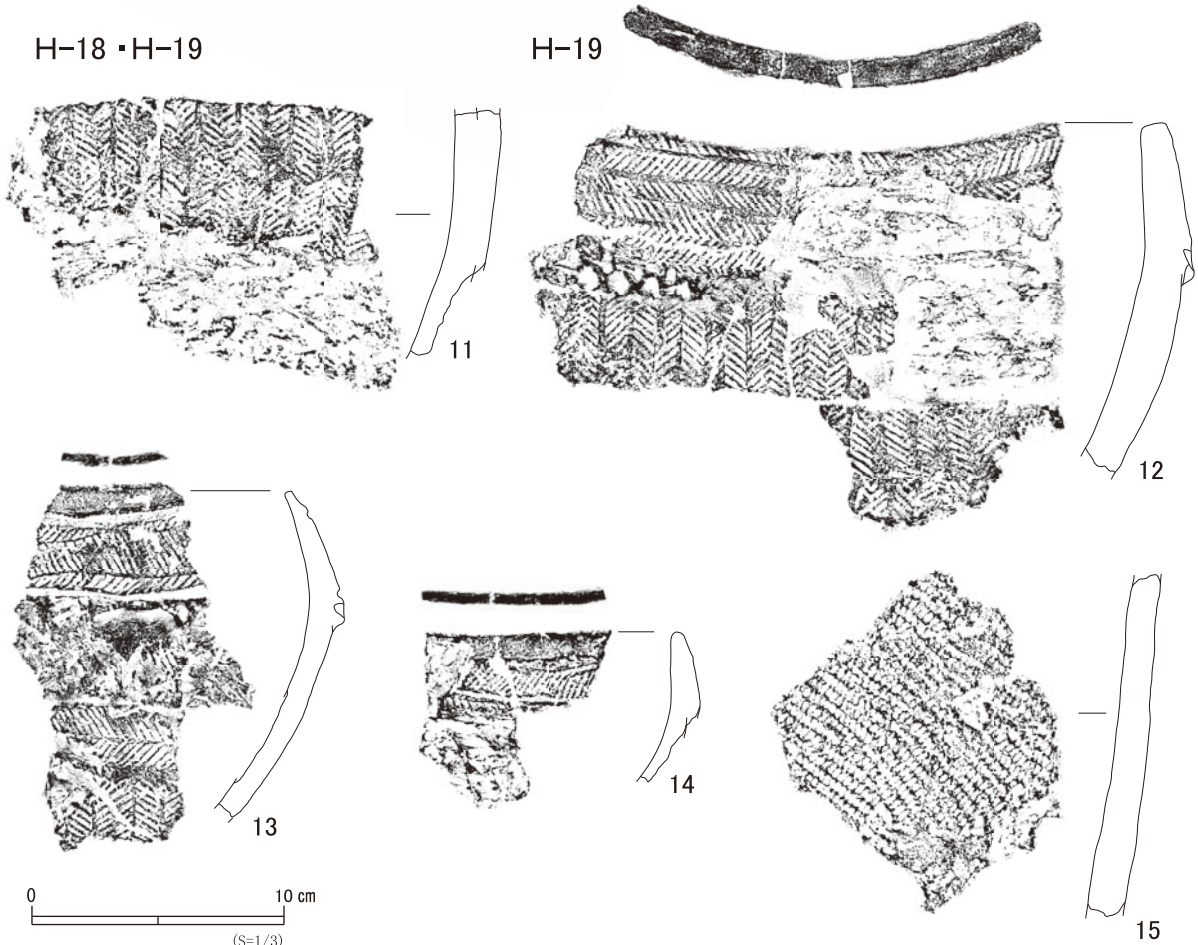


H-18

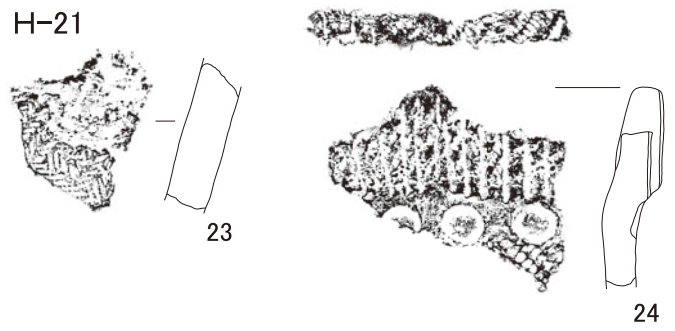
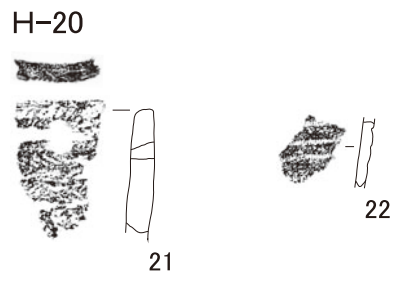
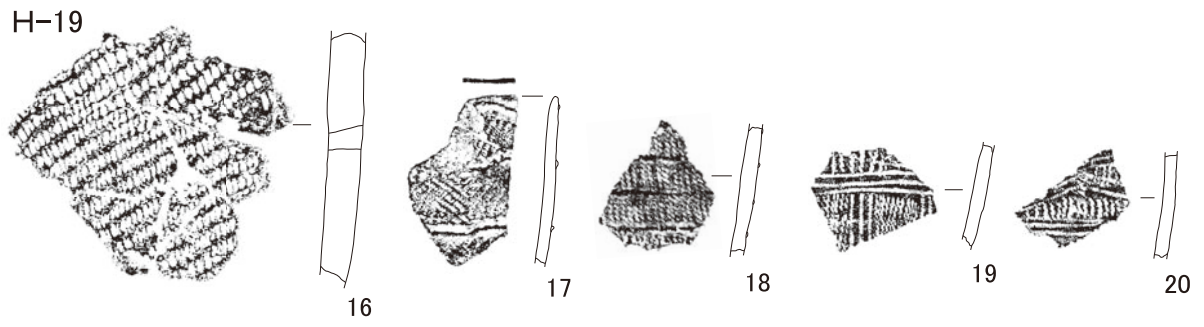


H-18・H-19

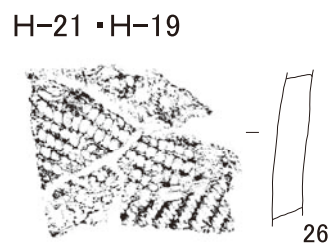
H-19



図V-3 遺構出土の土器(3)



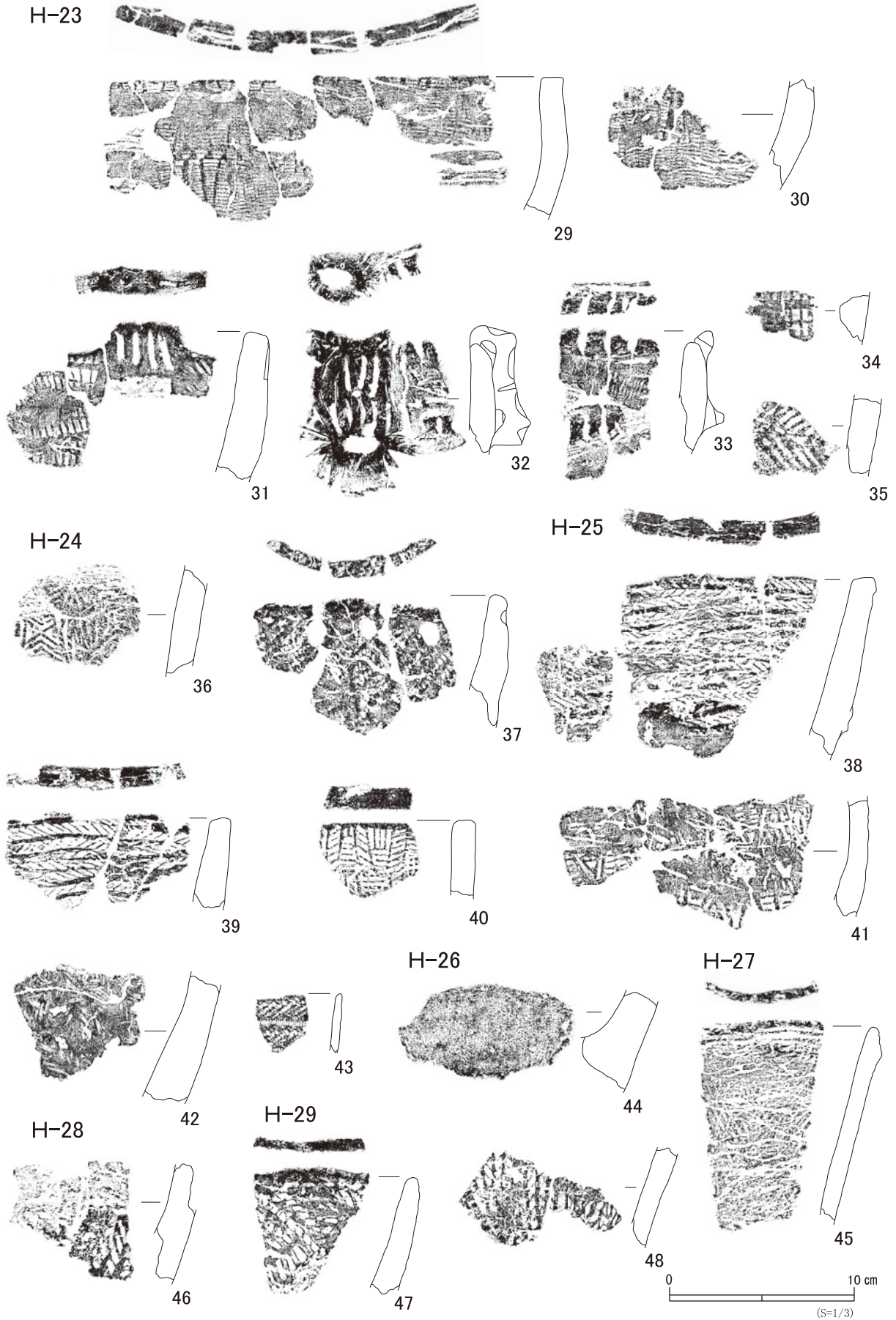
H-21・P-34・P-47



H-23



図V-4 遺構出土の土器(4)



図V-5 遺構出土の土器(5)

25・26は胴部で、LR・RL縄文が羽状に施される。

H-23 (図V-4・5-27~35)

出土層位は29が床面、覆土、F-60区Ⅲ層出土が接合し、30・33は覆土とF-60区Ⅲ層が接合している。他は全て覆土出土である。27~34はⅡ群a類土器である。27・28は同一個体の口縁~胴部である。口縁部には貼付による突起部が付けられ、突起部には刺突文が施される。28の突起は大型で沈線文もみられる。地文には格子目状押型文が横位に施される。内面には細かいミガキが施される。29・30は同一個体で、29は口縁~胴部、30は胴部である。口唇部は平坦で、口縁部下半がやや膨らむ器形である。口縁~胴部にかけて縦位の格子目状押型文が施される。31は口縁部で、口唇部には貼付による突起部が作り出される。突起部には短い沈線文が施される。地文は格子目状押型文と斜格子状押型文がみられる。32・33は同一個体の口縁部で横位の貼付帯がみられる。口唇部及び貼付帯には刻みが施される。32は貼付による突起部が施され、細長い刻みや刺突文が施される。34は胴部で内面が剥離している。文様は格子目状押型文が施される。35はⅣ群a類土器の胴部で、LR・RL縄文が羽状に施される。

H-24 (図V-5-36・37)

36は覆土出土のⅡ群a類土器である。胴部で、文様は「く」の字状の押型文が部分的に施される。器面が摩耗しているため不明瞭だが、格子目状押型文も施されていると考えられる。37は覆土出土のⅣ群a類土器である。胎土に繊維が混じり、LR縄文が施される。明瞭な肥厚帯はなく、口縁部には円形刺突文がみられる。

H-25 (図V-5-38~43)

38~42はⅡ群a類土器である。出土層位は全て覆土出土である。38は口縁~胴部で下位に貼付帯が施される。地文は横位の矢羽状押型文が施される。内面はミガキで調整される。39・40は口縁部である。39は矢羽状押型文が施され、内面はミガキで調整される。40は格子目状と斜格子状の押型文の組み合わせによる文様がみられる。41・42は胴部である。41は格子目状押型文が縦位に施される。42は胴部下位で厚みがあり、矢羽状押型文が縦位に浅く施される。43は覆土出土のⅠ群b類土器である。口縁部で、絡条体圧痕文とLR縄文が施される。

H-26 (図V-5-44)

44は床面出土のⅡ群a類土器である。無文の底部で内外面が摩耗している。

H-27 (図V-5-45)

45は床面出土のⅡ群a類土器である。口縁~胴部で外面に繊維痕が多くみられ、口縁部には肥厚帯がある。地文が施されているが、ごく浅く不明瞭である。

H-28 (図V-5-46)

46はⅡ群a類土器で、覆土出土の胴部である。外面が大きく剥離し、文様は矢羽状押型文が縦位に施される。

H-29 (図V-5-47・48)

47・48はⅡ群a類土器である。47は覆土出土の口縁部で、斜格子状押型文が斜位に施される。48は覆土出土とE-68区Ⅲ層出土のものが接合している。胴部で、矢羽状押型文が縦位に施される。

・土坑出土の破片土器

P-30 (図V-6-49)

49は覆土出土のⅠ群b類土器である。胴部で、文様は絡条体圧痕文、短縄文、LR縄文が施される。



図V-6 遺構出土の土器(6)

P-31 (図V-6-50・51)

50はⅡ群a類土器の胴部である。覆土出土で矢羽状押型文が施される。51はⅣ群a類土器で覆土出土である。胴部で結束第一種の羽状縄文が施される。

P-34 (図V-6-52~57)

全て覆土出土である。52~56はⅡ群a類土器である。52は口縁~胴部で、肥厚帯があり、横位の矢羽状押型文が施される。また、補修孔がみられる。53・54は口縁部で、矢羽状押型文が施される。54は突起部がみられ、上位から刺突文が施される。55・56は底部で、どちらも内面が剥離する。文様は矢羽状押型文が縦位に施される。57はⅣ群a類土器である。胴部で、地文は結束第一種羽状縄文が施される。

P-35 (図V-6-58)

58は覆土出土のⅡ群a類土器である。口縁部で、文様はないが外面に繊維痕がみられる。

P-36 (図V-6-59)

59は覆土出土のⅡ群a類土器の胴部である。内外面が摩耗し、撚糸文と思われる文様がみられる。

P-37 (図V-6-60・61)

60は覆土出土とH-19覆土出土が接合したものである。Ⅳ群a類土器の胴部で、LR・RL縄文が羽状に施される。61は覆土出土のⅠ群b類土器の胴部で、絡条体圧痕文とLR縄文が施される。

P-43 (図V-6-62)

62はⅣ群a類土器である。覆土出土とE-64区、E-65区Ⅲ層出土が接合した。口縁~胴部で口縁部には肥厚帯が施され、肥厚帯上には貼付、LR縄文が施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。地文はLR縄文で、口唇部にもみられる。

P-45 (図V-6-63・64)

63は覆土出土のⅡ群a類土器である。文様は斜格子状押型文が縦位に施される。64は覆土出土のⅣ群a類土器である。胴部でRL縄文が施される。

P-46 (図V-6・7-65~69)

65・66はⅡ群a類土器である。65は口縁部で、覆土出土とG-59区Ⅲ層出土ほか接合した。肥厚帯がみられ、矢羽状押型文、沈線文、刺突文が施される。66は覆土出土の胴部で、やや間隔のあいた矢羽状押型文が施される。67~69はⅠ群b類土器である。67・68・72は同一個体で、67は覆土出土とP-49覆土出土が接合している。68は覆土出土である。共に胴部で、67の下位と68は貼付帯が横位に巡り、間に絡条体圧痕文が施される。67の上位には、斜位に貼付文が施され、絡条体圧痕文やLR・RLの結束第一種羽状縄文が施される。また、68には補修孔が2か所みられる。69は底部で、横位の絡条体圧痕文が施される。

P-47 (図V-7-70)

70は覆土から出土したⅣ群a類土器である。胴部で外面が大きく剥離し、LR・RL縄文が羽状に施される。

P-49 (図V-7-71~77)

71は覆土出土のⅡ群a類土器である。口縁~胴部で口縁部には肥厚帯がみられる。肥厚帯には矢羽状押型文、沈線文が施され、肥厚帯下位には小さな貼付があり、刺突文が施される。胴部には矢羽状押型文が施される。72~77はⅠ群b類土器である。72は67・68と同一個体で、覆土出土とG-59・60区、H-60区Ⅲ層出土が接合した。口縁~胴部で、口縁部上端に貼付帯が施され、貼付帯には絡条体圧痕文がみられる。口縁~胴部上位には結束第一種の羽状縄文が施され、さらに縦位の貼付文、絡条

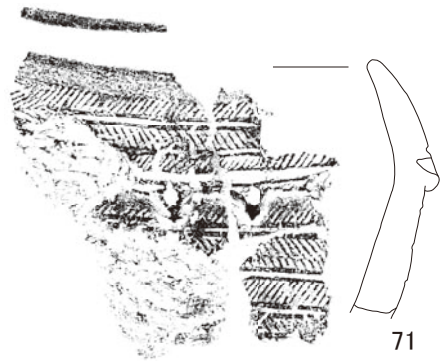
P-46・P-49



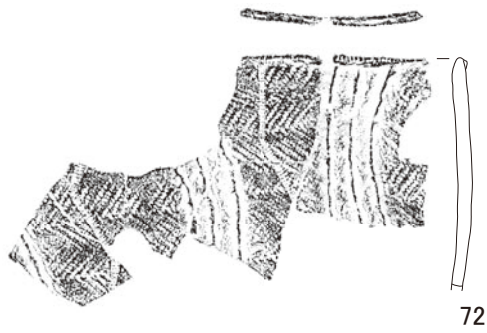
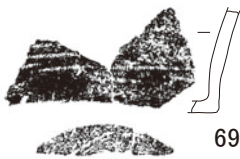
P-46



P-49



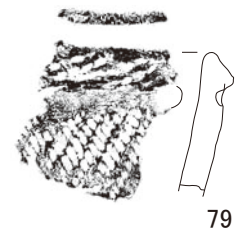
P-47



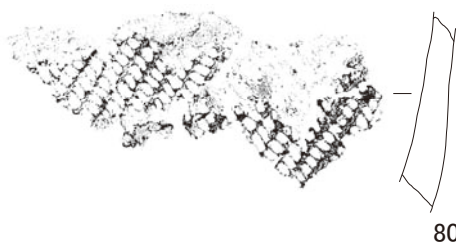
P-51



P-53



P-55



図V-7 遺構出土の土器(7)

体圧痕文がみられる。73は覆土出土の口縁部で、直線及び曲線的な絡条体圧痕文が施される。74～77は胴部である。74～76は覆土出土と周辺包含層（Ⅲ層）出土が接合している。74・75は貼付帯がみられるもので、74はR縄文が、75はRL縄文と絡条体圧痕文が施される。76は曲線状の貼付文が施され、間に絡条体圧痕文がみられる。77は覆土出土で、縦位、横位に絡条体圧痕文が施される。

P-51 (図V-7-78)

78は覆土出土のⅡ群a類土器である。胴部で、文様は矢羽状押型文が施される。

P-53 (図V-7-79・80)

79・80は覆土出土のⅣ群a類土器である。79は口縁部で、肥厚帯がみられるものである。地文はLR縄文で肥厚帯上にも施される。肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。80は胴部で、LR縄文が施される。

P-55 (図V-7-81)

81は坑底出土のⅣ群a類土器である。胴部で、文様はLR縄文が施される。

(2) 包含層出土の土器 (図V-8～14 図版30～33)

包含層から土器は2,603点出土している。時期別ではⅡ群（縄文時代前期）が1,191点と最も多く、次いでⅠ群（早期）1,025点、Ⅳ群（後期）353点である。他に縄文時代中期・晩期、続縄文時代の土器があるが、いずれも30点に満たない点数である。層位別では、Ⅲ層2,577点、0層26点で、ほとんどがⅢ層出土である。土器の分布は、遺構がみられる46～75ラインの間にはほぼ重なる。

平成21～23（2009～2011）年度調査区（以下「過年度調査区」）も含めた分布は、今回の調査区同様土器の分布と遺構の分布がほぼ重なる。点数の多いⅠ群、Ⅱ群土器の分布は土器全体の分布傾向とほぼ同じであるが、Ⅰ群土器は47～65ラインの間、Ⅱ群土器は49～74ラインの間に多く分布しており、Ⅰ群土器は分布範囲がやや西よりである。また、Ⅳ群土器はⅡ群土器の分布範囲にほぼ重なっている。

また、土製品として焼成粘土塊がH-73区から2点出土している。

Ⅰ群土器 (図V-10～12)

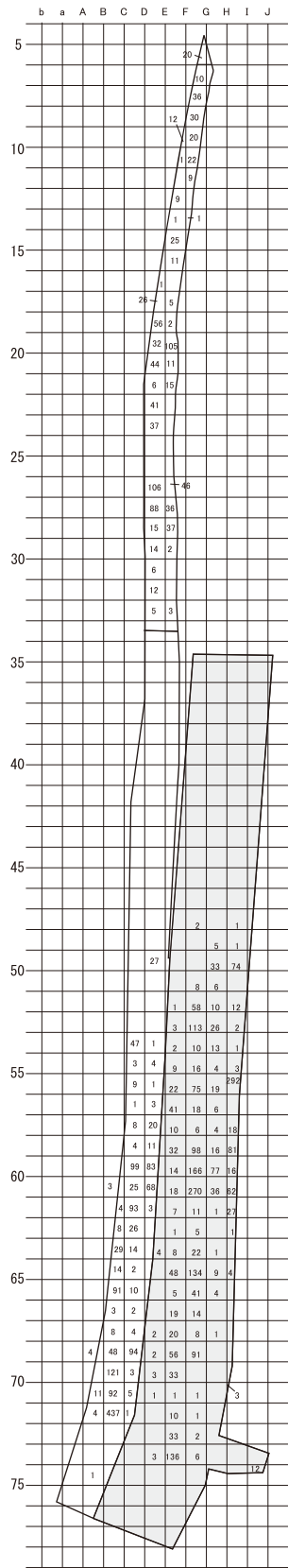
縄文時代早期ではⅠ群b類の中茶路式が出土している。器種は全て深鉢で、器形は、口縁部はあまり傾かず垂直に近いものが多い。また、底部から急角度に立ち上がるものが多い。器壁は薄い。文様は絡条体圧痕文や貼付帯が施されるものも多く、斜行縄文がみられるものもある。

過年度調査区での出土点数は少量だったが、今回の調査では1,025点と比較的多く、包含層出土土器の約40%を占めている。分布は47～65ラインの間で、調査区中央付近が多く、東側にもわずかにみられる。残存状態は良好、小破片が多く、摩耗、剥離が少ない。

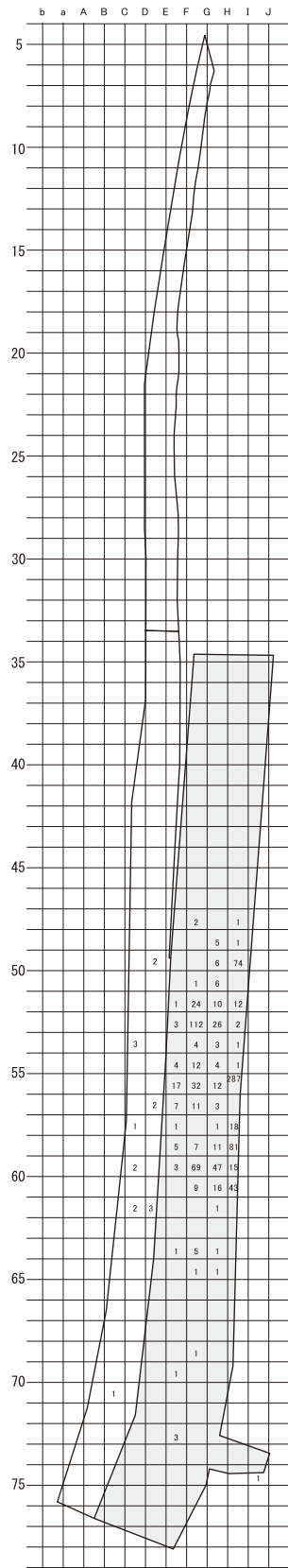
・復原土器 (図V-10-1～4)

1～4は深鉢である。1は小型で、胴部がやや膨らむ器形である。文様は地文にRL縄文が施され、口縁部上端に刻みと貼付帯が、口縁～胴部にかけて横位の絡条体圧痕文が連続的に施される。焼成は良好で、内外面に二次焼成と考えられる赤色化範囲がみられる。2は胴部中位～底部で、胴部がやや膨らみ、底部がわずかに張り出す器形である。文様は横位の絡条体圧痕文が数条単位で、胴部中位と底部付近に施され、その間に縦位や斜位、または山形に絡条体圧痕文が施される。3は胴部下位～底部で、器形はやや上げ底で胴部にかけて直線的に開く。文様は、横位の絡条体圧痕文とLR・RL縄文が施され、羽状縄文もみられる。4は胴部下位～底部で、器形は上げ底で、胴部にかけて直線的に開く。文様は、地文にLR縄文が施され、他にごく低い貼付帯が横位に1条みられる。

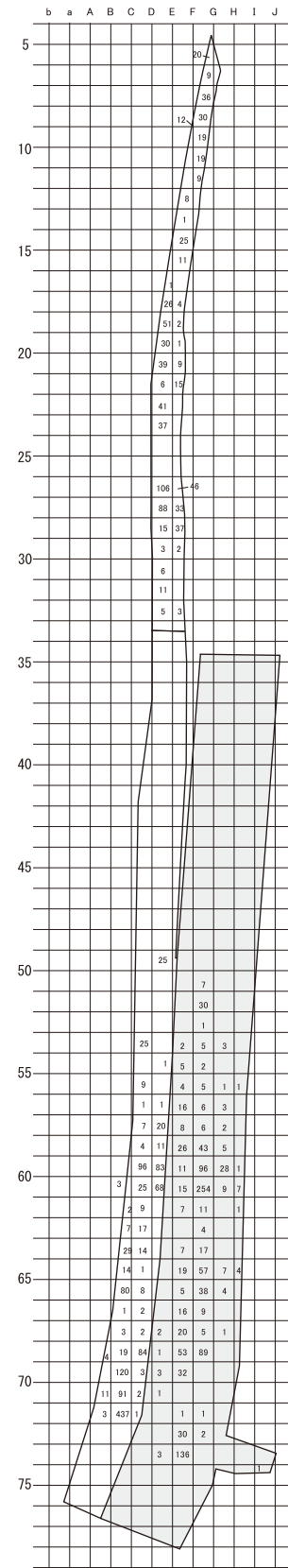
土器総点数



I 群b類



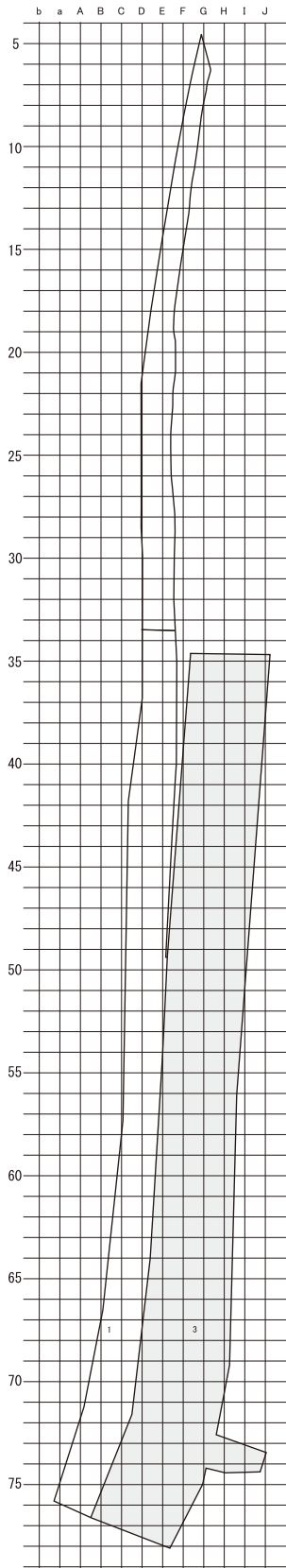
II 群a類



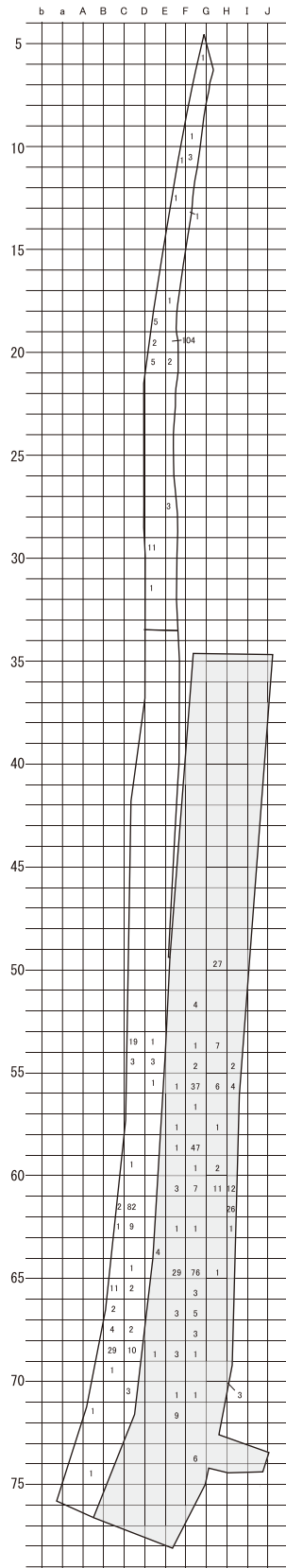
平成26年度調査区

図V-8 包含層出土土器点数分布図(1)

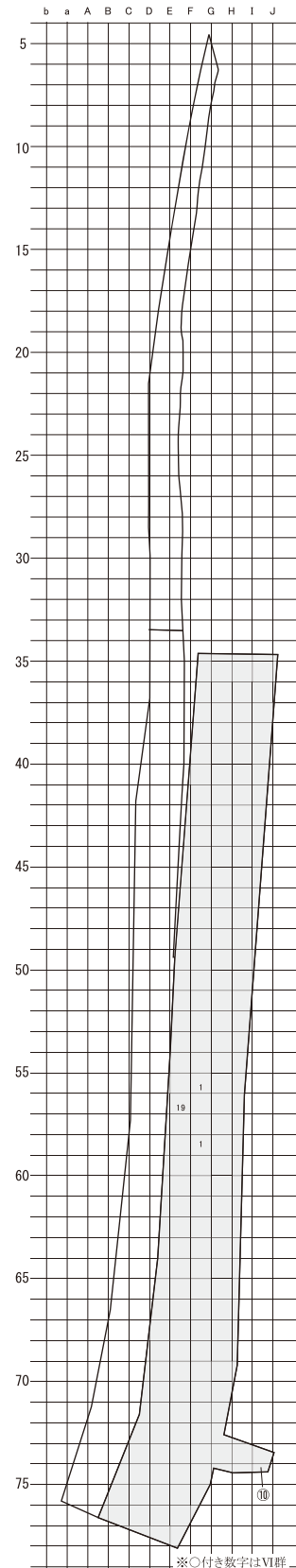
Ⅲ群b類



Ⅳ群a類



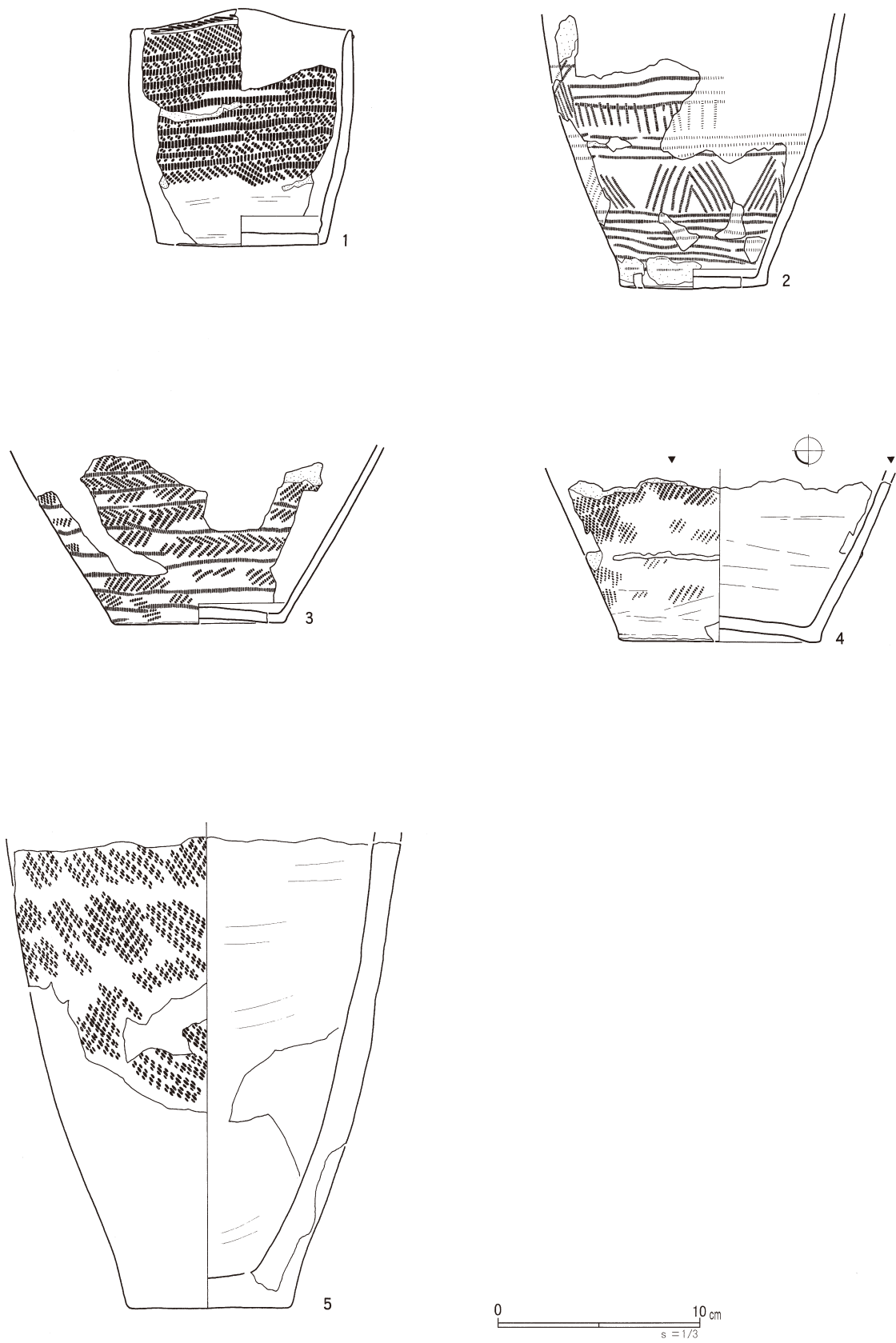
Ⅴ群c類・Ⅵ群



※○付き数字はⅥ群

平成26年度調査区

図V-9 包含層出土土器点数分布図(2)



図V-10 包含層出土の土器(1)



図V-11 包含層出土の土器(2)

・破片土器（図V-11・12-1～29）

全てI群b類土器の深鉢である。1～16は口縁部ないし口縁～胴部である。1～13は貼付帯が施されるもので、貼付帯は口縁部上位に1～数条施されるものが多い。1～7は絡条体圧痕文が施されるものである。1は斜位の貼付文と絡条体圧痕文との組み合わせで細かい文様が作り出されている。2は貼付帯の間に横位の絡条体圧痕文が施される。3は突起状の口縁部で、貼付帯と縦位の貼付文が施される。4・5は縄文が施されるものである。4は上位に貼付帯が施され、下位には縦位・横位の絡条体圧痕文が施される。地文はLR・RL縄文である。5は口縁部上端に貼付文が施され、下位には横位の絡条体圧痕文が複数施される。6は口縁部上位に短縄文が施される。7は斜位に貼付文が施される。8～11は縄文が施されるものである。8はRL縄文、9は縦位に貼付文がみられ、縦走気味のLR縄文が施される。10・11は口縁部上位に複数の貼付帯がみられ、地文はLR・RL縄文が施される。10は貼付帯下位に縦位、横位に絡条体圧痕文が施される。12は短縄文が縦位及び斜位に施される。13は緩い波状口縁で地文には貝殻腹縁圧痕文と考えられる文様が施される。14～16は貼付帯がなく、絡条体圧痕文が施されるものである。14・15は同一個体で、絡条体圧痕文に並行して部分的に縄線文が施される。

17～23は胴部である。17～20は貼付帯がみられるものである。地文にLR・RL縄文が施されるものが多い。17は複数の貼付帯が施されるもので、貼付帯の間には短縄文がみられる。18は縦位の貼付文が施され、全体的に横位、縦位の絡条体圧痕文が施される。地文はLR縄文が施される。19・20は複数の貼付帯の間にLR、RL縄文が施される。21は絡条体圧痕文とRL縄文が施される。22は絡条体圧痕文が斜位に2～3本1組で施され、間には縦位の絡条体圧痕文が連続的に施される。23は27と同一個体で、横位の綾絡文が全体的に施される。

24～29は胴～底部ないし底部である。24・25は貼付帯と縄文が施される。24は底部の断面がやや張り出す器形で、地文はLR縄文が施される。25はR縄文が施される。26は横位の絡条体圧痕文が施される。27は綾絡文とRL縄文が施されるもので、23と同一個体である。28・29は無文のものである。

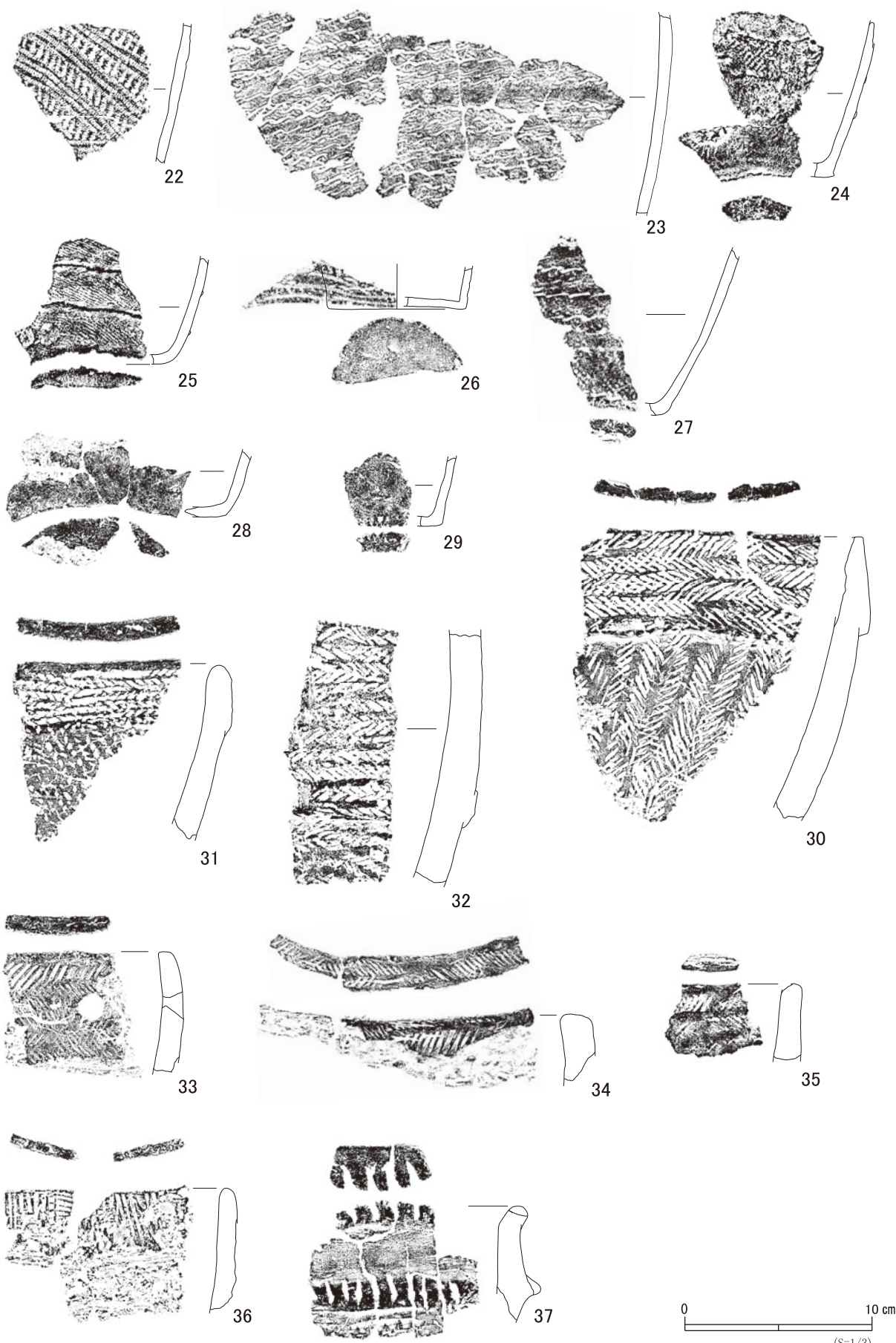
II群土器（図V-12～14）

縄文時代前期はII群a類の押型文尖底土器が出土している。今回の調査では最も多く出土した。II群a類土器の特徴は器厚が分厚く、胎土に大量の繊維痕がみられるものが多い。尖底で、口縁部から底部にかけて大きくすぼまる器形である。文様はほとんどの土器に押型文が施されるが、撚糸文などが施されるものも少数ある。押型文は口縁部付近では横位、胴部は縦～斜位に矢羽状押型文が施文されるものが多い。調整は内面にナデが施されるものが多いが、ミガキが施されるものもみられる。

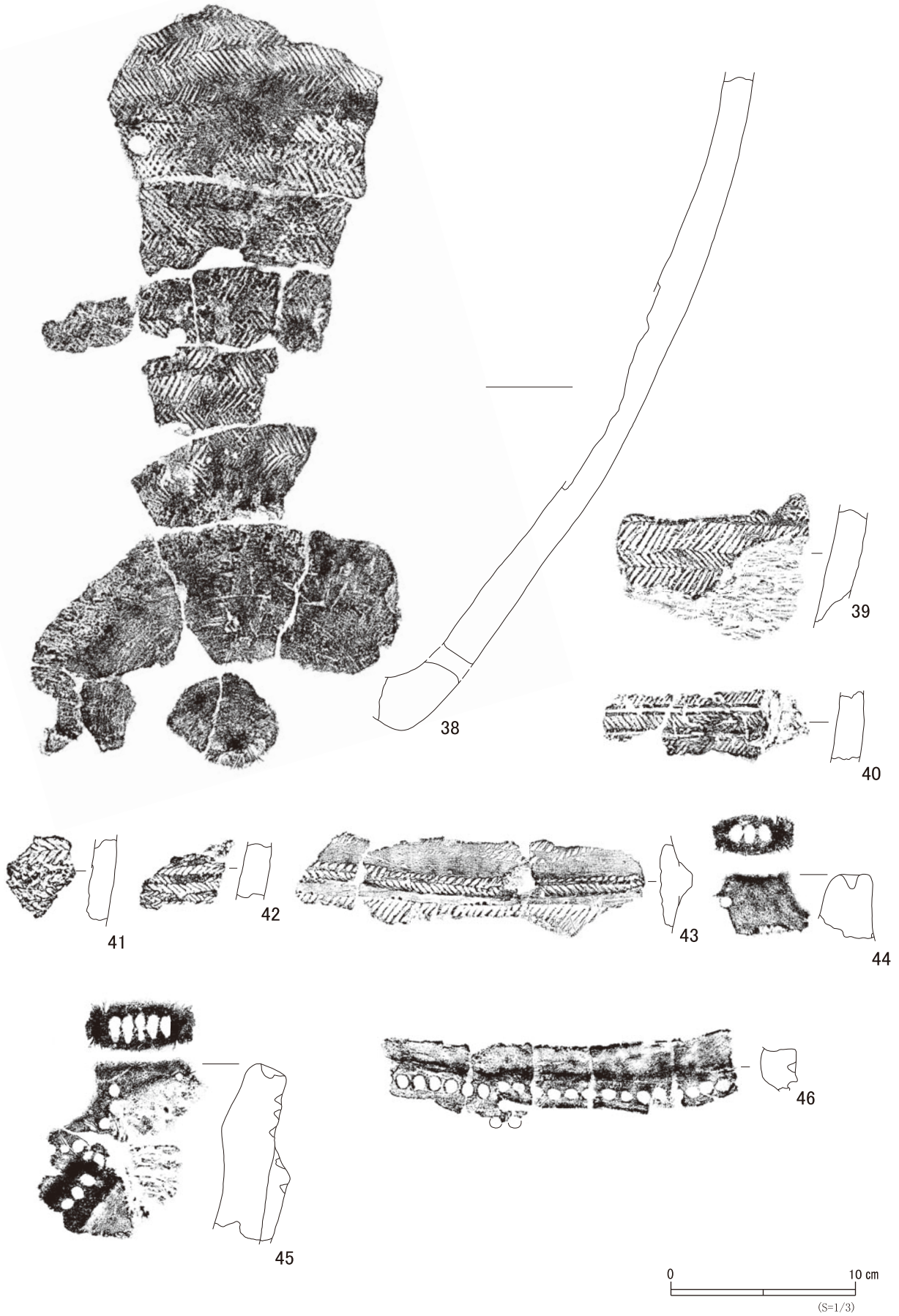
出土点数は1,191点で、時期別の点数では最も多い。分布は50～76ライン間に広がり、前期の遺構の分布とほぼ重なる。残存状態は剥離、小破片が多く、良好、摩耗が少ない。

・破片土器（図V-12～14-30～51）

全てII群a類の深鉢である。30～43は押型文が施されるもので、温根沼式土器である。30～37は口縁部ないし口縁～胴部である。30～34は矢羽状押型文が施されるものである。30～32は肥厚帯がみられ、肥厚帯には横位の、胴部には縦～斜位に矢羽状押型文が施される。32の押型文は一部斜格子状の部分がみられる。33・34は肥厚帯のみられないものである。33は補修孔が施され、34は口唇部にも矢羽状押型文が施される。35は斜格子状押型文が横位に施される。36は格子目状と斜格子状押型文が組み合わされた文様が施される。37は貼付帯があり、口唇部と貼付帯に刻みが施される。下位には格子目状と考えられる押型文が施される。38～42は胴部ないし胴～底部で、矢羽状押型文が施される。矢



図V-12 包含層出土の土器(3)



図V-13 包含層出土の土器(4)

羽状押型文は横位に施され、38・39はやや幅が広く、40～42は幅が狭い。38は胴部上位～底部で横位の矢羽状押型文が施され、補修孔がみられる。43は貼付帯の部分のみで裏面は剥離している。

44・45は口縁部の突起で、上位から刺突文が施される。45は口縁部沿いに円形の刺突文が施される。また、貼付がみられ、貼付部にも円形の刺突文が連続して施される。46は貼付帯で裏面は剥離している。貼付帯には連続して円形の刺突文が施される。

47～51は撚糸文が施されるもので、47～50は胴部である。47と48は同一個体で、縦～斜位の撚糸文が施される。49は撚糸文が横位と斜位に、50は縦位に施される。51は底部で裏面を剥離しており、撚糸文は縦位に施される。

Ⅲ群土器（図V-14）

縄文時代中期はⅢ群b類土器が出土している。ごく少数で、F-67区から3点出土している。過年度調査区でも少量しか出土していない。

・破片土器（図V-14-52）

52は深鉢の胴部で、上位に細い沈線文が施される。地文は付加条縄文である。

Ⅳ群土器（図V-10・14）

縄文時代後期は主にⅣ群a類土器の北筒Ⅱ～Ⅲ式が出土している。胴部が多く、口縁部、底部の破片は少量である。文様はLR・RL縄文を地文とするものが多い。胎土に繊維を含むものは少量で、岩片や鉱物が比較的多く含まれている。出土点数は353点で、土器の分布は49～75ラインの間に散漫にみられる。過年度調査区と比較すると分布がやや東側に広がる。残存状態は良好、小破片が多い。

・復原土器（図V-10-5）

5はⅣ群a類の深鉢である。口縁部を欠失し、全体的に器面が摩耗する。器形は胴部がやや張り出す。文様は地文にLR縄文が施される。胎土は繊維を含まず、鉱物や岩片の細粒を多量に含む。

・破片土器（図V-14-53～58）

53～55は深鉢の胴部である。地文は53・54がLR・RL縄文で羽状になり、55はLR縄文が施される。56～58は底部である。56はRL・LR縄文が、57・58はRL縄文が施される。また、56・57は細い沈線文が縦位に施される。

Ⅴ群土器（図V-14）

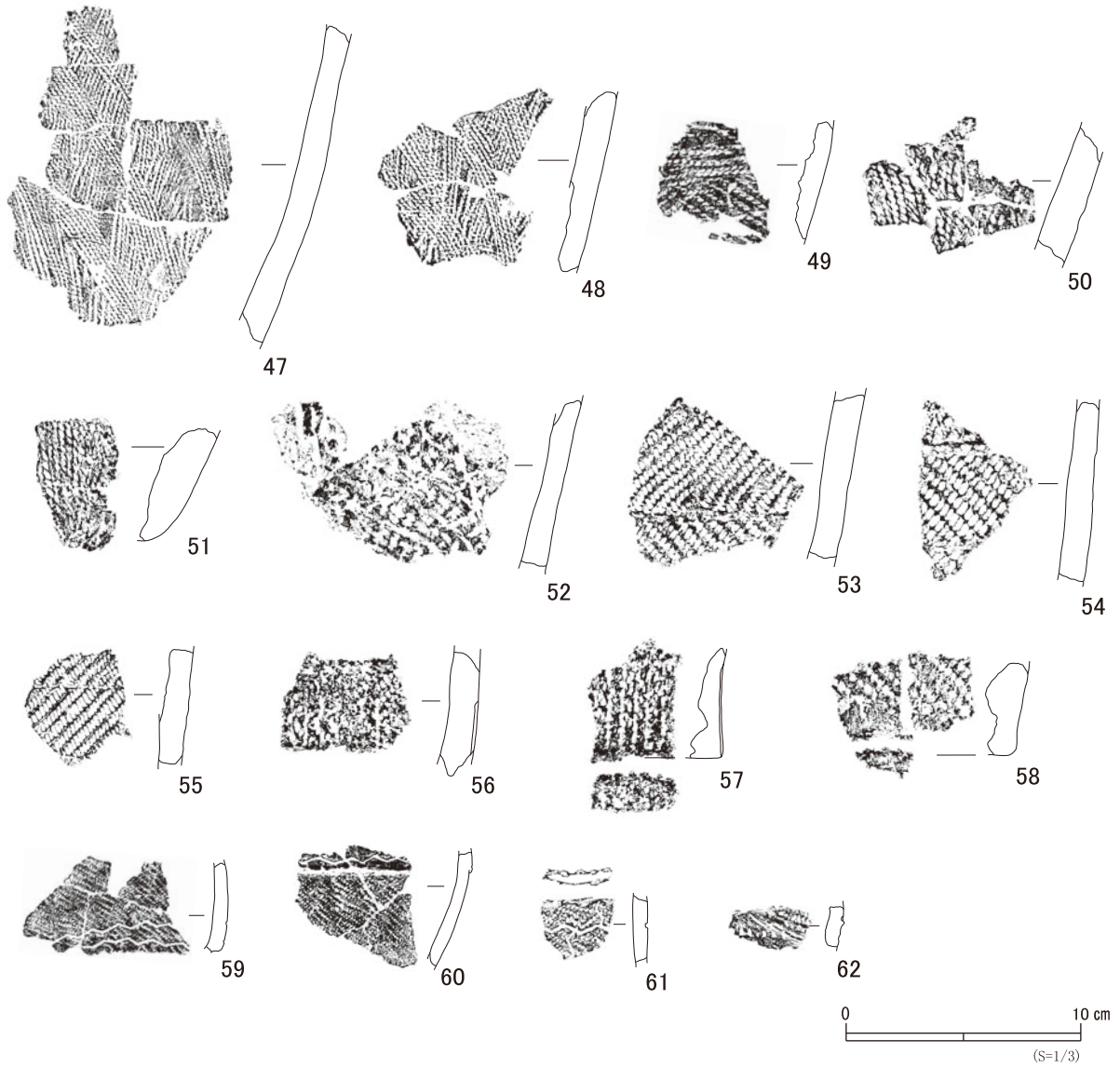
縄文時代晩期はⅤ群c類土器が出土している。点数は20点と少量で、調査区中央付近に近接して分布する。過年度調査区では出土していない。

・破片土器（図V-14-59～61）

59・60は同一個体で、口縁部と胴部の間に段がみられる。どちらも外面に赤色物質がわずかに付着している。59は口縁部で、沈線文とRL縄文が施される。60は口縁部下位～胴部で、胴部にはRL縄文が施される。61は胴部で沈線文とRL・LR縄文が施される。

Ⅵ群土器（図V-14）

続縄文時代の土器が少量出土している。調査区西側のI-74区から10点出土した。過年度調査区では出土していない。



図V-14 包含層出土の土器(5)

・破片土器 (図V-14-62)

62は深鉢の胴部で、内面が剥離している。文様は微隆起線文、列点文、LR縄文が施される。

2. 遺構・包含層出土の石器 (図V-15~36 表V-19・20 図版34~41)

(1) 遺構出土の石器 (図V-15~26 図版34~39)

・ 竪穴住居跡出土の石器

H-17 (図V-15-1~6)

1~4は覆土出土、5・6は床面出土である。1は黒曜石製の石鏃である。無茎で、基部はやや内湾する。2は黒曜石製のつまみ付きナイフである。主に表面の周縁に急角度の二次加工が施される。3は黒曜石製のスクレイパーである。左側縁から下端部に急角度の刃部が作出される。4は泥岩製の磨製石斧である。全面が研磨され、刃縁右側には剥落痕がみられる。5は砂岩製の石鋸である。下端部の断面形状は尖り、表面側には平坦なすり痕が全面にみられる。6は砂岩製の砥石である。扁平な素材の表裏面に砥面がある。表面には直径約13mm、深さ約5mmの2つのくぼみがあり、内部には回転痕が認められる。

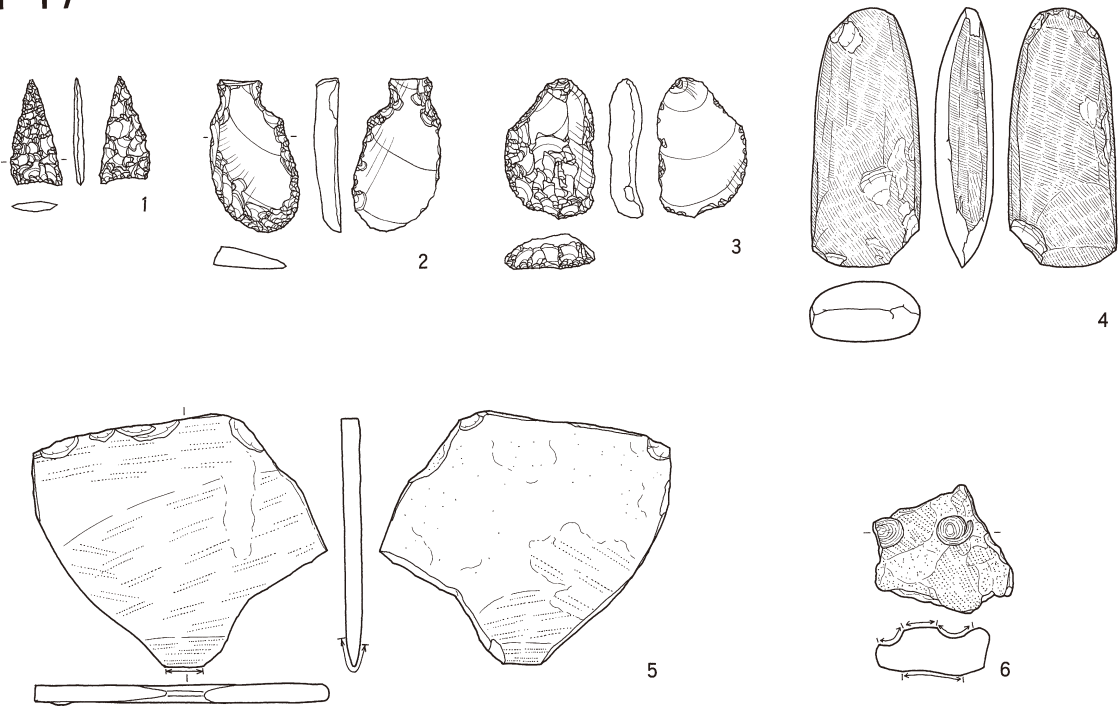
H-18 (図V-15・16-7~19)

7~9・11・12・16は覆土出土、13・18・19は床面直上出土、10・14・15・17は床面出土である。7は黒曜石製の石鏃である。小型で、菱形に近い形状である。基部下端が破損する。8・9は石槍またはナイフである。五角形に近い形状で、基部下端は8では外湾し、9では直線的である。石材は8が黒曜石、9が頁岩である。10はチャート製の石錐である。錐部は表裏側縁から二次加工されるが、上部は広く素材面が残る。11・12はつまみ付きナイフである。石材は11が頁岩、12がチャートで、いずれも表面にのみ二次加工が施される。13~15はスクレイパーである。13はチャート製で、全体に煤が付着する。表面両側縁から急角度の剥離が施され、上下端は尖る形状である。14・15は黒曜石製で、形状が円形に近いものである。上端部を除く周縁に急角度の二次加工が施され、厚みのある刃部が作出される。16は泥岩製の磨製石斧である。片刃で、表面には大きな剥離があり、剥離後研磨されている。裏面の刃部の稜中央付近には溝状のすり痕が縦位に1条みられる。17は砂岩製の石鋸である。9点が接合し、下端部側縁にはすり痕が認められる。18・19は砂岩製の砥石である。18は細長い板状の素材が利用され、表裏面と右側縁には平坦な砥面がある。19は表裏両面に砥面があり、表面の砥面は緩やかにくぼむ。

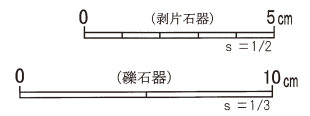
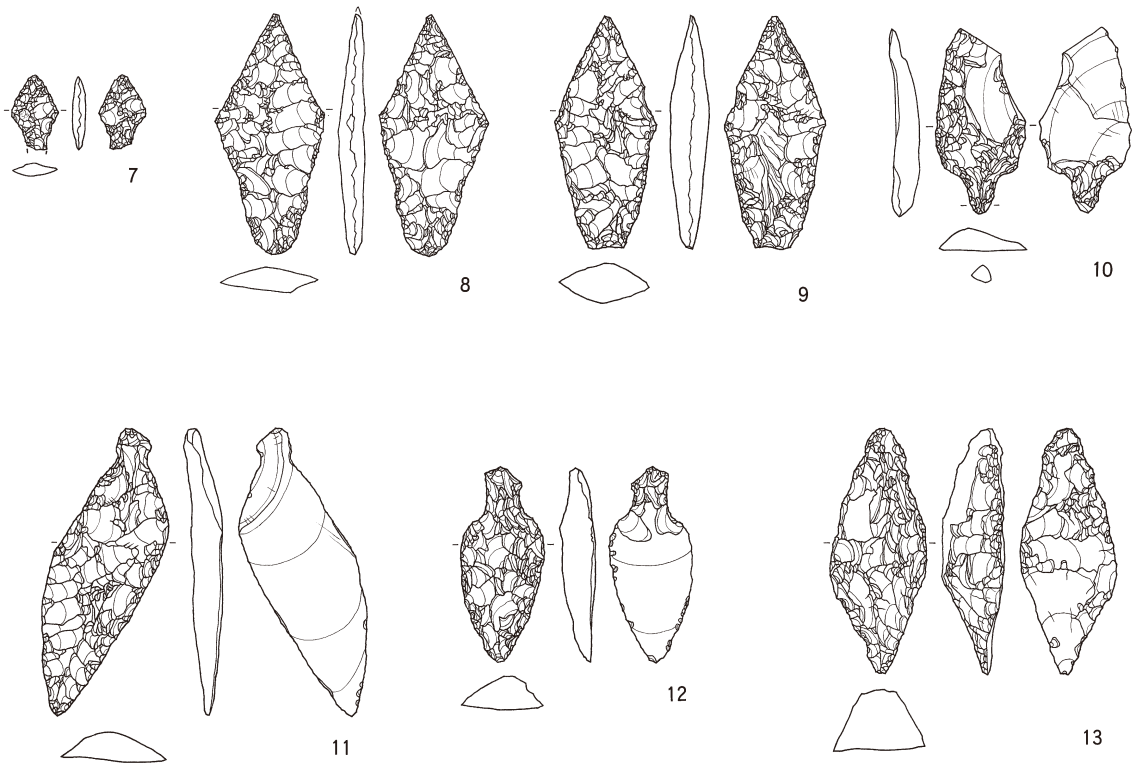
H-19 (図V-17-20~30)

20~29は覆土出土、30は床面と覆土出土のものが接合した。20~22は黒曜石製の石鏃である。いずれも側縁が張り出すもので、20・21は五角形、22は菱形に近い形状である。23・24は黒曜石製の石槍またはナイフで、身部と茎部の境がみられないものである。いずれも尖頭部は錯向剥離により側縁がねじれる。23は基部に厚みがあり、基部の右側縁には原礫面が残る。24は長さが22cmの大型のものである。黒曜石原産地分析を行ったところ所山産という結果が出た。25はチャート製の石錐である。下端部裏面には下方からの階段状剥離がみられる。26はチャート製のつまみ付きナイフである。右側縁下半には急角度の二次加工が施される。下端部は欠損する。27は頁岩製のスクレイパーである。左側縁に外湾する刃部があり、表面の上下端部には原礫面が残る。28は緑色泥岩製の磨製石斧である。小型で、左側縁に擦り切り痕が残る。29・30は砥石である。29は凝灰岩製で、表裏面にわずかにくぼむ砥面とたたき痕がある。30は砂岩製の砥石で、6点が接合し、表裏面にややくぼむ砥面がある。

H-17

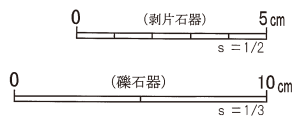
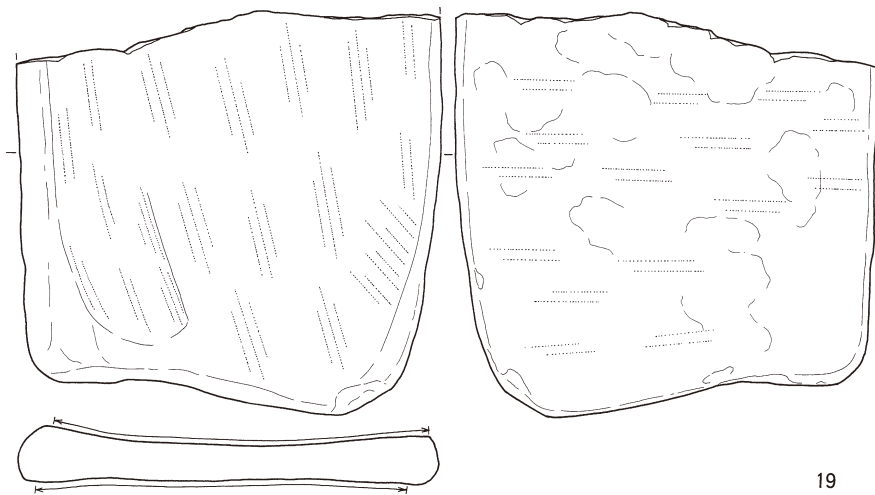
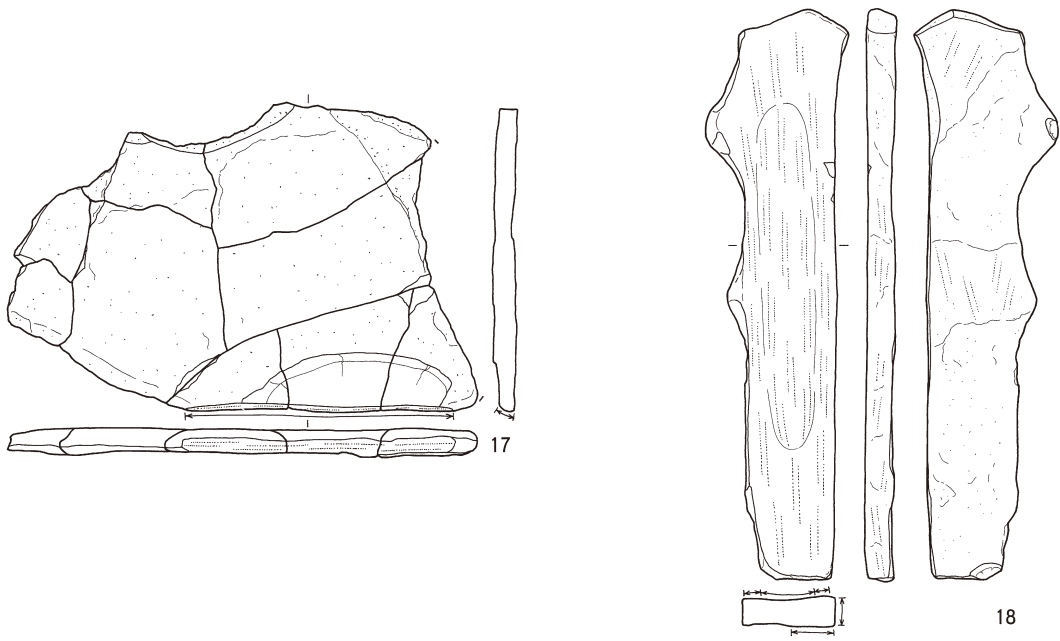
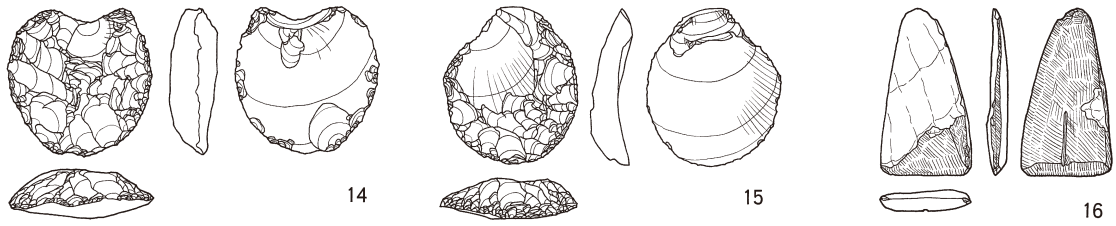


H-18



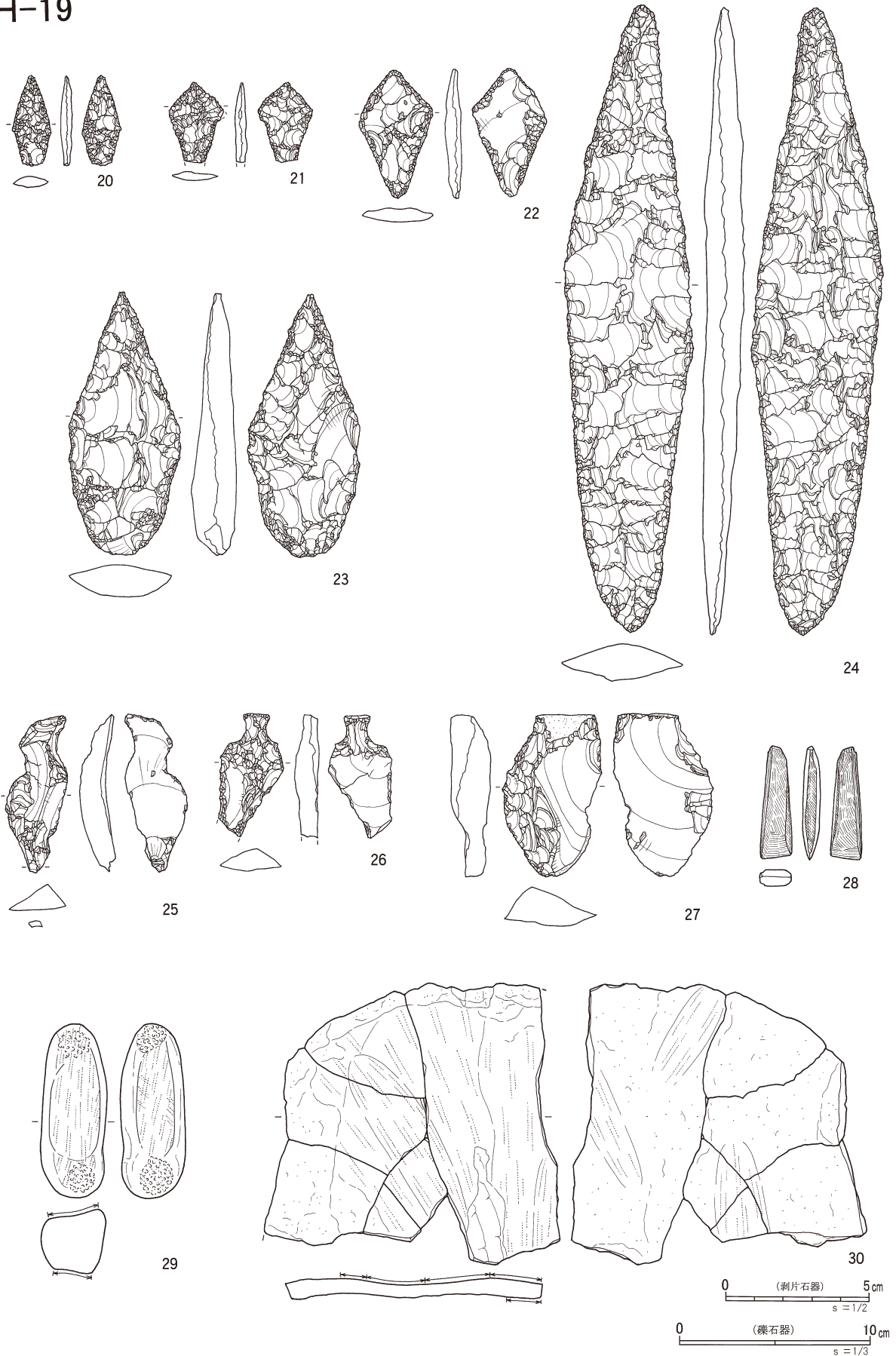
図V-15 遺構出土の石器(1)

H-18



図V-16 遺構出土の石器(2)

H-19



図V-17 遺構出土の石器(3)

H-20 (図V-18-31~35)

31~33は覆土出土、34・35は床面直上出土である。31は黒曜石製の石鏃である。無茎で側縁がやや外湾し、基部左側を欠損する。32・33は黒曜石製のスクレイパーである。いずれも縦長素材を利用し、表面左側縁から下端部にかけて二次加工が施される。32は下端部に急角度の刃部が作出される。34は緑色泥岩製の磨製石斧である。刃部は外湾し、表面側の刃縁には縦位の溝が連続して刻まれる。溝は摩滅する。35は砂岩製の石皿で、表裏面にややくぼむすり面がある。

H-21 (図V-18-36~38)

36~38は覆土出土で、石材は黒曜石である。36は石鏃である。有茎で左右非対称な形状である。37・38はスクレイパーである。37は周縁に二次加工が施され、左側縁上部では急角度の刃部が作出される。上端には原礫面が残る。38は右側縁部に急角度の刃部が作出される。

H-22 (図V-18-39)

39は覆土出土の黒曜石製のつまみ付きナイフである。つまみ部を除き表裏面とも素材面を大きく残り、主に右側縁に二次加工が施される。下半部は欠損する。

H-23 (図V-19-40~44)

40・43・44は覆土出土、41はHFC-1出土、42は床面出土である。40は黒曜石製の石鏃である。無茎で基部は内湾する。41は黒曜石製の石槍またはナイフである。覆土中のHFC-1（フレイク集中）から3点に割れた状態で出土した。表面はやや急角度、裏面は平坦な剥離が施され、基部下端部には原礫面が残る。42は黒曜石製のスクレイパーである。裏面の右側縁部に刃部が作出され、表面には微細剥離痕や原礫面がみられる。43は泥岩製の磨製石斧である。両側縁は直線的で、上端は折損後、再加工されている。44は砂岩製の石鋸である。厚さは約5mmと薄く、下端部の断面形状は尖る。

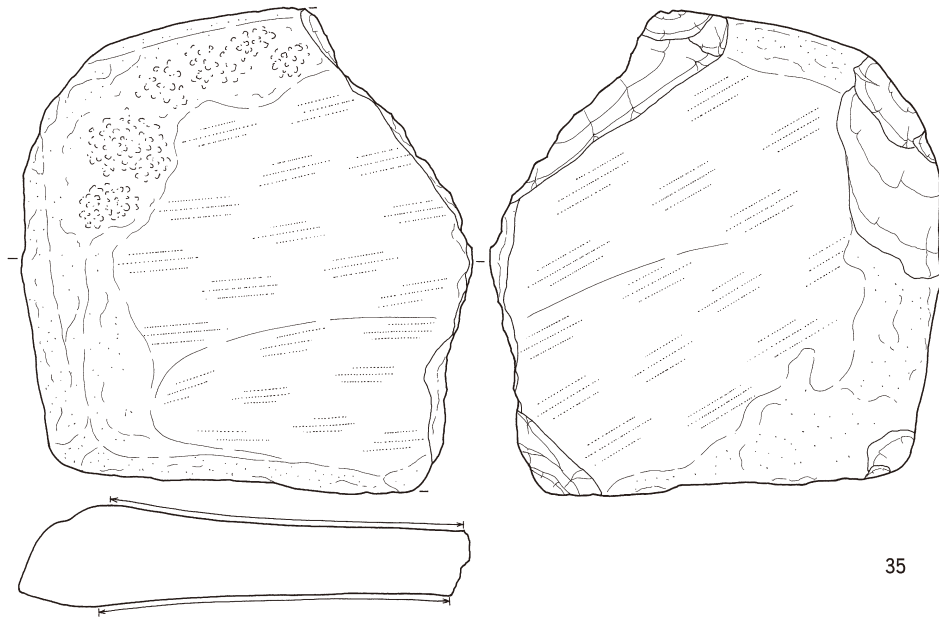
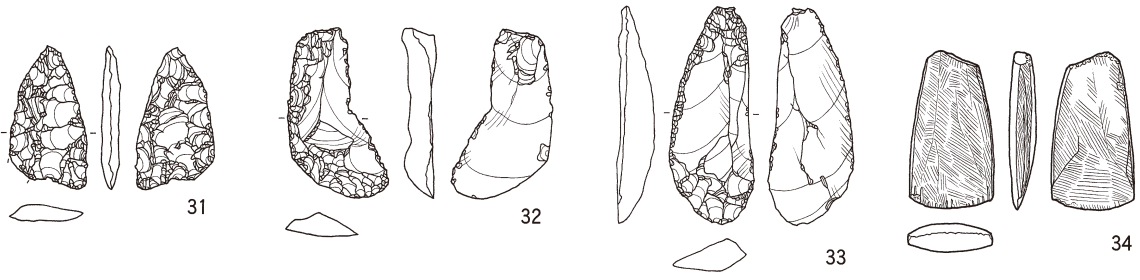
H-24 (図V-20-45~56)

45~55は床面出土、56は覆土出土である。45~47は黒曜石製の石槍またはナイフで、3点が重なって出土した。長さは9.6~9.8cmとほぼ同じで、いずれも身部と茎部の境がみられない形状である。45はやや細身で、表面はやや角度がある剥離、裏面は平坦な剥離が施される。46は表裏全面に二次加工がみられるもので、黒曜石材質はいわゆる梨肌状である。47は表裏面にやや粗い二次加工が施され、上下両端部には原礫面が残る。48・49は石錐である。石材は48が黒曜石、49が頁岩で、いずれも表面は急角度、裏面は平坦な剥離が施される。48は上端の右側縁に槌状の剥離がみられ、両側縁上部には挟りが入られる。49は両面加工により錐部が作出される。なお45~48について黒曜石原産地分析を行ったところ、いずれも白滝産という結果が出た。50は頁岩製のつまみ付きナイフである。表面に急角度の二次加工が施される。全体に煤が付着する。51は黒曜石製のスクレイパーである。縦長剥片素材が利用され、表面の右側縁下半に細かな二次加工が施される。52・53は磨製石斧である。52は泥岩製で、上端部にも刃部が作出されている。53は緑色泥岩製で、上端部に敲打痕が残る。54は泥岩製のたたき石で、浅いたたき痕が散発的にみられる。55・56は砂岩製の石鋸である。55は3点が接合したもので、刃部の断面形状は丸みを帯びる。56は上下端および表裏全面にすり痕がみられ、刃部の断面は尖る形状となる。表面左上には直径約2mmの孔が、表裏両面から穿孔されている。

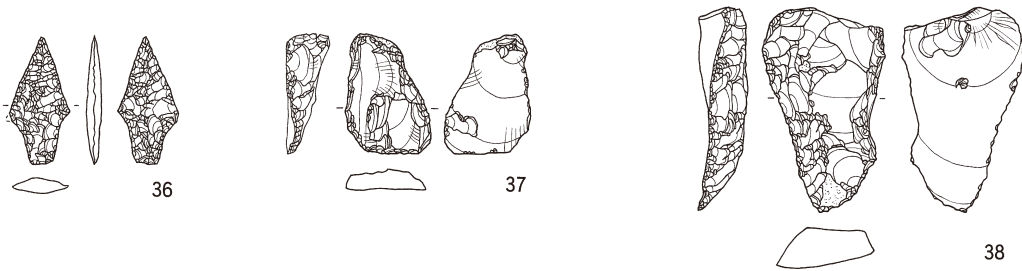
H-25 (図V-21・22-57~75)

57~59・61・62・66~68・70・75は覆土出土、60・63~65・69・71~74は床面出土である。57・58は黒曜石製の石鏃である。いずれも小型で、57は有茎、58は無茎である。58の両側縁下部はやや張り出す形状である。59~61は黒曜石製の石槍またはナイフである。59は両側縁の中央に挟りがあるもので、全体に厚みがあり、下端部には原礫面と打面が残る。60・61は身部と茎部の境がみられないもの

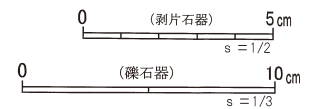
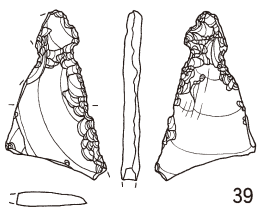
H-20



H-21

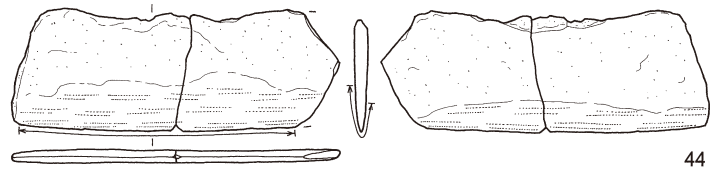
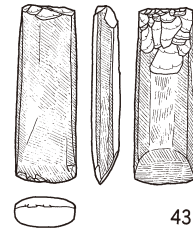
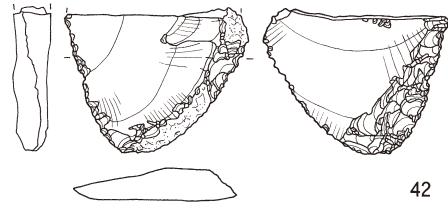
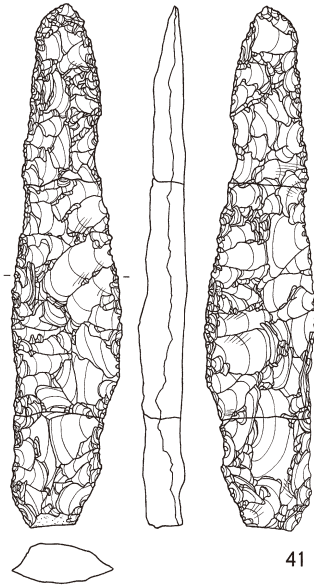
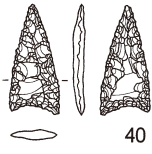


H-22



図V-18 遺構出土の石器(4)

H-23



0 (剥片石器) 5 cm
s = 1/2

0 (礫石器) 10 cm
s = 1/3

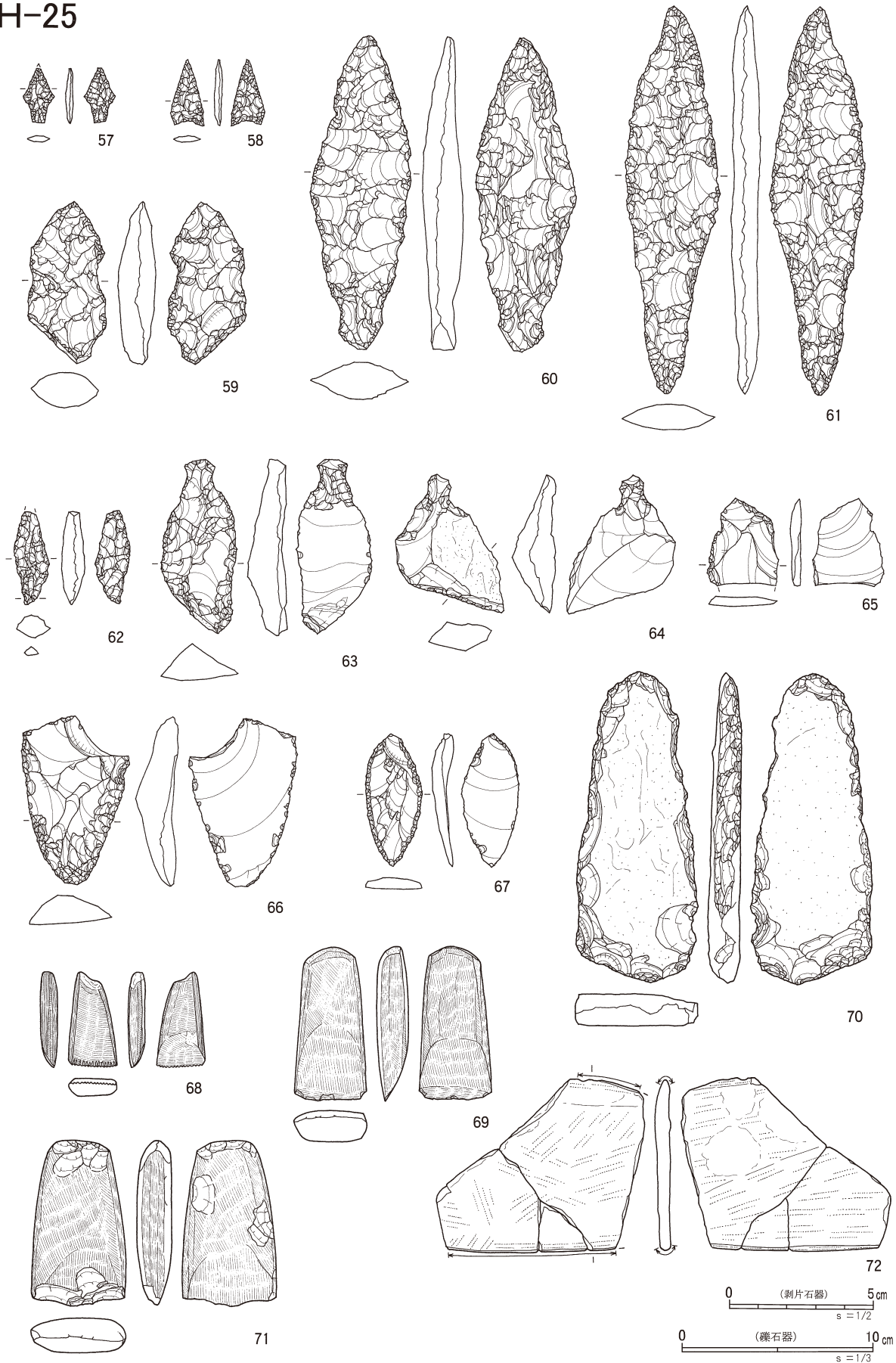
図V-19 遺構出土の石器(5)

H-24



図V-20 遺構出土の石器(6)

H-25



図V-21 遺構出土の石器(7)

である。60は下端近くの両側縁に抉りを有し、左側縁上部には尖頭部からの槌状の剥離がある。黒曜石原産地分析を行ったところ、所山産という結果が出た。61は両側縁に微細な剥離痕がみられる。62はチャート製の石錐である。両面加工により棒状に整形され、下端部は破損後、再加工されている。63・64はチャート製のつまみ付きナイフである。63は左側縁に急角度の剥離が施され、64はつまみ部と表面下部に細かい二次加工がみられる。65～67は黒曜石製のスクレイパーである。65は上端部と左側縁に急角度の刃部があり、66・67は両側縁に外湾する刃部がある。68～71は磨製石斧で、68・69は緑色泥岩製、70・71は砂岩製である。68は長さ5.3cmと小型のもので、片刃である。刃部表面側には縦位の刻みが連続して施され、刃縁は鋸歯状を呈する。左側縁には擦り切り痕が認められる。69は刃縁が直線的で、複数の剥落痕がみられる。70は未成品で、扁平な砂岩の周縁を打ち欠き、整形し、刃部は表裏面から薄く加工される。71は表面に刃部再生の剥離が連続して施されるが、研磨はされていない。72・73は砂岩製の石鋸である。72は3点接合したもので、上下端部に直線的な刃部があり、断面形状は丸みを帯びる。73は幅が約21cmと大型で、全面にすり面がある。上下端部の断面形状は尖り、表裏面には炭化物が付着する。74は砂岩製の砥石で、板状の薄い素材が利用される。75は砂岩製の石皿である。表面に緩やかにくぼむすり面があり、線状のすり痕もみられる。すり面には炭化物が付着する。

H-26 (図V-22-76・77)

76・77は覆土出土である。76は黒曜石製の石錐である。縦長剥片の主に表面側を二次加工し、錐部を作出している。77は頁岩製のスクレイパーである。両側縁に急角度の剥離が施され、表裏面には焼けはじめの痕がみられる。

H-27 (図V-22-78)

78は覆土出土の黒曜石製のスクレイパーである。主に下部に二次加工が施される。

H-28 (図V-22-79)

79は覆土出土の黒曜石製の石槍またはナイフである。身部と茎部の境がみられないもので、尖頭部は折損する。

H-29 (図V-22-80)

80はHP-3覆土出土の頁岩製の石錐である。両面調整により棒状に加工される。

・土坑出土の石器

土坑出土の掲載石器は98が坑底面直上出土、99・101・102・127が坑底面出土、104～106は掘り上げ土出土で、それ以外はすべて覆土出土である。

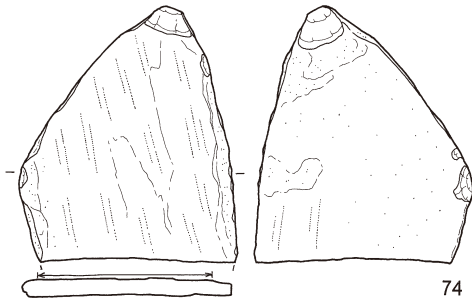
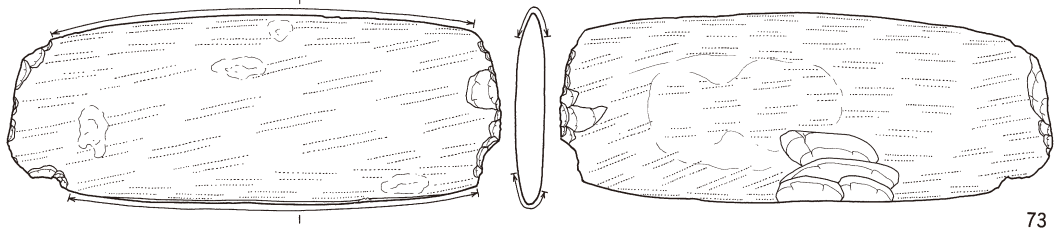
P-30 (図V-23-81～83)

81は黒曜石製のスクレイパーである。縦長剥片の表面側縁に二次加工が施され、下端部には微細な剥離がみられる。82は片岩製の磨製石斧で、上端部は折損する。83は凝灰岩製の石鋸である。下端部が使用され、断面形状は尖る。

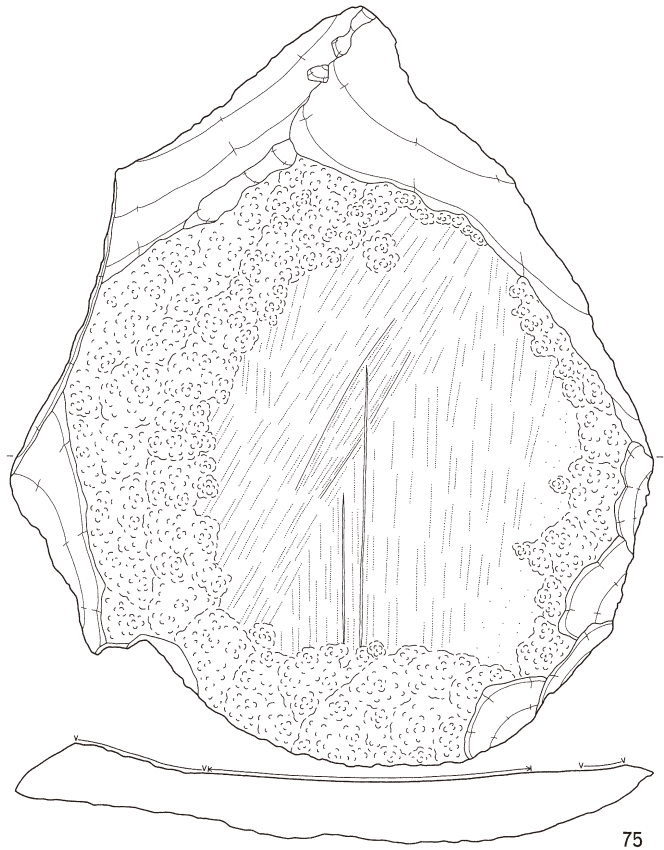
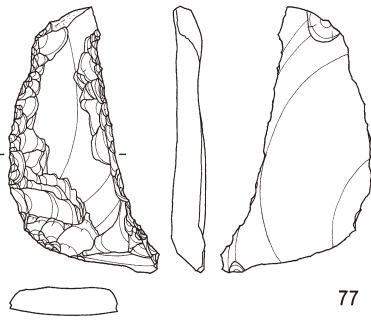
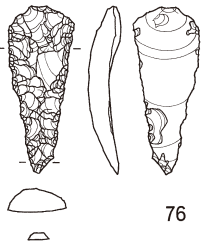
P-31 (図V-23-84～88)

84は黒曜石製の石鋸である。両側縁の張り出しから基部にかけて内湾する形状で、基部下端は直線的である。85は頁岩製の石槍またはナイフである。左右非対称で、身部と茎部の境がみられないものである。86は黒曜石製のスクレイパーである。両側縁から下端部にかけて急角度の刃部が作出され、上端部は折損後、厚みをとる再加工がなされている。87・88は砂岩製の石鋸である。いずれも破損し、下端部の断面形状は尖る。

H-25

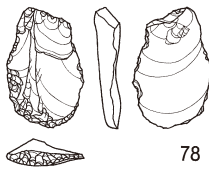


H-26

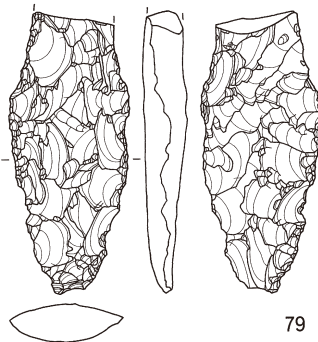


0 10 cm
s = 1/4

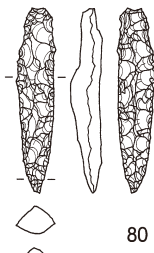
H-27



H-28



H-29

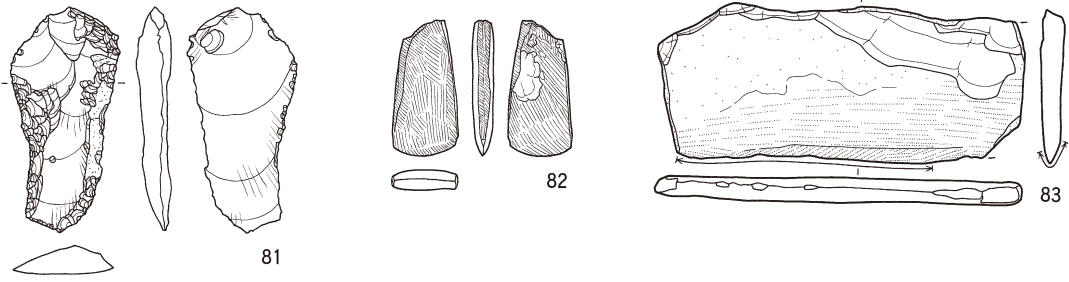


0 5 cm
(剥片石器) s = 1/2

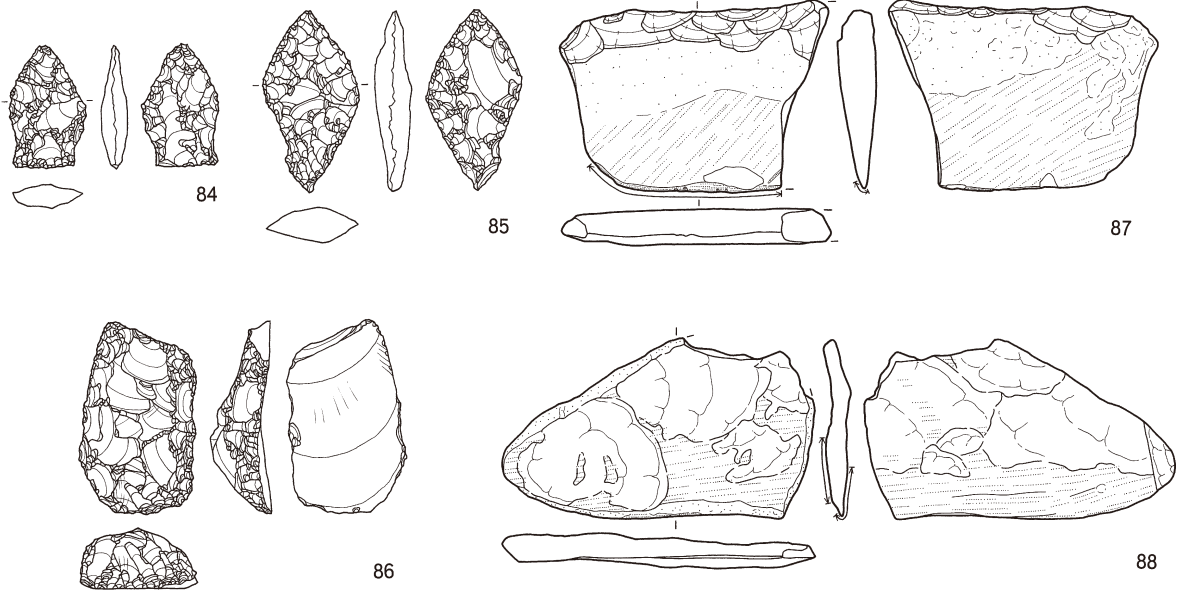
0 10 cm
(礫石器) s = 1/3

図V-22 遺構出土の石器(8)

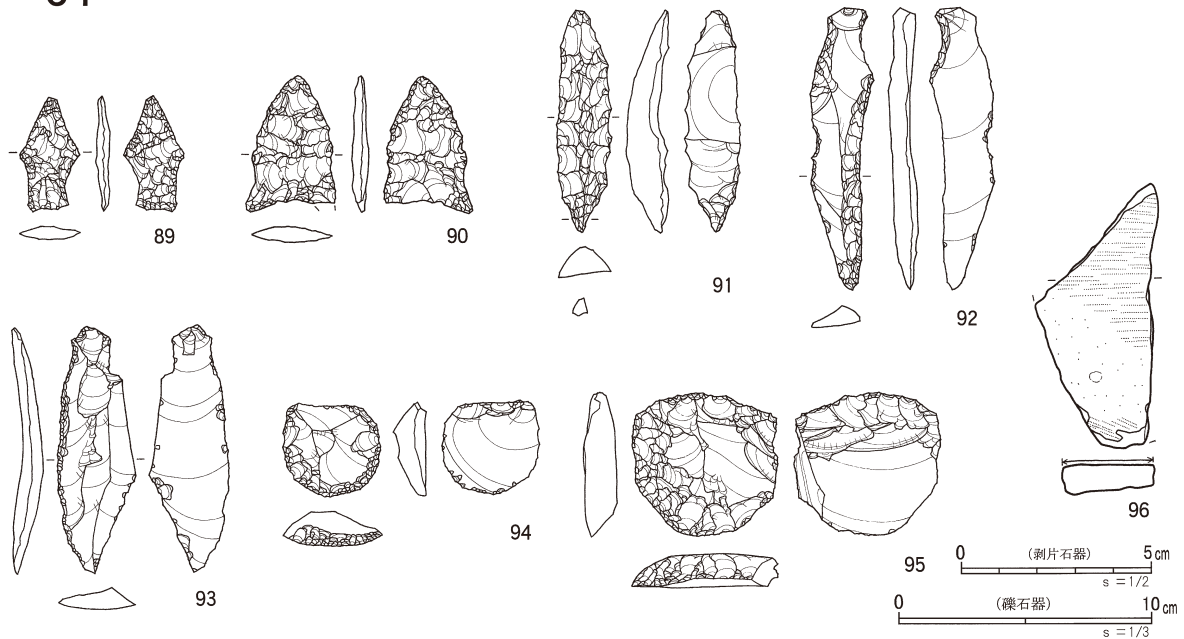
P-30



P-31



P-34



図V-23 遺構出土の石器(9)

P-34 (図V-23-89~96)

89・90は黒曜石製の石鏃である。89は有茎で、五角形に近い形状である。90は無茎で、両側縁下半はやや内湾する。91は頁岩製の石鏃である。表面は急角度の二次加工が施される。裏面は大きく破損するが、鏃部付近では細かな調整がなされている。92は頁岩製のつまみ付きナイフで、主に右側縁と下端部に二次加工が施される。全面に煤が付着する。93~95は黒曜石製のスクレイパーである。93は縦長剥片の右側縁に細かな二次加工が施される。94・95は形状が楕円形で、周縁に曲線的な刃部が作出されるものである。94は上部を除く周縁に細かな二次加工が施され、95は左側縁から下端部にかけて刃部が作出される。上端は両面から薄く加工される。96は砂岩製の砥石で、表面には線状の擦痕がみられる。

P-35 (図V-24-97・98)

97は黒曜石製の石槍またはナイフである。有茎で、茎部が長い形状である。98は坑底面直上出土の砂岩製の石鋸である。上下端の縁辺部は表裏面から薄く加工され、下端部にはすり面がみられる。

P-37 (図V-24-99・100)

99・100は黒曜石製の石槍またはナイフである。99は2点が接合したもので、基部側が図IV-31の土器の中から、尖頭部側がH-19覆土から出土した。身部と茎部の境は不明瞭だが、わずかに返しとみられる段差がみられる。上部は欠損し、下端部には原礫面を残す。100は身部と茎部の境がみられないものである。左側縁には直線的、右側縁には外湾する刃部がある。99・100について黒曜石原産地分析を行ったところ、99は所山産、100は白滝産という結果が出た。

P-38 (図V-24-101・102)

101・102は坑底面出土である。101は泥岩製のたたき石で、下端部にたたき痕、剥落痕がある。側面には全周に炭化物が付着する。102は砂岩製の台石・石皿で、扁平礫の表裏面にたたき痕とすり痕がみられる。

P-39 (図V-24-103)

103は黒曜石製のつまみ付きナイフである。下部は折損し、つまみ部上端には打面を残す。

P-43 (図V-25-104~106)

104~106はP-43掘り上げ土出土である。104・105は黒曜石製のスクレイパーで、いずれも縦長剥片の両側縁に二次加工が施される。106は泥岩製の磨製石斧で、側縁部は整形の剥離痕が残り、刃部には剥落痕がある。

P-44 (図V-25-107)

107は黒曜石製の石鏃である。無茎で基部下端は直線的で、全面被熱により、光沢がない。

P-45 (図V-25-108)

108は砂岩製の砥石である。表裏面に緩やかにくぼむ砥面がある。

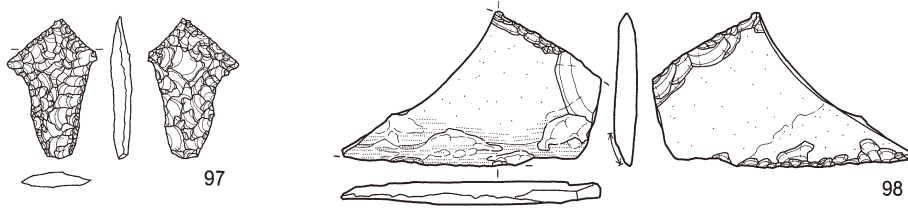
P-46 (図V-25-109・110)

109は黒曜石製の石槍またはナイフである。有茎で、全体的にやや幅広である。110は片岩製の磨製石斧である。片刃で、刃縁は直線的である。

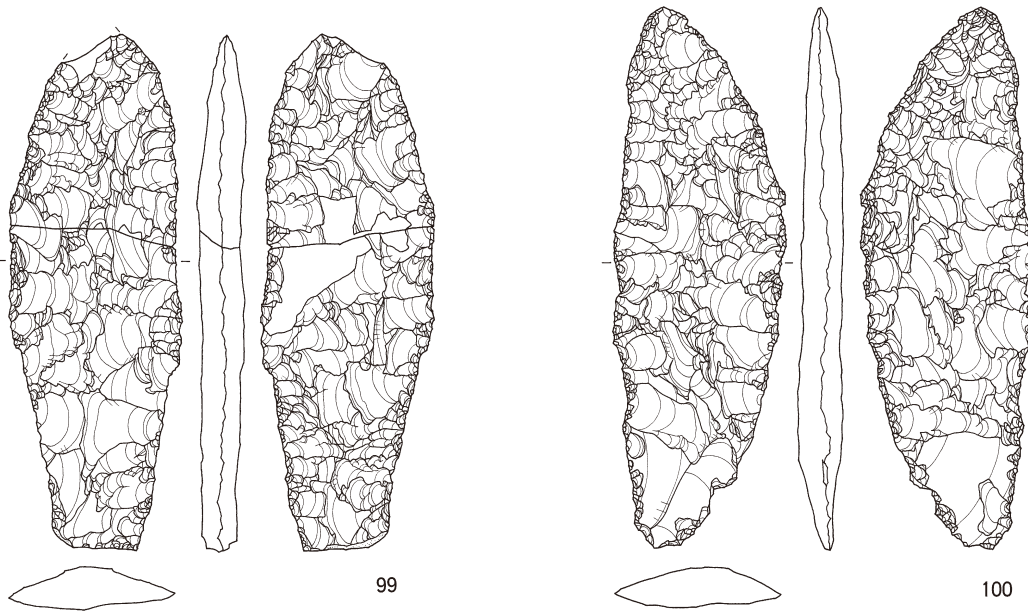
P-47 (図V-25-111~115)

111・112は黒曜石製の石鏃である。111は先端部分の破片で、裏面には素材面が広く残る。112は無茎で、基部下端は内湾する。113は黒曜石製のつまみ付きナイフである。風化し曇りガラス状となった素材の周縁に加工が施され、主に右側縁に刃部が作出される。114は黒曜石製のスクレイパーで、縦長剥片の右側縁にやや内湾する刃部がある。115は砂岩製の台石・石皿である。扁平素材の表面に

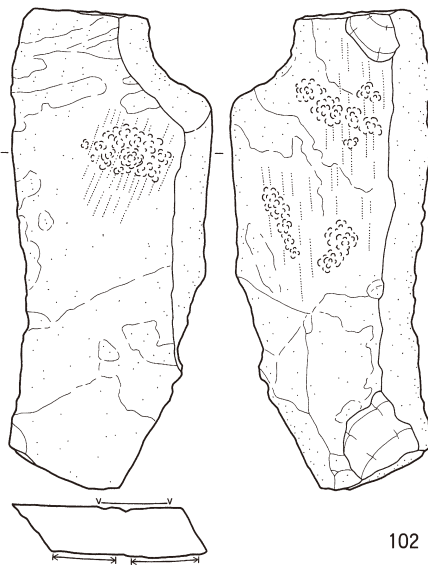
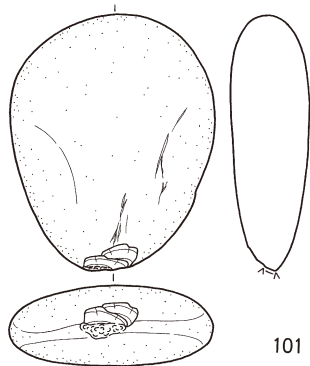
P-35



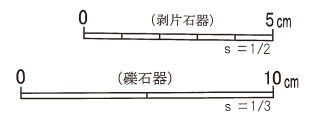
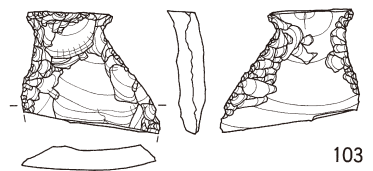
P-37



P-38

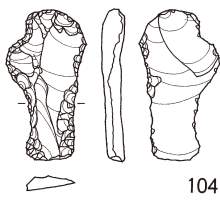


P-39



図V-24 遺構出土の石器 (10)

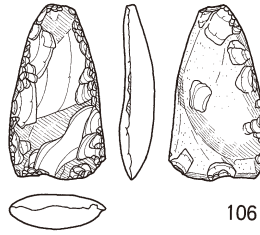
P-43



104

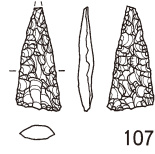


105



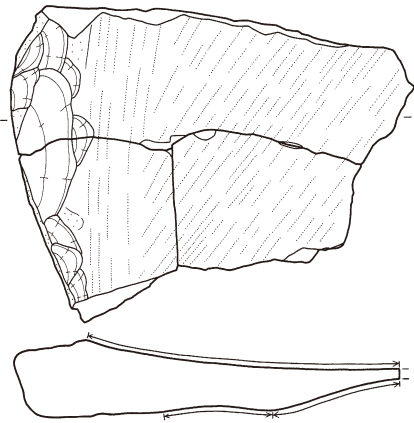
106

P-44

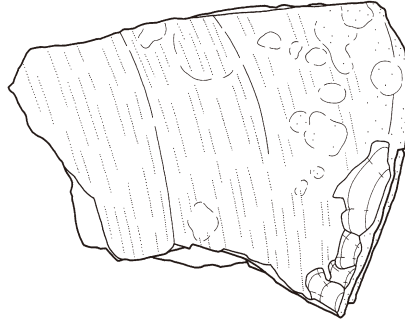


107

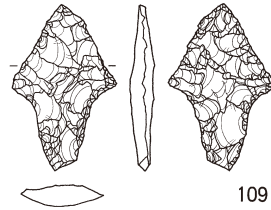
P-45



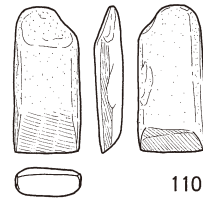
108



P-46



109

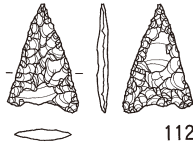


110

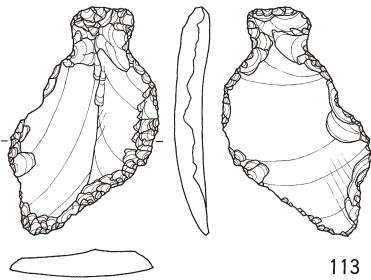
P-47



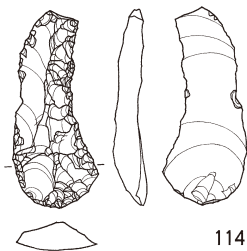
111



112



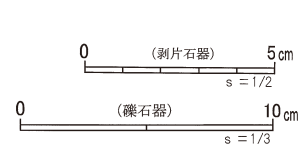
113



114

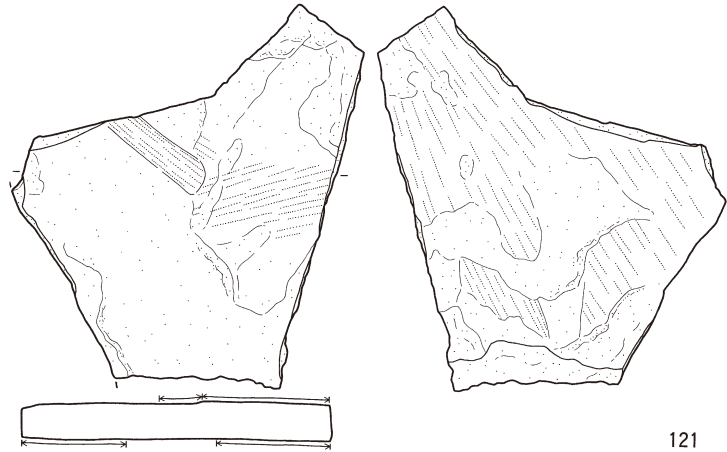
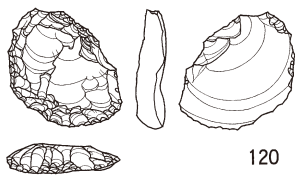
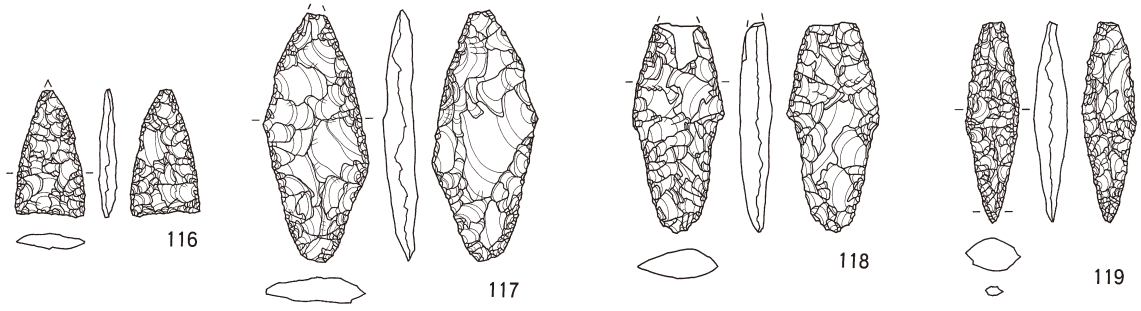


115

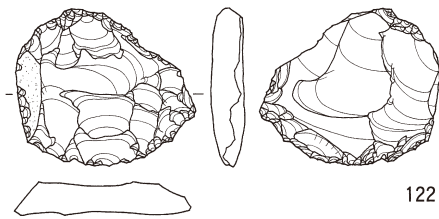


図V-25 遺構出土の石器 (11)

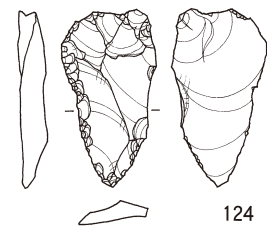
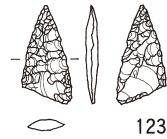
P-49



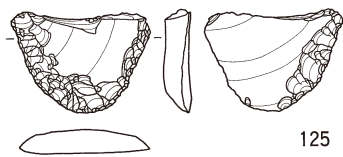
P-50



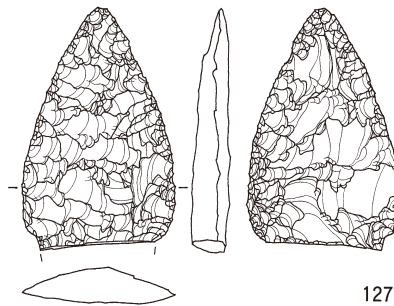
P-51



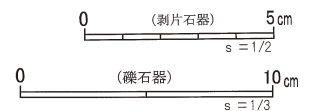
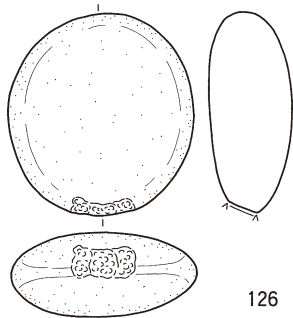
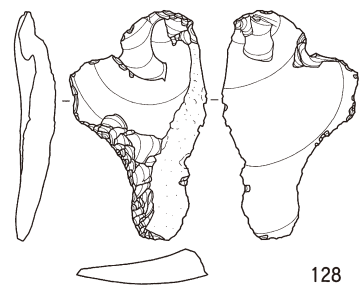
P-53



P-55



FC-5



図V-26 遺構出土の石器 (12)

平坦なすり面と線状のすり痕があり、たたき痕もみられる。

P-49 (図V-26-116~121)

116は黒曜石製の石鏃である。無茎で両側縁は曲線的である。117・118は石槍またはナイフである。117は黒曜石製で、身部と茎部の境がみられず、左右非対称の形状である。118は頁岩製で、身部と茎部の境にわずかながら返しがみられ、尖頭部は折損している。119は黒曜石製の石錐である。急角度の両面加工により棒状に整形され、両側縁下半には刃潰れ痕がみられる。120は黒曜石製のスクレイパーである。形状は楕円形で、左側縁から下端部に急角度の刃部が作出される。121は砂岩製の砥石で、表裏面に平坦な砥面がある。

P-50 (図V-26-122)

122は黒曜石製の両面調整石器である。両面の側縁から粗い調整が施され、下端部には微細剥離痕がみられる。

P-51 (図V-26-123・124)

123は黒曜石製の石鏃である。基部は破損後、微細な剥離で再加工されている。124は黒曜石製のスクレイパーで、左側縁に刃部が作出される。

P-53 (図V-26-125・126)

125は黒曜石製のスクレイパーである。上部は破損し、両側縁から下端部に外湾する刃部がある。126は砂岩製のたたき石である。扁平円礫の下端部にたたき痕がみられる。

P-55 (図V-26-127)

127は黒曜石製の石槍またはナイフである。やや幅広で、身部と茎部の境に丸みのある返しがみられる。黒曜石原産地分析を行ったところ置戸山産という結果が出た。

・フレイク集中出土の石器

FC-5 (図V-26-128)

128は黒曜石製のスクレイパーである。左側縁にやや内湾する刃部があり、表面には原礫面が残る。

(2) 包含層出土の石器 (図V-27~36 図版40・41)

包含層から石器は9,691点出土した。主な出土層位はⅢ層で、0層からも少量出土した。石器の内訳は、剥片石器は石鏃49点、石槍またはナイフ33点、両面調整石器15点、石錐11点、つまみ付きナイフ24点、スクレイパー87点、U・Rフレイク72点、石核2点、フレイク4,263点である。礫石器は磨製石斧12点、たたき石6点、すり石2点、石鋸37点、砥石265点、台石・石皿3点、加工・使用痕のある礫32点、礫4,778点である。

剥片石器はフレイクが主体で、ついでスクレイパー、U・Rフレイク、石鏃が多い。礫石器は礫が主体で、次いで砥石、石鋸が多くみられる。礫、砥石、石鋸とも破損するものが多い。

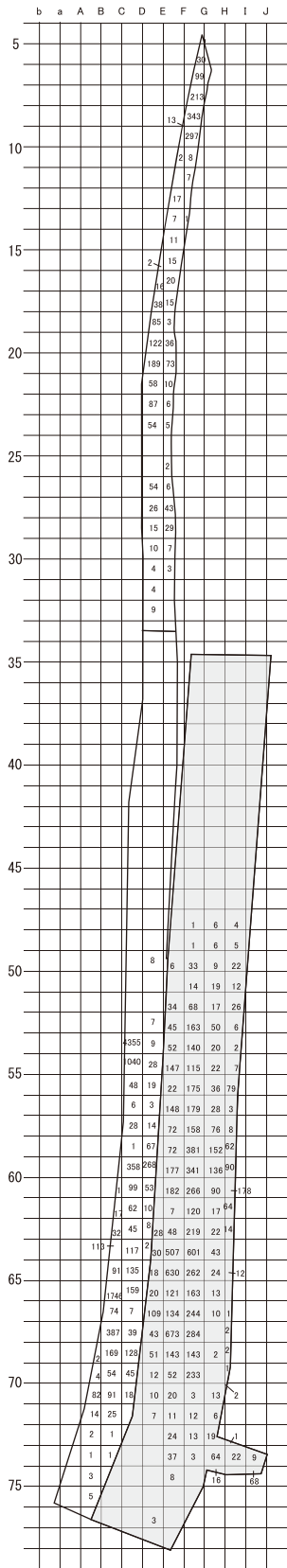
石器の分布は、47~74ラインにまとまっており、これは遺構の分布と一致する。

石器の石材は、剥片石器では黒曜石が最も多く、他に頁岩、チャートなどが少量みられる。礫石器では砂岩が最も多く、他に泥岩、凝灰岩などがみられる。

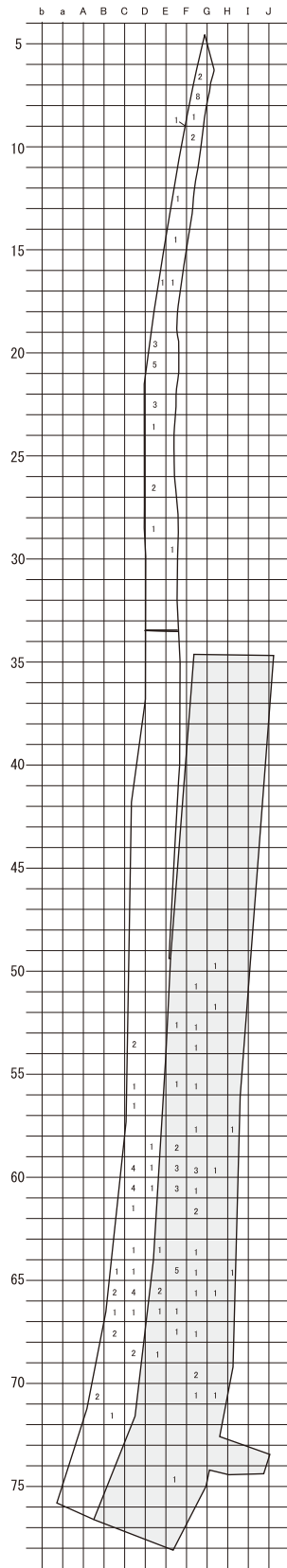
なお包含層からは水洗選別により、上記とは別にフレイク1,106点、礫3点が出土している。

1~14は石鏃である。石材はすべて黒曜石である。1・2は側縁が外湾するもので、1は基部が外湾し、2は直線的である。2は尖頭部が細く加工される。3~9は平面形状が三角形を呈するもので、

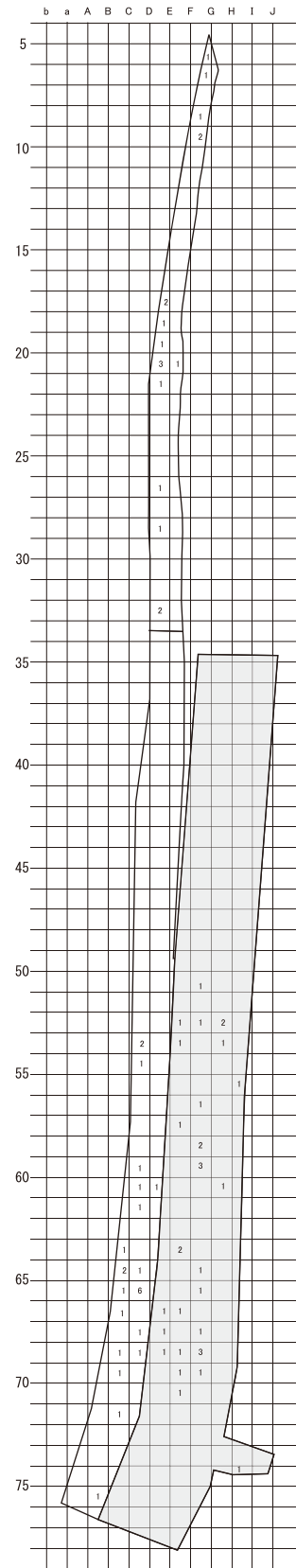
石器総点数



石鏃



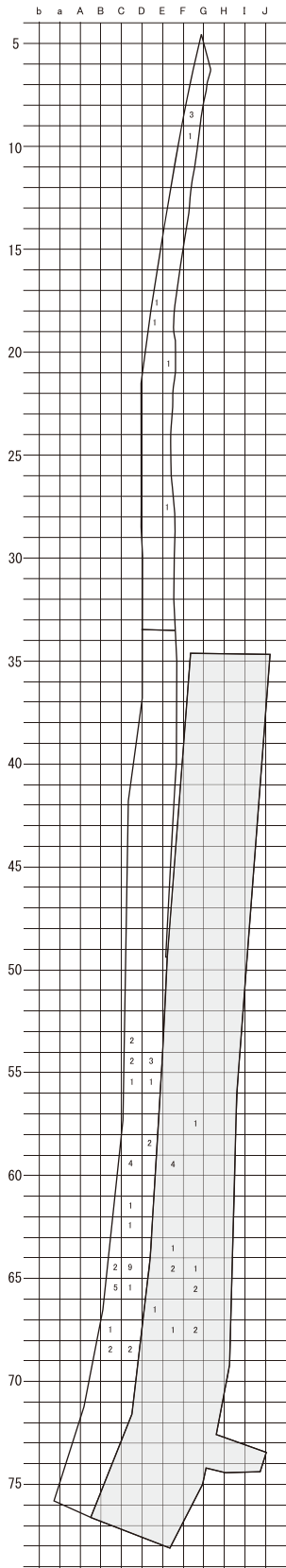
石槍またはナイフ



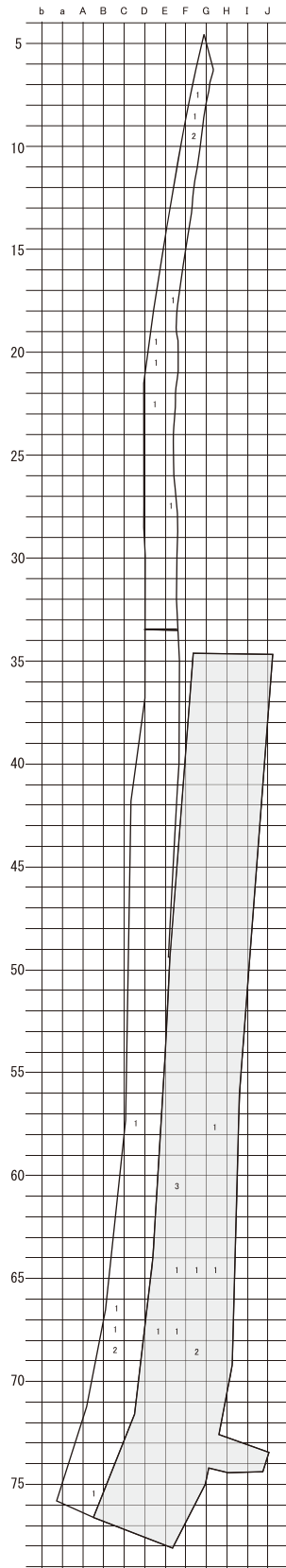
平成26年度調査区

図 V-27 包含層出土石器点数分布図 (1)

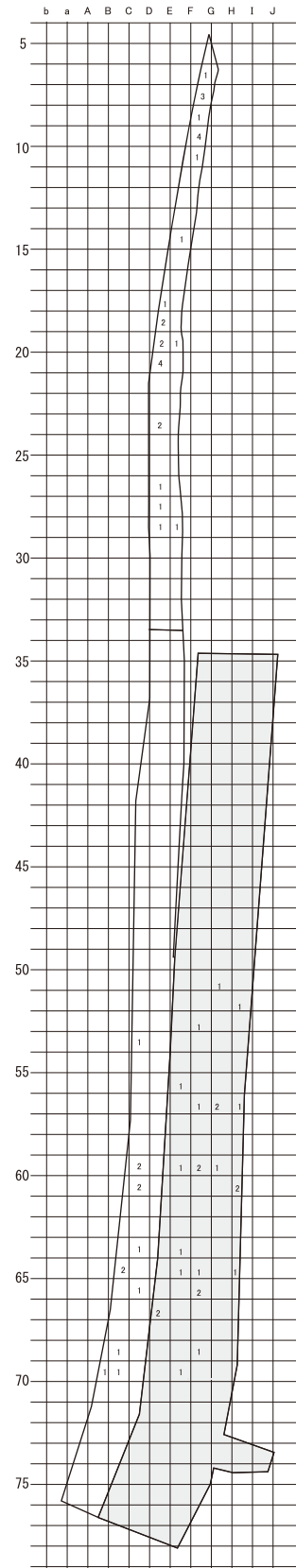
両面調整石器



石錐

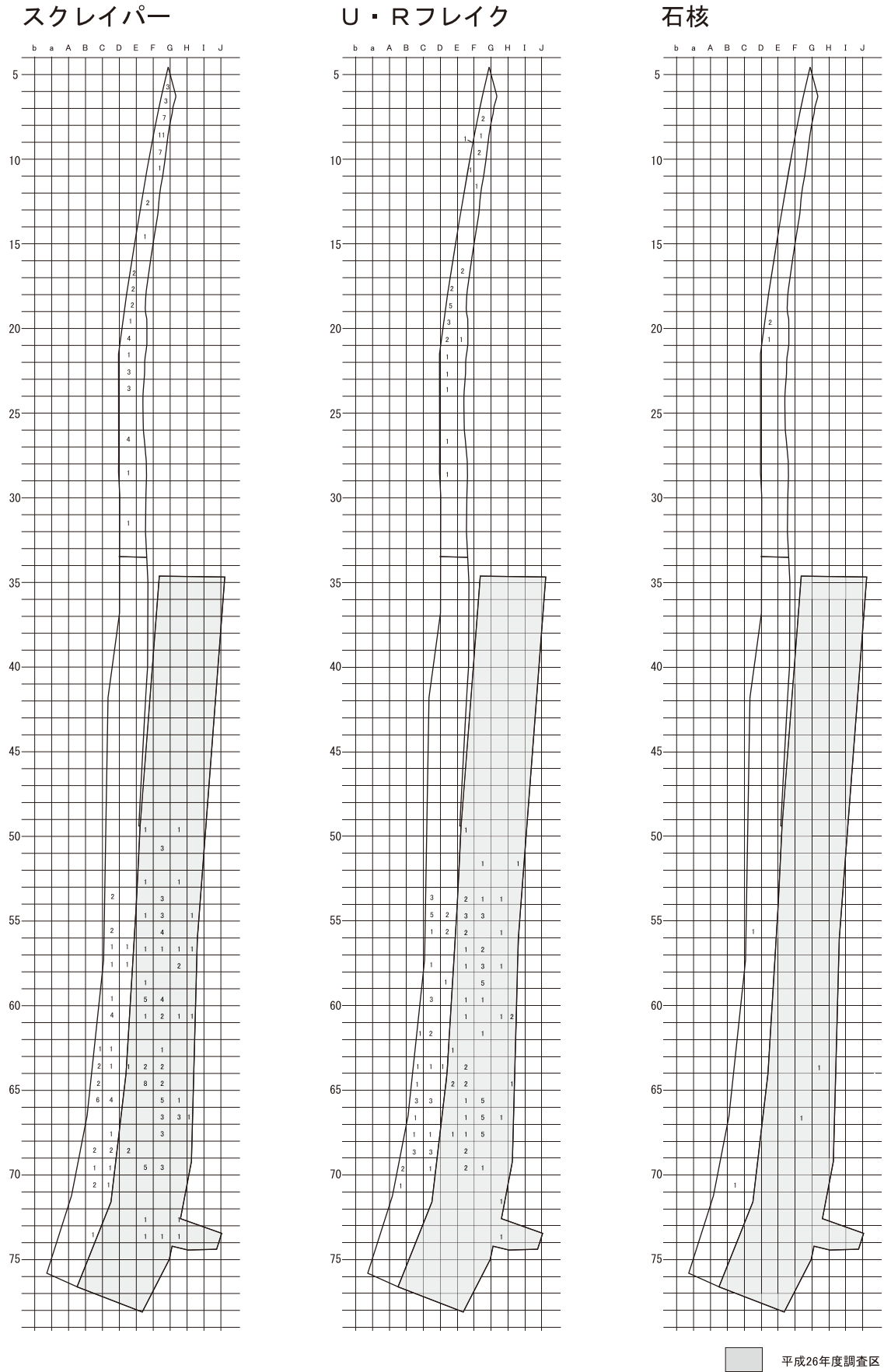


つまみ付きナイフ



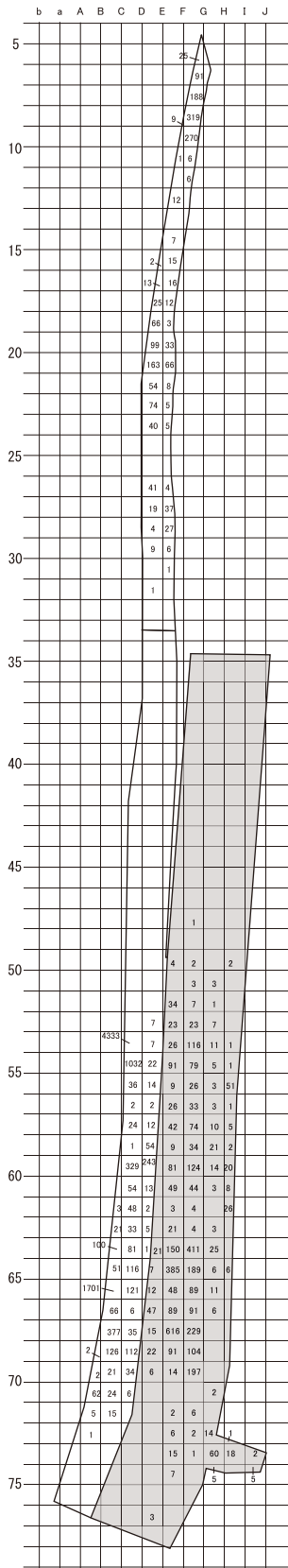
平成26年度調査区

図V-28 包含層出土石器点数分布図(2)

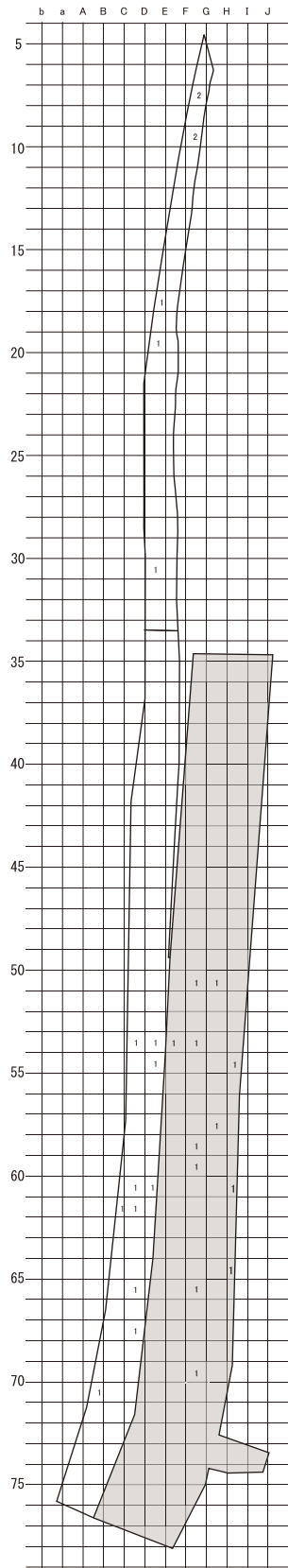


図V-29 包含層出土石器点数分布図(3)

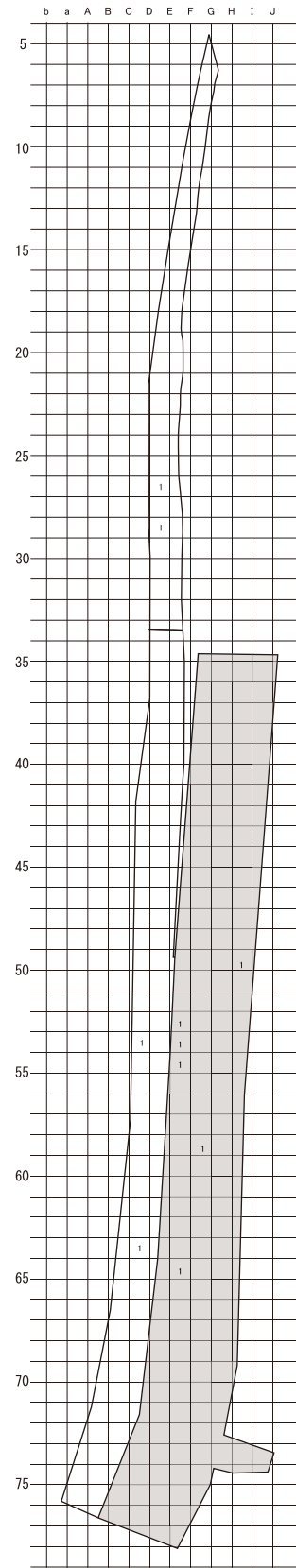
フレイク



磨製石斧

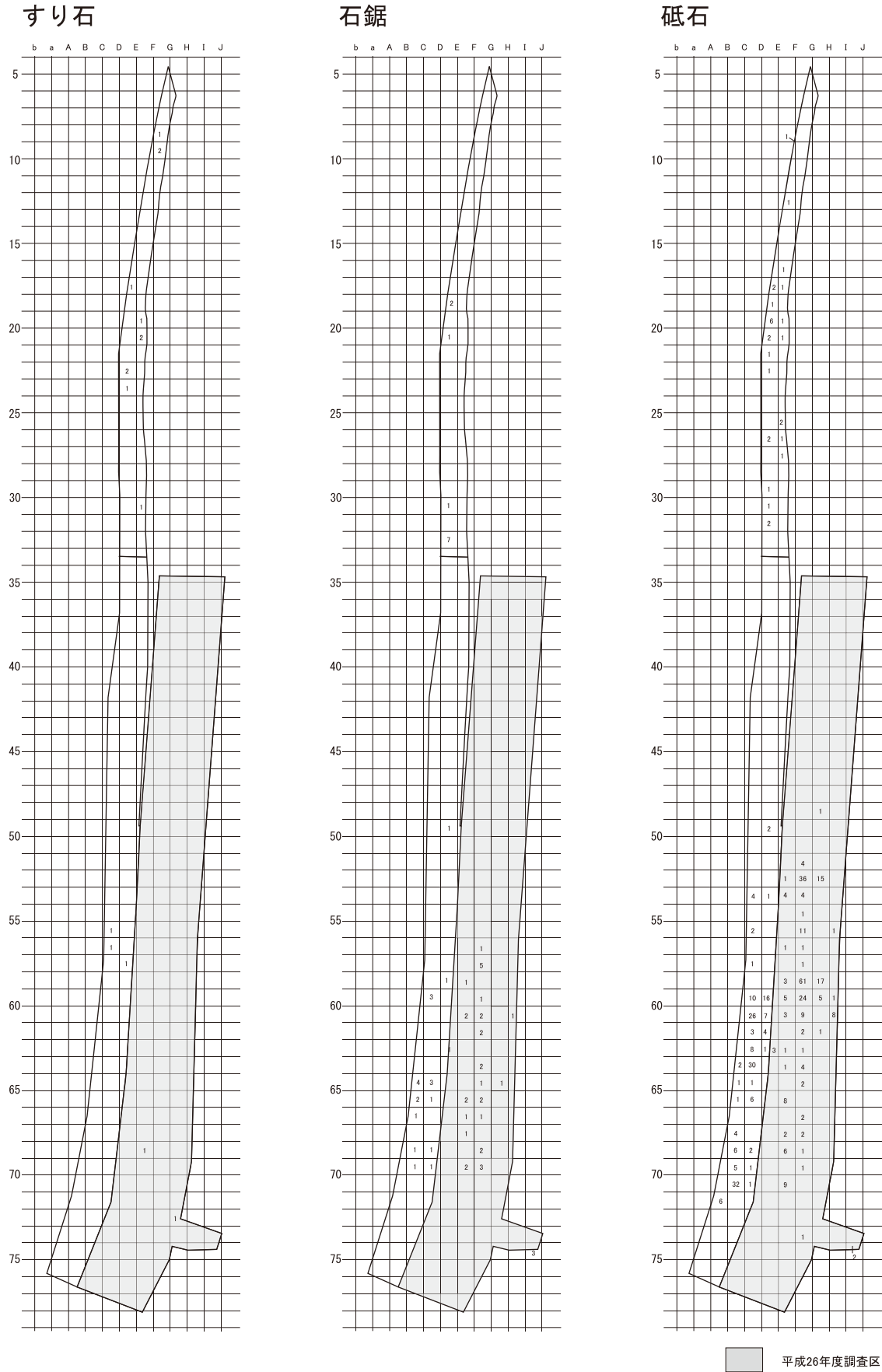


たたき石



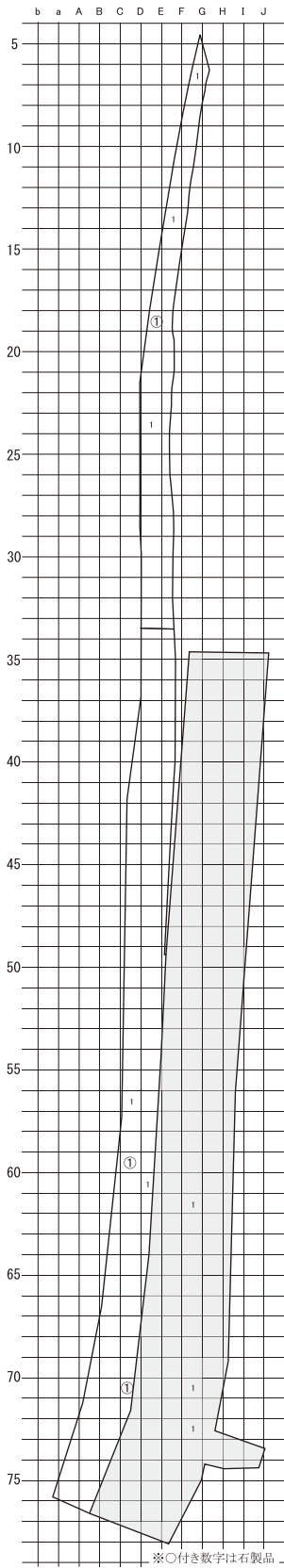
平成26年度調査区

図 V-30 包含層出土石器点数分布図 (4)



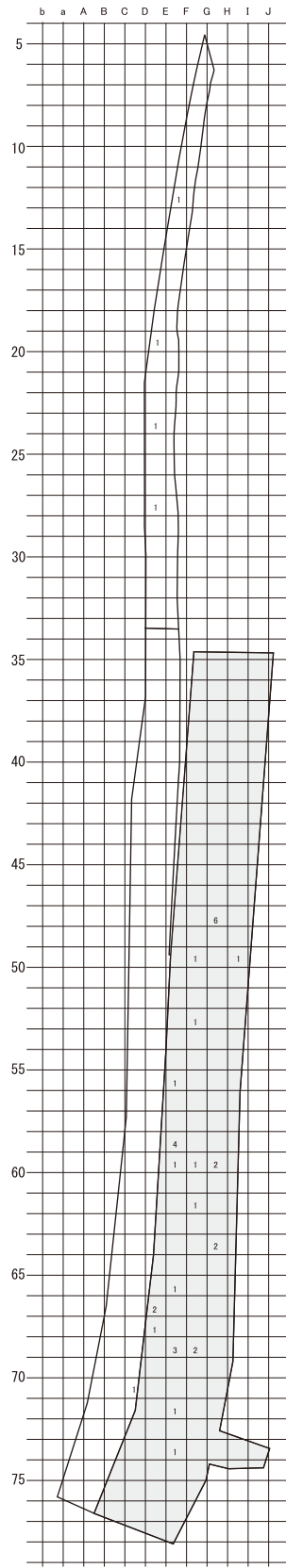
図V-31 包含層出土石器点数分布図(5)

台石・石皿
石製品

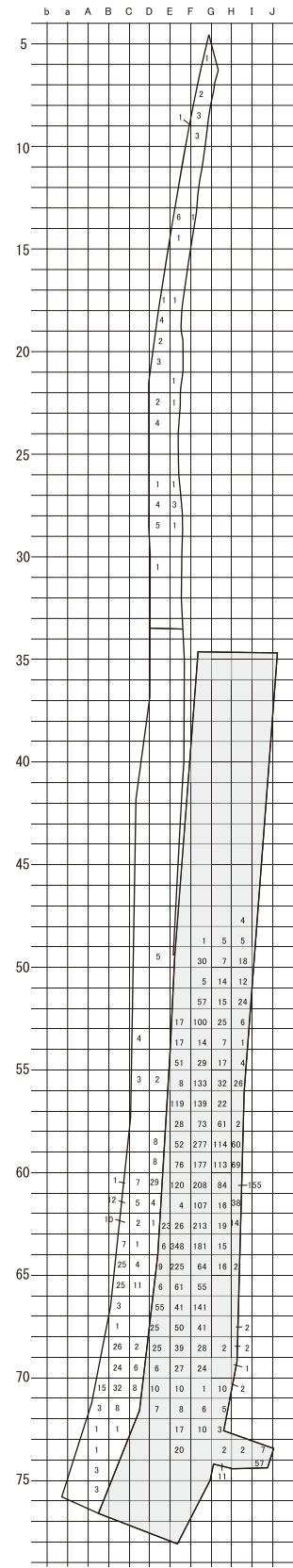


※○付き数字は石製品

加工・使用痕のある礫

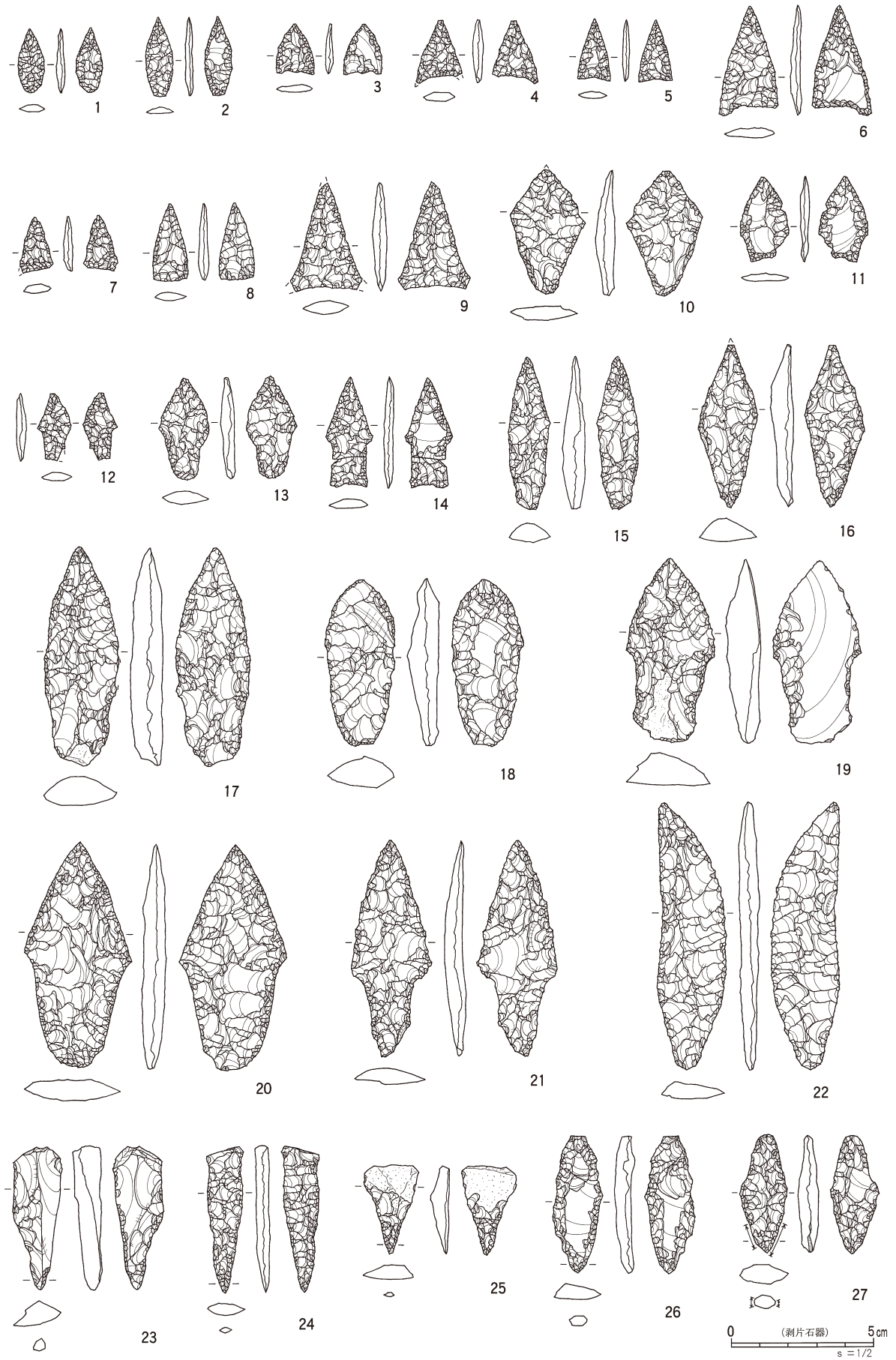


礫



平成26年度調査区

図V-32 包含層出土石器点数分布図(6)



図V-33 包含層出土の石器(1)

基部は3～5・9は緩く内湾し、6～8は直線的な形状である。3は長さ1.7cmと小型で、両側縁は外湾する。4は左右非対称で、右下端部は欠損する。5は2.1cmと小型である。6は基部が直線的で、左側縁が突出する形状である。裏面は下半に素材面を大きく残す。7は基部破損後、再加工されている。8は熱を受け、全体が白色化する。9は基部の両端が突出する形状だが、左右とも欠損する。10は菱形に近い形状で、最大幅は中央より上部にある。11～13は身部と茎部の境が不明瞭だが、わずかに返しがみられるものである。11は基部が内湾する。12・13は左側縁に返しがあり、右側縁は身部と茎部の境が不明瞭である。14は有茎で、茎部が長く、幅広である。

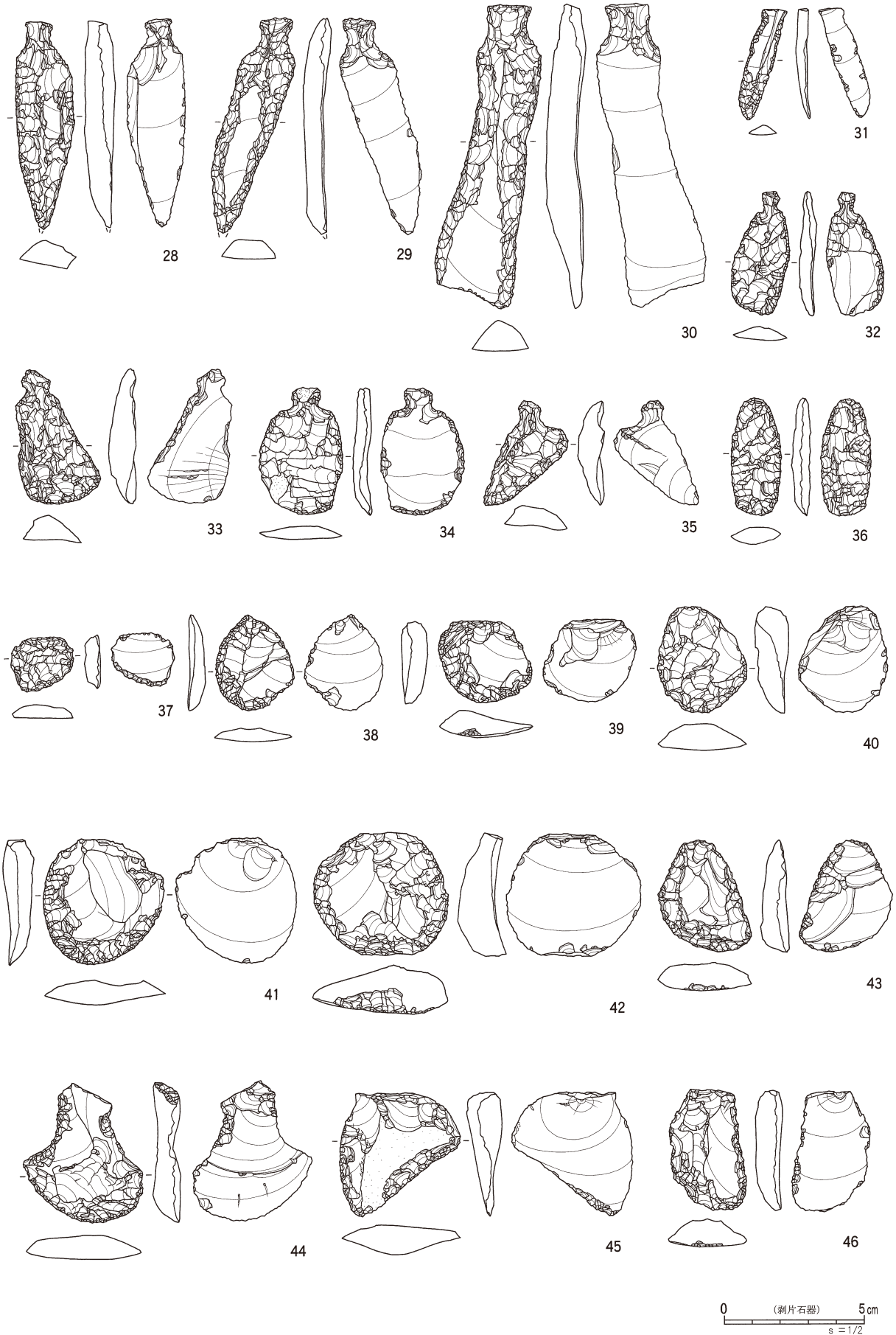
15～22は石槍またはナイフである。石材は15～17・19～21が黒曜石、18・22が頁岩である。15・17・22は身部と茎部の境がみられないもの、16・18は身部と茎部の境が不明瞭なもの、19～21は有茎のものである。15はやや幅が狭い形状で、基部から中央部は厚みがあるが、尖頭部は薄く加工される。16は菱形に近い形状で、左右非対称である。表面側は急角度、裏面側は平坦な剥離が施される。17は柳葉形に近い形状で、全体に厚みがある。基部側縁ではやや抉れて内湾する部分がある。18は左側縁にわずかに返しがみられ、尖頭部側縁はやや外湾する。19は表面ほぼ全体に急角度な二次加工が施されるが、基部中央には原礫面が残る。裏面は素材面が広くみられる。20は刃部が直線的で、基部は外湾する。21は返しが明瞭である。22は左右非対称な形状である。左側縁は表面側に比較的急角度な剥離が施され、刃部はやや内湾し、右側縁では刃部は外湾する。

23～27は石錐である。石材はすべて黒曜石である。23は両面調整素材の側縁部破片が利用され、錐部下端には細かな加工が施される。24は両側縁上部に抉りがみられる。25は錐部のみ作出され、上位は表裏面とも風化面が残る。26は縦長剥片の周縁に二次加工が施される。上端は折損しているが、上下両端に錐部があった可能性がある。27は石槍またはナイフが転用されるもので、錐部の両側縁が摩滅する。

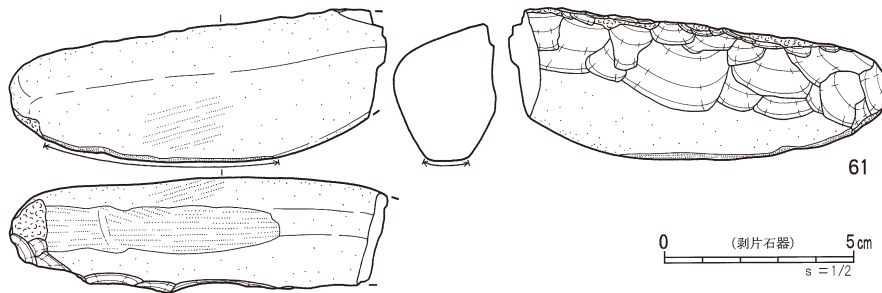
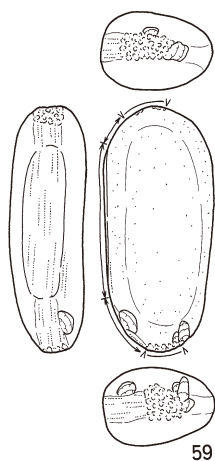
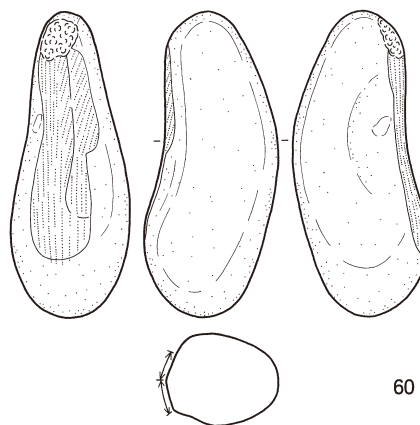
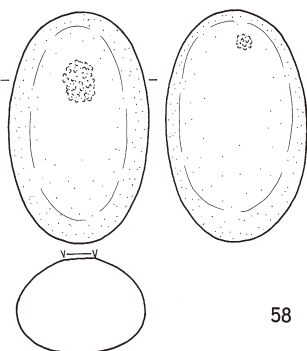
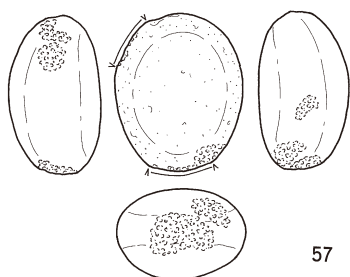
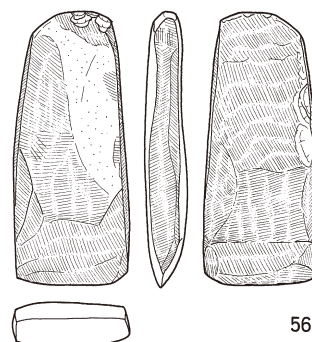
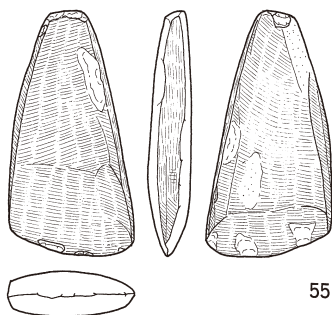
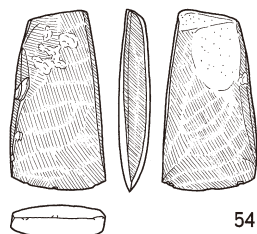
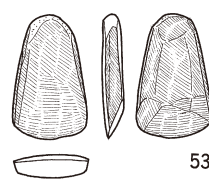
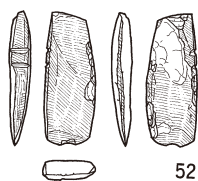
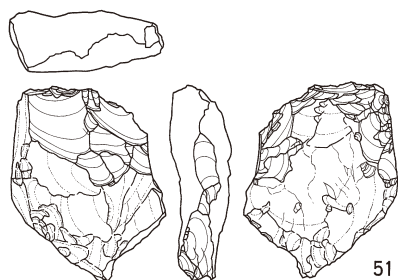
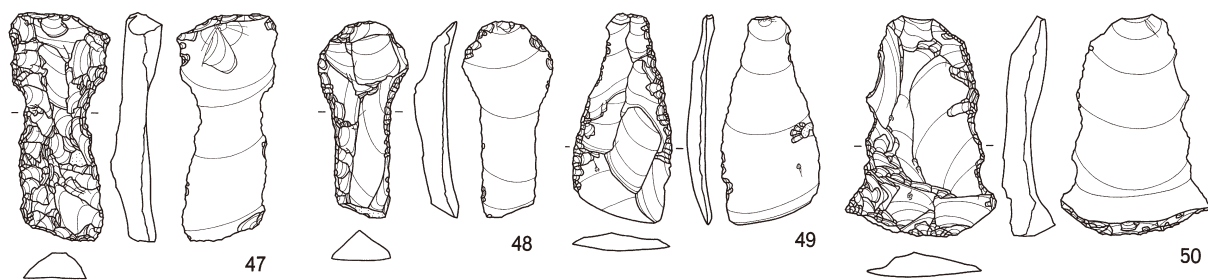
28～35はつまみ付きナイフである。石材は28～30・32・35は頁岩、31・33は黒曜石、34はチャートである。いずれも主に表面に二次加工が施され、裏面はつまみ部などのわずかな部分に細かな調整が施される。28・29は下端部がやや尖る形状である。30は両側縁に急角度の剥離が施され、やや内湾する刃部がみられる。全体に煤が付着する。31は縦長の剥片の側縁から下端部に細かな剥離が施される。33は主に右側縁から下端部に急角度の刃部が作出される。34は裏面の両側縁に細かな剥離が施された後、表面に長い平坦な剥離が施される。35は下端部が尖り、右側縁に刃部が作出される。

36～50はスクレイパーである。石材は37～44・46～50が黒曜石、36・45が頁岩である。36は両面が調整されるものである。37～42は円形もしくはそれに近い形状で、外湾する刃部を有するものである。37・38は比較的薄い素材が利用され、37は下端部にやや鋸歯状の刃部、38は左側縁から下端部に刃部がある。39～42は表面に急角度の剥離により分厚い刃部が作出される。39は左側縁から下端部、40～42は両側縁から下端部に刃部がある。43は左側縁から下端部にかけて外湾する急角度の刃部、右側縁には直線的な刃部がある。44は下端部に外湾する刃部があり、両側縁にも細かな調整がみられる。45は緑色の頁岩が利用され、両側縁に刃部が作出される。46・47は縦長剥片の両側縁から下端部にかけて二次加工が施され、下端部には急角度の刃部が作出される。47は両側縁の中央付近に抉りがみられる。48～50は縦長剥片素材の側縁に刃部が作出されるものである。48・49は両側縁に二次加工が施される。48は右側縁下半に急角度の刃部があり、下端部には原礫面が残る。50は右側縁に鋸歯状の刃部が作出される。

51は石核である。石材は頁岩で、表面左側縁側には風化面がある。主に上部や裏面の左側縁からの剥離痕が残る。



図V-34 包含層出土の石器(2)



0 (剥片石器) 5cm
s = 1/2

0 (礫石器) 10cm
s = 1/3

図V-35 包含層出土の石器(3)

52～56は磨製石斧である。全面が研磨され、刃縁は外湾する。石材はすべて泥岩で、53以外は緑色泥岩である。52・53は小型のものである。52は左側面が平坦に研磨され、溝が横位に2条刻まれる。線刻後、裏面では左側縁からの剥離が施され、再研磨されている。53は片刃である。54は右側縁が直線的である。55は形状が撥形で、熱を受け、全体に赤色化する。56は両側縁が直線的で、側面は平坦である。52・54・56は側縁が直線的で、擦り切り手法が用いられた可能性がある。

57～59はたたき石である。石材はすべて砂岩で、扁平な楕円礫が利用される。57は下端部や左上側面、58は表裏の平坦面にたたき痕がみられる。59は上下両端にたたき痕があり、左側縁にすり痕がみられる。

60・61はすり石である。石材は60が砂岩、61が凝灰岩である。60は左側面にややくぼむすり面がみられるものである。61は断面が三角形の礫の1側縁にすり面があり、もう1側縁では片面から加工が施される。

62～64は石鋸である。石材はすべて砂岩で、扁平な礫を素材とする。刃部は直線的で、刃縁部のほか、平坦面にもすり痕が残るものが多い。62は上下端部と平坦面にすり痕があり、上下端の断面は丸みを帯びる。63は全面にすり痕がみられる。左右両端が折れており、さらに長い形状であったと考えられる。上下端部の断面は尖る。64は下端部付近にすり痕がみられ、下端部断面は尖る。

65～68は砥石である。石材は65が凝灰岩、66～68が砂岩である。65は薄い板状の礫を素材とする。表面にわずかにくぼむ砥面や溝状の擦痕があり、裏面は線状の擦痕がみられる。66は破片で表面右側に大きくくぼむ砥面がある。67は両面に平坦な砥面と溝状の擦痕が認められる。68は表裏面に緩やかにくぼむ砥面があり、右側面の割れ面にも平滑な砥面がみられる。

69は台石・石皿である。石材は比較的礫を多く含む砂岩である。周縁は打ち欠かれ、表面には平坦なすり面のほか、たたき痕がみられる。

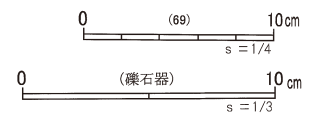
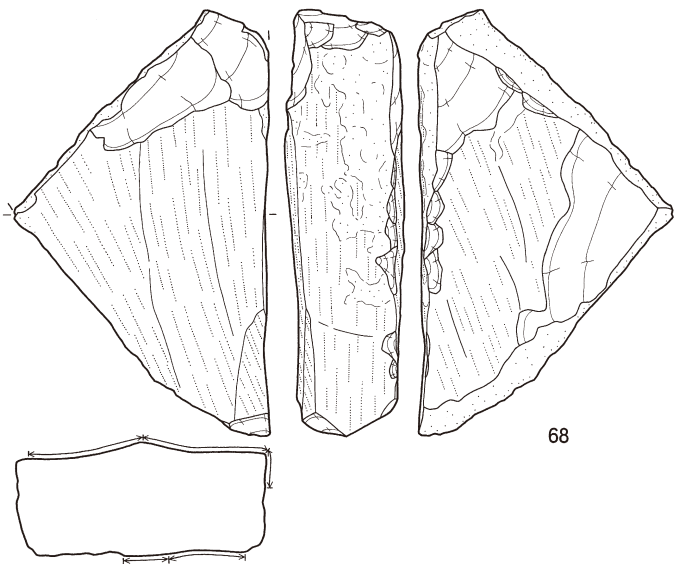
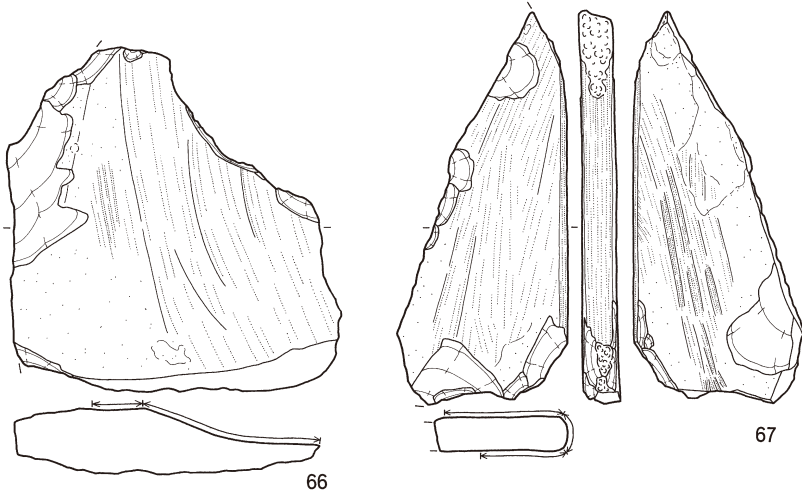
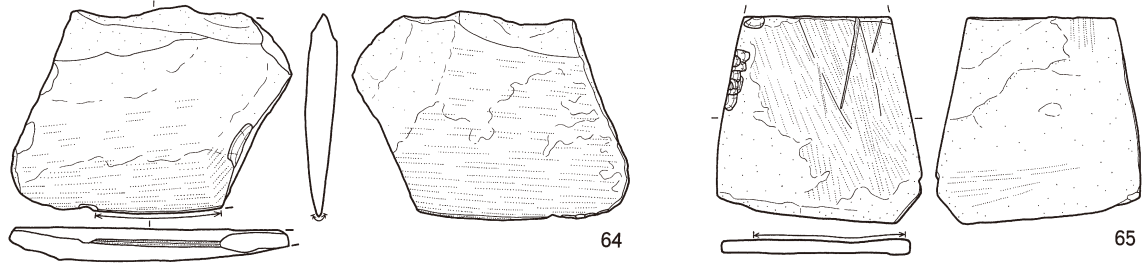
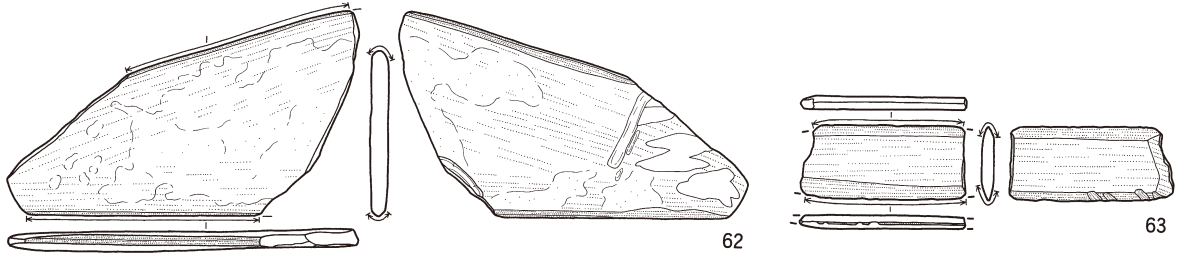
(愛場)

3. 遺構等出土の微細遺物について (表V-21)

フレイク集中等、微細遺物が多量に出土した遺構などでは、その検出を目的として土壌ごと採取し、水洗選別により微細遺物の選別を行った。土壌の採取を行った遺構は、竪穴住居跡内のフレイク集中(HFC)、竪穴住居跡や土坑の覆土、フレイク集中、焼土である。また、石器等が多く含まれるⅢ層の土壌も採取した。遺物の選別は、1mmメッシュを用いた水洗選別法で行った。

土壌の水洗選別の結果、遺構からは16,481点、包含層からは1,113点、合計17,594点の遺物を回収した。器種別の内訳は土器30点、石器等17,564点である。土器はI群b類、II群a類、IV群a類が少量出土している。石器等で最も多いものはフレイク17,543点で、他に石鏃、両面調整石器、スクレイパー、石核、U・Rフレイク、磨製石斧、礫が少量出土している。遺構別でみると、H-19HFC-1出土が5,521点と最も多く、次いでH-29の覆土から2,069点出土している。

(広田)



図V-36 包含層出土の石器(4)

表V-1 包含層出土土器点数表

遺物種別/層位		0層		Ⅲ層		合計	
時期	部位	残存状態					
I群b類	口縁部	良好		34	34		
		剥離		2	2		
		摩耗	0	38	0	38	
		小破片		2	2		
	底部	良好		33	33		
		剥離		3	3		
		摩耗	0	36	0	36	
		小破片		0	0		
	胴部	良好	4	524	528		
		剥離		86	86		
		摩耗		2	2		
		小破片	4	335	947	335	951
小計			4	1021	1025		
II群a類	口縁部	良好	1	31	32		
		剥離		13	13		
		摩耗		0	0		
		小破片	1	8	52	9	54
	底部	良好		2	2		
		剥離		1	1		
		摩耗	0	3	0	3	
		小破片		0	0		
	胴部	良好	5	165	170		
		剥離	3	411	414		
		摩耗		3	3		
		小破片	10	537	1116	547	1134
小計			20	1171	1191		
III群b類	口縁部	良好			0		
		剥離			0		
		摩耗	0	0	0	0	
		小破片			0	0	
	底部	良好			0		
		剥離			0		
		摩耗	0	0	0	0	
		小破片	0	0	0	0	
	胴部	良好		2	2		
		剥離		1	1		
		摩耗	0	3	0	3	
		小破片		0	0		
小計			0	3	3		
IV群a類	口縁部	良好		6	6		
		剥離		1	1		
		摩耗	0	7	0	7	
		小破片		0	0		
	底部	良好		8	8		
		剥離		4	4		
		摩耗	0	12	0	12	
		小破片		0	0		
	胴部	良好	1	131	132		
		剥離	1	68	69		
		摩耗		2	332	0	334
		小破片		133	133		
小計			2	351	353		
V群c類	口縁部	良好			0		
		剥離			0		
		摩耗	0	0	0	0	
		小破片		0	0		
	底部	良好			0		
		剥離			0		
		摩耗	0	0	0	0	
		小破片	0	0	0	0	
	胴部	良好		15	15		
		剥離		1	1		
		摩耗		0	0		
		小破片	0	5	21	5	21
小計			0	21	21		
VI群	口縁部	良好			0		
		剥離			0		
		摩耗	0	0	0	0	
		小破片			0	0	
	底部	良好			0		
		剥離			0		
		摩耗	0	0	0	0	
		小破片	0	0	0	0	
	胴部	良好		2	2		
		剥離		0	0		
		摩耗		0	0		
		小破片	0	8	10	8	10
小計			0	10	10		
土器合計			26	2577	2603		
土製品	土製品	完形			0		
		準完形			0		
		半形	0	0	0	0	
		片		2	2		
土製品合計			0	2	2		
総計			26	2579	2605		

表V-2 包含層出土石器点数表

遺物種別/層位		0層		Ⅲ層		合計	
群	器種	残存状態					
剥片石器群	石鏃	完形	1	21	22		
		準完形	2	12	14		
		半形	1	4	10	45	11
		片			2	2	
		完形	2	13	15		
		準完形	1	2	3		
	石槍またはナイフ	完形	1	9	10		
		半形	1	5	28	10	33
		片	1	4	5		
	両面調整石器	完形		1	1		
		準完形		1	1		
		半形	1	3	14	4	15
	石錐	完形		7	7		
		準完形		2	2		
		半形	0	2	11	0	11
	つまみ付きナイフ	完形	2	21	23		
		準完形			0		
		半形	2	1	22	1	24
	スクレイパー	完形	3	58	61		
		準完形	1	9	10		
		半形	4	11	83	11	87
	U・Rフレイク	片		5	5		
	石核	—	11	61	72		
	フレイク		0	2	2		
剥片石器群合計			201	4062	4263		
			228	4328	4556		
礫石器群	磨製石斧	完形		6	6		
		準完形			0		
		半形	1	4	11	4	12
	たたき石	完形	1	4	5		
		準完形			0		
		半形	1	1	5	1	6
	すり石	完形		1	1		
		準完形		1	1		
		半形	0	2	0	2	
	石鋸	完形			0		
		準完形	1	7	8		
		半形	2	3	35	3	37
	砥石	完形		2	2		
		準完形		3	3		
		半形	5	6	260	6	265
	台石・石皿	完形	1	1	2		
		準完形			0		
		半形	1	1	2	0	3
礫石器群合計			10	315	325		
礫	加工・使用痕のある礫		1	31	32		
	礫	完形	21	893	914		
		片	96	117	3768	4661	3864
	礫合計			118	4692	4810	
総計			356	9335	9691		

表V-3 H-24出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-1	1	24	H-24	覆土	-	19	(18.5)	-	2.0	1,900	胴部下半 ~底部	深鉢	II群a類 温根沼式					
接合破片総点数		19		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			-											
胎土 (混和材)		繊維		多量		粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考	黒色鉱物					
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	格子目状押型文 矢羽状押型文		黄橙色 (10YR8/6)		赤色化 橙色 (10R6/8)		器面摩耗		胴部下半 (70~60%)		ミガキ ナデ		橙色 (7.5YR7/6)		-		-	
面	ナデ		黄橙色 (10YR8/6)		黒色化 炭化物付着		尖底		底部 (100%)		ミガキ ナデ		橙色 (7.5YR6/6)		黒色化 炭化物付着		-	

表V-4 H-24・P-48復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)						
							器高	口径	底径										
V-1	2	24	H-24 P-48	覆土	-	2 8	(21.3)	20.4	-	1,390	口縁~ 胴部下位	深鉢	IV群a類 北筒II式						
接合破片総点数		13		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・E-71区・Ⅲ層(3)												
胎土 (混和材)		繊維		少量		粒径	細~中粒	種類	岩石 鉱物 共にあり	量	中~多量	備考	白色岩片 石英						
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		
	ナデ		橙色 (7.5YR6/6)		赤色化 明赤褐色 (2.5YR5/8)		器面摩耗		口唇部 (40%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		黒色化		-		
面	肥厚帯 円形刺突文 LR縄文・燃糸文		橙色 (7.5YR6/6)		赤色化 明赤褐色 (2.5YR5/8)		器面摩耗		口縁部 (60%)		LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		黒色化 炭化物付着 赤色化		-		
	LR・RL縄文 燃糸文		橙色 (7.5YR6/6)		赤色化 明赤褐色 (2.5YR5/8)		器面摩耗		胴部上半 (60%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		黒色化 炭化物付着		-		
面		RL・LR縄文(羽状) 燃糸文		明赤褐色 (2.5YR5/8)		赤色化		器面摩耗		胴部下位 (20%)		ナデ		明赤褐色 (5YR5/8)		黒色化		-	

表V-5 H-24・P-48復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-1	3	24	H-24 P-48	覆土	-	31 1	(23.1)	-	(10.4)	1,350	胴部中位 ~底部	深鉢	IV群a類 北筒II~III式					
接合破片総点数		34		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・E-71区・Ⅲ層(1) ・F-70区・Ⅲ層(1)											
胎土 (混和材)		繊維		なし		粒径	中~粗粒	種類	岩石主体	量	多量	備考	亜円~亜角礫状岩片 石英					
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	RL縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		赤色化 橙色 (2.5YR6/8)		補修孔 器面摩耗 ・剥離		胴部中位~底部 (40~90%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		-		-	
面	ナデ		黒褐色 (10YR2/2)		赤色化 褐色 (2.5YR6/8)		-		底部 (10%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR4/3)		-		-	

表V-6 H-24・P-51復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-1	4	24	H-24 P-51	覆土	-	3 12	(21.2)	-	2.4	1,500	胴部上位 ~底部	深鉢	II群a類 温根沼式					
接合破片総点数		16		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・E-72区・Ⅲ層(1)											
胎土 (混和材)		繊維		多量		粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考	有色鉱物 石英					
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	矢羽状押型文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-		胴部上位 (10%)		ミガキ		(褐灰色)		黒色化		-	
面	矢羽状押型文 ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化		尖底		胴部下半~底部 (30%)		ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		-		-	

表V-7 H-25復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-1	5	25	H-25	床面	11	18	16.6	18.0	2.0	700	口縁~ 底部	深鉢	II群a類 温根沼式					
接合破片総点数		20		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・H-25・床面(2)											
胎土 (混和材)		繊維		多量		粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考	黒色鉱物					
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	突起 刻み		浅黄褐色 (10YR8/4)		-		補修孔		突起部 口唇部 (40~50%)		ナデ		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化		-	
面	斜格子状押型文 矢羽状押型文		浅黄褐色 (10YR8/4)		-		補修孔 器面摩耗		口縁~胴部上半 (60~70%)		ミガキ		(褐灰色)		黒色化 炭化物付着		-	
	ナデ ミガキ		浅黄褐色 (10YR8/4)		黒色化		尖底		胴部下半~底部 (90~80%)		ミガキ ナデ		浅黄色 (2.5Y7/4)		黒色化 炭化物付着		-	

表V-8 P-31復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-2	6	25	P-31	覆土	-	1	(26.9)	20.0	-	1,740	口縁～胴部下位	深鉢	IV群a類 北筒Ⅱ式
接合破片総点数		22	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・E-64区・Ⅲ層(21)							
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒径	細～粗粒	種類	岩石 鉱物 共にあり	量	少～中量	備考	白色鉱物 亜円～亜角礫状の岩片 堆積岩		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	刻み		明黄褐色 (10YR6/6)	黒色化	-	口唇部 (50%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	-			
	肥厚帯 R・L縄文 沈線文 円形刺突文		明黄褐色 (10YR6/6)	黒色化 炭化物付着	補修孔2か所	口縁部 (60%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	-			
	R・L・R縄文 (羽状)		明黄褐色 (10YR7/6)	黒色化 炭化物付着	補修孔4か所	胴部上半 (60%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 炭化物付着	-			
面	R・L・R縄文 (羽状)		橙色 (7.5YR6/6)	赤色化	補修孔5か所	胴部下位 (60～70%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	-	面		

表V-9 P-37復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-2	7	25	P-37	坑底面	1	20	(44.1)	25.5	-	6,050	口縁～胴部下位	深鉢	IV群a類 北筒Ⅱ式
接合破片総点数		22	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・H-19・覆土(1)・F-56区・Ⅲ層(1)							
胎土 (混和材)		繊維	少～中量	粒径	細～中粒	種類	岩石 鉱物 共にあり	量	少～中量	備考	石英 有色鉱物 亜円～亜角礫状岩片		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	刻み		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化	-	口唇部 (90%)	ナデ	明赤褐色 (2.5YR5/6)	-	-			
	肥厚帯 貼付 沈線文 円形刺突文 L・R・R縄文		(褐色)	黒色化 炭化物付着	-	口縁部 (100%)	ナデ	赤褐色 (2.5YR4/6)	-	-			
	R・L・R羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	黒色化 炭化物付着	-	胴部上半 (100%)	ナデ 筋状の調整痕	赤褐色 (2.5YR4/6)	黒色化	-			
面	R・L・R羽状縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	赤色化 褐色 (2.5YR6/8)	器面剥離	胴部下位 (70～60%)	ナデ	にぶい赤褐色 (7.5YR4/4)	黒色化	-	面		

表V-10 P-46・49復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-2	8	25	P-46 P-49	覆土	-	4 3	(6.5)	-	8.8	178	胴部下位～底部	深鉢	I群b類 中茶路式
接合破片総点数		9	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・G-59区・Ⅲ層(1)・G-60区・Ⅲ層(1)							
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒径	細～中粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	亜円～亜角礫状岩片 堆積岩		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	貼付帯 R・L・R縄文 (一部羽状)		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	-	胴部下位～底部 (20～30%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	-	-			
面	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	-	やや上げ底	底面 (60%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	-	-	面		

表V-11 P-49復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
V-2	9	25	P-49	覆土	-	1	(10.3)	-	-	275	胴部中位	深鉢	I群b類 中茶路式
接合破片総点数		25	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・F-59区・Ⅲ層(22)・F-60区・Ⅲ層(1)・G-59区・Ⅲ層(1)							
胎土 (混和材)		繊維	なし	粒径	細～中粒	種類	岩石主体	量	少量	備考	亜円～亜角礫状岩片		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	絡糸体圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	-	-	胴部中位 (60～70%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	-			

表V-12 遺構出土破片土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)	
						小計	合計						
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡		
繊維		粒径		種類		外面		(部位)		外面		内面	
V-3	1	26	H-17	覆土	—	1	3	口縁部	91.5	深鉢	II群a類	温根沼式	
多量		細粒		胎物主体(少量)		貼付(突起) 矢羽状押型文		ミガキ (突起) 刺突文		にぶい褐色 (7.5YR5/4) 褐色 (7.5YR4/3)		黒色化炭化物付着	
V-3	2	26	H-17	覆土	—	1	1	口縁部(突起部)	17.6	深鉢	II群a類	器面摩耗	
多量		細~中粒		胎物主体(黒色胎物 少量)		貼付(突起)		ナデ? (突起) 刺突文		にぶい黄褐色 (10YR7/4) にぶい黄褐色 (10YR7/4)		赤色化? 赤色化?	
V-3	3	26	H-17	覆土	—	5	4	胴部	78.4	深鉢	II群a類	温根沼式 内面剥離	
多量		中~細粒		岩石・胎物 ともにあり		貼付帯 矢羽状押型文		— (貼付帯) 刺突文		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		赤色化 にぶい赤褐色 (5YR4/4)	
V-3	4	26	H-17	覆土	—	3	4	胴部	110.7	深鉢	II群a類	温根沼式 器面摩耗	
多量		細~中粒		岩石・胎物 ともにあり (黒色胎物 少量)		矢羽状押型文		ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR6/3)		赤色化 褐色 (5YR6/6) 赤色化 褐色 (5YR6/6)	
V-3	5	26	H-17	覆土	—	1	1	胴部	17.2	深鉢	II群a類	—	
多量		細~中粒		岩石・胎物 ともにあり (黒色胎物 少量)		沈線文		ナデ		黒褐色 (2.5Y3/2)		にぶい黄褐色 (10YR5/3) 黒色化? —	
V-3	6	26	H-17	覆土	—	1	1	胴部	7.5	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細~中粒		岩石・胎物 ともにあり		貼付文 絡条体圧痕文 短縄文		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化炭化物付着 黒色化	
V-3	7	26	H-18	覆土	—	2	2	口縁部下位~胴部	30.2	深鉢	II群a類	—	
多量		細~中粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		肥厚帯		ミガキ (肥厚帯) 刻み		褐色 (7.5YR7/6)		にぶい黄褐色 (10YR6/4) 赤色化 褐色 (5YR6/6) 黒色化炭化物付着	
V-3	8	26	H-18	覆土	—	1	1	胴部	7.7	深鉢	II群a類	器面摩耗	
少~中量		細~中粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		擦糸文		ナデ		明黄褐色 (10YR6/6)		にぶい黄褐色 (10YR6/4) — —	
V-3	9	26	H-18	覆土	—	1	9	胴部	129.7	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細~粗粒		岩石・胎物 ともにあり		貼付帯 絡条体圧痕文		ナデ 筋状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR6/3)		黒色化 —	
V-3	10	26	H-18	覆土	—	1	1	胴部	9.2	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細~粗粒		岩石・胎物 ともにあり		貼付文 絡条体圧痕文		ナデ 筋状の調整痕		(黒褐色) (黒褐色)		黒色化 黒色化	
V-3	11	26	H-18	覆土	—	1	2	胴部	234.7	深鉢	II群a類	温根沼式 外面剥落 12と同一個体	
多量		中~粗粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		矢羽状押型文		ナデ		浅黄褐色 (10YR8/4) (黒褐色)		赤色化? 黒色化炭化物付着	
V-3	12	26	H-19	覆土	—	1	8	口縁~胴部	500	深鉢	II群a類	温根沼式 11と同一個体	
多量		細粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		肥厚帯 刺突文 刻み 矢羽状押型文		ミガキ (口唇部) ナデ ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR7/4) 黒褐色		赤色化 褐色 (5YR6/6) 黒色化炭化物付着	
V-3	13	26	H-19	覆土	—	1	2	口縁~胴部	105.4	深鉢	II群a類	温根沼式 14と同一個体	
多量		細粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		肥厚帯 刺突文 矢羽状押型文		ナデ (口唇部) 沈線文 矢羽状押型文 刺突文 (口唇部) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR6/4)		赤色化 褐色 (5YR7/6) 黒色化炭化物付着	
V-3	14	26	H-19	覆土	—	1	2	口縁~胴部	40.7	深鉢	II群a類	温根沼式 外面剥落 13と同一個体	
多量		細粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		肥厚帯 刺突文 矢羽状押型文		ナデ (口唇部) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR6/4)		赤色化 褐色 (5YR7/6) 黒色化炭化物付着	
V-3	15	26	H-19	覆土	—	1	1	胴部	191.2	深鉢	IV群a類	—	
なし		細~中粒		胎物主体 (石英 少量)		RL縄文		ナデ 工具のアタリ		褐色 (5YR6/6) 黒褐色		赤色化 黒色化炭化物付着	
V-4	16	26	H-19	覆土	—	5	5	胴部	137.3	深鉢	IV群a類	補修孔	
なし		細~粗粒		岩石・胎物 ともにあり (中~多量)		LR縄文		ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4) 黒褐色		赤色化 黒色化炭化物付着	
V-4	17	26	H-19	覆土	—	2	2	口縁~胴部	13.4	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細粒		岩石・胎物 ともにあり (少量)		貼付帯 LR・RL縄文		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/3) にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 —	
V-4	18	26	H-19	覆土	—	1	1	胴部	14.6	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細~粗粒		岩石主体 (皿円~皿角礫状)		貼付帯 短縄文		ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR6/3)		— 黒色化	
V-4	19	26	H-19	覆土	—	1	1	胴部	11.6	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細~粗粒		岩石主体 (皿円~皿角礫状)		擦糸文 短縄文 絡条体圧痕文		ナデ 筋状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR6/3) にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 —	
V-4	20	26	H-19	覆土	—	1	1	胴部	8.0	深鉢	I群b類	中茶路式	
なし		細~中粒		岩石主体 (皿円~皿角礫状)		絡条体圧痕文 短縄文		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4) にぶい黄褐色 (10YR6/3)		黒色化炭化物付着 —	
V-4	21	26	H-20	覆土	—	1	1	口縁部	15.6	深鉢	II群a類	温根沼式 補修孔	
多量		細粒		岩石主体 (少量)		斜格子状押型文		ナデ (口唇部) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4) (黒褐色)		— 黒色化炭化物付着	

表V-12 遺構出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)										
						小計	合計															
胎土(混和材)					文様・調整			色調		使用の痕跡												
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面								
V-4	22	26	H-20	覆土	—	1	胴部	2.4	深鉢	I群b類	—	—	—	中茶路式 器面摩耗								
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		絡条体圧痕文	ナデ?		—	にふい黄褐色 (10YR7/4)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	—	—	—								
V-4	23	27	H-21	覆土	—	1	胴部	45.6	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 外面剥離								
多量	細~中粒	岩石主体 (少量)		矢羽状押型文	ミガキ		—	にふい黄褐色 (10YR7/4)	暗褐色 (7.5YR3/3)	—	—	—	—	赤色化?								
V-4	24	27	H-21	覆土	—	1	口縁部	86.9	深鉢	IV群a類	—	—	—	北筒II式								
微量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (少~中量)		肥厚帯 円形刺突文 RL縄文	ナデ		(口唇部) L R縄文 (肥厚帯) L R縄文 沈線文	(褐灰色)	にふい赤褐色 (5YR4/4)	黒色化 炭化物付着	—	—	—	赤色化								
V-4	25	27	H-21	覆土	—	1	3	胴部	256.3	深鉢	IV群a類	—	—	—								
少量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (石英 白色鉱物目立つ)		LR・RL縄文 (羽状)	ナデ 工具のアタリ										—	橙色 (7.5YR6/6)	赤褐色 (5YR4/6)	黒色化 炭化物付着 赤色化	—	—	黒色化 赤色化	
V-4	26	27	H-21	覆土	—	1									4	胴部	68.4	深鉢	IV群a類	—	—	—
少量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (石英 目立つ)		RL・L R縄文 (羽状)	ナデ		—	(褐灰色)	にふい赤褐色 (5YR4/4)	黒色化 赤色化	—	—	赤色化									
V-4	27	27	H-23	覆土	—	3	口縁~胴部	510	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 28と同一個体								
多量	細~中粒	鉱物主体 (黒色鉱物 多量)		貼付(突起状) 格子目状押型文	ミガキ		(口唇部) ナデ (貼付) 刺突文	にふい黄褐色 (10YR7/4)	にふい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 炭化物付着 赤色化	—	—	—	黒色化 炭化物付着								
V-4	28	27	H-23	覆土	—	3	口縁~胴部	460	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 外面摩耗 27と同一個体								
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		貼付(突起状) 格子目状押型文	ミガキ		(貼付) 刺突文 沈線文	橙色 (7.5YR7/6)	にふい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着 赤色化	—	—	—	黒色化 炭化物付着								
V-5	29	27	H-23	床面	3	1	8	口縁~胴部	218.7	深鉢	II群a類	—	—	—								
多量	細粒	鉱物主体 (黒色鉱物 多量)		格子目状押型文	ミガキ										(口唇部) ナデ	にふい黄褐色 (10YR6/4)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	—	—	
V-5	30	27	H-23	覆土	—	1									2	胴部	57.0	深鉢	II群a類	—	—	—
多量	細粒	鉱物主体 (黒色鉱物 多量)		格子目状押型文	ミガキ		—	にふい褐色 (7.5YR5/3)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	—	黒色化									
V-5	31	27	H-23	覆土	—	3	口縁部	104.0	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 器面摩耗								
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		貼付(突起状) 格子目状押型文 斜格子目状押型文	ナデ ミガキ?		(口唇部) ナデ (貼付) 沈線文	橙色 (7.5YR7/6)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	赤色化	—	—	—	—								
V-5	32	27	H-23	覆土	—	2	口縁部	93.4	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 外面摩耗 33と同一個体								
多量	細粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		貼付(突起状) 貼付帯	ミガキ		(口唇部) 刻み (貼付) 刻み 刺突文 (貼付帯) 刻み	にふい黄褐色 (10YR7/4)	にふい褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	—	—	—								
V-5	33	27	H-23	覆土	—	2	4	口縁部	45.0	深鉢	II群a類	—	—	—								
多量	細粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		貼付帯 格子目状押型文	ミガキ										(口唇部) 刻み (貼付帯) 刻み	にふい黄褐色 (10YR7/4)	にふい褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	—	—	
V-5	34	27	H-23	覆土	—	1	胴部	11.7	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 内面剥離								
多量	細粒	鉱物主体 (黒色鉱物 多量)		格子目状押型文	—		—	—	—	—	—	—	—	—								
V-5	35	27	H-23	覆土	—	1	胴部	26.2	深鉢	IV群a類	—	—	—	—								
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (白色岩片 目立つ)		LR・RL縄文 (羽状)	ナデ		—	(褐灰色)	にふい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化 赤色化	—	—	—	黒色化 炭化物付着								
V-5	36	27	H-24	覆土	—	1	胴部	54.4	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式 外面摩耗								
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		押型文(くの字状) 格子目状押型文?	ミガキ		—	—	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	—	—	—	—								
V-5	37	27	H-24	覆土	—	4	口縁~胴部	82.1	深鉢	IV群a類	—	—	—	北筒II式								
少量	細~中粒	岩石主体 (少量)		円形刺突文 LR縄文	ナデ		(口唇部) ナデ	にふい黄褐色 (10YR7/4)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 赤色化	—	—	—	—								
V-5	38	28	H-25	覆土	—	3	口縁~胴部	216.0	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式								
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		貼付帯 矢羽状押型文	ミガキ		(口唇部) ミガキ (貼付帯) 矢羽状 押型文	にふい黄褐色 (10YR7/4)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	—	—	—								
V-5	39	28	H-25	覆土	—	3	口縁部	78.2	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式								
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 目立つ)		矢羽状押型文	ミガキ		(口唇部) ミガキ	にふい黄褐色 (10YR7/3)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	—	—	黒色化								
V-5	40	28	H-25	覆土	—	1	口縁部	30.4	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式								
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		格子目状押型文 斜格子目状押型文	ナデ ミガキ?		(口唇部) ナデ ミガキ?	にふい黄褐色 (10YR6/3)	にふい黄褐色 (10YR7/4)	黒褐色化	—	—	—	—								
V-5	41	28	H-25	覆土	—	4	胴部	119.1	深鉢	II群a類	—	—	—	温根沼式								
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		格子目状押型文	ミガキ		—	—	にふい黄褐色 (10YR7/4)	(黒褐色)	赤色化 褐色 (7.5YR7/6)	—	—	黒色化 炭化物付着								

表V-12 遺構出土破片土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)			
						小計	合計								
胎土(混和材)					文様・調整				色調			使用の痕跡			
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
V-5	42	28	H-25	覆土	-	1	胴部(下位)	107.0	深鉢	II群a類	温根沼式				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(黒色鉱物多量)		矢羽状押型文(浅い)	ナデ		-	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	-	黒色化				
V-5	43	28	H-25	覆土	-	1	口縁部	4.5	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		絡条体圧痕文LR縄文	ナデ		(口唇部)ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/4)	灰黄褐色(10YR4/2)	-	-				
V-5	44	28	H-26	床面	-	1	底部	82.4	深鉢	II群a類	内外面摩耗				
多量	細粒	鉱物主体(黒色鉱物多量)		ナデ?	ナデ?		-	浅黄褐色(10YR8/4)	褐色(7.5YR7/6)	-	赤色化				
V-5	45	28	H-27	床面	-	2	口縁~胴部	66.3	深鉢	II群a類	外面繊維痕目立つ				
多量	細~中粒	岩石主体(黒色鉱物目立つ)		肥厚帯不明瞭な地文	ナデミガキ		-	にぶい褐色(7.5YR6/4)	(黒褐色)	赤色化	黒色化				
V-5	46	28	H-28	覆土	-	2	胴部	56.9	深鉢	II群a類	温根沼式外面剥離				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		矢羽状押型文	ミガキ		-	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	-	黒色化				
V-5	47	28	H-29	覆土	-	1	口縁部	47.6	深鉢	II群a類	温根沼式				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		斜格子状押型文	ナデ		(口唇部)ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	黒色化	黒色化炭化物付着赤色化				
V-5	48	28	H-29 E-68区	覆土 III層	-	1	2	胴部	28.9	深鉢	II群a類	温根沼式			
多量	細粒	岩石・鉱物ともあり		矢羽状押型文	ナデ		-	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	赤色化褐色(5YR7/6)	赤色化褐色(2.5YR6/6)				
V-6	49	28	P-30	覆土	-	1	胴部	6.2	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		絡条体圧痕文短縄文LR縄文	ナデ?		-	にぶい黄褐色(10YR5/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化炭化物付着				
V-6	50	28	P-31	覆土	-	1	胴部	10.1	深鉢	II群a類	温根沼式内面摩耗				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(少量)		矢羽状押型文	ナデ?		-	にぶい黄褐色(10YR5/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	-	-				
V-6	51	28	P-31	覆土	-	1	胴部	16.9	深鉢	IV群a類	-				
なし	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(石英目立つ)		結束第1種羽状縄文	ナデ		-	にぶい褐色(7.5YR5/4)	(黒褐色)	赤色化	黒色化炭化物付着				
V-6	52	28	P-34	覆土	-	1	口縁~胴部	140.0	深鉢	II群a類	温根沼式				
多量	細粒	岩石・鉱物ともあり(少量)		肥厚帯矢羽状押型文補修孔	ミガキ		(口唇部)ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	-	黒色化炭化物付着				
V-6	53	28	P-34	覆土	-	1	口縁部	29.7	深鉢	II群a類	温根沼式				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		矢羽状押型文	ナデ		(口唇部)ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	(黒褐色)	黒色化	黒色化炭化物付着				
V-6	54	28	P-34	覆土	-	1	口縁部	82.2	深鉢	II群a類	温根沼式外面剥離				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		貼付(突起状)矢羽状押型文	ミガキ		(貼付)刺突文(口唇部)ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	-	黒色化炭化物付着				
V-6	55	28	P-34	覆土	-	1	底部(底面)	32.6	深鉢	II群a類	温根沼式内面剥離				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		矢羽状押型文	-		(底外面)ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	-	赤色化褐色(5YR7/6)	-				
V-6	56	28	P-34	覆土	-	1	底部(底面)	73.1	深鉢	II群a類	温根沼式内面剥離				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(多量)		矢羽状押型文	-		(底外面)ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	-	黒色化	-				
V-6	57	28	P-34	覆土	-	1	胴部	25.1	深鉢	IV群a類	-				
なし	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(中~多量)		結束第1種羽状縄文	ナデ		-	赤褐色(5YR4/6)	(黒褐色)	黒色化赤色化	黒色化炭化物付着				
V-6	58	28	P-35	覆土	-	1	口縁部	11.2	深鉢	II群a類	外面繊維痕目立つ				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(黒色鉱物目立つ)		ナデ	ナデ		(口唇部)ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	-	-				
V-6	59	28	P-36	覆土	-	1	胴部	4.2	深鉢	II群a類	内外面摩耗				
多量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり		撫糸文?	ナデ		-	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	-	赤色化褐色(5YR7/6)				
V-6	60	28	P-37 H-19	覆土 覆土	11 -	1 2	3	胴部	147.0	深鉢	IV群a類	外面摩耗			
なし	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(多量)		LR・RL縄文	ナデ		-	明赤褐色(5YR5/6)	灰黄褐色(10YR4/2)	赤色化	黒色化				
V-6	61	28	P-37	覆土	-	1	胴部	5.0	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(少量)		絡条体圧痕文LR縄文	ナデ		-	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	-	黒色化炭化物付着				
V-6	62	28	P-43 E-64区 F-65区	覆土 III層 III層	- - -	1 1 1	3	口縁~胴部	450	深鉢	IV群a類	北筒II式			
少~中量	細~中粒	岩石・鉱物ともあり(石英白色岩片多量)		肥厚帯貼付凹形刺突文LR縄文補修孔	ナデ		(口唇部)LR縄文(肥厚帯)貼付LR縄文	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	黒色化炭化物付着	黒色化				

表V-12 遺構出土破片土器観察表(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)			
						小計	合計								
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡				
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
V-6	63	29	P-45	覆土	-	1	胴部	35.9	深鉢	II群a類	温根沼式 外面剥離				
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (少量)		斜格子状押型文	ナデ	-	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	-					
V-6	64	29	P-45	覆土	-	3	胴部	174.7	深鉢	IV群a類	-				
少量	細~粗粒	岩石・鉱物 ともにあり (鉱物 目立つ)		RL縄文	ナデ	-	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化 赤色化	黒色化 炭化物付着					
V-6	65	29	P-46 G-59区 グリッドなし	覆土 III層 O層	- 1 - 1 - 2	4	口縁部	31.9	深鉢	II群a類	温根沼式				
多量	細~中粒	鉱物主体 (少量)		肥厚帯	ナデ	(肥厚帯) 矢羽状押型文 沈線文 刺突文	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	赤色化 褐色 (5YR7/6)	黒色化					
V-6	66	29	P-46	覆土	-	1	胴部	16.5	深鉢	II群a類	温根沼式				
中量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (黒色鉱物 多量)		矢羽状押型文	ミガキ	-	(黒褐色)	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化 炭化物付着	-					
V-7	67	29	P-46 P-49	覆土 覆土	- 12 - 1	13	胴部	162.5	深鉢	I群b類	中茶路式 67・72と同一個体				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		貼付帯 貼付文 絡条体圧痕文 結束第1種羽状縄文	ナデ	-	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	-	黒色化					
V-7	68	29	P-46	覆土	-	3	胴部	41.0	深鉢	I群b類	中茶路式 67・72と同一個体				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		貼付帯 絡条体圧痕文 結束第1種羽状縄文 補修孔	ナデ	-	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	黒色化					
V-7	69	29	P-46 F-59区	覆土 III層	- 1 - 1	2	底部 (底面)	15.8	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		絡条体圧痕文	ナデ	(底外面) ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	-					
V-7	70	29	P-47	覆土	-	3	胴部	83.9	深鉢	IV群a類	-				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		LR・RL縄文 (羽状)	ナデ	-	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	赤色化	黒色化 赤色化					
V-7	71	29	P-49	覆土	-	3	口縁~胴部	151.8	深鉢	II群a類	温根沼式 外面剥離				
多量	細粒	鉱物主体 (少量)		肥厚帯 矢羽状押型文	ナデ	(肥厚帯) 貼付 矢羽状押型文 沈線文 刺突文	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	(黒褐色)	黒色化 赤色化 褐色 (5YR7/6)	黒色化 炭化物付着					
V-7	72	29	P-49 G-59区 G-60区 H-60区	覆土 III層 III層 III層	- 2 - 3 - 1 - 1	7	口縁~胴部	80.5	深鉢	I群b類	中茶路式 67・68と同一個体				
少量	細~中粒	岩石・鉱物 共にあり		貼付帯 貼付文 絡条体圧痕文 結束第1種羽状縄文	ナデ	(口唇部) ナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	-					
V-7	73	29	P-49	覆土	-	1	口縁部	4.7	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (少量)		絡条体圧痕文	ナデ	(口唇部) ナデ	(黒褐色)	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化 炭化物付着	黒色化 炭化物付着					
V-7	74	29	P-49	覆土 III層	- 1 - 1	2	胴部	23.9	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		貼付帯 絡条体圧痕文 RL縄文 補修孔	ナデ	ナデ 沈線文状の調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化 炭化物付着	黒色化					
V-7	75	29	P-49 F-59区	覆土 III層	- 1 - 1	2	胴部	14.9	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		貼付帯 絡条体圧痕文 RL縄文 補修孔	ナデ	-	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	(褐灰色)	赤色化	黒色化					
V-7	76	29	P-49 H-60区	覆土 III層	- 1 - 1	2	胴部	9.5	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		貼付文 絡条体圧痕文	ナデ	ナデ 沈線文状の調整痕	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	-	黒色化					
V-7	77	29	P-49	覆土	-	1	胴部	6.1	深鉢	I群b類	中茶路式				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (少量)		絡条体圧痕文	ナデ	ナデ 沈線文状の調整痕	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	-	黒色化					
V-7	78	29	P-51	覆土	-	1	胴部	9.2	深鉢	II群a類	温根沼式				
多量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり (少量)		矢羽状押型文	ナデ	-	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	灰黄褐色 (10YR5/2)	赤色化	-					
V-7	79	29	P-53	覆土	-	1	口縁部	35.9	深鉢	IV群a類	北筒II式				
少量	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		肥厚帯 円形刺突文 LR縄文	ナデ	(口唇) ナデ (肥厚帯) LR縄文	褐色 (7.5YR6/6)	(黒褐色)	-	黒色化 炭化物付着					
V-7	80	29	P-53	覆土	-	8	胴部	91.7	深鉢	IV群a類	外面剥離				
なし	細~中粒	岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文	ナデ	-	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	褐色 (7.5YR4/3)	赤色化	黒色化 炭化物付着					
V-7	81	29	P-55	坑底面	-	3	胴部	95.1	深鉢	IV群a類	-				
なし	細~粗粒	岩石・鉱物 ともにあり (多量)		LR縄文	ナデ	-	灰黄褐色 (10YR4/2)	(黒褐色)	赤色化	黒色化					

表V-13 H-57区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-10	1	30	H-57区	Ⅲ層	-	4	10.7	(10.8)	8.4	210	口縁～底部	深鉢	I群b類 中茶路式					
接合破片総点数		5		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・G-57区・Ⅲ層(1)											
胎土(混和材)		繊維		なし		粒径	細～中粒		種類	岩石主体		量	少量	備考	亜円～亜角礫状の岩片 堆積岩			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位(残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ナデ		(褐灰色)		黒色化		黒色物質付着		口唇部(10%)		ナデ		(褐灰色)		黒色化		-	
	刻み 貼付帯 R L縄文		(褐灰色)		黒色化 赤色化 明赤褐色 (2.5YR5/6)		黒色物質付着		口縁部(10%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR5/3)		黒色化 赤色化 明赤褐色 (2.5YR5/6)		-	
	R L縄文 絡糸体圧痕文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		黒色化		-		胴部上半(30%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 炭化物付着		-	
	R L縄文 絡糸体圧痕文		暗赤褐色 (10R3/3)		黒色化 赤色化 明赤褐色 (2.5YR5/6)		-		胴部下半～底部(30%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 炭化物付着		-	
面	ナデ		橙色 (7.5YR6/6)		赤色化 橙色 (2.5YR6/6)		-		底面(90%)		ナデ 段状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		赤色化 褐色 (2.5YR6/6)		-	

表V-14 F-52区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-10	2	30	F-52区	Ⅲ層	-	21	(13.5)	-	7.2	267	胴部中位～底部	深鉢	I群b類 中茶路式					
接合破片総点数		21		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			-											
胎土(混和材)		繊維		なし		粒径	細～中粒		種類	岩石 鉱物 共にあり		量	少～中量	備考	石英 有色鉱物 亜円～亜角礫状岩片 堆積岩			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位(残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	絡糸体圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化 炭化物付着		-		胴部中位～底部(30～40%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-	
面	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化		器面摩耗		底面(80%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-	

表V-15 F-52区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-10	3	30	F-52区	Ⅲ層	-	10	(8.4)	-	8.4	191	胴部下位～底部	深鉢	I群b類 中茶路式					
接合破片総点数		11		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・G-51区・Ⅲ層(1)											
胎土(混和材)		繊維		なし		粒径	細～中粒		種類	岩石 鉱物 共にあり		量	中～多量	備考	石英 有色鉱物 亜円～亜角礫状岩片 堆積岩			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位(残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	L R縄文 L R・R L羽状縄文 絡糸体圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化		-		胴部下位～底部(40%)		ナデ 筋状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		炭化物付着		-	
面	ナデ 沈線文状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		-		やや上げ底		底面(70%)		ナデ 筋状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-	

表V-16 G-55区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-10	4	30	G-55区	Ⅲ層	-	4	(8.1)	-	10.0	218	胴部下位～底部	深鉢	I群b類 中茶路式					
接合破片総点数		5		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・F-55区・Ⅲ層(1)											
胎土(混和材)		繊維		なし		粒径	細～中粒		種類	岩石主体		量	少～中量	備考	亜円～亜角礫状岩片 堆積岩			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位(残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	貼付帯 L R縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化 炭化物付着		-		胴部下位～底部(20～30%)		ナデ 筋状の調整痕		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-	
面	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		上げ底		底面(60%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		-		-	

表V-17 F-64区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
V-10	5	30	F-64区	Ⅲ	-	26	(23.2)	(19.0)	(9.0)	1,220	胴部中位～底部	深鉢	IV群a類 北筒Ⅱ～Ⅲ式					
接合破片総点数		27		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			・G-64区・Ⅲ層(1)											
胎土(混和材)		繊維		なし		粒径	細～中粒		種類	岩石 鉱物 共にあり		量	多量	備考	石英 白色岩片			
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位(残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	R L R縄文		灰褐色 (7.5YR5/2)		-		器面摩耗		胴部中位～底部(60～70%)		ナデ 筋状の調整痕		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		器面摩耗	
面	ナデ?		灰褐色 (7.5YR5/2)		-		器面剥離		底面(10%)		ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		黒色化		器面摩耗	

表V-18 包含層出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)	
						小計	合計					外面	内面
胎土(混和材)					文様・調整			色調				使用の痕跡	
繊維		粒径	種類	外面		内面		(部位)		外面	内面	外面	内面
V-12	31	32	F-72区	Ⅲ群	—	2	口縁下部	88.1	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化 炭化物付着 赤色化	黒色化 褐色 (GYR6/6)
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	肥厚帯 矢羽状押型文	ナデ	(肥厚帯) 矢羽状押型文	褐色 (7.5YR4/3)	—	—	—	—	—	—
V-12	32	32	E-67区	Ⅲ群	—	2	口縁下部～胴部	197.8	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化 炭化物付着 赤色化	黒色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (中～多量)	肥厚帯 貼付帯 矢羽状押型文 斜格子状押型文	ナデ ミガキ?	(肥厚帯 貼付帯) 矢羽状押型文 斜格子状押型文	(黒褐色)	—	—	—	—	—	—
V-12	33	32	G-59区	Ⅲ群	—	1	口縁部	70.6	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化 炭化物付着 赤色化	黒色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (黒色泥物 多量)	矢羽状押型文 補修孔	ナデ ミガキ?	(口縁部) ナデ	—	—	—	—	—	—	—
V-12	34	32	F-60区	Ⅲ群	—	2	口縁部	65.0	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化 炭化物付着
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	矢羽状押型文	ナデ	(口縁部) 矢羽状押型文	—	—	—	—	—	—	—
V-12	35	32	E-58区	Ⅲ群	—	1	口縁部	23.8	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化 炭化物付着
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	斜格子状押型文	ナデ ミガキ?	(口縁部) ナデ?	—	—	—	—	—	—	—
V-12	36	32	E-66区	Ⅲ群	—	7	口縁下部	73.5	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化 炭化物付着 赤色化
多量	細～粗粒	—	岩石・泥物 ともにあり (中～多量)	格子目状押型文 斜格子状押型文	ナデ ミガキ?	(口縁部) ナデ	(黒褐色)	—	—	—	—	—	—
V-12	37	32	F-60区	Ⅲ群	—	5	口縁部	82.0	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化 炭化物付着 赤色化
多量	細～中粒	—	泥物主体 (黒色泥物 多量)	貼付帯 格子目状押型文?	ミガキ	(口縁部) 刻み (貼付帯) 刻み	—	—	—	—	—	—	—
V-13	38	32	E-61区 F-59区 F-60区 F-61区	Ⅲ群	—	2 5 7 1	胴部上位～底部	115.0	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化 炭化物付着 赤色化	黒色化 炭化物付着 赤色化
多量	細～中粒	—	泥物主体 (黒色泥物 目立つ)	矢羽状押型文 補修孔	ミガキ ナデ	(底外面) ナデ	—	—	—	—	—	—	—
V-13	39	32	F-60区	Ⅲ群	—	1	胴部	99.0	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化 炭化物付着 赤色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	矢羽状押型文	ミガキ?	—	—	—	—	—	—	—	—
V-13	40	32	E-64区 F-62区	Ⅲ群	—	1 1	胴部	38.8	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化 炭化物付着 赤色化
多量	細～中粒	—	泥物主体 (少量)	矢羽状押型文	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-13	41	32	E-72区	Ⅲ群	—	1	胴部	14.5	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～中粒	—	岩石主体	矢羽状押型文	ナデ?	—	—	—	—	—	—	—	—
V-13	42	32	E-64区	Ⅲ群	—	1	胴部	20.6	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	矢羽状押型文	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-13	43	32	F-60区	Ⅲ群	—	3	口縁部 (貼付帯)	108.4	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	貼付帯 矢羽状押型文 斜格子状押型文	—	(貼付帯) 矢羽状押型文	—	—	—	—	—	—	—
V-13	44	32	F-60区	Ⅲ群	—	1	口縁部 (突起部)	39.0	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	突起	ナデ	(突起部) 刺突文	—	—	—	—	—	—	—
V-13	45	32	F-60区	Ⅲ群	—	3	口縁部 (突起部)	147.3	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～粗粒	—	岩石・泥物 ともにあり	突起 貼付文 刺突文	ナデ	(突起部) 刺突文 (貼付文) 刺突文	—	—	—	—	—	—	—
V-13	46	32	F-59区	Ⅲ群	—	5	口縁部 (貼付帯)	90.5	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～中粒	—	泥物主体	貼付帯 ナデ	—	(貼付帯) 刺突文 凸線文?	—	—	—	—	—	—	—
V-14	47	33	F-68区	Ⅲ群	—	5	胴部	135.9	深鉢	Ⅱ群a類	—	赤色化	赤色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少量)	撫文	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	48	33	E-68区	Ⅲ群	—	4	胴部	45.8	深鉢	Ⅱ群a類	—	赤色化	赤色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少量)	撫文	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	49	33	F-59区	Ⅲ群	—	1	胴部	17.4	深鉢	Ⅱ群a類	—	黒色化	黒色化
多量	細～中粒	—	泥物主体 (黒色泥物 多量)	撫文	—	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	50	33	E-58区	Ⅲ群	—	6	胴部	34.9	深鉢	Ⅱ群a類	—	赤色化	赤色化
多量	細～粗粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少量)	撫文	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	51	33	E-59区	Ⅲ群	—	2	底部	22.4	深鉢	Ⅱ群a類	—	赤色化	赤色化
多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	撫文	—	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	52	33	F-67区	Ⅲ群	—	3	胴部	50.0	深鉢	Ⅱ群b類	—	赤色化	赤色化
中～多量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり	沈線文 付加条線文	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	53	33	F-54区	Ⅲ群	—	1	胴部	73.0	深鉢	Ⅳ群a類	—	赤色化	赤色化
微量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少～中量)	L・R・L縄文 (羽状)	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	54	33	E-64区	Ⅲ群	—	1	胴部	35.5	深鉢	Ⅳ群a類	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (中～多量)	L・R・L縄文 (一部羽状)	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	55	33	F-66区	Ⅲ群	—	1	胴部	27.6	深鉢	Ⅳ群a類	—	赤色化	赤色化
微～少量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少～中量)	L・R縄文	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	56	33	F-60区	Ⅲ群	—	1	底部	37.8	深鉢	Ⅳ群a類	—	赤色化	赤色化
少量	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (中～多量)	沈線文 R・L・L縄文	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	57	33	G-60区	Ⅲ群	—	1	底部 (底外面)	18.0	深鉢	Ⅳ群a類	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少～中量)	沈線文 R・L縄文	—	(底外面) ナデ?	—	—	—	—	—	—	—
V-14	58	33	F-55区	Ⅲ群	—	1	底部 (底外面)	29.1	深鉢	Ⅳ群a類	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (中～多量)	R・L縄文	—	(底外面) ナデ?	—	—	—	—	—	—	—
V-14	59	33	E-56区	Ⅲ群	—	4	口縁部	18.4	深鉢	V群c類	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (黒色泥物 目立つ)	段 沈線文 R・L縄文	ナデ	(段) 沈線文 R・L縄文	—	—	—	—	—	—	—
V-14	60	33	E-56区	Ⅲ群	—	3	口縁部下部～胴部	15.7	深鉢	V群c類	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (黒色泥物 目立つ)	段 沈線文 R・L縄文	ナデ	(段) 沈線文	—	—	—	—	—	—	—
V-14	61	33	F-58区	Ⅲ群	—	1	胴部	5.8	深鉢	V群c類	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (黒色泥物 目立つ)	沈線文 R・L縄文	ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—
V-14	62	33	I-74区	Ⅲ群	—	1	胴部	5.2	深鉢	Ⅵ群	—	赤色化	赤色化
なし	細～中粒	—	岩石・泥物 ともにあり (少～中量)	微隆起線文 列点文 L・R縄文	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表V-19 遺構出土石器観察表(1)

掲載 図	番号	図版	遺構名	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)				石材		残存 形態	特徴 観察事項	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	岩石名	特徴			
図V-15	1	図版34	H-17	覆土	—	石鏃	2.3	1.3	0.3	0.65	黒曜石	—	完形	無茎内湾	
図V-15	2	図版34	H-17	覆土	—	つまみ付きナイフ	4.0	2.3	0.6	5.57	黒曜石	—	完形	両側縁と下端部に刃部	
図V-15	3	図版34	H-17	覆土	—	スクレイパー	3.7	2.4	0.9	6.74	黒曜石	—	完形	左側縁と下端部に刃部	
図V-15	4	図版34	H-17	覆土	—	磨製石斧	11.0	4.6	2.5	189.1	泥岩	灰白色 2.5YR7/1	準完形	刃部剥落痕	
図V-15	5	図版34	H-17	床面	—	石鋸	(10.0)	(11.7)	(0.8)	(93.7)	砂岩	浅黄色 2.5Y7/3	半形	表面に広い砥面	
図V-15	6	図版34	H-17	床面	—	砥石	(5.4)	(5.9)	(1.9)	(61.1)	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	片	くぼみ2か所	
図V-15	7	図版34	H-18	覆土	—	石鏃	(2.0)	1.2	0.3	0.62	黒曜石	球果	準完形	小型	
図V-15	8	図版34	H-18	覆土	—	石槍またはナイフ	6.3	2.9	0.6	7.90	黒曜石	—	完形	基部外湾	
図V-15	9	図版34	H-18	覆土	—	石槍またはナイフ	6.2	2.7	1.0	12.86	頁岩	褐灰色 10YR5/1	完形	基部直線的	
図V-15	10	図版34	H-18	床面	1	石錐	4.9	2.4	0.7	6.55	チャート	灰白色 半透明	完形	表裏面に 剥離面広く残る	
図V-15	11	図版34	H-18	覆土	—	つまみ付きナイフ	7.6	3.4	0.8	9.68	頁岩	灰白色 2.5Y8/1	完形	表面片面加工	
図V-15	12	図版34	H-18	覆土	—	つまみ付きナイフ	5.2	2.2	0.9	8.35	チャート	灰白色 半透明	完形	表面片面加工	
図V-15	13	図版34	H-18	床面直上	9	スクレイパー	6.5	2.5	1.6	18.47	チャート	灰白色2.5Y R8/1	完形	表面片面加工・ 急角度刃部	
図V-16	14	図版34	H-18	床面	3	スクレイパー	3.9	3.8	1.3	16.57	黒曜石	暗赤褐色 5YR3/3 混じる	完形	周縁に急角度 刃部	
図V-16	15	図版34	H-18	床面	3	スクレイパー	4.1	3.5	1.0	11.16	黒曜石	—	完形	周縁に急角度 刃部	
図V-16	16	図版34	H-18	覆土	—	磨製石斧	7.1	3.9	0.9	27.5	泥岩	灰色5Y4/1	完形	裏面に 縦位の溝	
図V-16	17	図版34	H-18	床面	2	石鋸	(12.1)	18.6	1.0	(204.6)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	片	下端部に刃部	9点接合・被熱
図V-16	18	図版34	H-18	床面直上	13	砥石	22.6	5.8	1.2	170.9	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	完形	両面に砥面	
図V-16	19	図版34	H-18	床面直上	14	砥石	(15.8)	(16.8)	2.2	(640)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	半形	両面に砥面	
図V-17	20	図版34	H-19	覆土	—	石鏃	3.2	1.4	0.4	1.40	黒曜石	—	完形	—	
図V-17	21	図版34	H-19	覆土	—	石鏃	2.8	1.9	0.4	1.61	黒曜石	—	準完形	右側縁返し 欠損	
図V-17	22	図版34	H-19	覆土	—	石鏃	4.5	2.6	0.6	4.73	黒曜石	—	完形	裏面に広い 剥離面	
図V-17	23	図版34	H-19	覆土	—	石槍またはナイフ	9.2	3.9	1.6	41.26	黒曜石	—	完形	錯向剥離 捻じれあり	
図V-17	24	図版35	H-19	覆土	—	石槍またはナイフ	22.0	4.6	1.4	105.35	黒曜石	—	完形	大型・錯向剥離 捻じれあり	TOS-1所山産
図V-17	25	図版35	H-19	覆土	—	石錐	5.5	2.2	0.9	7.70	チャート	にぶい黄褐色 10YR5/3	完形	錐部にのみ 二次加工	
図V-17	26	図版35	H-19	覆土	—	つまみ付きナイフ	(4.3)	(2.2)	0.8	(6.07)	チャート	灰白色 2.5YR8/1	準完形	下端部が欠損	
図V-17	27	図版35	H-19	覆土	—	スクレイパー	5.7	3.5	1.4	20.59	頁岩	黒褐色 10YR3/2	完形	左側縁 外湾刃部	
図V-17	28	図版35	H-19	覆土	—	磨製石斧	6.3	1.8	1.0	16.0	緑色泥岩	緑灰色 10GY5/1	完形	左側縁に 擦り切り痕	
図V-17	29	図版35	H-19	覆土	—	砥石	9.1	3.5	3.4	122.3	凝灰岩	灰白色 2.5YR8/2	完形	表裏に砥面と たたき痕	
図V-17	30	図版35	H-19	床面・覆土	—	砥石	(14.6)	(15.5)	(1.1)	(191.2)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	片	両面に砥面	6点接合
図V-18	31	図版35	H-20	覆土	—	石鏃	(3.8)	(2.1)	0.5	(3.08)	黒曜石	—	準完形	基部左側欠損	
図V-18	32	図版35	H-20	覆土	—	スクレイパー	4.5	2.7	0.8	6.39	黒曜石	暗赤褐色 5YR3/3 混じる	完形	左側縁と下端部 に刃部	
図V-18	33	図版35	H-20	覆土	—	スクレイパー	5.7	2.2	0.9	8.52	黒曜石	—	完形	左側縁と下端部 に刃部	
図V-18	34	図版35	H-20	床面直上	—	磨製石斧	6.7	3.6	1.2	43.7	緑色泥岩	暗緑灰色 10GY4/1	完形	刃縁有溝 ・片刃	
図V-18	35	図版35	H-20	床面直上	—	石皿	(25.6)	(23.6)	(5.4)	(3,850)	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	半形	両面にすり面	
図V-18	36	図版35	H-21	覆土	—	石鏃	3.4	1.6	0.4	1.34	黒曜石	—	完形	有茎・ 左右非対称	
図V-18	37	図版35	H-21	覆土	—	スクレイパー	3.2	2.2	1.1	5.44	黒曜石	—	完形	上端原礫面・左 側縁急角度刃部	
図V-18	38	図版35	H-21	覆土	—	スクレイパー	5.4	3.2	1.2	18.44	黒曜石	—	完形	左側縁に 急角度刃部	
図V-18	39	図版35	H-22	覆土	—	つまみ付きナイフ	(4.5)	2.7	0.5	(4.47)	黒曜石	—	半形	右側縁刃部 ・下半欠損	
図V-19	40	図版35	H-23	覆土	—	石鏃	2.9	1.3	0.3	0.87	黒曜石	—	完形	無茎内湾	
図V-19	41	図版35	H-23	HPC-1	—	石槍またはナイフ	13.8	2.9	1.2	39.30	黒曜石	—	完形	右側縁直線的 下端部原礫面	3点接合
図V-19	42	図版35	H-23	床面	1	スクレイパー	(3.8)	4.9	1.0	(17.04)	黒曜石	—	半形	裏面右側縁 に刃部	
図V-19	43	図版35	H-23	覆土	—	磨製石斧	7.5	2.5	1.3	41.1	泥岩	灰黄色 2.5Y7/2	完形	片刃・ 上端再加工	
図V-19	44	図版35	H-23	覆土	—	石鋸	4.8	(13.0)	0.5	(36.4)	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	片	薄い刃部	2点接合
図V-20	45	図版36	H-24	床面	6	石槍またはナイフ	9.8	2.7	5.0	21.14	黒曜石	—	完形	裏面は 剥離面残す	TOS-4白滝2
図V-20	46	図版36	H-24	床面	6	石槍またはナイフ	9.7	3.6	1.1	32.95	黒曜石	(梨肌状)	完形	表裏全面に 二次加工	TOS-2白滝2
図V-20	47	図版36	H-24	床面	6	石槍またはナイフ	9.6	4.4	1.3	44.90	黒曜石	—	完形	上下端に 原礫面あり	TOS-3白滝1
図V-20	48	図版36	H-24	床面	2	石錐	9.1	2.3	1.4	20.80	黒曜石	球果	完形	種状剥離 両側縁抉り	TOS-5白滝1
図V-20	49	図版36	H-24	床面	4	石錐	6.2	1.6	1.1	10.30	頁岩	にぶい褐色 7.5YR5/3	完形	裏面広い 剥離面	
図V-20	50	図版36	H-24	床面	1	つまみ付きナイフ	9.4	2.9	1.1	22.05	頁岩	黒褐色 7.5YR3/2	完形	表面片面加工	煤付着
図V-20	51	図版36	H-24	床面	—	スクレイパー	6.9	3.4	0.8	9.58	黒曜石	—	完形	右側縁に刃部	

表V-19 遺構出土石器観察表(2)

掲載 図	番号	図版	遺構名	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)				石材		残存 形態	特徴 観察事項	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	岩石名	特徴			
図V-20	52	図版36	H-24	床面	7	磨製石斧	6.3	2.1	0.8	(15.13)	泥岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	準完形	上下端に刃部	
図V-20	53	図版36	H-24	床面	5	磨製石斧	8.7	4.2	1.5	90.3	緑色泥岩	オリーブ灰色 2.5GY6/1	完形	基部敲打痕・ 刃部直線的	黒色物質付着
図V-20	54	図版36	H-24	床面	3	たたき石	8.7	4.3	4.3	224.3	泥岩	暗灰色 N3/	完形	側面に散発的 たたき痕	
図V-20	55	図版36	H-24	床面	8	石鋸	(6.1)	(6.2)	(0.5)	(17.3)	砂岩	灰白色 2.5YR8/1	片	薄い刃部	
図V-20	56	図版36	H-24	覆土	-	石鋸	2.9	(5.3)	0.5	(11.9)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	半形	全面にすり痕 ・有孔	
図V-21	57	図版36	H-25	覆土	-	石鏃	1.9	1.1	0.3	0.35	黒曜石	-	完形	小型	
図V-21	58	図版36	H-25	覆土	-	石鏃	2.3	1.2	0.3	0.49	黒曜石	-	完形	両側縁下半 内湾・欠損	
図V-21	59	図版36	H-25	覆土	-	石槍またはナイフ	5.6	2.8	1.3	16.95	黒曜石	-	完形	側縁中央に 抉り・厚み	
図V-21	60	図版36	H-25	床面	9	石槍またはナイフ	10.9	3.5	1.4	37.00	黒曜石	-	完形	櫛状剥離、側縁 下部に抉り	TOS-7所山
図V-21	61	図版36	H-25	覆土	-	石槍またはナイフ	13.4	3.3	1.0	36.23	黒曜石	-	完形	肩部と基部 境なし	
図V-21	62	図版36	H-25	覆土	-	石錐	(3.2)	1.2	0.8	(2.83)	チャート	灰黄褐色 10YR5/2 半透明	準完形	棒状・ 上部欠損	
図V-21	63	図版36	H-25	床面	5	つまみ付きナイフ	6.1	2.6	1.9	16.03	チャート	灰白色 10YR7/1 半透明	完形	表面片面加工	
図V-21	64	図版36	H-25	床面	6	つまみ付きナイフ	4.8	3.8	1.5	14.64	チャート	灰白色 10YR7/1	完形	下端部に刃部	
図V-21	65	図版36	H-25	床面	3	スクレイパー	(3.0)	(2.5)	0.4	(3.06)	黒曜石	-	半形	上端・左側縁 に刃部	
図V-21	66	図版36	H-25	覆土	-	スクレイパー	5.9	3.8	1.4	19.71	黒曜石	-	完形	両側縁・下端 部に刃部	
図V-21	67	図版36	H-25	覆土	-	スクレイパー	4.6	2.0	0.6	3.76	黒曜石	-	完形	表面周縁を 加工	
図V-21	68	図版36	H-25	覆土	-	磨製石斧	5.3	2.7	1.0	20.7	緑色泥岩	緑黒色 10GY2/1	完形	刃部有溝・片刃	
図V-21	69	図版36	H-25	床面	10	磨製石斧	8.0	3.8	1.6	83.3	緑色泥岩	オリーブ灰色 10Y5/2	完形	研磨痕・片刃	
図V-21	70	図版36	H-25	覆土	-	磨製石斧	17.5	6.8	1.8	249.2	砂岩	黄灰色 2.5Y6/1	完形	周縁剥離・ 未成品	
図V-21	71	図版36	H-25	床面	2	磨製石斧	8.6	4.9	1.8	117.5	砂岩	灰オリーブ色 5Y6/2	完形	刃部再加工	
図V-21	72	図版36	H-25	床面	8	石鋸	(9.8)	(11.7)	0.9	(75.3)	砂岩	浅黄色 2.5Y7/3	片	上下端部に 刃部	
図V-22	73	図版37	H-25	床面	1	石鋸	8.0	21.1	1.3	263.3	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	完形	大型・全面に すり痕	被熱・煤付着
図V-22	74	図版37	H-25	床面	4	砥石	(10.1)	8.6	0.9	(73.5)	砂岩	灰黄色 2.5Y6/2	片	両面に砥面	
図V-22	75	図版37	H-25	覆土	-	石皿	40.0	33.8	6.0	5,450	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	完形	線状のすり痕	被熱・ 炭化物付着
図V-22	76	図版37	H-26	覆土	-	石錐	4.4	1.8	0.7	3.76	黒曜石	-	完形	表面片面加工	
図V-22	77	図版37	H-26	覆土	-	スクレイパー	7.0	3.9	0.9	17.97	頁岩	灰白色 10YR7/1	完形	両側縁に刃部	被熱・ 焼けはじけ
図V-22	78	図版37	H-27	覆土	-	スクレイパー	3.2	2.0	0.6	3.01	黒曜石	-	完形	下端に刃部	
図V-22	79	図版37	H-28	覆土	-	石槍またはナイフ	(7.4)	3.2	1.2	(26.24)	黒曜石	-	半形	尖頭部欠損	
図V-22	80	図版37	H-29	HP-3 覆土	-	石錐	5.8	1.0	0.8	2.93	頁岩	-	完形	棒状	
図V-23	81	図版37	P-30	覆土	-	スクレイパー	5.9	2.9	0.9	11.21	黒曜石	-	完形	原礫面あり、 刃部両側縁	
図V-23	82	図版37	P-30	覆土	-	磨製石斧	5.7	2.7	0.9	23.3	片岩	暗緑灰色 10GY4/1	完形	研磨痕	
図V-23	83	図版37	P-30	覆土	-	石鋸	(6.2)	(14.5)	1.0	(111.6)	凝灰岩	浅黄色 2.5Y7/4	完形	刃部断面尖る	被熱
図V-23	84	図版37	P-31	覆土	-	石鏃	3.2	2.0	0.7	3.41	黒曜石	-	完形	両側縁下部 内湾	
図V-23	85	図版37	P-31	覆土	-	石槍またはナイフ	4.8	2.5	1.0	8.34	頁岩	褐灰色 10YR4/1	完形	左右非対称	
図V-23	86	図版37	P-31	覆土	-	スクレイパー	5.1	3.2	1.6	20.08	黒曜石	-	完形	両側縁に急角度 刃部	
図V-23	87	図版37	P-31	覆土	-	石鋸	(7.6)	(10.7)	1.4	(107.2)	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	半形	下端部断面 尖る	
図V-23	88	図版37	P-31	覆土	-	石鋸	(7.1)	(12.4)	1.4	(64.3)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/4	半形	下端部断面 尖る	
図V-23	89	図版37	P-34	覆土	-	石鏃	3.0	1.6	0.4	1.14	黒曜石	暗赤褐色 5YR3/3 混じる	完形	有茎	
図V-23	90	図版37	P-34	覆土	-	石鏃	(3.6)	(2.4)	0.4	(2.69)	黒曜石	-	準完形	右側縁 下端破損	
図V-23	91	図版37	P-34	覆土	-	石錐	5.8	1.4	1.1	6.67	頁岩	暗褐色 7.5YR3/3	完形	表面加工	
図V-23	92	図版37	P-34	覆土	-	つまみ付きナイフ	7.4	1.6	0.6	5.51	頁岩	灰黄褐色 10YR4/2	完形	右側縁に刃部	被熱煤付着
図V-23	93	図版38	P-34	覆土	-	スクレイパー	6.5	2.0	0.6	5.49	黒曜石	-	完形	左側縁に刃部	
図V-23	94	図版38	P-34	覆土	-	スクレイパー	2.4	2.6	0.8	4.78	黒曜石	-	完形	円形・急角度 刃部	
図V-23	95	図版38	P-34	覆土	-	スクレイパー	3.8	3.8	0.9	14.23	黒曜石	-	完形	円形・急角度 刃部	
図V-23	96	図版38	P-34	覆土	-	砥石	(10.4)	(4.9)	(1.6)	(47.3)	砂岩	にぶい黄褐色 10YR5/3	片	線状の擦痕	
図V-24	97	図版38	P-35	覆土	-	石槍またはナイフ	3.7	2.4	0.5	2.86	黒曜石	-	完形	-	
図V-24	98	図版38	P-35	坑底面直上	-	石鋸	(6.1)	(10.3)	(0.9)	(48.0)	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	半形	剥離痕残る	
図V-24	99	図版38	P-37	坑底面	1	石槍またはナイフ	(13.1)	4.6	1.2	(67.20)	黒曜石	-	準完形	先端部欠損・ 基部下端に 原礫面	TOS-8所山・ H-19覆土と接合
図V-24	100	図版38	P-37	覆土	2	石槍またはナイフ	14.3	4.5	1.2	65.80	黒曜石	-	完形	左側縁直線的 ・右側縁外湾	TOS-9白滝1
図V-24	101	図版38	P-38	坑底面	-	たたき石	10.1	8.1	3.1	400	泥岩	灰色 10Y6/1	完形	側縁に黒色 物質付着	

表V-19 遺構出土石器観察表(3)

掲載 図	番号	図版	遺構名	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)				石材		残存 形態	特徴 観察事項	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	岩石名	特徴			
図V-24	102	図版38	P-38	坑底面	-	台石・石皿	(18.9)	(8.0)	2.1	(400)	砂岩	にぶい黄褐色 10YR6/3	片	擦り痕・敲打痕	
図V-24	103	図版38	P-39	覆土	-	つまみ付きナイフ	(3.3)	(3.7)	(0.8)	(7.64)	黒曜石	暗赤褐色 5YR3/6 混じる	半形	下半部欠損	
図V-25	104	図版38	P-43	掘り上げ土	-	スクレイパー	4.0	2.3	0.6	3.39	黒曜石	-	完形	両側縁に刃部	掘り上げ土
図V-25	105	図版38	P-43	掘り上げ土	-	スクレイパー	(4.6)	2.3	1.0	(5.05)	黒曜石	-	準完形	両側縁に刃部	掘り上げ土
図V-25	106	図版38	P-43	掘り上げ土	-	磨製石斧	7.5	4.1	1.5	44.6	泥岩	灰黄色 2.5Y7/2	完形	側縁に調整 剥離痕	掘り上げ土
図V-25	107	図版38	P-44	覆土	-	石鏃	(2.7)	1.2	0.4	(0.90)	黒曜石	-	準完形	先端部欠損	被熱
図V-25	108	図版38	P-45	覆土	-	砥石	(12.5)	(16.0)	3.4	(600)	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	片	砥面やや窪む	
図V-25	109	図版38	P-46	覆土	-	石槍またはナイフ	3.3	2.7	0.6	4.31	黒曜石	-	完形	有茎	
図V-25	110	図版38	P-46	覆土	-	磨製石斧	6.2	2.8	1.1	38.1	片岩	暗青灰色 5BG3/1	完形	刃部直線的・ 片刃	
図V-25	111	図版39	P-47	覆土	-	石鏃	(1.9)	(1.2)	(0.3)	(0.53)	黒曜石	-	半形	下半部欠損	
図V-25	112	図版39	P-47	覆土	-	石鏃	2.9	1.9	0.3	1.00	黒曜石	-	完形	-	
図V-25	113	図版39	P-47	覆土	-	つまみ付きナイフ	6.0	4.0	0.8	14.69	黒曜石	-	完形	被熱後、右側 縁下部に刃部	被熱
図V-25	114	図版39	P-47	覆土	-	スクレイパー	5.2	2.3	0.9	5.97	黒曜石	-	完形	右側縁と下端 部に刃部	
図V-25	115	図版39	P-47	覆土	-	台石・石皿	30.7	24.7	6.5	4,300	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	完形	たたき痕・ すり痕	
図V-26	116	図版39	P-49	覆土	-	石鏃	(3.8)	1.8	0.5	(2.21)	黒曜石	-	準完形	先端部欠損	
図V-26	117	図版39	P-49	覆土	-	石槍またはナイフ	(6.6)	2.8	0.9	(11.72)	黒曜石	-	準完形	先端部欠損	
図V-26	118	図版39	P-49	覆土	-	石槍またはナイフ	(5.6)	2.5	0.9	(9.63)	頁岩	灰白色 2.5Y7/1	準完形	先端部欠損	
図V-26	119	図版39	P-49	覆土	-	石鏃	5.3	1.4	0.8	4.86	黒曜石	-	完形	両面加工	
図V-26	120	図版39	P-49	覆土	-	スクレイパー	3.1	3.0	0.7	6.10	黒曜石	-	完形	楕円形・ 急角度刃部	
図V-26	121	図版39	P-49	覆土	-	砥石	(15.2)	(13.8)	1.9	(350)	砂岩	灰オリーブ色 5Y5/2	片	両面に砥面	
図V-26	122	図版39	P-50	覆土	-	両面調整石器	4.2	4.7	0.9	16.80	黒曜石	-	完形	楕円形・ 急角度刃部	
図V-26	123	図版39	P-51	覆土	-	石鏃	2.5	1.3	0.4	0.80	黒曜石	-	完形	下部破損後、 再加工	
図V-26	124	図版39	P-51	覆土	-	スクレイパー	4.7	2.4	0.7	5.30	黒曜石	-	完形	左側縁に刃部	
図V-26	125	図版39	P-53	覆土	-	スクレイパー	(2.7)	3.7	0.8	(6.91)	黒曜石	-	半形	上部破損	
図V-26	126	図版39	P-53	覆土	-	たたき石	8.0	7.4	3.4	281	砂岩	浅黄色 2.5Y7/3	完形	下部部に たたき痕	
図V-26	127	図版39	P-55	坑底面	1	石槍またはナイフ	(6.4)	4.1	1.1	(22.2)	黒曜石	-	準完形	基部欠損	TOS-6置戸山
図V-26	128	図版39	FC-5	Ⅲ層	-	スクレイパー	6.1	3.6	1.1	13.39	黒曜石	-	完形	左側縁下部 に刃部	

表V-20 包含層出土石器観察表(1)

掲載 図	番号	図版	出土 地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)				石材		残存 形態	特徴 観察事項	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	岩石名	特徴			
図V-33	1	図版40	F55区	Ⅲ	-	石鏃	2.2	0.9	0.3	0.48	黒曜石	-	完形	基部外湾	
図V-33	2	図版40	D65区	Ⅲ	-	石鏃	2.8	0.9	3.0	0.56	黒曜石	-	完形	基部直線的	
図V-33	3	図版40	F59区	Ⅲ	-	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.52	黒曜石	-	完形	無茎凹基	
図V-33	4	図版40	G59区	Ⅲ	-	石鏃	(2.2)	1.6	0.3	(0.85)	黒曜石	(梨肌状)	準完形	無茎凹基	
図V-33	5	図版40	E64区	Ⅲ	-	石鏃	2.1	1.2	0.2	0.41	黒曜石	-	完形	無茎凹基	
図V-33	6	図版40	G70区	Ⅲ	-	石鏃	3.8	2.1	0.4	2.13	黒曜石	-	完形	無茎凹基 裏面広い剥離面	
図V-33	7	図版40	G65区	Ⅲ	-	石鏃	1.9	(1.2)	0.3	(0.50)	黒曜石	-	準完形	無茎・平基	
図V-33	8	図版40	F70区	Ⅲ	-	石鏃	2.7	1.2	0.3	0.90	黒曜石	-	完形	無茎・平基	被熱・白色化
図V-33	9	図版40	F65区	Ⅲ	-	石鏃	(3.8)	(2.5)	0.5	(2.64)	黒曜石	-	準完形	基部両端欠損	
図V-33	10	図版40	E66区	Ⅲ	-	石鏃	4.3	2.6	0.7	5.10	黒曜石	-	完形	菱形・ 左右非対称	
図V-33	11	図版40	D65区	Ⅲ	-	石鏃	3.0	1.7	0.3	1.20	黒曜石	-	完形	身部と基部 境不明瞭	
図V-33	12	図版40	E67区	Ⅲ	-	石鏃	2.4	1.2	0.3	0.68	黒曜石	-	完形	左側縁に返し 左右非対称	
図V-33	13	図版40	F53区	Ⅲ	-	石鏃	3.6	1.8	0.5	2.26	黒曜石	-	完形	左側縁に返し 左右非対称	
図V-33	14	図版40	E64区	Ⅲ	-	石鏃	3.9	1.6	0.4	1.65	黒曜石	-	完形	基部幅広く長い	
図V-33	15	図版40	F68区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	5.4	1.5	0.8	4.70	黒曜石	-	完形	幅狭・中央部 厚み残る	
図V-33	16	図版40	F68区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	5.7	2.1	0.8	6.36	黒曜石	-	完形	表面中央は 急角度	
図V-33	17	図版40	E70区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	7.7	2.6	1.1	21.16	黒曜石	-	完形	両側縁に挟り・ 基部に原礫面	
図V-33	18	図版40	F58区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	5.8	2.5	1.1	13.27	頁岩	黒褐色 10YR3/2	完形	刃部曲線的	
図V-33	19	図版40	F64区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	6.4	3.1	1.2	17.76	黒曜石	-	完形	表面片面加工 ・原礫面残る	
図V-33	20	図版40	F52区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	7.9	3.7	0.8	18.44	黒曜石	-	完形	左右非対称 ・凹基	
図V-33	21	図版40	E68区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	7.6	2.9	0.7	9.37	黒曜石	-	完形	-	
図V-33	22	図版40	H55区	Ⅲ	-	石槍またはナイフ	9.4	2.4	7.0	14.50	頁岩	黒褐色 10YR3/2	完形	左側縁 急角度刃部	
図V-33	23	図版40	G57区	Ⅲ	-	石鏃	5.0	1.7	1.0	6.34	黒曜石	-	完形	右側縁は折れ面	
図V-33	24	図版40	E60区	Ⅲ	-	石鏃	5.1	1.2	0.4	2.89	黒曜石	-	完形	両側縁上部に 挟り	
図V-33	25	図版40	E60区	Ⅲ	-	石鏃	3.1	1.9	0.7	2.45	黒曜石	-	完形	表裏面上部に 風化面	

表V-20 包含層出土石器観察表(2)

掲載 図	番号	図版	出土 地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)				石材		残存 形態	特徴 観察事項	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	岩石名	特徴			
図V-33	26	図版40	F68区	Ⅲ	-	石錐	4.8	1.7	0.7	4.57	黒曜石	-	完形	尖頭部側縁に刃澀れ	
図V-33	27	図版40	E64区	Ⅲ	-	石錐	4.1	1.7	0.7	3.68	黒曜石	-	準完形	転用品・下端部欠損・両側縁摩滅	
図V-34	28	図版40	E63区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	7.4	2.1	1.2	15.52	頁岩	黒褐色 7.5YR3/2	完形	表面片面加工	被熱
図V-34	29	図版40	D66区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	7.3	3.0	1.0	14.01	頁岩	暗褐色 7.5YR3/3	完形	表面片面加工	被熱
図V-34	30	図版40	E69区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	10.9	3.9	1.5	37.01	頁岩	暗褐色 7.5YR3/3	完形	表面片面加工	被熱
図V-34	31	図版40	F59区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	4.0	1.8	0.5	1.68	黒曜石	-	完形	表面下部を加工・両側縁微細剥離	
図V-34	32	図版40	H60区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	4.5	2.1	0.6	4.47	頁岩	黒褐色 10YR2/2	完形	表面片面加工	
図V-34	33	図版40	H51区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	4.8	3.0	1.0	8.42	黒曜石	-	完形	下端に刃部	
図V-34	34	図版40	H60区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	4.6	3.0	0.7	8.30	チャート	灰白色 2.5Y7/1	完形	裏面調整後表面加工	
図V-34	35	図版40	F65区	Ⅲ	-	つまみ付きナイフ	3.8	3.0	0.9	6.07	頁岩	灰オリーブ色 7.5Y6/2	完形	表面片面加工・下端に急角度刃部	
図V-34	36	図版40	H60区	Ⅲ	-	スクレイパー	4.2	1.8	0.7	5.50	頁岩	黒褐色 2.5Y3/1	完形	両面加工	
図V-34	37	図版40	G49区	Ⅲ	-	スクレイパー	1.9	2.3	0.7	2.56	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	38	図版40	E59区	Ⅲ	-	スクレイパー	3.5	2.8	0.6	4.43	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	39	図版40	E69区	Ⅲ	-	スクレイパー	3.0	3.4	1.0	8.02	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	40	図版40	D68区	Ⅲ	-	スクレイパー	3.8	3.2	1.2	13.56	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	41	図版40	E64区	Ⅲ	-	スクレイパー	4.5	4.4	1.1	18.98	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	42	図版40	H66区	Ⅲ	-	スクレイパー	4.4	4.8	1.8	30.35	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	43	図版40	F64区	Ⅲ	-	スクレイパー	4.0	3.4	1.0	10.50	黒曜石	-	完形	円形・外湾	
図V-34	44	図版40	F69区	Ⅲ	-	スクレイパー	5.0	4.3	1.1	15.20	黒曜石	-	完形	下部外湾	
図V-34	45	図版40	F53区	Ⅲ	-	スクレイパー	4.4	4.3	1.3	17.63	頁岩	暗緑灰色 10GY4/1	完形	表面に原礫面	
図V-34	46	図版40	F66区	Ⅲ	-	スクレイパー	4.3	2.8	1.0	11.44	黒曜石	-	完形	下部外湾	
図V-35	47	図版40	G57区	Ⅲ	-	スクレイパー	6.1	2.7	1.4	15.47	黒曜石	-	完形	表面片面加工・両側縁に挟り	
図V-35	48	図版40	F65区	0	-	スクレイパー	5.2	2.4	1.2	7.35	黒曜石	-	完形	両側縁に刃部	
図V-35	49	図版40	G72区	Ⅲ	-	スクレイパー	5.6	2.6	0.7	5.86	黒曜石	-	完形	両側縁に刃部	
図V-35	50	図版40	F54区	Ⅲ	-	スクレイパー	5.8	4.0	1.4	18.51	黒曜石	-	完形	両側縁に鋸歯状刃部	
図V-35	51	図版40	G63区	Ⅲ	-	石核	5.2	4.1	1.7	33.38	頁岩	オリーブ黒色 7.5Y3/1	完形	右側縁原礫面	
図V-35	52	図版41	F65区	Ⅲ	-	磨製石斧	5.2	2.0	0.8	11.0	緑色泥岩	オリーブ灰色 5GY5/1	完形	右側面溝2条	被熱
図V-35	53	図版41	F69区	Ⅲ	-	磨製石斧	4.8	2.8	0.8	17.9	泥岩	灰色 10Y6/1	完形	小型・片刃	
図V-35	54	図版41	H54区	Ⅲ	-	磨製石斧	7.1	3.7	1.2	53.4	緑色泥岩	オリーブ灰色 5GY5/1	完形	右側面直線的	被熱
図V-35	55	図版41	H64区	Ⅲ	-	磨製石斧	9.6	4.9	1.8	118.7	緑色泥岩	オリーブ灰色 5GY5/1	完形	被熱	
図V-35	56	図版41	F53区	Ⅲ	-	磨製石斧	10.8	4.6	1.7	145.5	緑色泥岩	暗オリーブ灰色 5GY4/1	完形	右側面直線的	
図V-35	57	図版41	E53区	Ⅲ	-	たたき石	6.2	5.0	3.5	153.6	砂岩	浅黄色 2.5Y7/4	完形	下端・側縁たたき痕	
図V-35	58	図版41	H49区	Ⅲ	-	たたき石	9.0	5.5	4.2	300.7	砂岩	灰黄色 2.5Y6/2	完形	表裏面にたたき痕	
図V-35	59	図版41	E54区	Ⅲ	-	たたき石	9.6	4.4	3.0	151.9	砂岩	浅黄色 2.5Y7/3	完形	上下端たたき痕・すり痕	
図V-35	60	図版41	G72区	Ⅲ	-	すり石	12.1	5.3	4.7	280.5	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	完形	左側縁にすり面	
図V-35	61	図版41	E68区	Ⅲ	-	すり石	6.0	(14.9)	4.5	(400)	凝灰岩	灰白色 5Y8/2	準完形	下部にすり面	
図V-36	62	図版41	F69区	Ⅲ	-	石鋸	8.1	(13.8)	0.9	(80.3)	砂岩	灰白色 5Y7/2	準完形	上下側縁使用痕・断面丸みあり	
図V-36	63	図版41	F59区	Ⅲ	-	石鋸	3.0	(6.6)	0.6	(15.5)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	片	全面すり痕・下部断面尖る	
図V-36	64	図版41	I74区	Ⅲ	-	石鋸	8.2	(11.0)	1.4	(98.0)	砂岩	にぶい黄褐色 10YR6/4	片	下部断面尖る	被熱
図V-36	65	図版41	H60区	Ⅲ	-	砥石	(8.2)	8.1	0.7	(49.1)	凝灰岩	浅黄色 2.5Y7/3	片	凹状の砥面・線状擦痕	
図V-36	66	図版41	G58区	Ⅲ	-	砥石	(13.6)	(13.3)	2.7	(360)	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	半形	凹状の砥面・線状擦痕	
図V-36	67	図版41	G59区	Ⅲ	-	砥石	(15.5)	(6.8)	1.7	(151.9)	砂岩	灰白色 5Y6/2	片	平坦な砥面・線状擦痕	
図V-36	68	図版41	G61区	Ⅲ	-	砥石	(16.8)	(10.1)	4.8	(760)	砂岩	灰黄色 2.5Y6/2	半形	表裏面と側縁砥面	
図V-36	69	図版41	F70区	Ⅲ	-	台石・石皿	30.2	20.5	10.5	7.250	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	完形	すり面たたき痕	

表V-21 水洗選別出土遺物一覧

遺構名・調査区名	H-19		H-20		H-29	P-31	F-1A	FC-3	FC-4	FC-5	遺構合計	E-59区			F-59区			F-63区			包含層合計	総計
	HFC-1	HFC-2	HFC-1	HFC-2								Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層		
土器	1群b類	5							1		6			3						3	9	
	II群a類	1								7	8	1		3						1	9	
	IV群a類									2	2										2	
	不明	10									10										10	
	土器合計	16									26		1		3					4	30	
石器等	石錐			1							1										1	
	両面調整石器	5									5										5	
	スクレイパー	1									1										1	
	U-Rフレイク					1					1										1	
	フレイク	5499	1230	330	936	2069	338	11	664	4045	1318	16437	14	523	569	1106				17543		
	石核										1										1	
	磨製石斧				2						5										5	
	レキ								1	3											7	
	石器等合計	5505	1230	330	936	2069	339	11	665	4051	1319	16455	14	526	569	1109				17564		
	総計	5521	1230	330	936	2069	339	11	665	4061	1319	16481	15	529	569	1113				17594		

VI章 まとめ

1. 遺構について

平成26（2014）年度にトーサムポロ湖周辺竪穴群B地区のⅢ層で確認した遺構は、竪穴住居跡13軒（H-17～29）、土坑32基（P-26～57）、焼土5か所（F-1～5）、フレイク集中3か所（FC-3～5）である。このうち竪穴住居跡2軒（H-17・18）は、平成23年度に続く北側部分の調査である。遺構は標高19～21mの緩斜面のグリッド46～74ラインにまとまってみられ、北側は分布がやや希薄となる。遺構の時期は縄文時代前期前半が多く、縄文時代早期後半、縄文時代後期前葉がある。

竪穴住居跡の時期は、概ね縄文時代前期の押型文尖底土器の時期と考えられるが、放射性炭素年代測定ではH-19は縄文時代中期、H-26が縄文時代後期初頭の数値がでた。竪穴住居跡の平面は①隅丸長方形に近い形状のもの、②円・楕円形のもの、③不整形のものがある。①はH-18・19・23・24で、長径が約7～10mと大きく、H-19を除き、焼失住居跡である。また柱穴・杭穴は20か所以上と数が多く、壁に沿い直線的に並び、長方形の配列が伺われるものがある。②はH-25が長径6.6mと大きい他は、H-20・21・27が径4m以下、H-22・29が径3m以下と小型である。H-20・26・27は焼失住居跡の可能性があり、H-20・25には壁際がやや高くなる段構造があり、H-29には住居跡外に柱穴・杭穴がみられた。③はH-17・28である。H-28は3m以下と小型で、炉跡焼土東側に礫がみられることから石組炉の可能性があり、

土坑は平面が楕円形のものも多く、他に不整な楕円形、不整形がある。規模は0.8～6.2mと、ばらつきがある。時期は縄文時代早期、前期、後期があり、不明なものも多い。

縄文時代早期の可能性のある土坑は、P-46である。平面は長径約3mの楕円形で、西側と南東側の壁際で直径8～11cmの柱穴・杭穴を9か所確認した。覆土からは中茶路式土器が多数出土した。

縄文時代後期の可能性のある土坑は、遺物からP-37・48・55、形状等からP-30・34・43・53・54である。P-37・48は北筒式土器が出土し、P-37では底部は欠失するものの、それ以外は器形を保った状態で土器が出土した。またP-55では底面から被熱した礫のまとまりとⅣ群a類土器が出土した。同様に底面から礫が出土したP-56・57も同期の可能性があり、P-30・34・53・54は平面が不整な楕円形、不整形のもので、規模が3～6.2mと比較的大きく、底面にはくぼみや段構造、土坑がみられる。P-43は平面が長楕円形で、土坑の北側には約4mの範囲で掘り上げ土がある。

上記以外の土坑の時期は概ね縄文時代前期と考えるが、遺物を伴うものはP-49・51など少数である。P-49は平面が円形で、底面中央が一段低くなる構造で、柱穴・杭穴を6か所確認した。底面からはⅡ群a類土器が出土した。

過年度の調査を踏まえ、B地区の遺構をまとめる（図Ⅱ-5・図Ⅳ-1）。トーサムポロ湖東岸の半島状の突出部の台地（L-1地区）では昭和39（1964）年の調査で、170を超える竪穴（くぼみ）が確認された。竪穴は台地平坦面から南側にかけて広く分布し、特に南・南西斜面に集中する。前回・今回のB地区の調査は、南・南西斜面の集中域からやや北側に離れた台地中央部を細長くトレンチ状に調査したことになる。

調査では、標高13m以下、標高17～19m、標高19～21mの緩斜面にそれぞれ遺構の集中域が確認された。遺構の時期は概ね縄文時代前期前半が主体であるが、調査区東側の標高19～21mの区域では縄文時代前期のほか、縄文時代後期前葉の遺構が多くなり、縄文時代早期後半の遺構・遺物もみられた。

（愛場）

2. 遺物について

(1) 土器

今回の調査で、土器等は遺構から985点、包含層から2,605点出土し、合計は3,590点である。土器の時期は縄文時代早期～晩期、続縄文時代で、時期別の点数はⅡ群が1,853点と最も多く、次いでⅠ群1,155点、Ⅳ群546点、Ⅴ群21点、Ⅵ群10点、Ⅲ群3点の順となる。また、土製品（焼成粘土塊）が2点出土している。平成21～23（2009～2011）年度調査（以下「前回調査」）では、遺構から3,908点、包含層から2,511点出土している。前回調査との合計では、遺構から4,893点、包含層5,116点となる。以下、出土した土器について前回調査も含めた全体的な特徴を時期ごとに述べる。

縄文時代早期の土器は今回の調査で1,155点、前回調査では20点出土し、前回に比べ出土量が多い。土器型式は後半の中茶路式である。全体の器形がわかるものは少なく、薄手で焼成は良好である。文様は細い貼付帯と絡条体圧痕文などが施され、地文はRL、LR縄文がみられる。

前期の土器は1,853点出土した。前回調査では5,664点と多く出土しており、前回に比べて少ない。ほとんどが前半の押型文尖底土器である。土器は、剥離や摩耗しているものや、小破片が多く良好な復原個体はごく少数である。口縁部は平縁で、刺突文や刻みが施された突起や貼付がみられるものもある。また肥厚帯が施されるものも多い。文様は矢羽状押型文が多いが、格子目状や斜格子状のものもある。押型文の方向は、全体的に横位が多いが、胴部より下位では縦位、斜位方向にも施される。また、撚糸文も少量みられ、縦位、斜位に施される。器厚は厚く、胎土には繊維を多量に含む。土器型式は前回調査で出土したものも含め、温根沼式といえるが、温根沼式の型式設定には含まれない、縄文や撚糸文などが施されるものが少数あり、それらの位置付けを今後考えて行く必要がある。

後期の土器は今回の調査で546点、前回調査では415点出土している。土器型式では、北筒Ⅱ～Ⅲ式である。全体的に胴部の破片が多く、口縁部や底部は少ない。P-37などの土坑から比較的まとまって出土している。口縁部には肥厚帯がみられ、肥厚帯上には縦位の沈線が施され、棒状突起がみられるものもある。肥厚帯直下には円形刺突文が施される。地文はLR、RLの斜行縄文が多いが、羽状の構成になるものもある。

上記の時期以外に、縄文時代中期・晩期、続縄文時代の土器が少量出土している。縄文時代晩期の遺物は、前回調査でA地区から出土しているが、B地区では初めての出土である。また、1964年に東京教育大学が行ったL-1地区の調査（以下「1964年調査」）では、第1号竪穴から少量出土している。また、続縄文時代の土器は、前回調査及び1964年調査でわずかに出土している。

（広田）

(2) 石器

石器は遺構から9,503点、包含層から9,691点出土し、合計は19,194点である。この内、礫が9,224点、フレイクが8,751点で、合わせて93%を占める。礫、フレイクを除くと、剥片石器ではスクレイパー（167点）、石鏃（86点）、石槍またはナイフ（80点）が多く、礫石器では砥石（421点）、石鋸（82点）が多い。

石器の石材は、剥片石器では黒曜石が最も多く、他に頁岩、チャートなどが少量みられる。礫石器では砂岩が最も多く、他に泥岩、凝灰岩、粗粒玄武岩等がみられる。

石器の分布は各器種とも遺構の分布（47～75ライン）と重なり、石器の時期は遺構と同様に縄文時代早期から後期が主体と考える。

縄文時代前期押型文尖底土器の時期のH-24では石器の床面・床面直上から石槍またはナイフ、石

錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、石鋸が、同時期のH-25では石鏃、石槍またはナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、砥石、石鋸が床面・床面直上などから出土しており、この時期の石器組成を示す良好な資料といえる。磨製石斧では縄文時代前期から後期に北海道北東部でみられる「刃部有溝石斧」(石川・斎野2000)が、H-20・H-25の覆土から1点ずつ出土した。いずれも長さ7cm未満と小型で、刃部は片刃である。表面側の刃部には縦位の溝が連続して刻まれ、鋸歯状となる。H-20出土のものは溝が磨滅しており、溝を刻んだ後、使用されている。(愛場)

3. 過去に調査が行われた遺構について

第1・29・30号竪穴について

トーサムポロ湖の東側の段丘(L-1地区)では、170を超える竪穴(くぼみ)が確認され、昭和39(1964)年に縄文時代前期押型文土器期の竪穴住居跡が4軒(第1号竪穴、第25号竪穴、第29号竪穴、第30号竪穴)調査されている。第25号竪穴については平成21年度調査区内で確認したため、トーサムポロ湖周辺竪穴群(1)の報告で、昭和41(1966)年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した。今回、調査区外ではあるが、残りの第1・29・30号竪穴についても同様に概要をまとめた。なお先の報告では付属遺構、土層断面図の番号が付されておらず、今回の報告で内容を整理し、新たに番号を付けた。また第1・25・29・30号竪穴出土の主な土器を図VI-4に図示した。

第1号竪穴(図VI-1・表VI-3~5)

位置 L-1地区で確認されたくぼみで最も西側にある(図II-5) **平面形態** 円形?

規模 7.15×(4.25)／6.66×(4.25)／0.73m

確認 昭和39(1964)年の調査時、道路造成により削られた法面で、住居跡の土層断面が確認された。

調査の内容 昭和41(1966)年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した(表VI-5)。その内容をまとめると、本遺構は南側の半分を道路造成で壊されており、北側部分を調査した。まず南北方向に先行トレンチ調査し、順次東側、西側でもトレンチ調査を行った。南北トレンチで床面、壁の立ち上がりを確認した後、床面まで遺構全体を掘り下げた。床面ではピットなどの付属遺構を調査し、埋め戻して調査を完了した。

覆土 昭和41(1966)年の調査報告では、「表土層」「黒色土層」「上部黒褐色混礫層」「混礫焼土層」「下部黒褐色混礫層」に分層し、断面図が掲載されているが、土層注記の記載はない。本報告では、「表土層」を覆土一層、「黒色土層」を覆土二層、「上部黒褐色混礫層」を覆土三層、「混礫焼土層」を覆土四層、「下部黒褐色混礫層」を覆土五層とした。先の報告の記述を整理し、遺構外の包含層も、本報告書で設定した基本層序に対応させた土層表を浄書した図VI-1に付した。図VI-1の断面図番号は、1が覆土一層、2が覆土二層、3が覆土三・四・五層に対応し、覆土一層は0・I層、覆土二層はII・III層、図番号4はVI層である。

床面・壁 壁は斜めに立ち上がり、床面は中央が緩やかにくぼむ断面形態である。

付属遺構 焼土3か所(HF-1・2・3)、柱穴・杭穴23か所(p1~23)、段構造がある。なおHF-3と段構造は、土層断面図から推定し、今回新たに追加した付属遺構である。焼土はp7・8・13・15・20~23を覆って堆積するもので、いずれも炉跡ではない。柱穴・杭穴はp23が住居の中央付近に位置する以外は、壁に沿いにあり、2基単位のものが多くみられる。なおP-1~3は床面の焼土を切って構

築され、覆土に焼土が混じらないことから、住居跡より新しいと考えられ、付属遺構ではない。

遺物出土状況 遺物は床面では少なく、床面直上で多数出土した。土器は床直上では押型文尖底土器が多く、覆土三層上面では北筒式土器が出土した。石器は各層から石鏃、石槍、石匙、各種スクレイパー、石錐、磨製石斧、石鋸、砥石が、床面からは石鋸、砥石が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

第29号竪穴（図VI-2・表VI-3・4・6）

位置 今回調査区東端から南西側へ約50m（図II-5） **平面形態** 不整な楕円形

規模 3.11×2.79/2.62×2.35/0.58m

確認 昭和39（1964）年の調査で、南北に近接する2つの円形のくぼみとして認識された。北側の浅いくぼみが本遺構で、南側の深いくぼみが第30号竪穴である。

調査の内容 昭和41（1966）年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した（表VI-6）。その内容をまとめると、まず南北方向の先行トレンチ調査し、床面と壁の立ち上がりを確認した。さらに東西方向のトレンチ調査を行った後、遺構全体を掘り下げた。床面直上では粘土層が住居跡の北側壁際から南側の張り出し部にかけてみられ、粘土層の下位で土壌を2か所確認した。土壌、柱穴・杭穴を調査し、埋め戻して調査を完了した。

覆土 昭和41（1966）年の調査報告では、Ⅰ～Ⅲを設定し、断面図が掲載されているが、土層注記の記載はない。本報告では混乱をさけるため、これらの土層を漢数字で記述する。

昭和39（1964）年の調査で、覆土は三つに分けられ、これは浄書した図（図VI-2）の断面図番号1～3である。さらに「粘土」層（図番号4）を覆土四層とすると、遺構内の土層は覆土一～四層で構成される。先の報告の記述を整理し、遺構外の包含層も、本報告書で設定した基本層序に対応させたものが図VI-2の土層表である。覆土一層は0・Ⅰ層、覆土二層はⅡ・Ⅲ層、覆土三層は黒褐色土層で、礫や焼土粒が混じる。覆土四層は「粘土貼り」とされたもので、白色の粘土とⅥ層が混じる粘土層である。下位はⅥ層とは接しておらず、覆土三層が堆積する。

床面・壁 壁は東西で斜めに、北側ではやや急角度で立ち上がる。床面は中央が緩やかにくぼむ断面形態である。

付属遺構 土壌2か所、柱穴・杭穴3か所（p1・2・3）、張り出し3か所である。土壌はいずれも粘土層の下位にあり、平面は長径70cmを超える楕円形である。土壌1は覆土中に白色物質（骨片か？）や赤色物質（ベニガラ、丹とされる）がみられた。土壌2は東側の壁際で小型完形の押型文尖底土器が出土し、覆土中からは黒曜石のフレイクが多数出土した。p1・2・3は平面が直径13～17cmの円形で、深さは12～15cmである。張り出しは住居跡の南東側部分に2か所、北側部分に1か所みられる。張り出し1・2は床面と段がある。

遺物出土状況 住居跡張り出し1・2付近の床面では、擦り切り手法の磨製石斧5点と石鋸1点がまとまって出土した。土壌2から小型完形の押型文尖底土器や黒曜石のフレイクが出土した。覆土からは押型文尖底土器片、石鏃、石槍、石錐、石匙、スクレイパー、石鋸などが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

第30号竪穴（図VI-3・表VI-3・4・7）

位置 今回調査区東端から南西側へ約50m（図II-5） **平面形態** 楕円形

規模 7.85×6.72/7.20×6.06/0.82m

確認 昭和39（1964）年の調査で、南北に近接する2つの円形のくぼみとして認識された。南側の深いくぼみが本遺構で、北側の浅いくぼみが第29号竪穴である。

調査の内容 昭和41（1966）年の調査報告書の記載事項を抜粋し、内容を整理した（表VI-7）。その内容をまとめると、まず南北方向に先行トレンチ調査し、次に東西方向のトレンチを追加して調査した。覆土下位（覆土七層）からは広い範囲で炭化物が多量に出土した。住居跡の北側部分で床面、壁の立ち上がりを確認し、炭化材の位置を記録した後、全体を床面まで掘り下げた。斜面下側の住居跡の南西側の壁際には盛土層があり、北側の壁と高さを揃えるために盛土された可能性がある。

覆土 昭和41（1966）年の調査報告では、I～IXを設定し、断面図が掲載されているが、土層注記の記載はない。本報告では混乱をさけるため、これらの土層を漢数字で記述する。

昭和39（1964）年の調査で、覆土は九つに分けられ、これは浄書した図（図VI-3）の断面図番号1～9である。九層は本文の記述から地山で、遺構内の土層は覆土一～八層で構成される。先の報告の記述を整理し、遺構外の包含層も、本報告書で設定した基本層序に対応させたものが図VI-3の土層表である。覆土一層は0・I層、覆土二層はII・III層、覆土三層はIV層、覆土四層は黒色土主体層、覆土五層はVI層主体層、覆土六層は焼土層、覆土七層は炭化物層、覆土八層は黒色土層である。また十一層は住居外の南西側部分にあり、盛土層と判断した。

床面・壁 壁は斜めに立ち上がり、床面は中央が緩やかにくぼむ断面形態である。

付属遺構 焼土4か所（HF-1～4）、柱穴・杭穴36か所（p1～36）、段構造がある。HF-1は炉跡焼土である。長径1.25m、短径0.87mの楕円形の掘り込みがあり、掘り込み覆土上面と掘り込み面に被熱層がある。柱穴・杭穴はp35・36が住居跡の中央部、それ以外は住居跡の壁側に沿うように位置し、2基単位のものが多くみられる。p28・29・30とp31・32・33はそれぞれ1列で平行する位置にある。段は住居跡の北東側の壁近くにあり、約4mの範囲が床面より約20cm高くなる。

遺物出土状況 遺物は住居跡の南西側から多く出土した。床面からは押型文尖底土器、横長の石匙、磨製石斧、石鋸、砥石が出土した。覆土からは押型文尖底土器、北筒式土器、石鏃、石槍、石錐、石匙、各種のスクレイパー、石鋸、砥石、石皿、礫器（礫石器）が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と判断する。

4. 分析の目的と結果の評価

本遺跡から出土した遺物について、以下の各項の自然科学的手法による分析を行った。分析の詳細は付篇各節を参照していただきたい。本節では分析の目的と結果の評価を述べる。

（1）黒曜石製石器の産地推定（付篇1）

・目的

今回の調査で出土した剥片石器の石材の多くは黒曜石である。この黒曜石について時期ごとの原産地の状況を確認する目的で原産地分析を行った。試料はH-19・24・25の床面等出土の石器6点、P-37・55出土の石器3点である。時期は竪穴住居跡が主に縄文時代前期、土坑が縄文時代後期である。

・結果の評価

遺構ごとにまとめた表を掲載した（表VI-8）。竪穴住居跡では白滝地域4点、置戸地域2点という結果が出た。白滝地域とされた試料4点はすべてH-24出土で、うち石槍またはナイフ3点（TS-2～4）は重なって出土した。置戸地域とされた2点の試料の原石群は、いずれも所山群である。H-

19 (TS-1)・H-25 (TS-7) とも大型の石槍またはナイフで、特にTS-1は長さ20cmを超えるものである。

土坑では白滝地域1点、置戸地域2点という結果が出た。置戸地域とされた試料の原石群は所山群1点、置戸山群1点である。P-37出土の石槍またはナイフはTS-8が置戸地域所山群、TS-9が白滝産である。TS-8は底面出土の破片とH-19覆土の破片が接合したもの、TS-9は図V-2-7の北筒式土器内の覆土から出土したものである。P-55出土の石槍またはナイフは置戸山群で、土坑からは他に被熱した礫が16点出土している。

トーサンプオロ湖周辺竪穴群(1)の報告では、黒曜石製石器試料28点中、縄文時代前期では白滝地域17点、置戸地域10点、ケショマップ第2群1点、縄文時代後期では白滝地域1点という結果が出ている。今回の結果とあわせ、本遺跡では縄文時代前期・後期を通じ白滝、置戸地域の黒曜石が利用されている。

(2) 放射性炭素年代測定 (付篇2)

・目的

本遺跡では縄文時代早期・前期・後期の遺構を確認した。今回は縄文時代前期押型文尖底土器期と推測される竪穴住居跡の年代測定を行い、絶対年代を把握し、住居の変遷を明らかにするのが主な目的である。分析試料は竪穴住居跡出土の木炭である。

・結果の評価

分析結果のうち、「補正年代(y r B P)」の数値が、上段が古く下段が新しくなるように並び替え、平成26年刊行のトーサンプオロ湖周辺竪穴群(1)の結果と合わせ、表にした(表VI-9)。

トーサンプオロ湖周辺竪穴群(1)ではH-10・H-6・H-2・H-3・H-7・H-13・H-2覆土中焼土の分析結果が $5,210 \pm 30 \sim 4,910 \pm 30$ y r B Pの間で、比較的数値がまとまっている。

今回の分析結果は、H-20が $5,230 \pm 30$ y r B Pという結果で、これまでで最も古い年代がでた。またH-24は $4,980 \pm 30$ y r B Pという結果で、H-13と近い数値である。H-18は $4,720 \pm 30$ y r B Pで縄文時代前期末葉から中期前葉とやや新しい数値となった。

またH-19は $4,530 \pm 30 \cdot 4,120 \pm 30$ y r B Pで、縄文時代中期前葉から中葉・縄文時代中期中葉から後葉、H-26は $3,880 \pm 20$ y r B Pで縄文時代後期初頭と想定より新しい結果がでた。H-19とH-26は重複し、調査ではH-26が新しいと認識され、この点は分析結果と合致する。出土遺物や平面形状などから時期は縄文時代前期前半と想定していたが、H-19は縄文時代中～後期、H-26は縄文時代後期の可能性もある。

(3) 炭化材樹種同定

・目的

本遺跡の縄文時代前期前半、押型文尖底土器の時期の竪穴住居跡の構造材の樹種を知ることにより、木材の利用状況を推定する。樹種同定試料はH-18、H-24から出土した炭化材で、分析点数はH-18が3点、H-24が3点である。

・結果の評価

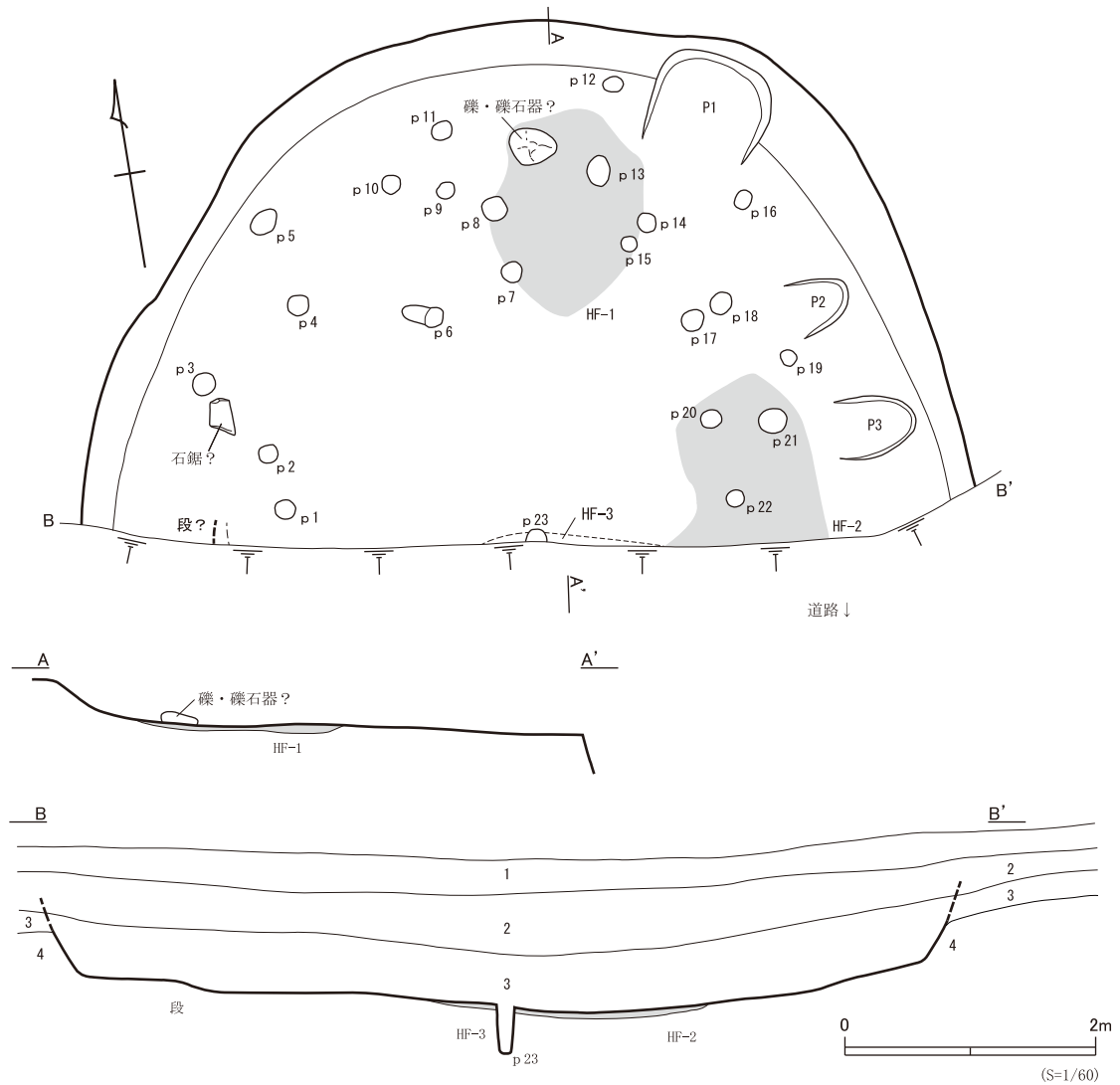
分析試料6点中、「コナラ属コナラ節」が2点、「トネリコ属」が2点、「オニグルミ」が1点、「コシアブラ」が1点である。

平成26年度刊行のトーサンプオロ湖周辺竪穴群(1)でも同時期の竪穴住居跡(H-10・H-13)の

構造材樹種を同定し、6点中「コナラ属コナラ節」3点、「カツラ属」1点、「オニグルミ」1点、「トネリコ属シオジ節」1点という結果が出た。前回と今回の結果を統合すると、試料12点中、「コナラ属コナラ節」5点、「トネリコ属」3点、「オニグルミ」2点、「コシアブラ」1点、「カツラ属」1点である。5種類の落葉広葉樹が利用され、特に「コナラ属コナラ節」が多く、次いで「トネリコ属」、「オニグルミ」がある。これらは当時の遺跡周辺で生育した樹木と考えられるため、集落周囲において入手可能な樹木を利用したものと推定される。

(愛場)

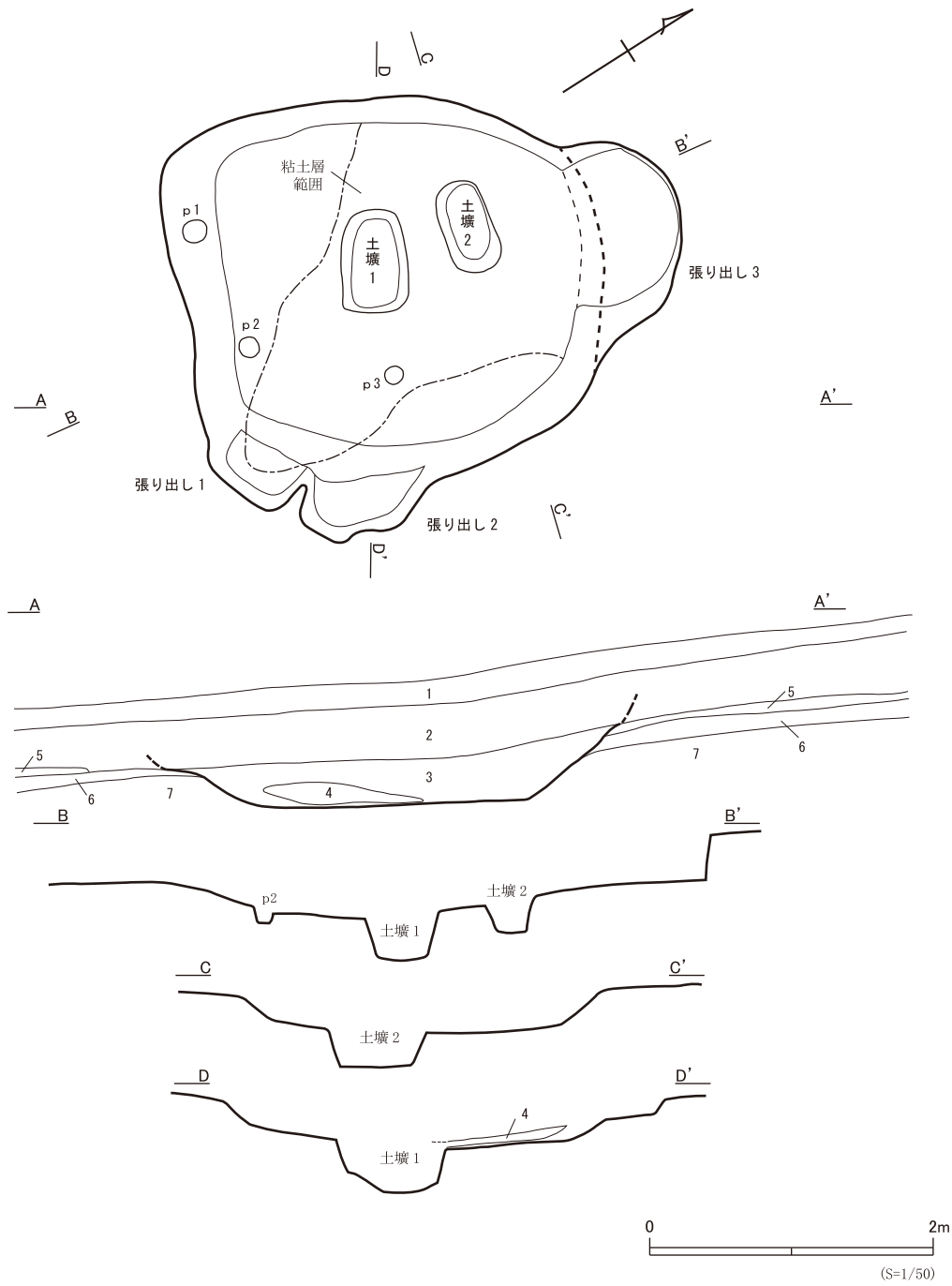
第1号竖穴



断面図位置	断面図番号	原著での表記	本報告での表記	層位種別	層厚(cm)	特徴	本事業での土層区分(覆土の主体層)	備考
第1号竖穴住居址内	1	—	覆土一層	表土層	20~30	—	0・I層：現地表土	溝溝内外に堆積する。
	2	—	覆土二層	黒色土層	30~50	—	II・III層	鉄器、黒曜石チップ、人骨出土。
	3	—	覆土三層	上部黒褐色混礫層	20~25	—	V層主体か	北筒式土器、フレイク出土。
		—	覆土四層	混礫焼土層	7~8	—	—	—
	—	—	覆土五層	下部黒褐色混礫層	20前後	—	V層主体か	—
—	—	—	—	—	—	VI層	—	「竖穴はこの層を40~60cm掘り込んでつくられた」 「黄褐色火山灰」=黄褐色ローム層；VI層と判断する。
—	—	—	—	岩盤層	—	「住居西側壁及び床面は岩盤をけずり込んで形成」	—	図示されていない。 本事業では未確認である。平成21年度の斜面下位の調査でV層下位に礫を多く含む層を確認した。それと対応する可能性がある。

図VI-1 第1号竖穴

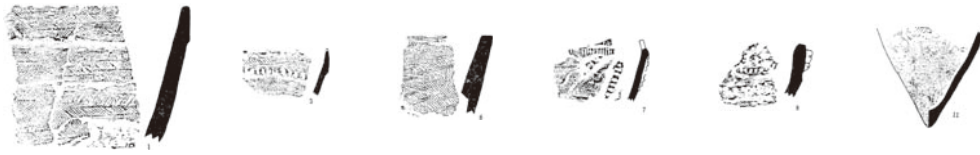
第29号竖穴



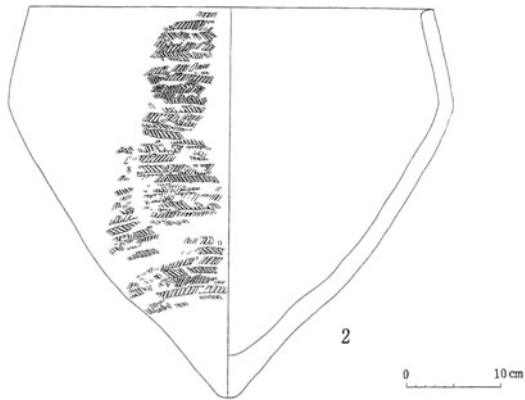
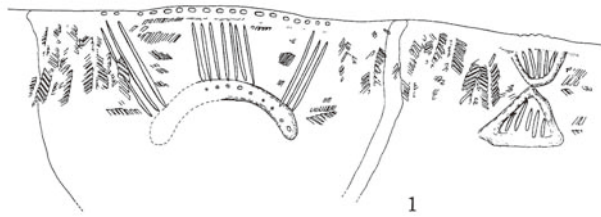
断面図位置	断面図番号	原著での表記	本報告での表記	層位種別	層厚(cm)	特徴	本事業での土層区分(覆土の主体層)	備考
第29号竖穴住居址内	1	I	覆土一層	表土層	15	—	0・I層：現地表土	
	2	II	覆土二層	黒色土層	40	—	II・III層	
	3	III	覆土三層	黒褐色土	30	「細礫や赤褐色土粒が混じる」	V層主体か？	
	4	粘土	覆土四層	粘土	5~15	「白色粘土とローム質黄褐色土の混合土」	ローム質黄褐色土：VI層	白色粘土は本事業では未確認。
AA'ライン両側	5	—	—	—	—	IV層	—	「堅穴外第II層下橙色火山灰」= 摩周テフラ層
	6	—	—	—	—	V層	—	「黒褐色土(10cm)が堆積し、地山につづいている」= 漸移的にVI層に続くとするV層と判断される。
	7	—	—	—	—	VI層	—	「地山の黄褐色火山灰土」= 黄褐色ローム層

図VI-2 第29号竖穴

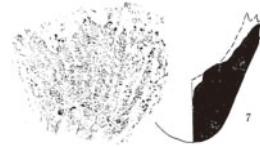
第1号竖穴出土土器



第25号竖穴出土土器



第29号竖穴出土土器



第30号竖穴出土土器



図VI-4 第1・25・29・30号竖穴出土土器

表VI-1 B地区出土遺物点数表

出土場所・年度		遺構			包含層			総計	
種別	分類	2009～2011年度	2014年度	合計	2009～2011年度	2014年度	合計		
土器等	I群b類	4	130	134	16	1,025	1,041	1,175	
	II群a類	3,501	662	4,163	2,163	1,191	3,354	7,517	
	III群b類	316		316	1	3	4	320	
	IV群a類	84	193	277	331	353	684	961	
	V群c類					21	21	21	
	VI群					10	10	10	
	不明	3		3				3	
	土製品					2	2	2	
土器等 合計		3,908	985	4,893	2,511	2,605	5,116	10,009	
石器	石鏃	54	37	91	72	49	121	212	
	石槍またはナイフ	37	47	84	43	33	76	160	
	両面調整石器	36	21	57	47	15	62	119	
	石錐	10	12	22	16	11	27	49	
	つまみ付きナイフ	31	17	48	39	24	63	111	
	スクレイパー	103	80	183	101	87	188	371	
	楔形石器	1		1				1	
	U・R フレイク	108	69	177	74	72	146	323	
	石核	6	2	8	6	2	8	16	
	フレイク	8,985	4,488	13,473	4,523	4,263	8,786	22,259	
	原石	2	2	4	5		5	9	
	磨製石斧	19	37	56	17	12	29	85	
	たたき石	8	6	14	4	6	10	24	
	すり石	10		10	14	2	16	26	
	石鏃	100	45	145	31	37	68	213	
	砥石	171	156	327	213	265	478	805	
	台石・石皿	6	4	10	5	3	8	18	
	石錘				1		1	1	
	U・R レキ	46	34	80	5	32	37	117	
	礫	1,199	4,446	5,645	364	4,778	5,142	10,787	
	石製品	1		1	3		3	4	
	石器等 合計		10,933	9,503	20,436	5,583	9,691	15,274	35,710
	総計		14,841	10,488	25,329	8,094	12,296	20,390	45,719

表VI-2 B地区出土遺物点数表（水洗選別）

出土場所・年度		遺構			包含層			総計
種別	分類	2009～2011年度	2014年度	合計	2009～2011年度	2014年度	合計	
土器等	I群b類		6	6		3	3	9
	II群a類	26	8	34		1	1	35
	IV群a類		2	2				2
	不明		10	10				10
	土器等 合計	26	26	52		4	4	56
石器	石鏃	1	1	2				2
	両面調整石器	6	5	11				11
	石錐	1		1				1
	スクレイパー		1	1				1
	U・R フレイク	9	1	10				10
	石核		1	1				1
	フレイク	11,892	16,437	28,329	6,677	1,106	7,783	36,112
	磨製石斧		5	5				5
礫	22	4	26		3	3	29	
石器等 合計		11,931	16,455	28,386	6,677	1,109	7,786	36,172
総計		11,957	16,481	28,438	6,677	1,113	7,790	36,228

表VI-3 第1号・29号・30号竪穴概要一覧

遺構名	図	平面形態	規模 (m)					付属遺構			主な出土遺物	備考
			確認面		床面		最大深	種別	記号	番号		
			長径	短径	長径	短径						
1号竪穴	VI-1	円形?	7.15	(4.25)	6.66	(4.25)	0.73	土坑	P	1~3	早期土器、押型文尖底土器、北筒式土器、石鏃、石槍またはナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、石鋸、砥石、(骨製尖頭器)	南側は道路により削平される
								柱穴・杭穴	p	1~23		
								焼土	H F	1・2		
29号竪穴	VI-2	不整な円形	3.11	2.79	2.62	2.35	0.58	土坑	-	1・2	押型文尖底土器・フレイク・磨製石斧・石鋸	粘土層・土壌
								柱穴・杭穴	p	1~3		
								張り出し	-	1~3		
30号竪穴	VI-3	楕円形	7.85	6.72	7.20	6.06	0.82	柱穴・杭穴	p	1~36	押型文尖底土器、北筒式土器、つまみ付きナイフ、磨製石斧、石鋸、砥石、石皿	炭化材多量・南側半分に盛土
								灰跡焼土	H F	1		
								焼土		2~4		
								段構造	-	-		

表VI-4 第1号・29号・30号竪穴付属遺構一覧

遺構名	図	付属遺構名	種別・内容	平面形態	規模 (m)				主な出土遺物	備考					
					確認面		底面				最大深 最大厚				
					長径	短径	長径	短径							
第1号竪穴	図VI-1	HF-1	焼土	不整な楕円形	1.64	1.19	—	—	0.08	礫・礫石器?					
		HF-2		不整形	(1.35)	(1.30)	—	—	(0.06)	—					
		HF-3		不明	(1.42)	(0.08)	—	—	(0.04)	—					
		p-1	柱穴・杭穴		円形	0.17	—	—	—	—	—				
		p-2			円形	0.15	—	—	—	—	—				
		p-3			円形	0.20	—	—	—	—	—				
		p-4			円形	0.16	—	—	—	—	—				
		p-5			楕円形	0.25	0.17	—	—	—	—				
		p-6			楕円形	0.18	—	—	—	—	—				
		p-7			円形	0.16	—	—	—	—	—				
		p-8			円形	0.20	—	—	—	—	—				
		p-9			円形	0.15	—	—	—	—	—				
		p-10			円形	0.14	—	—	—	—	—				
		p-11			円形	0.18	—	—	—	—	—				
		p-12			楕円形	0.16	0.12	—	—	—	—				
		p-13			楕円形	0.24	0.18	—	—	—	—				
		p-14			円形	0.16	—	—	—	—	—				
		p-15			円形	0.13	—	—	—	—	—				
		p-16			円形	0.15	—	—	—	—	—				
		p-17			円形	0.19	—	—	—	—	—				
		p-18			円形	0.20	—	—	—	—	—				
		p-19			円形	0.14	—	—	—	—	—				
		p-20			円形	0.16	—	—	—	—	—				
p-21	円形	0.23			—	—	—	—	—						
p-22	円形	0.14			—	—	—	—	—						
p-23	円形	0.16			—	—	—	0.38	—	深さは断面図Bから					
段	段構造	—	—	—	—	—	—	土層断面図Bから推定							
第1号竪穴より新しい土坑		P-1	土坑	楕円形?	(0.80)	0.98	(0.72)	0.82	—	—					
		P-2		楕円形?	(0.47)	0.47	(0.41)	0.47	—	—					
		P-3		楕円形?	(0.62)	0.53	(0.59)	0.44	—	—					
第29号竪穴	図VI-2	p-1	柱穴・杭穴		円形	0.17	—	—	0.12	—	深さは原著本文から				
		p-2			円形	0.15	—	—	0.12	—					
		p-3			円形	0.13	—	—	0.15	—					
		土坑1	土坑		楕円形	0.75	0.48	0.62	0.34	0.38	—				
		土坑2			楕円形	0.67	0.38	0.52	0.27	0.28	—				
		張り出し1			隅丸長方形	0.70	0.43	0.55	0.32	—	—	南側部分			
		張り出し2	張り出し		不整な半円形	0.92	0.50	0.77	0.38	0.14	—	南東側部分			
張り出し3	半円形	1.57			0.58	1.00	0.55	—	—	北側部分					
第30号竪穴	図VI-3	HF-1	焼土		楕円形	1.25	0.87	—	—	0.15	—	掘り込み部分			
		HF-2			楕円形	0.44	0.30	—	—	0.03	—	上位の焼土部分			
		HF-3			楕円形	0.59	0.42	—	—	0.05	—	下位の白色化部分・層厚は断面図Cから			
		HF-4			不整形	0.98	0.66	—	—	—	—	—			
		p-1	柱穴・杭穴			円形	0.12	—	—	—	0.08	—	—		
		p-2				円形	0.10	—	—	—	0.10	—	—		
		p-3				円形	0.18	—	—	—	0.06	—	—		
		p-4				円形	0.12	—	—	—	0.06	—	—		
		p-5				円形	0.16	—	—	—	0.12	—	—		
		p-6				円形	0.14	—	—	—	0.08	—	—		
		p-7				円形	0.18	—	—	—	0.08	—	—		
		p-8				円形	0.14	—	—	—	0.10	—	—	—	
		p-9				楕円形	0.26	0.17	0.06	0.04	—	—	—	—	
		p-10				円形	0.16	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-11				円形	0.09	—	—	—	0.06	0.09	—	—	深さは断面図Cから
		p-12				円形	0.20	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-13				円形	0.18	—	—	—	0.11	—	—	—	
		p-14				円形	0.10	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-15				円形	0.11	—	—	—	0.06	—	—	—	
		p-16				円形	0.12	—	—	—	0.05	—	—	—	
		p-17				楕円形	0.32	0.17	0.14	0.09	—	—	—	—	
		p-18				円形	0.12	—	—	—	0.10	—	—	—	
		p-19				円形	0.09	—	—	—	0.07	—	—	—	
		p-20				円形	0.12	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-21				楕円形	0.34	0.15	0.06	0.05	—	—	—	—	
		p-22				円形	0.16	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-23				円形	0.17	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-24				円形	0.13	—	—	—	0.06	—	—	—	
		p-25				円形	0.16	—	—	—	0.12	—	—	—	
		p-26				楕円形	0.30	0.15	0.09	—	—	—	—	—	—
		p-27				円形	0.14	—	—	—	0.04	—	—	—	
		p-28				円形	0.11	—	—	—	0.05	—	—	—	
		p-29				円形	0.13	—	—	—	0.07	—	—	—	
		p-30				円形	0.14	—	—	—	0.08	—	—	—	
		p-31				円形	0.10	—	—	—	0.03	—	—	—	
		p-32				円形	0.13	—	—	—	0.04	—	—	—	
p-33	円形	0.11				—	—	—	0.06	—	—	—			
p-34	円形	0.24				—	—	—	0.08	—	—	—			
p-35	楕円形	0.22				0.15	0.08	0.09	—	—	—	—			
p-36	円形	0.22				—	—	—	0.08	—	—	—			
段	段構造	—	—	—	—	—	—	0.44	—	磨製石斧など	北から東側の壁際				

表VI-5 第1号竪穴調査の概要一覧

呼称	調査年	報告年	位置	形態	現況の径(大きさ)	現況の深さ	現況の盛土掘り上げ土	主な出土遺物	文献・資料
1号竪穴 (住居址)	昭和39 (1964)	昭和41 (1966)	L1 地区	円形 と推定	7m	—	—	押型文土器 石鏝、石槍、 スクレイパー 石鋸	『北海道根室の先史遺跡』 根室市教育委員会 1966
	報告書 記録 からの情報	第43図 136頁	確認面 (m)		底面 (m)		深さ (m)		
			長径	短径	長径	短径			
			7.15	(4.25)	6.66	(4.25)	0.73		
図版26 第1号竪穴の断面	住居跡西側に段構造がみとれる。これは本文第43図の土層断面図でも表現されている。								
「遺跡の概観」 記述内容				頁	内容整理			備考	
「昭和39年にわれわれが発掘した竪穴4個は、ともに発掘前の状況が円形であったこと、それらがすべて押型文土器を出した」				115	L1地区で昭和39年に調査した第1・25・29・30号竪穴は円形で確認され、いずれも押型文尖底土器が出土した。				
「調査の経緯」 記述内容				頁	内容整理			備考	
7月25日 「道路傍の切断された竪穴を第1号住居址と命名」				124	第1号住居跡は道路により削平される。				
7月26日 「道路開設のさい、1号址の上に盛り上げられた厚さ70cmほどの土の除去」				124	本遺構の上には道路造成時の盛土が約70cmあり、これを除去した。				
「竪穴中心部をとる2×4mのトレンチを道路に直交させて設定し、これを下げはじめる。厚さ25cmほどの表土を除去、その下の黒土層に若干掘り込んだところで作業をおえる。(略)上記トレンチに接して、同じ2×4mの発掘区を設定する。」				124	住居跡の中心をとおり、道路と直交する南北トレンチ(A-A')を設定し、表土層と黒色土層を掘り下げた。このトレンチに接して、トレンチ2(東側か?)を設定した。				
7月27日 「1トレンチ、2トレンチの掘り下げをおこなう。黒土層の下には20~50cmほどの厚さの礫を混ざる層があり、その表面付近には土器片がとくに多くみられた。北筒式が多いようである。この層の下は褐色の土が堆積していた。また、トレンチの北部で壁の一部をみいだした。あらたに、1トレンチの西に2×3mの第3トレンチを設定する。」				124	トレンチ2か所を掘り下げた。黒色土層の下位、上部黒褐色混雑層の上面からは、土器が多く出土し、北筒式土器が多い。この層の下位には褐色土層がみられる。南北トレンチの北側で壁の一部を確認した。西側に3か所目のトレンチを設定する。			後述の土層の区分から 黒色土下位の混雑層=上部黒褐色混雑層と判断する。 褐色の土=混雑礫土層の可能性はある。	
7月28日 「1トレンチが床面に達する。床直上の暗褐色土層(厚さ35cm)からは、純粋に近い状態の押型文土器が出土する。今日から、竪穴全面の掘り下げをはじめる。(略)竪穴内からは、見事なポイントが見つづつ発見された。(略)床上約20cmまでの土砂の除去をおえた。」				125	南北トレンチは床面まで掘り下げた。床直上の下部黒褐色混雑層(後述)からは、押型文尖底土器が主体的に出土した。トレンチ調査から遺構全体の掘り下げを開始する。覆土からは「石槍またはナイフ」が数点出土した。床面から約20cm土まで掘り下げた。			後述の土層区分から 暗褐色土層=下部黒褐色混雑層と判断する。	
7月29日 「床面検出にかかる。竪穴は円ないし楕円形プランを有したもので、一部は基盤である水成岩層を掘りこんでいることなどがわかる。床上10cmほどのところに、押型文土器の尖底部が2ヶ所出土する。また、床から石鋸が発見された。」				125	床面の検出に着手する。住居跡は平面が円形もしくは楕円形で、床面はVI層のほか、岩盤層を掘り込む部分もある。床直上からは押型文尖底土器の尖底部2点、床面からは石鋸が出土した。				
8月1日 「床および壁面の清掃をおこない、これをほぼ完了する。(略)性格不明の掘りこみが、北~東壁に3ヶ所ほどみられた。主要な遺物としては、骨製尖頭器があげられる。」				126	床面と壁の清掃を完了した。骨製尖頭器が床面焼土中より出土した。住居北側から東側では土坑(P-1・2・3)を確認した。			「骨製尖頭器」は床面焼土出土 (155頁)	
8月3日 「写真撮影をおこない、ただちに実測に入る。柱穴と思えるピットは配置が不規則なものばかりであった。焼土はかなりの範囲に分布しており、竪穴中心近くでは床も固く焼けてしまった箇所が2、3あった。」				126	写真撮影、実測を行った。柱穴・杭穴の位置は規則的でない。焼土(HF-1?・HF-2?・HF-3?)は広範囲に分布し、住居跡中央付近では被熱により固くなる小範囲の地点が2~3か所あった。			「固く焼けてしまった」場所は 実測図では示されていない。	
8月7日 「埋め戻しは、(略)3時ごろまでかけて、いちおう終了した。」				132	埋戻しを行い、終了した。				
「竪穴の発掘 第1号竪穴」 記述内容				頁	内容整理			備考	
第43図 第1号竪穴実測図				136	内容を点検し、図の表記の方法から、付属遺構、礫石器、礫を判断し、付属遺構は焼土HF、土坑はP、柱穴・杭穴はpで連番を付した。土層断面図の注記はP135の本文から判断し「漢数字」で表記した。				
「L1台地(略)突端部は(略)空壕によって後方の地域と区劃され、チャンの跡であることを示している。本竪穴はこの内に位置し、L1地区の竪穴群中最西端部を占めている。また、同地区の中央を貫きR地区に通ずる道路が前記空壕と本竪穴の南半分を切断していったので、容易にこれらの断面を確認することができた」				135	湖東岸の半島状の突出部(L1地区)には、チャン跡がある。本遺構は境内側の緩斜面に位置し、L1地区で確認したくぼみの中では最も西側である。本遺構の南側部分は道路造成時に削平され、法面で土層断面が確認できる状況であった。				
「竪穴内の埋積はかなり進んでおり、発掘前においては深さ10数cmの浅いくぼみをとどめるに過ぎなかった。表土上には道路工事の際の盛土が60~80cmほど積まれており」				135	本遺構は埋没が進み、浅いくぼみとして確認した。表土の上位には60~80cmの高さで道路造成時の盛土が残されていた。				
「竪穴内の埋積土は上から表土層(20~30cm)、黒色土層(30~50cm)、上部黒褐色混雑層(20~25cm)、混雑焼土層(7~8cm)、下部黒褐色混雑層(20cm前後)の各層が認められた。表土下黒色土層からは鉄器片数点、黒曜石破片および人骨の一部が出土(略)」				135	層位は五つに分層した。本報告書では「漢数字」で表記した。 「表土層」20~30m=覆土一層:0層・I層 「黒色土層」30~50cm=覆土二層:II層・III層 「上部黒褐色混雑層」20~25cm=覆土三層 「混雑焼土層」7~8cm=覆土四層:焼土層 「下部黒褐色混雑層」20cm前後=覆土五層			断面図番号1=覆土一層 断面図番号2=覆土二層 断面図番号3=覆土三・四・五層 原著の断面図では覆土三・四・五層は細分されていないが、断面図3の層厚を計測すると42~50cmで、これらの覆土を合わせた層厚と合致する。	
「本竪穴は地山の黄褐色火山灰層を40~60cm掘り込んでつくられたもので、斜面の下方にあたる竪穴西側壁面及び床面は岩盤をけずり込んで形成されていた。」				135	本遺構はVI層(黄褐色ローム)を40~60cm掘り込んでいる。斜面下側にあたる住居跡の西側部分の壁と床面は岩盤層を削り込んで構築されている。			本事業の調査では、岩盤層は未確認であるが、平成21年度の斜面下位の調査で、V層下位に礫を多く含む層を確認している。	
「平面形は残存部分から推定して円形に近い形をとるものと思われ、道路際の切断線での竪穴の径は約8.2mを測る。」				135	平面は円形に近いと推定され、道路際(東西方向)では径は8.2mを測る。(実測図を計測すると7.15mである)				
「横断面は非常に特徴的で、壁面が外方に向かって傾斜し、床面も中央に向かって緩い傾斜を有する、いわば鍋底状を呈する」				135	壁は斜めに立ち上がり、床面の中央が緩やかにくぼむ断面形態である。				
「黄褐色火山灰土の面からの出土品は少なく、(略)直上に数cm堆積した黒褐色土上に尖底部2ヶ所をはじめとする遺物が多く含まれていた」				135・136	床面の遺物は少なく、床直上の下部黒褐色混雑土層(覆土五層)から押型文尖底土器(尖底部2点)などの遺物が多く出土した。				
「北側から東側にかけての床面上には焼土の堆積が認められた。ところによって5cm位の厚さに達しており、炭化した木材の小さい粉末を含んだ部分もみられた。散布状態や一部の柱穴をおおっている点、床面の被熱が明瞭でない点などから推して炉址とは考え難い。」				136	住居跡北側から東側の床直上で、少量の炭化材を含む焼土の堆積(HF-1・2・3)を確認した。層厚は約5cmである。柱穴・杭穴(p7・8・13・15・20・21・22)を覆っていること、床面の被熱の痕跡が不明瞭なことから、これらの焼土は炉跡ではない。				
「床面から柱穴とみなされる穴が23発見された。(略)直径20cm位の円形のものも多く、深さ20~30cmのものが大多数を占める。配列は中央に大型の柱穴が一つあり、これをとりまいて他の柱穴が並び、これらは二つずつ対になるような傾向が認められた。」				136・137	柱穴・杭穴は23か所確認された。平面は円形で、直径は約20cmのものも多く、深さはほとんどが20~30cmである。p23が中央にあり、それ以外は2基単位で、壁際に沿う配置である。				
「竪穴の東北側壁に沿って三つのボケット状のくぼみを検出(略)くぼみは焼土面を切って作られたようであり、その内部にも焼土の堆積は認められなかった。(略)竪穴破壊後に設けられたものであろう。」				137	住居跡の北東側の壁際に浅い土坑3か所(P-1・2・3)を確認した。これらは焼土(HF-1・2か?)を切って作られ、土坑内には焼土は認められなかった。住居跡より新しいと判断される。				

表VI-6 第29号竪穴調査の概要一覧

呼称	調査年	報告年	位置	形態	現況の径(大きさ)	現況の深さ	現況の盛土掘り上げ土	主な出土遺物	文献・資料	
第29号竪穴 (住居跡)	昭和39 (1964)	昭和41 (1966)	L1 地区	円形	4m	微	—	押型文土器 石鏃、石槍、 石匙、磨製石斧 石鏃	『北海道道の先史遺跡』 根室市教育委員会 1966	
	報告書 記録 からの情報		第66回 174頁	確認面 (m)		底面 (m)				深さ (m)
	長径	短径	長径	短径	0.58					
			3.11	2.79	2.62	2.35				
「遺跡の概観」 記述内容				頁	内容整理				備考	
「昭和39年にわれわれが発掘した竪穴4個は、ともに発掘前の状況が円形であったこと、それらがすべて押型文土器を出した」				115	L1地区で昭和39年に調査した第1・25・29・30号竪穴は円形で確認され、いずれも押型文土器が出土した。					
「調査の経緯」 記述内容				頁	内容整理				備考	
7月28日 「29、30号竪穴の発掘にかかることとし、これらの原状実測をおこなう。この2竪穴は、相接しているため、現在は雛形をなしている。すなわち、よく埋まった古い竪穴と、それ程でもない新しい竪穴とが重複している可能性が考えられる。」				125	現況のくぼみの実測を行った。現地表面では近接する2つの円形のくぼみとして認識された。北側の浅いくぼみが本遺構で、南側の深いくぼみの第30号竪穴住居跡が新しいと推測した。(30号竪穴住居跡のトレンチ調査を完了した後)、本遺構の調査を開始した。					
8月2日 「30号址に北接する29号址の発掘にかかる。本址は、現在くぼみもあさく、30号址より古いと想定される竪穴である。」				126					7月29日に30号竪穴住居跡の調査開始。 8月2日トレンチ調査終了	
「中央部をおとる南北トレンチを設け、下げ始める。表土層およびその下の黒土層からは、石器とともに押型文土器片が出土し、やがて尖底部も発見された。(略) 側壁と思われるものがみだされたが、これによれば29号竪穴は径3~4mの小規模なものである」				126	住居跡の中央に南北トレンチ (B-B') を設け、掘り下げた。表土層、黒色土層から石器と押型文土器片が出土した。壁を確認し、遺構の規模は径約3~4mと推定された。					
8月4日 「南北トレンチの掘り下げをつづけ、床面に達する。竪穴中心近くに径50cmほどの不整形ピットがみつけれられ、中から多数の黒曜石片とともに完形の小形尖底土器が掘り出され、注目をつめた。ついで、東西トレンチを設定し、夕刻までに東、西両側壁も検出できた。南北約4m、東西約3mの不整形竪穴と判明した。なお、東西トレンチの火山灰薄層直上より尖底の燃糸文土器を発見した。」				131	南北トレンチは床面まで掘り下げた。住居跡の中央付近で長径約50cmの楕円形の土壇2 (後述) が確認され、多数の黒曜石のフレイクと完形の押型文土器片が出土した。東西トレンチを設定し、掘り下げを行い、住居跡の東西側部分で壁の立ち上がりを確認した。本遺構の平面は南北約4m、東西約3mの不整形円形である。東西トレンチではIV層直上から燃糸文土器を出土した。				原著では燃糸文土器が出土した尖底土器は「竪穴外」出土と報告されている(178頁)。このため「火山灰薄層」はIV層(摩周テフラ)で、土器は直上のIII層(黒色土)から出土したと判断する。	
8月5日 「全層にかかる。(略) 午後には(略) 作業を完了した。竪穴は台形に近いプランを有し、中央近くには2つのピットがあった。(略) 土器を出土したものは北側にあった。南のピット内にはベニガラ状のものが検出された(略)。本址でもっとも注目すべきことは、東壁近くには5ヶ所の磨製石斧が固まって存在した(略) 総合的にみて、本址は住居跡とするよりも、他の機能を考える方がよいのではないか、という意見が多く提出された。」				131	本遺構を完掘した。張り出し部を除くと住居跡は台形に近い平面形ともいえる。住居跡の中央には土壇1・土壇2がある。完形の押型文土器が出土したのは北側(土壇2)である。南側のもは(土壇1)は覆土からはベニガラ(赤色物質か?)が検出された。住居跡の東側の壁際では磨製石斧が5点まとまって出土した。				他の機能：詳細は不明である。	
8月6日 「床面を清掃して、さらにピットの検出につとめた。こうしてあらたに柱穴状の3つのピットが発見された。ついで、実測に移り、夕刻までにこれを完成した。29号址の調査は本日をもって終了した」				131・132	床面を精査し、柱穴・杭穴を3か所(p1・2・3)確認した。住居跡の実測図を作成し、調査を終了した。					
「竪穴の発掘 第29号竪穴」 記述内容				頁	内容整理				備考	
第66回 第29号竪穴実測図				174	内容を点検し、付属遺構は柱穴・杭穴がpで連番を付した。土層断面図の注記は173頁の本文から判断し「漢数字」で表記した。					
「竪穴はL1台地先端部の東南向き緩傾斜面にある。発掘前は大きさ7m×5mほどの東西に長い不整形の浅いくぼみで、表面には牧草がはえ、遺物の散布はみられなかった。」				173	本遺構はL1地区の南東方向への緩傾斜面に立地する。現況は牧草地で、30号竪穴住居跡と近接し、両者で長径7m、短径5mの東西に長い、浅いくぼみとして確認された。				原著L1地区竪穴現況表(116頁)の29号竪穴の欄では大きさ「4m」、形「円形」とあり、記述にある「7m×5m」は30号を含めた現況と考える。	
「すぐ東南には第30号竪穴のくぼみが隣接していた。発掘した結果では、竪穴はくぼみの東側に偏った所にあり、規模は予想外に小さいことが分かった。第30号竪穴とは3mの間隔を有し、その北東に位置していた。」				173	南東側には近接して第30号竪穴住居跡がある。発掘調査したところ29号は予想した位置より東にあり、小型であった。30号竪穴とは約3m離れていることがわかった。					
「竪穴の埋積状態は上層より第I層黄土(15cm)、第II層黒色土(40cm)、第III層細礫や赤褐色土粒を混じた黒褐色土(30cm)の順であった。そして竪穴外では、第II層の下に橙色火山灰土(10cm)及びやが粘土質の黒褐色土(10cm)が堆積し、地山の黄褐色火山灰土に接している。したがって竪穴は少なくとも橙色火山灰を切り込んでつくられたと考えられる。遺物を含むのは第II、III層で、ともに押型文土器、石器類を出土している。」				173	層位は三つに分層した。本報告書では「漢数字」で表記した。 「第I層」表土=覆土一層：0層・I層 「第II層」黒色土=覆土二層：II層・III層 「第III層」黒褐色に細礫や赤褐色土粒(焼土粒か?)が混じる=覆土三層				白色粘土とVI層の混ざった粘土層(後述)は断面図番号4住居跡外 橙色火山灰土=摩周テフラ：IV層 黒褐色土=V層 地山の黄褐色火山灰土=VI層 本遺構はIV層を切って構築され、遺物包含層は覆土二・三層で、押型文土器や石器類が出土した。	
「竪穴の平面形は南北両側の壁が平行する台形に近い形を示し、東側壁から南側壁にかけて二つの張り出し部が設けられている。竪穴の大きさは東西約2.5m、南北約3mを測る。」				173	住居跡は張り出し部を除けば平面が台形ともみせせる。南東側部分では張り出し部が2か所(張り出し1・2)ある。また北側の張り出し部を張り出し3とした。住居跡の規模は南北約3m、東西約2.5mである。				上辺：北側、下辺：南側の台形と推測する。	
「壁面は東西で約45度、北側でそれより垂直に近い傾斜を有し、南側ではきわめてなだらかで床面との境は不明確」				173	壁は東西で斜めに、北側ではやや急角度で立ち上がるが、南側は立ち上がりが不明瞭であった。					
「床面はまず壁際から竪穴中央に向いや傾斜を有する」				173	床面は壁際から中央がくぼみ断面形態である。					
「北側から南側張り出し部にかかる床面には白色粘土とローム質黄褐色土との混合土が張りつけられた(略)。この「粘土張り」は北側では広範囲に広がるが、白色粘土の含有度が少なく、南側ではこれが厚くなり、殊に張り出し部付近では白色粘土の塊が厚さ15cmほどのかたまりを呈している。(略)「粘土張り」は床面の黄褐色火山灰土に直接するのではなく、間に黒色土の堆積が認められ(略)この堆積は竪穴中央部で5cm位だが、南壁付近では次第に厚くなり竪穴外の黒色土層へつづく」				173	床面で、白色粘土とVI層黄褐色土が混ざった粘土層が、北側壁際から張り出し1付近にかけて確認された。粘土層は北側では広く、白色粘土の含有が少なく、南側では厚くなり、張り出し1付近では白色粘土が約15cmの厚さで堆積する。粘土層と床面のVI層の間には黒色土が堆積する。この黒色土は中央付近では約5cmで、南壁付近では徐々に厚くなり、住居跡の外側へと続く。				白色粘土=本事業の調査では確認されておらず、詳細は不明である。 「断面図番号4」の粘土層は覆土三層の下部部分に図化され、粘土層の下部は住居跡の床面に接していない。	
「柱穴とみなされる穴としてはいつは円形、径17cm、深さ12cm、その2は円形、径14cm、深さ12cm、その3は円形、径13cm、深さ15cmの三穴が検出されたのみであり、竪穴周囲には発見されなかった。」				173	柱穴・杭穴は3か所(p1・2・3)確認された。いずれも平面は円形で直径は13~17cm、深さは12~15cmである。住居跡の周囲(住居外)ではみられなかった。					
「土壇1は(略)平面形は長方形に近く、その大きさは上は75cm×48cm、深さは最大30cmを測った。横断面は上方にやや開く「U」字型に近い形を示し、縦断面において壁の中央部がぼんやりしている。(略)本壇は床面の「粘土張り」の中にあり、周壁は厚さ5~10cm程度の白色粘土を塗り固めて形づくられ、とくに上縁部は堅固であった。この粘土は土壇上部を5~10cmの厚さでおおっていた。壇内は黒色のややさらさらした土でみだされ、その中に赤色の丹と微量ながら骨粉様の白色粒状物が検出された。(略)土壇2は(略)平面形は小判形で上は70cm×35cmであった。土壇1と同様に周壁は粘土で塗り固められた(略)壇底の東側の壁にいくこようにして耳つき的小型尖底土器が発見された(略)その他に壇内から黒曜石の剥片が相当量出土している。」				173・175	土壇1は平面が楕円形で、上端の長径が75cm、短径が48cm、深さは30cmである。断面形態は短軸で「U」字、長軸では中央部がくぼむ。壁には厚さ5~10cmの白色粘土が貼られており、壁の上端では固くしめる。土壇の上にも白色粘土が5~10cmの厚さでみられる。土壇の覆土は黒色土が主体で、覆土中からは粒状の白色物質(骨片か?)や赤色物質が検出された。土壇2は平面が楕円形で、上端の長径が約70cm、短径が35cmである。壁は土壇1と同様に白色粘土が貼られている。坑底の東壁からは小型完形の押型文土器が出土し、覆土中からは黒曜石のフレイクが多数出土した。				原著記述内容で土壇1・2ともに周囲の壁が「白色粘土を塗り固めて形づくられる」とあるがこのような事例はなく、明確に解釈できない。	
炉址は見えず、焼土も明瞭なものはない。				175	炉跡焼土は確認されず、明瞭な焼土もなかった。					
東壁張り出し部付近の床面上から5ヶ所の磨製石斧と石鏃片1ヶがまとまって出土している				175	張り出し1・2付近の床面からは磨製石斧5点、石鏃(片)1点がまとまって出土している					

表VI-7 第30号竪穴調査の概要一覧(1)

呼称	調査年	報告年	位置	形態	現況の径(大きさ)	現況の深さ	現況の盛土掘り上げ土	主な出土遺物	文献・資料
第30号竪穴 (住居址)	昭和39 (1964)	昭和41 (1966)	L1 地区	楕円形	5m	—	東、西、南側	押型文尖底石器 石匙・磨製石斧 石鏃・砥石 石皿	『北海道根室の先史遺跡』 根室市教育委員会 1966
	報告書 記録 からの情報	第72回 182頁	確認面(m)		底面(m)		深さ(m)		
			長径	短径	長径	短径			
			7.85	6.72	7.2	6.06	0.82		
「遺跡の概観」 記述内容				頁	内容整理				備考
「昭和39年にわれわれが発掘した竪穴4個は、ともに発掘前の状況が円形であったこと、それらがすべて押型文土器を出した。」				115	L1地区で昭和39年に調査した第1・25・29・30号竪穴は円形で確認され、いずれも押型文尖底石器が出土した。				
「調査の経緯」 記述内容				頁	内容整理				備考
7月28日 「29、30号竪穴の発掘にかかることとし、これらの原状実測をおこなう。この2竪穴は、相接しているため、現在は瓢箪形をなしている。すなわち、よく埋まった古い竪穴と、それ程でもない新しい竪穴とが重複している可能性が考えられる。本址を選定した所以もまたそのへんにある。」				125	現況の実測を行った。現地表面では近接する2つの円形のくぼみとして認識された。南側の深いくぼみが本遺構で、北側の浅いくぼみの第29号竪穴より新しいと考えられ、(これらの新旧関係を明らかにするため)本遺構と29号竪穴を調査対象とした。				
7月29日 「2×10mのトレンチを設けて、発掘を開始する。層序は1号址同様、表土下黒土層があり、地表下40cmでやや明色を帯びた礫まじりの層となる。(略)トレンチの端部近くからは炭化材が若干出土している。」				125	南北方向にトレンチ(A-A')を設定し、掘り下げた。土層は上位から表土、黒色土、覆土四層を確認した。トレンチ端(壁際か?)では微量の炭化材がみられた。				明るい混雑黒色土=覆土四層(後述)と判断した。
8月1日 「南北トレンチに直交する東西トレンチを設定して、混雑層まで掘り下げた。(略)混雑層をへて床に至るらしく、この礫層下部には、おびただしい木炭が包含されており、本址が火災に遭ったものであることを物語っている。この混雑層から(略)北筒式土器が発見された。」				126	東西方向にトレンチ(B-B')を設定し、混雑層(覆土四・五か?)まで掘り下げた。混雑層下位では多量の炭化材がみられ、本遺構は焼失住居跡と判断される。混雑層からは北筒式土器が出土した。				
8月3日 「周壁の発見に力を注いだ。斜面の上方にあたる北壁は、(略)壁が容易に発見できたが、下位にあたる南半部は、壁の想定線の付近につく混雑土がみられたので、(略)盛土によって壁を構成した疑いもありとして、この混雑土をいちはう壁と考え、このことにした。」				126・131	壁の立ち上がりは北側では確認できたが、斜面下方の南側では壁が想定される部分に混雑層があり、これを壁の立ち上がりと考えた。				混雑層=詳細不明
「中央部は床の露出作業をおこなったが、炭化材がおびただしく散乱(略)。床面から多量の押型文土器片が出土した。」				131	住居跡の中央付近を床面まで掘り下げた。炭化材が多量にみられ、床面からは押型文尖底石器が多く出土した。				
8月5日 「壁は部分的に階段状に2段をなしているところがある(略)屋根の遺材と考えられる炭化物が厚い層をなして処々で発見された。」				131	住居跡の北側部分で「段」を確認した。屋根材と推定される炭化材は厚く層状となって所々で出土した。				
8月6日 「床上にある炭化材の測図を終え、これに基づいて、床を追うこととした。炭化材の下には黒色土の薄層があり、この面に遺物が多かった。」				132	床直上の炭化材の実測図を作成後、取り上げ、床面を検出していった。床直上の黒色土(覆土八)層で遺物が多く出土した。				黒色土=覆土八層(後述)と判断した。
8月8日 「南壁の追跡に努力を注いだ(略)ようやくこれを確かめた。(略)竪穴が実は楕円形プランを有するものであった(略)竪穴はほぼ7.8mと6.5mの楕円形となるらしい。(略)床には砥石が散乱している(略)竪穴の北外側に径1mほどの浅い穴があったが無遺物であり、性格は明らかにしなかった。」				132・133	住居跡の南壁を確認できた。住居跡は平面が楕円形で、規模は長径7.8m、短径6.5mである。床面からは砥石が散らばって出土した。住居跡外の北側には径約1mの浅い掘り込みがみられた。				
「竪穴の発掘 第30号竪穴」 記述内容				頁	内容整理				備考
第72回 第30号竪穴実測図				182	内容を点検し、図の表記の方法から、付属遺構、礫石器、炭化材を判断し、付属遺構は焼土HP、柱穴・杭穴はpで連番を付した。土層断面図の注記はP181の本文から判断し「漢数字」で表記した。				
「本竪穴は、南西々に向かって下る緩い斜面上にみとめられた瓢箪形の窪地の下位の部分、すなわち、第29号竪穴に南接して存在した。」				181	本遺構は南南西方向の緩斜面上に位置し、双円形のくぼみの南側部分で、北側は29号竪穴住居跡に近接する。				
「幅2m、長さ10mの直交する2本のトレンチの設定(略)南北トレンチの南半をA区、北半をB区、他の1つのトレンチの東半をC区、西半をD区とし、この4区にはさまれた部分は、それぞれAC区、BC区、BD区、AD区と名づけた。」				181	南北方向(A-A')、東西方向(B-B')に十字にトレンチを設けた。住居内はトレンチを基にA区(南西側部分)、B区(北東側部分)、C区(南東側部分)、D区(北西側部分)、AC区(南側)、AD区(南西側部分)、BC区(東側部分)、BD区(北側部分)に分けた。本報告書では方位で住居跡の区域を示す。				
「トレンチ発掘の結果、本竪穴の埋積土は、下記の如く9層に分かれる。」 「第I～IX層説明」				181	層位は9層に分層した。本報告書では「漢数字」で表記した。「第I層」表土層=覆土一層、「第II層」黒色土層=覆土二層、「第III層」I層中にみられる黄色粘土層、「第IV層」混雑黒色土層=覆土四層、「第V層」混雑褐色土層=覆土五層、「第VI層」焼土層=覆土六層、「第VII層」炭化物層=覆土七層、「第VIII層」黒色土層=覆土八層、「第IX層」黄褐色ローム層=九層=VI層				第III層は色調や堆積状況から樽前c火山灰と判断する。
「VII層の炭化物は、ほぼ、住居跡の全面にあつたとしてよいが、AC～AD区にかけてはとくに顕著で、直径15cm前後の炭化木材も随所にみられ、それらに混じて、屋根材として使用したと考えられる菅の炭化物が厚さ1～2cmの層をなして検出された。またA区の周壁近くに、板材ともいえるような炭化材がみられた。」				181・183	覆土七層の炭化物は住居跡の全域に分布し、特に南半分に多くみられる。炭化材は直径約15cmのものが所々にみられ、菅の形状が残るもの、板状のものなどもみられた。				
「床面は、1号竪穴同様やはり鍋底状。」				183	床面は壁際から中央がくぼみ断面形態である。				
「平面形は直径8.00m、短径6.5mの楕円形である。」				183	住居跡は平面が楕円形で、規模は長径8m、短径6.5mである。				
「床面の土質は砂礫まじりの粘土層で、特にBC区・B区・BD区では砂礫の強いものであった。」				183	床面はVI層に砂礫が混じる粘質土層で、住居跡の北半部分では特に砂礫が多くみられた。				
「床の焼土はAD区一面に薄くあつたが、特に焼けていたのは、①C区の壁近く、②住居跡の中央部、③A区の壁よりの3か所にあつた。」				183	床面では住居跡の南西側部分で薄く焼土がみられた。図示した明瞭なものは3か所である。住居跡の東側の壁際(HF-2)、住居跡の中央部(HF-1)、住居跡の南西側部分(HF-3・4)である。				①: HF-2・②: HF-1・③: HF-3・4 ④は実測図から、2か所と判断した。
「③部は最大深3cmほど焼けこんだ火山灰で、その周囲は最大深10cmの黒色火山灰であり、その下の砂礫は火によって白っぽく変質していた。この変質部は直径35cmの円形で、厚さ6cmもあり、かなりの期間使用したものと思われる。」				183	HF-1は焼土の層厚約3cmで、その周囲は掘り込みがあり、黒色土層(覆土八層)が約10cm堆積する。覆土八層の下位のVI層中の砂礫は被熱により白色化する。白色部分は直径35cmの円形で、層の厚さは約6cmである。				(焼けこんだ)火山灰=層位は特定できない。 掘り込みは実測図断面から推定した。
「④部の焼土は紫がかった赤色で最大深12cmを形成」				183	HF-3・4は紫色を帯びた赤色で、層厚は約12cmである。				
「床面からの出土遺物は60余点が石器で、AD区に多くみられる。擦切磨製石斧は4点あり、その内1点はビット1の底より出土している。また、石鏃・横型石匙が多く、砥石は中心部の焼土(③部)を取り囲むようにおかれており、BD区・BC区では石皿が出土した。」				183	床面からは60点以上の石器が出土し、住居跡の南西側部分に多い。擦り切り手法による磨製石斧は4点出土し、1点はビット1の坑底出土である。石鏃、横長の石匙が多く、砥石はHF-1を囲むように位置する。石皿は住居跡の北側、東側部分から出土した。				ビット1: 特定できない。
「土器片が集団をなして出土している。矢羽根状の押型文をもつ尖底石器が2点あり、1つはA区の壁際に直立しており、他の1つはAD区の壁ぎわに壁の上面と同レベルで出土した。」				183	土器はまとまって出土した。矢羽根状の押型文が施された尖底石器は2個体あり、1つは住居跡の南西側の壁際に直立した状態で、もう1つは、南西側の壁際の上面から出土した。				後者は遺構外とも捉えられ、場所を特定できない。
「東部には床の間張りの張り出しがあり、(略)擦切石斧などの石器3点が出土した。」				183	住居跡の北側から東側部分にかけては「段」があり、擦り切り手法による磨製石斧など石器3点が出土した。				
「BC・B・BD区では壁は粘土層を掘って造成していたが、C・AC区では粘土層は壁の立ち上り2～3cmしかなく、A区では粘土層の立ち上りはなく、木炭層の散布状況と火山灰層の断面により確認することができた。」				183	壁は北西から東側部分ではVI層(黄褐色土層)を掘り込んで構築する。斜面下方の南から南東側部分では、炭化材層の広がりやIV層火山灰層の断面から壁の立ち上がりを確認した。				

表VI-7 第30号竪穴調査の概要一覧(2)

「竪穴の発掘 第1号竪穴」 記述内容	頁	内容整理	備考
「壁の立ち上りは一般にゆるやかで、そのまま床面へとつながり、鍋底状の床面を形成している。」	183	壁は緩やかに立ち上がり、床面は壁際から中央へと、くぼむ断面形態である。	
「柱穴或いはそれに準ずる穴(略)は全部で36個あり、住居の中心部に2個(p. 35・36)あるが、いずれも浅いものである。径10～15cmのものが大半で、中心部にむかって傾斜(垂直面より7～8度)を見せる柱穴(p. 2・5・8・18・24・25・27・29・32・33)がある。」	183	柱穴・杭穴は36か所確認した。住居跡の中央付近には2か所(p. 35・p. 36)あり、いずれも深さは約10cmと浅い。柱穴・杭穴は径10～15cmのものが大部分で、住居の中心へと傾くものもある。	柱穴・杭穴の番号は図示されておらず、本文から特定を試みたが、判断できずp. 35・36以外は、任意で番号を付けた。
「この柱穴をグループごとに分けると、p. 7・26を除いて9のグループに分けられる。 1) p. 1・2・2) p. 3・4・3) p. 5・6・4) p. 8・9・10・11・12・5) p. 13・14・15・16・17・6) p. 18・19・20・21・7) p. 22・23・24・25・8) p. 27・28・29・30・9) p. 31・32・33・34」	183・184	柱穴・杭穴は単独のものが2か所あり、それ以外は9つのまとまりがあり、2基単位のものもある。	実測図からはp. 35・36以外は壁に沿うように位置する。
「この各々のグループの中には、中央に向かって傾斜する柱穴が含まれている。(略)7)・8)グループでは中央にむかって3個の柱穴が一列に並んでいるのがみられる。」	184	柱穴・杭穴のまとまりの中には、住居の中心へと傾くものが、それぞれのグループにある。p. 28・29・30とp. 31・32・33はそれぞれ1列で平行する位置にある	
土塁状盛土について(略)南西部の住居跡の壁をたち切った地層の断面(A-A')をみると、壁を造成する際に盛土をしたと思われるような地層の乱れがみられた。この住居はゆるやかな斜面をもつ台地の縁に造成されたため、斜面の下面では上面の壁の高さとあわせるべく、盛土をしたことがこれによって明らかとなった。	184	住居跡の南西部の土層断面をみると、壁際に盛土したような土層(図番号11)がある。南西側方向へ傾斜する地形のため、斜面下側での壁の高さを北側の壁に揃えるために盛土していたと解釈した。	

表VI-8 黒曜石製石器の産地推定結果一覧

試料番号	図番号	出土地点	層位	器種	判別群	エリア	時代	番号
TS-1	図V-17-24	H-19	覆土	石槍またはナイフ	所山	置戸	縄文時代前期	TS-1
TS-2	図V-20-46	H-24	床面	石槍またはナイフ	白滝2	白滝	縄文時代前期	TS-2
TS-3	図V-20-47	H-24	床面	石槍またはナイフ	白滝1	白滝	縄文時代前期	TS-3
TS-4	図V-20-45	H-24	床面	石槍またはナイフ	白滝2	白滝	縄文時代前期	TS-4
TS-5	図V-20-48	H-24	床面	石錐	白滝1	白滝	縄文時代前期	TS-5
TS-7	図V-21-60	H-25	床面	石槍またはナイフ	所山	置戸	縄文時代前期	TS-7
TS-8	図V-24-99	P-37	底面	石槍またはナイフ	所山	置戸	縄文時代後期	TS-8
TS-9	図V-24-100	P-37	覆土	石槍またはナイフ	白滝1	白滝	縄文時代後期	TS-9
TS-6	図V-26-128	P-55	底面	石槍またはナイフ	置戸山	置戸	縄文時代後期	TS-6

表VI-9 放射性炭素年代測定結果一覧

試料番号	測定番号	遺構	層位	遺構種別	試料形態	遺構の予想時代	年代測定による時代	δ13C 補正あり	
								Libby Age (yrBP)	pMC (%)
本報告 TOS-4	IAAA-142751	H-20	床面直上	竪穴住居跡	木炭	縄文時代前期	縄文時代前期中葉	5230 ± 30	52.15 ± 0.17
トーサムボロ(1)	IAAA-112589	H-10	床面直上	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中葉	5210 ± 30	
トーサムボロ(1)	IAAA-103349	H-6	HF-1焼土	竪穴住居跡炉跡	木炭		縄文時代前期中葉	5110 ± 30	
トーサムボロ(1)	IAAA-91772	H-2	床面直上	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中葉	5090 ± 40	
トーサムボロ(1)	IAAA-91773	H-2	床面直上	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中葉	5090 ± 30	
トーサムボロ(1)	IAAA-91774	H-3	床面直上	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中葉	5070 ± 40	
トーサムボロ(1)	IAAA-103348	H-3	HF-1焼土	竪穴住居跡炉跡	木炭		縄文時代前期中葉	5070 ± 30	
トーサムボロ(1)	IAAA-91775	H-7	覆土	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中葉	5050 ± 30	
本報告 TOS-5	IAAA-142752	H-24	床面直上	竪穴住居跡	木炭	縄文時代前期	縄文時代前期中～後葉	4980 ± 30	53.78 ± 0.17
トーサムボロ(1)	IAAA-112590	H-13	床面直上	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中～後葉	4970 ± 30	
トーサムボロ(1)	IAAA-103350	H-2 F-6	覆土中焼土	竪穴住居跡	木炭		縄文時代前期中～後葉	4910 ± 30	
本報告 TOS-1	IAAA-142748	H-18	覆土	竪穴住居跡	木炭	縄文時代前期	縄文時代前期末葉～中期前葉	4720 ± 30	55.57 ± 0.18
本報告 TOS-2	IAAA-142749	H-19	HF-1焼土	竪穴住居跡炉跡	木炭	縄文時代前期	縄文時代中期前葉～中葉	4530 ± 30	56.88 ± 0.18
本報告 TOS-3	IAAA-142750	H-19	HF-2焼土	竪穴住居跡炉跡	木炭	縄文時代前期	縄文時代中期中葉～後葉	4120 ± 30	59.88 ± 0.2
本報告 TOS-6	IAAA-142753	H-26	覆土	竪穴住居跡	木炭	縄文時代前期	縄文時代後期初頭	3880 ± 20	61.73 ± 0.18

トーサムボロ湖周辺竪穴群(1)で報告済

付 篇

自然科学的手法による分析結果

1. 黒曜石製石器の産地推定

株式会社 パレオ・ラボ (竹原弘展)

1 はじめに

根室市豊里に所在するトーサムポロ湖周辺堅穴群より出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2 試料と方法

分析対象は、縄文時代前期の堅穴住居跡H-24、H-25及び前期～後期の堅穴住居跡H-19より出土した黒曜石製石器6点と、縄文時代後期の土坑P-37・P-55より出土した黒曜石製石器3点の合計9点である(表1)。

試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

$$1) Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$$

$$2) Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$$

$$3) Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$$

$$4) \log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$$

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度 \times 100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせる指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定

定に対して非常に有効な方法であるといえる。

ただし、風化試料の場合、 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の値が減少する(望月, 1999)。

試料の測定面にはなるべく綺麗で平坦な面を選んだ。原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

表1 分析対象となる黒曜石製石器

試料番号	器種	出土遺構・調査区	層位	遺物番号	時代
TS-1		H-19	覆土	—	縄文時代前～後期
TS-2	石槍またはナイフ	H-24	床面	6	縄文時代前期
TS-3				6	
TS-4				6	
TS-5	石錐			2	
TS-6		P-55	坑底	1	縄文時代後期
TS-7	石槍またはナイフ	H-25	床面	9	縄文時代前期
TS-8		P-37	坑底	1	縄文時代後期
TS-9			覆土	2	

表2 北日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)
		白滝2	7の沢川支流(2)、IK露頭(10)、十勝石沢露頭直下河床(11)、アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)
	上土幌	上土幌	十勝三股(4)タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊泉(10)
	旭川	旭川	近文台(8)、雨粉台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別1	中山(66)
		秩父別2	
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
留辺蘂	留辺蘂1	ケショマップ川河床(9)	
	留辺蘂2		
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)、鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7)、八森山公園(8)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9)、真城(33)
		北上折居2	
		北上折居3	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24)、大越沢(10)
		櫛引	たらのき代(19)
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
		根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
塩竈	塩竈	塩竈(10)	
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)
	新津	金津	金津(7)
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)
		七尋沢	七尋沢(3)、宮川(3)、枝持沢(3)

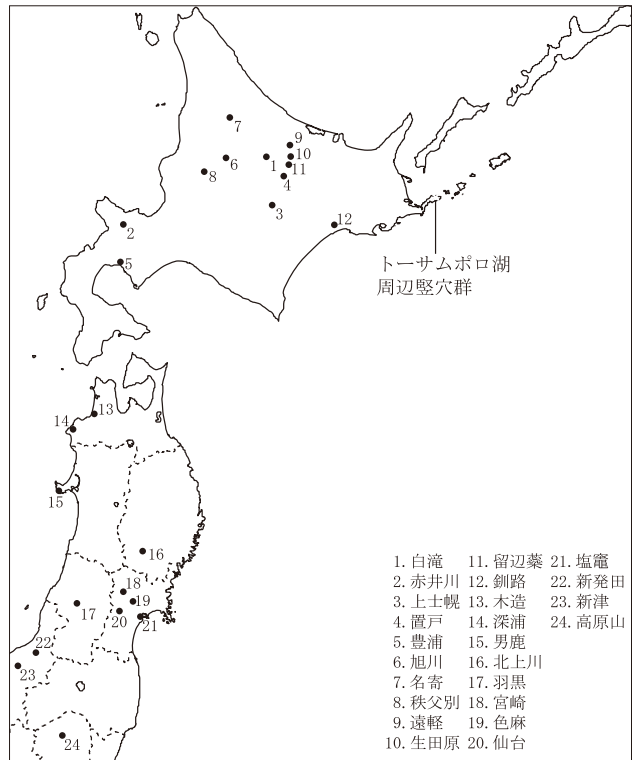


図1 北日本の黒曜石原石採取地の分布図

3 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、3点が白滝1群（北海道、白滝エリア）、2点が白滝2群（北海道、白滝エリア）、1点が置戸山群（北海道、置戸エリア）、3点が所山群（北海道、置戸エリア）の範囲にプロットされた。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。また、表4に時期および出土遺構別の産地推定結果を示す。

表3 測定値および産地推定結果

番号	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 / Fe	Sr分率	log Fe / K	判別群	エリア	番号
TS-1	252.6	76.0	1770.4	698.1	396.7	333.2	843.3	30.74	4.29	17.47	0.85	所山	置戸	TS-1
TS-2	241.9	79.1	1566.9	749.5	84.8	353.2	470.2	45.21	5.05	5.12	0.81	白滝2	白滝	TS-2
TS-3	200.7	60.1	1324.1	544.8	146.1	269.3	463.7	38.26	4.54	10.26	0.82	白滝1	白滝	TS-3
TS-4	236.0	80.5	1520.3	764.1	89.8	366.3	492.4	44.62	5.29	5.24	0.81	白滝2	白滝	TS-4
TS-5	272.8	85.9	1907.2	767.6	203.0	369.9	616.9	39.22	4.51	10.37	0.84	白滝1	白滝	TS-5
TS-6	232.3	91.3	2469.3	532.9	497.4	313.8	1085.4	21.93	3.70	20.47	1.03	置戸山	置戸	TS-6
TS-7	251.5	74.3	1739.8	670.8	390.2	325.7	814.0	30.48	4.27	17.73	0.84	所山	置戸	TS-7
TS-8	256.7	74.4	1765.4	679.0	381.7	323.6	805.4	31.01	4.21	17.43	0.84	所山	置戸	TS-8
TS-9	257.7	78.5	1740.5	716.2	187.8	346.9	580.5	39.11	4.51	10.25	0.83	白滝1	白滝	TS-9

表 4 時期および出土遺構別の産地

時期	出土遺構	白滝			置戸			合計
		白滝1	白滝2	小計	置戸山	所山	小計	
縄文時代前期	H-24	2	2	4	—	—	0	4
	H-25	—	—	0	—	1	1	1
	小計	2	2	4	—	1	1	5
縄文時代後期	P-37	1	—	1	—	1	1	2
	P-55	—	—	0	1	—	1	1
縄文時代前～後期	H-19	—	—	0	—	1	1	1
合計		3	2	5	1	3	4	9

4 おわりに

トーサムボロ湖周辺竪穴群より出土した黒曜石製石器計9点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、5点が白滝エリア産、4点が置戸エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定．大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2－上和田城山遺跡篇－」：172－179，大和市教育委員会．

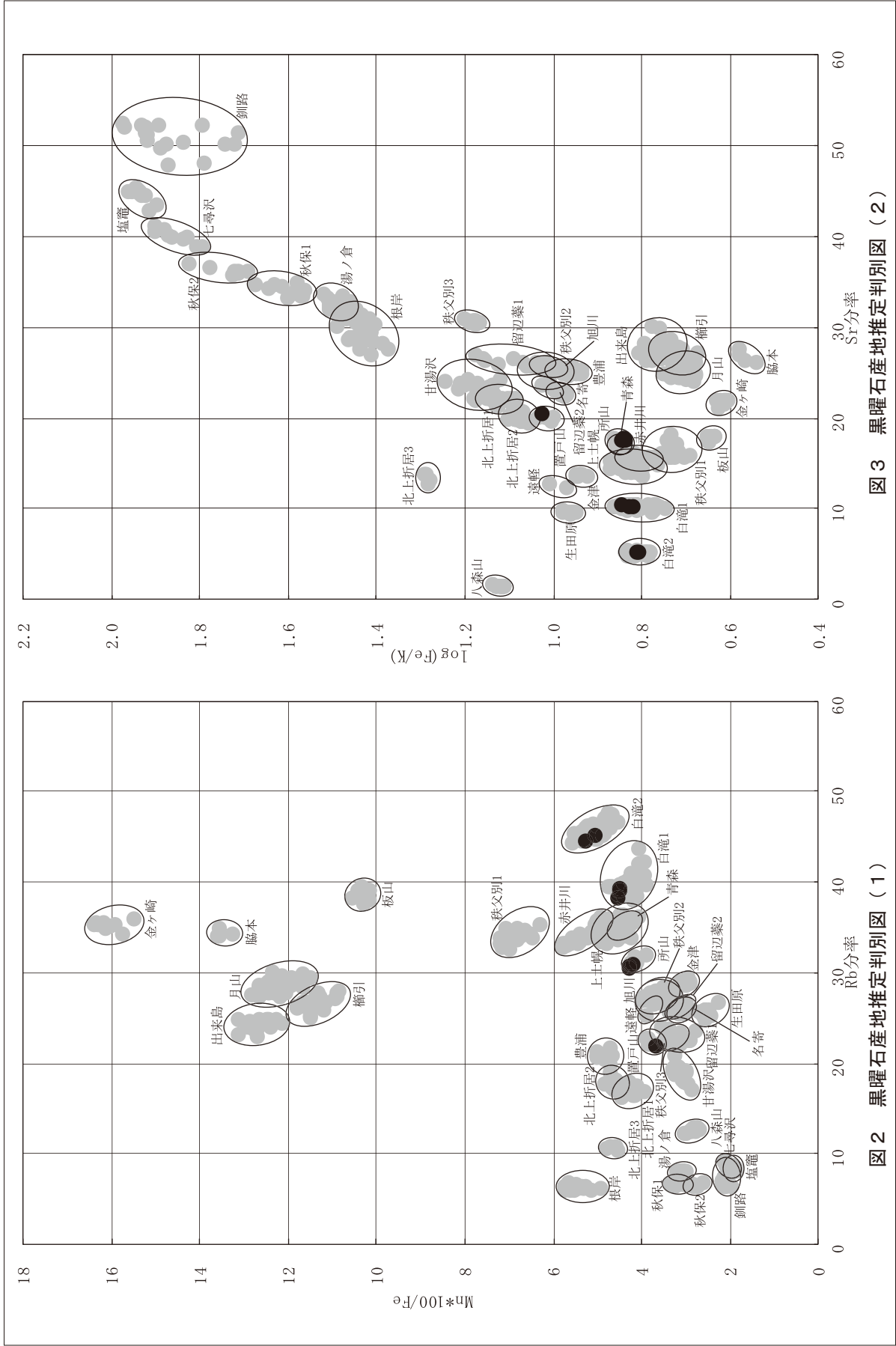


図2 黒曜石産地推定判別図(1)

図3 黒曜石産地推定判別図(2)

2. 放射性炭素年代測定

株式会社 加速器分析研究所

1 測定対象試料

トーサムボロ湖周辺竪穴群は、北海道根室市豊里96-1ほか（北緯43.389741°、東経145.753028°）に所在し、納沙布岬から西へ5 km、トーサムボロ沼東側の段丘上に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した木炭6点である（表1）。

摩周テフラ上位の黒色土を掘り込んで竪穴住居跡が構築されている。H-18、H-20、H-24、H-26は焼失住居跡である。

2 測定の意義

複数の竪穴住居跡の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（A A A：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。A A A処理における酸処理では、通常1 Mol/l（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「A A A」、1 M未満の場合は「A a A」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yr B P）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0 yr B P）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、表2に示す。

試料6点の ^{14}C 年代は、5230 \pm 30yrBP (TOS-4) から3880 \pm 20yrBP (TOS-6) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古いTOS-4が4043~3990cal BCの範囲、最も新しいTOS-6が2453~2298cal BCの間に3つの範囲で示され、古い方から順にTOS-4が縄文時代前期中葉頃、TOS-5が前期中葉から後葉頃、TOS-1が前期末葉から中期前葉頃、TOS-2が中期前葉から中葉頃、TOS-3が中期中葉から後葉頃、TOS-6が後期初頭頃に相当する (小林編 2008)。

試料の炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

[#7092]

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC (%)
IAAA-142748	TOS-1	竪穴住居跡 H-18 覆土	木炭	AAA	-26.63 \pm 0.26	4,720 \pm 30	55.57 \pm 0.18
IAAA-142749	TOS-2	竪穴住居跡 H-19 HF-1焼土	木炭	AAA	-21.51 \pm 0.33	4,530 \pm 30	56.88 \pm 0.18
IAAA-142750	TOS-3	竪穴住居跡 H-19 HF-2焼土	木炭	AAA	-25.69 \pm 0.27	4,120 \pm 30	59.88 \pm 0.20
IAAA-142751	TOS-4	竪穴住居跡 H-20 床直上	木炭	AAA	-22.73 \pm 0.31	5,230 \pm 30	52.15 \pm 0.17
IAAA-142752	TOS-5	竪穴住居跡 H-24 床直上	木炭	AAA	-25.31 \pm 0.25	4,980 \pm 30	53.78 \pm 0.17
IAAA-142753	TOS-6	竪穴住居跡 H-26 覆土	木炭	AaA	-25.37 \pm 0.27	3,880 \pm 20	61.73 \pm 0.18

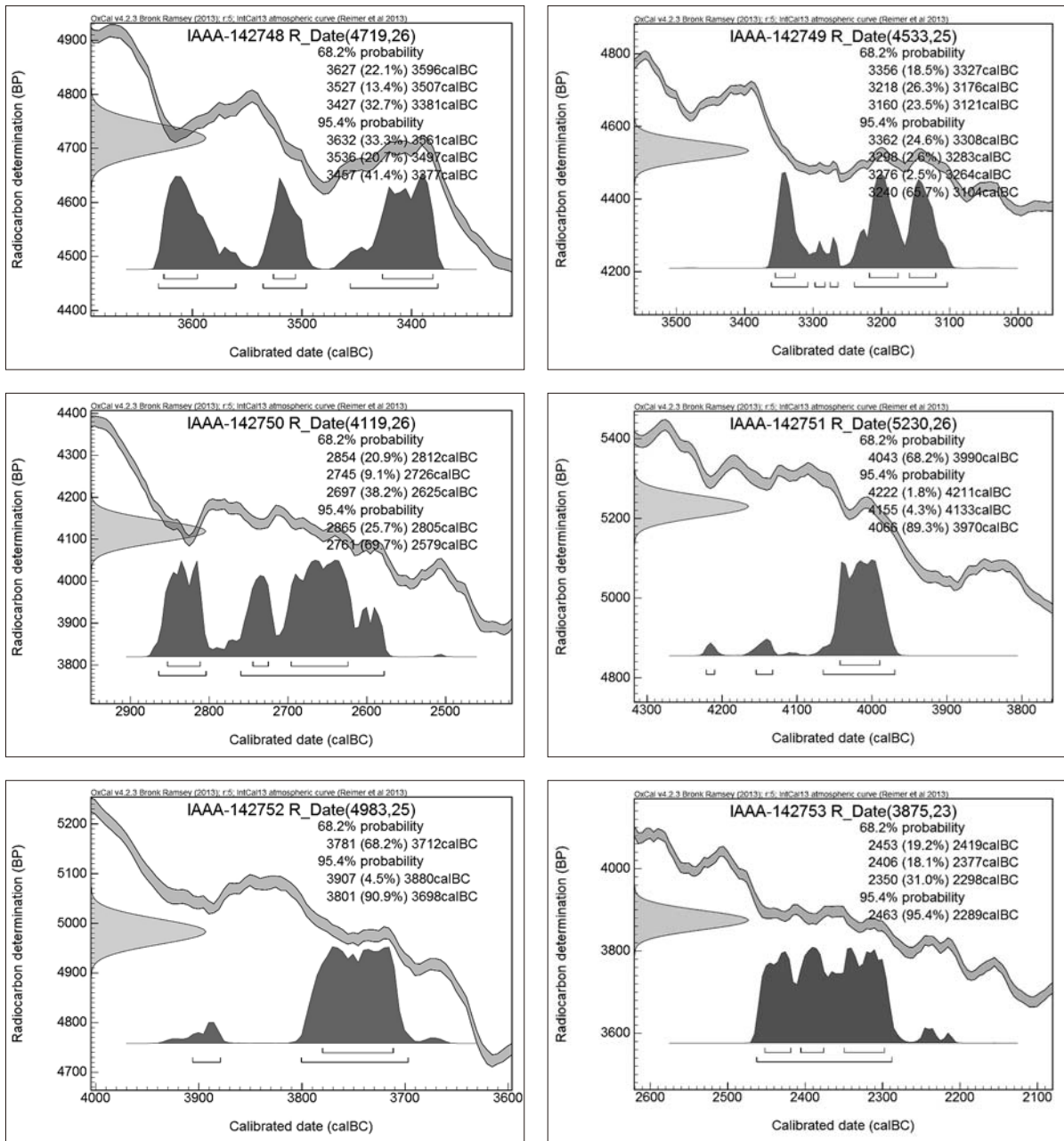
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

[参考値]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-142748	4,750 \pm 30	55.38 \pm 0.18	4,719 \pm 26	3627calBC-3596calBC (22.1%) 3527calBC-3507calBC (13.4%) 3427calBC-3381calBC (32.7%)	3632calBC-3561calBC (33.3%) 3536calBC-3497calBC (20.7%) 3457calBC-3377calBC (41.4%)
IAAA-142749	4,480 \pm 20	57.28 \pm 0.18	4,533 \pm 25	3356calBC-3327calBC (18.5%) 3218calBC-3176calBC (26.3%) 3160calBC-3121calBC (23.5%)	3362calBC-3308calBC (24.6%) 3298calBC-3283calBC (2.6%) 3276calBC-3264calBC (2.5%) 3240calBC-3104calBC (65.7%)
IAAA-142750	4,130 \pm 30	59.80 \pm 0.19	4,119 \pm 26	2854calBC-2812calBC (20.9%) 2745calBC-2726calBC (9.1%) 2697calBC-2625calBC (38.2%)	2865calBC-2805calBC (25.7%) 2761calBC-2579calBC (69.7%)
IAAA-142751	5,190 \pm 30	52.39 \pm 0.17	5,230 \pm 26	4043calBC-3990calBC (68.2%)	4222calBC-4211calBC (1.8%) 4155calBC-4133calBC (4.3%) 4066calBC-3970calBC (89.3%)
IAAA-142752	4,990 \pm 30	53.74 \pm 0.17	4,983 \pm 25	3781calBC-3712calBC (68.2%)	3907calBC-3880calBC (4.5%) 3801calBC-3698calBC (90.9%)
IAAA-142753	3,880 \pm 20	61.68 \pm 0.18	3,875 \pm 23	2453calBC-2419calBC (19.2%) 2406calBC-2377calBC (18.1%) 2350calBC-2298calBC (31.0%)	2463calBC-2289calBC (95.4%)

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360.
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション.
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887.
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363.



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

3. 炭化材樹種同定

株式会社 パリノ・サーヴェイ

はじめに

トーサムポロ湖は、根室半島東端のオホーツク海に面した湖で、湖の北側にオホーツク海と繋がる湖口がある汽水湖である。トーサムポロ湖周辺竪穴群は、湖を囲むように分布する段丘上にあり、縄文時代早期～オホーツク文化期・擦文文化期の竪穴が2000箇所以上存在すると考えられている。

本報告では、湖口東岸の段丘上の調査で検出された竪穴出土の炭化材について、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、縄文時代前期の竪穴住居跡 H-18と H-24から出土した炭化材各3点、合計6点（TOS-1～6）である。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹4分類群（オニグルミ・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コシアブラ・トネリコ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表1 樹種同定結果

試料No.	遺構	時期	取上No.	種類
TOS-1	H-18	縄文時代前期	サンプルNo.1	オニグルミ
TOS-2	H-18	縄文時代前期	サンプルNo.3	コナラ属コナラ亜属コナラ節
TOS-3	H-18	縄文時代前期	サンプルNo.6	コシアブラ
TOS-4	H-24	縄文時代前期	サンプルNo.1	トネリコ属
TOS-5	H-24	縄文時代前期	サンプルNo.2	トネリコ属
TOS-6	H-24	縄文時代前期	サンプルNo.4	コナラ属コナラ亜属コナラ節

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コシアブラ (*Acanthopanax sciadophylloides* Fr. et Sav.) ウコギ科ウコギ属

環孔材で、孔圏部は接線方向が疎な1列で、孔圏部にも小道管が認められる。孔圏外で急激に径を減じた後、多数が複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性~同性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

4. 考察

縄文時代前期の竪穴住居跡から出土した炭化材には、合計4種類の広葉樹が認められた。オニグルミは、河畔等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。コナラ節は、本地域に見られる落葉広葉樹林の主要な構成種である落葉高木のミズナラを含む。コナラ節の木材は重硬で強度が高い。コシアブラは、山地・丘陵地に生育する落葉高木で、木材は軽軟な部類に入り、強度と保存性は低い。トネリコ属は、湿地に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。

遺構別にみると、H-18は、住居の中央から北側にかけての範囲で炭化材が多数確認されている。炭化材は、住居中央から外側に向かって放射状に延びるものや、それに直交するように出土しているものがあり、垂木や横木等が含まれていると考えられるが、今回の分析試料の部位については詳細が不明である。炭化材には、オニグルミ、コナラ節、コシアブラが認められ、少なくとも3種類の木材が利用されたと考えられる。オニグルミやコナラ節が利用されていることから、比較的強度の高い木材を利用したことが推定される。コシアブラについては、軽軟で強度・保存性が低いことから、オニグルミやコナラ節とは異なる用途・部位に利用された可能性がある。

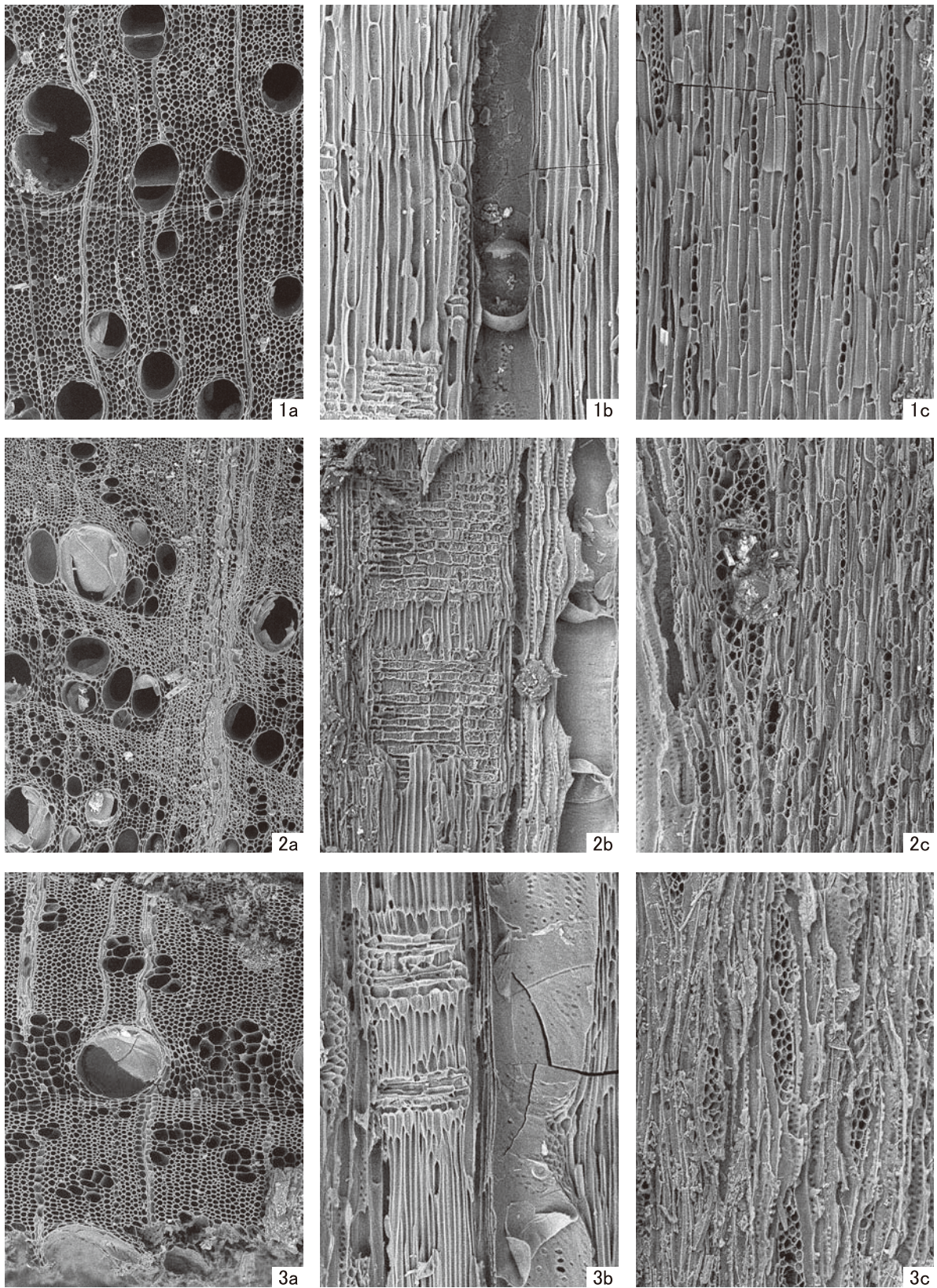
H-24は、住居南側の主に壁に近い床面上から炭化材が出土している。分析した炭化材は、放射状に出土しており、垂木等に由来すると考えられる。炭化材は、トネリコ属とコナラ節に同定され、強度が高い木材の選択・利用が推定される。

伊東・山田(2012)のデータベースによれば、縄文時代前期の住居跡出土炭化材の樹種同定を実施した例は、道南(渡島)地域の蛇内遺跡、花岡2遺跡、森川3遺跡の報告があり、クリ、クワ属、コナラ節、ニレ属、モクレン属、ヤナギ属が確認されている。一方、道東では、縄文時代前期の木材利用に関する調査例は掲載されていない。今回の結果から、道南(渡島)地域と同様の木材が利用されていたことが推定される。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

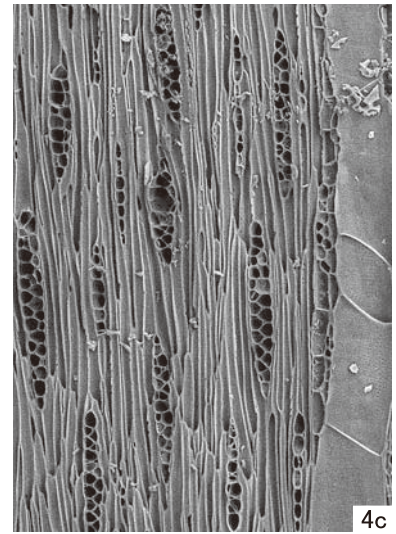
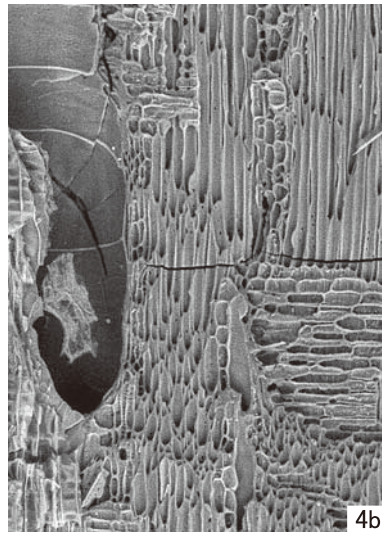
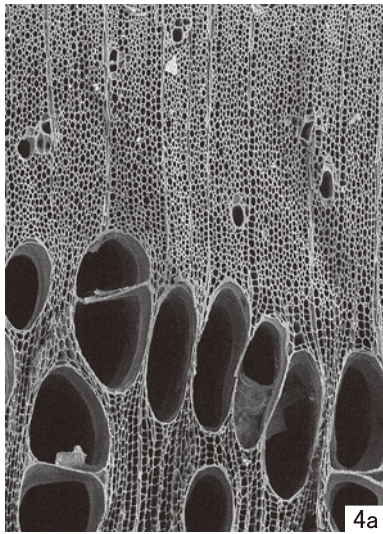
図版1 炭化材(1)



1.オニグルミ(TOS-1;H-18No.1)
 2.コナラ属コナラ亜属コナラ節(TOS-6;H-24No.4)
 3.コシアブラ(TOS-2;H-18No.6)
 a:木口,b:柎目,c:板目

100 μ m:a
 100 μ m:b,c

図版 2 炭化材 (2)



4.トネリコ属(TOS-5;H-24No.2)
a:木口,b:柎目,c:板目

100 μ m:a
100 μ m:b,c

写真図版



トーサムポロ湖周辺竪穴群B地区遠景（南西から）



調査風景（東から）

図版 2



調査区西側調査状況（東から）



調査区東側調査状況（西から）



調査区東側完掘状況（西から）



調査区中央付近完掘状況（北東から）

図版 4



調査区完掘状況（東から）



H-17 土層断面（北から）



H-18 東西土層断面（南西から）



H-18 覆土中焼土・炭化材検出状況（東から）



H-18 HP-12・13 土層断面（南から）



H-18 HP-21 土層断面（南から）



H-19 東西土層断面（南西から）



H-19 HF-3 土層断面（南から）



H-19 HS-1 検出状況（北東から）



H-19 完掘（北から）



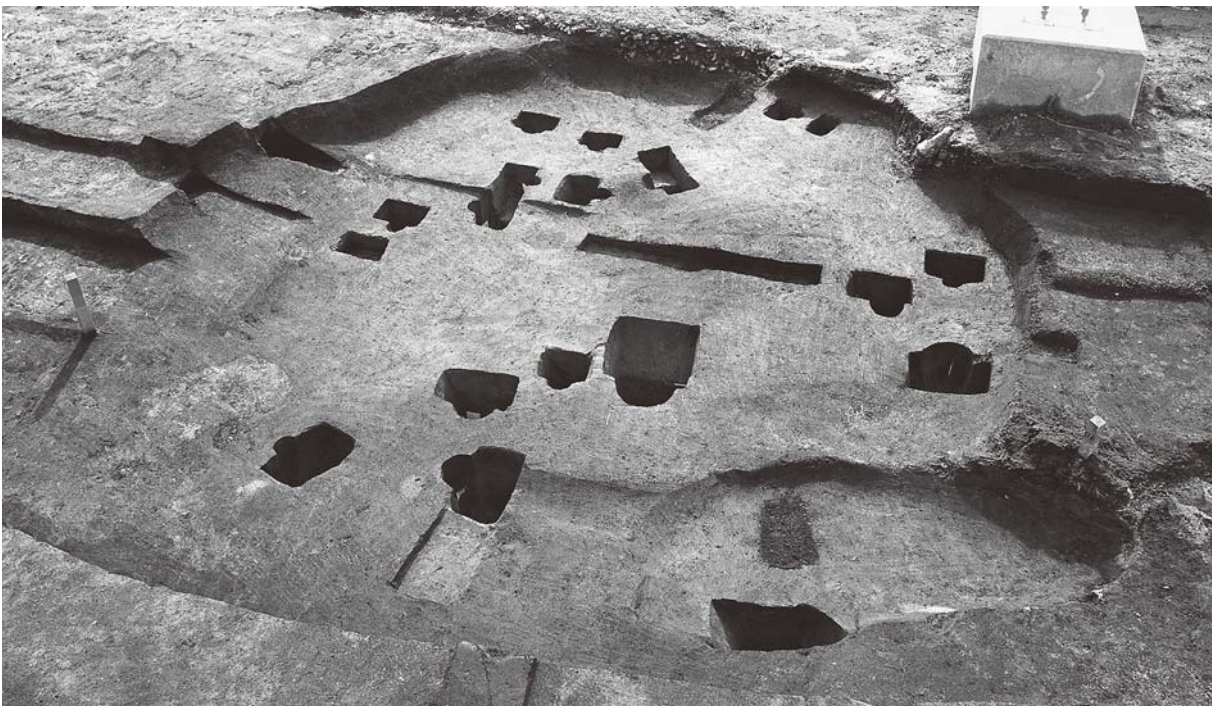
H-20 土層断面（東から）



H-20 覆土中焼土・炭化材検出状況（西から）



H-20 HP-13 土層断面（南から）



H-20 完掘（北西から）

図版 8



H-21 東西土層断面（南西から）



H-21 HP-1 土層断面（西から）



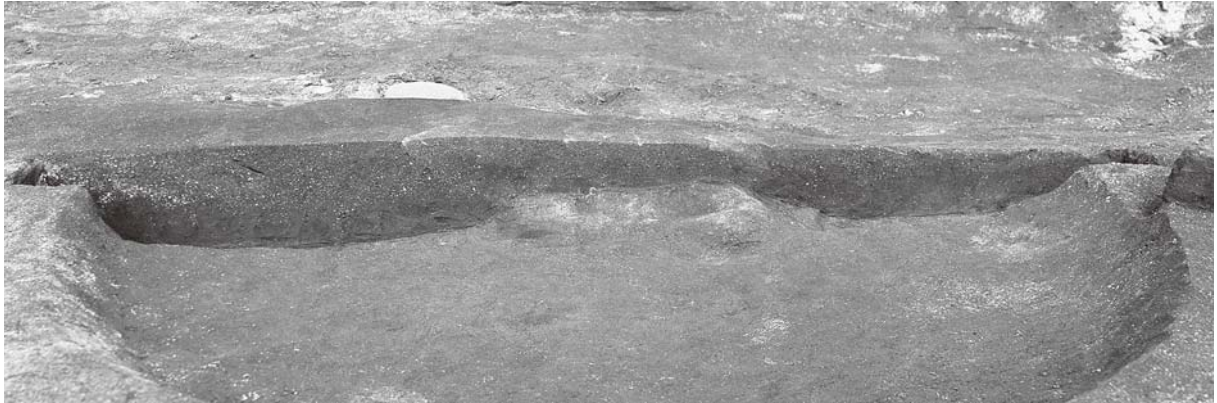
H-21 HF-1 検出状況（北西から）



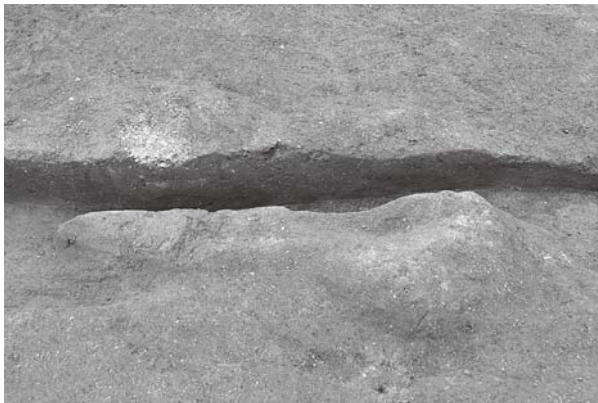
H-21 HP-4 土層断面（南西から）



H-21 完掘（北西から）



H-22 土層断面 (南から)



H-22 HF-1 土層断面 (南から)



H-22 HP-1 土層断面 (西から)



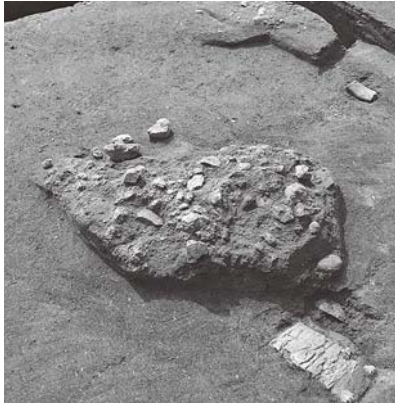
H-22 HP-7 土層断面 (北西から)



H-22 完掘 (南東から)



H-23 東西土層断面（南西から）



H-23 HS-1 検出状況（北東から）



H-23 HFC-1 検出状況（東から）



H-23 HP-26 土層断面（西から）



H-23 完掘（東から）



H-24 東西土層断面（南東から）



H-24 石槍またはナイフ出土状況（南東から）



H-24 遺物出土状況（南西から）



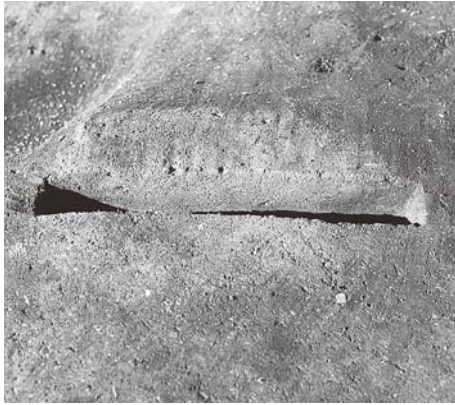
H-24 覆土中焼土・炭化材検出状況（東から）



H-24 完掘（南から）



H-25 東西土層断面（南から）



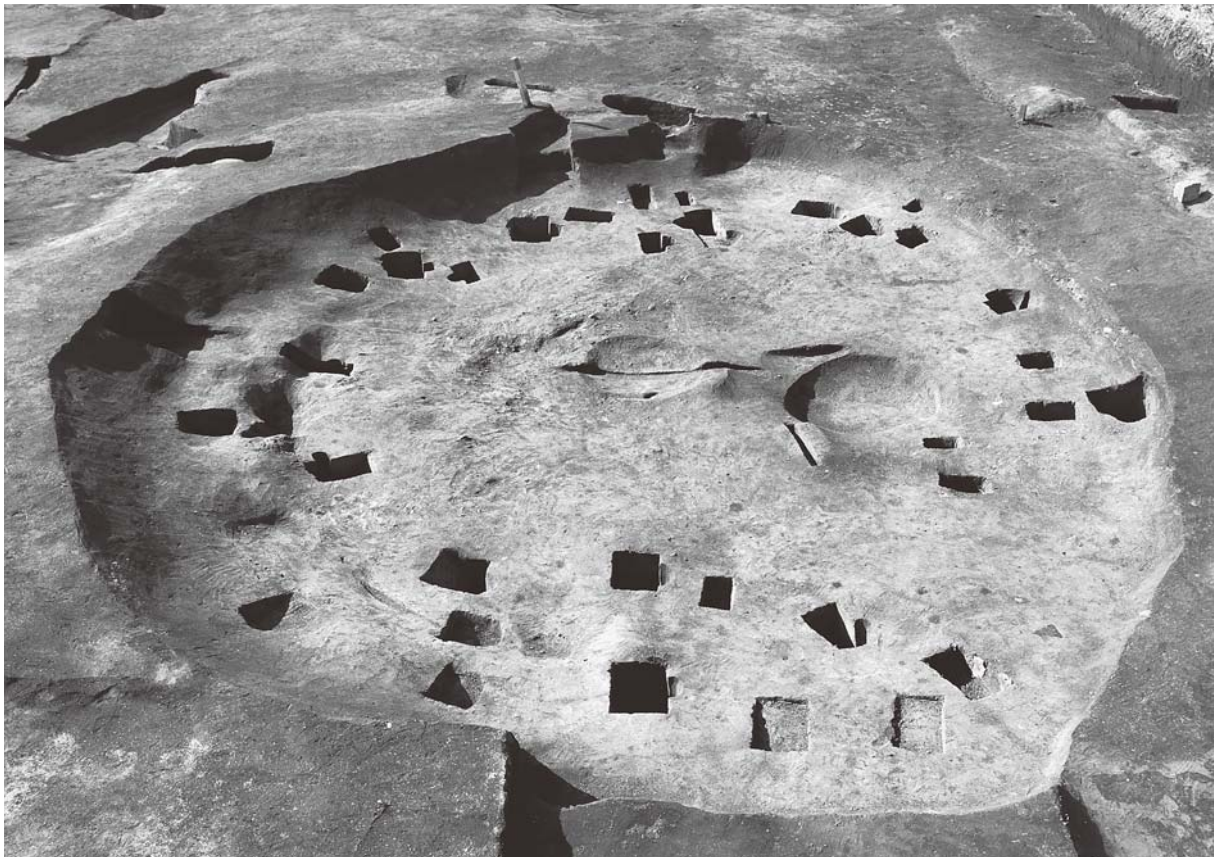
H-25 HF-2 検出状況（南から）



H-25 床面遺物出土状況（南東から）



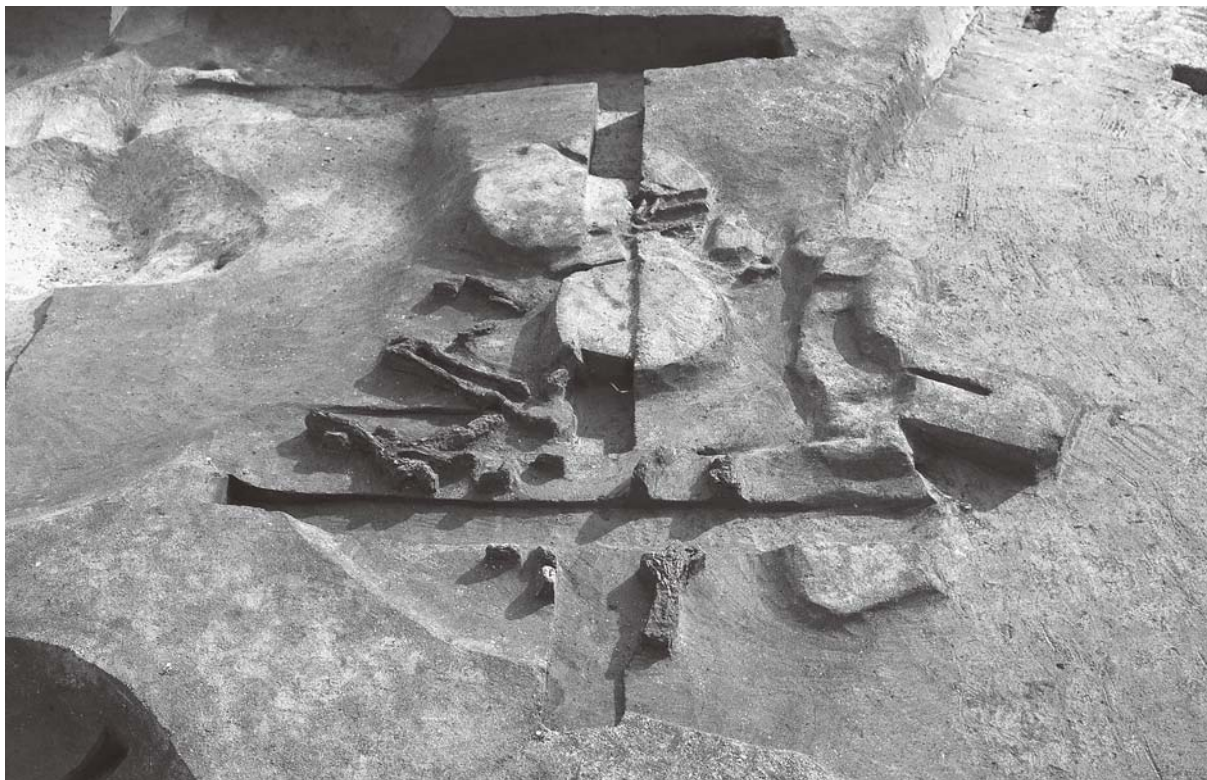
磨製石斧出土状況（南西から）



H-25 完掘（東から）



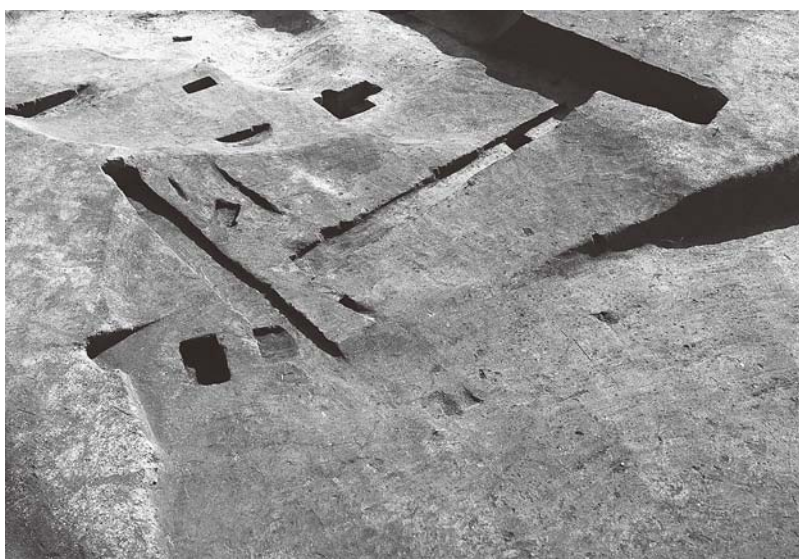
H-26 東西土層断面（北から）



H-26 覆土中焼土・炭化材検出状況（北から）



H-26 覆土中焼土土層断面（東から）



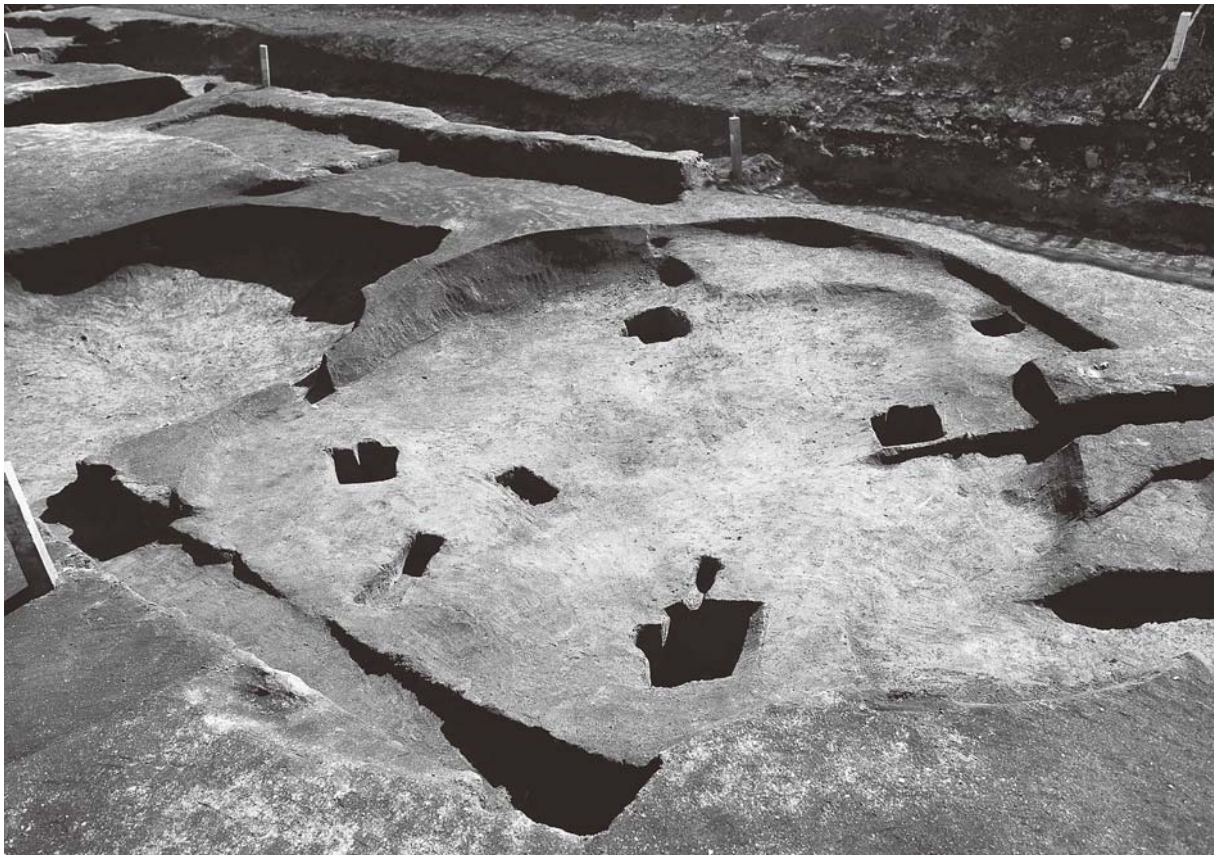
H-26 完掘（北西から）



H-27 東西土層断面（南西から）



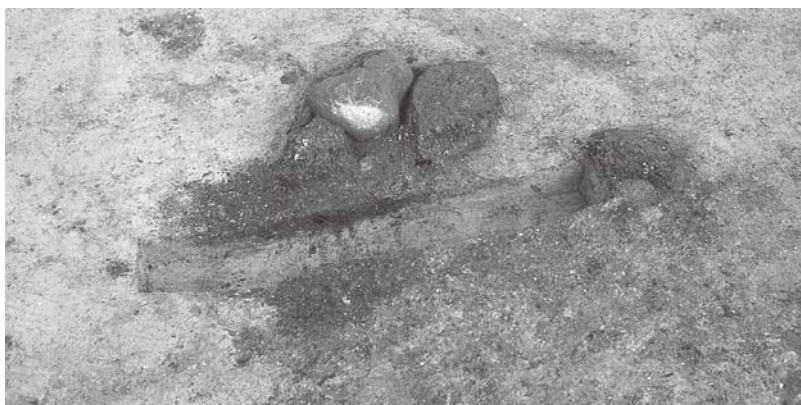
H-27 南北土層断面（北西から）



H-27 完掘（北西から）



H-28 土層断面（北から）



H-28 HF-1 土層断面（南西から）



H-28 遺物出土状況（西から）



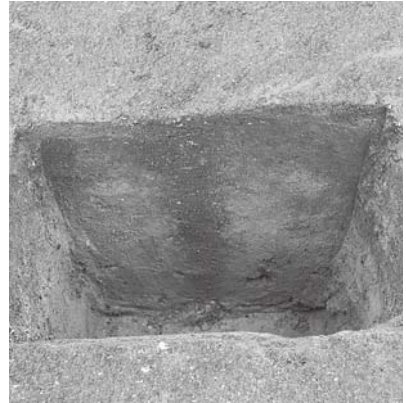
H-29 土層断面 (南から)



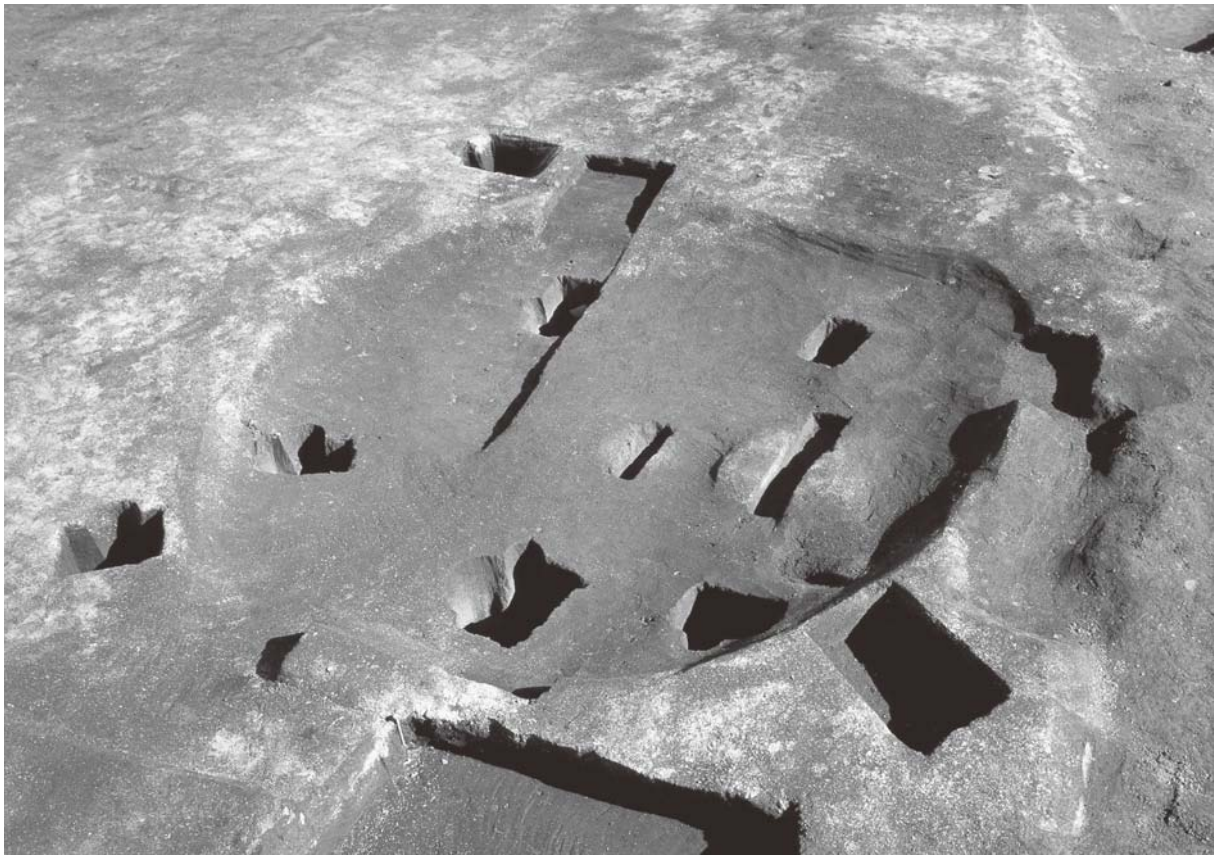
H-29 HF-1・2 土層断面 (南東から)



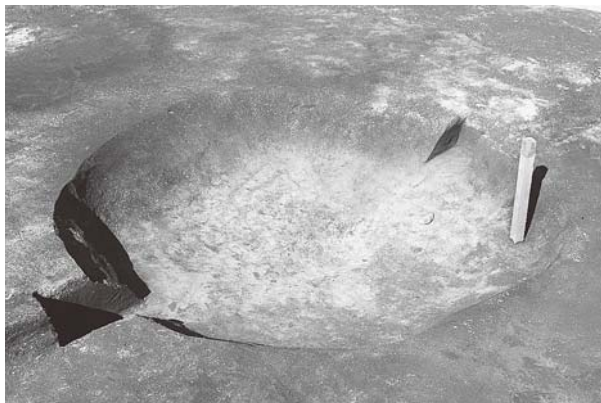
H-29 HP-2 土層断面 (南から)



H-29 HP-4 土層断面 (南から)



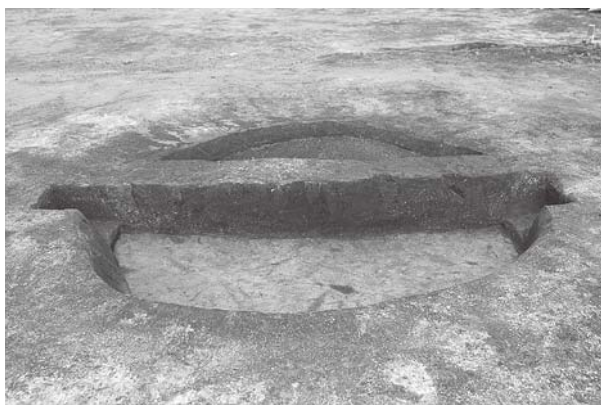
H-29 完掘 (西から)



P-26 遺物出土状況（南西から）



P-27 完掘（南西から）



P-28 土層断面（南から）



P-29 完掘（西から）



P-30 遺物出土状況（北東から）



P-31 土層断面（西から）



P-32 遺物出土状況（北西から）



P-33 完掘（北から）



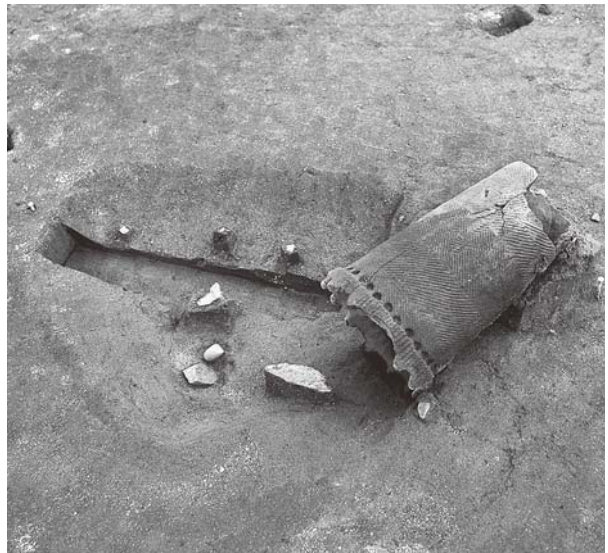
P-34 完掘（北西から）



P-35 遺物出土状況（北から）



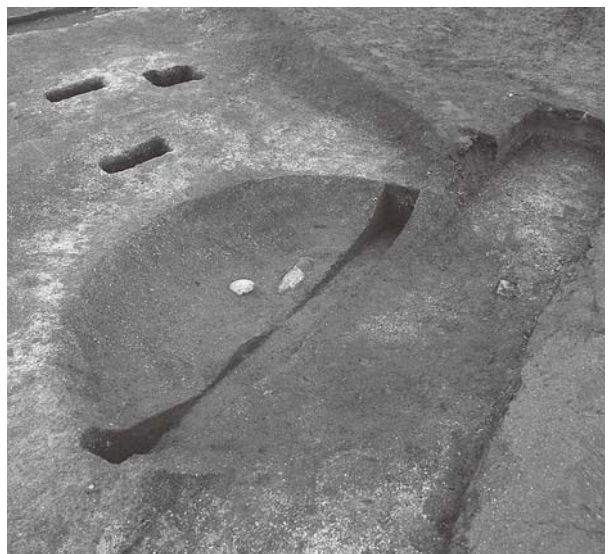
P-36 完掘（北東から）



P-37 遺物出土状況（南西から）



P-37 土器内石槍またはナイフ出土状況（東から）



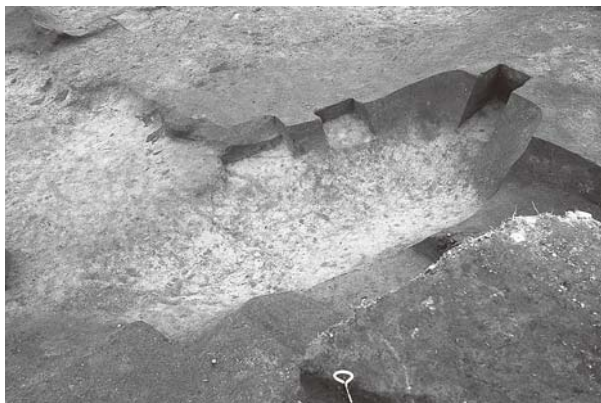
P-38 遺物出土状況（北東から）



P-39 遺物出土状況（西から）



P-40 完掘（北から）



P-41 完掘（西から）



P-42 完掘（西から）



P-43 土層断面（南から）



P-43 掘り上げ土検出状況（南東から）



P-43 完掘（北西から）



P-44 完掘（南西から）



P-45 遺物出土状況（北から）



P-45 遺物出土状況（東から）



P-45 SP検出状況（南から）



P-46 遺物出土状況（北から）



P-46 完掘（北から）



P-47 遺物出土状況（北東から）



P-48 遺物出土状況（西から）



P-49 完掘 (北西から)



P-50 完掘 (北西から)



P-51 完掘 (南から)



P-52 炭化材検出状況 (西から)



P-53 完掘 (東から)



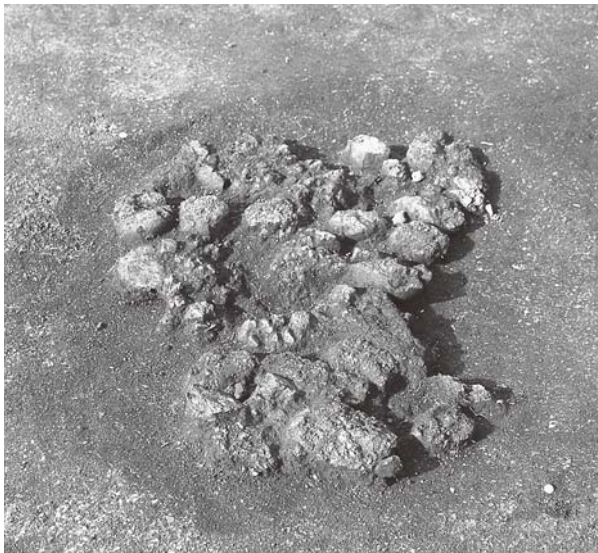
P-54 完掘 (東から)



P-55 土層断面 (南西から)



P-56 遺物出土状況 (北東から)



P-57 遺物出土状況 (東から)



F-1 検出状況 (北東から)



F-2 上面炭化材検出状況 (南西から)



F-3 土層断面 (北から)



F-4 土層断面 (西から)



F-5 土層断面 (南から)



包含層土器出土状況 (西から)



包含層石器出土状況 (北東から)



調査状況 (西から)



H-24



1 H-24・P-48

2



H-24・P-48



3 H-24・P-51

4



H-25

5



P-31

6

P-37

7



P-46・P-49

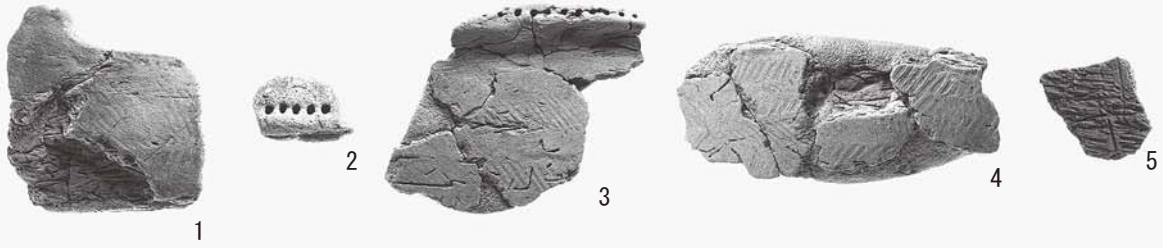
8



P-49

9

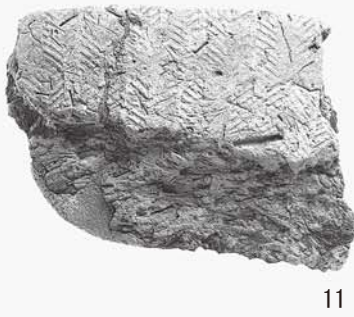
H-17



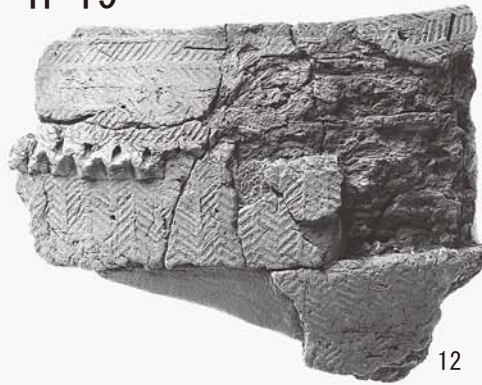
H-18



H-18・H-19



H-19



H-20



H-21・P-34・P-47

H-21



23



24



25

H-21・H-19

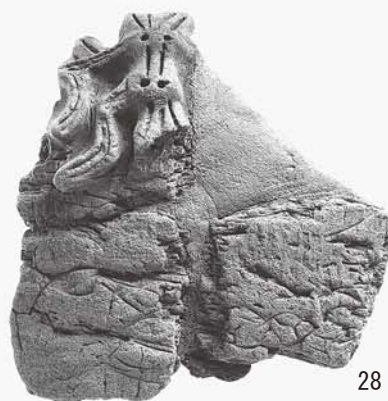


26

H-23



27



28



29



30



31

H-24



32



33



34



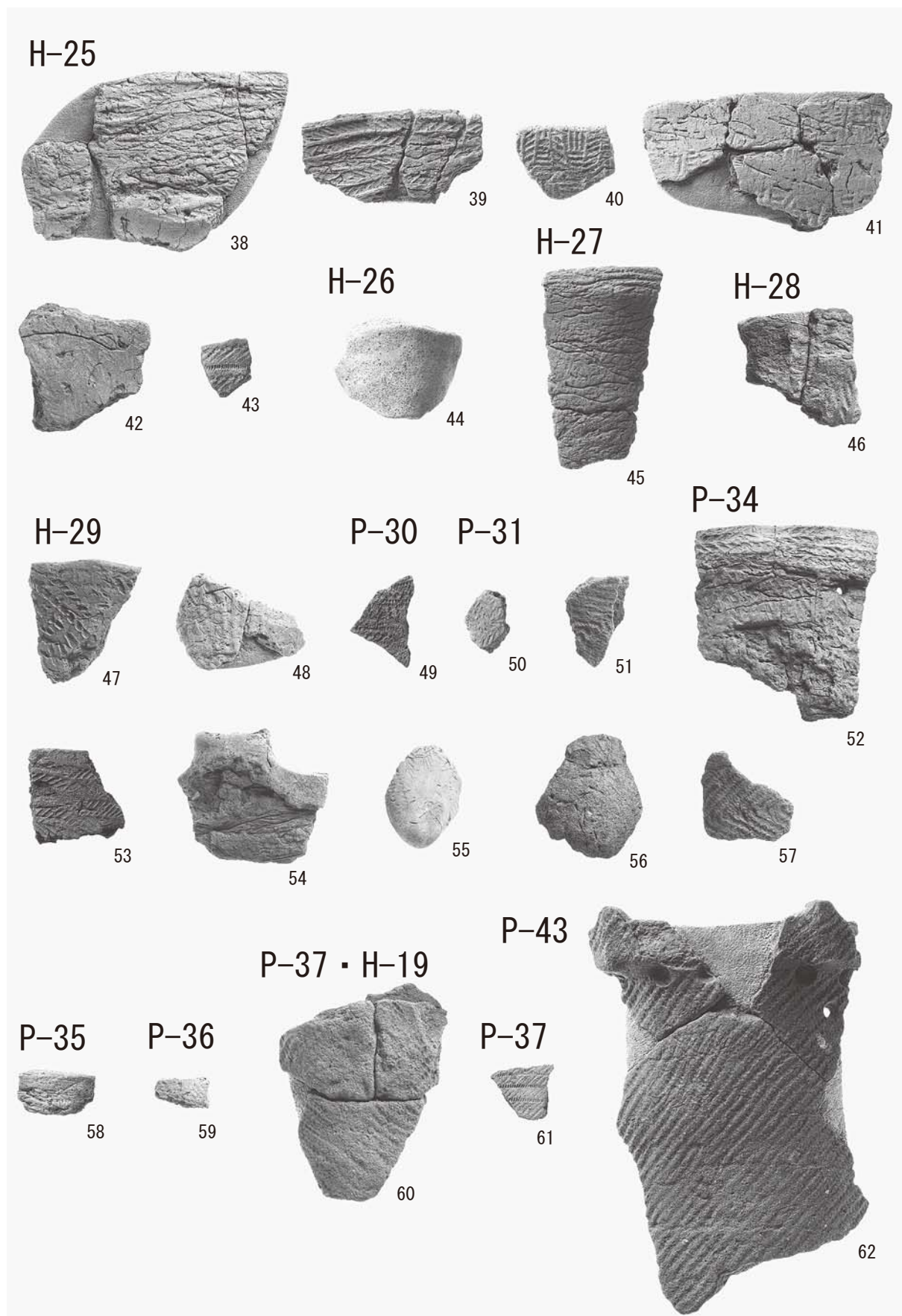
35



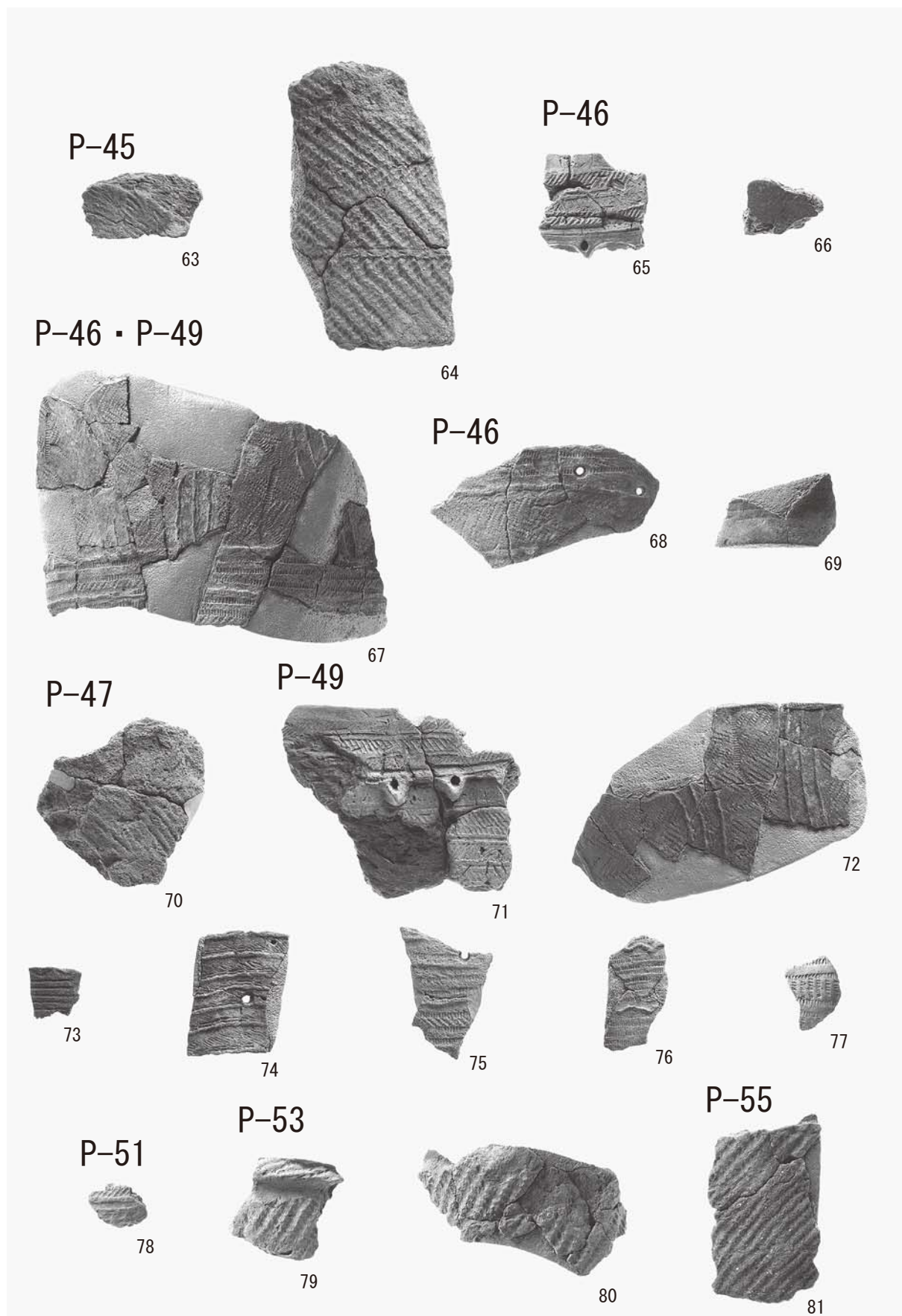
36



37



遺構出土の破片土器 (3)



遺構出土の破片土器（4）



1



2



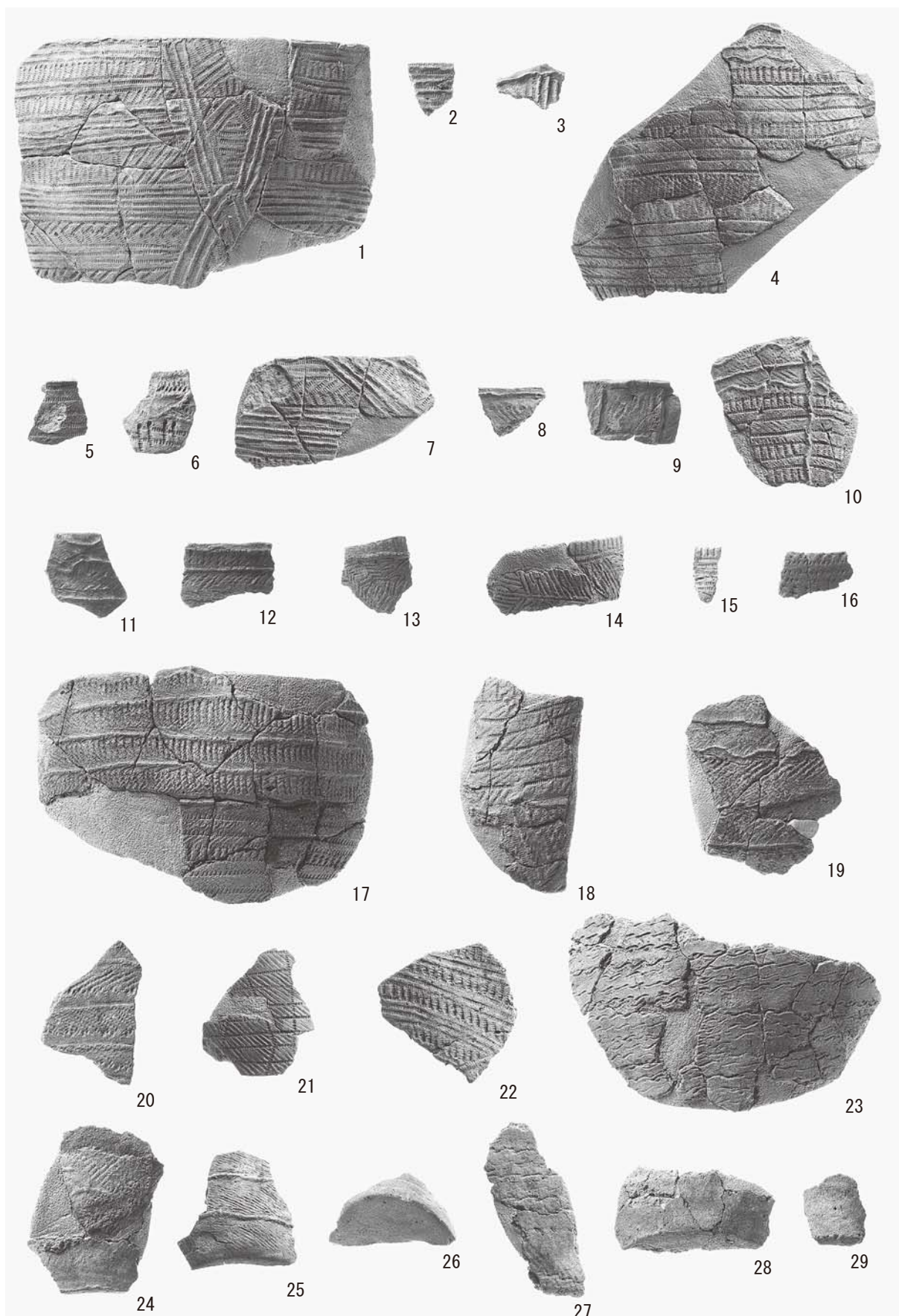
3



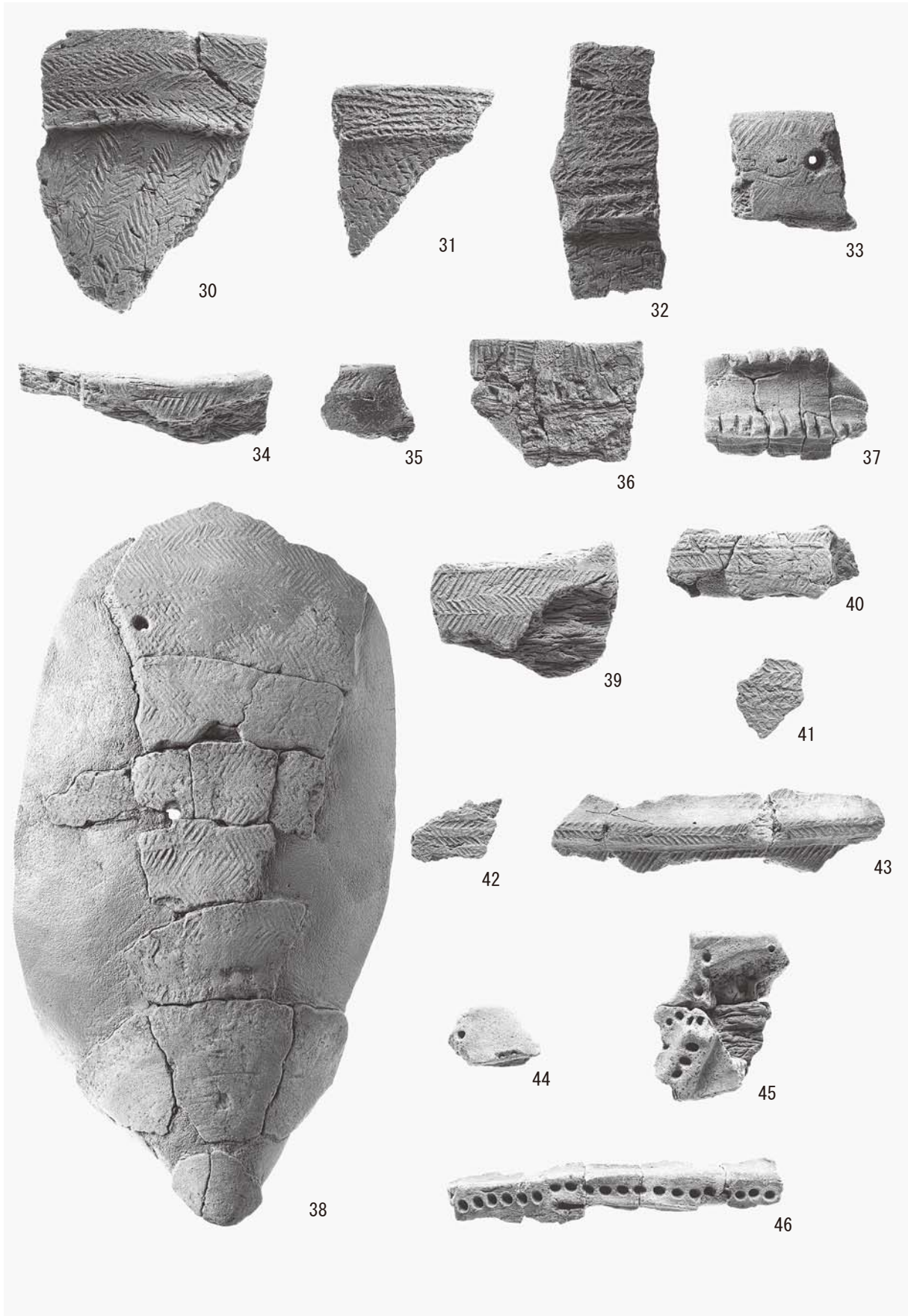
4



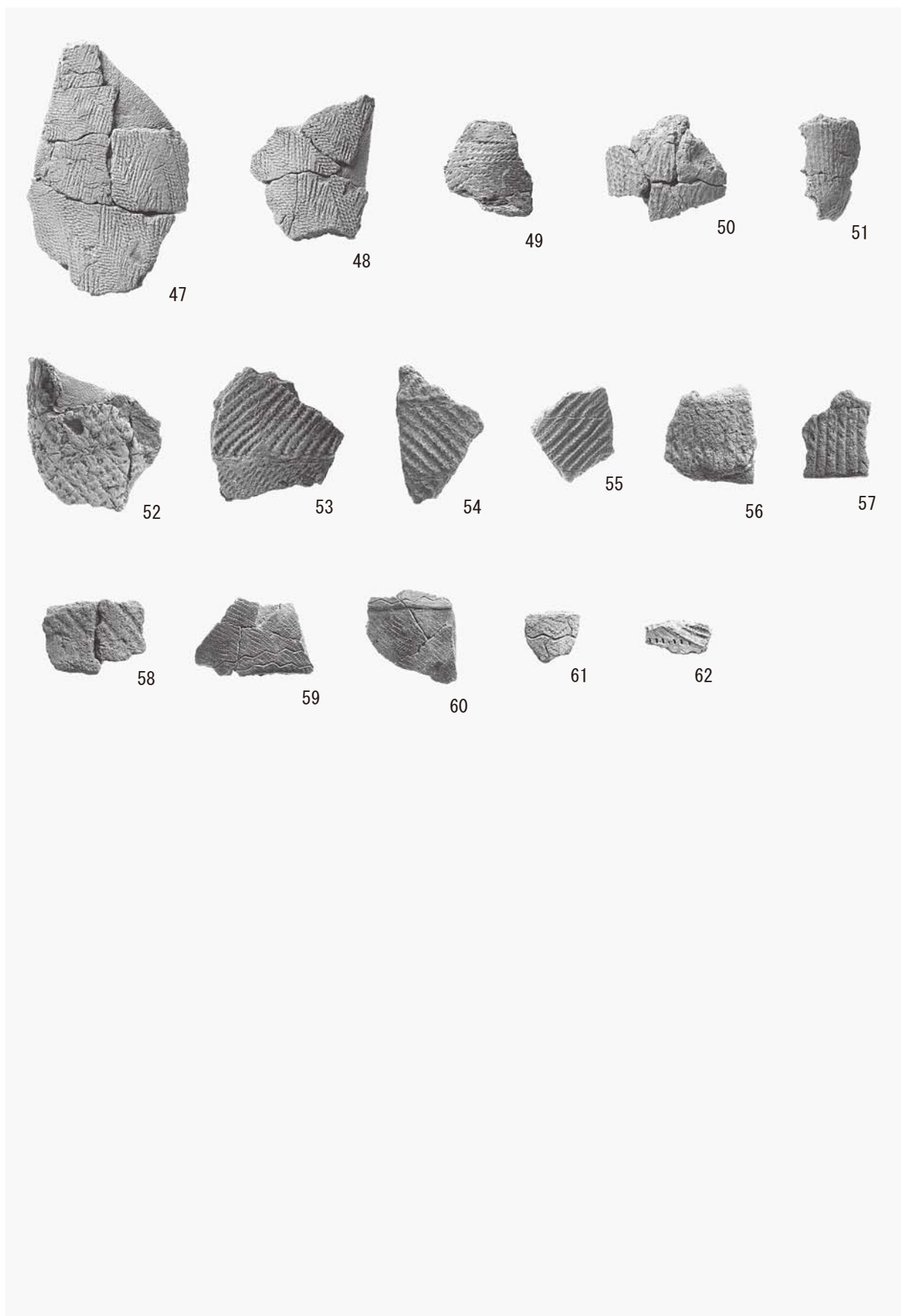
5



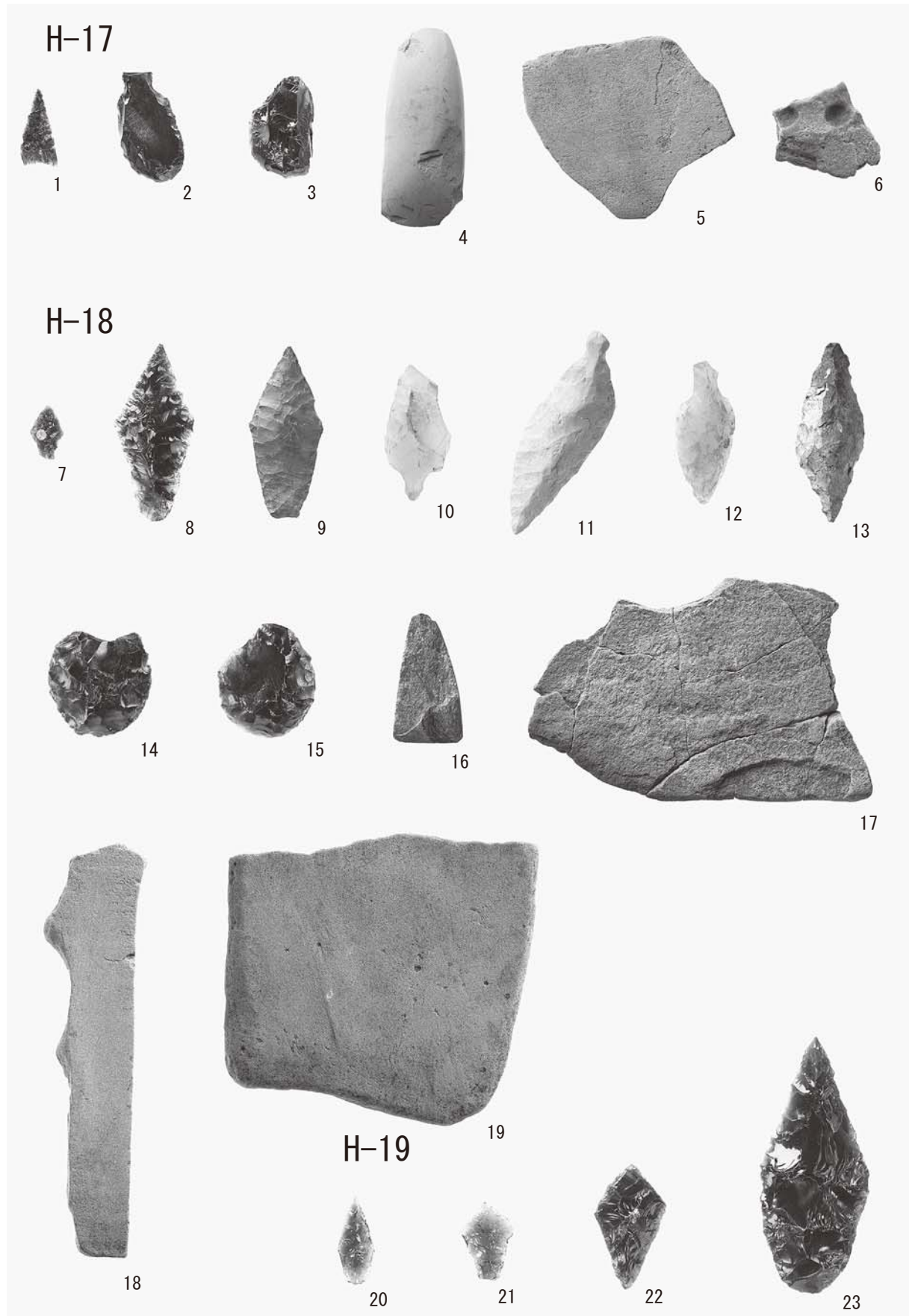
包含層出土の破片土器（1）



包含層出土の破片土器（2）

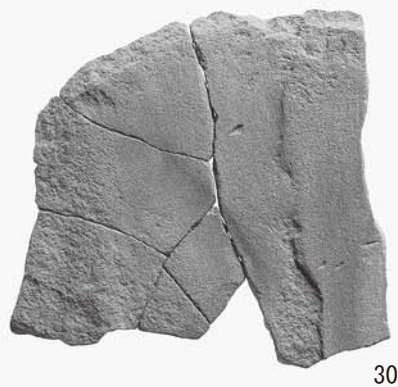


包含層出土の破片土器（3）



遺構出土の石器 (1)

H-19



H-20



H-21



H-23

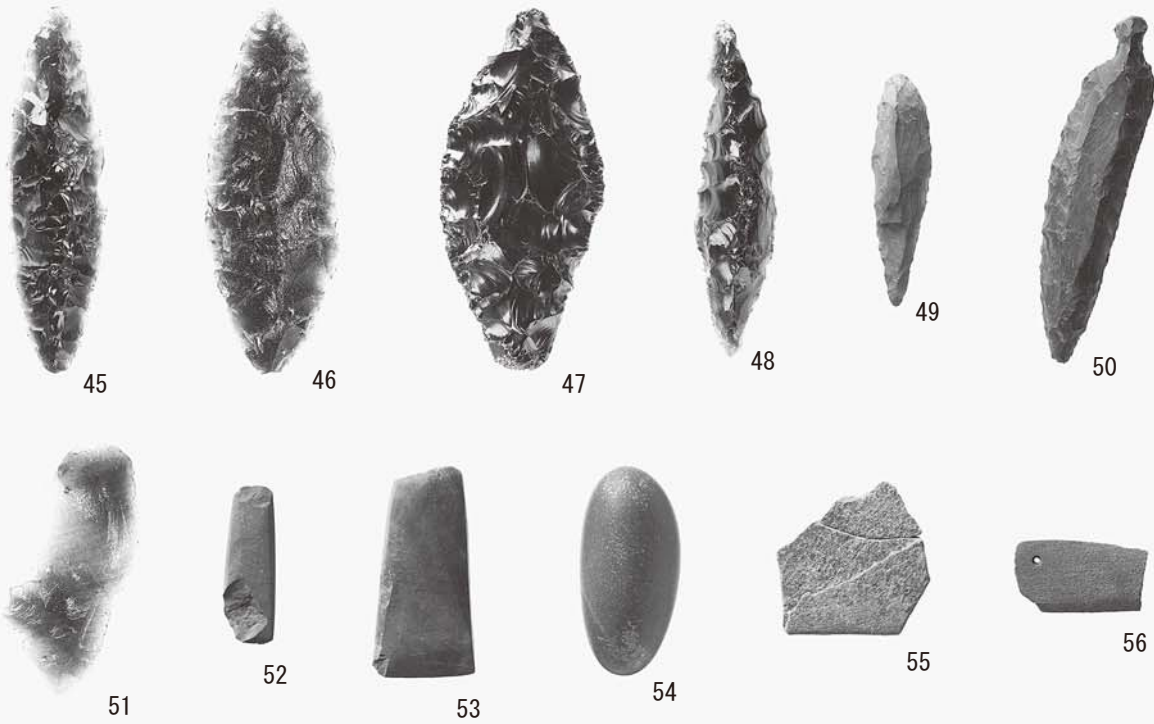


H-22

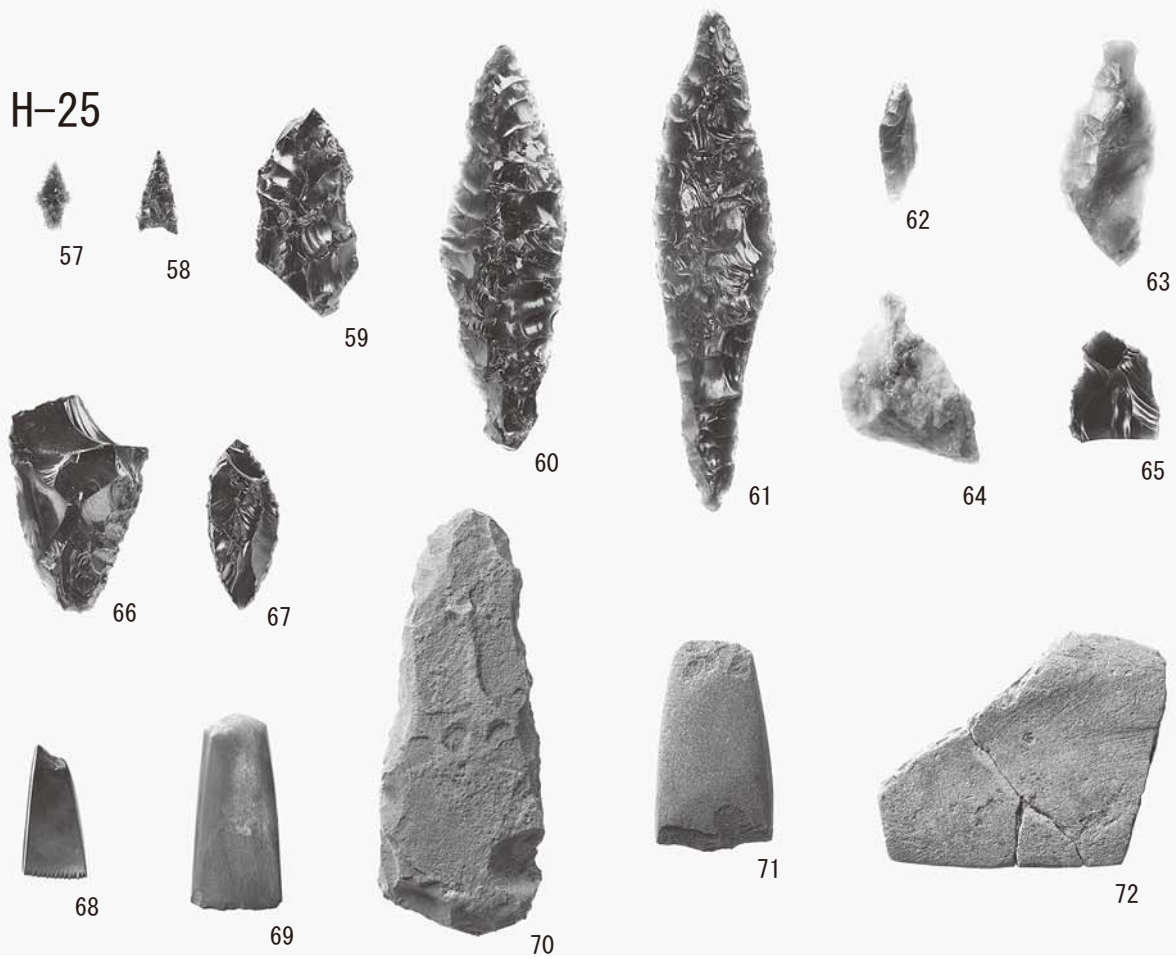


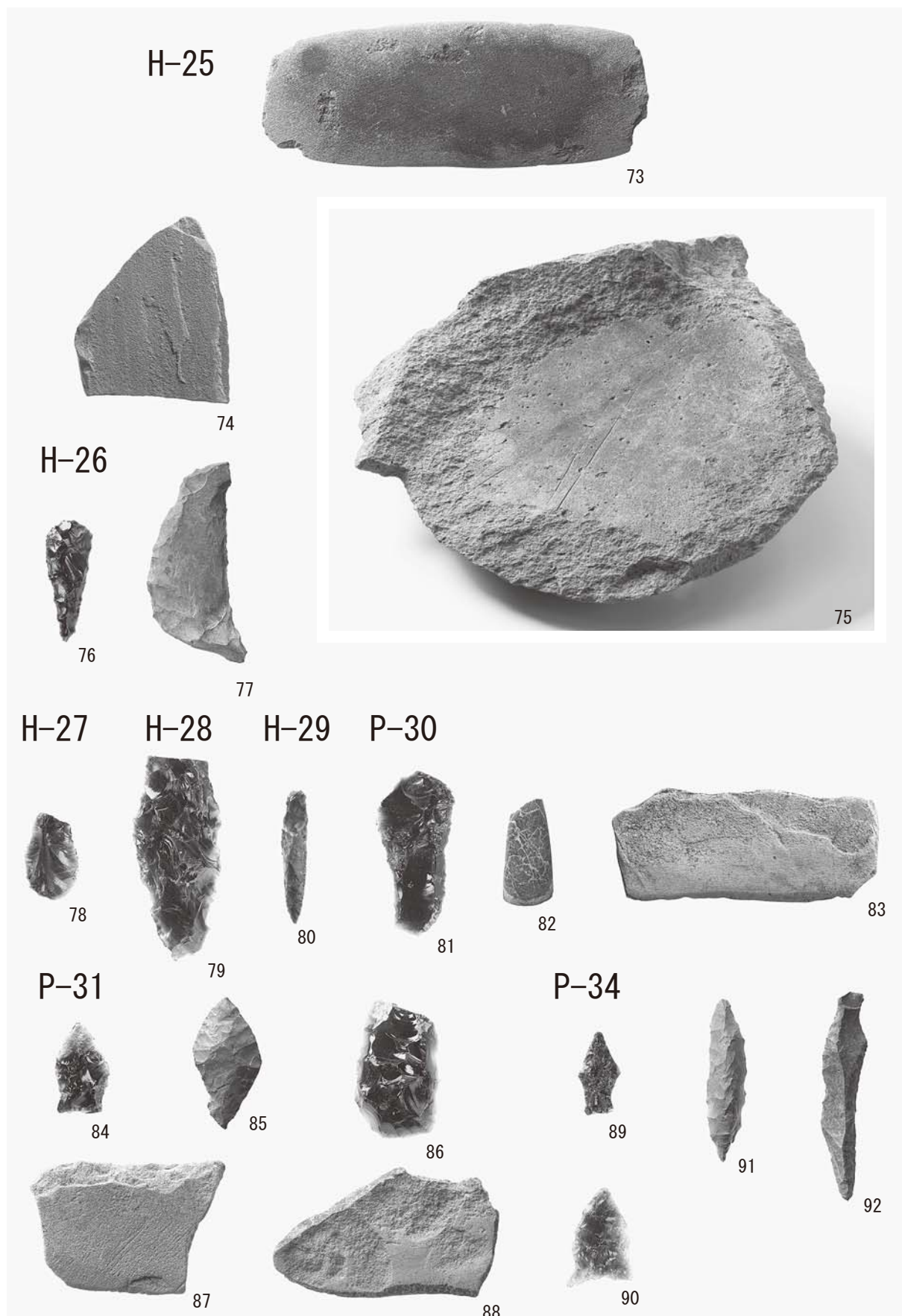
遺構出土の石器 (2)

H-24

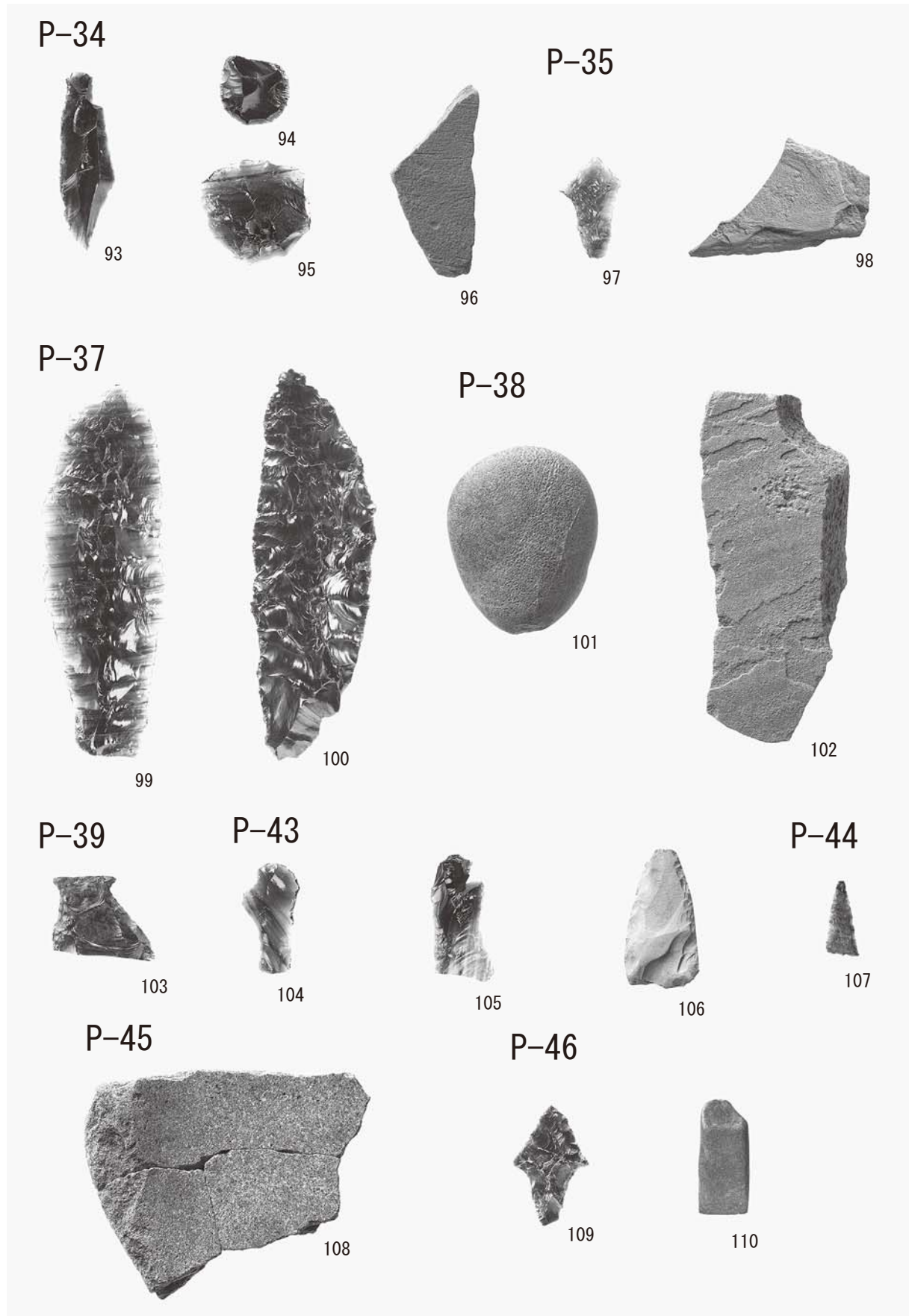


H-25





遺構出土の石器（4）



遺構出土の石器 (5)

P-47



111



112



113



114



115

P-49



116



117



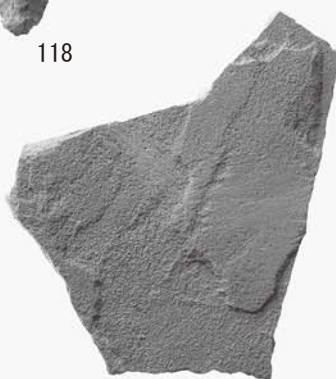
118



119



120



121

P-50



122

P-51



123



124

P-53



125



126

P-55

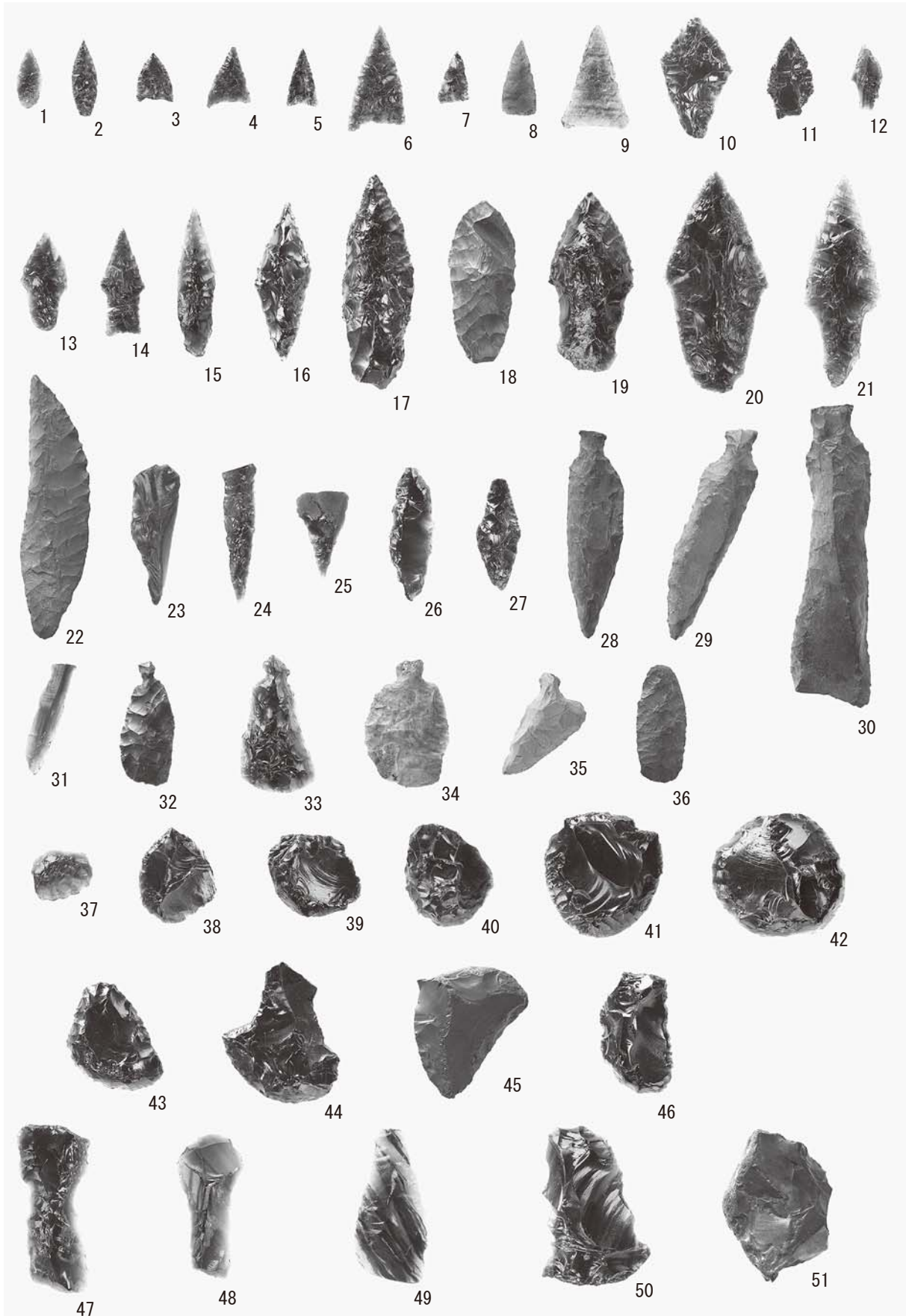


127

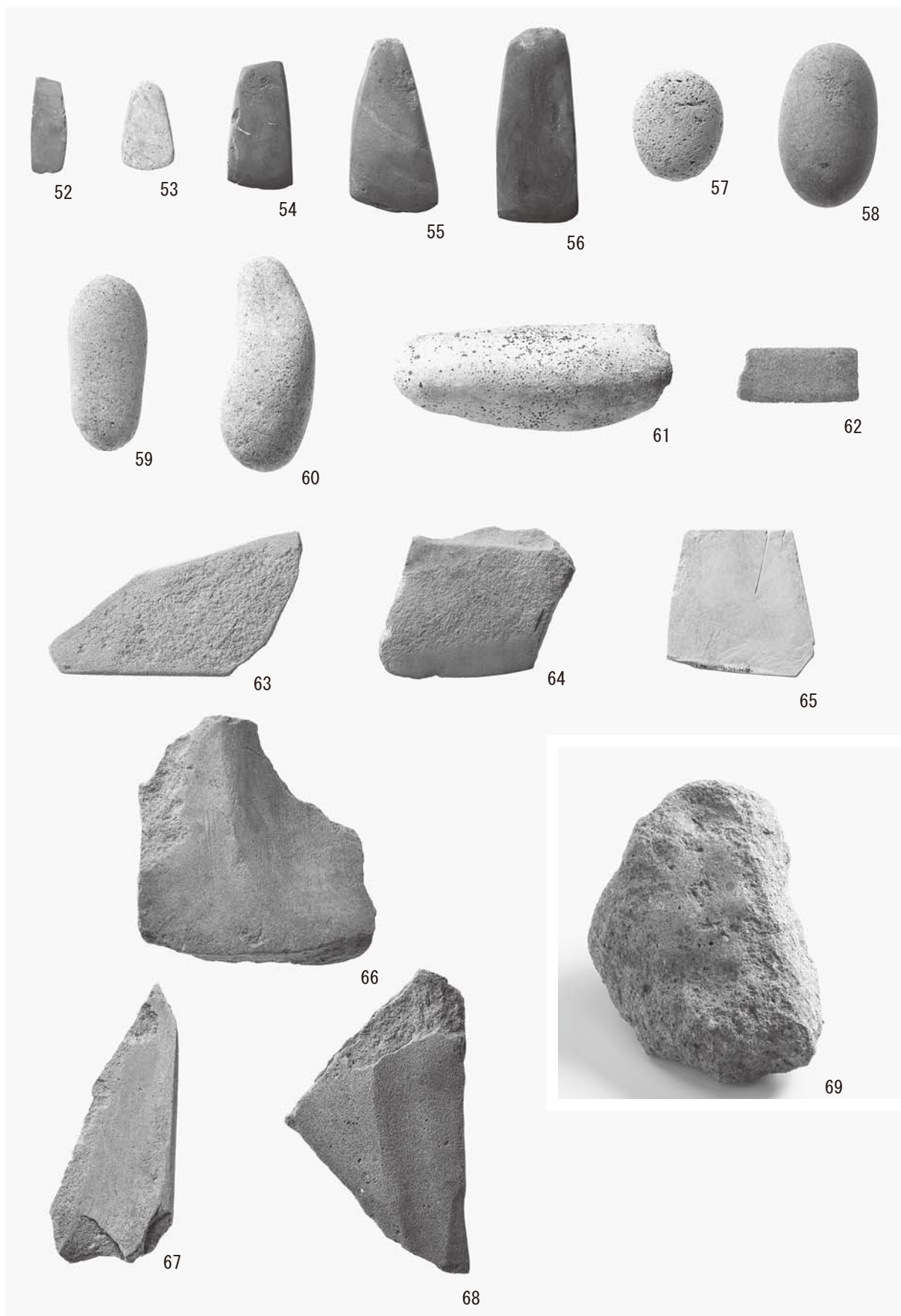
FC-5



128



包含層出土の石器 (1)



包含層出土の石器（2）

引用参考文献

論文・論考・書籍等

- 伊藤初太郎 1935 「考古学上の根室の遺物と遺跡」安曇写真製版所
- 伊藤初太郎 1938 「根室半島部に存在せるチャシ」『考古学雑誌』28巻7号
- 宇田川洋・豊原熙司・藤本 強編 1985 『北海道のチャシ集成図Ⅰ（道東北篇）』北海道チャシ学会
- 川上 淳編 1985 『根室半島チャシ跡群環境整備事業報告書』根室市教育委員会
- 北構保男 1941 「根室半島カツラムイにおける竪穴発掘」『上代文化』21号
- 北構保男・岩崎卓也 1977 「北海道根室市オンネモト遺跡の調査」『考古学ジャーナル』15号
- 北構保男・須貝 洋 1953 「北海道根室半島トーサムポロオホーツク式遺跡調査報告」『上代文化』24号
- 北構保男・前田 潮・山浦 清・金澤文雄 1984 「北海道根室市トーサムポロ遺跡オホーツク文化住居址」
『日本考古学協会年報』34
- 熊谷仁志 2008 「北海道押型文系土器」『総覧縄文土器』小林達雄編 アム・プロモーション
- 工藤研治 2008 「北筒式土器」『総覧縄文土器』小林達雄編 アム・プロモーション
- 児玉作左衛門・大場利夫 1956 「根室國温根沼遺跡の発掘について—温根沼式押型文遺跡—」
『北方文化研究報告』11 北海道大学北方文化研究室
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 澤 四郎・北構保男 1963 「根室市ベニケムイ出土の早期縄文土器」『釧路の古代文化』5輯
- 豊原熙司 1989 「根室半島における考古学的調査—その歩み—」『根室市博物館開設準備紀要』3
- 西本豊弘編 2003 「第1部根室市弁天島遺跡発掘調査報告」『国立歴史民俗博物館研究報告』第107集
- 平光吾一 1929 「千島および弁天島出土土器破片について」『人類学雑誌』第44巻4・5・7号
- 北地文化研究会 1968 「根室市弁天島西貝塚調査概報—1968年度—」『考古学雑誌』第54巻第2号 日本考古学会
- 北地文化研究会 1979 「根室市弁天島西貝塚竪穴調査報告」『北海道考古学』第15輯
- 三浦正人・広田良成 2008 「根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群の調査概要」『日本考古学』31 日本考古学研究会

団体組織刊行物

- 石川 朗・斎野裕彦 2000 「刃部有溝石斧の形態と使用痕」『仙台市富沢遺跡保存館研究報告3』
- 澤 四郎・西 幸隆・松田 猛 1984 「道東海岸線の遺跡分布」『道東海岸線総合調査報告』釧路市立博物館
- 道東の自然史研究会 編 1999 『道東の自然を歩く』北海道大学図書刊行会
- 西田 茂・松島義章・川上 淳 1992 「根室市ヒリカカタ遺跡・トーサムポロ遺跡採集の資料」
『根室市博物館開設準備室紀要』第6号 根室市博物館開設準備室
- 文化庁 1979 『全国遺跡地図 北海道Ⅱ』文化庁文化財保護部
- ペドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社
- 北地文化研究会 1974 『根室市域遺跡分布調査報告書』根室市教育委員会
- 北海道教育委員会 1977 『埋蔵文化財包蔵地一覧表（付 指定文化財）（全道編）』
- 松井伸輝ほか 1987 『根室市の自然と文化財』根室市教育委員会

埋蔵文化財発掘調査報告書

- 筑波大学歴史・人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』
- 根室市教育委員会 1966 『北海道根室の先史遺跡』
- 根室市教育委員会 1974 『オンネモト遺跡』
- 根室市教育委員会 1983 『根室市西月ヶ岡遺跡発掘調査報告書』
- 根室市教育委員会 1994 『穂香竪穴群発掘調査報告書』
- 根室市教育委員会 1994 『コタンケン遺跡発掘調査報告書』
- 北地文化研究会 1977 『コタンケン川口遺跡—調査概報—』
- 北地文化研究会 2004 『根室市トーサムポロ遺跡R-1地点の発掘調査報告書—オホーツク文化末期の竪穴—』

(財)・(公財)北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』 財団法人北海道埋蔵文化財センター15周年記念誌
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』 財団法人北海道埋蔵文化財センター25周年記念誌
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『調査年報22 平成21年度』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『調査年報23 平成22年度』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『調査年報24 平成23年度』
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2015 『調査年報27 平成26年度』

(財)・(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 『根室市 穂香竪穴群(1)』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報170
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『根室市 穂香竪穴群(2)』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報184
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 『根室市 穂香竪穴群(3)』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報198
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 『根室市 穂香川右岸遺跡』
一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報212
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 『釧路町 天寧1遺跡』
一般国道44号釧路町釧路外環状道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報254
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『釧路町 天寧1遺跡(2)』
町道床丹5号線道路改良事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報274
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『鶴居村 下幌呂1遺跡』
釧路鶴居弟子屈線(A交-57)交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報287
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2014 『根室市 トーサムボロ湖周辺竪穴群(1)』
根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報317

報告書抄録

ふりがな	ねむろし とーさむぼろこ しゅうへん たてあなぐん (2)							
書名	根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群 (2)							
副書名	根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第324集							
編著者名	愛場和人・広田良成							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2016年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とーさむぼろこ トーサムポロ湖 周辺竪穴群	ほっかいどう 北海道 ねむろし 根室市 とよさと 豊里 96-1地先～ 96-8地先	01223	N-01-01	D-33杭		20140818 ～ 20141031	2,760㎡	道道根室半島線 改良工事に伴う 事前調査
				43° 23′ 22.0″	145° 45′ 10.4″			
				G-55杭				
				43° 23′ 23.0″	145° 45′ 14.1″			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
トーサムポロ湖 周辺竪穴群	集落跡	縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代後期	土坑 竪穴住居跡・土坑・焼土 土坑		縄文土器 (早期・前期・後期) 石鏃 石槍またはナイフ 両面調整石器 石錐 つまみ付きナイフ スクレイパー 磨製石斧 たたき石 すり石 石鋸 砥石 台石・石皿			
	散布地	縄文時代晩期 続縄文時代			縄文土器 続縄文土器 石器等			
要約	<p>トーサムポロ湖周辺竪穴群は根室半島東部にあるトーサムポロ湖周辺に位置する竪穴群である。過去に東京教育大学(現筑波大学)、北地文化研究会等による学術調査が断続的に行われている。当センターでは平成21～23(2009～2011)年度に2か所(A・B地区)の調査を実施している。今回の調査は、オホーツク海につながる半島状に突き出た湖口の東側(B地区)で、平成23(2011)年調査区の隣接部を対象とした。なお、平成21～23(2009～2011)年度の調査については、平成26年度に『根室市 トーサムポロ湖周辺竪穴群(1)』で報告を行っている。</p> <p>今回は、B地区のⅢ層の竪穴住居跡・土坑・焼土などを調査した。遺構の主な時期は縄文時代早期後半、前期前半、後期前葉である。遺物は縄文時代早期、前期、後期のものが多く、他に縄文時代晩期や続縄文時代の土器などが少量みられる。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第324集

根室市 トーサムポロ湖周辺竪穴群 (2)

－ 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

平成28 (2016) 年 3 月 25 日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地 1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[URL] <http://www.domuibun.or.jp/>
[E-mail] mail@domuibun.or.jp

印 刷 中西印刷株式会社
〒007-0823 札幌市東区東雁来 3 条 1 丁目 1 番34号
TEL 011(781)7501 FAX 011(781)7516
[URL] <http://www.nakanishi-printing.co.jp/>
[E-mail] owlnet@nakanishi-printing.co.jp

